第14巻第2号 1991年2月1日発行（毎月1回1日発行）1981年（昭和56年）5月2日 第3種郵便物認可

GB

GUITAR BOOK

巻頭特集●ニュー・アルバム『PRINCESS PRINCESS』をさぐる！

PRINCESS PRINCESS

特集

UNICORN/TMN/大江千里

DREAMS COME TRUE/松岡英明/THE BOOM/B'z
THE ALFEE/徳永英明/米米CLUB/高野寛
BUCK-TICK/LÄ-PPISCH/遊佐未森/PERSONZ etc.

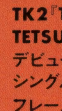
別冊付録❶特製大型ポスター

TMN/松岡英明

別冊付録❷SONG BOOK ニューアルバム全曲集

DREAMS COME TRUE[WONDER 3]/岡村孝子[After Tone II]
松岡英明[LIGHT and COLOUR]/永井真理子[Pocket]
UNICORN[ハヴァナイスデイ]/高野寛[Better Than New]

GUITAR BOOK
1991/FEBRUARY

2
590YEN

EOS CIRCUIT

1991 GRAND PRIX
1月5日作品募集START!

結末は、わからない。何度でも挑戦できるサウンド・レース。

①TMN、TM NETWORK、そして小室哲哉&木根尚登の作品をEOS1台で作る⇨②レースに参加する⇨③締切&結果発表。で、終わらないのが今回のEOS CIRCUITの特徴。このレースには、最優秀作品が決定するFINAL ROUNDまでに4回のレース(=③締切&結果発表)がある。楽器店配布の速報ニュースで君の作品のランク&ポイント(得点)をチェックしながら、最終締切まで何度でも何作品でもチャレンジできる仕組みだ。もちろん自信の1作品で全レースを走り抜いてもOK!

全国のEOS&TMNファン、そしてTMN自身に。

レース参加の作品募集は1月5日スタート。その後の途中経過は前述の速報ニュース、東京⇨名古屋⇨大阪の浅倉大介出演イベント、ニッポン放送「ポップン王国」オン・エアCM等でチェック! 参加者全員で作品を楽しみながらグランプリを決定していく。もちろん4月のFINAL ROUND(at東京)には、小室哲哉&木根尚登&浅倉大介が出演予定。この時点での優秀作品には、彼らから直接アドバイスがもらえる他、素敵なプレゼントも用意されている。とにかく、最後まで目が離せないサーキットだ!

※詳細/応募用紙は、お近くのヤマハLM特約店・ヤマハ直営店まで。

TMNのスピード感、90年代の音をクリエイトする。

YAMAHA MUSIC SYNTHESIZER
"NEW EOS" B500

メーカー希望小売価格 **¥168,000**(税抜き価格) ***NEW***

カタログご希望の方は、郵便番号、住所、氏名、年令、電話番号を明記の上、〒430-91浜松市浜松郵便局私書箱3号 ヤマハ株式会社LE-NR係までご請求ください。

感じあう心たいせつに

feelin' YAMAHA

GB

GUITAR BOOK / CONTENTS・1991・FEBRUARY

COVER DESIGN：高橋伸明
STAFF●DESIGN：根布谷僚治／江澤千代一／香取紅美子
藤武悟／宮田光／伊藤まさあき／高橋伸明
EDITORIAL：塚本忠夫／松本俊樹／水津伸也／細川真平／橋本佳幸／圓城寺裕子
安達明子／松下香世／浜田次郎／能地祐子／入江弘子
ペーパーキャッツ／城葉子

COVER●PRINCESS PRINCESS
撮影●岩岡吾郎　スタイリスト●坂本みつわ　ヘア＆メイク●エル　マーゴ吉川清美
衣装協力●ベティーズ・ブルー ☎03-470-3181

ギターブックGB● 2月号
編集・発行人：塚本忠夫
発行所：株式会社CBS・ソニー出版
〒102 東京都千代田区五番町6-2
TEL. 03-234-5811（販売）
03-234-5101（広告）
03-234-6711（編集）
印刷：大日本印刷株式会社
版下制作：株式会社三共社
日本音楽著作権協会（出）許諾第9004731-001号

定価590円（別冊付録2冊とも）

PRINCESS PRINCESS

［輝かしい5人の女の子と11の新曲たち］

撮影●大川直人　文●佐野郷子　ヘア＆メイク●エル マーゴ 吉川清美　スタイリスト●坂本みつわ

プリンセス・プリンセスによる、『プリンセス・プリンセス』というアルバムだもの。どこを切っても、どこを食べても、プリプリ。噛み応えもプリプリ。5人5様のプリプリ。

通算5作目で、こんなデビュー・アルバムみたいなタイトルを付けたのも、聴けばなるほど。5人の個性を存分に生かしながらも、全体をとおした印象は、ウーン、プリンセス^{2}以外のナニモノでもないッ、そんな感じ。

ことさら狙ったわけでもなく、意識したわけでもなく、曲を作り、詞を書き、バンドで音を出したら、あらぁ、これってワタシたちそのものじゃない？　って、きっと顔を見合わせて思ったに違いない。

名は体を表わす、と申します。

だから、アルバムには彼女たち5人の"音楽的性格"がはからずも表われている。

プリンセス^{2}の音楽性。これが実はクセモノである。彼女たちの場合、メンバー5人全員が作詞、作曲を手がける（正確にいうと富田キョンちゃんは作詞のみ）。よって当然ながら、それぞれの個性、クセ、作風が楽曲に反映されるわけだ。その結果、実にバラエティに富んだ楽曲が仕上がるというあんばいである。ハードロックもあれば、バラードやオールディーズ風ポップスもあり、といった具合に、ひとつのスタイルに限定されず、それこそ気の向くままにサラリと楽しめる音楽を作ってしまうことができるタフな胃袋を持っている。まずは、その"雑食性"が重要なポイント。

ところがこの雑食性とやらは、ヘタをすると、とっ散らかった散漫な印象を与えかねない。そのビミョーなバランス感覚を、全曲ラブソングというテーマでうまくまとめたのが、前作『LOVERS』だったのだと思う。『LOVERS』に集約されたプリンセス^{2}の持ち味は歌詞の面でも大きな飛躍を遂げた。女の子という生きものの感情、考え方、体質、すべてをひっくるめて、素直に表現してガッチリみんなの心をつかんだあげく、ミリオン・セラー。『DIAMONDS』というデッカイ布石は確かにあった。バンドの勢いもスゴかった。けれど、それにも増して自分たちの音楽に自信をつけたこと、それが彼女たちを弾けさせた。そして、バンドの技量も着実に伸びた。

もう怖いものなしで走るのみ!?

……と思いきや、彼女たちって意外なまでに堅実派。というか、ヘンにハミ出したりはしない。「どんなに冒険しても、自分たちのカラーからそんなにズレることはないと思う」というのも、アルバムにして5枚、バント結成以来7年で培ってきたものの大きさと堅さを示している。

中山加奈子、今野登茂子のソロ・ボーカル、ホーン・セクションやオーケストラの導入。打ち込みもあるし、ウォッシュボードやブルース・ハープもありと、音楽的な冒険にも今までいちばん果敢に挑戦している。曲作りのセンス、テクニックも"おおッ！"というくらい進境著しい。5人の性格が引き出された歌詞は、少しおとなっぽくなってきた感もあって実に興味深い。そんな新生面が、とにかくいっぱいある。

なのに、やっぱりプリンセス^{2}だなあとハッキリわかる、思わせるものがあるのだ。"ハズれない"というより、"ハズさない"力が彼女たちには備わっているのだと思う。それをプロフェッショナルというのかどうかわからないけど、非凡な才能であるのは確か。先走って、ひけらかすような才能ではなくて、自分たちの個性や性格をちゃんと見極めることができる才能。だから、5人が自由に自分を音楽で表現できるのではないだろうか。

12月21日に発表された『プリンセス・プリンセス』からは、彼女たちが見える。陽気でセンチメンタルで夢見がちだけど、現実もちゃんと知っている、彼女たちが見えてくる。

ROCK ME

（作詞：奥居香　作曲：奥居香）

●シングル「ジュリアン」のカップリング曲で、ストレートなところが奥居さんらしい。

奥居「もう悩んじゃってね。これ、シングルのB面になるって決まってたから、肩の荷が重すぎるなあと思って誰かに代わってもらいたくてね。作詞ってすごく苦手だから」

●曲が生まれたエピソードってあります？

奥居「これはね、私、実はホワイト・スネイクのデビッド・カバーデイルって人がひそかに好きでね。私、こう見えても、今はその面影はないかもしれないけど、ハードロックが好きな時代があったのね。中学のころって、それこそレコードがひずむくらいのすごい聴き方をしていたんだよね。そういうときの気持ちをいま歌いたいなあと思ったの。ロックの原点っていうのかな？　自分にとっての」

●それで、「ROCK ME」というタイトルになったんですか？

奥居「いわゆるロックの〝ROCK〟と、揺さぶるっていう意味の〝ROCK〟のダブル・ミーニングなんだけどね。私自身としては〝揺さぶる〟のほうに近いけど、〝ロック〟って限定するのはイヤだからさ」

●歌詞も奥居さんの体験に基づいている？

奥居「そう。歌詞の1番は、昔バンドをはじめたころから、今の私に変わるまでのことを歌っているし、2番の歌詞もホント、自分のこと。歌でもいってるけど、バンドをはじめて、私、すごく人間が丸くなったのね。だけど、音楽をはじめたときの最初の気持ちとか、初めてディープ・パープルとかを聴いて、これってロックなのかなあと思いながらシビレちゃったときの気持ちとかは、忘れたくないなあと思うのね。それが私にとってはすごく大切なことなんだって思うし」

●曲やアレンジについては？

奥居「これは最後の最後の絞り出し。私は曲ができたときの気分を優先させるタイプなんだけど、全体をバーッと並べてみたときに、何かひと味足りないような気がしたの。全体に完成された感じだから、ちょっとハミ出した感じの曲が欲しかったんだろうね。ちょっと、そのころ、昔のバン・ヘイレンを聴いてカッコイイなあと思ったりしてたから、自然とこうなった」

●自分の個性が出てると思う？

奥居「うん。ハミ出してるようでいてオーソドックスなところが私っぽいかな？　なんか優等生みたいでちょっとカッコ悪いかなとも思うけど、それが私の個性なんだろうね、たぶん」

ティンカーベル

（作詞：中山加奈子　作曲：奥居香）

●〝ティンカーベル〟って、〝ピーターパン〟に出てくる、あの？

中山「そう。小さいころから、〝ピーターパン〟が好きで、幼心にティンカーベルってやきもち焼きだなって思ってたんですよ。私もけっこうその傾向があるから、(笑)しっとの歌詞を書こうと思ったとき、すぐに頭に浮かんだんです。ウチでしっとの歌というと、キョンちゃんが書いた「LOVE & BLOOD」があるけど、これは女の子のかわいいしっと心ですよね。私もたまにとりつかれますからわかります、うん」

●恋する女心っていうんですか？

中山「そう。〝疑ってばかり　素直になれずに　大切なことはただ一つなのに〟ってわかっていながら、どうしてもね。香の曲を聴いたときに、なんかすごくイメージが湧いてね。仮歌でも、香が頭の部分で〝〜ベル〟って歌ってたのね。それで、〝ティンカーベル〟って言葉が出てきて、しっとというテーマとちょうど合ったの。前作の「DING DONG」に続く、〝ベル〟モノでもあります」

●曲もすごくチャーミングな響きがありますね。

奥居「今回の私の〝よくがんばりました〟の代表作かもしれない。曲作りのノウハウを駆使して成功した例なのね、これ。転調っていう技を自然に使えたから、自分ではお株が高いの。ちょっとワンランク上の学校に進んじゃったかな、みたいな(笑)」

●ソングライターとしての株を上げたと？

奥居「そうだね。こういう曲が作為的じゃなく、自然に出てきたってことがうれしいの。途中のコーラスも、ひそかに自信作なのね。ホール&オーツがすっごく好きだからさ、ネタ明かしちゃうと。(笑)本当に〝許して！〟ってくらい好きで。ああいう曲が自分でも書けたらイイなあってずっと思いつづけてたんで、カワイイの、この曲。今回は、だから、私にインスピレーションを与えてくれた外タレのみなさんにとても感謝してます」

台風の歌

（作詞：富田京子　作曲：奥居香、中山加奈子）

●キョンちゃんにしては、激しい気性の主人公の歌ですね。台風という状況も激しいし。(笑)

富田「今年、台風がよく来たでしょ？　それに〝台風〟っていう言葉の響きがなんか好きなん

KAORI OKUI

奥居香のオーバーオール¥6,400 Gジャン¥6,800（ともにミネルワ☎0425-79-3931）

ですよ。英語でも〝タイフーン〟っていうし。これ、意外と自分でも気に入ってるのね。キョンちゃんとしては、「M」のその後みたいな感じで書いたつもり。本気で好きになって、ふられたんだからしようがないって思えるのも、年齢のせいかな？　高校生が〝適当に生きてやれ!〟っていったら恐ろしいけど、ある程度の年になると、リラックスして、肩の荷を降ろしてやっていくのも悪くないかなあと。急に乱れて、六本木で踊りまくるとかじゃなくてね。(笑)ちゃんと人を愛した自分に、勲章のひとつでもあげたいじゃない？　そういう、ちょっとエバリたい気分もあるかな。演奏のレコーディングが終わってから書いたんで、全体のイメージとも合ってると思う。頭のラジオっぽい音も効いてますよね」

●富田さんの詞のシチュエーションには、雨がよく出てくるような気がするけれど。

富田「ああ、そうかもしれない。前作の「レイン」とか「ロマンシング・ブルー」とかね。今回、詞に関しては自分のボキャブラリーの少なさや設定のワンパターンさに苦しみましたね。これも最初は「GO AWAY BOY」的になっちゃってね。だから、やっとできたときは、自分でもちょっと進歩したなあと思った」

●「台風の歌」は曲が共作ですが、どうやっていっしょに作っていくんですか？

中山「私がまずAメロだけ作って、あとがどうしてもできなくて、Aメロだけ入れたテープを持っていって、あとは香に頼んだんです。捨てるにはしのびないけど、続きができないってときはそうなりますね。今回は「ハイウェイ・スター」もそうだったんだけど、共作してよくなるケースってあるから。私だったら、こうはいかなかったっていう発見と、新鮮さがあるんです。それに、いつも予想以上にいい曲になるという信頼感もあるかもしれない。この曲のギターも自分では大好き」

逃げろ

(作詞／作曲：中山加奈子)

●この「逃げろ」という曲は、中山さんの性格が表われているという説がありますが？

中山「出てますね。色としては、私がリード・ボーカルをとった「錆びつきブルース」より、こっちのほうが出てるかもしれない。「錆びつき……」がバンドのギタリストが歌う曲だとしたら、「逃げろ」は私自身っていう気がする」

●〝NO MORE SCANDAL〟とか、〝NO MORE TV〟とか、怒りがテーマになっているのは？

中山「この詞を書くにいたった〝事件〟があったんです、実は。ホントは、具体的に怒りを表明したいんだけど、個人的に指摘するのはよくないと思って。なんか目に見えない巨大な力というか、圧力ってありますよね？　そういう、かないっこない敵に対しては、もう逃げて、逃げて、逃げまくるしかないと」

●プリンセスで、こういう反権力的な詞は初めてですよね？

中山「そう。ウチのバンドには今まで全然なかった色ですよね。だから、ちょっとテーマがとっぴかなあと思ったんだけど、私が実際にそう感じたんだからいいやと、意を決して書きました。今まで、そんなに真剣に考えるような出来事が、身に振りかからなかったってこともあるんだけど、このたび、身をもって経験して、くやしすぎる、エーイ、私の反逆はこの詞だって思いを込めて」

●けれど、自分を守るために闘うんじゃなくて、逃げるっていうのが中山さんらしい。

中山「闘ったら自分がボロボロになるだけだから。〝戦おうなんて冗談じゃない〟っていうところが私の実感ですね。ええかっこしいで書いたんじゃなくて、率直に自分の実体験を書いたってことを強調しておきたい。〝逃げろ〟っていうのも自分に言いきかせているんです」

●曲調もアレンジも、ニュー・ウェイブ風というか、ちょっと異色なタッチですね。

中山「仮タイトルが〝カナ・パンク〟と呼ばれてましたからね。シンセが入ってニュー・ウェイブっぽくなって、よくなった曲です。アレンジでもかなり雰囲気が出せたと思う。ギター・ソロのワウワウ・ギターにも初めて挑戦したし。グッバイの野村義男さんに貸していただいて。全体に、かなり気にいってます。言いたいこと言えたし、ポリシーを通したから充実感はありますね。うん、スッキリしました」

ジュリアン

(作詞：中山加奈子　作曲：奥居香)

●アルバムの中での「ジュリアン」の位置は？

奥居「自画自賛になっちゃうんだけど、アルバムで聴くと、またいいのよ。やっぱり、サラッとやったのが正解だったと思う。ほら、イントロだけ聴くと、一瞬、古臭いって感じじゃない？　でも、徹底して今っぽくしなかったのがかえって新鮮だったみたい。シンプルに生楽器のよさを生かしたのが大きかったんだろうね」

●ヘタにいじらなかったことが勝因だったと？

KYOKO TOMITA

富田京子のジャケット￥9,800 パンツ￥5,900（ともにA STORE ROBOT☎03-350-1018／新宿店）帽子￥4,500（ミネルワ）

奥居「そう。プロモーション・ビデオを撮るときもね、歌ってて鳥肌がたっちゃったもん。歌詞の内容を考えながら集中して歌ってたら、ウワーッって感動しちゃったのね。ウン、これはかなり好きかもしれないって思った。私にはこういうアメリカン・オールド・ポップスが根底にあるんだと思いました」

中山「「ジュリアン」って不思議な詞で、普通の、どこにでもあるオーソドックスなラブソングのように思えるんだけど、自分の周波数がフッと合うと、すごく感動するんですよ、自分で書いておきながら」

●アルバムでは「逃げろ」の次にくる曲になるわけですが、同じ作者とは思えないほど振幅が激しい2曲ですね。

中山「ねえ。(笑)でも、どっちにも自分の個性が出てるという気がする。「ジュリアン」は絶対ハズしたくなかったから、けっこう苦心して作りましたね。私、昔から、好きな人と別れるときに自分で編集したテープをあげたがる人なんですね。そのとき、女の子の歌で自分の気持ちにぴったり合う歌がなくてね。電話もかけずに、手紙も書かずに、曲のテープだけ送るっていうのも美しいかもしれない、私もあげたかったなあと思う、好きだった人にね」

ROLLIN'ON THE CORNER

(作詞:今野登茂子　作曲:奥居香)

●歌詞の中にも出てきますが、この詞はニューオリンズに行ったときの思い出が題材になってできたんですよね。

今野「そう、詞は3回ぐらい書き直して、やっと納得できるものになったんだけど。最初は、もっと踊ろう、騒ごう、ドンチャン騒ぎしようっていう詞だったのね。私たちがニューオリンズへ行ったとき、〝マルディ・グラ〟っていうカーニバルが開催されていて、街中がお祭り騒ぎだったってこともあって。曲のコンセプトが最初からニューオリンズ調だったから、詞も自然とそうなったのね。結局、アレンジは特別、ニューオリンズっぽくはならなかった。ウォッシュボードを使った以外はね」

●歌詞の随所に、雰囲気や情景が盛り込まれていますね。

今野「忙しかったわりには、いろいろ見てまわったからね。〝着いてみりゃ田舎そのもの〟とか〝ボロボロのカフェ〟とかいってるけど、ホントに〝たいした町だよ〟っていうのが正直な私の感想。けっこう汚くて、臭かったりするんだけど、なんか温かいの、街も人も。お祭りにしても、日本のやっちゃえ、やっちゃえと違って、スケールがでっかくてね、楽しかった。そういう雰囲気を出しながら、イカした詞が書ければと思って。ライブで、みんなで一緒に歌って、騒ぐのが楽しみな曲ですね」

●こういうリズム&ブルース調の曲も、プリンセス²がやると一味も二味も違いますね。

奥居「ニューオリンズ風の曲を作りたいなあと思ってたのと、ジェームズ・ブラウンのビデオを見た影響で、ツアー中に何気なくできた曲。これはラッパ入りだなって、曲作ったときから考えてたのね。で、たまたま日本に来ていたロニー・キューバさんっていう人にバリトン・サックス吹いてもらって。初の外人ミュージシャン参加! ニューオリンズで買ってきたウォッシュボードっていう楽器は、私とカナちゃんが必死に弾いたの。ステージでも、たぶんやります」

●曲調もアレンジもかなり世界が広がってきたんじゃないですか?

奥居「そうかな? Bメロは、プリテンダーズの某曲のリズムを使わせていただきました。自分でもリズム&ブルースをベースにしたロックンロールの曲ができて、やったッ! て喜んでるの」

錆びつきブルース

(作詞:中山加奈子　作曲:奥居香)

●中山さん、初のリード・ボーカル曲! これがまた、実に中山加奈子そのものという歌で。

中山「ギタリスト・中山加奈子の歌ですね。曲がロックンロール・タイプだったんで、これなら歌えるかなあと思って。最初は〝どうせ私は器用じゃないよ〟みたいな自分自身のことを書いてみたんだけど、思いっきり煮詰まっちゃって、テーマをギターにしてみたら一気に15分で書けちゃった。「GET CRAZY」のときもそうだったけど、勢いがある曲の詞は早いみたい。私の愛用してる〝SG〟っていうギターは、小生意気な女に似てるんですよ、なんとなく。だから、女言葉でちょっとハスッパな雰囲気を出してみたんだけどね」

●ボーカル録りはどうでした?

中山「意外に脳天気に、緊張せずにできました。7テイクぐらい録ったんですけど、スタジオの照明を消して録ったのがOKになったんですよ。やっぱ、そのほうがムードが出るのかもしれないね。わりとリラックスした味が、ギタリストの歌っぽいと思ってるところがあるんで。キース・リチャーズの「ハッピィ」みたいな感じが好きだから。ライブでも、もちろん歌います」

ATSUKO WATANABE

渡辺敦子のシャツ¥13,800 (LONDONドリーミング☎03-499-6355) スーツ 参考商品 (Mrシンジ☎03-402-4081)

TOMOKO KONNO

照明を暗くしてもらおうかな(笑)」
●奥居さんは曲を作るときに、中山さんをイメージしていたのかな？
奥居「なんとなくあったかもしれない。はじめは、ライブでメンバー紹介をからめられるような、遊べる曲を作ろうとしてたのね。それで、カナちゃんが歌うことになったとき、気にいったら、これいいよって言って。勢いでパーッといけるようなロックンロール・タイプの曲はカナちゃんも好きだし、「ティンカーベル」よりこっちのほうが雰囲気かなあと」
●ブルース・ハープは誰が吹いたの？
奥居「妹尾隆一郎さんっていう、日本のブルース・ハープの第一人者に吹いてもらったんで、さすがなんだけど、ステージでどうしようかなあって、いま悩んでるの。あと、タネ明かしをすると、一部にレニー・クラビッツの影響あり。「キャブ・ドライバー」って曲がヒントです」

月夜の出来事

(作詞/作曲：今野登茂子)

●今野さんの場合、ソロを歌うことになった動機というか、いきさつは？
今野「もともと、この曲は香が歌う予定だったんだけど、今度のアルバムは各人の個性尊重というテーマがあったんで、歌ってみればいいじゃんってことになっちゃって。最後まで、エーッって言ってたんだけど、ちょっと挑戦させてもらいましたって感じ。結果としては、作詞、作曲、歌と、まるっきり私自身の特色が出ちゃって。けど、最初から自分が歌うって決まってたら、この曲は作らなかったと思うの」
●抵抗があったんだ？
今野「あった。だから、カナちゃんとは逆だよね。私はけっこうとまどいがあったなあ。どっちかというと周りが盛り上がってた。カナちゃんも歌うんだから、バンも歌いなよって。まあ、思い立ったが吉日という言葉もあるんで」
●バンドで歌った経験は？
今野「昔、ちょっとだけ。プリンセス・プリンセスになって、大衆の支持のあるバンドに育って、そのアルバムの中で1曲歌うことって、やっぱり責任を感じるしね。打ち込みも久しぶりにやってみる余裕が出てきたし、バンドに幅がでてきた証拠なんだろうけどね」
●歌詞もファンタジックな純愛モノで、今野さんのイメージと合ってると思うけど。
今野「けっこう気に入ってるんだけどね。自分が歌ってるから恥ずかしくて、落ち着いて聴けないけど。歌のテーマは〝充実した恋愛〟かな。サビのメロディーが大陸的というか、時間を超えた大きなうねりというか、そういう感じがあったんで、あんまり下世話な歌詞にはなりえなかったのね。イメージがあるんですよ。静かな、空気の澄んだ夜に星の歌が聞こえて、あなたと私と二人っていう。なんかね、夜露がシンシンしみるような晩のイメージ。私なんか、若いときにこの世界に入ったから、おてんとさまの下で二人っきりになれないでしょ？　自分のそんな境遇も関係しているかもしれないな。それに、「言わないで」以来、落ち着いた詞を書いてなかったから、しっとりとした詞を書きたい欲求があったのかもね。でも、これで、またダマされる人がいるんでしょうね(笑)」

THE LAST MOMENT

(作詞：富田京子　作曲：奥居香)

●この詞は「M」「友達のまま」の作詞者、富田さんならではの世界かな？
富田「これは私が書きたいと、立候補したんです。曲を聴いたときに、イルカさんの「なごり雪」をふと思い出して、ホームでお別れパターンにしようかなと考えたんですけど、ブルース・ハープが入るっていうんで、川や田舎のイメージかなあと。それで、詞を書くためにロケ・ハンに行ったんです。家の近所の川に行って、構想を練りながらずっーと座ってたりして」
●別れの情景と揺れ動く感情がすごくせつない。
富田「これも、ある程度年をとらないと書けなかった詞だと思う。昔は卒業式とか夏休みが終わることとか、時間で区切られる別れってすごくイヤだったでしょ。でも、年をとるにつれ、時間の流れや季節の移り変わりは自分では止められないものだってわかってくる。今まで別れの歌をいくつも書いてきたけど、これは泣き狂ったり、悲しみにくれたりしないで、別れを受けとめて、それぞれ別の道を歩んでいく歌ですね。美空ひばりさんの「川の流れのように」じゃないけど、運命の流れにさからわずにね。やっと私もこういう歌詞が書けるようになったんです。あえて泣かない悲しさっていうの？　大泣きする前でこらえてる悲しさですね、これは」
●ちょっと昔のニューミュージックのような曲調も懐かしいですね。
奥居「本当は、キッスの「ハード・ラック・ウーマン」を久しぶりに聴いて、ああいうバラードを作りたいなあと思ったのね。AメロとBメロだけで構成されているんだけど、シンプルなわりにはいい曲になった。個人的には花丸。カントリー・フレーバーっていうの？　ブルース・

今野智子のワンピース¥28,500（MILK☎03-407-9192）帽子¥5,800（MILK BOY☎03-407-9192）

ハープなんかも入れて、アレンジもサラッとしているけれど、心に残る曲になりましたね。タンバリンも自分で叩いたの。リズムがゆっくりだから難しかった。キョンちゃんの書いた詞と曲に、アレンジが本当にうまくハマったしね。歌ってて、けっこう切なくなっちゃったもん」

HIGHWAY STAR

（作詞：渡辺敦子　作曲：渡辺敦子、奥居香）

●「ハイウエイ・スター」といえば、ディープ・パープルの曲であまりにも有名ですが……？

渡辺「ハードロックかと思いました？　ところが、でき上がったら、超プリプリ！「19 GROWIN'UP」のようなパッとした感じの曲があってもいいねって、みんなで話してたんですよ。ただ、一歩間違えればクサくなっちゃうところがあるから、演奏やアレンジは苦労しましたけどね」

●『HERE WE ARE』のころのハツラツとしたハード・ポップに、楽曲としては近い？

渡辺「そうですね。曲にメリハリがあって、その展開にピタッと合う言葉を探すのが大変でしたけど。詞は今まででいちばん時間がかかった。1曲でノート1冊分書き直したくらい」

●詞の発想はどこから？

渡辺「曲にドライブ感があるから、車をテーマにしたらどうかなって。それに、今、F-1もはやってるぐらいだし、時代性にも合っていいんじゃないかと思ったんだけど、私、免許を持ってないんですよ。だから、助手席からの視点になっちゃって、恋愛中の幸せいっぱいの二人とドライブを引っかけて作ってみたんですけどね。〝ハイウェイ飛ばして海の香り〟ってところの、視界がパーッと広がる感じがポイントになりましたね。ストーリーより、曲やアレンジを含めた全体のバランスを考えました、今回は」

●渡辺さんは、ソロ・ボーカルにチャレンジしようとは思わなかったんですか？

渡辺「私、歌が全然ダメなんですよ。音痴なんです。(笑)メンバーもそのことはわかってますから。私はベーシストで十分です、ハイ」

●共作者の奥居さん、この曲のポイントは？

奥居「この曲のAメロは17歳のときに作ったんです。転調に転調を重ねておもしろくなったけど、アレンジはかなりもめて、プロデューサーを怒らせちゃいました、私。(笑)ほら、ヘタするとさ、プリプリを真似してるバンドみたいになりがちじゃない？　検討した結果、ストレートな超プリプリになりましたけどね。過去の自分たちの作品に似てたって、何も恥ずかしがることはないんだよね。自分たちが作ったんだから」

One

（作詞：富田京子　作曲：奥居香）

●この〝One〟は〝Only One〟という意味ですか？

富田「そう。〝One〟っていう言葉を使いたいとずっと温めていて、ようやくカタチになりました。これも1年前じゃきっと書けなかったな。これにはエピソードがあってね。みんなでデビュー当時に夢や希望を語ったテープっていうのを聴き返したのね。みんなして、〝目指せベストテン！〟とか〝有線大賞！〟とかバカみたいに一生懸命いっててね。あのときの自分たちに何か伝えたいなあと思ったの。それが最後の一行に集約されているんだけど」

●〝ねえ、泣かないで　大丈夫　あなたの最後の恋に今ここでめぐり逢えた〟と？

富田「うん。最後に場面がパッと変わるでしょ。アレンジが、このラスト一行を成功に導いてくれましたね。オーケストラが入ったときにその場にいて聴いてたら、この場面が浮かんできたの。ティーンエイジャーのコが今はわからなくても、何年後かに聴くときっとね……。「M」や、かつて書いてきた詞の主人公たちの何年かたったときの姿が、このアルバムにはあるかな？」

●歌詞を書く上での変化はどこにありますか？

富田「昔は、詞だけだったらもっとたくさん言えるのにって思ったりしたけど、今は曲、アレンジ、演奏、全部が揃ったとき、それにまさるものはないということがわかりましたね」

●アルバムのラストを飾るにふさわしい曲になりましたね。

奥居「実は、「One」もシングルの有力候補だったのね。どっちにするか最後の最後まで悩んで。オーケストラを使うことは、ツアー中に曲を書いたときからイメージしてたの。私、もともとクラシック・ピアノを習ってた人だから、ずっと興味があったのね。で、すごく贅沢な使い方をしてるでしょ、この曲。もう、えらく感激しました。すごく映画チックな大作になったしね。歌も、一度録ったんだけど、気に入らなくて録り直したほど。ボーカリストとしても、「One」は新境地っていうか、自分でもよくなったなあって思えるのね。エルトン・ジョンの「ユア・ソング」に似てるっていわれたけど、その曲を知らなかったのね。だけど、そんなステキな曲に似てるっていわれて、本望だと思った。うん、自信作ができたね」

KANAKO NAKAYAMA

中山加奈子のTシャツ¥3,000 ベスト¥10,700 ベルト¥17,800（ダブルデッカー☎03-295-1572）
羽根ジャケット¥38,500（MILK）パンツ¥15,800（A STORE ROBOT）

きっといつか、おなじ時間に。

12.21 Release

(各税抜価格¥2,718)

CBS/SONY RECORDS

CBS SONY

B'z
Kohshi Inaba on Vocal
Takahiro Matsumoto on Guitar

[PERSONAL CLOSE-UP ①]

稲葉浩志

●日ごろ私たちは、音楽雑誌やステージなどで実にミュージシャン然としたB'zの二人を目にする。しかし、B'zというある種〝看板〟の奥にある個々の人物像を深く知る機会は少ない。そこで、2回に分けて一人ずつを解剖――まず今回は稲葉浩志から。

撮影●菅野秀夫　文●野中ともそ

松本孝弘が以前笑いながら言っていたことがあった。「最初のころ、稲葉、全然しゃべんなくってさぁ。オレ、大丈夫かなぁなんて思ったよ」何が大丈夫かというと、たとえばB'zの間の関係とかその場の雰囲気とか、のことだろうか。そしてそれはあっという間に〝大丈夫〟に変わったのだけれど。

まず松本は、最初に稲葉浩志のもっともわかりやすくて触れやすい部分、歌について〝大丈夫〟の確信を抱いたのだった。で、それ以外のところというと、まだ彼には薄いベールのようなものがかかっていたのかもしれない。そのベールは、彼が意識してはずさないのではなく、それを簡単にとっぱらうには、彼は少しだけ不器用だった。しかし、今の稲葉浩志はとても自然だ。撮影の合間にははしゃぎ、かわいい女の子が通れば松本と二人、車の窓からふり返って顔を見合わせる。

もっともっと自然でいたい。彼はそう言う。それは、歌というものに向かう自分により近づきつつあるということでもある。人間は、いろんなものが見えてくればくるほどおもしろくなってくる。彼を見ているとそんな感じだ。

＊

――今回はちょっと抽象的なテーマなんだけど、まぁ稲葉さんのキャラクターを探るっていうことで。(笑)

「う……(と照れて)その前にタバコ１本吸っていいですか？(笑)なんか今回やりにくいな」

――いつも音楽の話が多いもんね。まず、小さいころはどんな子供だった？

「あんまりね、好きじゃなかったな」

――えっ？

「いや(笑)今から思うと、特に中学生のころはカッコよくなかった、イヤな奴って感じで。小学生のころは……イイ子っていうか、まあそれはわかんないけど(笑)外で遊んでばかりで。田舎だしね」

――自然に囲まれて育ったんですね。

「そうです。だからちっちゃいころは、もうケガばかり。木が突き刺さったり、無謀。伸び伸びもいいとこで動物とあまり変わんなかった(笑)」

――じゃ感情的にも？

「うん、出す出す。何もとらわれてなかったというか。素直だったよね」

――それが中学生になると？

「なんか……うまくやろうという感じで生きてたとこがあって(笑)」

――そりゃ確かにイヤな奴かもしれない。(笑)

「でしょ？(笑) 授業中〝静かにしてください！〟とか言う奴だった。先生にどう思われてるかとかすごく気にする奴だった。〝静かにしろ〟っていうのも、自分がうるさいというより、先生に悪いだろって感じだったもん」

――偉すぎる。(笑)どうして素直な子供が突然そういうふうに？

「やっぱり思春期で自意識過剰になってたんじゃない？　そういう問題なんじゃないかな。(笑)うん、たぶんそんな感じ。まあ、まったく普通の子供だったけどね。今から考えるとそういうこと思ってたなと」

――うーん。常に人の中での自分というものを考えてた？

「どう映ってんのかなぁって。で、気にするだけならいいけど、うまく映るように取り入ってたのかもしれない」

――本当に〝自分のことキライ〟っていうふうに語るなぁ。(笑)でもその時期を自然に越えたんでしょう？

「高校になるとだんだん元に戻って」

――それと、音楽をどんどん好きになったっていうのと、関係あるの？

「いや……中学のころは勉強もしてたけど、もう中１ぐらいから音楽は好きで聴いてたから。でもおかしいな、クラッシュとか聴いてたはずなのにそんなイヤな奴だった。(笑)おかしいな」

――〝ぶち壊せ！〟って歌を聴いてたのに？　矛盾してるなぁ。(笑)

「アハハ。ねえ。実際の生活態度と」

――そういう破壊願望とかアウトロー願望みたいなのってなかったの？

「全然なかったんじゃないかな。ただ高校の終わりとか大学ぐらいかな、ちょっとアウトローに憧れ始めた」

＊

そういった〝人に映る自分〟で自意識を確認していた彼が、徐々に〝本当の自分〟に興味を持ち出したのが高校のころだという。先生の機嫌が気になった中学時代。高校に入るとそんなものは自分に関係ないと思うようになった。そして同時にバンドを始めた時期でもある。そして。大学に入ったあたりから、今度は自分がいったい何を持っているのかが気になり始める。自己存在の根源、なんていっては大げさかな。けれどこのころの、音楽と向かい合いつつジレンマを感じる彼は、なかなか興味深くもある。

＊

「あ、そういえばバンド始めたころかな、ちょっと変わり始めたのは。そのころ先生にもいろいろ言われ始めた」

――〝優等生だった君がいったいなんでそうなってしまったんだ〟って？

「そんなにカッコよくはないんだけど(笑)女の子とも付き合い始めたころだったし。(笑)で、そのころ職員室に呼ばれて……成績の落ち方が顕著だったからなぁ(笑)」

――言われてどうだった？

「〝確かに〟って。(笑)そのときはまた勉強がんばろうかなって思った」

――ほんとに。やっぱり根は素直？

「大学に行きたかったから。だから、それは自分のため。で、入って……なんかいろんな人と話とかし始めて。けっこうそれまでは精神的に温室育ちだったなぁって気がし始めてね、それに気づき始めたころにコンプレックスみたいなものに変わってったんですよね」

――自分が温室にいたってことに？

「うん。いわゆるアウトローに対して、そういうふうに生きたい、なんで俺、もっと悪いことしなかったんだろうって。うち、兄貴が怒られてたからな、親父と喧嘩ばかりしてて。それで俺がおとなしくなったのかもしれない」

――いわゆる次男の要領のよさで？

「そうそう、それの典型かも！(笑)」

――でも、だんだん人との関わりの中で

心の中ではいつも〝どうにかなる〟って思ってた

いろんなものに目覚めていって……。

「そう。あとバンドもあったし。でも大学に入ったころのバンド活動っていうのはあんまりね……僕の友達でバイクが好きな奴がいて、たとえば〝今日は風になった〟とか、ほんとにマンガに出てくるようなことヌカすから(笑)頭にきたんだけど、それがすごくうらやましくもあってね……いいなぁと」

──そこまで入り込んでるその人がうらやましかったんだ。

「自分にも欲しいと思った」

──それが音楽だってことに、そのときパッと気づいた？

「全然！　実際そこまでのめり込めなかったし。リハーサルのときとかはそれなりに楽しかったけどね。でもなかなかバイク野郎までなれなかったな。で、そういうのがすごく欲しくてね。大学生活、よくみんなサークル活動とかスキー行ったりとかするけど、そういうのも全然やらなかったからね」

──それは、たとえば小さいころのように、どこかクールにそういうのを見てしまうという感じだったのかな。

「大学のクラスでもね、なかなか最初はうちとけなくて。〝話しようよ〟とか言われちゃって。(笑)どうしても入り込めないという……なわとびに入る感じだよね、タイミングを見て」

──入ればいいのに入れないと、そのうちあきらめたりして。(笑)

「そうそう、もういいかって(笑)」

──その感覚って今もたまにある？

「いや、今は特にないですね」

──〝自分にも何か欲しい〟っていうその〝何か〟を見つけた時期って、やっぱりB'zを始めたときなのかな。

「その前の就職活動の時期かな。採用試験も受けなかったっていうのはやっぱり、そのとき音楽をやりたかったからじゃないのかな」

──だんだん見えてきつつあったんだ。

「でも実際そのときは、そんな気分いいもんじゃなかったけどね。〝俺は音楽が好きだ！〟って前向きな考え方じゃなくて、先生にもなりたくないし、他の会社にも入りたくないし、って」

──消去法で残ったのが音楽？

「そうそう、そっちのほうが強い。だから、いろいろ消していったら音楽が残った！　って感じ(笑)」

──さっきの、〝何か〟を持っている人に対するコンプレックスみたいなのは、気づいたら消えてたって感じ？

「うーん……髪を伸ばしたころかな。(笑)大学の3年くらい。気がついたらみんながそういう目で見てたから。僕がたとえばそのバイク野郎に対して思ってたみたいな、そういう感じでね、僕もバンド活動にのめり込んでるように周りからは見えてたみたい」

──髪はどのくらい長かったの？

「(肩のあたりを指して)このぐらいかな。けっこう長かった。ただ単にミーハーで、好きな音楽をやってる人の、あんな感じにしたいなって感じでね」

──すでにそのころには、気づかぬうちに熱くなってたわけですね。

「なってたみたいですね。今そんな伸ばせって言われても伸ばさないよね。でもそのころは、コンプレックスはないけど〝けっこうやばいなぁ、将来どうすんだろ〟なんて思ってた。(笑)六本木でバンドの練習の帰りに友達と会って……大学4年の夏かな、交差点で偶然に。向こうはリクルート・スーツとか着てんの。〝どこ行くの？〟って言ったら会社訪問かなんかで。そのとき〝俺、大丈夫かなぁ〟なんて思った。(笑)でも、どうしても体がそういう落ち着く方向にいかなかったというかね。スーツ着て会社訪問してればすべては丸く収まってたのに……うちの親族も。(笑)でも、どうしても自分の中で〝ダメだ！〟って……それは納豆が食えないのと同じで」

──すごい理論ですね。(笑)生理的に受けつけられなかったんだ。でも、〝どうなってもいい！〟ってとこまではいってなかった？

「そうなんだけど、心の中ではいつも〝どうにかなる〟ってどっか思ってたんだよね」

＊

──〝何考えてるんだかわからない〟とよく人から言われた、って前に言ってましたよね。それは今もある？

「最近はそんなにないですけどね。昔は女の子に言われたこともあったけど。(笑)それは、僕が自分を出さなかったからかもしれない。出す人には出すから、手に取るようにわかるみたいですよ、うちのスタッフとか(笑)」

──ファンの人にもキャラクターをけっこう見抜かれてるのかな。

「どうかな、ライブを見られたら全部わかっちゃうかもしれない(笑)」

──わかってほしいという願望は？

「全然。(笑)やっていけばわかるって思うし……そういうところをわかってほしいっていうんでもないしね」

──やっぱりB'zの歌や音楽をとおして、ってとこで？

「出るからね。ライブなんてモロだし、いちばん近いかもしれないな、真の自分……というより自然な自分にね」

──というと、けっこう切れたりとか熱

歌を見つけるまではそんなに積極的じゃなかったかもしれない

い部分とかも……？(笑)
「ありますねぇ(笑)」
――でも歌詞の中には、クールというか、距離を置いて自分を見つめてるというような一面もありますよね。
「そっちもたぶん本当だと思うんですけどね。ライブのときとそういうとこと……それは二面性だと思うんですけど、ライブのときのほうがなんか近いというか、野性に戻れる気がするかな」
――飛び回ってケガしてた子供時代。
「に近い。(笑)動物のようにね。深く考えてないですからね、そういうときは。たとえば、もしクールっていう部分があるとしても、そういうときはただ僕がボーッとして何も考えてないときなのかもしれないし(笑)」
――じゃあ、ラッキーだという。(笑)
「それはラッキー。(笑)そういうときは休んでるときですね、きっと」
――今、たとえば〝自分はこうありたい〟っていう、何か精神的に求めてるものはありますか？
「うーん……なかなか〝あるがまま〟っていうふうにはいかないだろうけど、それに近くなりたいというのがテーマですね。どっかでやっぱり……当たり前だけど〝作ってる〟部分ってあるし、それを抜けたいなと。そうしないと長くやれないって気がするし。疲れちゃうからね、よけいな力が入ってるときって。それはあまりいらないなって気がするんですよ」
――でも、デビュー以来それはどんどん抜けてきてるという気がしますが。
「うん、僕も思います。まあ、ふだんも野生児だったら困りますが(笑)」

＊

――歌詞の中で恋愛がテーマになっていたりしますが、自分の中で恋愛観が変わってきたりとかはある？　なんか女性誌みたいなテーマだけど。(笑)
「ジュノンですか？(笑) うーん、どうだろう……女性は好きだけど(笑)」
――松本さんともども？(笑) じゃあ、どこが好きですか。
「うーん、線が柔らかいところ。抱きつきたくなるところ(笑)」
――あぶないなぁ。(笑)
「野生児ですから。(笑)でも恋愛のときは本当の自分が出しやすいよね」
――じゃ、その中の自分が変わってきてるっていうのはある？
「それはあまり変わってないかもしれない。そういう本質的なものは、小さいときから持ってたものかもしれない。イヤな中学時代(笑)をとおしてずっと持っていたものもね、出してる」
――それはどんな自分？
「うーん、どうだろう……クールっていうのとは全然違うよね。あまりそういうときはカッコよくないかもしれないな。(笑)たとえばライブのときと恋愛のときに出てくるものって違うと思うけど……でも両方とも限りなく自分の本質に近いかもしれない。安息の場っていうのでもあるし……でも、恋愛で出会ったときっていうのは安息というよりスリルが……そういうのも好きなんですけど。(笑)いいな、そういうのないかな(笑)」
――ないかなって。(笑)でも恋愛に限らず、たとえば音楽にしても、欲しいものに対して今はわりと積極的に向かってるのかな。もちろん今はそれが可能な状態でもあるわけだけど。
「うん、本当にそういう部分ではすごく積極的だと思いますよ。誰でもそうだと思うけど、それが見えてたらね。昔は音楽にしても〝それのみ！〟って感じじゃなかったから、そんなにのめり込んでなかったけど。だから今も、音楽と女性(笑)に関して以外は何も積極的じゃないですよ。なーんて、とんでもない奴みたいだけど(笑)」

＊

歌を見つけるまではそんなに積極的じゃなかったかもしれない――そんなふうに彼は言う。そしてその音楽に関しても、簡単に何かパッとひらけたというふうには現われなかったものだ。いろいろなことや人が間に入り、少しずつ彼の視界を明確にさせた。恋愛に関しては多くを語らない彼だが、(笑)彼が〝ありのまま〟といえる自分自身に向かうそのサイド・ウォークには、常に恋や音楽があった。そしてそれは今の彼にとっても大事なもの。それは〝とんでもない〟ことなどではなく〝すてきな〟ことだと思うのだ。

[PERSONAL CLOSE-UP ①]

B'z Kohshi Inaba on Vocal / Takahiro Matsumoto on Guitar

稲葉浩志

SONY

この世の音楽を、残らず録ろうと決めました。

ノイズを抑え、高域に強い。ハイポジションCDixⅡ

新登場 身近になったすごい音。メタルポジションCDixⅣ

力のある音を聴かせる。ノーマルポジションCDixⅠ 10分、46分、60分タイプも新追加。

PRINCESS PRINCESS

分別うす型

音楽まるのみカセット

●CDixⅠは8タイプ、Ⅱは10タイプ、Ⅳは9タイプ。CDがうたい終わるとテープも終わる時間ぴったりサイズ。
●どのCDixも、テープの性格をよくあらわした個性的な顔である。
▼メタルの音、CDixⅣを存分に楽しむ「メタル録音/再生付きCDラジカセ」登場

CFD-500 標準価格54,800円(税別)新発売

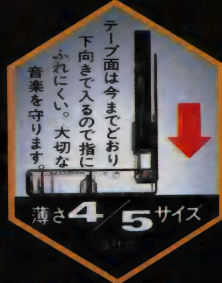
CDix

CDixⅠ(NORMAL POSITION) CDixⅡ(HIGH POSITION) CDixⅣ(METAL POSITION)

テープ面は今までどおり下向きで入るので指にふれにくい。大切な音楽を守ります。

薄さ4/5サイズ

新うす型ケース

●あなたが録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。●カタログさしあげます。ハガキに住所・氏名・年齢・職業・機種名を明記の上、〒108 東京都港区高輪局区内ソニー(株)カタログ係へ。

UNICORN
HAVE A NICE DAY!

●前代未聞の3か月連続アルバム・リリースの最後を飾るのは、ストレートなロックンロールがメチャかっこいい『ハヴァナイスデー』。ニューヨーク録音＆トラック・ダウンのこの作品についてインタビューしようと、ツアーまっただ中の広島へとメンバーを訪ねた取材班。さてさて、彼らは素直にインタビューを受けてくれるでしょうか？

文●能地祐子　撮影●渡辺マコト

UNICORN
HAVE A NICE DAY!

これは僕らが思いきりゼイタクに作らせてもらったの

なぜかキーボードの前におかれたヌンチャクと刀。リハーサルが終わっても小道具で遊ぶ二人の目は真剣です。

いいでしょう？　何度聞いても。すばらしいでしょう？　ズッコーンとくるでしょ？　ぜい肉をそぎおとした、思いっきりシンプルでたくましくスリリングなアルバムでしょーが！

ぞっこんだわ♡

衝撃の問題作『おどる亀ヤプシ』から待つこと1か月。ユニコーン様が投げつけてきたのはニューヨーク仕込みのニューヨーク仕上げ、ばきばきのロックンロール・アルバム『ハヴァナイスデー』。あんまりすばらしいものだから、遅ればせながらアルバム・インタビューをお届けしましょう。ツアー中であいかわらず忙しい彼らを追っかけて。♪生まれは広島〜でおなじみ、ホームタウンの広島で、われわれはやっとユニコーン様をキャッチすることができたのであーる。

＊

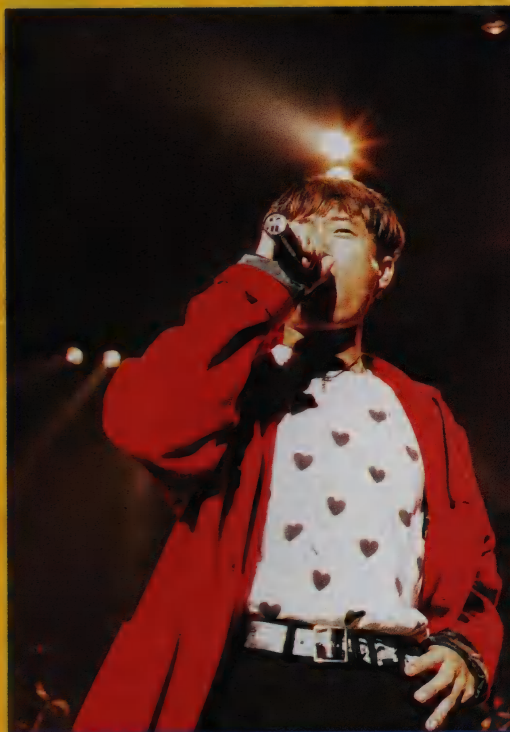
西川「12月1日発売の『ハヴァナイスデー』、ニューヨークで作ってきました」
TESSY「曲作りとアレンジは日本でやって。楽器は向こうで調達しました」
タミオ「ま、アレンジっていっても、こんなもんだから。アレンジってほどじゃないですけど(笑)」
——初めての海外レコーディングで。
西川「うん。外人のスタッフと仕事をするっていうのも初めてだし。そういう意味ではすごく心に残ってますよね」
TESSY「うん。成田でタミオに会ったら、いきなり髪が七三で驚いた(笑)」
EBI「まるで予備校生みたいで。(笑)ほんとたまげたわ」
タミオ「それはアルバムとは関係ないだろーが」
ABE-B「今やこれですからね。ほとんど水前寺(笑)」
タミオ「チータと言わんとわからんだろーが。水前寺って、そりゃ寺の名前だってーの。これからもっともっと短くなりますからね。もうすぐ脳が見え……ほら、このへんからもう出てるでしょ、脳が。来年は髪型じゃなくて脳型をいろいろ考えて。(笑)脳を七三とか。うーん、いーかもしんない」
——あのう、カレーを食べてるEBIくんを前にそーゆー話は……。(笑)
EBI「あ、いいっすよ。気にしないで」
——『ケダモノの嵐』から続く三連発が出そろったわけですが。いちばん趣味っぽい。
ABE-B「完全にそうですね」
——西川さんの曲はすごく西川さんらしいし。タミオくんもタミオくんらしいし……。
西川「タミオの中のジョン・レノンがときどき顔を出す」
タミオ「どこがやねん。(笑)ま、ひねったりもせず。ストレートなアイデアだけで作ったんですけどね」
——カバー曲も入ってますね。「東京ブキウギ」。昭和20年代に笠置シヅ子さんが歌った有名な曲ですが、これを選んだのは？
西川「何かカバーを入れようっていう話があって。それでいろいろ考えてたんだけど」
ABE-B「♪チャッチャチャチャラララ……(牧伸二のウクレレ漫談の曲。ハワイアンだ)にしようかという話も出たんですけど(笑)」
——ABE-Bは、ライブでまた自らの見せ場が作れると思ったんでしょ。(笑)
タミオ「コイツ、絶対やってたでしょうね。ウクレレと腰ミノつけて(笑)」
西川「洋楽のカバーとも思ったんですけど、そうなると英語の歌詞でしょ。あっちでやるのに英語で歌うのはしのびないってことで……」
タミオ「〝しのびない〟(笑)」
西川「オレらがね、しのびない。で、どうせなら日本の有名な曲をと思って。美空ひばりさんもあの曲をカバーして有名になったというし」
タミオ「『上を向いて歩こう』にしようかとも思ったんですが、みんなやってるし、RCサクセションには勝てないでしょう」
——この曲のロックンロールの部分っていうのを、みごとに抽出したなって感じがしたんですが。
タミオ「うん。それは思ってたし。もちろん原曲は超えられないっていうのは最初からわかってたし。あえてそういう曲を選んだわけだけど」
——手島さんの曲だけ入っていないのは？
タミオ・西川・EBI・ABE-B「(笑)」
TESSY「……入ってないというか、書いたんですけどねえ。入れてもらえなかったんです。ま、僕の曲が入る感じのアルバムじゃないでしょ」
——でも、今回はギター・アルバムってことだし、手島さんはギタリストにあえて専念したって感じもあったんじゃないですか？
TESSY「専念せざるをえなくなったんです。だって曲が入らなかったんだもん(笑)」
EBI「手島くん、こだわってます」
タミオ「いやー、あれ以来、ギタリストとしての手島くんの燃えようはすごいですよ。TESSY、オレ、

わき腹まだ痛いよ(笑)」
——どうしたんですか？
タミオ「昨日のステージで、手島くんにギターのヘッドで思いきり殴られたんですよ(笑)」
TESSY「ぶつかったんだよ」
タミオ「TESSYって、よくギターをブンッてやるじゃない。あのときにオレが後ろにいてぶつかったの」
EBI「あれはすごかった(笑)」
——このアルバムは、楽器をすべてニューヨークで借りたってことですけど。
EBI「うん。どうせ外国でやるなら、スタッフも楽器も全部向こうで調達しようと」
タミオ「持ってくのもめんどうくさいしね」
EBI「古い、オールドのいい楽器をいろいろ持ってきてもらったりして。よかったよね」
TESSY「特別変わった楽器を使ったってわけじゃないんだけど。オールドの中でもけっこういいやつだったみたい。オレ、あんまり詳しくないんだけど。何百万もするようなやつとか」
タミオ「オールドって微妙なところで違うんだよね。弾いてるときは〝こういう音ってあるよね〟とか言ってるんだけど。あとで同じような音のギターを探してもないんですよ」
TESSY「聞いている人はわからないかもしれない。ま、弾く人の満足だけで」
EBI「いいんですよ。これは僕らが思いきりゼイタクに作らせてもらったアルバムだから」
——期間はどれくらいかかったんです？
EBI「音を入れるのは、ダビングを入れて5日くらいでできちゃったの。あとはトラック・ダウンを1日に1、2曲くらいやって。早かったですよ」
TESSY「入ってる音そのものが少ないですしね」
タミオ「ふだんが入りすぎなんだよ(笑)」
西川「『ケダモノ……』クラスだと、チャンネルを全部使ってめちゃくちゃいっぱい音を入れたりして」
——『ケダモノ……』の反動、みたいな部分はあったんですか？
EBI「十分ありますね。(笑)今回は、リズムなんて3日で録っちゃって。精神的にもよかったですね。初めての海外録音だから、不安とか緊張もあったんだけど、こういう形のアルバムだったから、けっこう最初からリラックスできたし」
ABE-B「『ケダモノ……』は自分たちで全部やったでしょ。で、あとの2枚は人にお任せしちゃうって形で。ま、アップ・トゥ・ユーものってことで、気が楽といえば楽。ミキサー／プロデューサーのジョー・ブレイニーさんとのコミュニケーションも、あんまりとれないと最初からあきらめてたし(笑)」
タミオ「でもね、このアルバムはけっこう金がかかってますよ。でも、これで海外録音のノウハウもちゃんと覚えたし」
西川「そういう目的もあったんです。勉強の意味もこめて、という」
EBI「これが何かの足しになればね」
タミオ「そういう気楽な言い方をするな(笑)」
——ニューヨークだからいいっていう言い方は乱暴ですが、やはりミックスなどはカッコいいですよね。芯が太くて気持ちいい。
タミオ「借りたギターを弾いてて思ったんですけど、そういういい音が当たり前にある国でしょ。向こうの人たちって、それをオレたちほどありがたがってないんですね。だからミックスにしてもね、そういうゼイタクな環境に育ったバカヤローたちがやるわけだから、いい音っていうのを当たり前に考えちゃうんですよ。オレたちがギターを弾いて、いい音だなって思うと、そこですでにいらん考えがわくわけですよ。こんなにいい音はこういじったらさらによくなるんじゃないかとか。でも、向こうの人はそーゆーよけいなことをしないの。だって、いい音っていうのがフツーなんだもん。ゼイタクですよ」
——タイトルの「ハヴァナイスデー」というのは？
タミオ「よかったですよ。「ハヴァナイスデー」という曲を作ったことは。これで阿部くんが遅刻してきてもできる曲ができた(笑)」
ABE-B「キーボードが入ってないの」
タミオ「このあいだ、リハーサルだったんですけど、2時間待ってもこのあほうが来なくてですね。しかたがないから「ハヴァ……」をやったんです。でも、EBIがボロボロだったという(笑)」
EBI「でも、このタイトルを最初に持ってきたのはワタシなんですよ」
タミオ「タイトルが決まってから曲を作ったんです。ま、誰でも知ってる英語がいいなと思って」
西川「EBIくんの英語知識のすべてをフルに活用しまして(笑)」
EBI「うん、ま、そーですねえ。昔からウイッキーさんのワン・ポイント英会話を地道に聞いてきた甲斐があったな、と(笑)」
タミオ「だって、最初の案がなんだっけ……」
EBI「グッドモーニング・ミスタ・トクミツ」
タミオ「それじゃメリー・クリスマス・ミスタ・ロレンスだよ(笑)」
ABE-B「どこが(笑)」
——では最後に〝嵐のケダモノ〟ツアーの近況を。
西川「今回はね、けっこうテンポがよくて。構成も今まででいちばんおもしろいと思うな。難しいけど」
タミオ「なんといっても手島くんがバリバリ。ギターを振り回して大暴れ」
EBI「負傷者続出(笑)」
——ABE-Bの調子は？
EBI「ま、阿部にとってはこのツアーもプロモーションの一環ですからね。来年からスタートする阿部主演のカンフー・アクション映画」
TESSY「故郷・山形でロケを敢行(笑)」
タミオ「『燃えよ！ アベゴン』だもん」
——地元の名士で銅像が立っちゃいますね。
ABE-B「銅像！ いいですねえ。宝くじでも当たったら、ちょっと作っちゃおうかな♡」
タミオ「あーいうのは自分で立てるものじゃないんだぞ(笑)」
——来年まで体に気をつけて。がんばってください。
西川「今日のライブ、写真撮るんですか？」
TESSY「今日は燃えますよー」
——じゃ、撮らせていただきます。
西川「本当!? オレ、いいとこ見せちゃうよ」
TESSY「阿部さんは燃えないんですか？」
ABE-B「いや、僕はいつも完全燃焼ですから」

*

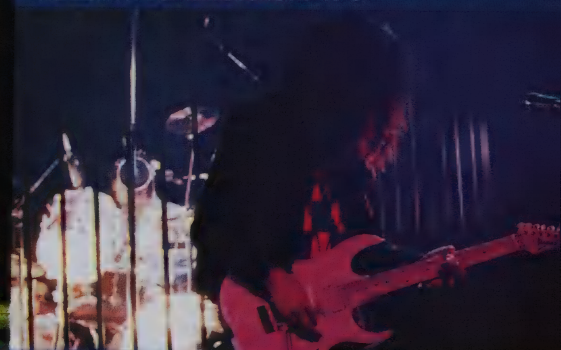
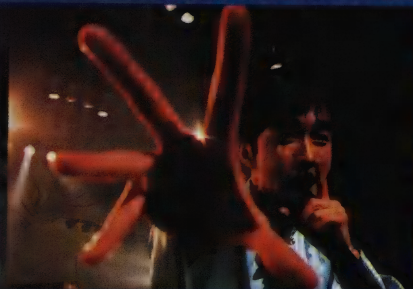
確かにその夜のライブは熱かった。広島のファンはやっぱり、とりわけ熱狂的なせいかもしれないけど。ユニコーンの面々も、張りきる張りきる。西川さんは、「ロック幸せ」から「シーサイド・バウンド」で、燃える魂のシャウトを聴かせたし。TESSYにいたっては、ラストでギターを叩き壊すという激しいアクションで場内を圧倒した。(実はそのギターは前日にネックを割ってしまったらしいのだけど) タミオは広島ネタも駆使しつつ、いつになくはしゃいでいたようだったし。EBIくんは人工芝を力いっぱい走り回ってたし。ABE-Bの〝ブルース・リー・ショー〟も絶好調。ABE-Bは広島で一生懸命やらないと、あとでメンバーにいじめられるからがんばってる、とタミオはクールに言ったが……。

"ライブ撮るんですか！ [illegible] 撮らない？ オレ、前に行くから撮りましょうよ"

最近とみにい[illegible]してきたEBIクン。取材のときも[illegible]の発するひとこと[illegible]

UNICORN
HAVE A NICE DAY!

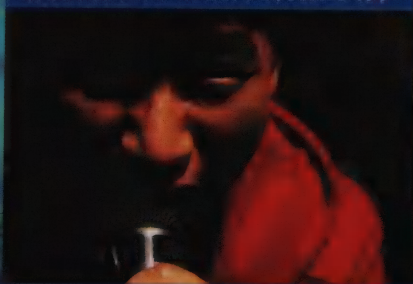
「ハヴァナイスデー」。これは アベが遅刻してもできるの

宴会担当(!?)阿部氏の今回の出しものはブルース・リー

最近、いっそう髪を短くしたタミオクン。わずか2〜3センチしかないその髪はまるでステージに敷かれた人工芝のようでもあるのでした

テッシーはかなりエキサイト。ギターを壊す姿には鬼気せまるものが

あいかわらのずのパフォーマーぶり、すっかり板についてます

ケ、なんてことがたびたび

前に出てカメラマンに視線をおくる西川クン。写りたがりです

この危ない視線。ステージにあがると、とたんにセクシーかつキュートな天才ボーカリストとなる奥田氏です

RHYTHM RED
BEAT BLACK &

TMN

& DREAMS OF CHRISTMAS

●TMNが発表する第2弾シングルは「RHYTHM RED BEAT BLACK/DREAMS OF CHRISTMAS」。この2曲と、同時に発売されるビデオ『TMN』について3人に語ってもらった。

撮影●大川直人　文●山下由美子　スタイリスト●岩瀬未美　ヘアメイク●榊原義雄

TMN

狙いは今までの流れとは違うところから派生している（小室）

12月21日、TMNとしては2枚目にあたるシングル「RHYTHM RED BEAT BLACK」が発売された。アルバム『RHYTHM RED』からのシングル・カット曲である。このニュースに「ああ、やっぱりね」と納得する人もいれば「TMNの名刺(シングル)としてはどうかな？」と疑問を持つ人もいるだろう。前者はやはりアルバムの中でもインパクトのある曲であったからだろうし、後者はこの曲自体が新生TMNの音というよりはTM NETWORK時代の流れに近い曲として感じられるからだろう。まず小室哲哉に聞いた。

＊

──「TIME TO COUNT DOWN」は確かに新生TMNを表わしている曲でしたが、今回のシングルも、ひとつの流れとしてリリースが予定されていたものなんですか？

「いや、そんなことはないです。この曲をシングルにしたのは、まずアルバムがリリースされてから人気が高かった曲であるということ。確かに僕も、アルバムの中ではコマーシャルな曲であったとは思う。また、この曲が、12月からオンエア中のハウスのCM(3人が登場)のタイアップ曲になると決まっていたので、そういう観点からの決定ですね」

──CM曲ということも考慮して？

「うん。おかげさまで『RHYTHM RED』も好評だけど、それでもまだTMNの存在を知らない人も多い。マクセルのCMで「TIME TO COUNT DOWN」が先行してるけど、アルバム・リリース後となると今回が初めてのオンエア。TMNを知らない人々が聴くという意味では最初の音になってしまうわけだから、そういう人たちへの紹介っていう部分も考えた。この曲には、新しくファンになってくれる人にも、今までずっと応援してくれた人たちにも、みんなが気に入ってくれる共通項の魅力があると思いますね」

──曲自体は、いつごろできたんですか？

「今年の1月ぐらいから原形みたいなものはあって。でも、最後まで入れようか入れまいか迷った曲です。TMNの音を表わす場合、今回のアルバムの色としては、どうしても「TIME TO COUNT DOWN」に代表されるハードロック色あふれる曲のほうが、よりわかりやすいと思ったから。そこにこの曲を入れると、ちょっと色が濁っちゃうんじゃないかという気持ちが強くて、ずっと保留にしてたんだけど」

──そこを踏み切ったのは？

「僕らは、TMN宣言のときにいくつかのコンセプトを挙げた。それは疾走感、スピード感だったり、せっぱ詰まった緊張感であったり。ただそれとは別に退廃、デカダンスという言葉も提唱してるんですよ。この曲はどちらかというと、その系統の流れを感じてほしい楽曲なんだ。だから、世紀末、終末のパーティーを表わすダンス・チューンと思ってくれれば一番いいんじゃないかな。またTMN自体、これをやらなきゃいけないという掟があってハードロックという音楽をやってるわけではないし。もっと自由な発想で考えてますから」

──それでは、この曲はTMNでの新しいダンス・ナンバーと考えていいんでしょうか？

「僕らがTM NETWORKでずっと作ってきたダンス・チューンは、ユーロビートがヨーロッパの人から作り出されたものだとしたら、日本人のミュージシャンが生み出すダンス・ミュージック。それを確立したいという目的にのっとっての活動だった。ただこの曲に関しては、狙いは全然違うところから派生したと思ってください。構成も違うし、詞の内容もデカダンスがテーマになっている。結局、たまたまその系統になってしまったって感じかな。1年たって、僕らの変わったところから出てきたダンス・ナンバーかもしれない」

カップリング曲は「DREAMS OF CHRISTMAS」。彼らにとって初のXmasソングである。

「これはもう説明は簡単。リカット曲だったら、買った人にはあまりにも不親切に感じられるでしょ？　それは冷たいなと思って。時期も考慮して、純粋にXmasプレゼントを届けてあげたい、という気持ちで作りました。まあたとえれば、'90年のXmasごろのTMNをスナップ写真で記録したようなものかな」

──ギターの葛城さんを含め、4人でコーラスもとっていて。ファンにとっては、まさしくうれしい贈り物ですね。

「(笑)これはね、実をいうと苦肉の策なんだ。ウツが風邪をひいてて声が出なくて、フル・コーラスが歌えないので、急遽こんな方法をとった。そのくらい悪くいえば適当、よくいえばアイデア即実行みたいな展開で作った楽曲。もう好き勝手にやってますよ」

──新生TMNは、本当に自由なんですね。

「そうだね。昔はコンセプトにのっとったカッチリしたものを作り、あたかもビジネス的な進み方をしているように見えたと思う。だけど今は本当に自由だから。そこらへんはこの2曲でも表現できてると思うな」

＊

木根さんには、まずこのシングルが流れ、

ビジュアルは時代の最先端をいくものを加味したい(宇都宮)

TMN

3人が自ら出演しているというCMの話から。
「ハウスのポテトチップスのCMなんです。シチュエーションは、ディスコで3人で遊んでて、カウンターで金色のプリペイド・カードを出すと、引き替えにポテトチップスが出てくる。そういう絵。僕らもただ出演するよりは、TMNがリニューアルした告知に使いたいと思いましてね、Mr.ガルボアを登場させたり、TMNのロゴを出したり。こちらもアピールさせていただいてますよ(笑)」
──TMN側もアイデアを提供し、画面もバンド・イメージと重なるように作られてるとか。
「そうですねぇ……でも、しょせんポテトチップスのCMですからね。〝スゴイよ!〟ってホラ吹いたら、見た人から〝何だこりゃ?〟って言われそうなので、(笑)そう言っとこう。まあ、自分で見て判断してくださいよ」
──このシングル曲はTMNの音楽性の中ではどういう路線の一端を担いそうですか?
「そうするとアルバム制作段階から話さなくてはいけないんだけど。レコーディングのラストあたりで振り返ってみたら、音がハードに偏ってたからね。みんなが、今までのTM NETWORKの面影も残しているような、いわゆる16ビートのノリも1曲くらいは欲しいなという気持ちになって。それで小室が急遽作った。これは僕の臆測だけど、ハードな音ばかり作っているうち、彼も自分で確認したかったんじゃないの?〝前のような曲が作れなかったらどうしよう〟って。それで試しに作ってみたらオチャノコサイサイでできたから、〝こういうのだったらいつでも作れる〟って安心したとか。そんなことないか(笑)」
──TMNにも宇都宮隆のダンスという要素が必要不可欠だったという意識もあって。
「そうね。彼のパフォーマンスをまったく取り除くということはできないという意味でのこの曲でもある。それともうちょっと長い目で見て、これを他のバンドにハウスっぽくリミックスしてやってもらおうという構想もあって。そういう意味では、今後いろんな方向に伸びていく可能性を秘めた楽曲なんです」
──活動や展開も、なんでもありの状態ですね。今、音を作り出す作業が楽しくてしようがないでしょ。
「うん。リニューアルしたサウンドはギターがメインだし、コンピュータにシンクさせないで出す音もすごく新鮮。考えてみれば他のバンドにとってはあたりまえのことなんだけど、僕らにとってはすごい体験で。それが楽しくてね。シングルの2曲に関しても、サウンドは全然違うけど、作り方とか根底に流れている意識としては同じなんですよ」

*

また、シングルと同時にビデオ『TMN』も発売になる。これは「TIME TO COUNT DOWN」「RHYTHM RED BEAT BLACK」に「SECRET RHYTHM」を入れた全3曲。ビジュアルの面はすべて宇都宮さんに話を聞いた。
──TMNにとってのビジュアル展開が垣間みられたビデオでしたが。宇都宮さんのダンスのアプローチも変わった気がしますね。
「今回、コレオグラフ(振り付け)してもらったマイケル・ノーブルという人物がいるんですが。僕としても、TMNに変わった時点で、バンド・イメージをどう表現したらいいかという点でずっと悩んでてね。そのときに前任のコレオグラファーから、ロンドンのダンススクールで同僚の彼を紹介されて。ディスカッションしながらやっていくうち、彼でイケるんじゃないかなと手応えを感じましたね」
──速いリズムにも踊りがつくのが印象的でした。振り付けの感じもおもしろいですね。
「とくに「RHYTHM RED BEAT BLACK」は、赤と黒に分かれた4人と5人のグループが両方とも同じダンスをするんだけど、何小節かズレて踊ったり。そういう発想がすごく独特でおもしろいと思った」
──ビデオのビジュアルは赤と黒にこだわっていたようですが、これは将来的にも続く?
「いちおう、ビデオは赤と黒にそってということでしたが、ライブではとりあえず今のところは考えてないな。それと今回ロック色が強いということで、衣装としては僕の中では革のパンツ+αのハードなイメージがあったんだけど、それだけでは新しくない。ビジュアルはそこに近未来的なもの、時代の最先端をいくようなものを加味したいと考えていますけどね」
──しかし、速い曲の動きは大変ですね。
「それはもう大変で。意外と動けないというか、自分でも愕然とした部分があるな。(笑)とにかく歌うだけで精一杯。ツアーでもまだ、動きの部分は納得いかない状態なんだけど。とにかく今は一生懸命ですよ。でもきっと見てるほうは、そんなに苦しいって感じないと思う。やってる僕だってそれは感じてほしくないし。ビジュアルとしての見どころですか?やはり踊りながら歌ってしまうという点でしょうね。普通じゃ見られない内容だと思うし、けっこうおもしろいんじゃないかな」

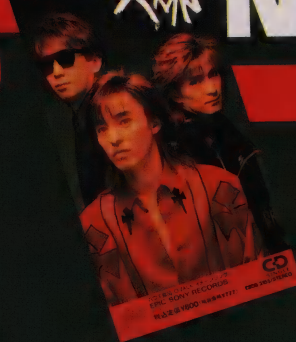
X'mas Single

RHYTHM RED BEAT BLACK

(ハウス食品"O'ZACK"CFイメージソング)

DREAMS OF CHRISTMAS

(New Recording)

ESDB 3185 ¥800 税込定価(¥777 税抜価格)

NOW ON SALE

New Video

TMN

収録曲/「TIME TO COUNT DOWN」「RHYTHM RED BEAT BLACK」「SECRET RHYTHM」

VHS ESVU-330/β ESUU-308/LD ESMU-4308

¥2,600 税込定価(¥2,525 税抜価格)

INFORMATION

12月21日発売のシングル、ビデオを両方お買い上げのお客様に限り、'91年2月開催予定のTMNスペシャルイベントに抽選で御招待致します。商品に付いている応募券をEPICソニーまで郵送下さい。詳しい事はしめ切り後、抽選に当った方のみ御連絡いたします。

EPIC/SONY RECORDS Epic

maxell

史上最強の

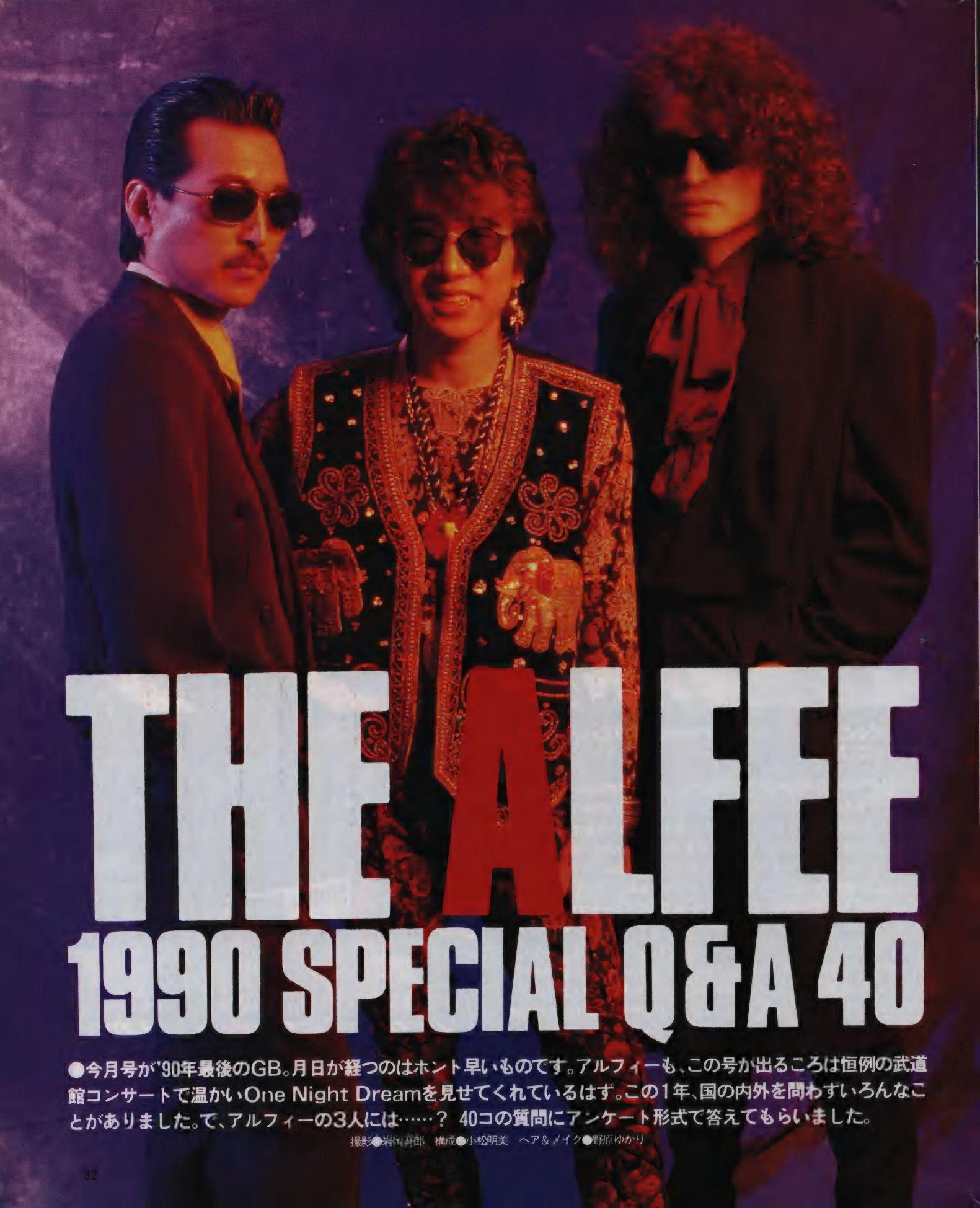
UD Network's goal is to contribute to the betterment of young people through music.
UD Network is a cooperative venture of TM Network and Maxell. All UD Network projects have the approval of both partners.
UD Network encourages young people who are interested in music to go beyond mere listening and become involved in such activities as composing.
UD Network's approach will revolutionize the music industry in the 1990's.

UDネットワーク

TMNとマクセルの音楽強化プロジェクト。ついに頂点へ。

90年代の新しい音楽を創造する、TMNとマクセルの共同戦略が、ついにクライマックスに突入した。TMNはスピードをテーマにして、自己革命を断行し、マクセルはUDにメタルポジションを加えて、シリーズを増強。前回をはるかに上回るスケールで、いま音楽改革プロジェクトがくりひろげられる。●新音楽に向け、3人が再集結、TMN誕生。●TMNのニューシングル「TIME TO COUNT DOWN」発表。UDシリーズのCMソングとなる。●マクセルのフルサポートで、TMNコンサートが実現。●UDネットワークプレゼント好評実施中。UDキャンペーンパックの中の応募券1枚で、TMNコンサートツアージャンパーなどが当るチャンス。また、2枚なら、その上、TMN情報、プライベートコールナンバーなどの特典がついたUDネットワークメンバーカードを交付。(メンバーカードは首都・近畿・中部各圏限定。詳しくは店頭で。)●UDシリーズにMETAL UDが加入。新開発ハイエナジーメタル磁性体がCDの音を征服。90年代サウンドに力強く対応する。これでUDシリーズ3ポジション体制が確立。

maxell PRESENTS TM NETWORK RHYTHM RED TMN TOUR

マクセルは、TMNのコンサートツアー(15都市40公演)に協賛。

●開催地…(新潟、金沢、名古屋、札幌、鹿児島、福岡、広島、松山、倉敷、郡山、神戸、青森、仙台、大阪、東京)

New

ノーマル　ハイポジ　+　メタル

UD加速

●UDI(NORMAL POSITION)……30¥310/46¥390/50¥410/54¥430/60¥480/64¥500/70¥530/74¥550/90¥630/120¥870 税抜き ●UDII(HIGH POSITION)……46¥430/50¥450/54¥480/60¥530/64¥550/70¥580/74¥620/90¥720/120¥950 税抜き ●METAL UD(METAL POSITION)……46¥460/50¥490/54¥520/60¥550/70¥610/74¥640/90¥730/110¥850 税抜き ――■価格はすべてメーカー希望小売価格(税抜き)です。――

●カタログのご請求は〒103東京都中央区日本橋本町2-1-7(本町ビル)日立マクセル株式会社宣伝部GB-A係まで。●あなたがラジオ放送やレコード、テープから録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。

THE ALFEE
1990 SPECIAL Q&A 40

●今月号が'90年最後のGB。月日が経つのはホント早いものです。アルフィーも、この号が出るころは恒例の武道館コンサートで温かいOne Night Dreamを見せてくれているはず。この1年、国の内外を問わずいろんなことがありました。で、アルフィーの3人には……？ 40コの質問にアンケート形式で答えてもらいました。

撮影●岩岡吾郎　構成●小松明美　ヘア＆メイク●野原ゆかり

1．'90年のお正月はどんなふうに過ごしましたか？
桜井　寝正月！
坂崎　こたつにテレビにみかん
高見沢　ベルリンにいた……

2．'90年のアルフィー・フェアで印象に残っていることは？
桜井　宿泊先のホテルでのビデオ鑑賞
坂崎　ドラムって大変ね
高見沢　赤いスーツのロックンローラー！

3．'90年いちばん楽しかったことは？
桜井　F1日本グランプリ観戦
坂崎　ニュージーランドの無人島でのキャンプ
高見沢　『ARCADIA』が完成したこと

4．'90年いちばん残念だったことは？
桜井　①F1日本グランプリでセナとプロストがいきなりのリタイア。マンセルの大ボケ！
②ナニーニの事故
坂崎　ゾウガメがなかなか入ってこない
高見沢　仙台のコンサートで声が出なかったこと(仙台のみなさん、ごめんなさい)

5．'90年印象に残った国内の旅、土地は？（その理由も教えてください）
桜井　鈴鹿(そりゃ、やっぱりF1をナマで見られた)
坂崎　オキナワ(自然がすばらしい)。ヤンバルクイナ、リュウキュウヤマガメ、イリオモテヤマネコを大切にしよう
高見沢　斑鳩の里（シルクロードの謎に迫る！）

6．'90年印象に残った海外の旅、土地は？（その理由も教えてください）
桜井　ハワイ（ホモ・グッズの店を見つけた）
坂崎　①ニュージーランド（来年1月3日のテレビ朝日を見てみ）
②香港（言えねえ）
高見沢　ルクセンブルク(あまりに何もなくて……)

7．'90年もっともよく食べたものは？
桜井　〝かつ味〟の特ロース定食
坂崎　そば、クールヴォイス
高見沢　レバケーゼ、イカ墨のリゾット

8．'90年よく飲んだお酒は？
桜井　ヘネシーXO
坂崎　キリンのクール
高見沢　シャンパン

9．〝花の万博〟のオープニングに参加して印象に残っていることはどんなこと？
桜井　皇太子の前で演奏できた
坂崎　コンパニオン
高見沢　『THE ALFEE CLASSICS』を関西フィルとライブで再現できたこと

10．'90年の誕生日はどのように過ごしましたか？
桜井　仕事（アルフィー・フェア）
坂崎　ちっちゃいアラブ人とラクダで遊んだ
高見沢　ステージで……

MASARU SAKURAI

11．'90年よく口ずさんだ歌は？
桜井　「どっか針刺す」「浪花節だよカツオ節…」
坂崎　「ちんちんぶらぶら」
高見沢　①「RAINBOW IN THE RAIN」（口ずさみながら作ったから）
②「YESTERDAY」

12．'90年いちばん興味を持ったのはどんなこと？
桜井　『暴れん坊将軍』のストーリー展開
坂崎　野良ネコの行動範囲
高見沢　絵画を見ること。去年ヨーロッパへ行ったときにアンテピナコテーク（ミュンヘンの美術館）ほか、いくつかの美術館にブラリと入って、なにげなく絵を見たりしたあたりから絵画に対して興味がムクムク湧いて……今にいたる

13．'90年いちばん衝撃的だった事件は何ですか？
桜井　松平健と大地真央の婚約発表
坂崎　トリカブト事件。はっきりしろ!!
高見沢　ドイツ統一、中東問題

14．'90年もらったプレゼントで印象的だったのは？
桜井　ファスナー付きビキニパンツ
坂崎　梨とプーアル茶
高見沢　①ツェッペリンのテープ(BBCの放送分)
②ヘビメタ・グッズ

15．'90年よく見たテレビ番組は？
桜井　『暴れん坊将軍』
坂崎　『おもいっきりテレビ』

KOHNOSUKE SAKAZAKI

高見沢　ニュース番組

16. '90年見たコンサートのベスト3は？

桜井　①F1日本グランプリ
②ローリング・ストーンズ
③ポール・マッカートニー

坂崎　①拓郎さん
②ローリング・ストーンズ
③ポール・マッカートニー
④小泉今日子

高見沢　①ポール・マッカートニー
②ローリング・ストーンズ
③フィル・コリンズ
④エイジア

17. '90年のツアーの中でのエピソードや印象的だったことは？

桜井　ヘアメイクの〝ゆかり〟をいじめた

坂崎　楽屋で高見沢が頭を巻いてた

高見沢　春のツアーの間に一度も髪を切らなかったこと

18. 夏のイベントで印象に残っていることは？

桜井　衣装

坂崎　船酔い

高見沢　強力な肩パッドがとれてしまったこと

19. '90年夏の猛暑をどうやってしのぎましたか？

桜井　秩父荒川村に古くから伝承されている〝避暑踊り・ずでーの舞い〟を踊り続けた

坂崎　行水とスイカ、風鈴

高見沢　レコーディングに熱中していたので、暑さは忘れていた

20. '90年見た映画（またはビデオ）の中でおもしろかったものを教えてください。

桜井　『暴れん坊将軍』しかないでしょう!!

坂崎　『フィールド・オブ・ドリームス』（あ、まだ見てねえや）、『ウルトラQ』、アルフィーのシングル・ビデオ『ARCADIA』

高見沢　『フィールド・オブ・ドリームス』『マグノリアの花たち』

21. '90年よく聴いたCDは？

桜井　M.C.ハマー

坂崎　TUCK & PATTI『TEARS OF JOY』
GARO『GARO』『GARO 2』
小泉今日子『No.17』

高見沢　レッド・ツェッペリン、エアロスミス

22. '90年自分で作った料理はありますか？　あればそのメニューを教えてください

桜井　伊勢エビ汁

坂崎　焼きビーフン

高見沢　ないっ!!

23. '90年個人的にいちばん盛り上がった出来事は？

桜井　F1日本グランプリ

坂崎　言えねえ

高見沢　毎日盛り上がっている。どの日やどの出来事がいちばんとはいえない

24. アルバム『ARCADIA』のレコーディングでいちばん苦労したことは？

桜井　苦労話は語らない

坂崎　休み時間

高見沢　作詞とアレンジ

25. '90年の夏休みはどのように過ごしましたか？

桜井　ハワイでテニス!!

坂崎　言えねえ

高見沢　ボーッと

26. '90年最大の買い物は何でしたか？

桜井　テニスのラケット

坂崎　アオジタトカゲ、イグアナ、オマキトカゲあたりがいちばん大きかったかな

高見沢　最大っていうんじゃないけど、ヨーロッパでおもしろい時計を買った。鍵がついてて フタのあるやつ。けっこう気に入ってる

27. '90年もっともよく読んだ雑誌は？

桜井　GB……ほんとだよ

坂崎　アクアライフ、フィッシュマガジン、GB

高見沢　Newsweekは毎週読んでる

28. '90年健康には気をつけましたか？　たとえばどんな自己健康管理をしましたか？

桜井　お酒を絶やさない

坂崎　塩分控えめ

高見沢　あまり気をつけてません。春に人間ドックに入ったとき〝問題なし〟と言われたので安心してしまった

29. '90年何か新しく発見したもの（こと）はありますか？

桜井　きのう泊まったホテルのビデオは映りが悪い

坂崎　冬のイワナはストリーマーにかぎる

高見沢　けっこう高音まで自分は声が出るんだなと再発見した

30. '90年いちばん感動したこと（もの）は？

桜井　F1日本グランプリ、フェラーリのエンジンの音

坂崎　ニュージーランドの無人島で日本人として初めて野生のムカシトカゲに触れたこと

高見沢　ジミー・ペイジが日本に来たこと

31. '90年個人的に凝ったこと（もの）は？

桜井　『暴れん坊将軍』のビデオ編集

坂崎　ムカシトカゲ、焼きビーフン、ミルクヘビ、カメラ、スイカ、ヒョウモントカゲモドキ、小泉今日子、沖縄の壺屋通り、茶そば、プレコ（ナマズ科の魚）、TUCK & PATTI、ドイツイエロータキシード（たいせいメダカ科のグッピー）

高見沢　F1（桜井の影響）

32. '90年最大の失敗は？

桜井　私の人生パーフェクト

坂崎　ちょっとためらったやさしい兄貴

高見沢　とうとうカラオケで歌ってしまったこと。スタッフと飲みにいって歌わされそうになり、「やめろよ、やめてくれよ！」と言いながらもマイクに手を伸ばしていた自分が悲しい……

33. '90年、自分で変化したなと思うところは？

桜井　おでこ

坂崎　体重、髪の毛

高見沢　性格が多少よくなった……かな？

34. '90年初めて会って印象的だった人物は誰？

桜井　将軍吉宗!!

坂崎　羊の毛刈りの名人（9時間で803頭の世界新記録）

高見沢　多すぎてわからない

35. '90年、使用頻度の高かったものは何？

桜井　ティッシュ

坂崎　言えない、恥ずかしくて

高見沢　ギターと譜面、原稿用紙

36. '90年の『GB』の取材で、印象に残っていることは？

桜井　今回のこのアンケート

坂崎　KYON²との対談でロンドンへ行ったこと（あ、まだ行ってねえか。そりゃ来年だ）

高見沢　①いっしょに撮影した犬がかわいかった
②布にくるまったヘンな写真（はっきりいって私はキライ）

37. 今、興味のあるミュージシャンは誰？

TOSHIHIKO TAKAMIZAWA

桜井　松平健

坂崎　ボヨヨボーイズ、植木等

高見沢　高見沢俊彦

38. 今、気に入っている服装って、どんな服装ですか？

桜井　CXからいただいたF1のジャンパー

坂崎　サイケ

高見沢　自分らしい服装

39. あなたにとっての'90年の3大ニュースは？

桜井　ニュースは見ない

坂崎　①ムカシトカゲ
②髪の毛を立てた、化粧もした
③あとは言えない

高見沢　①日本シリーズでの巨人の惨敗
②セナがドライバーズ・ポイントでワールド・チャンピオンになったこと
③春も秋もツアーのファイナルを大阪でやることができたこと

40. 1991年、実現させたいことは？

桜井　『暴れん坊将軍』に出演し、松平健さんと夢の共演

坂崎　小泉今日子と『ラブラブショー』に出る。あるいはロンドンで対談でもいい

高見沢　刺激的かつ過激な男でありたい

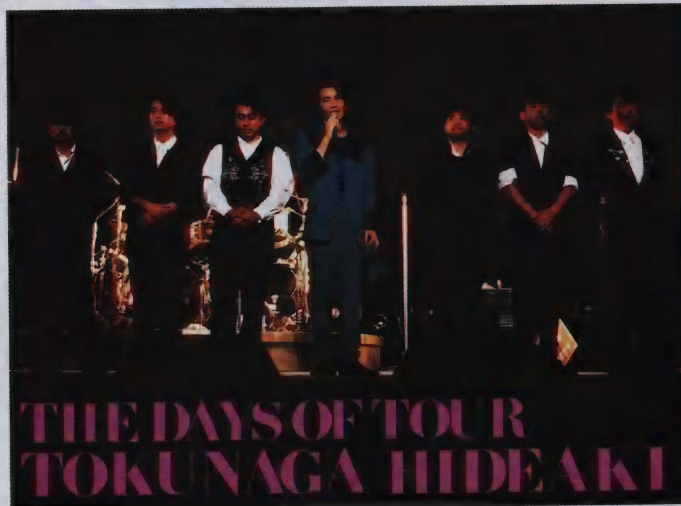
THE ALFEE 1990 SPECIAL Q&A 40

仲間たちとの旅

●圧倒的な存在感を見せながら徳永英明の"JUSTICE"ツアーは現在進行中である。
徳永英明という個人の内側から発せられる輝きがステージの魅力となっていることはいうまでもないが、
バックを務めるバンド"Vasco da Gama"のメンバーとの一体感もまたひとつの見どころだ。
富山でのコンサート終了後、徳永英明とバンドの仲間たちに、今回のツアーについて話を聞いてみた。

撮影●渡辺マコト　文●浜田次郎

THE DAYS OF TOUR TOKUNAGA

HIDEAKI

徳永英明の'90年〜'91年のコンサート・ツアー〝JUSTICE〟はもうごらんになったでしょうか。(Yes？ それなら話は早い) 徳永英明がなんともいえず解放された表情を見せてくれたり、自由に歌い踊る姿がいつもよりたくさん見られるような……。それもそのはず。今回のツアー・バンド〝バスコ・ダ・ガマ〟の面々との信頼関係の深さといったら。徳永英明が新しい一歩を踏み出したその瞬間から、いっしょにコンサートを、その世界を作り始めた仲間たちなのですから。

今回は、富山でのコンサートの打ち上げの席におじゃまして、言いたい放題！ の話をしてもらった。ジョークも皮肉もなんでも言い合えるこの仲間たちと徳永英明の関係をじっくりと味わってもらいたいと思う。題目は〝今回のツアーについて〟。話をした場所は、生きのいい魚料理を食べさせてくれるお店の座敷。見るからにおいしそうな刺身と飲みものがズラリ！ 話よりもテーブルの上のほうに気をとられがちになりそうな状況だったこともあって、かなりリラックスした感じになりましたが、ご了承いただきたい。それにしても、男ばかりがズラリと食卓を囲む感じも、ねえ、なかなかいいものです!?

＊

——まずは、今回のツアーを回っていての感想をうかがいたいんですが。

矢賀部「7月からね……あの一、聞いてるかな、みんな」

一同「(爆笑)」

佐藤「7月からリハーサルが始まったんだけど、曲が多かったから、新しいメンバーは大変だったよね」

池間「そうだね。イベントは本当によくがんばったよね」

矢賀部「だから、今回のツアーに入ってからはなにか安心した感じでできてるってとこ、あるよね」

庄司「うめぇー！ カニうまい」

徳永「あれは、今回のツアーの前ぶれみたいなもので、あのイベントにかかっていたところもあったからね。でもあれだけリハーサルやったの、生まれて初めて」

佐藤「リハーサルの始まる時間はいつも正確なんだけど、終わりは決まってなかった」

——新しいメンバーとして加わったかたにとって、最初の印象は？

後藤「いや、いいバンドだなぁと」

池間「でも、今までずっと音楽を続けてきて、髪の毛を剃ったことなんかなかったでしょ(笑)」

徳永「そのわけを聞きたい！」

後藤「前から計画はあったんだけどね、やっぱ泳ぎたいからやないか」

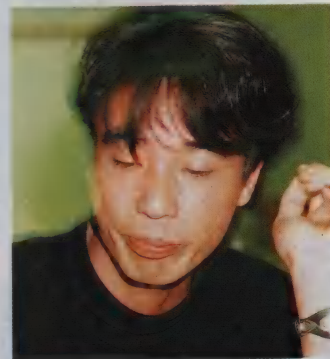
一同「？？？」

——瀧川さんはどうでしたか。

瀧川「僕は完全にサックス奏者としてここにいるわけで、最初はどれくらいの配分で参加していけばいいのかとか、わからなくて」

矢賀部「バンドの人数が以前より二人ぶん多くなるわけで、そのへんのサウンドのバランスというか、それに増えたぶんをどんな形で生かしていくかという……」

佐藤「今の音って、すごく人間ぽくなったというか、ひとつのフレーズにしてもすごい躍動感が生まれてる」

徳永「6人っていう形は、僕は完璧だと思う。以前は人数が少なかったから、ギターはシンセもやらなきゃいけなかったりとかあって。一人がひとつの楽器だけをやるっていう当たり前のことをね、前からやりたかった。そういうなかで、いろんなアイデアがやっとクリアできたりするわけだから」

佐藤「そうそう。だから以前は、アイデアはあっても〝手が足りないからコンピュータにやらせちゃえ〟みたいな、ちょっと投げやりなとこがあったんだけど、今は、誰かがやれるだろうみたいな余裕がでてきたんですよね」

THE DAYS OF TOUR
TOKUNAGA HIDEAKI

瀧川〝GASBON〟浩水 (Saxophone)

矢賀部竜成 (Keyboard)

徳永「みんなが思いきりやれてるからコンビネーションもよくて。僕は人数が多いのは苦手だけど、今の6人の形っていうのは理想だったんだよね。欲をいうと、これにパーカッションと、コーラスを女・男・女とか入れて……」
庄司「うん、いい、いい」
池間「ステージ衣装なんかも凝ったりしてね」
矢賀部「でも、徳ちゃんの音楽に関しては、生のパーカッションよりコンピュータのパーカッションのほうがいいっていう曲もあるよね」
池間「「帰れない二人」とか「最後の言い訳」とかね」
徳永「うん、でも「MYKONOS」なんかはアフリカンぽいというか、人間ぽさが出たほうが絶対いいと思うんだ」
矢賀部「あの曲はやっぱスクエアにやるんじゃなくて、円を描いてグルーブしてる感じが出たら……」
徳永「でも、「MYKONOS」はよくなってきたよね。みんながすごくかみ合うようになってきたよね、6人が。……いつも僕ら、〝あそこよかったね〟っていうところとか間違ったところを、その日のうちに処理するようにしてるからね。コミュニケーションはできてる、プライベート以外は。このあとは仲のいいヤツと悪いヤツに分かれるけど(笑)」
後藤「仲悪いわけじゃないねん」
徳永「ていちゃん（池間さんのこと）、一人ぼっち(笑)」
池間「あのあのあの……」
徳永「サツク（佐藤さんのこと）は家庭に戻るんだよ」
佐藤「ンなことないですよ(笑)」

＊

……と、しばらくちょっとからかってみたりもしながら、話は〝健康〟のことへと続く。

＊

徳永「タバコやめてからは、お酒飲んだ次の日のコンサートでも声は全然問題なくなった」
庄司「ほんと強くなった！」
佐藤「からだ弱いのはおていちゃん！」
池間「すぐ風邪ひいちゃったりとか。だから保険証は持ち歩いてるけど、病院には行かない」
徳永「みんな、国民健康保険？」
一同「はーい」
徳永「オレ、社会保険！　みんなうちの会社に入りなさーい(笑)」
――ツアーに出ると長い旅になることも多くなりますからねえ。(笑)
池間「そういえば、今回のツアーって長い旅はまだ2回だね」
佐藤「まだまだこれからだよね」
瀧川「12月の熊本からが2週間戻れない旅！」

池間史親 (Bass)

後藤郁美 (Piano)

――ところで、徳永クンに最初に出会ったときの第一印象を聞いてみたい。
徳永「みんなおとなしい人だと思ったらしいよ(笑)」
矢賀部「なんか……テレビといっしょだなあって思った」
池間「オレもおとなしい人だと思ったよ、いちばん最初はね(笑)」
徳永「ていちゃんが3年前、イベントに手伝いにきてくれたんだよね。そのとき律儀なヤツと思ったんだよねえ」
池間「えっ、オレが？」
徳永「いっしょにやらない？　って言ったとたん、人間が変わった(笑)」
池間「入ったとたん、なんか……冷たくされてしまった(笑)」
徳永「しょうちゃん（庄司さん）が2年半前。〝DEAR〟ツアー終わってからだから。人生何も考えてなさそうだったから救ってあげようと(笑)」
庄司「いやいや、いたってノーマル」
池間「でもね、あの最初の仕事のときに遅刻して、で、先に帰った人は庄司さんぐらいじゃないの(笑)」
庄司「おめえなあ(笑)」
徳永「それにくらべて(笑)佐藤さんはまじめだったよ。いちばん最初に会ったときから。ほんと」
佐藤「ほんとに？　でも、去年にくらべても、今すごくやりやすいよね」
矢賀部「仲いいよねえ」
佐藤「去年って、コンピュータがストリングスとかシーケンサーで活躍してて、僕としては、人がやることとの間にすごいギャップを感じたんだよね」
池間「でも今年は、コンピュータ使ってても楽だよね。なぜだろうね」
佐藤「やっぱり勝ってるんだよ、人間の精神的な部分がね」
――いろんなことが内側から変わってきている？
徳永「大人になってきてるってことかもね、いろんなことが。でもね、いちばん大人なのは庄司さんなんですよ。うん、それだけは言っておかないとうるさいからね」
一同「(爆笑)」

庄司和敬 (Guitar)

佐藤邦治 (Drums)

アナタノナヤミニ
オコタエシマス！

「米米CLUBのここが知りたい！」日ごろ心の中でモヤモヤしていたアナタの疑問。
GB12月号で募集したこの企画に参加してくれたハガキ総数462通。
その中から選び抜かれた10人の質問に、
グループ代表カール様とシュークのおふたりが、お答えすることにいたしましょう！

KOME KOME CLUB

CARL SMOKY ISHII/SUE CREAM SUE

撮影●大川直人　文●高田秀之

Q&A

質問その1▶デビューして6年目の米米ですが、当時からみていちばん変わった面と全然変わってないところは？（徳島県・S・みちよ）
石井　やっぱり、賞を期待するようになったってとこでしょうね。大賞を取りたいとか、賞状をもらいたいとか、そういう欲っていうか、ちょっとしたプロ意識が芽生えてきましたよ。
——なんか、時節がらって気もしますが？（注・この取材は11月28日、レコード大賞部門賞発表の日に行なわれた）
石井　ちょっと欲が出ちゃいましたねえ。ある意味で本物になってきたってことでしょう。
——それは本物なんでしょうか。（笑）
石井　本物ですよ、ええ。あと、ミナコなんて袴を自分ではかなくなりましたね。（命令口調で）ハイッ、て。手を伸ばしたまま何やってんだろうと思ったら、お付きの人に袖をとおしてもらってたり。すごいですよ。「おぬり、おぬり」って言うから、なんだろうって思ったら、マニキュアをお塗りってことなんです。
ミナコ　ウソだー。（笑）
石井「昼もおぬり」って。全部おぬりでいくの。ほんとですよ。
——（笑）じゃあ、変わらなかったところというと？
ミナコ　こういう、おにいちゃんの性格じゃないですか。
石井　そんなことないよ、お前！
ミナコ　適当なことを言うところじゃないですか？
石井　まあ、変わらないところといえば、やっぱり。
ミナコ　少年の心を持ってるとかね。
石井　そう、それはあるね。目も、少年のようでしょう。そういうところはしょうがないですよ。いいものっていうのは変わらないですから。ただ小ジワがね、ちょっとこのごろ増えてきたかなって。たまごの白身でパックしたりするんだけど、朝になるとバリバリになってるんですよ。（笑）

質問その2▶最近いちばんうれしかったことと、イヤだったことを教えてください。（山形県・H・亜弥子）
石井　頭にきたのは、このあいだ風呂に入ってたら、1cmぐらいのゴキブリがいたんですよ。こんな大きなゴキブリが歩いてきて、風呂桶にチョコンて落ちたの。出られないんですよ。逃げると波が立って体に寄ってくるし、それでしばらく悩んでたんですよ。
ミナコ　1cmなんて小さいじゃん。
石井　俺としては大きいの。
——ゴキブリが口から出てくる映画を喜んで見てる人には思えませんね。
石井　人のやつはいいの。自分のときはもう、息を出すのもヤだね。でも、いいことがひとつあったから。これはうれしかったね。ここ2年くらいでいちばんうれしかった。石鹸って小さくなるじゃないですか？　でも、捨てるにはもったいないし、どうしようかなーと思って。それで、もう一つとっておきの石鹸があって、真ん中がちょっとくぼんでるんですよ。そこにポンと置いたらぴったりはまったんです。
ミナコ＆マリ　（爆笑）
石井　それが、うれしくてうれしくて。4日ぐらいニコニコしてましたね。（笑）上にのせたやつが透き通って、レンズみたいできれいなんですよ、これが。
ミナコ　あたしは、最近あるお店で松任谷由実さんに偶然会ったんです。（笑）ちょっとお話してもらって。高校生のころよく聴いてたから、うれしかったですね。あがっちゃって、足がガクガクしちゃった。
マリ　私は、ミナコちゃんから誕生日にかわいいマフラーをもらったんですよ。すっごく気に入っちゃって、それがいちばんうれしかったな。
石井　俺、なんにもあげてないんです。
ミナコ　自分はすっごくいいの、もらったんですよ。
石井　ちゃんと考えてるから、大丈夫。
ミナコ　頭にきたことは、ないから。
石井　嘘つけ！　いっつも頭にきてるような顔して。（笑）すごいですよ、ふくれっつら。「お兄ちゃんはいいけど」なんて言っちゃって、おふくろにそっくりですよ、怒り方が。「やだわー」なんていい言い方も、そっくり。
ミナコ　そういうこと言ってるから、しょっちゅう頭にきてるんですよ。

質問その3▶将来つきたかった職業はなんですか？（静岡県・F・雅子）
ミナコ　子供のころは保母さんとか、そういうのになりたかったような気がする。スチュワーデスとか。
マリ　そうですね、スチュワーデスとか、あと自分が習ってたから、ピアノとかマリンバの先生とか。
ミナコ　ああ、歌手もありましたね。よくアイドルの真似して歌ってました。
石井　僕はあんまり考えたことがなかったですね。絵が好きで、絵に夢中になってたけど、絵描きさんになりたいってこともなかったしね。
——学校で「将来何になりたいですか」って質問されませんでしたか。
石井　戦争の人って言ってましたね。兵隊って言葉がわかんなかったから。制服みたいなのが好きだったからでしょうね。制服のイメージが。

質問その4▶シュークリームシュの衣装は全部石井さん一人で考えてるのですか？（奈良県・O・美貴代）
石井　そうなんですよ。あんなものを着せるのは、僕しかいませんから。
——全部一人で？
石井　いやー、見せてあげたいぐらいですよ。仕上がりまで僕がやりますよ、生地選びから、何から何まで。
——そういうの、昔から得意だったんですか？
石井　やる人がいなかったから、俺がやってたんですよ。そのうちできるようになっちゃって。なんでもそうですよ。趣味が高じて職業になっていく。一生懸命にやってると、あとでなんとかなるもんでしょう。夢中になるっていうのが大事ですよね。
——今まででいちばん気に入ったデザインというと？
石井　キノコですね、シュークリームシュの。あれは僕の傑作だと思います。
——一回使った衣装はどうするんですか？
石井　汗もかくし、特殊な形のものが多いんで、クリーニングにもなかなか出せないんですよ。そうなると、どうしても捨てちゃいますね。
——もったいないですね。
石井　でも、しかたないんだよね。残しておくにはかさばっちゃうし。

質問その5▶私は今年、大学受験なのですが、行きたい大学がまだはっきりしていません。文化学院とはどんなところですか？　そこで培ったものは、米米CLUBにどう生かされているのでしょう？（埼玉県・I・聖美）
石井　米米ＣＬＵＢは100%文化学院だと言っていいでしょう。あそこは校風がものすごく自由だし、どっかの大学みたいに「お前、単位が足りないからがんばれ」とか、いっさい言われないんです。まあ、やらないヤツはどんどん置いていかれますけど。やりたい人はやんなさいっていう、そういう教育ですね。
——振り返って、変な学校だったなと思うんですか？　それともいながらにして、これは変だと？
石井　行ったときのインパクトがすごかったですよ。みんな個性的だし。100パーセント自分が没頭できることが、やっぱりいちばんいいんだって思い知らされた時期でしたね。眉間に皺よせて、俺は絵描きだのなんだのいっても、しょせんはしかたないんだと。基本的に、好きだってことが根本の才能なんだって教えてくれました。
——他の美術系学校と比較してみると？
石井　ウーン、全然違いますね。洒落

てましたよ、先生とかも。センスよかった、すごく。芸術評論の時間なんて、黒澤映画をポーンと見せるんですよ。それで2時間たって、「はい、今日はおしまい」って。次の週に「このあいだの映画で何がいちばん頭に残っているか」って聞くんです。で、僕はこのシーン、俺はあのシーンって言って、そのシーンを見ながら「ここはこういう構成になってる」って説明してくれるんです。あと、もう一つ画像をもってきて、「これはどうだ」って。「ピンとこない」ってみんなが言うと、「そうだ、じゃあ、なんでピンとこないか教えてあげよう。これはちょっと構図がズレてる、見てごらん」って教えてくれたり。

──古くさかったり、もったいぶったりしないんだ。

石井　うん、そんなんじゃない。だから、米米CLUBがあの学校でできたといっても過言ではないでしょうね。

質問その6▶てっぺーちゃんが今までやったいたずらで、いちばんひどかったのはなんですか？（北海道・T・春美）

石井　あれですね、トイレの紙をグチャグチャにして、走ってる車に向かってビシャンと投げつけるんです。そうするとフロントガラスにバーッとはねあがって、驚いて止まっちゃうんですよ。(笑)子供のころ、2階の窓からよく投げてました。(笑)

質問その7▶歌番組以外のTV出演の話があれば、どういうジャンルの番組に出演したいと思いますか？（高松市・T・都代）

石井　「朝まで生テレビ」みたいなのに出演して、「石井さん、どう思いますか」って聞かれて「うーん、くるぶし」とかワケわかんないこと言って、グジャグジャにしてみたいですね。「バカですから」なんて言っちゃったり。

──トーク番組とかバラエティはどうですか？

石井　あんまり興味ないですね。でも〝ねるとん〟には出たいと思うな。おもしろそうじゃない？　あそこに出てですね、女性攻略のノウハウをAからZまで教えてやろうと。(笑)

質問その8▶ライブでの石井さんのしゃべりは、全部自分で組み立てて暗記してるんですか？　それとも大まかなところだけ決めて、あとはアドリブなんですか？（昭島市・K・千恵子）

石井　あ、そうです。大まかなところだけ決めて、あとはアドリブです。

──要所要所を決めるという感じ？

石井　そう、だから毎回違いますよ。地方色を盛り込みながらね。演歌歌手みたいですよね。(笑)

──全部決めちゃうとつまんない？

石井　つまんないです。失敗もまたライブだと思うんですよ。醍醐味ですね。

質問その9▶コンサートが日を増すごとに凝ってきていますが、これからもまだまだ最高のステージを作ろうと思っていますか？（北海道・N・繭子）

石井　まだまだまだまだ、もう、やりたいことだらけなんですから。どうしていいかわからないぐらい、出てきてしょうがないんです。でもお金がね、どうしたってかかることだから。これはできない、あれはできないで、ずいぶんカットしちゃいますからね。そういったところで、やりたいことはいっぱい残ってますよ。

──ステージをやって儲かるんですかっていうハガキも来てましたけど。

石井　儲かんない、儲かんない。お客さんのチケット代は全部ステージの上にあると思ってください。

──来年のステージなんかもボチボチ考えてますか？

石井　もう、もう。4か月くらい前から考えてますよ。すでに進行してます。

──だいたい何か月ぐらい前から考えるんですか？

石井　半年前ですね。6か月前に構想が決まって、あとはそれに向かって動く。だから、そのコンサートをやってるうちは、もう次のコンサートのことが進行してるんです。

──どのくらいの時期がいちばん大変ですか？

石井　今ぐらいの時期ですね。今回はステージとかけもちじゃないからまだいいけど、たとえばディナー・ショーとかが入ってたりすると、人のメイクしながら「次のステージ・セットはここをこう、形変えて」って打ち合わせして、ステージでは「それじゃあ、みなさんどうもありがとう！」ってやってる。(笑)でステージが終わると、また「じゃあ、次の衣装はこうして」って生活ですからね。(笑)いろいろ物ができてくると、それのチェックも入るし、近ごろはポスターまでやらせていただいてますし。ああいうのをやると、スタッフの大変さがわかりますよ。4人分ぐらいやってるかもしれないね、俺。でもね、ビジュアル・センスって一定じゃないとつまらないんですよ。みんなにふっちゃうと、できあがったものがバラバラになって、なんだかごった煮になっちゃう。俺なら俺がピシッとやったほうがいいみたいですね、うちみたいなとっちらかったバンドは。

質問その10▶ものすごーく頭にきたときはどうしますか？（神奈川県・S・かおり）

石井　買いまくります。すごいですよ、ポンと店に入って「こっからここまでのセーター、全部くれ」って言うんです。(笑)で、そのセーターを道に敷いちゃって、その上を歩くって。それぐらいやってますよ。

──たいてい洋服ですか？

石井　あと、LDを買いまくっちゃったりしますね。忙しくて、自分自身のことができなかったりするとね……あ、発散方法、もう一つあった。風呂の湯をね、いっぱい溜めるの。小指をちょっとつけたら、タラーって湯船からこぼれるくらい。(笑)そこにドブーンって一気に入って、ドブンドブンドブンって500回くらいやるんです。(笑)お湯が底のほうまでなくなるぐらい。これを暗いところでやると、すんごく気持ちいいんです。(笑)僕の儀式ですね。

好評連載!! フラッシュ金子の告白の日々

なぜか12月はあわただしい。毎年のこととわかっていても、今年はSPECIAL忙しい気がする。秋の余韻を楽しむことすら忘れて、米米CLUBのニュー・アルバム「K2C」に没頭している最中、なんだか〝別のほう〟も、盛り上がってきてしまった……。

BIG HORNS BEE。米米CLUBのライブを見たことのある人には、言わずと知れた音の要ともいうべきホーン・セクションだ。

1984年、つまり米米CLUBのデビューするちょうど1年前。東京のライブハウス「鹿鳴館」で、はじめてセッションをして以来、ずっと今に続いているから、もう6年間もやっていることになる。その間、少しずつスタジオの仕事や、ライブのセッションをこなしてきた。みんなが知っていそうなとこで、〝レベッカ〟や〝パール〟、最近では、〝B.B.キング〟とのセッションや、相原勇のアルバム、デ・ラ・ルスのゲン太のバンド〝カジーバ〟とのレコーディングなどをこなしている。

1988年には米米CLUBの持つインディーズ・レーベル、BORN SIGH RECORDから12インチ・シングルとシングルCDを出したが、企画色が強すぎて、自己満足に終わっている。

そして、今、再びリハーサルを開始しているのさ。内容はヒミツだけど、近々みんなの目にとまることもあるかもね。

んー、なぜか、12月はあわただしい。娯楽提供集団・米米CLUBは、来年に向けての地下活動を忙しく行なっております。期待しててね。

●GB YEARBOOK '90-'91　お詫びと訂正

12月4日に発売しました「GB YEARBOOK '90-'91」の米米CLUBのページに間違いがありました。ファンの方々と米米CLUB並びに関係スタッフの方々に大変ご迷惑をおかけしたことをここに深くお詫びし、以下のとおり、傍線部分を訂正させていただきます。

P.77　シングル「Shake Hip!」の発売は12月12日。プロモーションVTR録りが行なわれた「ピーピング・トム」のシングル発売の予定はありません。

P.173　カールスモーキー石井の血液型はO型です。

P.174　フラッシュ金子の出身地は千葉県佐倉市。ファンクラブ・カムカムクラブの入会方法は、62円切手同封の上、〒150 東京都渋谷区恵比寿西2-14-5 WEST214〝カムカムクラブ入会希望係〟まで郵送して、入会案内書請求の手続きを行なってください。詳細は☎03-780-1013（入会案内インフォメーション）へ。また、デビュー曲の「I CAN BE」シングル「PARADISE」、アルバム「KOMEGUNY」の表記をここに訂正いたします。

愛の融合。

CD未収録の、秘蔵"スイート"ナンバーを、
新アレンジで新録音(うち4曲は新曲)、さらに
初回プレスは、3曲入り8cmCDをカップリング。すごいわ。

KOME KOME CLUB / K2C
'91.1.25 ON SALE

ベストを超えたスーパー・ポップ・アルバム 米米CLUB/K2C

[曲目] I·CAN·BE/Peeping Tom/FUNKY STAR/
En mi corazon (ORIGINAL TRACK : RECORDED AT TOKYO BAY NK HALL, MAY 1989)/
Troubled Fish/KOME KOME WAR/Paradise/Simple Mind/
Sûre Dance/Transfer/STAY/Just U 全12曲
(初回プレスのみ3曲入り8cm CD付き Kick Knock/2much 2ist/Co-Conga)

■特別仕様"そそりたつ愛のギフトボックス"入り(初回プレス限定CD)
●CD:CSCL1625～6 税込定価¥3,200(税抜価格¥3,107)
●CA:CSTL1627 税込定価¥2,800(税抜価格¥2,718)

■通常仕様CD:CSCL1627 税込定価¥2,800(税抜価格¥2,718) 2.1 ON SALE

ニューシングル『Shake Hip!/Kick 2much Conga』
●CDシングル:CSDL3211、CAシングル:CSSL3211
各税込定価¥800(各税抜価格¥777) NOW ON SALE

米米CLUBディスコグラフィ)
シャリシャリズム('85.10.21) I·CAN·BE 他全10曲 CD:32DH468
E·B·I·S ('86.10.10) Troubled Fish、STAY 他全10曲 CD:32DH534
KOMEGUNY('87.10.21) 浪漫飛行、Sûre Dance 他全10曲 CD:32DH823
GO FUNK('88.9.21) KOME KOME WAR 他全15曲 CD:32DH5117
5½('89.11.11) FUNK FUJIYAMA 他全14曲 CD:CSCL1031
SINGLES('87.6.21) Shake Hip! 他全7曲 CD:28DH686

NEW VIDEO「Sharisharism Art Work」
'91.2.21 ON SALE

CBS/SONY RECORDS
CBS SONY

高野寛を追え!!

HIROSHI TAKANO

Chase!!

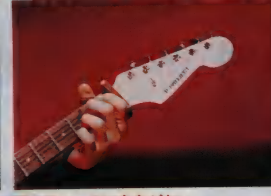
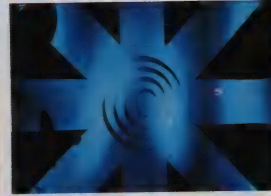
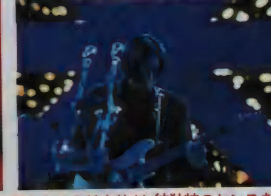
仙台電力ホール・レポート

●上野駅から始まる、はずの追っかけレポート。が、発車1分前になっても今日の主役が現われない……。ホームを捜すマネージャーH氏。かなりあせるスタッフ……。と、そこに走ってきた高野クン。こうしてこの日の密着取材は始まったのでした。

PHOTO●MAKOTO WATANABE　COPY●TOMOSO NONAKA

“タカノクンが来ない”。ホームを捜すスタッフやメンバー。発車のベル、ギリギリに現われた高野クンを見つけてホッとしたのでした。新幹線の中でもタクシーの中でもCDウォークマンを離さない高野クン

本日のお弁当は仙台名物の牛タン。食後のデザートはやはり仙台といえばこれです、の“萩の月”。仙台に来たミュージシャンは必ず食べる、カスタードクリーム入りのお菓子です

一段落すると、さっそくギターを弾き始める高野クン。ギターを抱えた彼はあたりまえだけど本当にうれしそうで、見ているこちらも思わずニコリ。合間のサイン書きも忘れない。そしてひと眠りも

いよいよ音出しが始まる。細心の注意を払って入念に行なわれるサウンド・チェック。高野クンも足元の膨大なエフェクター類のチェックに余念がない

４時30分。ずいぶん遅れてリハーサルはスタートした。ギタリストとしての高野クンもすてきだけれど、ボーカリストとしての彼もとても魅力的だ。彼独特のセンスを持ったメロディーと声の相性はぴったりだ

新幹線が発車するギリギリの時間に、この日の彼は飛び込んできた。それもホームを走らなかったら、本当に間に合わなかったというぐらいの危機一髪でもって。めずらしいよね。私たちの印象はこんなふうだ。高野寛と遅刻というのはなんとなく結びつかない。げんに、スタッフでさえもが「こういうのは、初めてですねぇ」なんて、さっきまでの冷や汗顔をホッとさせながら言っている。席には、やっぱりホッとした表情の彼がいる。“めずらしいですね、遅刻ぎりぎりなんて”そう言うと、「へたに車に乗ったのがまずかった」と悪びれない顔だ。おまけに、その顔にもめずらしく不精髭がうっすらと。それもなんとなく意外である。

＊

本当は、すべてが彼自身であるはずなのに、見る側のイメージなんてものがある。高野寛は、“そうではないはず”。不思議な話だ。おまけに勝手な話でもある。それが音楽の話になると、そしてイメージが一人歩きをしそうになると、高野寛はひそかに、大胆な抵抗を試みる。むきになる。それはそうだ。音楽という彼自身を誤解されるのは、きっとたまらないことなのだろう。

＊

新幹線は仙台へと向かっている。11月１日からスタートした“ベステンダンク・ツアー”は、彼の中ではまだ「始まったばかり」という印象だ。

「いちおう各地とも盛況で。(笑)たぶん前回のツアーに比べたら、できの平均点はすごく上がってるでしょうけど……」と、表情がそのあとの“でも”を続かせる。でもまだ彼の中の理想に届かない、と。

「なかなかね……、みんな理想の水準があがっちゃったから。バンド全員が納得するできって、むずかしいんですね。こう、曲を覚えるまでにいくつか段階があってね、まず間違えないように演奏できるとか。そのあとはなるべく歌詞のアンチョコを見ないでやるとか。で、曲順やそういう手順がようやく身についたところで、その手順を超えてやっていかないと……。ツアーのイメージみたいなものは、曲やアレンジを変えた時点でほぼ見えてるんです。あとはその流れにいかに入れるかっていう……。むずかしいですね。ただやってるっていうのと、気持ちよくやるっていうのは全然違うと思うから」

新幹線の隣りあわせのシートで話す彼は、いつものように何かを追っている状態だ。彼の中のイメージにたどりつけるかどうかは彼にしかわからない。

窓の外の景色は流れて後ろに行き、新しい景色を迎え入れる。後ろのシートではバンドのメンバーがのんびりと、眠ったりくつろいだり。

ツアー中に通り過ぎる街。たいていホテルと会場だけで終わってしまうのが常だけれど、彼はよく早起きをしてはホテルの周りを散歩するという。新幹線の通っていない街っておもしろいんです、と新幹線に乗りながら話す。

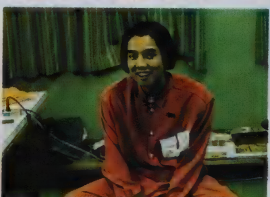
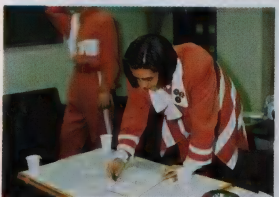
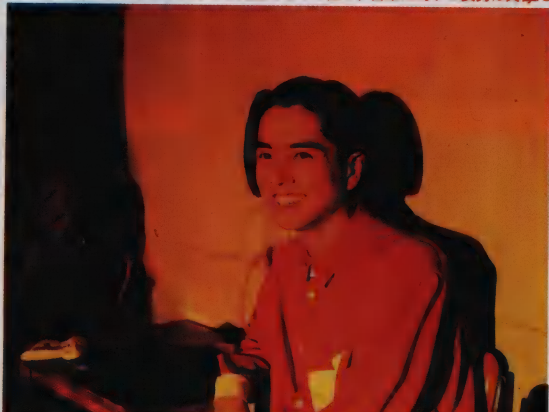
「新幹線が通ってる、わりと大きな地方都市ってけっこう東京に似てたりするけど、そうじゃないところはまだ独特の文化が残っててていいんですよね」

駅に着き、そこからわずかの時間車に乗って、会場である電力ホールにつく。その通路を歩くときにも、CDウォークマンで音楽を連れて歩いている。

＊

控え室のバンドは静かだ。彼が買ったギター用のエフェクターの箱をメンバーが見つける。「また買ったの？」「うん、ツアー用に」と彼。静かなのに、へんな緊張感が流れているわけではない。自然に、ただゆるやかに時がくるのを待っているという感じ。「いつもこんなもんですよ」と、スタッフの人。バンドによって、同じ場所はいろんな空気に染められる。

リハーサル中の彼はときどきメンバーと顔を見あわせてほほえんだり、緊張の中にもリラックスした表情を見せる。でも、ちょっとでも気になるところがあると何度でもやり直す。音楽に対する姿勢は真摯だ

初公開。高野クンのサラサラヘアの下は……実はカリアゲになっていたのでした。〝この帽子かぶって出ようかな？〟

お疲れさまでした。ステージのあとの充実の笑顔です。２時間15分の長いステージ、ホントにごくろうさまでした

本編とアンコールの間。ステージのソデで出番を待つ高野クン

決めごとばかりのコンサートはいやだから
多少デコボコでも問題提起しながらやってる

Chase!!
HIROSHI TAKANO

４時すぎから、音出しが始まった。「タカノサン、イキマス」のスタッフの声で、彼がギターを持ってステージに現われる。足元に並んだエフェクターを確かめながら、ギターごとに音をチェックしていく。生ギターを抱えてうれしそうにフレーズを弾きはじめると、ドラムがそれに同調してくる。けれど、音のチェックがうまくいかずにスピーカーからの音はとぎれる。

「せっかくやろうと思ったのにぃ」と残念そうに笑った。ギターに合わせていろんなフレーズ、音を奏でていく彼は、ギタリストといった顔で、ふとデビュー前にバンドのギタリストとしてステージに立ったときの真剣な彼を思い出した。他のメンバーの音をチェックする間も、ギターを抱えてなんとなくゆらゆらとリズムをとっている。

「今回のステージは全部まぜてやってるんですよね」と言う。動と静。緩と急。いろんな流れが混じり合う。

「流れがいっぱいあるぶんだけ、前半が緊張感を保てると後半が雑になったり、出だしが悪いと後半持ち直したりと、なかなか完璧にできなくて。そこがくやしいところではあるんですけど。だからこそ、短期間のツアーじゃなくてよかったという気はしてますね」

最近のコンサートにありがちな〝お決まりの〟流れ。そんなものをある意味で拒否した作りをあえて彼はこころみる。曲のアレンジも、のせるためというよりは、彼らの実験願望を満たすための変身であったり。

「流れに関しても相当デコボコしてたりするしね。かなり……ある意味じゃ問題提起しながらやってるっていうか。なんか今、普通の、あたりまえのコンサートが多いでしょ、決めごとばかりで。出てくる音もレコードと同じ……と思うと、テープが回ってたり。そういうやり方もあるかもしれないど、オレはやっぱり失敗も含めてライブだっていうのが今のツアーの基本なんですよ。自分のためにもね。うーん、やっぱりみんなプレイヤーでもあるし、リスナーでもあるんですね。だから自分が聞いて楽しめるものっていう観点になってきてるんですよね」

ステージではさまざまな音のチェックが行なわれる。ドラムの音のひとつひとつ、シンセの音のひとつひとつ。しばらくしてからマイクで声が流れる。「今までバタバタしてましたが、リハーサルいきたいと思いまーす」

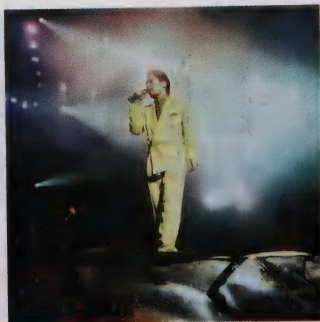
今までステージの様子を見ていた私はあっけにとられた。今までのは単なる〝音の確認〟で、これからが〝リハーサル〟。そしてやっと各パートがきちんと揃った「ベステンダンク」が始まり、ボーカリストの彼が現われる。くぼみに落ちたり、と歌う彼は、くぼみだらけの境界線に、ある意思できちんと立っている。

＊

「リードボーカルでステージに立つ位置って……」と彼は話す。ステージの上で自分がどんな空間にいる感覚なのかを聞いたときだ。「ステージの後ろと客席のちょうど真ん中なんですね。だから背中でバンドの音を聞きながら、お客さんを見てっていう。どっちにもいないんですよ。ステージにも客席にも」

その境界線上で歌う。ちょうどそのあたりにいられるのが一番いい。たとえばバンドの演奏にひきこまれすぎたり、前にのめりすぎたらそのバランスが崩れる。「お客さんにはね、素直に見てもらえればいいですね」と。

＊

リハーサルが終わった楽屋に戻ると、思いのほかなごやかに談笑する彼とバンドの姿があった。音を出したことによって、みずからが活気づいたような、バンドの細胞が目覚めたようなそんな空気。今日は、ステージと客席の間の、どのあたりに彼は立つのだろうか。

稲垣潤一 SELF PORTRAIT

CONCERT TOUR '90

5月11日、市川市民会館から始まった半年にもおよぶツアーは、11月16、17日の武道館で幕を閉じた。ボーカリスト・稲垣潤一のすばらしさを、改めてみせつけてくれたステージの模様を、どうぞ──。

PHOTO●KEI SUZUKI　COPY●YUKO NOHJI

11月16、17日。春から始まったJ.I.〝Self Portrait〞ツアーのファイナル公演が、日本武道館で行なわれた。ツアーの始まりが延期になってしまったときは心配したけれど、いったんツアーが始まったら、さすが稲垣さん。ファイナルまでパワフルな全力疾走を続けてくれた。昨年、ツアーの中盤にカゼで体調を崩してしまったとき、稲垣さんは、これは自分の体をもっと大切にしろっていう戒めだと思ったという。去年その話を聞いたとき、なんて自分に厳しい人なんだろうと驚いた。そして、今年のツアーでは、より自分のコンディションに気を配っていたに違いない。稲垣さんが、私たちの目に見えないところで、どんな努力とか苦労をしているのかは知ることができないけれど。より自信に満ちたこの夜のステージを見ていれば、わかる。稲垣さんにとって、1990年がまたしても大きな前進の年であったということが。

広いステージの上に、クリーム色のスーツに身を包んだJ.I.が登場する。もちろん、TOPICSの面々も一緒だ。オープニング・ナンバーは「夏が消えていく」。遠くに行ってしまった夏を思い出して、少しせつなくなる……。こんなスローなナンバーを最初にもってきて、大会場のお客さんの心をつかむこと。それはシンガーの側にしてみればとてつもないパワーを要するものじゃないかと思う。でも、J.I.はそれができる数少ないシンガーのひとりだ。武道館いっぱいのオーディエンスの心が、ステージ上の彼にすーっと引き寄せられていくのが、手にとるようにわかるもの。続いて「心からのオネスティー」、そして大滝詠一のカバーである「恋するカレン」。ゆるやかな階段を一歩ずつ上っていくような、心地よい高揚感に体が包まれていく。

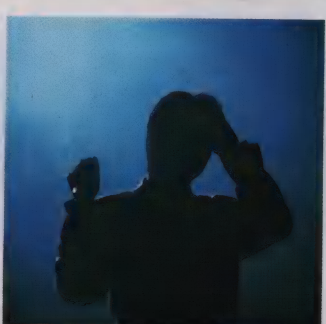
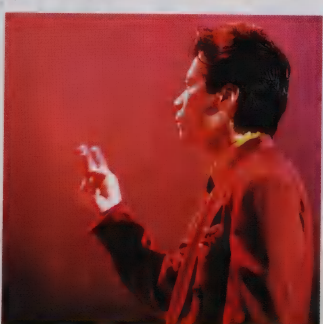
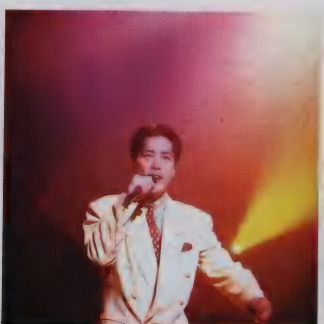
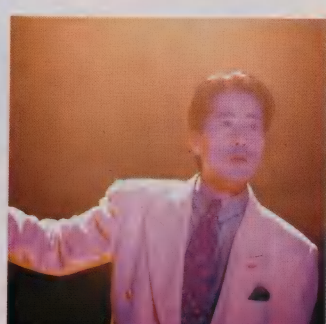
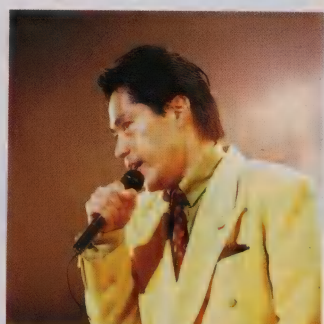
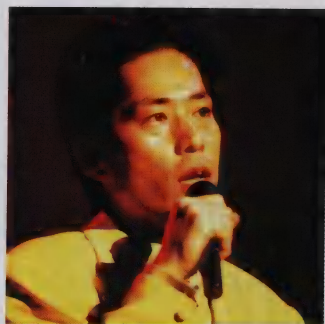
「どうもありがとう!」

元気だ。なんだかとっても張り切ったあいさつ。去年から〝こんばんは、稲垣潤一です〞という、おなじみのあいさつをやめたんだそうですが……。

「だって、稲垣潤一のコンサート・チケットを持って、稲垣潤一のコンサートに来たのに。まさかステージで稲川淳二さんが歌ってるとは思わないですからねえ」

と、稲川……じゃなくって稲垣さん。でも、やっぱりご本人もあれがないと落ち着かないらしい。てなわけで、今年からまたもや復活。

「改めまして、こんばんは。稲垣潤一です」

えへへ。なんかやっぱり落ち着くわ。日本の正月は門松だ、みたいなもんで

すかね。大きな拍手。
続いては、お楽しみ！〝踊る稲垣〟のコーナー……なんて、すみません。去年〝夜ヒット〟に稲垣さんが出演したときに、新聞の番組欄にそう書いてあったのが妙に印象的で。実際は、歌うJ.I.の周りで、女性ダンサーがいっぱい踊っているというものだったのだけれど。その当日の朝、新聞を見た稲垣さん自身もたまげたそうだ。以来、私はコンサートでJ.I.のダンス・ステップが見られるセットを〝踊る稲垣〟コーナーとひそかに呼んでいる。1曲目は「蒼い追憶」。ファースト・アルバムからの懐かしいナンバーに歓声がわきおこる。そして「JAJAUMA」、「トライアングル」、「Jの彼女」、「恋のプラネット・サーカス」。左右にギター&ベースを従えて、稲垣さんは楽しそうにステップを踏む。ツアーが始まったあたりではまだぎごちない感じもあったけど（そこがいいのよ、という意見もあり）、ファイナルでは余裕たっぷり。華麗な〝踊る稲垣さん〟なのだった。バックにはアルバム・ジャケットを思わせる観覧車のイルミネーションがチカチカと輝く。今回のツアーは、アルバム・ジャケット～ツアー・パンフ～ステージのビジュアルが、微妙にシンクロしているというのも、印象的だ。そういえば、J.I.の衣装も、アルバム・ジャケットのようだしね。
このツアーではおなじみなのだけど、「恋のプラネット・サーカス」で、裏打ちの手拍子ができないお客さんがいるという稲垣さんの指摘により、このコーナーの終わりに裏打ち拍手講座がある。〝ンチャ、ンチャのチャで手を叩けばいいんです〟と、稲垣さんの指導のもとに、ギターのカッティングに合わせてもういちど手拍子。この日もやったのですが、ファイナルで、「恋のプラネット……」を歌い終わったあとだっていうのに。この練習はどこに活かせばよいのか……などとくだらないことを考えたのは私だけでしょうか。
続いては「Everyday's Valentine～想い焦がれて」。ここからは名曲でせめまくるバラード・セット。本当に、もう名曲ばかり。「唇を動かさないで」、「Long After Midnight」、「夏の行方」、「だけど悲しくて」。何重ものスポットライトが、J.I.の立っている場所で溶けあう。
MCで、長いツアーのエピソードをひとつ聞かせてくれた。新幹線のホームで、行き交う人や売店のおばさんたちが、稲垣さんのほうを見てヒソヒソ言っているんだそう。その中のひとりがつかつかとマネージャー氏のところにやってきて、「あの方は、宍戸錠さんですか？」……宍戸錠。当然、間違われたわけですが、稲垣さんではなく、TOPICSのメンバーのことを指していたわけです。「さあ、TOPICSの宍戸錠は……!?」稲垣さんが言うと、ドラム・ロールが。うーん、お茶目なバンドだ。さて、正解は誰でしょう？
『Self Portrait』の中から、初期J.I.路線を思わせる哀愁のバラード「いちばん近い他人」。スケール感のある曲を、ここまで〝大きく〟歌えるシンガーはJ.I.以外にはいない。彼の歌に聞きいっていると、広い武道館がさらにぐーっと広くなっていくような気がする。「君らしくない」、「この空」と、最新アルバムからの曲を、続けて聞かせてくれる。
いよいよラスト・スパートだ。J.I.のドラム・セットが登場する。すでに、ご存じの方も多いはずだけど、今回、ドラム・セットの登場のしかたがすごい。今までも、ドラム・セットの出方は毎回話題になっていたけれど、ツアー初日に初めてこれを見たとき、私は〝J.I.はモトリー・クルーを超えた！〟と思ったのである。ちなみにモトリーは、ドラム・セットが宙吊りになって上方でクルクルと回る。
J.I.のドラム・セットは、左右から半分ずつ出てくるのである。バスドラのところからまっぷたつに割れていて、それがすーっと出てきて真ん中でドッキングするわけだ。一瞬の間を置いて、客席から〝オーッ!!〟という声があがる。まるでマジック・ショーのような反応。そんなこと、いったい誰が考えたのかって？　稲垣さんだそうです。ドラム・メーカーの人も驚いていたとか。そりゃそうでしょう。ふたつに割れて出てくるバスドラは音が出るのかどうか、気になってしまう人もいるかもしれませんが。さすがに鳴らないそう。バスドラの音はサンプリングか何かを使っているそうです。ドラムを叩きながら歌うのは「君は知らない」、そして「君に逢いたい午後」。踊るJ.I.と、叩くJ.I.。これを見ないと、なんだか年が越せないんだわあ♡
メンバー紹介、そしてしっとりとしたナンバーでラストが飾られる。「Yes, She Can」「Shine On Me」。ヒラヒラッと手を振って、J.I.は姿を消す。この手の振り方、好き。ちょっとぶっきらぼうな感じだけど、すごくあったかくて。稲垣さんらしいと思う。
アンコール。やはりアルバム・ジャケットを思わせる、ワインレッドのスーツに着がえてJ.I.は姿を現わした。
アンコール・ナンバーは「1969年の片想い」。自分の部屋で、そして街の中で、もう何度も何度も聞いた曲だ。でも、決して色あせない。他の曲もそうだけど、J.I.の歌は色あせない。
「いつも僕は歌と闘っている」
稲垣さんがいつか言った言葉。彼のステージを見るたびに思い出す。銀の食器は使わないで放っておくと、すぐに黒ずんでしまう。いつもピカピカに磨いていれば、いつまでも輝き続ける。そういうことなのかな、と思う。自分の歌を大事に磨き続けている人だ。
「ひと足早い、僕からのクリスマス・プレゼントです」
そう言って歌った最後の曲は、新曲の「メリークリスマスが言えない」。冬の夜を思わせる照明と、バックにキラキラ輝く電飾の星空がきれいだ。ステージの上が、まるで雪の降り積もる街角のように見えた一瞬だった。

ROSY ROXY ROLLER

2nd ALBUM★1991·1·21 RELEASE

CD·TECN-28073 ¥2,800(税込) ¥2,718(税抜) CA·TETN-28073 ¥2,800(税込) ¥2,718(税抜)

Rock Girls Rock

★2nd SINGLE『その日気分でPlanning Panic Show』NOW ON SALE

★シングル·ビデオ 12月24日発売

[12.26.wed▶渋谷Egg-man]にて追加LIVE決定!!

18:00 OPEN★19:00 START

BAIDIS

小室みつ子

一度にたくさんの人と会って話して……
東京に着くとすっかり夜中でした——連載8回目

撮影●小室みつ子（スナップ）&ハービー山口

Tiny Bright Things.

ビデオの編集現場。
お昼すぎに始まって今9:00PM。

「終わったぞーっ」
気がつくと次の日の朝9:00AMだった。

テーブルが修羅場っぽいでしょ。
白尾監督とバンザイ。

年の瀬であります。

私の嫌いな時期。街を歩いても、ラジオをかけても、クリスマスの音楽。

みょうに気持ちが急いてしまう。

ジングルベルを聞くと、「ほれほれ、一年が終わるぞ。君はこの一年で何かをやったかい？ やり残したことがあるんじゃないかね？ このまま新年を迎えてもいいのかなあ」

というような声が耳元から聞こえる気がして、いてもたってもいられなくなるのでありました。そういうのって、誰でもあるわけじゃないのかなあ。

まあ、私の場合、年の瀬が嫌いな理由に、自分の誕生日ってのがあるのですが。12月29日。この忙しいときに生まれちゃって困った子だねえって日でしょ。

家ではなんだか知らないけどやたらせわしなく誕生日どころじゃない、かといって学校も休みだから友達にも忘れられてる。案の定、29日にちゃんと祝ってもらった記憶は一度もなく、正月気分が抜けたころやっと「そういえばお前の誕生日は……」ってことになる。

ま、誕生日がうれしい年ごろじゃないので、最近は忘れてくれたほうがいいんだけど。

──あ､誕生日の話をしようと思ったんじゃなくて、その『今年は何をやったか』という天の声の話。

そう、今年は年の瀬でもあんまり急いた気持ちにならなくていいみたいです。なにしろ充実してたから。珍しくめいっぱい動いてた気がします。今年の初めに願ったレコードを完成させたってことがあるから、もう、いつ新年になってもいいなと思ってる。「ほらほら年が変わってしまうよ」という、おどかし口調の天の声にも「おう、いつでも来いってんだ。今年は思い残すことはないぜ！」と、思わずべらんめえ調で言い返したくなるくらい強気。うーん、今まで生きてきて初めてかもしれない。こんな気持ち。すごい。

でも、なんだか今年の冬はあんまり寒くなくて、『年の瀬』を感じない。

コートの襟をかきよせて葉のなくなった並木の間を歩くと、自分の白い息が冷たい風にさらわれてゆく──そういう情景がまだあまりない。

そういうのって、たまにはいいんだけど。

高校生のころを思い出します。

寒くてベッドからなかなか抜けられず、水も冷たいからいいかげんにチョイチョイと顔を洗って、母親には「早くしなさい」と怒られ、食事をして、で、しぶしぶ外に出る。学校までのみちのりも、頬や鼻のあたまがきんきんするくらい空気が冷たくって、ときどき目がじんわりと涙でうるんで、でも学校には行かなくちゃいけないから黙々と歩く。

あーやだなあ、とぼやきつつも、校門近くで大好きな男の子がピューっと自転車飛ばしていくのをみかけただけで、いきなり元気になってしまう。男の子がちらっと視線をくれたり、ましてや笑ったりしようものなら「きょうはラッキー！」とかいって、すっかり有頂天。

そんな昔の風景を思い出してから、現在の私を眺めると、もちろんいろいろ変わってはいるんだけど、なんかどこか共通するものを感じることがあります。ときどき、道を歩いているだけで楽しくなることがあるんだけど、そういう気持ちに近い。(脳天気ってことじゃないよ。そうかもしれないけど)

なんていうか、漠然とした期待感みたいなものかなあ。私って、その期待感みたいなものに引っ張られてここまで生きてきたように思うのです。

つまり、今はこんなふうだけど、ひょっとしたらあしたかあさっては、違う展開があるかもしれないっていう、本当に漠然としている想い。

道を歩いていても──たとえば郵便局に行くためだけでも、郵便局に着く前に何かに出会うかもしれないし、何かを目撃するかもしれない。そういうささいな期待ってのがあるから、なんとなく楽しいのかもしれない。

まあ、車に轢かれるとか、ビルの壁が落ちてくるとか、悪いことも起こる可能性はあるんだけど、どうも私は、起こるのはいいことであると思い込んでいるフシがあって、楽しくなってしまうのでした。

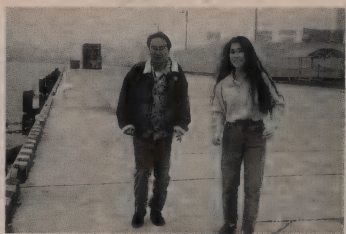
楽天家なのかもしれない。(そういえばTMNの木根くんのラジオ番組に出たとき、彼が私を紹介するのに『小説家で、作詞家で、そして楽天家の小室みつ子さんです！』と言っていた。大笑い)

でも、その楽天的期待感ってのは、高校生のころと変わってないのです。困ったもんだ。

悲しいことやくやしいことやつらいことがあっても、けっこうまだその期待感が残ってる。もちろん他力本願というか棚からボタモチみたいなものじゃなくて、手を抜かずに丁寧に生きていけば、ひょっとして神様も「おお、こいつはがんばっておるな」と見てくれるかもしれない──みたいな期待。──うーん。なんだか、説明すればするほどアホで幼

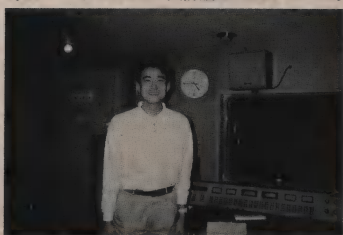
日をあらためて
ビデオ・スタッフと打ち上げパーティ。

「さーて、次はどこの店だ」
打ち上げは深夜におよぶのであった。

Tiny Bright Things.

シングル用ジャケットの撮影日。
デザイナーの田中氏と私のマネージャー、中村さん。

カメラマンもカメラを向けられると
ついピースが出る。設楽氏。

稚な人間のような気もしてきた。
　でもね、私の好きなカーリー・サイモンの歌に『アンティシペイション（日本語では期待とか予想という意味）』というのがあるのです。その詞がとても好き。
〝私たちは決して明日を知ることはない。それでも、どっちにしろそのことを考えてしまう。ときどき思うの。私は本当にあなたと一緒にいるのか、それとも、ただもっとステキな日を追いかけているだけなんだろうかって。
　アンティシペイション――人より遅くなるけど、アンティシペイション――それがあるから私はずっと待ち続けてるの。
　明日は一緒じゃないかもしれない。私は予言者じゃないから自然の成り行きはわからない。でも、今はここにいて、あなたを見つめてゆくつもり……〟
　と、思わず自分流の訳詞でずらずらと書いてしまったけど、恋人に向かって歌っているこの詞は、正直で素直で好きです。
　期待感というのは、やっぱり人を動かすんだと思う。それがあるから生きてゆけるし、何かを追いかけられるし、がんばれる気がするのです。そんな、ただの楽天家のたわごとじゃないと思うんだけど……。
　関係ない話ですが、アンティシペイション（ANTICIPATION）というこの長ったらしい英単語は、この曲で覚えました。で、高校3年のときに受けた何かの模試で、この単語の意味を書けという問題が出たんですねー。やったあ、と思いました。そうやって、洋楽の詞から覚えた英単語というのがものすごく多い。ロックを聞くのだって役立つこともあるんだぞ！　と、親に言いたい。
　しかし、（ここでふと思う）『年の瀬』の話題から、いつのまにか英単語の話になっている。
　よく友達と話をしていて突然「ねえ、この話ってどこから始まったの？」ということになって、話題をじゅんぐりに逆からたぐっていったりしませんか？　それってなかなかおもしろいです。ひょんなことから話が展開し
　人との出会いもそれと同じで、あの人に会って、こういう話をして、でこういうことがあって、で、また誰かに会って、またまたそこで誰かに会って……、今、目の前に彼がいます。というのがあるでしょ。ってことは、あの人に会わなかったら、あのときああいう話にならなかったら、彼には一生会わなかったかもしれないって具合。
　誰かに出会うってことは、もっと他の誰かに出会うことの始まりってこと。期待に満ちてますねえ。
　……やっぱり私は楽天家かもしれない。
　とはいうものの「ああ、あのときああしてれば、こういうことにならなかったのにー。くやしい！」というのも、かなりあるわけでありますが。そういうのは、なかったことにしてしまうのであった。
『出会い』『期待感』というのは、かなり好きなテーマなのかもしれません。詩もエッセイもこればっかって感じだから。大いなるワンパターンにならないように、そろそろ他のテーマも考えなければとも思うのですが、どうも話がそっちにいってしまうのでありました。
　ところで、（ふー、やっと話題が途切れた）抽象的な話ばかりだったので、いきなり近況になりますが。
　来年のライブがある大阪と名古屋に、先日私は行ってきました。
　いわゆるキャンペーンというやつで、朝、新幹線に乗って現地に着くと、ずーっと夜までラジオだテレビだ取材だと、あっちこっち移動しては人と会い、話し、写真を撮られたりするのでした。
　こういうことを書くと、レコード会社の宣伝の方たちに怒られそうですが、けっこうこれが私は苦手であります。
　朝早くに（7時というのは私には驚異的）起きるというのは、夜型の私にはきついことで、一日中次から次へと人と会って話し続けるのも、普段ぼーっとしてるので目がぐるぐるになってしまう。帰りの新幹線ではぐったりというパターンです。昔デビューしたてのころ、このキャンペーンに出掛けるのは、けっこう決死の覚悟に近いものがありました。
　そういう記憶があったもんだから、今回もこのスケジュールを聞いたときは「とうとうきたか……」みたいな気分でいました。（レコード会社のみなさん、すみません）
　でも、しかしです。
　この5年間で、私も成長していたのでしょうか。行ってみたら、なんだか楽しかった。
　昔はひどい人見知りで話が苦痛だったんだけど、今はけっこうおしゃべりになっていて、話をするのが苦痛どころか、実は楽しくなっていたのでした。
　へー。そうかあ。なんだあ。と、ラジオやら取材やらでしゃべっている自分を客観視しながら、驚いたり感心していたのでした。
　おまけに、他のことまで楽しむ余裕さえあった。
　私は関西の言葉って妙に好きで、新幹線を

FM大阪の竹内さん。
あるアーティストのことで大討論しておもしろかった。

ぴあの石角さん。
彼女とはスライダーズ話で盛り上がってしまった。

大阪のコンサートでお世話になる
サウンドクリエーターのスタッフ。

Tiny Bright Things.

降りたとたん耳に入る大阪弁を聞いただけで、漫才を聞きにきた客のような気分になるのでした。とにかく、回転が速いし、展開が大胆だし、テンポがある。大阪のしゃべりは楽しいです。上岡龍太郎が「大阪のシロウトはこわい。何言うかわからへん」と言ってたけど、本当に、そこらへんの人の会話を聞いているだけでも、どれだけおもしろいか。

大阪弁→漫才という反応は、私だけかもしれないけど。一度、小説で大阪弁の男の子をメイン・キャラクターにして書いてみたんだけど、楽しかったです。もう、がぜん、会話の中に笑いを入れたくなる。でも、大阪弁の読者から「男の子の言葉がへんです。妙にオジンくさいし、芸人さんしかいわへんような口調でした」ってクレームがついてしまって、赤面したことがあります。なるほど、私が聞いてる関西弁て、ほとんど漫才とか落語が多いからなあと、頭をかいた。

でも、やっぱり、大阪ってなんかいいな。

ラジオ局からラジオ局への移動のときに乗ったタクシーの運転手さんに、いきなり話しかけられたことがありました。そのタクシーの中ではずっと相撲中継が流れてたのですが、運転手のおじさんが突然、「おねえちゃんは、嫁にいくんなら、千代の富士と小錦の、どっちがええんや？」と聞いてきたのです。

「は？　千代の富士と小錦……ですか？」

私が口を開けていると、同乗のレコード会社の人たちはすでに大笑い。

答えに窮して「あはは」と一緒に笑ってごまかしていたら、運転手さんはけっこう本気らしく、「どやねん。千代の富士と小錦と、どっちがええんや」としつこく聞くのでした。

「どっちといわれても……」

「そんなら、貴花田ならええんか」

「いえ、そういう問題じゃなくて……」(私は相撲のことをほとんど知らない)

「つまり、あの、お相撲さんじゃなくちゃいけないんですか？」

「なんでや（運転手さん一瞬憮然とする）相撲とり、ええやないか。楽やでー。金はもっとるし、嫁になったらばんばん使えるわ」

「……でも、ほら、妻はやっぱり健康管理しなくちゃいけないから。食事とか気を使うし、大変じゃないですか」

「そんなもん、なんでもいいから食わしときゃええんや。あいつらがばがば食うで」

「そんなブタみたいに……」

「そうや。どうなんや、どっちがええんや」

相撲ファンの運転手さんでした。

みんなずっと笑いっぱなし。

いきなり千代の富士と小錦。選択の余地なし。なんて強引な質問でありましょう。

ラジオ局についたころには、大笑いのせいで疲れも忘れていました。

それにしても何かを愛するってことは強いことです。運転手さんはきっと相撲を愛しているので〝結婚するんだったら〟相撲とりはいいぞっと強引に言ってしまう。私が答えないのにイラだってしまう。

何かを好きになると、どうしても「これはいいぞっ。いいから、見てみろ、聞いてみろ！」と言いたくなる。もう口から泡飛ばして力説しちゃう。普段はそんな積極的でもないのに、そういうときだけは人が変わる。〝好き〟という気持ちのパワーはすごいものです。

全身で何かを「好き！」と言っている人は、その瞬間とても強くなるのでありました。

もちろん静かに「好き」を表わしている人もいるけど、それだってかなり強い。なんだかオーラみたいなものを感じるときがあるからわかるのです。

キャンペーン先でも「私はこれが好き！」という気持ちで仕事をしている人に、たくさん会えたような気がします。そういう人たちとの会話はおもしろい。インスパイアされる。

名古屋の中部放送でお会いしたアナウンサー、小堀さんと富田さん（名古屋の読者はよくご存じですよね）には、すごくパワーをもらった気がしてます。テンポがあって、キレてて、普段おっとりとしてる私もぽんぽんしゃべれた。「ミックスパイください」というテレビの番組に出させてもらったんだけど、あったかくっておもしろくて、まじめな番組でした。スタジオの隅で出番を待っている間「ゴミ問題」の話とかをモニターで真剣に見入ってしまった私です。

一度にたくさんの人と会って話して、帰りの新幹線ではぐっすり寝込んで、東京に着くとすっかり夜中でした。今度大阪と名古屋に行くときはライブでかな。一度に数百人に会うというのも、すごいことかもしれない。

「もうすぐクリスマス！　だから……？　くつ下を選びました」小室さんからのプレゼントを３名の方に。官製ハガキにエッセイの感想を一言添えて、〒156-91東京都世田谷区千歳郵便私書箱15号 CBS・ソニー出版GB″Tiny Bright Things⑧″係。'91年１月20日の到着分まで有効です。

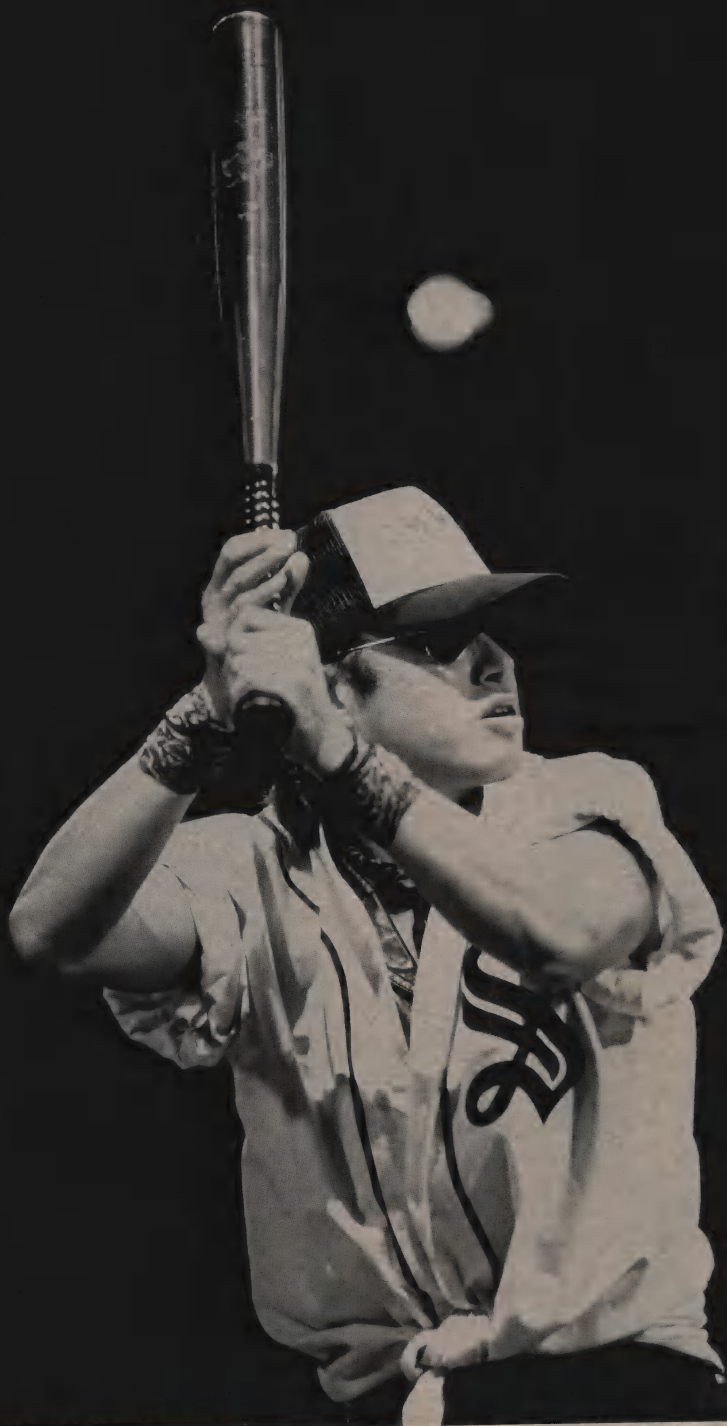
浜田省吾

外国人留学生支援のための スペシャル・ライブを開催——

ツアー"ON THE ROAD '90"のまっただ中にある浜田省吾が、11月17日、駒沢大学記念講堂において"ON THE ROAD SPECIAL"と題するスペシャル・ライブを行なった。日本で学ぶ外国人留学生を支援するこのコンサートについて解説・報告しよう——。

11月17日・駒沢大学記念講堂

SHOGO HAMADA ON THE ROAD SPECIAL

撮影●[illegible]郎　文●伊藤博伸

大きな希望と志を抱いて日本にやってきた留学生たちは、今、さまざまな問題に直面している。

あらゆるモノが高いこと、円高が生活を圧迫して、アルバイトを続けなければやっていけないこと、それに外国人というだけで不動産屋がとりあってくれず、住む家を探すのも容易でないこと……。留学生たちにとっての日本は、けっして学ぶためのいい環境ではない。しかし、それに対して国は、なんら適切な処置をこうじてはいないのが現状だ。

留学生たちに、少しでもいい思い出を持って帰ってほしい。こういった願いから、浜田自身が呼びかけて実現したのが、この日のコンサート。'91年の春まで続いていく〝ON THE ROAD '90〟ツアーのまっただ中の11月17日、〝ON THE ROAD SPECIAL〟と銘うったスペシャル・ライブが、駒沢大学記念講堂で行なわれた。2年前の11月18、19日のMZA有明での2daysに続く、これは浜田の〝留学生支援コンサート〟の第2弾だった。

この日、会場に集まった人たちに配られたコピーには、コンサートの趣旨と同時に、浜田からのメッセージが寄せられていた。それは、こんな文で始まっている。

〈高校2年の夏休み、親友がロスに短期留学して帰ってくるなり、〝むこうじゃ、もう誰もビートルズなんて聴いてないんだよ〟と言って聴かせてくれたのが、レッド・ツェッペリンのデビュー・アルバムだった。そのレコードが、ぼくにとっての最初の〝留学〟のイメージだった〉

音楽を媒体にして、このころから浜田は留学に憧れを抱くようになったのだという。お金の余裕はないし、奨学金もあてにできない。〈なんとか留学する方法として音楽を始めたような気がする。結局、そんなに簡単には成功はつかめなくて、留学はできなかったけれど……〉と、さらに浜田はこう綴っている。

〈留学先が、今の日本のようにあまりにも物価が高かったり、人とのふれあいもなかったりして、貴重な若い時を失意のうちに過ごすことは、とても淋しいことだ。ふと自分の子供のころを思い出して、できる範囲で何か手伝えることはないかと思い、このコンサートを始めた。(中略)それぞれの根本的な解決は、政治や大企業が動かなければありえないけれど、このような小さな積み重ねがムードを作っていったり、それぞれの認識が深まるきっかけになればと思う〉

小さな認識が、しだいに大きな力の原動力になっていく。これは時間のかかることだけど、まずは実行することが大切なのだ。高校生のころ、留学に憧れ、結局は実現しなかった浜田の想いが、スタッフを動かし、そして巨大な動力のスターターとなるべく、再びこのスペシャル・ライブが実現したのである。

〝SHOGO HAMADA ON THE ROAD SPECIAL〟——この日のコンサートは、浜田のオフィス〝ROAD&SKY〟が主催し、企画・制作は駒沢大学プロデュース研究会に委ねられた。同研究会の名前の文字が入ったおそろいのジャンパーを着た学生たちが、場内整理から警備まで、会場でのケアのすべてを担当。彼らのいきいきとした姿が、とても印象的だった。

*

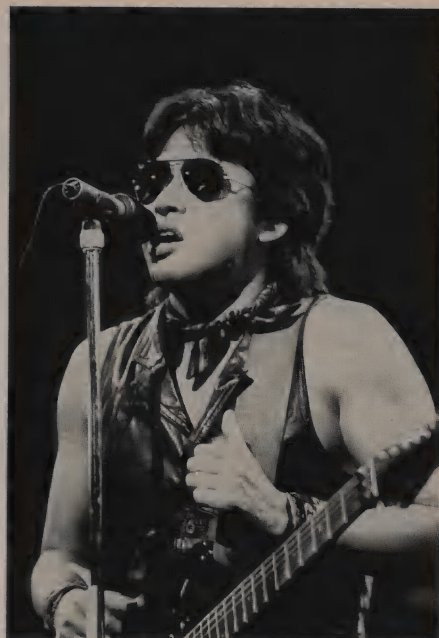
コンサートは、通常のツアーとほぼ同じメニューで進められていった。「MY OLD 50's GUITAR」、途中〝ヘロー、コマザワ・ユニバーシティ〟と歌われた「HELLO ROCK' N' ROLL CITY」と、まずはしょっぱなからストレートなR&Rチューンが続いていく。浜田は、けっして

客席を煽ったりはしないが、あふれんばかりの超ド満パイの会場は、もう最初からオーバーヒート気味。まるで浜田のパワーが観客の内包したエネルギーを引っ張り出しているといった感じだ。まずは「恋は賭け事」までの5曲を一気に歌い込み、簡単なMCのあと、ステージ後方のスクリーンには、満天の星が降るように灯る。漆黒の闇夜が、うっすらと明け始める。その前に広がる湖水に、夜明け前の薄明かりが反射して美しい。夜明け前の静寂の時……。そして、バラード「MIDNIGHT FLIGHT～ひとりぼっちのクリスマス・イブ」を、静かに歌い始める。

ステージ構成は、実にドラマチック。照明による効果もそうだが、演出自体も実によく考えられている。「BASEBALL KID'S ROCK」では、一転してステージが野球場に早変わり。速球投手のボール（ほんとは、投げてるマネだけど）を、浜田が打ち返して、逆転ホームランといったドラマを演出。また「青の時間」では、雲の流れと色の変化に、時の経過を映し込み、うっすらと夕焼けが残った渋滞の高速道路をイメージさせる。そして、荒々しくうねりながら砕けていく波の映像をバックに歌われる「OCEAN BEAUTY～MY HOME TOWN」。さらに「詩人の鐘」では、ステージ後方に現われた4枚のスクリーンに森林破壊や原発の映像が映し出され、時代に警鐘を鳴らすといった感じ。社会的な問題意識を持ち続けている、いかにも彼らしいステージだ。

途中、浜田は留学生のために働くボランティア・グループ〝留学生相談室〟の福島みち子さんを客席に紹介。ここで彼女は、日本での留学生の現状を話してくれた。なかでも特に相談が多いのが、住むところが見つからないことだという。そんなとき、福島さんは「10軒でも20軒でも見つかるまでまわりなさい」と答えるのだそうだ。心に痛みを感じながらも、彼らにこう言うしかないと言う。留学生に対する一般の日本人の認識は、まだまだこの程度なのだ。

＊

小さな積み重ねがムードを作り、認識が深まるきっかけになれば、と言う浜田。確かに、そう思う。コンサートによる収益ももちろん大切だ。それと同時に、留学生の実情を認識させるという意味でも、この日のライブの意義は大きかったと思う。そして、今後これがきっかけになって大きな動きが起こることを期待したいと願うのだ。ちなみにこの日の収益は、すべて〝留学生相談室〟にプールされ、留学生のために使われるという。

TOUR "DISTANCE" REPORT

小比類巻かほる

久々の、小比類巻のライブ・ツアーが神奈川県民ホールからスタートした。年内で終了するツアーではあるが、やはり久々の生の迫力に勝るものはない！ さて、初日の模様はいかに？

文●河合美佳

昨年はプリンスとコラボレートし、今年はクインシー・ジョーンズの片腕といわれるジェリー・ヘイとコラボレートし、日本、ロサンジェルス、ニューヨークをあいかわらず行ったり来たりの忙しい中で制作したアルバム『DISTANCE』は、10月10日に発売。この11月13日に神奈川県民ホールを皮切りに、ツアーがスタートした。

これは本当の本当に偶然だったのだが、とある打ち合わせで、11月上旬の日曜日の夜、都内のリハーサル・スタジオで、小比類巻にバッタリと会った。久しぶりに会った小比類巻は、その大きな瞳をパチクリさせながら、ビックリした様子で、"ネムクッテ!!"とつぶやいたのだ。

ツアーを数日後に控えてのリハーサルが大詰めで、朝早くから夜遅くまで、しかも連日のリハーサルでもしているからなのか、と思っていたら、メンバーも一新してのツアーで、いろいろと考え始めると朝まで眠れなくなってしまった、ということだった。

そんな会話をしての初日のステージ。スタートするまで、いろいろな思いが心の中をよぎっていった。"小比類巻の不安は、どのぐらいまで消化され、そして形になっているのだろうか？""新しいメンバーとで描き出されるサウンドは、どういうグルーブを聴かせ、伝えてくれるのだろうか？"

まったく見当のつかないまま、場内が暗くなっていった。まずはアルバム・タイトルの「DISTANCE」からスタート。ベーシックなビート感から生まれるグルーブを生かしたオープニングは、メンバーそれぞれの音とビート、そして小比類巻のボーカルのからみ合いとかけ引きが決め手だ。「MOVING ACTION」そして「TIME THE MOTION」と、そのグルーブをどんどん増幅させ、見事なヨコノリのグルーブを生もうという構成は、なかなかアッパレだ。

まだまだ仕上がり不足の感はあったものの、久々の小比類巻のステージに興奮気味の客席の妙なエネルギーも加わって、予想とは少し違いつつも、けっこう喜べるスタートだった。

映画『ブレード・ランナー』を思わせるステージ・セットは、小比類巻がこのステージから伝えたかった"LIKE A FACTORY"。まるで工場のように、みんなひとりひとりが参加して大きな何かを作り上げる、そんなライブという夢工場を描いたものだった。

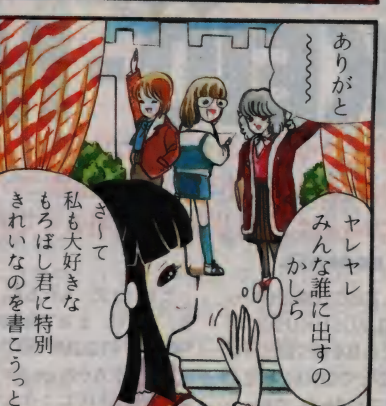
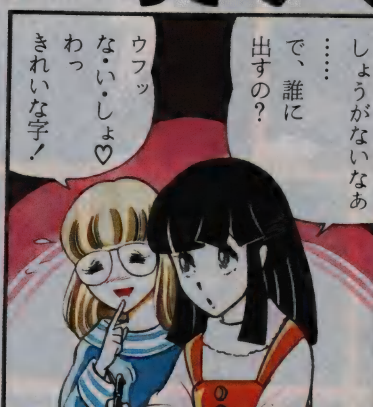
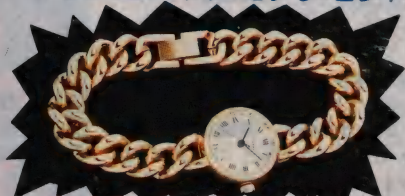
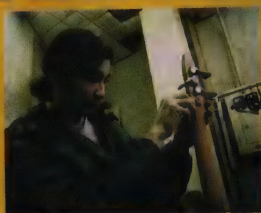
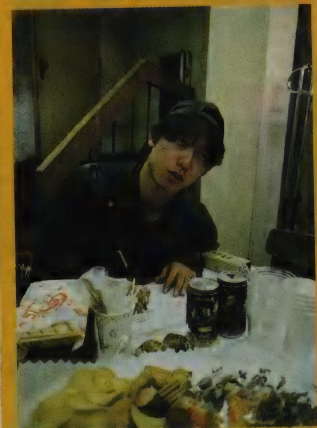
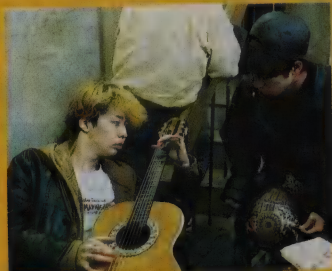
どちらかといえばアンダーめの照明がそんなセットを見事に演出し、その光と空間の中で、小比類巻は不安と闘いながら、客席にエネルギーを与え、増幅して返ってくるエネルギーを吸収しながら、ひとつひとつ自分を確かめるように歌い続けた。

「TONIGHT」「HOLD ON ME」「I'm Here」と続くおなじみナンバーのメドレーでは、客席もストレートな反応を返し、歓声とともに手拍子が起こる。オープニングから総立ちとなっていた場内で、まるで生命体が降りてきたかのように空気が変わっていった。

それは本当に不思議な現象だった。盛り上がるとか、ノっているといったたぐいの言葉で表現するのとはまた違い、本当に新しい生命がそこに宿った、そんな感じだった。

新しい場内の空気を燃やしつくさんばかりに、ロック感のあるナンバーを歌い続ける小比類巻の表情には、不安に混じって安堵と自信の色が表われはじめた。

"LIKE A FACTORY"

みんなで本当に作り始めた手応えを感じながら、今夜はすてきな夢を抱いて眠れるね、小比類巻!!

●GAKUYA

楽屋入り。さっそく雑誌の原稿を書き始める次郎君。横でギターを弾いているMAKOTO君に合わせて、突然歌い出したりもする。MU君とSAY君は、外で見てきた三田祭のイベントの話で盛り上がっている。リハーサルまで弦を張ったり、ファンレターを読みながら、KUSU²の楽屋はホントにぎやか

●REHEASAL

KUSU KUSU in KEIÔ-MITA-SAI

●KUSU KUSUが現われるというので慶応大学の三田祭に潜入したGB取材班。見つけました、楽屋というにはあまりに小さくて寒い部屋にいたメンバーを。でも、4人がいればそこはいつでも熱帯。素顔の4人は、やはり底ぬけに明るくて楽しい人たちなのでした。

レポート●山下由美子　撮影●藤田正弘

イェーイェーイ！　花の三田祭だぜいっ。11月23日勤労感謝の日。KUSU KUSUは学園祭ライブのラスト2日目を第32回三田祭で飾るのだ。ということでGBはこの日1日、彼らを追っかけることにした。でも……あれ？　今日ってさー。思わず辞書を引く。勤労感謝の日とはこれすなわち、人々が勤労の精神を尊び、お互いに感謝する日。そう記してある。でも私は働くのね。かわいいKUSU KUSUのために。Oh, my god！

1時ジャスト。陸の王者、慶応一つのキャンパスはお祭り気分で熱気ムンムン。昭和40年代生まれの若者たちが「若いってすばらしい」と顔に書きそぞろ歩く。その人込みを涙目でかきわけ、私たちは目的地、西校舎518番教室に到着したのだった。

オオーッ。大教室の横にある控え室に次郎君とMAKOTO君を発見！　しかし、迎えてくれた彼らの様子は、あまりにも小春日和状態である。だってこの二人ったらギターの伴奏（M氏）に合わせ、ノホホンと歌ってる（J氏）んだもん。しかも他人の歌を。そこは、まるで軽音楽同好会の部室。「神田川」のBGMが泣けてくる。

「……ノドカかねぇ」「いっつもそうだよ。発声練習代わりにこうして歌うんだよ。あ、それはいいからペン持ってない？」

次郎君は渡したペンをしっかと右手に握りしめ、サササッと書き物を始める。某雑誌に連載中の原稿だそう。歌もしっかり歌いつつ、器用なヤツだ。

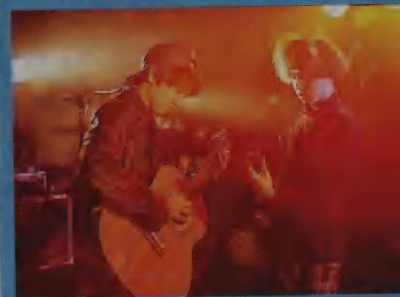
「あれ、MU君とSAY君は？」「二人ともプラッと見学に出かけたよ」「何っ!?」

一瞬よぎるパニックの図。大丈夫なのでしょうか？　まあ、結果はあとで聞こうっと。

天才次郎は原稿も仕上げ、今度はサイロマティック・チューナーをゴソゴソ取り出して。♬ドーレーミー・ミー。大声出してキーを確認している。平和な日本。しかしライブの前っていっつもこんなにノドカなんですか？　それとも今日はお祭りの片棒だから？「いや普段からこんな感じだよ」……心臓に毛のはえたバンドであった。

ところで、この控え室は寒い。いくら北海道育ちの彼らとて、すきま風ピューピューの部屋はちょっとボロすぎるのではないだろうか？　一応、プロのミュージシャン。一応、武道館もやってる売れっ子さんよ。そんなことを思っているときに届いたのは、袋一杯の〝ホカロン〟。そして机の上に置かれたのは焼きそば、お好み焼き、フランクフルトetc。さすが学園祭っ！　である。

＊

次郎「今年はいくつ回ったのかなー。7〜8か所かな？　とくに印象的なのはね、仙台。尚絅女学院短大。（模擬店に）ディスコがあったよ、ディスコが。〝KUSU KUSUのライブが見られる上に100万＄の夜景のオマケ付き！〟これがうたい文句でさ。いいでしょー、夢があるでしょー。気に入っちゃったよ。このコピー絶対書いといて。（笑）学園祭のライブってさ、スタッフが全員学生じゃない？　初めてバンドを呼ぶ学校も

あったりして、勝手がわからないところもあったみたい。僕らもそんな世話役のみなさま方にワガママ言ったこともあるでしょう。ご迷惑かけてスミマセンでした。あ、これも書いといてね。でも、明日で終わるけど楽しかったよ。最近、多人数編成のステージが続いてて、4人だけって久しぶりなんだよね。4人の楽しさをまた思い出せたよ。だから今、ステージが楽しくて楽しくてたまんないもん」

MAKOTO「学園祭ってお客さんが僕らのファンじゃない人もいたりするからね。べつの意味で気合いが入るよ。〝よーし、KUSU KUSUのよさを見せてやるぞ！〟ってね。ライブの感じ？ 気持ち的には普通のライブと変わらない。ライブはライブだもん。今、曲作りの真っ最中なんだけど、こうしてライブを少しずつやってたほうがいいね。精神的にも煮詰まらないから」

＊

ここでやっとお二人さんのご帰還だ。聞くところによると2チームに分かれてウロウロし、模擬店見学をしてきたらしい。

「やっぱりプロレスがおもしろかったよ」「え、見てたの？ オレも見てたんだよ」と盛り上がる。騒がれなかったの？ と聞くと、MU君が「大丈夫。ときどき気づく子がいたけど、ハッとした顔したら相手の顔をジーッとにらむんだよ。そしたら何も言えなくなるから。(笑)それが手だね」だって。

MU「ふだん、ライブをやれないような場所でやれるから、学園祭っておもしろいんだよね。体育館とかさ、教室とかさ。出てくるものも焼きそばやらなにやら、学園祭っぽいじゃん？ 音は全然よくないけどね。でもノリは自分たちしだいで作れるし。いいときも悪いときもあるけど、なかなか楽しい。それにホント、今日は囲まれなかったしさ。外に出られないと意味がないもん」

SAY「ふだんなら男の客って少ないけど、学園祭ってスタッフや生徒に男もいっぱいいるでしょ。それがうれしい。お祭りの雰囲気もあるし、みんなもノリやすいんじゃない？ まあこっちもラフ・プレイになるときもあるけど、せっかくお祭りに呼んでもらったからには盛り上げたいもの。今はいろいろ忙しい時期だけど、ライブをやることが気分転換にはなってるね」

愛知の岡崎愛知学院大で囲まれた脱出失敗者SAY君、今日は母校（賢いのねぇ）でもあるし、ニコニコ顔であった。

＊

2時過ぎに音合わせが始まる。まず、いちばん時間のかかるドラムから。その間にMU君はギターをキュッキュッと磨き、SAY君は弦を張り替えてと。そして、MAKOTO、MU、次郎、SAYの順番に人数を増やしていくステージは、4人揃ったところでリハに突入していった。

途中、半袖になる次郎君。見てるだけでサブイボが。おまけに「昨日、夜中3時ごろ、MAKOTOから留守電入っててさー。コイツ演歌入れてんだぜ」とマイクにのせてチクる。これはMCの練習でしょうかね？「ところで。エレキもう一曲やる？」

構成で曲つながりが2か所あるが、後半は「青大将」と呼ばれている。加山雄三＋新沼謙次で攻めるから。一度通してみる。ここでマネージャーが張り切って登場だ。

「ここだけは言わせてもらうよ。チチッ、甘いなー」。そんな厳しいチェックに「いや本番ではちゃんとネタあるから」となぜかSAY君がフォローしているのが不思議。

こうしてリハは1時間みっちりとなされた。時刻は4時。完璧だ。

MAKOTO「感じ？ うん、なかなか。今日はけっこうやりやすいよ」

＊

開場5時、開演5時半の予定だ。メンバーはここから着替えタイムである。見てはいけない。入っちゃダメ。しばし開かずの間になってしまった控え室。しかたがないので、GB御一行は外に飛び出した。模擬店巡りをしようと思ったが、「売り切れ」の看板が続々。おいしいモノには早くツバをつけろ。これが人生の鉄則であることをシミジミと実感。アナタも早くKUSU KUSUにはツバをつけておいたほうがいい。

開場時間に戻ると、そこには重々しい空気が漂っていた。厳重な警備。学生スタッフのボスが「死人が出たら終わりだからな。しっかり任務を果たせよ」と激励してまわっている。お兄さん、それはちょっとおおげさってものよ。KUSU KUSUのライブはそんな鬼気せまる雰囲気じゃないのよ。ねえ。……まあ、いいけどさ。そして5時50分、やっと彼らの登場だ。

学園祭シリーズの衣装は、今まで彼らが着た衣装4種類の日替わりだそう。今日はNo.2と呼ばれるパターンだ。インディーズ時代に着ていた由緒正しきものである。オープニング曲から「森のスーパーマーケット」へ。そこはすでに学園天国。楽しく陽気なKUSU KUSUワールドへ入り込んでしまった。

「ハッピのお兄さんたち（警備陣）も気合い入ってますか？ 彼らだってノセるよう、みんながんばろう(笑)」と言いつつ、12月の〝STANDING NIGHT 5DAYS!! 熱帯夜ふたたび!!〟（このGBの発売日には終わっている）の宣伝をする次郎君。

「初めて見るお客さんもいるだろうけど、なんてすばらしい、ナイスなボーイだろうと思ったら、ぜひ来てくれ」

だからいいとこ見せなきゃ。がんばって。天の声が聞こえたのか、次郎君は高所に組まれたスピーカーまで上って大盛り上がり。

「みんなー、一発燃えていこうぜ。オレは今日、ボルテージ高いぜぇい！」

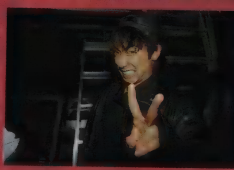
最近エノ島に行ったという近況報告にも熱が入り、ラストのノン・ストップ・ダンス天国状態まで一気に16曲。BE ON FIRE！ 終わったあとは、4人は控え室でしばし放心状態。無言……。しかし、あの冷蔵庫が真夏の部屋に変身して。4人自らが熱の放出体となっていたのがわかる。

「今日のできは？」「なかなかいいできでしたよ。見っててどう思った？」「うん、よかったです。でもどのお客さんより、KUSU KUSUのパワーが一段勝ってたけど」「じゃあ、見てのとおりかもしれないね」

ニッと笑ったボーカリストを突撃隊長に、この年末の忙しさも無事乗り切ってほしいものですね。師走に近い、ノドカでハッピーな1日の報告書でした。

片時もじっとしていない次郎君。ギター片手に、会場になっている講堂を歩きまわる。「えっ、それどうやるの？こう？」MU君やSAY君にコーチしてもらう。スタッフが入ってからは礼儀正しく「今日もよろしくお願いします」。一曲一曲、綿密にチェックしながらリハーサルが進む

●STAGE

会場を埋めつくすファンの熱気に負けていないKUSU KUSUのメンバーたち。今日も最初から、かなりのハイテンションで飛ばしている。次郎君はステージ前の机にまでおりてきたり。いつもは教室なんだということを忘れてしまうほどステージも客席もエネルギーがあふれてる

●OWARI

ライブの余韻がまだ残ってる楽屋で。SAY君、おいしそうにステージ後の一服。疲れていてもポーズをとってくれるMU君。満足げな表情のMAKOTO君。「ステージ、どうだった？」「今日はよかったですよ、ホント」汗ビッショリでVサインの次郎君。今日も一日、終わりました！ みんな、お疲れさまでした！

BAKU '90▶'91

ありのままの自然の強さ

6月にデビューしてから半年、BAKUは猛スピードで成長を続けている。のびのびと自然体な彼らは、その素直さと吸収の早さで、日に日にたくましくなっていく。そんな彼らの'90年はどんな年だったのだろう？ そして'91年は？

撮影●渡辺マコト 文●山下由美子

うふっ、とほほ笑んでしまう。BAKUの無垢な発言に。彼らの'90年をふり返る。こんなテーマに、3人の口から出てくる言葉はハートが温かくなる、素直で飾り気のないものばかり。そして、それはまさに彼らそのものだ。

車谷「そうっすね。今年はアッという間に過ぎたっていうのが素直な感想。でもいい1年でした。充実してたから」

高校を卒業し、いつまでもピーターパンではいられなくなった3人の少年たち。彼らは最近のバンド・シーンでは国宝級の純朴さと普通の男のコのパーソナリティー、他のバンドとは一線を画したBAKUワールドを武器に、この世界にはばたいてみせた。結果は思いがけない支持と共感を得て、こうしてビッグに成長しつつある。等身大の3人が、自分たちの(実)力以上の何かを得てしまった。それが'90年という年。そして彼らは自らの力を伸ばすことで、先行して転がり続ける何かに追いつき、追い越そうと奮闘中だ。

谷口「個人的にはいろいろと大波小波もあったけど、バンドとしてはいい調子で。ホントにね、進歩した年でした。でもマイペースでやってきたら、こんなになってしまったって感じかな」

加藤「そう。今年1年はドッカーン！でしたね」

いみじくも加藤君の発した擬音は、BAKUのこの1年を表わすのに最適な言葉ではないか。そう、ドッカーンなんだよ。その合図に合わせて、ライブハウス・ツアーからホール・ツアーへと展開。また作品を次々に発表と、パワーの拡大生産にかかっている。

谷口「ツアーもレコーディングも勉強することだらけですよ。とくにステージでは鍛えられてると思うな。ボーカリストとして最近考えてるのは、歌を伝えたいってこと。それがいちばん。本当はあんなに動かなくてもいいと思ってるくらい。でも、そこまでの歌唱力が……。まだまだ力不足で。だから、今は体で表現してるんです。とにかくもっとうまくなりたい」

BAKUサウンドの魅力はいろいろあるだろう。たとえば、美しいメロディー・ライン、共感の得られる詞。でもいちばんの強みは、彼らという原石の総合力と、リスナー側と同じポジションに立っている、その場所だ。彼らは彼女たちと同じ目を持っている。そして、同じ視点で切り取った心象風景や心理を歌う。正直に。

しかし、周りの大人たちは思う。強さの裏にはあやうさがあるよって。一日一日成長している彼らと今までの彼らの詞が、ジェネレーション・ギャップを起こす日がくるのではないだろうか？ そんな質問に作詞・作曲担当の彼はこう答えた。

車谷「自分が変化していってる時期だから、もちろん詞も変わってきてますよ。まだ未発表だけど、いま書きためてる曲は以前とは全然違うしね。今までの詞は学校の机で生まれていたもの。卒業して社会に出て、社会人として物事を見つめる目って変わってくるんだな、きっと。最近よく言われるんです。〝BAKU、学校卒業しちゃって、これからどういう曲を書くの？〟って。でもオレ自身としては全然困ってないんです。自分のテーマは〝生きる〟ってことだから。漠然とした夢を追ってるんじゃなく、日常生活を空想で膨らませる。それが基本にあるから」

微妙なニュアンス、わかってもらえるだろうか。そしてこう付け加えた。

車谷「バンドブームもそろそろ終わりかもしれない。でも、その中で順調にがんばってこれたのは、自分たちでは気づかないけど、何かがあるからこそだと思ってる。うぬぼれじゃなくて、そこには絶対的な自信があるんです」

ロックを聴く層の幅を広げたこと。その名誉で彼らは今年殊勲賞をもらってもいいくらいの功績があった。

車谷「でも、そのへんはいい意味でも悪い意味でもいちばん難しいところで。僕らを見にきてるだけのお客さんと、純粋に楽曲を聴きにきてくれた人たちって、見てるとわかるんです。べつにそれはそれでいいんだけど、でもどうせ楽しむなら、楽曲に対しても理解してくれたらうれしいんですけどね。そこらへんは僕らのこれからしだいでしょうけど」

置かれた状況をキチンと把握しつつ、冷静に未来を見つめているのだ。

車谷「オレたちは、1日単位で、毎日変わっているんです。それがバンドにどう影響し、どう転がしていけるか。すべてをコントロールしつつ、いい方向に成長していきたいですね」

音作りに対する変化も顕著だ。もともとハードロック大好きの演奏陣、サウンドをもっともっと男らしくしていきたいという気持ちもあるらしい。

車谷「ライブもアルバムもハードにしていきたい。だけどメロディー・ラインの美しさは絶対壊しちゃいけない。メロディーを生かしつつ、バックの音はハードに。それがベストかな。今、ハードっすよ。オレはフライングV弾いてるし、ドラムは2バスだし(笑)」

加藤「そう。2バス買ったんですよ。高かったからどんどん使わなきゃ！」

仕事にもどんどんシビアになって。なんだかたくましい社会人。(笑)

谷口「反省会、毎回しますよ」

車谷「体育会系だから汗ふく間もなくやってる。ライブが終わるといつも怒ってるんですよ、オレ。(笑)ギター以外にも周りの状態が見えるようになってきたから、うるさいのなんのって」

もっと世界を広げたい。もっとうまくなりたい。音にこだわりたい。彼らの'90年はドッカーン！ の轟音のあと〝もっと²！〟の叫びで終わるのだろう。

＊

19歳の明日は前途洋々だ。そして来年20歳。本当の意味で大人になる。

車谷「……でもオレ、すでに精神年齢30歳くらいだと思う(笑)」

谷口「親父Boyっ！」

車谷「ハハハ。だけど大げさかもしれないけど、そこらへんの19歳よりはいろんなこと考えてるよ。学校卒業してから、本当にオレは変わったよ」

加藤「オレはやっぱり19歳。そのまんまだな。20歳になってもはたして変われるのかなって心配してるけど」

谷口「オマエはまだ12歳だよ」

加藤「そしたらオマエは9歳だ！」

谷口「僕？ まだみっちゅ(笑)」

なんておどける。ここらへんは19歳の会話。これが素顔でしょうね。だが、変貌発言シリーズはまだまだ続く。

谷口「親元を離れて東京に来て。今、共同生活してるじゃない？ 親に全部面倒をみてもらってた日々とは違うよ。いろんなことを自分でやってるし。自分の力で明日の飯を食うわけですからね。うん、東京が……オレを変えたよ」

車谷「お上りさん発言だなー。でもオレは好きだな、東京。肌に合ってるんでしょうね。一日中動きっぱなしの街だから。だいたい、止まってるってのが好きじゃないんだ。人生は坂道！ 上るも下るも自分次第！」

加藤「オレは……どこでも大丈夫。(笑)生きていけるタイプですよ」

冗談を交えながら、彼らはこの長くも短かった1年に別れを告げる発言をしてくれた。3人に会うまでは、危惧していたこともいっぱいあった。まっすぐに突き進んだ'90年。その実績には手放して拍手してあげたい。だけどこれからが本当の一歩だから。現在に甘んじていてはダメ。でも、安心。彼らは自分たちの今を理解していたから。

車谷「僕らが大切な成長過程にいることはわかっているから。だけど、とにかく自然体でやっていれば問題ないと思う。最終的にはそれだけだよ。坂道は上るもの。上っていくしかない」

谷口「Oh Yeah！(笑)」

お詫び●1月号のBAKUのコンサートのタイトルにあやまりがありました。ここに訂正するとともに関係者各位にお詫びいたします。

エピック・ソニーのCDなら、年末年始

エピック・ソニーでは、1990年12月24日～1991年1月4日を冬の重聴週間と認定しました。これを記念して、ただいま大ヒット中の4アーティストのアルバムの年末年始の活用法100項目を列

ときは、部屋の掃除とこのCDを忘れずに。⑪この4人のアーティストのライブに彼女を誘えば、まずNOという人はいません。⑫このCDをバッグに入れておけば、いざというとき手

いない兄キには、ピンクのリボンをつけてプレゼント。きっとおこずかいがもらえます。㉔ふたりっきりのイヴの夜、せつないBGMがふたりをイケナイ世界へ誘惑します。㉕ダンスパ

ずむはずです。㊳お正月のテレビはつまらない。テレビにあきたらさっそくこのCDの登場ですね。㊴このCDを聴きながら眠ると、なすびの初夢を見ることができます。㊵年

ほうが興奮するのです。52彼と手をつないで同じ音楽を聴けば、スケートも恋もスイスイです。㊳スポーツ選手はこのCDを聴いてコンセントレーションを高めているそうで

ね"なんて言ってみましょう。64このCDを大音量で聴くとあたまクラクラ、夢の世界へ旅行できます。旅行先でこのCDを失くしたら美しい女性が見つけてくれて"お

読むように歌詞を読んでみよう。今まで気づかなかったフレーズを見つけたりできます。とにかく4枚ともただいま大ヒットのアルバム。ステイタスとして持ちた

ティが不可欠です。[緊急時にオトク]避難袋の中にこのCDを入れておけば、いざというとき安心です。89CDラジカセの大音量で鳴らせばクマも逃げ

大江 千里

今年はいろんなメディアで千里を見つけた。彼はどこで何をしていても、胸をはってまっすぐ前を見つめてしまう。だから微妙でせつないラブソングも、彼が歌うと勇気が湧いてきてしまうのです。大江千里のおかげで、日本はすこし元気を取り戻しました。ヤンチャな弟なのか、頼れる兄キなのか、彼の一挙一動がみんなをわくわくさせます。

「APOLLO」 NEW ALBUM NOW ON SALE!

●CD:ESCB1091 ¥2,800税込定価(¥2,718税抜価格)

CFやドラマでしか千里を知らない人たちに、このアルバムを聴かせたらどんな顔をするだろう。大江千里はロック・アーティストである。しかも"胸をはって生きていいんだぜ"って歌ってくれるアーティストである。ニューアルバムを聴いている人を観察してごらん、きっと背すじをピーンと伸ばして聴いてるはずです。

収録曲目:APOLLO(不二家アメリカンバーCFテーマソング)／たわわの果実／BAY BOAT STORY(フジTV系「邦ちゃんのやまだかつてないTV」挿入歌)／舞子VILLA Beach／あなたは知らない／やっと気がついた／8年土産／竹林をぬけて／dear／これから／星空に歩けば／全11曲

[INFORMATION]

■ニューシングル「あいたい」12月1日発売※12／15より公開の東宝系大江千里主演映画「スキ!」主題歌
■SENRI OE CONCERT TOUR '90-'91「APOLLO」来年4月まで全国ばく進中
チケット絶賛発売中 ¥4,120(税込)(問)ハンズ TEL.03-470-3601
■単行本「レッドモンキー・モノローグ」10月22日角川書店より発売
■12月24日(月)横浜アリーナにてライブ
(問)FLIP SIDE TEL.03-770-8899

鳴いてしまいます。逆立ちをしながら聴いてみましょう。おそらく腕が疲れるだけです。⑲興味がある人はテレパシーで聴いてみましょう。一生やってな

Dreams come true

「うれしはずかし朝帰り」などの刺激的なラブソングで、全国の女の子たちの胸をくちゃくちゃにしてしまったドリームズ・カム・トゥルー。ライブではうるうると涙を流して立ちつくす美女たちが跡を絶たないというウワサです。さて今回のアルバムも、恋愛関係の人々をジェット噴射で巻き込むキャッチーな曲ばかり。パパの前で歌ってあげましょう。

「WONDER 3」 NEW ALBUM NOW ON SALE!

●CD:ESCB 1104 ¥2,800税込定価(¥2,718税抜価格)

バンビーナ吉田美和がピピッときてつけたアルバムタイトル、「ワンダー3」。この"3"という数字は数字の世界が一挙に何兆倍にも拡がる可能性を秘めたすごいパワーの数字だそうです。アルバム・テーマも"Longer than forever"となんだか奥の深い、ありがたいお言葉。じっくり聴いて研究すれば、何かいいコトありそな予感です。

収録曲目:OPEN SESAME／戦いの火蓋／さよならを待ってる／KUWABARA KUWABARA／Ring! Ring! Ring!(S・H・H VERSION)／今度は虹を見に行こう／ひさしぶりのI Miss You(東宝系映画「山田ババアに花束を」オープニングテーマ曲)／笑顔の行方(ORIGINAL VERSION)／かくされた狂気／ESCAPE／2人のDIFFERENCE／時間旅行／全12曲

[INFORMATION]

■ニューシングル「雪のクリスマス」絶賛発売中
C/W「VERY MERRY CHRISTMAS」サンタと天使が笑う夜
●CD:ESDB 3171 ¥800税込定価(¥777税抜価格)
■スーパーFMマガジン 中村正人のNORU SORU
ラジオレギュラー番組 毎週月曜25:00～27:00オンエア
TOKYO FM／FM新潟／FM長野／FM静岡／FMとやま／FM石川／FM愛知／FM山陰／広島エフエム放送／FM愛媛／※FM北海道／※FM大阪／※FM福岡(※のみ26:00～27:00)

に100回使えておトクです。

挙しましたのでお役立てください。※上記の期間は兵庫県高砂市在住の沢野晋也クン(8才)の誕生日からエピック・ソニーが独自に算出した数字です。[恋愛でオトク]①まだ見ぬ恋に
鏡がわりに。⑬待ち合わせの時間つぶしに、CDの溝を虫メガネで数えてみるのもいいですね。[パーティーでオトク]⑭よくウケ狙いでCDとお皿を間違える人がいます。笑ってあ
ーティでこのCDをかけると、女のコたちの踊りもよりパワフルに。㉖街に流れるクリスマスソングには飽きあき。我が家ではこのCDがクリスマスソングです。[大晦日でオトク]
賀状がわりに送ったりすると喜ばれます。ちょっと高価ですが。[初詣でオトク]㊶初日の出の早起きも、このCDをタイマーセットすれば、すこやかなお目覚めです。㊷この
す。54CDを聴きながらサイクリングすれば、ヒュー。別世界を走ってるみたい。55このCDならエアロビクスはもちろん、乾布まさつにもピッタリのリズムです。このC
礼に食事でもいかがですか"なんて2人のあいだに恋が芽ばえちゃったりして。66このCDを背負って旅を続ければ、"CDを抱いた渡り鳥"なんてアダ名がつくこ
い。[ギネスでオトク]77CDをノンストップで何時間聴き続けられるかギネスに挑戦だ。78CD1枚聴き終るうちに何回腕立て伏せができるかギネスに挑
出します。ちょっと重いですが。90CDラジカセの大音量で鳴らせばチカンも逃げ出します。ちょっと恥ずかしいですが。91チカン防止用として、CD2枚を

渡辺 美里

5年連続西武球場コンサート。2年ぶりの全国ツアーの成功。渡辺美里は名実ともに日本のロックを代表する女性シンガーです。でも、みんなは"ミサト"と呼んでいます。その理由は、ボクたちの視点でロックを歌っているからです。だから、明治生命のコマーシャルを見たときは、思わず「ようミサトじゃないか」とつぶやいてしまいました。

「tokyo」NEW ALBUM NOW ON SALE!

●CD:ESCB1070/CA1070各¥2,800税込定価(各¥2,718税抜価格)

tokyoはロックンロールからはみだしている。渡辺美里はニューアルバムで、新聞やニュースじゃ伝えきれない東京を表現してくれました。それは実在しない場所や、とても個人的な地域のことだったりするので、タイトルは"東京"ではなく"tokyo"です。とにかく学校の授業よりも、ボクたちは美里の歌う"tokyo"のほうを信じます。

収録曲目:Power 明日の子供 (明治生命スーパーライフCFイメージソング)/サマータイム ブルース/恋するパンクス/POSITIVE DANCE/虹を見たかい(tokyo mix)/バースデイ/Boys kiss Girls(ブリヂストンCFイメージソング)/遅れてきた夏休み/ナイフとフォーク/Tokyo/Oh!ダーリン/元気だしなよ/全12曲収録

[INFORMATION]

■ニューシングル「Power 明日の子供」C/W「Kick Off」
●CD:ESDB 3144 ¥800税込定価(¥777税抜価格)
■「misato X'mas tokyo」
12月22日(土)・23日(日)横浜アリーナ OPEN/17:30 START/18:30
チケット絶賛発売中!指定¥4,635(税込)/立見¥4,120(税込)
(問)フリップサイド TEL.03-770-8899
■年末の今ごろは、来年発売のニューアルバムを意欲的にレコーディング中。

misato・tokyo

さい。100授業中にイヤホンで聴いたりしてはいけません。ぜったいにいけません。

TMN

見たこともないサウンドで、未来を出現させてしまったTMネットワーク。そして1990年9月。新たなプロジェクト、TMNがはじまった。プロジェクトの目的は未明。まさか未来の未来を出現させようとでもいうのだろうか。気になる人はニューアルバムを調査しなさい。ヒントは、未来は過去へもつながっているかもしれないということです。

「RHYTHM RED」NEW ALBUM NOW ON SALE!

●CD:ESCB1100/CA:ESTB1100 各¥2,800税込定価(各¥2,718税抜価格)

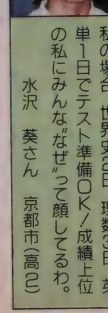
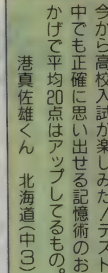
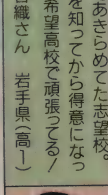
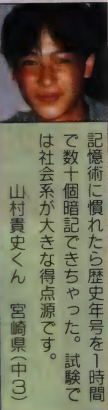
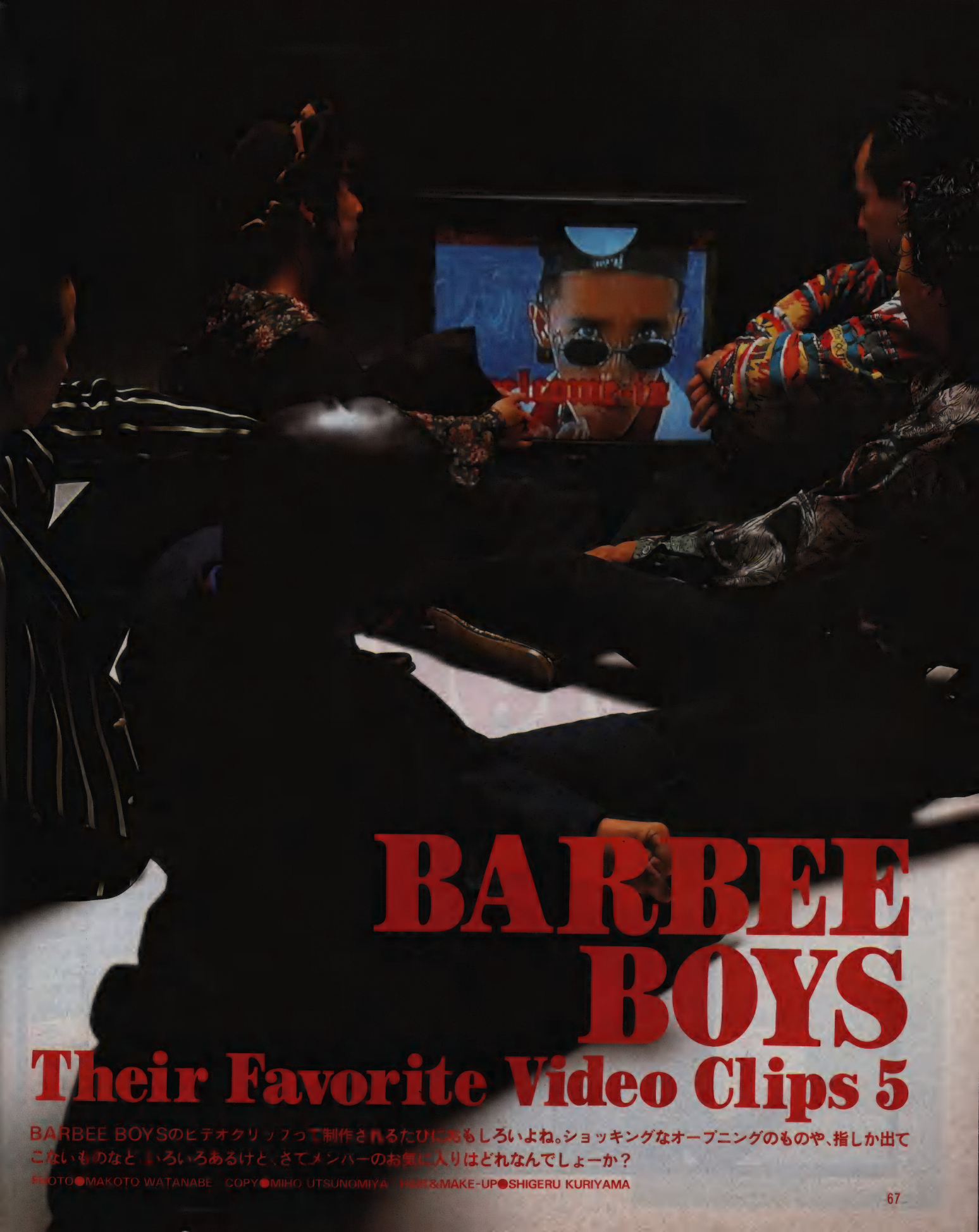
TMNプロジェクトの第1弾として、全国40ヶ所のコンサートツアーとともに発表されたニューアルバム「RHYTHM RED」。よりバンド色の濃くなった強力なサウンドは、'70年代のハードロックをほうふつさせる。まんまとみんなの期待をひっくり返してくれた。世紀末を駆け抜ける疾走感を持ったあらゆる"リズム"の集合体、「RHYTHM RED」。いますぐ脳波にインプットしてください。

収録曲目:TIME TO COUNT DOWN(マクセルCFイメージソング)/69/99/RHYTHM RED, BEAT BLACK(ハウス「O'ZACK」CFイメージソング)/GOOD MORNING YESTERDAY/SECRET RHYTHM/WORLD' S END/BURNIN' STREET/REASONLESS/TENDER IS THE NIGHT/LOOKING AT YOU/THE POINT OF LOVERS NIGHT(マクセルCFイメージソング)/全11曲収録

[INFORMATION]

■クリスマスシングル12月21日発売
①「RHYTHM RED, BEAT BLACK」②「DREAM OF CHRISTMAS (New Recording)」
●CD:ESDB3185 ¥800税込定価(¥777税抜価格)
■ニュービデオ「TMN」12月21日発売
収録曲目:TIME TO COUNT DOWN/RHYTHM RED, BEAT BLACK/SECRET RHYTHM/全3曲収録
VHS ESVU-308 β ESUU-3308 LD ESMU4308 各¥2,600税込(各¥2,524税抜)
■「RHYTHM RED TMN TOUR」
来年3月まで全国疾走中!(問)ホットスタッフプロモーション03-857-9999

RHYTHM RED

TMN

BARBEE BOYS

Their Favorite Video Clips 5

BARBEE BOYSのビデオクリップって制作されるたびにおもしろいよね。ショッキングなオープニングのものや、指しか出てこないものなど、いろいろあるけど、さてメンバーのお気に入りはどれなんでしょーか？

PHOTO●MAKOTO WATANABE　COPY●MIHO UTSUNOMIYA　HAIR&MAKE-UP●SHIGERU KURIYAMA

KOISO

もォやだ！

ライブハウスで撮ったんですけど、あれはACB（アシベ）なんですよ。どこがいいかっていうと、曲がいい。シンプルでしょ？　曲のためのビデオでしかないから。

いちばん大変だったのが衣装選びで、当時スタイリストなんていうのはいなくて、自分でなんとかしなさいって。で、何を着たらいいかなってみんなでいろいろ相談して、俺はあれを着る、私はあれを着るって、で、残された自分は何を着ようかって。結局、ハデな光りもののブルーのスーツを着たんですけど、(笑)そのことがなんとなく思い出になってますね。あと気を使ったのが、音と映像がシンクロしてなきゃいけないってところで。特にドラムの場合だとバレるでしょ？　シンバルにいったときとか。それが頭にあったもんで、「モニター、ガンガン返してくれ」って言って。ホラ、どうしても叩くと音が出るから聞こえなくなっちゃうでしょ。だから俺のところだけスッゲェ、デカい音で返してもらって。

最後に人形が出てきますよね。どこかに登場させなきゃいけないってことで、バスドラの前を貸してあげたんです。

ENRIQUE

なんだったんだ？ 7DAYS

やっぱり野外っていいよねぇ。人に言わせるとロンドンっぽいとか。雰囲気がそうなのかな？　ちょうど雨も降ってたし、空の色の感じとかもそう思えたみたい。ホントは芝浦の埠頭から出て、ずっとモノレールの脇を行ってたんだけど。(笑)船も臭くて、けっこう大変でした。

野外って、後にも先にもないんだよね、バービーのビデオって。「暗闇でDANCE」でちょこっとあるんだけど、それはセットを組んでやってたから。このビデオは何もないところがよかったかもしれない。すごくみんな自然にやれたし、おもしろいシーンもバシバシあったし。ただ楽器が濡れるからどうしようかって言ってて、結局知り合いから超安物を借りてきて、「ゴメンね、ボロボロにしちゃうけど許してください」とか言って。(笑)そんな思い出もあるな。

見どころは……あれはけっこうギャグが隠されてるかなぁっていう。イマサがギター持ってるかなって思ったら、ほうきだったりとか。あと、最後にコイソが空を見上げてニタッて笑うところ。いろいろあるね。

女ぎつねOn The Run

KYOKO

初めてお揃いの衣装を着たビデオなの。それまで一度もなくってね、全員で黒のタートルにしたのがすごく印象に残ってる。お揃いなんてバービーには似合わないって言われてたからね。(笑)でも私はけっこう好きだった。みんながいつもよりキリリと見えて……学ラン的な感じなのかな。ずっと男子ってつめ襟だったでしょ。そのイメージで、ちょっとりりしく見えたっていうかね。

このビデオの中で、キツネの手の形をするでしょ？　で、ちょうどあのころMTVが盛り上がってた時期じゃない。だから放送されてるところにコンサートに行くと、みんな、絶対キツネの手の形をするわけ。「あっ、ここではあのビデオが流れてるんだなぁ」って。マスコミとライブの関係が、ひとつ目安になった。

自分の顔の映りは、やっぱりすごく気になる。(笑)同じ日に撮っても、私がいちばん表情が定まらないのね。だからよけい気になって……あんまりって感じで映ってるのは今でも見たくないもん。(笑)でもそれを人に言うと、「えっ、いつもの杏子ちゃんだよ」とか言われてね。(笑)

暗闇でDANCE

KONTA

ヒワイ？　ヒワイだっけぇ!?(笑)だからきっとね、そういう驚かせ方みたいのをしたかったんだよね。で、できたっていうかね。なんか、毒も薬も全部入ってて、適当に薄まってて、いいかなぁっていう。なんか、そういうバービーが非常に好き。ある種、なんかあるんだよね、俺の中に。

でき上がりを見たときは……複雑だったよね、やっぱり。(笑)「うん、これはいい」いいんだけど、どこかにぬぐい去れない何かがあるなって。それが、だから今になって見てみると「オオッ、初々しいなぁ」(笑)みたいなところだったりするわけだからね。たとえばそのころって、コンテを見ても自分がフィルムに撮られてどうなってるか、想像がつかない。だから、でき上がって「？」ていうのもあったんだけど、逆にそこが楽しみだったっていうのもあるよ。

きっとね、バービーを知り始めたころに初めて見たビデオ、それと変わらない楽しみ方ができるんじゃないかと思うんだ。最初の、ワクワクして見る気分？　だから決して期待は裏切りません。

IMASA

［ノーマジーン］

「ノーマジーン」を選んだのは、プロモーションとかそういう意味じゃなくて、ひとつの作品っていう意図があるから。今までのって、わりとディレクターに遊ばれながら、なんで遊ばれてるのかわからなくてっていうところもあるからね。これはだから、一緒に遊べるような感じ。見る人に向かって遊んであげてるような。で、『moobee moe』のほうは、『eeney meeney──』のアルバムの感じとか、そこに見え隠れするのろしみたいなものを、また違った角度からいってみたっていうのもあるよね。ちょうど詞を書いてるときに、初めから映像がついてきたのね、頭の中で。普通だと曲が上がって、たとえばCDなりになってから、それをプロモーションするときに、絵をどうしようかって発想でビデオを作るじゃない？　だけど今回はそうじゃなくて、詞を書いてるとき、曲を書いてるときの、そのときの感じを絵にあてはめたらどうなるかなっていう作業なのね。だから受け取るほうにも曲のビデオじゃなくて、ビデオそのものを好きなように受け取ってほしいっていうのはあるね。

Flash Back ! Their Favorite Video Clips 5

暗闇でDANCE

もォやだ！

NORMA JEAN BY BARBEE BOYS

WHY NOT? PLEASE TELL ME

… and Other Clips

さて、制作されたビデオクリップのリストを公開。もう見ることはできないだろーか。ビデオクリップをマメに録画している友達に聞いてみたらどうかな？

1. 暗闇でDANCE
2. もォやだ！
3. 負けるもんか
4. でも⁉　しょうがない
5. なんだったんだ？　7DAYS
6. 女ぎつねOn The Run
7. 泣いたままでListen to me
8. ごめんなさい
9. Black List
10. chibi
11. ノーマジーン
12. あいまいtension

『負けるもんか』はロシア語のタイトルで、最初は一体誰のプロモ・ビデオかわからない。映像は昔の遊園地で遊ぶ人の記録映像を使っている。「でも⁉　しょうがない」は放送された直後から反響がすごくて、放送を自粛する局も。指しか出てこないビデオなんだけど、とってもヒワイ。「Black List」はベスト・アルバムのプロモーション用に作られたもの。トランプの神経衰弱のゲームに似せて、カードをめくると、ある曲のプロモ・ビデオの映像と音が出てくるという仕掛け。

どのビデオ・クリップもBARBEEならではの映像が随所に見られるんだけど、今回取り上げた5つの画面の写真で我慢してね。

日本一のBONGAWANGA男'S TOUR

VOL.2——郷里のライブ、くすぐったい心

撮影●岩岡吾郎　文●野中ともそ

久保田利伸

ライブの合間の〝オフのリズム〟を楽しむ

静岡でのライブはやりづらいような、それを越えると自分の中でもすごく盛り上がるような……新潟でのコンサート後に彼は、次にやってくるその場所のことを困ったような、うれしいような表情で話していた。

まだ両親はいいとして。友達もいいとして。困ったり照れたりしてしまうのは、ちょっと気を遣いながら独特の感じで接していた、たとえば友達の親。〝あの子も大きくなって〟なんていう目で見られたら、なんだかくすぐったいような気分。久々に懐かしい友達の家に行って、そのお母さんに遭遇した感じだろうか。

とにかく昨日と今日の彼は、そんなふうに懐かしくてあったかい場所で、コンサートをやる。そしてその日、整理された静岡の市内は、本当にそんな気持ちのままの心地よい陽射しに包まれていた。

「こんなに懐かしい街を歩き回ったのもすごく久々ですね。東京から近いから、逆にあんまりノンビリすることがなかった」

前日のライブでも「肉眼で顔が見える範囲」の中にさえ、知った顔がたくさんあったという。名前は知らないけど〝隣のクラスだったあいつ〟。近所のおばさん。そういった違う空気が混じる中でのコンサート。

「ちょっと異様ですよね。(笑)瀬戸際というか。地元ならではのお祭り騒ぎになるような気分、よし！　これはハッピーだ！　というような気分があるとしたら、その手前でこう……いろんなことがあって我に返ってしまう。いろんな……その人の顔に体験と歴史と思い出があるわけで。その中に入ってしまうと我に返っちゃいますからねぇ。(笑)そのへんの狭間で大変だという。ステージ後半にならないといつもの調子出ないって、あることはありますね」

「BONGA WANGA」を歌いながら、頭の中に突如としてわいてくる放課後の教

室のイメージを抑えるのは……確かにちょっとむずかしい作業かもしれない。そしてそれを越えると、あたたかいものに包まれたとってもハッピーな感覚が訪れる。

彼の家は市内から少し離れたところにある。けれど、この街は高校があったために、そこかしこにその時代の思い出がのぞく。

呉服町。七軒町。通りごとに名づけられたそれらの筋を車で通るときには、〝あっ、ここで左に曲がる、というのが通学路だったんですよ〟という彼の説明を受けながら。

私たちにとっては初めての街なのに、懐かしい気分にさせられそうになりながら通り抜けた。「昔よく行ってた喫茶店がつぶれて、ゲーム屋になっちゃった」残念そうに言う。けれど「土曜の昼にはランチを食べた」という〝フランセ〟という喫茶店は、まだ変わらずに通りの角にあった。

「高校のときは毎日……特に1年半くらいは、野球部にいて日曜も関係なくホント毎日通ってたから、かなり思い出深いですね」

緑に包まれた駿府公園では、小学生たちの野球をうらやましそうに眺めていた。

「ここはデートしに来ましたね。ファースト・キスもここです」と自分で言ってから、〝嘘です〟と笑っている。でももしかして、本当かもしれない。「でもここでよく考え事をしてましたね。これは本当です(笑)」

野球に追われていた毎日が、いつのまにか音楽にすりかわったときに描いた夢も、その中に含まれているのかもしれない。

「自分の選んだ道とはいいながら、野球部人形みたいな感じで、練習に明け暮れる毎日でしたね。すごい野球の名門校だったんですよ。入学式の前にはもう部員が100人ぐらい決まってて、それがあっという間に半分くらいに振り落とされちゃう。でも僕はギリギリ50人くらいに残っちゃったもんだから、(笑)ずっとへたなままで。で、試合にも出られないし、練習もただ出てるだけになってきて、やめちゃった。もったいねぇな、俺の青春、みたいな(笑)」

Toshinobu Kubota

練習が終わってヘトヘトの体で電車に揺られ、遠い自分の家に帰る、という野球少年の青春はひとまず終わり。次に少しずつ……といった感じでやってきたのが、音楽である。でもまだ、すでに学校にあったバンドに入れてもらって歌いはじめたころは、そこに賭けるという感じでもなかった。

「そんなにバンド活動の盛んな学校じゃなくて。さっき前を通った、スミヤっていうレコード屋さんの2階の貸しスタジオで、週に1回練習してたぐらいかな」

それが今につながっているのだから、なんだか不思議な気分だ。そんな過去と今を結びつけているこの街。

街角で出会ったOLふうの人たちが、うれしそうに握手を求めた。それに応じたあとで「アイツ、同級生のくせにミーハーだな(笑)」と彼。なんと同級生だったのか。

余裕があるときはツアー先の街を歩く。

「特に城下町……お堀と緑があるっていう街は好きですね。金沢は庭みたいなもの。(笑)地方で余裕があるときの、緑と風に親しむ行為はすっごく大事。体が生き返るって気がする。基本的にはやっぱり、自然があると急に血がザーッときれいになる気がする。田舎育ちだからね、海とか川とかでよく遊んだから、そういう体質じゃないですか？　そこで生き返るという」

昨日も自分の家の近くを車で通りながら、しみじみ〝いい環境で育ったな〟と思ったという。駿河湾が広がり、山が真緑でひかえて。彼の家の窓からはその両方が見える。

小さなその街の懐かしい風景を、そうやって心にとめている。

「ツアー中はそうやって、昼は街を歩いたり。あと夜は、次の日に何もないかぎり、わ

ーっと騒ぎたいという気がしますね。それが息抜きですよね。ツアーもそういう変化とかリズムがないとね。オフの過ごし方としては、スポーツをやりたいですね。野球！　メンバーとスタッフを集めれば2チームできるから。草野球をやりたいな。守備？　いろんなところをやりたい。(笑)ピッチャーにキャッチャー、内野手もいいな」

そんなことを言う彼を見ていたら、もう2年くらい前だろうか、ツアー先のロケの途中、見つけたボールでサッカーに夢中になっていたときの姿を思い出した。確か、鹿児島だった気がする。

彼にとっての思い出の喫茶店を捜そうと、私たちを乗せた車は静岡市内をぐるぐると走った。途中で記憶が定かでなくなった彼は、車を降りてそのあたりを歩き、路地をのぞきこんでは首をかしげてみる。

「道の名前も店の名前も覚えてないんだけど、道の幅で覚えてるんですよ。東京での感覚と全然違いますよね」

そのとたんに私たちは、その呉服町やら両替町やらにやたらと親しみを覚えてしまった。そして、たぶんその店があったのだろうと思われる場所を彼は見つけた。

その日の夜のコンサートで、彼は「非常に個人的なことですが」と言って、客席にいる自分の父親に「お誕生日おめでとう」を言った。その日で60歳の還暦を迎えた彼のお父さんは、息子の言葉と拍手とライトを浴びて、とても深く丁寧なお辞儀をした。少しの涙とともに。きっと彼にとって、生涯でいちばん多くの人に祝ってもらったお誕生日にちがいないと、私も心でおめでとうを言った。

今年最後のとても暖かい日に、もっと温かい気持ちを味わって、私たちは、すっかりなじんでしまったこの初めての街を、あとにした。

日本一のBONGAWANGA男'S TOUR

日本一のNEWS MAKER'S男

前号のこのコラムでも紹介したとおり、ライブ・ビデオも発売され、初の洋楽曲のセレクション・アルバムも発表。ツアーも快調と、パワー全開の久保田クン……だった。ン？　と、ところが、今回レポートした静岡でのライブを終えた11月頭から1か月あまり、コンサート・スケジュールはあいたまま。日本中を探してみたところで、どこにも久保田の姿はない。いったい、どこへ？　この号が発売されるころには、すでに12月12日からの四国ツアーが開始されてはいるものの、どうもそのナゾの1か月が気にかかる。自宅で早くも休息か……いやいや、彼はもっともっとパワーをあげて、音楽ルーツの旅に出ていたのであった。

実はこの旅、11月8日に成田を飛び立ち、サンフランシスコ～ニューオリンズ～ニューヨーク～サルバドール～リオ～パリ～ロンドン～キリマンジャロと世界各地を、サックス・プレイヤーの渡辺貞夫サンと回っていたのでした。

これはテレビ特番の取材で行なわれたもので、'91年3月21日にフジテレビ系でオンエアの予定。約1か月間の音楽の旅、きっと楽しいエピソードもたくさんあるにちがいない。次号では久保田クン自身に感想を聞いてみることにしましょう。

YUMI TANIMURA

あしたも、晴れるかな。

MY PRISM
YUMI TANIMURA

谷村有美 待望のオリジナル・コンセプト・ビデオ

「MY PRISM」12/21 ON SALE

まるで、タニムラの部屋へ遊びにきてるみたい。『MY PRISM』は、きっとあなたをそんな気分へ誘ってくれるはず。思い出トークを中心に、「がんばれブロークン・ハート」「PARADE PARADE」などの代表的クリップから未発表の映像まで盛りだくさん。

COLOR/STEREO/48分

VHS CSVM212 β CSUM3212 LD:CSLM212

各¥4,300(税込)〔¥4,175(税抜)〕

谷村有美 共感のニュー・シングル「友達」NOW ON SALE c/w BLUEじゃいられない(Saturday Night Party Mix) ◎CSDL3201/税込定価¥800(税抜価格¥777)

▶12/21(なんと、ビデオの発売日でもある)武道館X'masコンサートは、おかげさまでSOLD OUT!

CBS/SONY RECORDS

CBS SONY

CHANNEL 91
NEW SOUNDS EXPRESS

♪忙しすぎる師走を乗りきるための楽しい情報を満載／ 激動の'90年もあっけなく終わり、'91年へと……年は変わっても新たな音楽との出会いに、このページを役立ててね

鈴木祥子

いい音楽に出会えたときに味わえる快感がある

●ニュー・アルバム『Long Long Way Home』発売直後に行なわれた鈴木祥子のコンサート。感動、強さ、心地よさといったいくつもの表情を楽しめるコンサートとなった。

４枚目のアルバム発売直後の11月23、24日に、鈴木祥子のコンサートが原宿クエストホールで行なわれた。このコンサートが、東京でしか行なわれなかったことが、とても残念でしかたない。それほどいいコンサートだったことを、まず伝えておきたい。

そのステージは「Baby It's You」から幕を開けた。彼女のアレンジャーでもあるギターの佐橋佳幸をはじめとするバンドを従え、少し緊張にこわばった表情の彼女がいた。ブルーと黒のベルベットのフォークロア調のワンピース姿は、彼女にしてはめずらしく女の子っぽいいでたちだ。

しかし、ステージは、パンツ・スタイルのときよりも、どこか力強い雰囲気が最初から漂っていた。それがなんなのかわからないままに、「サンデーバザール」そして、新しいアルバム『Long Long Way Home』からのナンバー「光の駅」「あの空に帰ろう」と続いた。

「子供のころは、大人になれば、物事がなんでも見えてクリアになってくるものだ、と思っていたのに、いざ大人という年齢になってみると、子供のころよりもはるかに混沌としたなかにあって、そんななかで私は、いつか、心が帰っていく場所を探して生きているんじゃないかと思い始めたんです。それで、タイトルがこうなりました」

こんなアルバムの紹介があって、

「次の曲は、新しいアルバムの中で、私がいつか会って、いっしょにお仕事したいと思っていた大貫妙子さんに書いていただいたものなんです。この曲と出会わなかったら、私は歌うことをやめていたかもしれません」

はっきりこう言って「青い空の音符」を歌った。この歌は、詞のなかに〝あの日言えなかった気持ち伝えたい〟〝めぐり会った夢を信じて歩いていきたい〟〝新しいページをひらき　贈りたい　歌のように〟という言葉たちがある。それは、最近のインタビューで彼女が言っている「こうなったら意地でも長く歌い続けてやろうと思ってます」という言葉とぴったり符合する。どこかで力強さを感じたのは、こういったことからかもしれないと思いながらステージを追っていくと、中盤で、彼女ひとりのピアノの弾き語りにお目にかかれた。それも、ジョニー・ミッチェルの「ブルー」。この難しい名曲が、彼女の中で完全に消化され、鈴木祥子のものになっていたのには、驚きすら感じた。さらに「さよならの朗読」「月の足音」「夏のまぼろし」と４曲もアコースティックが続いたが、それぞれに表情を微妙に変化させ、飽きさせない。

そして、ステージは後半へ。バンドがフルにスタンバイするなか「夏はどこへいった」「Little Love」「メロディ」「水の冠」と新旧とりまぜた選曲で、一気にたたみかけていった。この後半を見ていて、彼女がアコースティック・ギターを抱えながら歌うさまに、妙に感心してしまった。今ハヤリのちょっとおしゃれな歌を聞かせる女性シンガーと彼女との違いが、ギターを抱えた姿だけで明らかにわかった。つまり、彼女はシンガーであると同時に、ミュージシャンなんだということを全身から匂いたたせていた。だから、ごく自然にバンドのなかにいる彼女の歌を享受でき、いい音楽に出会ったときのゾクッとする快感を味わえた。その快感が、「来年は、もっともっとライブをたくさんやっていきたいと思っています。そして、時間がたっても古くならない曲を作っていきたい」と言って歌ったエンディングの「愛はいつも」で、大きな感動のうねりになった。

アンコールの「どこにも帰らない」では終盤の強さとはうって変わり、うんとリラックスした、まるでセッションでも楽しむかのような彼女とバンドとのアットホームな世界を楽しませてくれた。

正直いって私は、彼女のコンサートで感動や、強さや、思わず顔がほころぶような愉快な雰囲気といった、いくつもの表情を見たのは初めてだった。おかげで、何年ぶりかで、コンサートが終わって家に帰ってから、これまでのすべての彼女のアルバムを聞き返すなんてことをして余韻にひたってしまった。　撮影●菅沢健治　文●藤沢映子

不器用なまでの一生懸命さがカッコいい

11月16日。この日、彼のステージはとても激しかった。ありのままの自分をダイレクトに表現していた。ライブだからこそ伝わってくる彼の〝一生懸命さ〟に誰もが魅かれていった。

木嶋浩史

11月16日、木嶋浩史のライブが原宿ルイードで行なわれた。

彼は'88年のデビュー以来、今日まで3枚のアルバムをリリースし、常に〝時代〟と真正面から対峙してきたロック・アーティストである。この日もそのアルバムから、〝現在の木嶋浩史〟をとてもストレートに表現した全18曲が演奏された。

客電が落ちるとミラーボールを3基のライトが照らし、ソリッドなエレキ・ギターのストロークが闇を切り裂いて鳴り響いた。続いてスポット・ライトが集中するステージ上に「真夜中の向こう側」を、怒りをぶつけるように歌う木嶋浩史の姿が映し出された。

そして〝In The Night! Through The Night!〟と、この曲のエンディング・フレーズをシャウトし続けるそのケタはずれの力強さで、止まっていたルイードの時間はいっせいに動き出した。とどまることを知らない激しいサウンドと、あふれる激情。それはまさに、彼の歌に対する真摯な想いをダイレクトに表現しているかのようであった。そんな空間の中「The Flag～spirit of 90'S～」「Lonely Lonesome Loner」が続いた。確かに、ありのままの心情を飾らずに表現することは難しいことかもしれない。なぜなら、そこにはみっともない本当の自分の姿と、逃れることのできない〝痛み〟があるからだ。しかし彼は自分の弱さから目をそむけることなく、その裏側にある真実をハードなサウンドに焼きつけていく。そしてその痛みが〝真実〟であるがゆえに、彼の言葉は鋭く胸に突き刺さり、着飾ることを覚えた僕らを一瞬にして貫いていく。ここに〝歌う理由〟を持っている彼の本質があるような気がした。

ノンストップで続いた4曲目は、「流花～ルカ～」。流れる花という名の彼女とのすれ違い、そして、失って初めて気がついた彼女の大切さを歌った歌である。この曲にも彼の痛みはしっかりと描き出されている。流花のことを思いやれなかったあのころの自分への怒り、そして彼女への想いが今、祈りにも似た歌声になって会場を駆け巡る。

ショートMCをはさんで歌ったR&Bの「失なわれた週末」、ブルース・フレーズを織り込んだ「天使と彼女」。ハードなサウンドだけではない、彼のもう一つの持ち味を生かしたナンバーを披露し、ハーモニカを吹きながらアコースティック・ギターをかき鳴らす「ストラグリン・ヒルの絆」が、ルイードを静かな雰囲気に包み込んでいった。

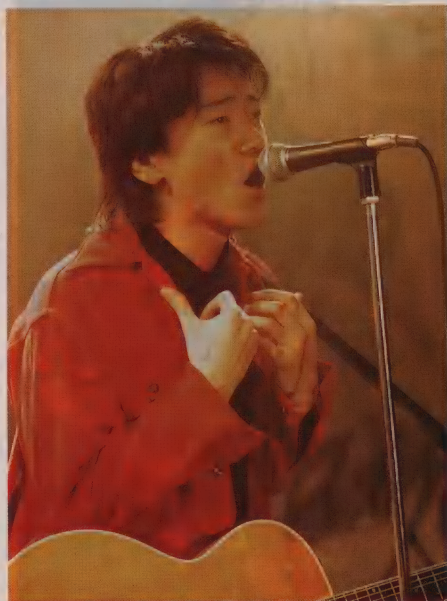
そして中盤のMC、「不器用なヤツかもしれないけど、仕事でも恋でも一生懸命やってるヤツってカッコいいよね。俺もそんなカッコよさを身につけたいと思ってます」という言葉の中には、来年26歳になる彼の等身大の姿があったような気がする。そんな想いが込められた10曲目は、「ピンボールの夜」だった。

着飾ることは簡単なこと。嘘を並べるのは、ときに真実を語るよりも楽なこと。そして流行を歌うのは、売れるためのいちばんの近道なのかもしれない。けれどあえてそれに背を向け、つまらない美意識や価値観に流されることなく、バカ正直に自分自身をさらけ出していく彼の姿は、本当に美しく輝いて見えた。

アンコールには、11月21日にリリースされたばかりの「君に、すべての愛を」、そして「Birthday」が届けられた。ここには自分自身を含め、すべてを許し、そして受け入れようとする彼の想いと、彼女への最大限の愛情が注ぎ込まれていた。自分の痛みを知ったぶん、他人の痛みと心の傷を思いやれる彼のやさしさが、シャープでワイルドなサウンドにのって、オール・スタンディングのはるか上空を吹き抜けていくエンディングだった。

流行だけがもてはやされる現代に、みっともない自分の姿を歌に投影し、それを誇りに思い、信じて歌い続けている彼の存在を、一人でも多くの人に知ってほしい。〝真実〟を言葉にすることのつらさ、そして、それを見据え続けるということがどれだけ勇気を必要とするかを……。

この日のルイードは、お世辞にも満席だとはいえなかった。それでも最後の最後まで毅然とした態度で歌いきった彼は立派だったと思うし、彼自身が内在する歌たちを愛したいと、強く思った。いつか彼のように男気を感じさせる歌が、この混沌としたロック・シーンを照らし出す一筋の光になってほしいと願いながら……。

撮影●南部康男　文●武田智弘

辛島美登里

この日は辛島さんにとって、初めての大ホールでのコンサート。そしてわずか2日前には、その週づけのオリコンで「サイレント・イヴ」がシングル・チャートの1位に輝いたという、まさにオメデタ続きの夜だったのです。もちろんクリスマス気分も上昇中だったしね。

ところで〈からしまみどり〉といえば、知らない人はまだ知らないと思うけど（当たり前だよね）、すでに『Gently』と『Good Afternoon』という2枚のアルバムを出していて、これがどちらもロングセラーとなっている人。それに「ツバメ」という曲はTBS系『月曜ドラマ・スペシャル』のオープニング・タイトルで耳にしたこともあるだろうし、最近では「笑顔を探して」という曲が読売テレビ系人気アニメ『YAWARA！』のエンディング・テーマに使われたりして、実はなかなかに人気のあるシンガーなのだ。そういう、下地はバッチリという状況の中で「サイレント・イヴ」に火がついたものだから、このメルパルクホール東京は女の子たちの華やいだ雰囲気と、男の子やオジサンたちの抑えた熱っぽい視線が飛び交って、なかなかにいい緊張感が満ちあふれていたのでした。

あらためて、辛島美登里です

11月29日、メルパルクホール東京。彼女はナチュラルでやさしい歌たちをたくさん聴かせてくれた。温かさと思いやりの心を持って。そして、観客は温かい気持ちで、会場をあとにした。

ステージに登場した辛島さんは、すごくかわいいパープルのドレスを着て、実にチャーミング。思わず女性の間から「かわいい」という溜め息がもれます。女の子というよりは〝女らしさ〟というモノと、ひさびさに出会えたような気がする。これは「とっておきの朝」から始まったプログラムが、「輝きの瞬間」「Ring Ring」と進行するうちに、本当に〝ああ、この人はそういう人なんだな〟と納得できたのだった。

つまり、素直で強くて、かわいらしくて賢い人──今よりもう少し前、日本がまだ金満国となる前に理想とされた女性像。そして今やすっかりトレンドの主流の影に姿を消してしまった女の子たち──そういう女性本来の美しい性質が、辛島さんの中ではキチンと息づいている。しかもそれがそのまま歌となって出てくるのだから、これは彼女の音楽に魅力があるのも当然のことなんだなって、ネ。

この日、ホールに来た人の中にはカップルも多かったし、きっとあのドラマ『クリスマス・イブ』を見て、興味を引かれて来た人もたくさんいたと思います。MCではこんなことを言っていました。

「クリスマスというと、いろんな言い訳なしにウキウキするような気持ちになるのは不思議です。日本人だからかな。でも、いまの男の子たちは1年も前からその日のために計画を立てて、レストランを予約してベイ浦安にホテルを決めて、続くのか続かないのかわからない彼女のためにたいへんだなあって思います。（笑）本当は、お金や流行ではないような気がする……」

みんな、よく考えればそんなことわかっているんだと思うのです。お金を使うことが愛情やオシャレなんじゃなくて、二人で一緒に楽しめることが大事なんだって。それに、人生いつも恋愛しているわけではないんだから、一人でクリスマスを過ごすこともおかしくないって。ただ、雑誌やテレビが、みんながそうしているゾっていうから、流されちゃったわけで。

でも、たとえばその夜、会場に来ていたカップルの人たちも、きっと辛島さんには満足してくれたと思います。（もちろんシングルの人たちもね）なぜかというと、辛島さんの歌には、ラブソングでも恋人と別れてしまった歌でも、自分がスックとひとりで立って歩いていけることの大切さと、それゆえの相手への思いやりとが満ちているからです。

愛しているときも、別れてしまったときも、これから出会う誰かへの準備という意味でも、彼女の歌はとてもナチュラルでやさしい。こんなふうに人として、女性としての基本を歌える人って、他にはいないと思う。ちょっとヒネたり、ひがんだり、憎んだりしても、温かさと思いやりとでダメージをカバーしていく。きっとそれが、辛島さんのやりかたなのでしょう。だから愛するときには心から素直に君を愛すわけで……。

というわけで、誰もが彼女からのぬくもりをわけてもらって、ポッと温かい気持ちになれたコンサートでした。きっと'91年は辛島さんのように、本当に大切なことは何なのかなって、キチンと見つめている人や音楽が主流になるのではないでしょうか。

撮影●藤田正弘　文●高山真由美

初の渋公ライブがビデオになって発売だ！

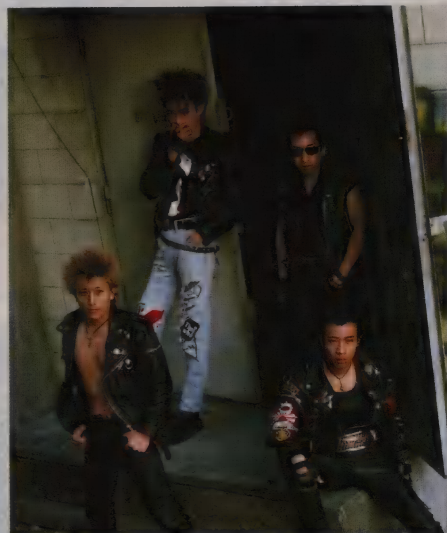
いきなりだが、来年1月17日・18日に渋谷公会堂2daysが決定した。これも、彼らの人気が急上昇している証拠だ。(しかも2daysだし)

さて、その前にファンのみんなに知ってほしいことがある。渋谷公会堂でのライブ――そう、現在も続行中の〝Sexuality〟ツアーの初日、9月29日のライブで、初めてのホール・ライブの日であった――がビデオとレーザー・ディスクになって1月11日に発売される。緊張と興奮と熱狂がいっしょくたになって走っていたようなあの瞬間がそのまま詰め込まれている。48分間、全14曲が収録された今回のビデオには、11月に発売されたばかりのアルバム〝Sexuality〟からのチューンも入っているのでこれは必見。まばたき不可能のスピード感とそのビジュアルにも楽しみがいっぱい。ただ熱いだけではなく、SEXYでおしゃれで彼らしいエッセンスがいっぱいつまった作品だ。お年玉をとっておいて、ドーンと奮発する価値はあるぞ。行った人は思い出に、行けなかった人は渋公追加公演の予習用にほしい1本だね。特典として初回のみ6枚組ポストカード・カレンダーが特殊パッケージで封入してあるよ。お値段のほうは4800円です。そうだ、このビデオのタイトルは「FILM BY-SEXUAL 2〜LIVE IN SHIBUYA KOKAIDO〜」という。

BY-SEXUAL

来年1月、謎のスペシャル・ライブを開催！

秋以降、全国のライブハウスを精力的にまわっていた横道坊主。そのスピリチュアルなメッセージと強靱なサウンドは、新たなパワーとより豊かな表現力を得て、見る者の心と体に改めて何かを刻み込んだはずだ。

そんな充実したライブ・ツアーとともに1990年をしめくくる横道坊主だが、来たるべき1991年も早々から我々をゾクゾクさせるようなライブを企画しているらしい。〝横道坊主vs暴動坊主〟というタイトルのスペシャル・ライブが、1月7日の新宿パワーステーションと11日の大阪バナナホールで行なわれるというのだ。暴動坊主とはいったい何者なのか？ そのプロフィールなどについてはいっさい公表されていない。ライブの内容についてもすべてシークレット。あたかも〝すごいものを見せてやる。その目で確かめにこい！〟といわんばかりだ。これは足を運んでみる価値がありそうだ。

なお、横道坊主はこのあと1月15日に札幌ペニーレインでのライブを経て、4thアルバムのレコーディングに突入する。今回は完全セルフ・プロデュースによる国内レコーディングという形をとるらしいが、今から完成が楽しみである。1991年も横道坊主から目が離せそうもない。

横道坊主

彼女が見つけ出したCCHDとは？

本城未沙子のニュー・アルバムが12月21日にリリースされる。タイトルは『Shall We Dance』。そうです、かの有名なミュージカル『王様と私』のメイン・ソングと同じタイトル!! 実はですね、本城がダンスが付くいいタイトルはないかなあ、と日々、考えていたある日、地下鉄に乗っていたら、なんと『王様と私』のポスターが目の中に飛び込んできた。そして、〝Sall We Dance!!〟これしかない!! と確信した。

今作は、昨年の春（3月5日）に再活動第一弾としてリリースした『VISUALISE』シリーズの第3弾で、完結編でもあるのだ。

「音楽活動を再スタートして、3枚アルバムを作っていく中で、自分の変化みたいなものが出せて、3枚目で今後、本城はこうなっていくよ、という入口になればと思ってて……。何もつかめなかったら、音楽をしていてもダメだな、と自分では思ってたんですよ」

話はさかのぼるけれど、ヘビーメタルというジャンルからデビューして、カテゴライズされた中で歌うことに疑問を持ち、一時、音楽を休止して、そもそも好きだったダンス、舞台をやっているうちに歌うこと、音楽がやっぱり好きだった自分に気づき、今度はスタイルにとらわれるのではなく、自由に自分のイメージやチャレンジを音に、歌にしたのが、この3部作だった。

ダンサブルで、でもハードなギターワークがきいているサウンドをやりたいと、フェンス・オブ・ディフェンス・プロジェクトとレコーディングをしたり、それをもとに、ライブをした中から生まれたキーワードが、キュート・クレイジー・ハード・ダンス・ロック（通称CCHD）。

「CCHDって、これ以上なにもないやっていうぐらいに自分の思っていたもので、今は音楽性っていうだけじゃなくて、自分の性格であったり、生活であったりとかだな、と思うんだよね。私、ベッド・ミドラーがすごく好きで、このあいだ出た新しいアルバムも、女の子の気持ちみたいなのを歌ってるんですよ、オバさんなのに……。で、役者さんもするんだけど、なんかすごくハードで豪快なことやるのね。でもものすごくキュートでかわいいの。私もああいうオバさんになりたいな、とか思って、〝やっぱり女の子はキュートでなくちゃ!!〟なんて思うんですよ。そういうのがね、ステージとか音で出せたらいいなって、思って……」

漠然とあった本城の中の音楽が2枚のアルバム制作とライブの中で、ひとつの形となって見えてきた。

「ライブの中から、CCHDロックというのが出てきたわけだから、これはライブのメンバーでやれるんじゃないかな、と思って作り出したのが今回のアルバム。それでプリプロを始めたときに、〝これは自分の頭の中にあるものが音になるな!!〟ってすごく感じて……。なら、詞も全部書きましょ、って感じで、できあがったんです」

だから〝Shall We Dance？〟。もちろん、〝踊ろうよ!!〟って思いもあるんだけど、〝みんなで踊って、キュートになろうよ、すてきになろうよ!!〟っていう本城の思いが込められたタイトルなんだな。女の子の本当のキュートさってヤツをねっ!!

本城未沙子

撮影●南部康男　文●河合美佳

永田真代

ビートに溶け込むほど全力投球の初ライブ！

ようやく初ライブ・ツアーを行なった永田真代の11月26日、大阪ミューズホールでのライブをレポート。今後の彼女のステージにおけるエンターテインメント要素に注目できそうだ。

ゆっくりとネジを巻いて彼女はステージに登場してきた。大きくあふれそうな瞳にうれしさを満載して。

フォーライフ・レコードがオーディションで、すごい数の女の子の中から選んだ永田真代の初ライブが、大阪のライブハウス、ミューズ・ホールで行なわれた。初ライブというと、アルバムを2枚も出しているので少し変な感じもするが、要するにじっくりと練り上げるためにそれだけの時間がかかったみたいだ。

ダンス・ビートとチャーミングなバラードが、アンコールも含めて18曲。それらがオープニング・ナンバーから全力投球で客席を襲う……というと大げさすぎる表現になってしまうが、気合いの入り方が違った。パワフルというのでもなく、エネルギッシュといっても少しはずれる。今までのライブという概念とは違った新しい考え方で、アプローチしていることがわかる。そう、たとえるなら、今からハヤリそうな気配を見せているスノー・ボードの感覚。雪の上をサーフィンするスピーディーでダイレクトな気分が味わえた。

でもすごく練習したんだろうなって、僕らを楽しくさせてくれる彼女の一生懸命さに、感じ入っていることも事実だ。パフォーマンスを自分たちで作り上げることは今の時代では簡単なことだろう。しかしそれを、対象を決めて見せるとなると、これは大変なことになる。まず規定種目があってから自由演技に移らなければいけない。フィギュア・スケートや新体操などのパフォーマンスなら、別々に分かれていて、2度にわたって表現できるが、ライブでそんなことはできない。それをひとつにして、そして、それ以上のサムシングというパッションを来てくれた人にあげないといけない。

「私、本当にうれしい。今日は最後まで盛り上がろうね」ってみんなと約束した真代は、いきなり「NOBODY KNOWS YOUR MIND」「ダンス・フリーク」「ききわけのないCOOL」をダンスしてみせた。十分とは言えないけれど、完成し消化した自信がダンスを光らせている。ビートにのった冴えた彼女の反応が、曲を追うごとに高まる。初めて見るファンは、歌が進んでいくごとに少しずつ、座ったままだが足をステップさせ、踊りたい様子を隠せなくなってくる。

真代はそんな様子にまったく気づいていない。このへんが初々しいところで、どんどん曲を追う真代に、今度は逆にファンがどんどん迫っていくことが始まった。

中盤、彼女のシングル・カット曲「KISSの場所」でファン全員が立った。うれしそうに真代はステップしながら歌う。続く、原田真二が彼女にプレゼントした「SWINGER」で、ファンと真代のテンションが結合した。

そのあとのMCは、何を言っているのかまったくわからないけれど、〝よ〜くわかる真代の気持ち〟が会場いっぱいに広がった。そして新しいアルバム『JUST ME』から、彼女が初めて書いた曲「午後の光の中にいる」をピアノの弾き語りでしっとりとかみしめるように聴かせた。

アルバム・タイトルどおりのそのままの真代がいる。キャッチ・コピーをもうひとつ付けるなら〝裸のままの真代〟にしようと、この曲を聴きながら僕は思った。ついでバーブラ・ストライザンドの名曲「スーパースター」をカバー。彼女の夢が静かに燃えていることを知らせるナンバーだ。「ミュージカルをしたいの。ビートがあってたいくつしない、スケールの大きな」と言っていたことを思い出した。

後半に入って会場と一体化したステージは、申し分のないハッピーな表情で運ばれた。ファンはそれぞれに好き勝手なステップを踏んで、この解放感と爽快なビート・フィーリングを楽しんでいる。だが、真代は楽しんでいるファンの顔を捉えることができないほどに、自分自身でもそのビートに酔っていた様子だった。

アンコール。予定はしていなかったから、好きなナンバーを選んだ。「KISSの場所」は、彼女にとっていちばん自分を出せる曲なんだろう。2回目の「KISS〜」は、彼女の完全な自由演技のパフォーマンスとなって、サウンドに溶け込んで、彼女の身体が一瞬ステージから消えてしまった錯覚に陥ってしまった。それほど、彼女はビートを愛しているんだと気がついた。

ライブを初めて体験した女の子は、その後に会うと女性になっていた。

撮影●菅沢健治　文●佐伯進

みごとな演出の中で光る彼女の存在

浜田麻里

いつからだろうか、ロック・コンサートがショー・アップされ、エンターテインメント性を強めていったのは……。

発散する場所を見失っていた若者のパワーは耳を裂くような電気音に反応し、ロックという音楽が、若者のステイタスとして出現した。若者たちはロック・コンサートに集い興奮した。その興奮を聴覚的にあおるようにP.A.システムが出現し、視覚的にも興奮させるように、照明がそのビートに合わせて、カラフルに、そしてパワフルに、ものすごいスピードで演出を加えた。

今から何十年前のことだろう。ロックはプリミティブな演出だけで十分に興奮できた。そして時間の流れの中で、この演出は巨大化した。コンサート自体のスケール・アップ化と、プログレッシブ・ロックなどの壮大なサウンドの出現によって……。

'80年代中期ごろから、日本でもロック・コンサートにおける演出のスケール感、エンターテインメント性は重要な要素となっていった。しかし、'80年代末、'90年代に入り、〝近ごろ、この演出というものばかりが取りざたされすぎてはいないだろうか?〟とふと考えてしまうことがある。

11月23日、代々木体育館、9月6日よりスタートした浜田麻里のツアー〝COLORS〟のメイン・イベントともいってよいこの日。ステージは数えきれないほどのバリライトに、レーザーと、見事な演出が用意されていた。

けれどこの日のステージでは、確かにそのスペースと仕掛けの髄をつくした演出に圧倒されはしたものの、演出だけが頭に残る、というような思いはまったくしなかった。

オープニングのSEが流れ、降ろされた幕の後ろ側で「Is This Justice?」を歌い始める浜田。そのもったいぶったオープニングの演出もさることながら、意外にも渋いグレーのコートに身を包み、ギターをかかえて出現した彼女には、一瞬、息をのんだ。間奏でコートを脱ぐと、中はゴールドの総スパンコールのパンツ姿。

白いドレスで聞かせる「Open Your Heart」「Monologize」「Empty Room」のバラード群。後半戦は、パープルの総スパンコールのミニドレス。その下に白のミニドレスをもうひとつまとっていた!!

そんな衣装とサウンドの変化に合わせてバリライトが、レーザーが、ステージ上はもちろんのこと、客席までもがステージとばかりに照らしまくる。

ステージ両サイドに作られたスペースでは、キーボードとバイオリンによるファンタスティックなサウンドが奏でられ、「Promise In the History」では、浜田自身が右側上空に設けられたピアノで弾き語りを聞かせてくれる。

マグネシウム、銀テープ、電飾。 次から次へとみごとに、そのスペースを十分に生かした演出が施されていく。けれど、そこには必ず浜田麻里がシッカリといた。

ハードロック・ボーカリストからロック・ボーカリストへ。そして、より幅の広いボーカリストへと成長を続け、アーティスト・アイデンティティを明確に持った浜田麻里だからこそのステージ。久々にエンターテインメントたっぷりのロック・ライブだった。

撮影●菅沢健治　文●河合美佳

吉田拓郎

11月15日、ライブ〝男達の夜〟に女たちは……

男たちから圧倒的に惚れられるタイプの男がいる。吉田拓郎は、まぎれもなくそのひとりだ。しょせん人間はナマ身であることのもの哀しさも、無限の喜びもさらけだして歌ってきた。毎日を生きていくことの肌ざわりをざらりと感じさせてくれる歌。男たちは、その歌の中に、生活感覚だとか価値基準だとかを共有してきたのだろうか。

もちろん吉田拓郎には、女性ファンもめっぽう多い。だけど、たまらなくあこがれる〝男同士の世界〟には入りこめない。男と女という二元論でくくるつもりはさらさらないのだが、拓郎と男たちとの、緊張の熱を帯びた、ある連帯感を目のあたりに見せつけられると、女たちは〝ひゃああ……〟と興奮してしまう。それはしかたのないことだ。たとえば'90年11月15日、武道館でのオープニングが、そんな瞬間の〝例〟である。「拓郎、出てこい!」「ばかやろーっ」ケンカを売るようながなり声の大音響に迎えられ、拓郎は登場するのだ。

この日のステージは〝男達の詩〟と題されている。男も女も押しかけた。拓郎は「こんばんは」とさりげなくひとこと発したあと「抱きたい」から歌いはじめた。

バッキング・メンバーには、元オフコースの松尾一彦や清水仁の顔も。拓郎はどの歌でも、歌い終わるとすぐさま、マイクスタンドわきの譜面台から用済みの歌詞カードを無造作にハラリと床に落とす。そして、ゆるぎないサウンドのエンディングを縫うように、腰を沈めてギターをかきならし、ステップを踏む。白いスニーカーの動きは、とても軽かった。ときおり見せる背中は、しんとしていて広かった。

新しめのナンバーと入り混じり、「されど私の人生」「ひらひら」「春だったね」「ペニーレーンでバーボン」……といった'70年代のなつかしい作品もあったが、どの歌にも〝オンリー・イエスタデー〟の近さでひきつけられ、それでよけいにうれしくなる。さらに、大胆なアレンジによる「神田川」(作詞・喜多条忠、作曲・南こうせつ)まで飛び出す。かぐや姫による'73年の大ヒット曲である。♪若かったあのころ何も怖くなかった……。拓郎は、どんな気持ちからセレクトしたのだろう……。

その鍵は、MC(しゃべり)にあるような気がした。

大学の後輩の車で広島から東京へ乗りつけた日から、「東京はどうしちゃったんだろう、まったく」という今日までの話……。「(東京を)なんとかやっつけてやろうと思った。杉並区のアパートのドアを開けると、なんとなく夢がころがってる気がした。今はまったくちがう。(笑)東京にはイヤな野郎、イヤな現実……。もしかしたら僕たちには(ほかに)行き場があるのかも。テーマは人間の居場所」そしてギター一本で弾き語った「中の上」と「東京の長く熱い夜」は、この日の圧巻だった。

やるせなさも愚かさものみこみながら、拓郎が旅をし、吠えているうちは怖くない、まだまだだいじょうぶいっと、男も女も力がわいてくる。拓郎は鋭敏で、初々しかった。前へと進むものは、いつも、なんてステキに〝未完〟なのだろう。

譜面台から18枚の白いカードが舞い落ちて、拓郎は「また会おうね」と両手を振った。

文●四方淳子

ベスト・アルバムを出して"もーいいかい?"

東京少年

『もーいいかい』。12月16日、そういう名前のベスト・アルバムが発表された。もういいかい？　っていわれても、ちょっち「まーだだよ」って返したくなるぐらいのタイミングでのベスト。でも、これには何かわけがあるのかもしれない。ってことで、笹野はんに聞いてみてん。

——この時期にベスト？

笹野　早いといえば早いんだけど、ウチの場合はそういうのも意味があるかな、って。

——というと？

笹野　シングルになった曲しか耳にしてないファンの人たちがいるとすれば、その人たちにはバンドの一貫性がつかみきれてないんじゃないか？　って思ったんですよ。音楽性の面とかでみるとウチのシングルは毎回バラバラだし。それを今回みたいに全部ならべてみることで大ワクを知ってもらって、そこから各々のアルバムに深く入っていってもらいたいと。そういう導入部としてのベスト、でもあるんです。曲順も、作品の時代順にさかのぼって、最後に「ハイスクールデイズ」がくるような形になってるし。

——この選曲は誰が？

笹野　私とスタッフ。取材のときとかに「今回のアルバム、どの曲が好きですか？」って聞かれて「全部好きです」って笑ってごまかしてたりするんだけど、(笑)やっぱり好きな曲ってある。というより、これだけは人に聴かせたい曲、かな？　たいていそれは、言葉と音がガッチリくい込み合った曲だったりするんだけど。今回はそういうモノを選んだ部分もあります。

——私的な作品よりも、もっと外に向けた作品が選ばれてる。

笹野　そうですネ。で、そこで気に入ってくれたら「ちょっと、ちょっと、こういう曲もあるんだけど」っていうふうに引きずり込んでいく。(笑)

——アリ地獄かッ。(笑)

笹野　ま、とりあえず基本はビギナー用なんですけど、マニアックなファンの人にもきっと楽しめるベストになってるハズ。

——マニアックな人に向けては何が？

笹野　業界初、2つのブックレット付き！(笑) CDが真ん中にあって左のブックレットが写真集、右のブックレットがデータ集という。

——データ集って？

笹野　過去のライブ・ツアーの日取り、曲順が全部出てる。で、写真集のほうは頭刈り上げ時代からの写真が。

——さて、こういうアルバムを出して、今までを振り返ってみるとどんなカンジ？

笹野　アルバムごとの違い、ありますよネ。1stはアマチュア時代のころの作品を収めたものだから、なんら悩むことなしに趣味の曲づくりをしてる。曲ができたときの恍惚感が外に爆発してる。(笑) 2ndのほうは東京に来てからの曲。でっかい音を出すと苦情のくる環境の中、頭の中でガーッと言葉を探して、内側に入ってったカンジ。

——そういう違いとは反対に、全体に共通する感覚っていうのもある？

笹野　それは〝仲間〟っていうキーワードでしょうね。仲間とどうかかわってくか？　みたいな。1stにしても〝寂しさ〟を感じて詞を作ったりしてたし。

——今はどう？

笹野　単に「寂しい」っていうのは、「私は今ここにいる」っていう自信ができたら、「この人といれば」という人が現われたらすぐ解消されるハズ。だから、そのレベルでいつまでも「みんな一緒にいたいよネ」って歌い続けるのは不可能なんですよね。で、今回のベストでひと区切りつけて、これから自分はどこへ向かっていくのか、ちょっと深く考えようかと思って。

文●今津甲

世紀末を迎え、ついに宇宙人バンド出現！

ホント、冗談じゃないんだってば！　世も世紀末を迎え、何が起こったって不思議じゃない。そう、宇宙人がバンド・デビューしたことだって!! 前号でもちゃんとお知らせしたじゃないっ。ナニ、見逃したの？　いったい、どんなヤツらだって？

その名はFUNKY HORROR BAND(F.H.B)。メンバーの、アビビ、クラウス、カルーン、メンデス、ワリィ、バムの6人は、あの古代アトランティス大陸が大西洋に沈む直前、あるメッセージを携え、宇宙に放たれたロケットから生まれた宇宙人だ。ロケットが着陸したホラホラ星から追われ、そのメッセージを伝えに地球へやって来たという。

そのメッセージとは……。10月21日リリースしたデビュー・アルバム『F.H.B』をぜひ聴いてもらいたい。今の私たちが忘れかけてる、ホラ、アレ。もう照れるじゃない。〝愛〟だよ。まぁ、愛にもいろいろありまして……。家族や友達、通りすがりの人にだって分けてあげなきゃいけない愛もある。本当は人間が持ち合わせていなければいけない、そんな心の温かさを彼らは教えてくれる。

特に今回のシングル「THE BOXING DAY」(11月21日発売) では、彼らの温かいメッセージがたっぷり感じられる。〝BOXING DAY〟って聞いたことない？　イギリスとかクリスチャンの間で定着している習慣で、クリスマスに働いていた人々にプレゼントを贈る日だそうだ。そんな習慣に共感したF.H.Bが作ったというこの曲、クリスマスの華やかさがある明るい曲。お父さん？彼？　誰かに感謝する気持ちといっしょにプレゼントもいいじゃない!?

また、12月16日に発売された「SEARCHING FOR ATLANTIS」というビデオでは、見たこともないようなユニークな彼らのキャラクターとサウンドが体験できる。ビデオの前半では、彼らの誕生から現在までを映像化。J.ルーカスの門下生キース・ホールマンを監督に3億円をかけて作られた。SFXを駆使した、その映画顔負けのスケールは迫力満点。見る人を楽しませる。

これから、いろんなカタチでキミたちの前に現われるF.H.B。今のうち、彼らの実体を確かめておかないと、時代に遅れる可能性大だゾ。

文●伊藤しげ子

FUNKY HORROR BAND

ローリー様、'90年と'91年を語る.／

●ファッショナブルでカラフルで、ちょっとお下品なローリー寺西ひきいる〝すかんち〟。さて、ローリー様に今年を振り返ってもらいつつ、来年への意欲を語ってもらいました。

すかんち

'90年は、すかんち元年といっていいほどの大盛り上がりを見せた、すかんち。あれよあれよという間に、好きモノなみなさんの人気者に。で、そのめでたい1年を振り返ってもらおうと、現在彼らがセカンド・アルバムをレコーディングしているスタジオをお訪ねした。

「ボンジュール、お嬢さん♡」

まあ、これはローリー様。さすが、レコーディング中でもそんなカッコなんですね。目バリもばっちり。

「ほんの普段着です」

ほお、そうなんですか。

「今、世界一すばらしいセカンド・アルバムが完成しようとしています」

本当？　本当に世界一!?

「たぶん」

ローリー様ってば、急に口調が弱くなったりして。さて、このすばらしき1990年を振り返ってみて、どうでした？

「'90年は僕らがプロとしてデビューできた記念すべき年でした。みなさんご存じのように、ありとあらゆるバンドがデビューしましたが、僕らもそういったブームの中でデビューして、ビートバンドの仲間に入れられそうになったこともありましたが」

大丈夫です。誰も間違いません。

「20なん年間生きてきて、こんなにも激動の年はなかったですね。生活の環境が変わり、趣味でやってきた音楽が仕事となり。でも、少しもつらいとは思いません」

忙しい、忙しいってブツブツ文句を言ってたじゃないですか。

「文句は言うけどつらくないんですっ。僕は、音楽を愛していますから。それを仕事にしてるわけですし。だいたい、僕は仕事をせずにはいられない男なんです。この前、久々の休みが2日間あったんですが。不安で不安で」

なにが不安なんです？

「忘れられてんとちゃうかな、と思うと、夜も眠れなくて……」

あ、ようするに貧乏性ですね。

「しっ！　世界でいちばんゴージャスな男に向かって、なんてこと言うんですか」

来年の抱負は？

「来年はさらにすばらしい音楽を作りたいですね。でも、一気にスターダムにのしあがりたいとは思いません……」

あれ？

「彗星のように現われて、消えていく。そんな定めのバンドもあるでしょう。でも、僕らは着実に、階段を一歩一歩踏みしめて上っていくように……、あ、しまった」

デビューしたころ、彗星のように現われて、一気にスターダムにのし上がることになってましたよねえ。すかんちは。

「うー、しまった」

失言ですね。

「あー、それはですねぇ。ムワドモアゼール……」

自分のカリスマ性に説明がつかなくなってません？　ま、聞きのがしてあげましょう。で、次のアルバムは？

「すばらしいですよ。僕らの才能は枯れることをしらない。なんたって1日に8曲も作ってしまうんですから」

それぞれの成長は？

「伸びましたよー。そうですねえ、特にボーカルの人が」

結局自分の話しかしない。

「驚くべき成長ですよ。声にディストーションがかかるようになっちゃいましたからね。それはなぜかといいますと、ここだけの話ですけどね、ボーカルの人はね、ちょっと金ができたもんだから、犬の声帯をはめこんだんですよ」

はいはい、それはすごいですね。

「来年もすてきなウソつきでありたいと思っています」

年末のご予定は？

「30日に新宿パワーステーションでライブがあって。31日も、元旦もイベントがあります」

働きますねー。

「休みが不安なんです」

やっぱ貧乏性。

「ウッ……」

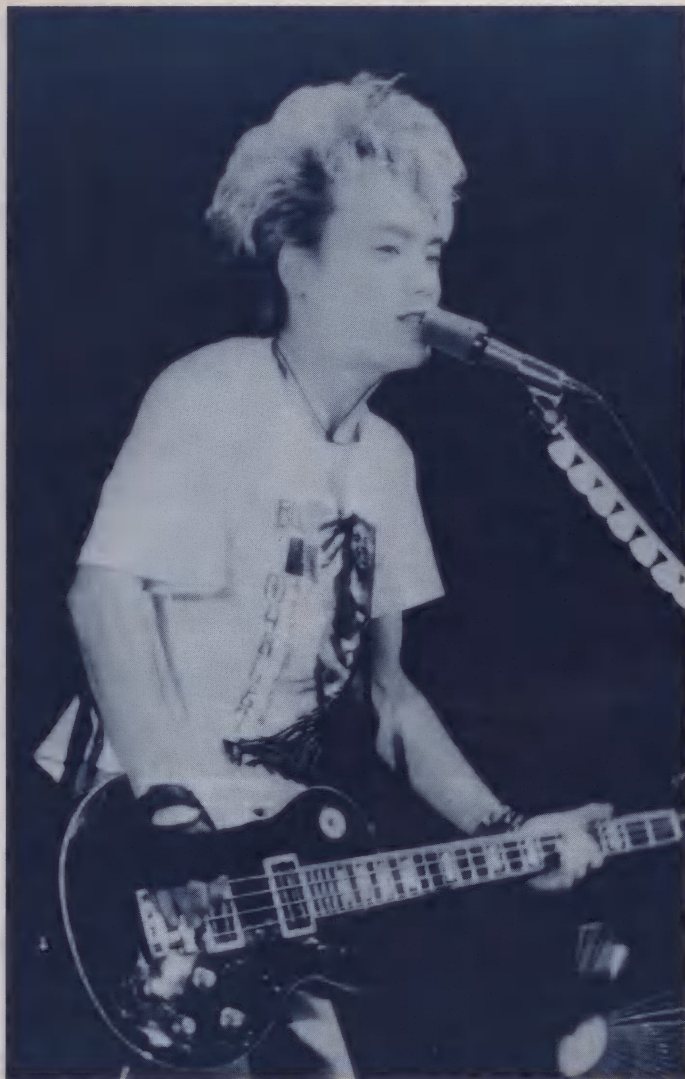
撮影●渡辺マコト　文●能地祐子

すかんち ローリー寺西先生の 秘密の玉手箱

あなたのローリー寺西が、みなさんのお悩みに答えるこのコーナー。'90年最後はちょっと人情風味を織りまぜてお送りいたしましょう！

●私は兄と相性が悪く、いつもケンカをしてばかりいます。なぜかというと、私のほうが兄より体が大きくて強いので、ケンカをしてもいつも私が勝ってしまうからです。ローリー様にはお姉様がいるそうですが、ケンカはしますか？（青森県／水瓶座の女）

「いくつの人なんでしょう、この人は。中学1年だったら女の子のほうが大きいだろうけどね。でも、ご心配はいりません。だって、お兄さんよりも大きくて強いからケンカをしちゃうんでしょ？　だったら、あなたから暴力をふるわなければ、大丈夫。それでもケンカになるとしたら、あなたはお兄さんになにかマズイところでも見られたのでしょう。でもね、時が解決してくれます。若いうちはケンカをしても、年をとると兄弟っていうのは大切になるものです。ウチには姉がいますけど、23歳のときに僕が生まれて……そんなわけないでしょッ。僕には2つ上と4つ上の姉がいます。小学校のときから姉弟で〝ザ・ヤンチャーズ〟というコーラス・グループをやったりして、すごく仲良しでした。けんかをしたことはありません」

ご相談のある方は、〒156 東京都世田谷区千歳郵便局私書箱15号 CBS・ソニー出版GB編集部〝ローリー寺西の秘密の玉手箱〟係にお手紙、お葉書をお送りください。

ガンガンと身体に突き刺さるライブ!

デビュー以来、その熱いライブ・パフォーマンスで人気のすそ野をジワジワ広げているスパゴーの、新宿日清パワーステーションでのテンション高いライブの模様をお届けしよう。

この日の新宿パワーステーションは熱かった。B1で見ていても、B2の熱気が下から伝わってくるのである(パワーステーションは、B2がオールスタンディングのスペースで、その上に食事をしながら座って見られるディナーシートの特別席があり、その上に20歳以上の人のみが入れるB1フロアがある。当然ステージはB2にある)。伝わるといっても観客の熱気が湯気となって上まで昇ってくるという直接的なものではなく、B2の観客の異常に興奮しきった空気が、同じスペースを共有する空気の微妙な振動をとおして、肌にビシバシ突き刺さってくるのだ。僕自身、恥ずかしながらSPARKS GO GOのライブは初体験だったのだが、彼らがこんなにも熱く激しくかっこいいバンドだとは知らなかった。う〜ん、今まで気づかずにいて損したぜ。

今回のパワステのライブは、今年の初秋まで行なわれていた〝電光石火ツアーII〟のスペシャル版であり、東京の人にとっては、渋谷クラブ・クアトロのライブの追加公演という名目で行なわれていた。まあ名目は常に名目であって、タイトルがなんであろうと、要は中身が楽しければいい。追加公演だろうが、ファースト・コンサートだろうが、振り替えライブだろうが関係ない。そんな気持ちをいちばん理解しているのが観客なのだろう。先にも書いたが、とにかくSPARKS GO GOを見るためにパワーステーションという場を与えられたという感激が、観客の身体からヒシヒシと伝わってくるのである。もう、1曲目の「Walking Talking」から、B2フロアでは熱気を帯びた観客の高波が、怒濤のごとく前後に行き交っている。しかも踊りまくってる観客の一人一人が、顔に満面の笑みを浮かべながら、彼らの歌を歌っているのだ。

ステージはといえば、やはり観客の熱気を十分身体に感じているのか、ステージに上がるやいなや、気合い十分のポーズを決めて、ブ厚く弾けるロックンロール・ナンバーをビシバシと速射砲のように繰り出していく。特にVo&Bの八熊慎一のベースからは、ヘビーにウネるメロディーやフレーズが、たたみかけるように、ガンガンと身体に突き刺さってくるのだ。通常ならばリズムをキープし続ける役割のはずのベースだが、一度彼の手にかかれば、まるでダンスを踊っているかのような、ゴキゲンなリード・ギターならぬリード・ベースへと変わってしまう。スパゴー初体験の僕としては、バンド・サウンドとしてのテンションの高さもさることながら、八熊君のダンシング・ベースに、非常に感動を覚えてしまった次第である。

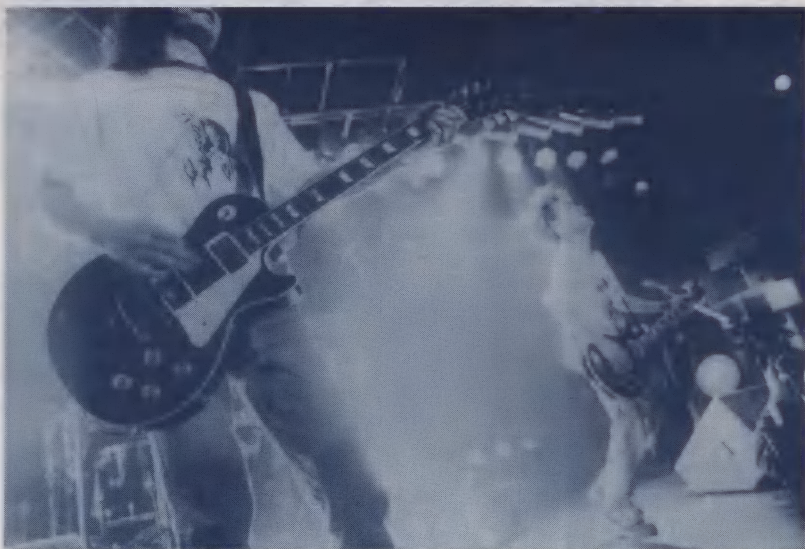
ステージのほうは「DA・DA・DA」「からまったSTEP」「MISTAKE」と、スピード感あふれる演奏で、テンポよく進んでいく。この日はメンバーにとっても特別な感慨があったのだろう、途中スペシャル・サービスとして、沢田研二の「危険なふたり」や、懐かしいBe-Modern時代の名曲「STEPPIN' OUT」を演奏したりと、通常のライブとはまたひと味違った、SPARKS GO GOの側面をのぞかせてくれた。またこの日は、来年リリース予定のアルバムに収録するであろう、新曲のバラード・ナンバー「Twilight Moon」(人前で初めて演奏したそうです)や、「革命列車」などを、いち早く聞かせてくれたりもした。

後半に入ってからは、再びテンポアップしてノリノリのナンバーでたたみかけてくる彼ら。「極楽天国」「ダイヤモンド・リル」「CRAZY」「ALL THROUGH THE NIGHT」と、ラストまで、まるで巨大な人の波と戦う伝説のサーファーのような熾烈なバトルが、メンバーと観客との間で交わされていた。

アンコールでは、いきなり一人で登場した橘哲也が、ドラムのソロ・プレイを始めた。ズッタズタタカダンと、最初はゆっくりとプレイを披露していた彼。まだ全力を出しきっているようには見えない。しかし、哲也のだんだんと激しくなっていくドラミングに、観客は歓喜の声援を送っている。と、ひと区切りついた哲也は、突然マイクに向かって「この程度なら誰でもできる」と一言いって、今度はズタズタスドドドドーンとくる嵐のような、超速叩きドラムを披露し始めた。

観客が茫然と見とれる姿を尻目に、怒濤のテクニックを見せながら、演奏はそのまま「Automatic Generation」「Something Wild」へと続いていく。そして2回目のアンコールでは「WANT TO BE」「BLUE BOY」と、たて続けにプレイし、観客の異様に興奮しきった熱気を会場全体に残しながら、スペシャルな夜は幕を閉じていった。

この日のライブは本当に楽しかった。そんな当然の言葉を素直に言える一夜だった。

撮影●菅沢健治
文●長沢智典

SPARKS GO GO

いろんな色を自分の色に吸収していく

その人をイメージする色って必ずあると思う。特に自分の内面から何かを生み出す才能が備わった人間、〝アーティスト〟と呼ばれたりする人たちには、そんな色がいっそう濃く表われるような気がする。

平松愛理にも、イメージされるひとつの色があった。けれど、今回12月15日にリリースされた3枚目に当たるアルバム「MY DEAR」を聴いて、その彼女の持つ色が変化しつつあるのを確かに感じた。

「ピカソの絵が好きで、私スペインまで見に行ったんです。そこで見た一枚の絵にガーンときて……。それは、顔の部分に何も描かれてないピアノを弾く人の絵。顔が白いキャンバスのままなんだけど、その絵をじーっと見てると自分なりのその人の顔が見えてくるんですよ」

1枚目、2枚目と、詞や曲はもちろん、ベーシック・アレンジまで手掛けてきた彼女。これまでのアルバムでは「額縁までも自分で描いてた」ということに、その絵を見て気が付いたと言う。

「MY DEAR」でそのピカソの絵の空白の部分を彼女なりに表現したい、とアルバム作りがスタート。その空白の部分をアレンジに置き換え、それを信頼のおけるアレンジャーに、ということで清水信之、萩田光雄両氏の登場となった。清水氏は、最近彼女が気に入っているヨーロッパ音楽のテイストにプラスして、弾けた感じと温かいものを表現してくれた。萩田氏は弦アレンジでそのセンスを十分に発揮。

「初めて自分の生んだ子供たちを里子に出すという不安も、最初はあったんですけど(笑)、けっこううまく成長していってるのを見て、これは成人式にみんな私に戻してもらえたら、すごくラッキーだと思いましたね」

とにかく、そのメロディーとアレンジの妙は目を見張るほど見事。彼女のメロディーと詞が、ますますイキイキとして輝きにあふれているようだ。また、それぞれの詞の主人公が、なんだかとっても身近に感じられる。自分のようであったり、友達のことを思い出したりもする。

「もっと私らしく詞を書いてもいいんじゃない? と、今回はナマの自分の言葉を詞にしようと思って……」

だから、詞の主人公に平松愛理の素顔が重なるときもある。とすると……彼女の性格は、なんて想像もできるけど、目の前の彼女は、好奇心いっぱいの魅力的な女性。今回はアルバムのために短編小説にも挑戦した。

「自分で言うのもナンですが、すごく気に入ってるんです。ちょっと長すぎて、短くしてって言われたけど、ヤダとか言ってそのまま載せてもらったんです(笑)」

桜木愛彩(あや)という女のコがヨーロッパに憧れて、夢を実現させながら成長していく姿を追った小説だ。そのほかにもアルバムでは、10年早いと言われたカルテットのアレンジをこなし、自分の肖像画も描いてもらったりと、彼女自身も十分に楽しんだ様子。

1月28日には草月ホール(東京)、1月30日にはミューズホール(大阪)でライブがあり、新作がたっぷり味わえるメニューとか。

それにしても、いろんな色を自分の色に吸収していく彼女は、素敵だ。文●伊藤しげ子

平松愛理

プロのフィールドでゲリラ戦だ!

最近のバンド・シーンには珍しく、〝イカ天〟でも〝ホコ天〟でもない、(プロモーションのために、チラシを配りながら弾き語りで道中をねり歩いたことはありますが……)リハーサル・スタジオで無料ライブしたり、口コミでファンを広げていったという、今の時代としてはこうなると、新鮮といってもよいぐらいのゲリラ戦法でデビューしたAZ。

11月21日に記念すべきプロ・デビュー盤、6曲入りミニ・アルバム『ジェニー』をリリース。その翌日の22日、渋谷Egg-manにて、デビュー後初のライブが行なわれた。そのときにもらったファンクラブの会報にも書いてあったけど〝一日でアマチュアがプロに変わるっていうのも、どうもよくわからない!!〟……。う〜ん確かにそのとおりだとは思う。しかし、やっぱりどこか、見る側も、やる側も微妙に違ってくるのがプロ・デビューというもの。むしろ変わらなければ、プロとしてデビューした意味はないからね。しかも、ロック、バンド、音楽というスタンスを使ってデビューしたわけだから、音楽っていう面においては、いままで以上に多方面から、自分たちなりの厳しいアプローチが要求される。まあ、自分たちの中からも、そういう思いが無意識のうちに芽生えているはずだろうが……。

さて、そのライブのほうはというと、ハッキリいって初めて彼らのステージを見たのだけれど、そのオリジナリティーの奥には、いろいろな音楽的要素を感じることができた。もらった資料を読んでみると、フォークから、ニューミュージック、ブリティッシュ・ロックにプログレ、ブリティッシュ・ポップ、ソウルなどなど、メンバーが各々多岐に渡って音楽を愛好しているではないか!!

〝なるほどね〟

そんなバックグラウンドが、彼ら以外の何者でもない、というサウンドを生み出していたのだ。しかし、そのサウンドのメインは、ボーカル〝SHIGE〟の発する言葉とメロディーだ。

ときとして、豊かなサウンドはメロディーと未消化反応を示し、ビート感を見失わせてしまったり、サウンドそのものも、ちょっとしたズレの中からグループ感を失ってしまったりする。

けれどそんなことは、ちょっとした呼吸のタイミングで、メチャクチャにイカしたオリジナリティーを持ったビート感やグループ感といった、まったく反対の現象を生むことができる。

「オレたち、昨日から芸能人です!!」

とプロ宣言をしたAZ。〝芸能人〟と開き直っているのか、それをも飲み込んでしまうほど、突き抜けているのか、わからないけれど、スタイルなんかにはとらわれることなく、アマチュア時代のゲリラ魂を、プロっていうフィールドでどう見せてくれるのか楽しみ、という感じはした。

デビュー後初のライブは、プロになったAZのアマチュア時代へのひとつの区切りであり、これからの自分たちへ向かう意思表示、意識確認のステージだったように思う。そしてもちろん、応援して集まってくれているオーディエンスへの感謝の思いをいっぱいに込めての……。

AZ

撮影●菅沢健治 文●河合美佳

A-CHIEF

台風も吹き飛ばす迫力ライブ！

デビュー以来、そのドライブ感とキャッチーなメロディーで人気がグングン急上昇中のA-CHIEF。待望のホール・コンサートが11月30日・メルパルクホール東京（郵便貯金会館）であった。

おりから季節はずれの台風28号が接近しており、都内は暴風雨だったけれど、熱心なファンは雨をものともせずつめかけていた。キャパシティー杯、とは残念ながらならなかったが、熱いライブを聞かせてくれた。

SEが流れる中、メンバーはいつの間にか登場。どうも舞台中央にすえられたドラムセットの後ろに秘密の出入り口があるらしい。若干時間はおしたが、ライブは「I LOVE YOU FOREVER」からスタートした。江田のハリのあるボーカルが光る。彼らの音楽性は一言で言い表わせないさまざまな要素があると思うが、リズム隊がドッシリとかまえているのでハード・ロックぽいと思いきや、メロディアスなメロディーにボーカル、バックコーラス、サポート・ミュージシャンによるキーボードの三重奏ポップス・メロディーが爆発するわけで、聞いていてなんだか気持ちいい音楽なのである。

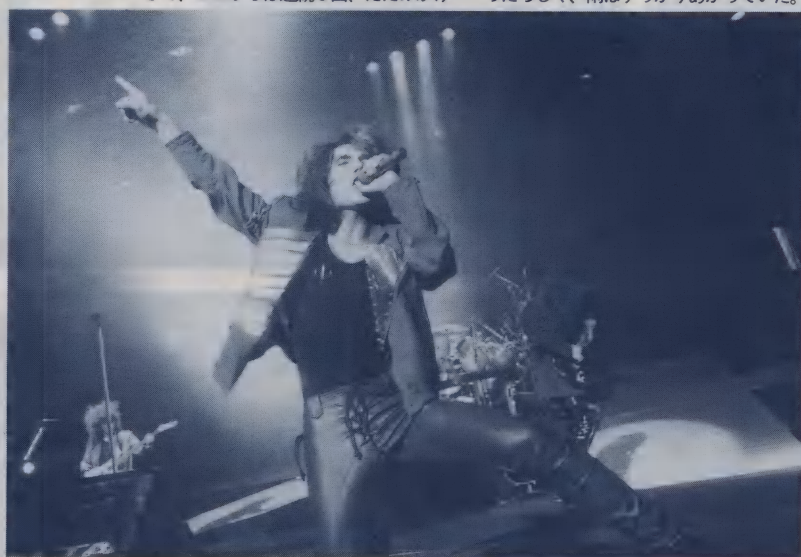
観客のほうもまたおもしろい現象が見られた。３分の２は他のアーティスト同様の〝開演総立ち〟という状態だったが、残り３分の１は着席したままだ。いや、ノッていないというわけではなく、このようなロック系アーティストのライブに来たのが初めてで、その音量、照明、観客のノリに驚いているようでもあった。純粋に彼らの音楽を聴こう、という態度であったかもしれない。着席していた観客も体のどこかしらでリズムを刻んでいたのだから。また、年配（という言い方失礼かもしれない。30代・40代の女性だ）の観客も多かった。このあたりはイカ天出場のいい方面での影響かもしれない。

「PRESENT FOR YOU」「CINDERELLA」と続き、ギターソロ。ただのギターソロではない。他の楽器は一切入っていないギターだけのソロである。最近珍しい。

７曲目「窓ぎわで夢を見ながら」はアコースティック・ギター２本だけの演奏。大音量だけで通すアーティストが多い中、彼ら独自のステージ構成がチラリと見えた。バラード「NEVER AGAIN」のあとのインストはギター、ベース、ドラムスとソロ・メドレー。力の入ったドラミングが心の底をうがつようだ。

「台風何号だかしらないけど、どうして俺たちのデートって雨ばかりなんだろう」って芝居じかけのMCから「どしゃぶりRAINY DATE」。ちなみにこの曲は１月１日にシングル・カットされる。

さて、ここからは連続５曲、たたみかけるようにアップ・テンポのナンバーが続き、観客のテンションも極大に。ラストナンバー「MY LOVE！ DON'T STOP！」では観客と彼らとの掛け合いも。本編が終了してもまったく帰るそぶりもみせずアンコールをする観客に応えて２曲、さらにラスト「A&S」で終了した。

颯爽としたドライブ感が心地いい彼らの音楽のせいか、帰りには台風は去ってしまったらしく、雨はすっかりあがっていた。

TOY BOYS

ツアー終了、セカンド・シングル発売

地道な活動で人気の裾野をジワジワ広げつつあるTOY BOYSが先にリリースされたアルバム、『Ready-Go!!』から「あきれたLonely Boy」を12月16日にシングル・カット発売した。

アルバムでは５曲目に配置されているこの曲は、TOY BOYSの魅力を十分伝えている。

ロックンロールに必要なのはまずスピリットであり、ロックンロール・スピリットとは何かといえば、それはスピードであり、ストレートなエモーションであったりする。これは基本だ。そんな基本的なことがなかなか表に出てこない日本の音楽環境にもなってきているが、それだからこそ彼らのロックンロールが新鮮にきこえてくる。スピード、ストレート、ドライブの〝ロックンロール３要素〟みたいなものを仮定したら、TOY BOYSは当然クリアだ。いや、今彼らほど本質を表現しているのも珍しいと思う。

そして、最大不可欠なものが、〝ハッピーになれるか〟ということ。聞いてて楽しくなければならない。誰もつまらない思いをしにお金を払ってライブに行くはずもないのだから。

ロックンロール・バンドとしての魅力を揃えている彼らの一挙一動から、今は目を離せないぞ。

また、初ツアー〝FULL HOUSE〟も12月22日（つまりこのGBの発売日）にラスト・原宿ルイードで無事終了を迎える。

今のところ、ファンとしてはシングルではやる気持ちを抑えるしかないね。

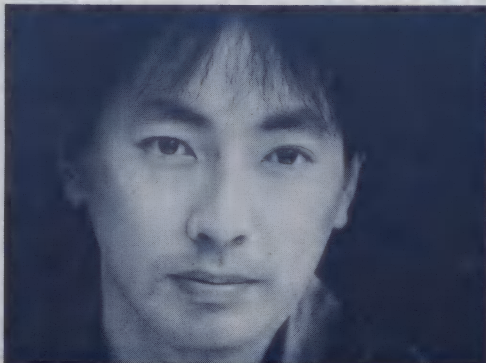
伊藤淳一

渋めの都会派アーティスト、デビュー

12月21日、新しいアーティストがデビューした。こう書けば、「なんだ、毎月誰かしらデビューしてんじゃない」と思うかもしれない。現にそうだが、ソロ・アーティストのデビューは久しぶりだ。伊藤淳一、28歳、1962年９月22日、東京生まれのB型。デビュー・シングルのタイトルは「マイヤーズの熱い夜」という。これはキリンシーグラムの〝マイヤーズラム〟というお酒のCF曲になっていたので、みんなにも聞き覚えがあると思う。

彼はどこかのコンテストに出場してデビュー、というパターンで今回のチャンスをつかんだわけではない。もちろん自分たちでバンドを組んではいたが、地道にライブハウスでのライブを重ねて実力を身につけたうえで勝ち取ったデビューなのだ。その点、最近デビュー組のアーティストとは一線を画すと言えるだろう。

「マイヤーズの熱い夜」は都会的センスのあふれる曲だ。が、それは明るいほうのセンスではない。もちろん、この１曲だけで彼の音楽の方向を決めてしまうのは危険だが、この曲に限っていえば、〝都会的なセンス〟とは渋めの大人の世界を書き表わしたものと理解してほしい。ウキウキ・ワクワクといった類ではなく、しっとり、という感じなのだ。夜の部屋のBGMには最適と言わせてもらおう。

カップリングには彼の作詞による「君が気づかないこと」がフィーチャー。こちらはやや、ポップな面が前にでていて、彼の音楽性の広さがわかる。

●A-CHIEF──彼らの特製CDをプレゼント。このCDには１月発売予定のアルバムから数曲、またボーカルの江田からのメッセージが入っている。欲しい方は、〒107-11 東京都港区赤坂4-14-14 日本コロムビアレコード宣伝部第３宣伝グループ〝A-CHIEF特製CD〟係まで、官製ハガキに住所、氏名、年齢を書いてお送りください。抽選で５名の方にプレゼントいたします。締め切りは１月10日必着。

大空は自由の象徴
それが今、形となった

８月から全国を飛び回っていたHIKOHKIが、再び東京の空に帰ってきた。11月13日、Egg-Manでのライブだ。

飛行機の離陸音が鳴り響き、やがてそのSEにエレキギターとシンセ・サウンドがオーバーラップしていく。しだいに高まる期待感が集中するステージ上では、小林孝至が天空を一直線に指差している。そしてその右手が振りおろされた瞬間、オープニング・ナンバーである「瞳の宇宙」でEgg-Manは勢いよく弾け、その加速力にのってHIKOHKIは一気に大空に飛び立った!!

アクセントをつけながら転調し、常に前向きなリズムを叩き出す笠松雅良(Dr)、壮大なスケール感をメロディーに変える阿部雅宏のシンセ、そしてHIKOHKIの両翼をしっかりと支える蓬田賢一(B)と鈴木健治(G)。そのどれもが新鮮な音を生み出し、爽快なサウンドが風を切って広がっていく。さらにその爽快さに拍車をかけたのが、小林孝至のボーカル力だった。どんなに激しいビートの曲でも一言一言がはっきり聞きとれる力強さ。その伸び伸びとしたボーカルが、HIKOHKIの歌の中に水平線まで見渡せるような広大な空間を作り出していった。

思い出話を交えてピアノをバックに歌った「麦藁帽子飛んだ」、アコースティック・ギターをフィーチャーしたバラード「そこに君がいたから」。心のスクリーンに〝輝いていた青春のワンシーン〟をフィードバックして映し出すナンバーが続く。そして12曲目。イントロと同時に、客席から数えきれないくらいの紙飛行機がステージめがけて飛び込んでいった。ファンの想いを乗せた紙飛行機が飛び交う、定番の曲「大嫌い」である。

きっとHIKOHKIにとって、大空は〝自由〟の象徴なのだろう。だから彼らはそこに自分たちの夢を託し、自分たちの歩いてきた道のりを描き続けているのだと思う。そこには学生時代の彼らがいて、友達の笑顔があり、失われてしまった懐かしい風景が生き生きと息づいてる。そんな想いとメッセージが込められた最後の曲は「STUDENT」だった。「この歌があったから僕らはバンドをやってこれたんだと思います」というMCのあとに届けられたこの曲を、無心になって歌い続ける小林、そしてそのフレーズに自分たちの思い出を重ね合わせるメンバーの表情が、とてもひたむきで印象的だった。

デビューして間もないバンドは、どうしても視線が客席の前列にいってしまうが、彼らは終始、客席の最後列を見つめてこの日のライブを走り抜いた。その〝目線〟こそが全国ツアーで得た最大の収穫だろうし、それを持ち続ける限り、彼らは決して失速することなく、大空を高く高く旋回し続ける。　文●武田智弘　撮影●渡部伸

HIKOHKI

小林孝至の詩とエッセイ　連載第2回

「心の家」

まずはカーテンを取り付けよう
ベッドは星の見える窓際に
テレビのキャビネットはとりあえず
マガジンを重ねて作ろう
君を見た時こうなると予感してた

「君の微笑みの中に僕の座る椅子を見つけたんだ」

これからは窓の明かりが灯台のように思えるだろう
独り言にならない「ただいま」
つけっぱなしのテレビの前で眠る君
ここが僕の帰る場所なんだ

You are my private home.
君の前でなら溜息をつけるよ

自分の弱さや、みっともない部分を他人に見せるということはとても勇気がいる。ここだけの話、僕は家ではテーブルに落ちた食べ物ぐらい拾って食べてしまう。でもレストランじゃそんなことはしない。ましてや女の子の前でなんてできやしない。しかし、どうだろう？　もしこの女の子と恋に落ちて二人で生活を始めたとしたら……たとえば、朝のトイレに30分はかかるとか（僕は違うよ。これはあくまでもたとえ）、部屋の掃除を１か月ぐらいしないとか(これはなんともいえん)、なんてことがすべてバレてしまう。けっこう怖いよね。でも人が人と愛しあい、一緒に生活をするということは、その人の悪いところやみっともないところ、そしてその人の弱さまで愛してあげなければいけないと思う。愛を語るのにタキシードは必要かもしれないけど、僕は愛しあうのに服さえいらない。

たとえ過去の君に嫌な思い出が潜んでいたとしても
それが君の物であるならば
僕は君が大好きです

たとえ今の君に抱えきれぬ悩みごとがあるとしても
それが君の物であるならば
僕は君が大好きです

詩と文●小林孝至(HIKOHKI)

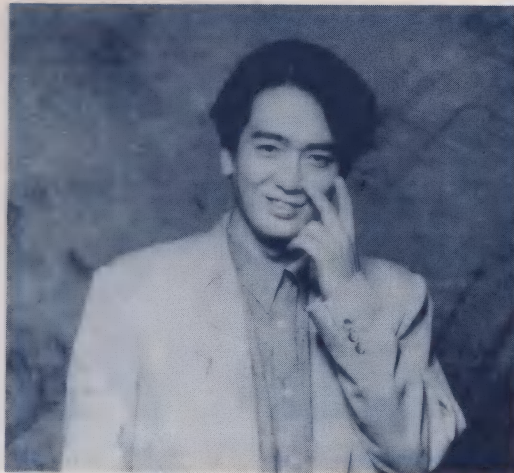
勝 誠二

大好きな音楽に自信を持つ勇気が持てた

〝2ndシングルで活動再開！〟と先月号でタイトルされたとおり、11月21日に発売された2ndシングル「君がせつなくて」で、勝は新たなるスタートを切った。
「ライブのときにも話したけど、〝なんで自分は歌わなくちゃならないんだろう？〟と思っちゃったんだ。よくさあ、趣味を仕事にすると辛いよ!! っていうじゃない。まさしくその状態に入っちゃった感じだったんだよね。それでも以前なら、小さな糸口をみつけて、原因分析をしていたんだけど、その小さな糸口すらみつけられなくなって、もう完全なる八方ふさがり状態になってしまった」
〝音楽が好き〟という理由でベースを持ち、バンドを組み、アマチュア活動をしていたとき、子供ばんどのベース・オーディションにうかり、子供ばんどのベーシストとして4年間活動してきた勝。年間200本以上のライブをこなしてきた勝が、〝好きだから〟という理由でやり続けてこられた音楽の理由を失った。
「これはもうせつないですよ。たとえば女の子を好きになってね、カワイさあまって、憎さ100倍っていう状態になったりするときってあるじゃない。音楽に対してそういう状態になってたんだよね」
決して音楽を、音楽することを嫌いになったわけではない。むしろ好きで好きでたまらなかったから、苦しくなってしまったのだ。
「今年の初めにマンスリー・ライブを中断したでしょう。あれって、結構辛いことだったのね。やり続けるのも辛かったけど、止めちゃうのはもっと辛くてね。でも完全に止めちゃうわけではなくて、休止、中断なんだということを心のかてにして……。あと数は少ないけど、一生懸命に応援してくれる人たちもいる、ということを支えにね、ワガママをいわせてもらったんだよね」
そして、勝の音楽ルーツでもあるイギリスへ行き、ヨーロッパをまわって……。それから先のことは先月号でお伝えしたとおり。
「今、自分がやっている音楽は最高だ、と思っていたんだけど、自信がなかったのかもしれないね。でも今は自信への勇気を持てたよね」

文●河合美佳

KATSUMI

1stライブのビデオと新曲発売中

「危険な女神」のヒットによって知られるようになったKATSUMIが、新曲をテレビからガンガン流しているぞ。というのはダイハツのCF曲に「YES, 抱きしめて」が使われることになったからだ。また、カップリング曲「With Me」のほうも日立のワープロのイメージ・ソングに使われることになった。
このシングルは11月21日にリリースされた。さらに、すでにヒット中の「危険な女神」もビデオ・シングルとして発売されている。映像がつけば、また感じ方も変わるかもしれない。
やはり彼がもっているオリジナリティが新鮮さをかもしだし、それが与えるインパクトの強さを商品の拡大販売に結び付けようとしているからだろうか。そういえば、前作の「危険な女神」も元はと言えばCF曲からのヒットだった。今回も十分期待できる。
そこに大ニュース！ 12月16日にファースト・ライブの模様を収めたレーザーディスクとビデオが出た。タイトルは『KATSUMI 1st Live SHINING IN THE NIGHT』。収録曲は「TOMORROW」「安心という名の欲望」「マスク」「ふたつの夢」「Get the POINT」「Tonight Spend Together」「WE CAN LOVE YOU」「危険な女神」「Shining in the Night」の9曲。初々しい姿が鮮明な映像の中で踊っているぞ。ライブに行けなかった人はもちろん、行った人も鮮明な映像の中で思い出にひたってみては？
《KATSUMI情報・1》現在KATSUMI〝LOVING TOUR〟が全国各地で行なわれている。12月26日・札幌ペニーレーン、12月28日・仙台CADホール、そして来年1月26日はNISSIN POWER STATIONでライブが行なわれる。問い合わせは☎03-402-5537（所属事務所のキャッチ）にどうぞ。
《KATSUMI情報・2》待望のセカンド・アルバムのリリースが来年2月に予定されている。タイトルは『ONE』。これまたKATSUMIらしいネーミングだと、理由もなく納得してしまった次第。
《KATSUMI情報・3》FM仙台でレギュラー番組をもっている。〝P&J KATSUMI SHINING PASSAGE〟というタイトルで、FM石川とFM青森でネットされている。

かまやつひろし

新しいムッシュのメロディーは優しい

ムッシュって、なんてやさしい声で歌うんだろう、と驚いてしまった。ずいぶん昔の話で本当に申しわけないんだけど、ムッシュかまやつと言えば「我がよき友よ」が真っ先に思い浮かんでしまう。それだけ強烈だった。あの歌は、ちょっとバンカラ風の彼が、景気よく、豪快に歌っていて、頼もしいという印象が残っている。あれからもう、かなり年月は経っているのに、なぜか当時とみかけは変わらない。逆に、彼の歌――12月21日にリリースされるシングル「すてきな僕ら」を聴いたイメージは、ずーっと私が待ち続けていたものとはかなり違うものだった。
まず、冒頭の歌いだしの部分。耳元でそっとささやかれているような錯覚を起こしてしまうぐらい、彼の声はやさしい。「歌うように、ささやきをそっと」というフレーズがあるんだけど、まさに彼の歌はそれにぴったり。そして、サウンドもポップなうえ、自然で覚えやすいメロディーもいい。ムッシュだからこそ出せる味と技が、ふんだんに盛り込まれている。
ちなみにこの「すてきな僕ら」は、超お騒がせ振付人、ラッキィ池田の主演ビデオ『振付仮面』のエンディングテーマ。ムッシュも得体の知れない役でこのビデオに出演している。変なもの見たさ……いや、新しい笑いを追求している人にはおススメ。カップリング曲「BLUEでできた僕たちの楽園」はCX系「上岡龍太郎にはだまされないぞ！」のエンディングテーマとして流れているので、すでに耳にした人も多いでしょう。でも、番組のクレジットがなければ、誰もムッシュの歌だとは気づかなかったかも……。
'89年はスパイダースのカバー・アルバム『THE SPIDERS COVER'S』を発表、いい意味でひとつの区切りをつけ、新たなかまやつサウンドを'90年の5月に出したアルバム『IN AND▷▷▷OUT』で提示したムッシュ。年末にはあらゆるバンド（？）のライブに乱入したあげく、2月にはニュー・アルバムのリリース予定もあるとのことで、長年マイペースな活動をしてきたムッシュにしては、これまでになく精力的。
きっと、これからも変わらずに、頼もしい存在でいてくれそうだ。

日本人的心がキーワードのベスト盤

竜童組

竜童組が活動を始めたのが、'84年。最近ブームのワールド・ミュージックによって音楽のもつ民族性に注目が集まっている。彼らは6年も前からその民族性を音楽で表現しようとしていた。まだ、日本のシーンの人間たちが、世界のシーンにばかり目を向けていたそのころ、宇崎竜童を中心に集まったメンバーは、世界的視野から日本の音楽を見つめていたことになる。

日本の古典でもない、西洋の影響をも含んだ、現代の日本のミュージシャンがジャンルを越えて演奏し、歌い、踊るチームとして生まれた竜童組。民謡をきっかけとして、ロックンロールやジャズ、ブギなど、さまざまなエッセンスの入ったそのサウンドの根底に流れるのは、やはり〝日本人的心〟なのだ。

う〜ん、ちょっと堅かったかもしれないが、竜童組のその頑固なまでのこだわりには、ちょっと軽いノリではついていかれないのだよ。

そんな竜童組の集大成とも言えるベスト・アルバムが12月21日発売された。「八木節イントロデュース」「HA-HA-HA」など、おなじみの曲がラインナップ。ライブでの演奏も聴ける。タイトルは「東京Blood Sweat & Tears」だ。

また年末、12月28、29、30日にはパルコ劇場で、このアルバムにちなんだライブを行なう。〝BLOOD〟〝TEARS〟〝SWEAT〟のテーマごと、凝った内容が用意されています。

文●伊藤しげ子

初のライブビデオ『A-LIVE for retour』

今井美樹

彼女の笑顔はどうしてこんなに魅力的なんだろう。今井美樹は太陽みたいだとよく言われる。はじけるような、顔いっぱいの笑顔はまさに真夏の太陽だ。

そんな今井美樹の初のライブビデオ『A-LIVE for retour』が12月21日、発売された。3度目の全国ツアー「retour」の中から、東京厚生年金会館でのステージを中心に収録されている。華やかなステージのあい間に、沖縄でのイベントの様子やインタビューなど、素顔の、飾らない今井美樹が顔を見せる。彼女はいつでものびやかで、ナチュラルで、等身大だ。だが、彼女自身、ビデオの中で「最近ようやく〝表現者〟になれたのかなって気が少しだけする」と語っているように、ステージの上の彼女はいちだんと魅力的だ。

アルバムタイトル曲「retour」から静かに、優しくステージは始まる。軽やかな踊りと、顔いっぱいのトレードマークの笑顔で、周りに明るさを振りまきながら、そして、27歳の大人の女性ならではの情感を込めて、しっとりと、彼女は歌い上げていく。

「太陽の部分が一番出るといいなと思ってます。これからも」

ビデオの中でそう語る今井美樹。確かに彼女は真夏の太陽のようだ。しかし、それだけではない。もっともっと大きな包容力を持った女性。周りにいる人間をゆっくりと、芯から暖かくしてくれるような。冬の日の、穏やかな太陽のような包容力がある。映像はそんな彼女の表情をダイレクトに伝えてくれる。

待望の〝ベスト・アルバム〟がリリース

鈴木さえ子

1983年にソロでデビューして7年、鈴木さえ子の初のベスト・アルバムが12月10日にリリースされています。タイトルはずばり『THE VERY BEST OF SAEKO SUZUKI』。

このアルバムには、RVC時代の『毎日がクリスマスだったら』(1983年リリース)、『科学と神秘』(1984年リリース)とMIDIに移籍してからの『緑の法則』(1985年リリース)、『スタジオ・ロマンチスト』(1987年リリース)の4枚から鈴木さえ子自身が選んだ18曲が並んでいます。そして、アルバムの最後にはボーナス・トラックとして、本人いわく「私の曲で最も有名なもの」という「'84日清チキンラーメンCMソング」が入っているから聞き逃せません。あの耳慣れた曲が鈴木さえ子の作品だったことをこのアルバムを聞いて知る人も多いのではないでしょうか……。

全曲を通しての電気的な音と、そこにときどき重なる自然の音、そしてどこか幻想的な鈴木さえ子のボーカルで、聞く人は、まるで童話の中にすっぽりと入り込んでしまった気分になるこのアルバム。肩の力を抜いて、ただぼんやりとやさしい音たちに囲まれながら、いろんな方向に気持ちを飛ばしていけそうです。

RVC時代の『毎日がクリスマスだったら』『科学と神秘』からセレクトされた8曲と、「'84日清チキンラーメンCMソング」は、このアルバムで初めてCD化されました。デジタルになった初期の作品をぜひ聞いてみてください。

文●高山玲子

続々とニュースが届いています!!

クレヨン社

温かい歌声、独特の叙情的な雰囲気でジワジワとファン層を広げているクレヨン社から、続々とニュースが届いているのでお伝えしよう。

まずは現在、CDシングルが好評発売中。タイトルは「東京夜景」。カップリングは「クリスマスの近い日」だ。ともにクリスマス・ソングで、心にジ〜ンとくるクレヨン社ならではの世界が広がっている。「東京夜景」は3rdアルバム『いつも心に太陽を』からのカット、「クリスマスの近い日」はアルバム未収録曲だ。「クリスマス〜」は去年('89年)の12月20日、日本青年館のステージで歌われた曲だから、覚えている人もいるかもしれない。

クリスマスというのは、一年でいちばんひと恋しくなる時期。クリスマスを一人で過ごす人にも、大好きな誰かと過ごす人にも、クレヨン社の歌は恰好のバック・グラウンド・ミュージックになってくれるだろう。

次のニュースは、クレヨン社の柳沼由紀枝が、大晦日から元旦にかけて、ラジオ特番のパーソナリティーを務めることになったということ。ニッポン放送で12月31日の18時から、1日の朝6時まで放送の、『足かけ2年ぶっとおし電リク』がそれ。途中で加藤秀樹が参加してのクレヨン社コーナーもあるというから楽しみだ。

そして、なんといってもライブ。大盛況のうちに終了した全国ツアーのアンコール公演が決定。1月15日の大阪リサイタルホールと、18日の東京シアターコクーンだ。

一つ一つうなずけるフェアチャイルドの詞

FAIRCHILD

シングル「探しているのに」も、アルバム『せかいのうた』も大好評のフェアチャイルド。先月号でもアルバムの話をお伝えしたが、お届けできなかったアルバムの話を、今月は少しばかりお伝えしよう。

やっぱりフェアチャイルドといえば、戸田先生の音楽作りの素晴らしさと、ヒロのギタリストらしいギターワーク（すごい当たり前のことなんだけど、近ごろ、この当たり前のことが、なかなか音になっていないといわれる）、それに加えることのコンポーザーとしてのセンス。そしてそして、これは忘れちゃならないYOUさんの詞の世界。

デビュー・アルバムの「嘆きの健康優良児」から始まるYOUさんの詞は独自の世界と感性を持っているんだけど、女の子なら、〝そ、そ、そうなのよねー！〟と思わずうなずいてしまうシロモノ。

今回だって、「忍者のうた」もあれば、〝冷たい天プラ〟の歌じゃなかった「冷天」という冬の歌もあれば……。とにかく一曲一曲、うなずいてしまう。そんなみなさんの期待に応えて、YOUさんも全曲、詞を書いてくれました。

さてさて、そんなフェアチャイルド。新作をひっさげて学祭に引き続いてツアーの真っ最中。1月12日の新宿スペースゼロまで続くのだが、フェアチャイルドのライブといえば、YOUさんのカプリモノ、じゃなかった、衣装。花束になったり、ハチになったり……。今回は何になって登場するか、楽しみ!!

文●河合美佳

EPO

オイシイEPOのCMソング集

これはハッキリ言ってオイシイです。11月21日にリリースされたEPOのコンピレーション・アルバム『CM TRACKS』は、誰にでも聴き覚えのあるCMソングばかりを集めたもの。

CMの影響は多大なもので、その時代の象徴になったり、起用されたアーティストの運命も変えてしまったりするくらいだ。EPOは、デビュー以来コンスタントに、そのCMソングを生み出している。ここに収録された16曲のCMソング、ズラリと並べただけでも相当な迫力だ。

とらばーゆの「人間なんて」、KDDの「TRY TO CALL」、JTの「恋のアンビバレンス」、日産ラングレーの「Middle Twenties」、コカ・コーラの「太陽にPUMP！ PUMP！」、ビクター・ビデオテープの「音楽のような風」、資生堂の「う、ふ、ふ、ふ」など、は〜っ、立派なもんです。

なかでもキリンレモンの「PARK Ave. 1981」は、新鮮な感動がある。この曲、9年も前の曲なのに、そよ風のような優しい刺激を与えてくれるから、不思議だ。その当時テレビで流れていたのが記憶にない人も、じんわりと感動にひたれるはず！

やっぱり、完成された個性のあるEPOだからこそ、古いとか新しいとかも問題にならないし、CM自体のイメージにも左右されない。そんなEPOの魅力が、トータルにつめこまれているこのアルバム、その曲自体をぜひ楽しんでみてほしい。

文●伊藤しげ子

気になるCM曲がカップリングで登場

来生たかお

来生たかおのメロディーはいつも、恋愛における複雑な心のひだに入り込んで痛いほどだ。彼の曲を聴いて込み上げてくる感情は、〝沸き立つような切なさ〟であったり、〝寝付かれないほどの寂しさ〟であったりする。そう、恋したことがある人なら、誰にでも覚えがあるよね。

そんな来生の久々のシングルが11月28日にリリースされた。最近、CMで流れている、気になるあの曲が2曲カップリングされている。

JR東日本の「夢より遠くへ」とセイコー腕時計の「セカンド・ラブ」が両A面で発売。「夢より遠くへ」は、黄昏時にたたずむ2人がミステリアスで印象的なCM。「セカンド・ラブ」は、鷲尾いさ子嬢が涙ぐんだ表情にハッとしてしまうCM。どちらも、彼の曲がいっそう雰囲気を盛り上げているのはサスガ。

今回も、「これこそゴールデン・コンビ！」と言わしめる来生たかお&えつこの姉弟コンビ。メロディーラインの美しさと繊細でロマンチックな詞の世界が一体感を持って、まさに向かうところ敵なし！ だ。

「夢より遠くへ」、「セカンド・ラブ」とも、それぞれシングル化を待っていた人も多く、ウレシイ一枚となった。

ところで、現在来生は〝永遠の瞬間〜THE MOMENT〟とタイトルされた全国ツアーの真っ最中。12月24、25日に中野サンプラザ、以降、来年の春まで続くロングツアーを展開している。

また、年明け後にアルバム発表予定だ。

文●伊藤しげ子

1月17日 日本青年館は楽しみだゾ!!

The Shamröck

4作目を数える最新アルバム『Sometimes It's Better Than Sex』で、自分たちの音のひきだしから、今まで以上にたくさんの種類のポップ・センスを披露してくれたThe Shamröck。初めてのロンドンTD、初めての外人エンジニアの起用、そして共同アレンジャーとの作業は、彼らの新しい面をさぞや磨いてくれたに違いない。12曲のそれぞれの個性、浮き立ち方は並ではない。何度聴いてもドキッとさせられるアレンジと音作りのおもしろさは、これまでの作品の中で〝楽しさ〟という面では群を抜いている。

このカラフルなアルバムの曲こそ、早くライブで聴きたい！ と思っていたら、朗報が飛び込んできた。アルバムにともなうライブ・ツアーはきちんとそのつどやってきたThe Shamröckだが、ついに「1月17日・日本青年館」なるホール・ライブが決定したのだ。

あの玉手箱のような『Sometimes It's Better Than Sex』を、ステージではどんなふうに再現するのか、はたまたロンドン帰りの高橋&山森はどんな変貌をとげたのか……!? 1月17日の日本青年館は、彼らの新しい魅力が必ずキャッチできる、スペシャルなライブになることは間違いない。

「誰かに自分の今求めてることをわかってもらえたり、それと同じことが返ってきたりする瞬間は、ときにはSEXよりもイイ！」というニュアンスのタイトルが示すような〝イイ瞬間〟を、ぜひとも1月17日のライブで感じとってほしい。

文●五十嵐麻子

"音楽の甲子園"初グランプリ決定！

BSヤングバトル

音楽の甲子園と呼ばれる「全日本勝ち抜きロック選手権・BSヤングバトル」。その全国大会が、11月23日に東京のNHKホールで行なわれた。(当日の模様は、衛星第2放送で生中継されたのダ)

応募総数は、なんと4127組。高校生以上であれば、誰でも応募してOKという門戸の広さのせいか、高校生から40代のおじさんまで幅広い年齢層からの応募があった。家族バンド、先生バンド、主婦バンドなどなど、ユニークなバンドが多かったのも今回の特徴。

テープ審査、地区大会(1次審査)、ブロック大会（2次大会）を勝ち抜いてきた20組の強者が、この日の最終審査に臨んだのだ。

約3時間に及ぶ熱闘ロックバトルの結果は、グランプリ・企画賞が、東京ブロック代表GAOの「MAPPILA BABY」。ボーイッシュでパワフルなボーカルの藤野智津子率いる6人組。都内のライブハウスで着実にライブ活動を続けている実力派だ。「機会があればメジャー・デビューしてもいい。それまでマイペースで気ままにがんばりたい」と、あくまで自分たちのリズムをくずさずに、でも密かな意欲がマンマンの彼ら。先物買いの諸君は期待しましょう。

その他の受賞者は、優秀賞が、近畿ブロック代表のNAKED KING'S HIPと中国ブロック代表のベッドシーン。企画賞が、九州ブロックのthe WALTZに決定。今後の活躍に期待大。いやあ、音楽って本当にいいもんですね。

文●相吉朋子

アジアの音楽と欧米音楽を融合

SANDII

サンディー＆ザ・サンセッツのボーカリスト、サンディーのソロ・アルバムが、12月19日にリリースされた。タイトルは『MERCY』。聞く人のまわりを、かつてなかった新しい空気がとりまいてしまう、そんなアルバムに仕上がっている。

現在、日本の音楽シーンを語るときに引き合いに出されるのは、アメリカ、ヨーロッパの音楽がほとんど。民族音楽に傾倒していっているミュージャンもいるようだけど、それを日本のポップスとして成り立たせるのには、もう少し時間がかかるようだ。そんな中にあって、サンディーとこのアルバムのメイン・プロデューサーである久保田麻琴は、アジアの音楽に注目した。インドネシアやマレーシア、シンガポール、そして日本の歌謡曲や民謡に、アメリカ・ヨーロッパの最先端の音を融合してしまったのである。しかも、制作に関わったスタッフのほとんどがアジアの人たちだという。

全11曲の中で、まず私たち日本人の興味をひくのは「Sakura」「Sukiyaki」「Ringo Oiwake」の3曲だろう。そう！「さくらさくら」「上を向いて歩こう」、そしてすでに歌謡曲から民謡の域に達してしまった、美空ひばりの「りんご追分」をハウスに、あるいはダンドゥットにアレンジ。「Ringo Oiwake」にいたっては、「あんたがたどこさ」「ずいずいずっころばし」のメドレーという、思いもかけない組み合わせ。コチコチの音楽観をときほぐしてくれる一枚だ。

文●高山玲子

ニュー・アルバム発売 タイトルは『音食人種』

21世紀楽団

21世紀楽団のニュー・アルバム『音食人種』が、11月21日にリリースされた。全8曲入りのミニ・アルバムながら、バラエティに富んだ曲の数々が楽しめる、充実の仕上がりになっている。

音を食べる人種、サウンドを栄養にして生きていく人たち、それはまさしく彼ら自身のことかもしれない。音楽を心から愛しているに違いない、彼ららしいアルバム・タイトルだと思う。

今回のアルバムでは、バンドとしてのまとまりが、これまで以上に出てきたというのが印象的だ。大場伸二のシャープなドラミングを中心として、全体がキッチリとかみ合っている。そんな感じのする演奏が全編に繰り広げられている。そして、仙石幸太郎のボーカルにも、なにか色気が出てきたように思う。ボーカリストとしての実力がアップしたことに伴って、余裕が生まれたせいかもしれない。彼はこれから、もっといいボーカリストになる予感を、聞く者に抱かせてくれる。

曲調は、どれもポップでノリがよく、誰にも抵抗感なく受け入れられるものだが、よく聞いてみると、随所に遊び心とアイデアが活かされていて、全員が高学歴の持ち主であるこのバンドの、頭のよさを感じさせてくれるような気がする。

ライブの予定は、新年が明けてからの、2月12日・CLUB 24、そして1月28日、2月28日、3月28日と、原宿ルイードでマンスリーだ。

"カオス"をエネルギーの源にして

BAD MESSIAH

新しい型のハードロック・バンド（彼らを既成概念の枠の中で位置づけるなら、こういう表現しかない）BAD MESSIAHがセカンド・シングル「COYOTE」(コヨーテと読む)を12月21日にリリースした。

なぜ、先述のカッコの中身のような説明を加えたかというと、既存のハードロック・バンドによく見られた、アメリカ・ロサンジェルスのイメージが、彼らにはまったく見えないからだ。これは見せないように努力しているわけではなく、自然体でそうなっただけである。

音楽をはじめとする文化は、その地域、街の土壌がかなり左右する。BAD MESSIAHは東京で結成され、東京で活動してきた。ここまで熟成されてくる過程で、日本という土壌が大きく影響しているのは確かだ。彼らがそのスタンスとして「日本のロック」を掲げ、メロディーも明らかに日本人のものであり、テーマとして現在の東京のリアリズムを追求しているところから見ても、彼らにロサンジェルスの面影を見ることはできない。

'90年代の東京を表現すると、それは"カオス"だといわれる。混沌を破壊するパワーとエネルギーをその根本として、BAD MESSIAHは邁進していくにちがいない。セカンド・シングル「COYOTE」にはその姿がはからずも出ている。また、カップリングは彼らがインディーズ時代にCD化していた『OUT SHINE』がニュー・レコーディングで収録されているので、彼らの歴史を知ることができるだろう。

ROCK'N'ROLL ROMANCE vol.IX

クリスマス・イブ

須藤晃

古くからの友人に会った。清楚な佇まいの高級な店でフグを一緒に食べた。
久しぶりだったので何時間も一緒にいた。彼の仕事仲間もいた。急に冷え込んだ夜だった。
僕はほんの僅かな夜の隙間に、彼との二人だけの会話をねじこんで笑ったり真面目になったりした。
話し疲れて、ふと会話が途切れた時に、歌が流れてきた。そこで歌われる
ひとりぼっちのクリスマス・イブの情景を夜景の中に追い掛けているうちに彼は席を立っていた。
翌日僕は朝一番のフライトで東京に戻った。彼が人生に意味のあることなんてないと言った
言葉が心に残った。そうかもしれないねと僕は答えたが、実はモーニング・フライトの機上で
そのことばかりを考えた。そしていつしか浅い眠りに落ちて呆気ない夢を見た。
クリスマス・イブはなぜかとても淋しい響きがする。その時見た短い夢のように。

深紅色のネイルカラーで、長い髪の女がいた。いい匂いがしていた。爪に目がいったのは彼女が何度も髪を掬い上げたからだ。ハイヒールのトウの部分に菱形に輝く石がちりばめられている。歩くたびに空間の光をすべて集めているように輝く。よく見ると傍にいる男と片手を繋いでいる。不思議な光景だった。手を繋いでいることがひどく不自然に思えたのだ。そんな子供じみたことをするほど無邪気な顔つきではない。着ているものの趣味や雰囲気から判断すれば、しなだれかかって抱きついていたほうが自然だ。一緒に旅行に出掛ける様子ではない。二人の関係を想像した。バカげたことだと解っていたが人込みで視線を無視して手を繋ぎ合う年齢には見えなかったので、興味が湧いたのかもしれない。

結城は自分のフライトを待っていた。天候不順と霧で予定がいくらか遅れているようだった。悪天候の中を突っ切って早く飛んでほしい気分と、慎重に検討してほしい気分が交錯していた。待つことには慣れている。真夏の炎天下のディズニーランドでバカみたいに何時間も行列に並んでいたことを思い出す。そんな忍耐がどこで付いたのか、ただ何となく待つことが苦痛でなくなっている自分が意外だった。目的があれば達成しようと手段を策す。達成するまで辛抱できるのが大人で、目的があっても手段が見つからないか達成するまでの我慢がきかないのが子供だと言った奴がいた。だが今の社会では待つことが出来ない者は、大人や子供の分け方ではなく生活出来ない。

人が多い。空港は混んでいた。

女は悲しそうな目をしている。別れの時が待ち構えているのかもしれない。瞳が濡れているように光っている。昔、家で飼っていたシェパードが病気になって連れていかれた時の目に似ている。シーザーという名だった。犬の悪性の伝染病で保健所で薬殺されたのだと後で知った。直感で解っていたのだろう。その時に吠えもしないで大人しくクンクンと鼻を鳴らしていたシーザーの表情と似ている気がした。女はそんなに若くはなかった。しかしどこにも暮らしの匂いがない。結婚して家庭を持っているようではないし、二人は夫婦には見えなかった。

三十四、五だろうか、男は自分と同じぐらいの年齢のように見えた。質のいい革のインディゴのジャケットを着ている。褐色の健康的な顔色をしている。胸板が厚く足が細く長い。何かスポーツの選手かもしれないと思った。二人はひとつの輪郭で縁取られて、周りと遮断された世界を単独で作っている。

結城は硬い椅子に腰掛けてホーキングの宇宙の本を読んでいた。ベッドに潜り込んでから何時間も眠れない時のように姿勢を何度も小さく変えながら、体を微妙に屈伸させたりしていた。目と鼻の先に二人はいた。彼らが空席があるのに見向きもせずに佇んで何もしゃべらないでいるのが視界にずっとあった。同じ便に乗り込むのだろうか。搭乗者以外はこの先には入れない。インフォメーションが放送される度に注意を払っているのが男の表情から読み取れた。二人の関係がどうにでも想像できる。多少のセンチメンタリズムは空港には付きものだ。どんなドラマが彼らに隠されていても可笑しくなかった。

結城の脳裏にも空港での切ない思い出が蘇った。急速に苦い気持が雨雲みたいに広がる。

あの時もクリスマスが近かった。広島空港だった。子供へのプレゼントを僅かな空いた時間に市内で買い求めて飛行場へと急いだ。手に持っていたのは大きな熊の縫いぐるみだった。あの時は出張で広島に来ていた。残念ながら仕事は思うようにいかなかった。気が重くなっていた。予定を早めて一人娘にクリスマスのプレゼントを買って真っすぐ家路を辿ることに決めた。東京に着いてからではデパートも玩具屋も終わってしまっている時刻だった。そして会社に最後の連絡を入れた。無情な伝言があった。すぐに大阪支社に向かえというものだった。上司からの説明などなかった。関係者は非常事態に全員集合命令が出て不在だった。新幹線で向かうしか方法がない。駅に直行しようとした。取りあえず熊をなんとかしなくてはいけなかった。空港の

須藤晃（すどうあきら）●CBS・ソニーのプロデューサー。著書に「地上の虹」（小社）、「僕とアスファルトの夜」（角川書店）がある。

売店でサンタクロースの置物と握手したがっている少女に縫いぐるみをプレゼントした。若い母親は困った顔をしていたが事情を話している時間もなかった。娘にと思って買ったけれども急用なのでと言うと、受け取れないと拒まれたが少女は熊をはしゃいで抱き締めていた。作り話よりも嘘みたいなことはいくらでも起こる。

結城は空港が含んでいるドラマを色々と考えて二人の様子を見ていた。恋人同士なんだろう。短い別れなのか、これが長い別れの最後の逢瀬なのかは解らない。女は泣きだしてはいなかったが、男が搭乗口に入っていく時には泣くのだろうと思った。

遅れのせいで徐々に人は溢れてきていた。無口な集団と騒いでいる連中とは、離れて群れを作っている。それぞれの国や文化や宗教が違うみたいに孤立している。旅立つ前に人は誰もが衿を正して、自分自身の身分証明書を確認しているように見える。停車場や波止場や空港では誰もが緊張した顔になる。パスポートの顔だと彼は思った。

今日のフライトは仕事ではなかった。友達が事故で入院したという知らせを受け取り、見舞いにいくことにしたのだ。奥さんの言葉からは病状はかなりよくない気配が感じられた。土木関係の主任クラスだ。現場での陣頭指揮中に崩れた土台の下敷きになったらしい。年が押し詰まって忙しい時期だと解っているのに、電話してきたからにはよほどの決心があったに違いないと思った。本人が呼んでほしいといった訳ではない。意識不明のようだったが、詳しくは動揺している奥さんに聞くことを憚られた。骨折程度かもしれない。今は意識を回復している可能性もあるし、そう願いたかった。いずれにしても一度声を掛けて元気づけなくてはいけない。学生時代に随分一緒に遊んだ友人だった。いけないこともした。いちばん大切な時期を共有していた友人だった。ちょうど時間が取れたのですぐに行くことにしたのだ。

北国では雪が降っているらしい。スポーツ新聞の天気予報の欄に雪だるまのマークがあった。

「今度いつ会える？」

小さな声だった。女が呟いた。

「私だんだん強くなってく」

はっきりとした言い方だった。

白と赤の薔薇とかすみ草の花束を手に持った別の男が人を捜している。こちらは落ち着いた年配の男だった。近くのフラワーショップで花束を買ってきたのであろうか。見送ろうとして間に合わなかったのかもしれない。額に汗が吹き出している。すみません、と言いながら小走りで駆けていく。別のドラマがそこにもある。

「ねえ、今度はいつ会えるの？」

もう一度女が呟いた。

雑踏の継続するノイズが二人の会話を邪魔することもなく、結城の耳に聞こえてきた。ロビーの騒音が渦になる。

子供の名を大声で呼ぶ声が響く。誰かが荷物を落として中のガラスが割れた音もした。兵隊のように集団で固まっている制服の学生たちが急に立ち上がって整列し始める。それぞれが何の関連もないままに動いていた。

「早く会いたい」

女は擦れた声で言った。結城の目には女の指に力が込められて、手を強く握り返すのが解った。ありふれたシーンだと彼は思った。今ごろ北国の病院のベッドで苦しんでいる友はオレのことなど考えもしてないはずだ。ましてや空港で足止めを食って見知らぬアベックの会話を盗み聞きしているなどとは想像も出来ないはずだとも思った。

どんな事情があるにしろ二人はまだ幸せだ。離れ離れになったままの恋人たちだってたくさんいる。自由を剝ぎ取られて生活している奴らも大勢いる。再び会う日のことを約束して別れを惜しんでいるなんて幸せなほうだ。世を忍んだ恋なのかもしれない。それでもいま二人はしっかりと手を握り合っているではないか。

男がポケットを探りながら何かを言った。結城には聞こえなかった。

「確かめて、きちんと」

何かを忘れたようだった。

結城は時計を見た。予定の時刻を三十分ほど過ぎている。

男は戸惑った顔をしている。何か重大な忘れ物をしてきたようだった。女は心配そうにはしているがさほど切迫しているようでもない。もし本当に忘れているのならば二人の別れの時間が引き伸ばされる。そう思っているのかもしれないと結城は考えた。

「君の部屋だ、たぶん」

「困る？」

男は頷いたが、すぐに微笑んだ。どうもキーホールダーのようだった。車の鍵や部屋の鍵が一緒になっているのなら困らない訳はない。

「鞄の中？」

結城は男が諦めたところで女が差し出すような気がした。隠したのかもしれない。帰したくないからどこかに仕舞ったのに気づかずに出てきてしまったのではないかとも思った。

「あなたらしくないよ」

男が何かを答えたけれどそれは聞こえなかった。

その時出発便の最終案内の放送があり、彼は席を立った。ゲートからバスに乗り込むように伝えている。二人は別の便のようだった。正確には解らない。何かを口論しているように見えたが、彼のフライトのインフォメーションには反応しなかった。ホーキングの理論が頭から零れてしまわないようにゆっくりと歩いた。そして振り返ってみたが、その時には彼らがいた場所には老人たちの集団が侵入してきていて二人の姿はなかった。結城は慌ててポケットを探り、財布や搭乗券などに触れて忘れ物がないことを確認した。

定刻から一時間ほど遅れて離陸した。空から見る、夕闇が西の空に立ち籠めている風景が好きだったが濃霧の中で何も見えなかった。結城はプラットホームなどで海帰りの真っ赤な顔をした少年たちが、充分に遊び疲れて重そうな足取りで階段を昇っていく姿をオレンジの夕日が包んでいる風景に郷愁を感じる。そんな黄昏時の時間帯が好きだった。しかし師走の空模様は煙っていた。ステュワーデスに毛布を頼んだ。短い時間だが眠ってしまいそうな気がしていた。本を閉じてシートを倒そうとした時に、彼はロビーで見ていた男が何列か先の斜め前に座っているのを見付けた。女はいなかった。

ヘッドホーンを掛けて音楽を聞いているようだった。探していたものは見つかったのだろうか。傍にいれば何気なく話し掛けたい気分もした。聞きもしないのにあの女のことをきっと話すに違いない。結城はそう思った。人は自分の立場や状況を他人に話したくなることがあるものだ。

酒場で尋ねられもしないのにひたすら自分の不幸な境遇を話し続ける女にあったことがある。最初はただの泣き上戸かと思った。しかし聞いているうちに引き込まれた。

「伯父に預けられたのよ。伯父は貿易商でそこそこの仕事をしていたから余裕があったのね、私の父方の伯父で、父の弟にあたる人だったの。両親が養育権を放棄することなんて信じられる？　私が成人した時に父に告白されたのよ。もちろんその伯父にあたる父から。私が何十年も自分の父親と信じていた人から」

そんな話を延々と聞いて同情したり、元気づけたりした。嘘みたいな話だとは思えなかった。真面目な顔をしていた。しかし後日その女が某有名俳優の実子だといっている姿を目撃してすべてが解った。まったく架空の自分を作り上げてしまう性癖を持っていたのだ。世の中には虚言症に似た症状を持った人間たちは大勢いることは知っている。いちいち取り合っていた自分がお人好しだと思うべきだった。罪のない戯言だ。ましてや酒場での出来事だ。結城はその女のことが、目の前にいる見知らぬ男にダブって見えるのを不思議に感じた。恋愛も劇みたいなものだ。劇中にいる人間たちは、どこか共通した滑稽さと淋しさを兼ね備えている。

飛行機は揺れた。翻弄されているように上下左右に激しく揺れた。揺れることには慣れてはいたが、結局は出発前にあらかじめ放送された懸念どおりに着陸不能のために羽田に引き返すことになってしまった。機内に溜息が漏れた。結城は先方に連絡しておかないでよかったと思った。途中で引き返すのは初めての経験ではなかった。乗客の中には興奮したり取り乱したりする連中もいた。一本しかない機内電話に殺到した。ステュワーデスに質問が浴びせられる。じたばたしたってしようがないけれども平然としているのも妙

に気が引けた。高速道路の渋滞と同じだ。カーラジオのボリュームをあげるみたいに男はしっかりとヘッドホーンをはめ込んで目を閉じて天井を仰いでいた。そのままの姿勢でじっとしている。機体は冬の冷たい気流に揉まれながら復路また羽田に向かった。

別れたばかりの女は可能性を信じて待っているのだろうか。きっと引き返す場合があることは事前に知らされているはずだ。戻ってくればいいと祈っているかもしれない。その祈りが通じたのか、木枯らしが北国の空を吹き荒れたのかもしれない。これが仕事の急ぎの便だったらと考えるとぞっとしたが自然の力には背けない。あの女だけではなく、数々の人の想いが束になってそれを応援していたのかもしれない。結城は、肩まで毛布をあげながらそう思った。

振り替えの手続きの説明があって、都内での宿泊に関しての情報の提供はするが費用は持たない旨が放送されると、不満の声があがった。男は女の場所に戻るに違いない。路頭に迷う人はさすがにいないだろうが、混乱する人たちは出るだろう。のっぴきならない状況で利用している人たちには面倒な事態だった。

羽田で到着口を出たところで、結城は男が何度か辺りを見回しながら女を探しているのを煙草に火を点けながら観察した。いないようだった。考えてみればかなり長い時間尾行している探偵みたいなものだ。

それから男はスタンドバーへ行き、ビールを頼んだ。結城は隣りに立って同じようにビールを飲んだ。

「お互いに大変でしたね」

結城は親しみをこめて言葉を掛けた。

「仕方ないですね」

男は思ったよりも低い声だった。

「今日帰らなくても支障がないんですか？」

「ええ、まあ」

結城は自分の名を名乗り、同じ便だったこととロビーで待っている間も近くにいたことを正直に話した。

男は疲れた声で島田と名乗った。

「僕は友人の病気見舞いだったんです」

島田は鞄を台の上に乗せて中から名刺を出した。ホテルマンだった。

「休暇は明日まで取ってあるけれど、帰りたかったですね」

「もう一泊するしかないかもしれない。明日のフライトも出るかどうかは覚束ないけれど」

「汽車じゃ帰れない距離だし」

「僕は特別急いだ用事でないからまだよかった」

結城は新しい缶ビールとナッツを二つ買ってきた。

「実はね、島田さんを見送りにきていた女性との会話が少し聞こえていたんです。申し訳ないとは思ったんですが、何かを忘れたとか言ってたでしょう？」

島田は苦笑した。恥ずかしさから来る気まずさか、不機嫌さを誤魔化そうとするものかは解らなかった。

「好奇心から窺っていたんじゃないんです。悪気もありません。ただね、あまりあの女性が悲しそうな目をしていたんで、何となく視線と耳が捉われてしまって」

シーザーの話をした。

「恋人なんです」

島田はあっさりと告白した。

「威張れる関係じゃないけれど。僕には妻もいるんです」

結城は黙ってビールを飲んだ。

「普段は誰かの目を意識して隠れるように会っていたんです。気づかれないように必要以上に用心して。なのに今知り合ったばかりの人にそんなことを言う自分が解らないなあ」

島田は酔っている訳ではなかった。

「理解出来ますよ。本で読んだことがある。キャビン・フィーバーってやつだ。飛行機の中に閉じ込められている客同士が不安感から異常な興奮状態になったりするってやつですよ。企業秘密みたいなことまでも打ち明けてしまうようになるらしい。それじゃないですか？」

「そうかもしれない。映画のパニックシーンで見たことがある気がする。小人数の部隊の間だけでバランスの取れる精神構造になってしまうベトナム戦争の後遺症のある青年の話だったかな」

島田は喋りながらも周囲を見回した。

「離れ離れじゃ大変だったでしょう？」

「いや」

結城は遠くを眺める島田の横顔を見つめた。

「今までは近くにいたんですよ。彼女が東京に行くと言うんで」

一緒に部屋を見付けて生活していく準備を整えて帰るところだったと島田は言った。

「いつまでも縛っておく訳にはいかないし、彼女が上京して一人になることを望んだんで、僕としてはどうしようもなかったんです。駄目な男です。駄目な大人だ。彼女はまだ若い」

静かな口調だ。

「そんなことをしてもどちらも不幸になるだけのような気がするな」

「しなくてもね」

島田の瞳は真剣だった。

「結城さんにも経験はあるはずだ。理屈では解っていてもどうにも出来ないことがあるのを。行ってはいけない方向に流れていく風があるでしょう？　彼女がこのままでは誰も信じることが出来ない人間になってしまうと思った途端に、僕は決心したんです。彼女の人生を決定的にしているのが自分で、しかも並走してあげられないもどかしさのようなものをずっと抱えてきた。環境を変えることで二人の関係が何も変らないことなど充分解っているけれど。彼女は人目を気にしないで会えることだけでもいいと思っているようだった。僕もそう言って自分を騙した。だけど決めたんだ。もう会わないと」
「なのに戻ってきてしまった」
　結城はくだけた顔をしてみせた。
「簡単にはいかない。それで心がどぎまぎしている自分も本当の自分だと思うし」
　島田はカラになった缶を潰してゴミ箱に捨てた。
「何か忘れたんでしょう？」
　結城は彼らの会話から推測したことを聞いた。
「忘れたんじゃないんですよ」
「彼女があなたの家の鍵をわざと隠したんじゃないかと思った」
　島田は吃驚した顔をした。そして笑った。
「小説家みたいな人だ」
　結城も笑いながら詫びた。
「残念ながらまったく違う。僕は彼女の部屋の合鍵を渡されたんです。いつでも帰ってきてほしいって。いったんは受け取った。でも出掛ける間際に彼女の小さなベッドの上に灰皿を乗せてその中に置いてきたんです。二人で泊まってたホテルから失敬した思い出の灰皿にね。テーブルの上じゃ、本当に忘れたようだし、そうしておけば僕の意志が解ると思って」
「辛いな、彼女は」
「でも僕はこの街に彼女を訪ねてくることは絶対に止めようと決めたから。お互いに捨てたり諦めたりするんじゃなくて、別々の場所でもとのままの他人になろうと決めたから」
「でも戻ってきてしまった」
　島田は大きく息を吸い込んでから吐いた。
「やっと彼女が何年かぶりの一人ぼっちのクリスマス・イブを覚悟していたというのに、会えばもう離れられなくなるかもしれない」
　島田の語調は結城に対して言っているというよりも独白に近かった。
「彼女のところへは行かない？」
　結城が聞いた。
「彼女は戻ってこない僕を望んでいるような気がする」
「そんなことは絶対にあり得ない」
「いや、一人暮らしをすることで彼女が振り切ろうとしていると信じたい。僕は駄目な男だが、彼女は強い」
「だったら鍵をそんな形で置いてくるのはよくない」
「だから言ってるでしょう。僕はとても男らしくないどうしようもない男だと」
　そんなふうには見えないと言おうとしたが結城は言葉を飲んだ。別々の場所で暮らし始めれば思い出はひたすら美化されて煌めく。それがどれほど二人を苦しめるかは誰でも知っていることなのに。そうも言いたかった。
「もし彼女が佇んだまま空港で僕を待っていれば、たとえば氷り付いた人形みたいにね。そうすれば僕は彼女を抱き上げてしまったかもしれない。神の悪戯ではないと信じて。しかし現実は僕は仕事も妻もある。ついて回るものがたくさんあるし、捨ててしまえない事情もある。勇気もなければ行動力も情熱も力も何もない」
「クリスマスだ。神はすぐ傍まで来てる」

　人の流れが急に減ってきていた。到着する便も少なくなったようだった。
「僕と彼女がどうして知り合ったか想像出来ますか？　地下街でセルフサービスのコピー機があるでしょう。僕がそこでコピーをした後に偶然その機械を使ったのが彼女だったんです。使い終わって原稿を取り上げるのを忘れたんです。その原稿に書いてあった勤め先のホテルに連絡をしてくれてなんとか僕の手元に届けられた。そんなに重要なものではなかった。でも人の手を何人も煩わせて僕まで原稿を届けてくれた彼女にお礼を兼ねて食事に誘ったのが最初なんです。嘘みたいでしょう。あれだけの人が往来している場所で、僕と彼女を結びつけたものがただの偶然だとは思えなくなって」
　その時彼女は高校三年生だった。島田は既に結婚していた。
「僕は常に彼女に対して大人であることを見せようとしていた。あらゆる面で。彼女との距離の持ち方も最初から意識して注意していた。でもね、大人に振る舞おうとすることが彼女に同じように大人であることを要求していることに気づかなかった。気が付いた時には僕らはただ大人のふりをした無邪気な子供同士になってしまっていたんです。馬鹿な話で申し訳ない」
「いや、よく解る話だ」
　新しく入ってくる人たちの格好で外はとうとう雨が降り始めているのが知れた。
「今日はどうするんです？」
　島田は眉間の皺を深くした。それから結城を見た。
「きっと彼女は部屋に帰って鍵を見る。そして連絡しようとする」
「いいえ、彼女は絶対に電話を掛けてこない。僕が掛けるだけで何年もやってきた」
「好きな時に電話をして、それで会ってた？」
　島田がゆっくりと頷く。
「自分勝手だな。それでも続いていたのならよほど二人は」
「何度も言ったでしょう。僕は我儘で駄目な男なんだよ」
「それに自虐的だ」
　結城の言い方がきつかったのか島田は表情を固くした。
「いい大人なのに……」
　また独り言を言うように呟いた。
「余計なことかもしれないが、彼女が幸せになるためにはあなたを忘れることしかないかもしれない気がする」

　二人は軽く会釈をして別れようとした。
「つまらない話をしてしまった」
　島田は手を差し出した。
「今日の話は僕のために書いてくれた、二人だけの原稿のようなものかな。やっぱり忘れものとして、今日は僕が大切に預かっておこう」
　二人は微笑みながら握手した。
「お互いに暖かなメリークリスマスを」
　結城は横浜方面のバス乗り場に向かった。島田は知ってるホテルに泊まると言った。長くて辛い夜が待っている。堪え切れなくなってももう逃げ出さないでいるだろうと結城は思った。駐車している車の中から賑やかなクリスマスソングが流れてきていた。息が白く見える。もう完全に真冬の夜の匂いがした。
　島田が抱えているものや、病室のベッドで苦しんでいる友人や、自分の年齢についてぼんやりと考えようとして歩いた。随分長い一日だったという気がした。歩きながら島田の言葉を思い出して復唱する。遠くでクラクションがうるさく連呼されているのが聞こえた。
　ちらっと振り向いた彼の目が捉えたのは、星のように輝くひとつの影だった。灯りの下に見えるのは間違いなく島田と彼女だった。混雑した路上で鞄を放り出して抱擁している銀色のシルエットだった。足元がきらきら光っている。手を引かれた子供が指差している。冷やかして手を叩いている若者もいる。
　ほとんど反射的に結城は何とかして彼女が幸せになれることを、細かい雨粒が舞う冬空に祈りたいと思った。結果的に失うものと得るものとをすべて彼女が受け入れることと、そのために神が力を貸すことも祈りたかった。駄目な奴のために救ってくれる神だっているはずだ。
　そして慌ただしい騒音に交じって大声で声援を叫ぼうとしたが、言葉が見つからない。結城は大きな投げキッスを送るように両手を広げて、十二月の夜を覆った紺色の闇を抱き締めた。

（了）

夜会

「夜会」が今年も行なわれた。ロック・コンサートに慣れた人たちにとっては、
この演劇味の加わったステージは、少々奇異な感じがするかもしれない。だが、これほどまでに
〝何か〟を人に伝えてくれるコンサートが他にあるだろうか？

文●てっかん

11/16〜　シアターコクーン

中島みゆき

今年も〝夜会〟が開かれた。
今年で2度目の〝夜会〟である。
昨年と同じくシアターコクーンでの長期公演（11月16日〜12月8日）だ。
昨年に続き、少し大人の時間帯（午後8時開演）のショーでもある。
そして、やはり主人公は中島みゆきだ。
ステージでは3脚のデッキチェアが客の入りを待っていた。台本のト書きに〝船の甲板。時刻は夕方。もうそろそろ涼しくなりだした潮風が吹いている〟とありそうな風景だ。
女がひとり、そのデッキチェアに座った。西陽のまぶしさをさえぎるためか、帽子を目深にかぶっている。自分の席を確かめ、座り、自分がどんなに〝夜会〟を楽しみにしていたかを連れに小声で話す、そんな客席のザワつきが波の音になる。ふたりめの女がデッキチェアに座った。女同士は知り合いではないらしい。客席に漂っていた波の音が消えていく。それを待っていたかのように明かりも落ちた。
船の甲板に3人目の女が現われた。中島みゆきだ。
舞台と客席の、あうんの呼吸とでもいうのか。見事な演出であり、いわゆるロック・コンサートと比べて年齢層が高い客の〝見るマナー〟のよさであり、この〝夜会〟の特別性をわきまえた舞台と客のなせる業である。
思えば、昨年の〝夜会〟も椅子から始まった。客席と同じ座席が6脚2列に並べられたシーンからだった。今年はデッキチェア、船旅の途中から始まった。
中島みゆきが歌う。
〝時は全てを連れてゆくものらしい　なのにどうして寂しさを置き忘れてゆくの……〟
この「二隻の舟」は〝夜会〟のテーマ曲だ。
西陽の中で歌う。3人の女は同じような傷を持ちながらも、関わることはないだろう船の旅を続けた。
「彼女によろしく」のあと、舞台は変わり、恋に破れた女が酔う酒場。女はバーボンを飲み、酔ったせいにして愚痴をこぼす。誰も耳を貸さない寂しいひとり言のような歌だ。「ミルク32」。
同じ酒場の匂いがする「流浪(さすらい)の詩」へとつなぐ。カントリー・フレーバーでのりのいい音に合わせて踊る。あっけらかんとした人生観の女が浮き立つ。
「窓ガラス」では12弦ギターを弾く。まるで酒場の片隅で歌う女のようだ。ささやかな喜びですら〝幸せ〟とこぼしてしまうような女だ。小さなうれしさをありがたがる女だ。〝そんなの〟と笑える人はいるか。幸せなんていつも一瞬のできごとで、いつだって予告もなしにやってくるものだから。
昨年以上にシチュエーション作りが巧みな舞台だ。そもそもまったく別のものだから比べるのもおかしな話だが、その他多くのコンサートと〝夜会〟を比べると、演出の重さを感じてしまう。
薄暗いステージに、メンバーが次々と出てきて演奏を始めるコンサートもある。その何もしないのも演出であるし、曲の並べ方も演出のひとつである。〝夜会〟ほど劇場の特殊性を駆使し、演劇性を加えたステージでなくとも、ミュージシャンも演出に敏感になっていい。ライブの時代だと、ボクも含めた多くのライターが書き、ライブバンドだと言いきるミュージシャンも少なくない。が、ボクの反省もこめて書くと、人に見てもらいたい気持ちと見るに耐える質が対等であっただろうか。そこで歌ったり、演奏を聞かせる必要もないライブ——たとえば、お目当ての人気者が立ってりゃいい場合——もあったのではないだろうか。演出という言葉の中に、どうしても作為性が見えるので、ありのままを見せる、真実を伝えるといった姿勢と相反してしまう感触があるのだろう。ストレートなことがいつも最もよく伝える手段ではないし、ストレートとは何もしないことでもない。すべてが〝夜会〟のようになればいいとは思わないが、少しは（中島みゆきの10分の1でも）演出——見せる、聞かせる、伝えること——に敏感なミュージシャンが増えてもいい。特に〝ライブバンド〟を自負したいのなら、そうするべきだ。
オールディーズの雰囲気を持った「うそつきが好きよ」で、軽くポップなリズムに転換する。フラれた女は、ふっきれたように明るくはしゃいでみせた。
〝酒が胸のメモ帳を破り捨ててくれるだろう〟
酒で忘れられるのは一瞬と知っていても、女は酔う。そして、明るくふるまうのだった。
強烈だったのが、「クレンジング クリーム」。終始、客に背を向けて歌いきった。明るくなれた女のはずなのに、ひとりになると……鏡の前でクレンジング・クリームで化粧をおとすと……嫌な女、馬鹿な女、退屈な女が目の前に現われる。
スモークの中に、膝を抱えて座る女のシルエットが浮かぶ。ステージには、大きな、折れそうな三日月

が浮かぶ。〝夜会〟らしいシーンだ。「月の赤ん坊」。
そして、季節感を持った歌が入ってくる。寒い歌、「断崖」へ。これもひとりぼっちの歌だ。同じくひとりぼっちの歌が続く。「孤独の肖像」。男にフラれた女の言葉だ。女は男に、いつも僕がそばにいてあげると、上手な嘘をついてくれ、と歌う。そしたら少し眠れるから、と。でも、男はもうそこにはいない。
自分を正直に見つめたとき、なかなかいいヤツじゃん、なんて思うときも、すっごく嫌なヤツを見てしまうときもある。いいヤツがポジティブで、嫌なヤツがネガティブだなんて思わない。ましてや、いいヤツだよって歌う人が前向きで、嫌な自分や嫌われそうな自分を歌う人が後ろ向きだなんて、薄っぺらな感覚だ。歌を作り、歌うこと自体、すごくポジティブな行為だ。しかも、もっと奥の自分を見つけようとする歌は深くくい込んでくる。ありきたりの言葉や、素人っぽさを売りにするプロの間抜けな詞とはまったく別の存在になる。中島みゆきの歌はそんな響きだ。今よりさらに多くの人たちがその響きに心を震わすときが、すぐそこまできていると確信した。
「強がりはよせヨ」から「北の国の習い」へ。アルバム『夜を往け』で聞く声とは別の声で「北の国の習い」を歌う。アルバムでは明るい色で〝北の国の女にゃ気をつけな〟と歌い、逆説的なインパクトと、北の国の女の強さを示す。ここではもっとダークな声で歌う。演じ分けだ。
そして、「ショウ・タイム」。女性ディレクターに扮して歌う。コーラスの2人の女性は、24時間働けますかのキャリアウーマン版を演じる。TVにひっかき回される日本を歌う。さしたる危機感もなく、楽しくおかしくやってきた日本が直面している現状をシニカルにとらえているようでもある。なんて書くと、難しいのは嫌い！ とジンマシンが出る人もいるだろうが、これだけは覚えておいてくれ、〝今、日本は危ない〟。平和や幸せは幻かもしれない。遠くない将来、日本は壊れてしまうことを。そのとき、ひとりの人間としてどうするかが大事だということを。
「Maybe」のあと、何もない平らな舞台で「ふたりは」。ひとりきりでさまよってきた女がめぐり会う。冬を越え、緑が芽吹く春の夜にめぐり会ったのだ。そして、ひとりはふたりになる。大きな円を描いて気持ちが高ぶっていく。「二隻の舟」はひとつの舟になったのだ。その喜びがささやかだとしても、たとえ一瞬だとしても、声をあげて謳歌したい。〝もう二度と傷つかないで〟と。
今年も〝夜会〟は、700人程度しか入らないホールで開かれた。しかし、23日間にわたる長い公演で中島みゆきは、昨年より濃密な〝夜会〟を見せてくれた。これでまた'91年の〝夜会〟も楽しみになる。

はやっぱり言葉だってこと。

ほら、今までの受験英語だと、文法を気にしながら一言一句に神経を使って訳したりしてたでしょ。でも、そんなことよりも毎日ナマの英語を聴き込んだほうがはるかに上達するんだよね。僕たちだってそうやって日本語を覚えたんだしさ。

まだペラペラってわけにはいかないけど、ドリッピーを聴くたびに確実に力がついてきているみたい。オーソン・ウェルスに合わせてしゃべっていると、以前より発音がグンとよくなっているのが分かるんだ。高校時代には英語の教科書を朗読してても、クラスのみんなが笑うほど発音オンチだったのにさ。まさに習うより慣れろ、だよね。

今では社会人になってもずっと続けていく気になったし、この調子で頑張れば、入社後は海外勤務だって夢じゃないって、欲も出てきたしね。あの9月に目にしたページには、ほんとに感謝してるんだ。

さて間近に控えたアメリカへの卒業旅行で、まず腕だめしをしてきます。

やればできるってことを教えてくれたE・A。
おかげで念願の大学にも見事、合格！

●中野靖夫クン（19歳）大学1年生

受験シーズン真っただ中のこの季節。今でこそ念願の大学に受かってキャンパスライフをエンジョイしていますが、僕も一年前に受験生だったときのことを思い出します。

そもそも僕は中学から理系教科が大の苦手。大学は受験科目が少ない私立の文系にと、早くから決めてたんです。

ところが2年の3学期、進路相談で担当の先生にこう言われました。

「最近の私立はレベルが高いから、今の英語の成績では難しいなあ。科目が少ない分、点数の差がでるのが英語なんだから。ましてや文系はほかの教科より英語の配点が高くなるケースが多い。でもまだ1年あるから基礎から勉強していけば何とかなるかな……」

さすがにショック。それからというもの一生懸命英語の勉強を始めました。

でも、思うように成績が伸びません。それどころかテストを受けるたびに自信が喪失していくといった感じ。もともと上がり症だから、テスト中に分からない単語が出てきただけで訳が分からなくなるんです。3年生になって受験ムードが高まってくると、もう気持ちばかりが焦って、手当り次第に参考書を買い込んだり、予備校へ通い始めたり……。

そんな矢先のこと。大学生になったばかりの先輩にE・Aの初級編『家出のドリッピー』を勧められたんです。

「今は難しい問題集をやるより、夏までしっかりと基礎を固めたほうがいいよ。僕も使ってたんだけど『家出のドリッピー』は基本的な単語や熟語は使われてるし、気分転換にもなるからいいんじゃない」

勉強方法に息詰まっていただけに、さっそく試聴の申し込みをしました。

数日後、待ちかまえていた第1章の教材が届き、勉強を開始。なるほど、物語形式で会話やBGMが盛り込まれているE・Aは、今までの参考書や問題集と違ってとても新鮮でした。

最初は息抜きがてらに聴いていたのですが、だんだん夢中になってきて、ほかの参考書と併用して毎日2時間はE・Aで勉強をするようになったのです。分からない語句はサブノートに写し、とにかく文章を口に出してスラスラ言えるまで暗記するようにしました。

こうしてE・Aを3ヵ月も続けた頃、その成果が少しずつ現れてきたのです。

模擬試験を受けてて、問題中にドリッピーで使われていた単語や熟語が出てくるようになりました。これってすごく自信が湧いてくるんですよね。それに今まで苦手だった発音問題も正解率がアップしてきたんです。

秋あたりからは偏差値も伸びてきて、自信もついてきました。そしてもちろん、受験当日も上がることなく全力を出し切ることができたのです。

すごく辛い受験勉強だったけど、やればできるんだってことを教えてくれたE・Aには本当に感謝しています。

［イングリッシュ・アドベンチャー］体験レポート

英語をしゃべるヤツは、エライ！のだ

超ベストセラー作家シドニィ・シェルダン氏が書き下ろし、名優オーソン・ウェルズ氏が朗読する『家出のドリッピー』をはじめとする〔イングリッシュ・アドベンチャー〕は、「物語の面白さと臨場感溢れる朗読に引き込まれ、ウソみたいに英語を覚えてしまう」と大評判。現在ではすでに100万人の方が参加、このコーナーにも、全国からその成果や感謝のお便りが寄せられています。今回もそのなかから2人の方にご登場いただき、体験を語っていただきました。

E・Aで残り少ない大学生活が充実。もちろん社会人になってもずっと続けるつもりです

●広田真次クン（22歳）大学4年生

去年の9月のこと。ある男性雑誌を読んでいて気になったページがある。それは、高校3年生から大学2年生までの3人の少年たちがカッコつけてキメているグラビアだった。

内容はイングリッシュ・アドベンチャー（以下E・A）の『家出のドリッピー』を始めたら英語がしゃべれるようになった、というものだった。

僕はその頃、ある会社からなんとか内定をもらってホッとしていたときだった。サークルを引退したし、あとの楽しみといったら2月に予定していたアメリカへの卒業旅行くらい。社会人を控えて今さらバイトでもないし、もうのんびり遊んで過ごそうかなって思っていた矢先だったんだ。

でもあのグラビアはショックだった。僕より若いヤツらがなんか目標持って頑張ってるな、ってカンジで。あと半年、遊んで暮らすって考えた自分が情けなく思えたってわけ。

（ウーン英語かあ、そういえば今度就職する会社でも面接のときに英語は話せますかって聞かれたもんな。……やっぱりこれからは日常英会話くらいはしゃべれるのが常識だよな）

それに年下の彼らでも英語ができるようになった教材なら、大学4年生の僕にできないはずはない、っていう気持ちもあったしさ。

そんないきさつでE・Aの『家出のドリッピー』を始めて4ヵ月になる。

最初に比べて少しずつ内容が高度になってきたけど、いよいよストーリーも盛り上がってきて、卒業までの時間が有意義に感じる今日この頃。

ようやく耳も英語のイントネーションに慣れてきたしね。ヒアリングをして意味が分からない語句が出てきても、前後の文脈からおおよその内容は把握できるようになってきたんだ。

そこで、最近つくづく感じてるのは、英語

Wonderful Life
杉真理

12月21日にリリースされた、杉真理のニュー・アルバム『Wonderful Life』。レイ・ブラッドベリの小説に影響を受けて作られたというこのアルバムには、普遍性を持った、彼ならではの本物の〝ポップス〟が息づいている。一冊の本を読むように聞いてほしいアルバムだ。

文●武田智弘

弱気になっているとき、勇気を与えてくれる〝等身大の応援歌〟がある。見えない壁にぶつかって挫折しているとき、叱咤激励してくれる激しい歌がある。だけど、ときにはその現実を忘れ、ふとした安らぎを求めてしまう瞬間がある。そのとき心の隙間を埋めてくれる歌、それが本当の〝ポップス〟だと思う。そして杉真理というアーティストは、日本のミュージック・シーンの中に、そのポップスの〝確かな土台〟を作りあげた一人である。

「やっぱりポップスって、わかりやすく新鮮かつ懐かしいものだと思うんです。だからそれを文語体じゃなく口語体で表現して、いいデジャビュ感覚を起こさせるのが〝いいポップス〟だと思うんですよね」

そんな彼のポップスに対する定義が1ミリのズレもなくストーリーとして描かれたアルバムが、12月21日にリリースされた『Wonderful Life』だ。

「レイ・ブラッドベリの小説に『刺青の男』というのがあるんですよ。この物語は、最初に体中に18の刺青が彫られている男が出てくるんですけど、月明かりの下でその一つ一つが動き始めて、18の物語を展開していくんです。その中には未来や過去の話もあるし、コメディや悲劇があったりするんですけど、最終的には一つにつながっていくストーリーなんです。そういう意味では僕の中にもコミカルやシリアス、そしてSF的な部分もあるので、僕の場合はそれをマルチ・テープに彫っていったのが今回のアルバムなんですよね」

今年の6月から4か月の制作期間を経て作られた『Wonderful Life』。曲順も一冊の小説を読んでいるように、オープニングは「Overture」というアカペラから、その1ページ目が始まっている。

「今回は11曲入ってますけど、季節でいえば冬、暖炉の前でストーリー・テラーが10個の物語を話し始めるという設定で、その序曲を作りたかったんです。そこで楠瀬誠志郎君と小室和之君に手伝ってもらって、初めてアカペラの曲を入れてみたんですよね」

そして、今の季節にピッタリの2曲目「恋の手ほどき〜X'mas in Love」からは、過去から未来へ、そして懐かしい記憶から宇宙へ、時空を飛びこえて旅をしているようなフィルムがいっせいに回り始める。またこのアルバムは、全編に〝僕〟と〝君〟が登場するストーリーにはなっているが、彼自身のメッセージと熱い想いが込められた「Wonderful Life」という、タイトル・ナンバーも収録されている。

「「Wonderful Life」は、僕の学生時代に組んでいたアマチュア・バンドの、そのサウンドでやりたいと思ったんですよ。それでコーラスを、当時一緒にやっていた竹内まりやに頼んだんです。それで、まりやのコーラスのときに、たまたま彼女を山下達郎君が送ってきてくれたんですけど、そのとき僕が、山下達郎君に〝ここのところ、どうしたらいい？〟とか聞いているうちに3人でコーラスをやることになって。(笑)だからこの歌は、学生時代に僕のいたバンドの仲間に対するメッセージでもあるし、今バンドをやっている人たちに、バンドのすばらしさと楽しさを伝えたいと思った歌なんですよ」

たった3分間のドラマかもしれないけれど、その3分間に人の一生をも描ききってしまえるようなスケール感を生み出しているストーリー性。そして歌の中の主人公への、あふれるほどの〝愛情〟が注ぎこまれている彼のポップスは、決してこんな活字で表現できるものではないかもしれない。

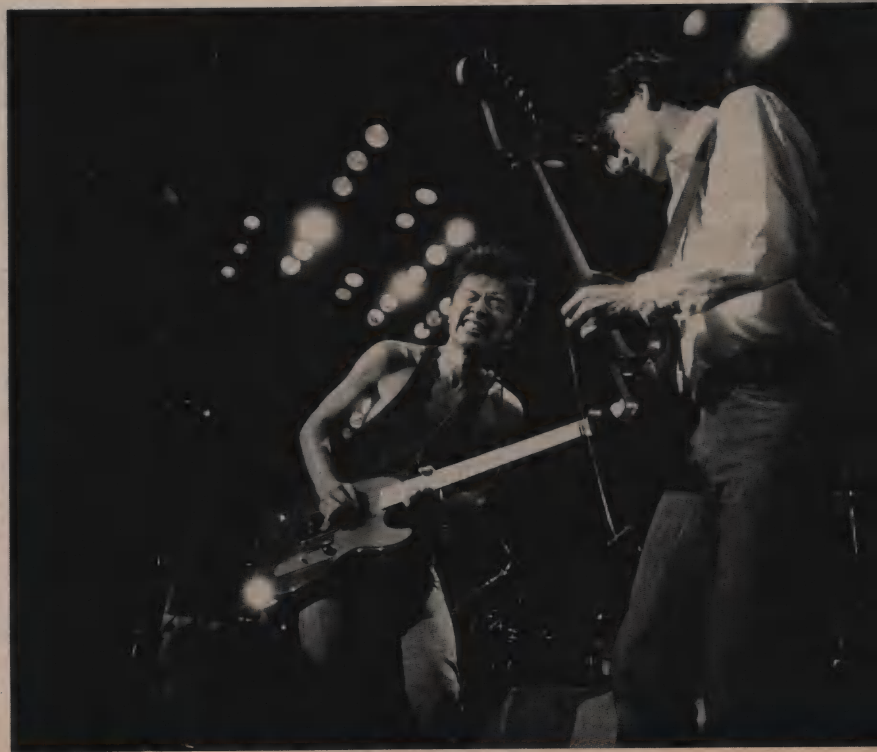
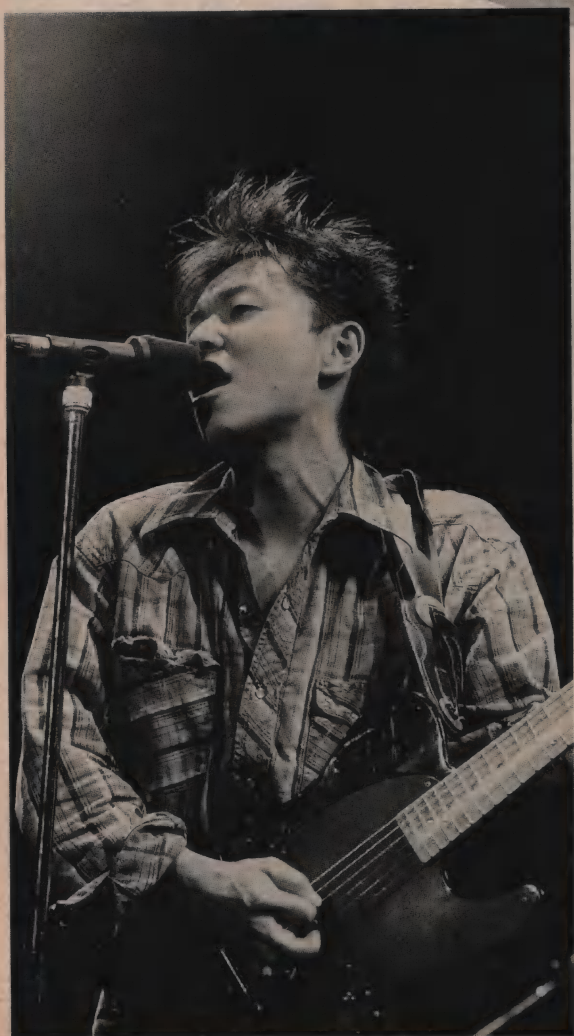
「確かに、某テレビ曲の『ねるとん〜』にでたら〝ごめんなさい！〟といわれるような主人公かもしれないけど、それぞれの主人公がこのアルバムの中で、〝Wonderful Life〟(すばらしい人生)に向かっていろんな状況の中でがんばっているんですよね。だからそういった意味も込めて〝どうしたらすばらしい人生を手に入れることができるのか〟っていう10個の方法を、僕なりに描いてみたんですよ」

そしてそれはただの空想ではなく、現実と背中合わせの世界なのである。だからこそいくら時代が移り変わっても、彼のポップスは色あせることのない普遍性を持ち、心の中をやさしくなぞっていくのだろうと思う。そんな『Wonderful Life』を作り出した杉真理は、もしかしたら本当の意味での〝現代のストーリー・テラー〟なのかもしれない。ここに描かれているストーリーは、みんなが今も心の中で夢見る〝自分が主人公の物語〟であり、星の滴のようにキレイな思い出ばかりなのだから……。

そして「外側から熱くするんじゃなく、内側からあっためる音楽っていうのかな？　これからもそういうポップスを僕はやっていきたいと思う！」と、このシーンの中で果たすべき自分の役割さえもしっかりと捉えている彼のポップスは、やはり、〝決して絶やしてはいけない音楽〟だと思う。

山口岩男
TOUR THE LOST PARADISE

●ニュー・アルバム発売直後、11月12日の即位の礼の日にパワー・ステーションで行なわれた山口岩男のライブ。静かに、でも熱く語りかける男の姿があった。

撮影●藤田正弘　文●轡田昇

山口岩男はいつものようにちょっと伏し目がちにギターを抱え、おもむろにステージの中央へ歩み寄った。

＊

彼は〝山口岩男ってどんな人？〟と聞いてきた。〝ま、ライブを見ればわかるよ〟と答えたのだけれど、彼は満足せずに〝ライブの前に予備知識として聞いておきたいんだけど……〟という。正直いって困った。どう説明していいのか、とっさには出てこない。言い訳をするわけじゃないけれど、山口岩男は、ひと言では表現できないくらいに、いろんな側面、表情、言葉、音楽性を持っている。どの部分を切りとって話せば、山口岩男というアーティストの人となり、そして音楽を的確に説明することになるのか……、なんてことを考えるとよけいに慎重になってしまう。要は、単純なひと言で語れるほど表面的な人ではないし、歌を一聴しただけですべてがわかってしまうほど、浅い音楽をやっているわけでもないってことだ。

彼の瞳は、やたら好奇心に満ちていた。山口岩男――あたりまえだが、知っている人は知っている。だけど、彼にとって山口岩男は、海のものとも山のものともわからない存在だった。一挙一動の細部まで見逃すまいと、彼は食い入るように視線を送る。もちろん、ステージの上のメイン・キャストに熱い眼差しを投げかける人は、なにも彼だけではなく、他にも大勢いた。だけど一方で、そんなことはおかまいなしさといわんばかりに、山口岩男はギターのストリングスを弾き始めた。

オープニングは「月に吠える夜」。あいかわらず彼は、ステージ上をジッと、そして怖いくらいに見据えている。

それはステージ上の主役に対して、失礼のない彼流の礼節であった。彼以外の聴衆と同じように、思い思いにステップを刻んだり、腰を左右に動かしたりすることはない。おおかた、初対面の人間同士がそうであるように、ふつう相手の手の内が見えないかぎり、自分から心を許すことはなくて当然である。彼が、あえてステージとの間に距離をおいていたのはそのためだったに違いない。

それに対して、当の山口岩男はといえば、ちょうど気の合う仲間と談笑するかのように、ときにテレながら、ときにはにかみながら、ときに攻撃的に、しかし、まったくの彼のペースで歌う。〝昨日さ、――なことがあってね、驚いちゃったよ、オレ……〟なんて具合に。決して客席を無理に煽ることはしない。通り一遍のロック野郎たちが、勢いにまかせてホール内を過剰に刺激したり、演出するのとはワケが違う。それだけ、パフォームする一曲一曲に、聴衆の耳を必ずや引きつけられるだろうという、余裕めいた自信を持っているからなのだと思う。

山口岩男が歌う歌、山口岩男が奏でる音楽、そして山口岩男というアーティスト自身が、聴く側が安心して身を委ねてしまえるくらい、あるいは心のよりどころにもなりえるくらいの包容力を備えているのである。心から信頼できる音楽と言い換えてもいい。前号でも触れたとおり、ゆくゆくは、彼が敬愛するジョン・レノンやボブ・ディランetc.……のように、スタンダードなポップ&ロックを残すことのできるアーティストなのだとも思う。

実際にギターを抱えた山口岩男は、悪戯におもちゃを手にする無邪気な子供のようでもある。邪念のかけらもなく、そのこと（ギターを弾くこと、歌うこと)に夢中になる。CDを介して届けられる歌や演奏だけでは、なかなか感じることのできないヒューマンな側面を見た気がして、心なしか安堵する。たとえ激しいリズムが先行する曲であっても、穏健な感覚で楽しむことができるから不思議である。

彼はあいも変わらず、不動の姿勢を崩さずに見入っている。終演までそっとしておこうと思った瞬間、「いいね」と独り言のようにつぶやいた。ちょっとしたエポック・メイクである。音楽全般にさほど精通しているわけではないけれど、人のことを諸手をあげて誉めることの滅多にない彼が、心の底から湧いてきた言葉を噛みしめるように「いいね」と言ったのだから。「擬似体験しているみたいだ」と彼は付け加えた。山口岩男とそっくり同じ人生を歩んできたかのような気になった、と。

山口岩男は自分自身の生き方（目的意識）を切りとって歌うタイプのシンガーである。だけど、説教くささばかりが耳につくメッセージ・シンガーでは決してない。確かに曲によっては、社会を風刺したり、世の中の歪みを鋭く攻撃したり、あるいは純度の高いセンチメンタルなラブソングもあったりするのだけれど、そのどれもが、現在27歳のひとりの男が考えうる、きわめて日常的な断片なのである。つまり、山口岩男はいつでもフラットなスタンスで立っている、ということだ。

会場には、男性ファンの姿が目立った。まだ圧倒的に女性上位ではあるけれど、全体的な動員の増加とともに男性ファンも徐々に、しかも着実に増えている。もちろん女性もそうだけど、毎日これといった不自由さを感じることなく、だけどどこか満たされず、かといってどうしていいのかという術を見出せないでいる輩が、山口岩男の歌を何かのきっかけ、あるいは起爆剤にしようとしている。そう、ボクの隣でステージ上の山口岩男と、真剣に対峙している〝彼〟も、である。

ライブといえども、おおかたが、あらかじめ仕組まれたプログラムを時間どおりに消化しているだけのような演奏活動をしている中にあって、異端とも思えるほど気兼ねのない空間を提供してくれたことが、なんだかうれしい。

旧年来の友人と、久しぶりに酒でも飲みながら、近況やら昔話に、存分に花を咲かせたかのような、心地よい雰囲気を味わうことができた。まったく気張らずに、リラックスして2時間前後のライブを楽しんだのは、久々の経験だった。そう遠くないうちに、再び味わってみたいと素直に思った夜だった。〝彼〟もきっと同じ気持ちだったに違いない。

TUBE

前田亘輝

SOLO ALBUM

CHANGE OF PACE

**TUBEの前田亘輝のソロ・アルバム『CHANGE OF PACE』が、
12月21日リリースされた。今回のインタビューで、
前田は日本のこと、若い世代のことなどについて、熱く語ってくれた。
このソロ・アルバムには、彼のいろいろなことに対する想いが、
いっぱいつまっているに違いない!!**

文●河合美佳

——以前からそう思っていたんだけど、今回のアルバムの音や詞を聞いているとね、〝ああ、この人ってアメリカなんだな!!〟って思うんですよね。

「そういうの、あるかもしれないね」

——うん、アジア、ヨーロッパ、アメリカって大きく分けると、アメリカだなって……。

「アジアはダメ。行ったけど煮つまっちゃったもんね。アメリカとね、あと日本でいうと、少し前のヤクザ映画の世界ね。あそこに出てくる男が好き。男も女も好きだね」

——フロンティアというか、力を持って成り上がっていくが、義理と人情、ファミリーは大切にするというね。でもそんな中で時代も変動していって、自分も年齢を重ねていって、価値観が微妙に変わっていってる。そういう部分で葛藤している感じもしたんですよね、今回のアルバムからは……。

「葛藤!? 葛藤はいつもしているよね。ただ最近思うんですけど、以前はドップリだったんですよ、自分自身に。昼も夜も寝ているときもドップリだったんですけど、最近は幽体離脱じゃないけど、ヒューッと自分で自分のいる、すべてのポジションを遠くから見ていたりする、ということができるようになったんですよ。そうすると、なんか滑稽にみえる発言をしている自分がいたりとか、〝オマエ、バカじゃないの!?〟って、自分で自分に言ってあげたくなったりとかね。あと逆に他人の話を聞いていても、昔はガップリだったんですよね。たとえば、取材のときなんかもそうだけど、誰かと話をするときも、ガップリと四つに組んで〝何を言ってるんだヨ、違うじゃないか!!〟とか、写真ひとつにしてもそうだったんですよね。口じゃ、うまく説明できないんだけど、そういうのがヒューッとね……」

——いわゆる肩の力が脱けた、というヤツですね。

「うん、それでいろいろなことを見られるようになりましたよね。たとえば、さっき言ってたアメリカってものすごく好きなんだけど、なんで好きなのかというと、アメリカってところは、いろいろなヤツがいっぱい集まっているから好きなんだよね。僕は日本人で、日本も好きだし、日本人も好きなんだけど、日本人っていうのは常に他人に対して威圧感を与えるでしょう。アメリカはそういうところがあんまりなくて、だから好きなんだよね。人種差別だなんだっていうのが思いっきりあるのに……」

——アメリカって、自分が一番だ!! って思っているでしょう。どんな人でも……。

「そうそうそう。こう、シャベルを背中に持ってさあ、〝今、オレはこんな仕事をしてるけど、10年後には宝の山を掘り当てて、億万長者になるんだ〟って話をしているヤツばっかりなんだよね。酒なんか飲んでると……」

——人間の見かたがフラットというか、誰でも可能性があり、夢を実現させることができるんだ、と思っていますよね。そのパワーはスゴイですよね。

「そうそう。第三者が出したランク付けとかをすごく大切にしているんだけど、それを見て、〝オレだって、あれぐらいなれるぜ!!〟と思って、思い続けて、結婚して子供ができて、年をとってもやっぱり思い続けている、というね。うちのオヤジがそういうヤツだったんですよ。オレもそういう男が好きだし、そういう男でいたい、と思うわけ。でも近ごろ、そうじゃなくなってきているんだよね」

——ということは、どういうこと？

「だからね、今回の「チェンジ・オブ・ペース」でテーマとして書いたことが、〝オイオイ、オレと同じ世代のみなさんよ、今の時代、金のあるヤツが土地を買い、好きなことをしてるけど、あと20年もしたらオレらは45歳。そいつらのやったことの尻ヌグイをするのは、どう考えたってオレたちの世代だとは思わないかい!? ってこと」

夢を持ちにくい時代だからこそ、強く持たなきゃね

——うん、それで？
「オレは、それってつまんないな、と思っちゃうんだよね」
——そういう危機感を持つキッカケになったことは何なんですか？
「ハワイとか、オーストラリアとかに仕事で行ったじゃない。で、TUBEというバンドはリゾートというイメージがあるから、特にそういう場所へ行くことが多くて、行く先々で日本企業の土地買い占めだの、買いあさりだのを目の当たりにして……。そういった問題から発生した地元の反日感情っていうのを肌で感じてね。これはテレビとかで報道されているよりも、もっと根が深いような気がしたんですよ。しかもこういう仕事をしていると、そういうことをダイレクトに感じることがあって……。地元の人と酒を飲んで話をしたりすると〝それはオレたちの世代じゃなくて……!!〟と言っても、相手はJAPANESEって、全世代をひっくるめて同じに見ているわけ。〝オレもJAPANESEだよ、だけどそれはオレたちの世代がやってることじゃなくて〟って説明すると、〝それなら、なんでオマエらの世代のヤツらは、そういうことに対してデモをしないんだ〟とか言われちゃうわけ。そう言われると、オレらの世代じゃない、といっておきながら、オレらの世代ってそういうことに対して何かしようとか、そういう思いがないな、と思ってね」
——うんうん、これは飛躍した言いかたかもしれないけど、それだけ日本国内は平和だということですよね。平和すぎて、外でやっていることを他人ごとのように見ていたりする。でもそういう時代だからこそ、この平和の中で自分たちが何をやらなくてはいけないのか、やっていけばいいのかを考えなくてはいけない、という……。
「そうそう、すごく平和だから、これだっていう決定的な問題がないから、これからは家が持ちにくい時代になるとか、いろいろな情報が出てくるわけ。で、あれは無理だ、これは無理だって、情報で何もかもわかってしまうし、それに踊らされていたりするわけ。そうじゃなくて、家がほしけりゃ、買っちゃえよ。買って借金を返せなければ、フミたおす。そういう若い世代が増えたら、時代も社会も困るわけよ!! といっても犯罪をやれ、といっているんじゃないですよ!!」
——うんうん、そういう情報に飼いならされるなってことでしょう。
「うん、それで情報に飼いならされて、下の世代に当たるんじゃなくて……」
——上の世代に対して突き進むわけ!?
「いや、そうじゃなくて、戦っても勝てないなら、面倒をみてもらっちゃおうと思うわけ。ただし、こんなもんだ、とあきらめて面倒をみてもらうんじゃなくて、オレらの世代って、〝もしオレたちが会社がイヤだからとヤメてしまったら、上司はヒーヒーいうぜ!!〟っていう自信をどこかにみんな持っていると思うのね。その自信を実行に移すのではなくて、大切にしてほしいと思うわけ。そうすればいちばん大切なところで間違えないと思うし、そういう人間であるべきだと思うからね。それだけですよね。今回、アルバムにこのタイトルをつけたのも……」
——ふーん、それで〝チェンジ・オブ・ペース〟なんですね。
「だからといって、明日から何を変えろとか、会社へ行くな、といってるんじゃなくて、そういう思いを、自信を大切にして、やるときはみんないっしょだよ、と……。それとあとね、やっぱり、自分は成功するんだっていうイメージを持っていてほしいよね」
——夢ってヤツですね!!
「持ちにくくなった時代だからこそ、強くね!!」

必見、必読の第15号だぜい!

ピカ丸君道場

さ・か・さ・ま

も、もしかしてもう謹賀新年?!

ひと通り、お決まりコーナーは終わり! お次は、呼び込み&ギョーム連絡だぞう。※引き続き"他力本願・企画ボシュー"お願いしますだ。どんな内容かを説明して送ってね。キミの企画でピカ道をもり上げておくれーっ。※今月の直筆カードプレゼント及び、ピカ道 [illegible]

《ぷちだりジャーック!!》※わーい、今月は特別企画のカンゲーで、ぷちだりスペシャルだ〜い! イクぞーっ! <ちくったる!>★父のTOSHIはサマージャンボ宝くじで7万5000円も当ったあげく、ハズレたもーだ。(千葉県・しほ)▶ほーら、持ちなれないお金持つとロクなこたぁない。夢見がちなんだからぁ(笑)。★松岡英明氏はブルーのメタリックのオープンカーであの金髪をなびかせ、我が家の前を走り去ったことがある。(東京都・由都子)▶ホントー? 金髪のソラ似だったりしない? ピカ丸はヒロト君が自転車で商店街を走る姿を目撃したことがある(笑)。<大好きだからキライ>★ユニコーンが大好き! でもTMNのパロディソングなんか唄っちゃヤダー!(和歌山県・みほ)▶人気者の宿命だす。そんだけ偉大だっつーことで、おこりなさんなぬ。<家族の名前>★由がシャムロックの高橋センセーなら副業収入が安定してそうだから許す!と言いました。お墨付きよん。(福岡県・喜美子)▶性格は安定してるだかどーだか。<ぶっつーのおたより>★1月号のIX・IXインタビューを読んでファンになっちゃいました。faceは長男シンイチさ

への投稿etc.には、スミッコのピカ丸君応募券を貼るのだぞよ。立ち読みじゃ参加できないや、あはは。手間どりつつもただ今<フィラメント・メンバーズ・カード>を発行中! 入手済みの人は投稿の際、会員No.を書いてくりさい。さて、この会員証の有効期限がせまりくるけど、気にしないよーに!(笑)。ピカ道が続くかぎり有効となったよん。xxx 次号も特別企画を計画中!

パンパカパーン! なにコレ、ビックリ!! 今月はメリークリスマススペシャルプレゼント企画なのだっ!! 今までピカ丸インタビューに登場してもらったアーティストを中心に、クリスマスカードを書いてもらっちゃったよ〜ん。この貴重な直筆カードは読者プレゼントもあり! もう2月号だっつーのに、すんごいゴーカ企画っっっ!!

特別企画

この絵、この文字メリークリスマス!
アーティストより愛をこめて

Happy X'mas

ジョン レノンの歌が街にあふれる季節がやって来ました。僕は 毎年 彼の歌を歌っているのです。彼の歌は、どの季節でも合うのですよ。11/28 にリクオのミニ・アルバムが発売されました。よいクリスマスになったらいいなあと思います。—リクオ

▼リクオ

★11/28、どくとる梅津氏プロデュースのミニアルバム『本当のこと』でデビュー。心にひびくピアノと歌声で、今ウワサのソロアーティストなのだ!▶リクオ君に会ってみたいなあ。ぜひぜひ、よろしくぅ。

Merry Little Christmas

直筆だ!!

Yamamori Bass

the Shamrock

MERRY X'MAS

▲ザ・シャムロック

12/15待望のニューアルバム『Sometimes It's Better Than Sex』をリリース!! シングル「La Pa Pa」もヒット中! 1月17日(木)にはいよいよ東京・日本青年館でライヴ!お忘れなくっ!▶似顔絵が似すぎてる。"直筆だっ!!"と叫べているが、みんなも直筆です。

▼ディープ&バイツ

★2nd アルバム『GET GIGGLE』はもうゲットした? 11/28リリースされたシングル「あいがたい」はテレ朝「ビデオあなたが主役」のエンディングテーマだ。2/25(月)には東京・新宿パワーステーションにて、デビュー1周年記念ライヴを決行!▶まさおクンの頭髪はその後、どーなったであろーか?

クリスマスだ——。
1.2.3 ダァ——のりを
キリストさん たんじょうび おめでとうこんの
Deep&Bites
メリークリスマス!!
メリークリスマス。来年は1月1日!
無理は禁物 こよいは素敵な夜をすごしましょう。
チェックイン!!
まさお!
タケ

1990.12.24 Takahiro Fukushima

クリスマス、ここ一番の晴れ舞台!

▲福島高博

★デビューアルバム『See Saw Game』が早くも注目をあび、アコースティックなら福島におまかせ!ってカンジっ! ▶さっすがぁ、X'masに何やらイイコトたくらんでるらしいぞ。ハズすなよぉ(笑)。2/8に新宿シアターサンモールでライブがあるから、みんなで観に行こう!!

▼IX・IX(アイクス・アイクス)

★11/28にリリースされた2ndアルバム『Stories』も大好評! アルバムのラストに収録の「Sugar Snow」は胸にじーんとくるクリスマスソングだよ。▶さすが、山本3兄弟、アッサリしたカード(笑)。

Merry Christmas to you
from Shinichi Yamamoto
IX・IX
Ikuse Yamamoto
Kouji Yamamoto

▲清田益章

★'90年はアルバム『さよなら神様』でミュージシャンデビューを果たした、サイキックアーティスト清田くんであった。▶ライヴ楽しみにしてます。がんばってくださいっ!!

To Jesus.

Happy Birthday

1990年12月25日 この時空から

Kiyota

▼ザ・ブルーハーツ

メリー クリスマスデス
THE BLUE HEARTS

梶くん

河ちゃん

マーシー

ヒロト

やきゅう

バカボン

パパ

★『BUST WASTE HIP』をひっさげての久々のツアーも大成功!で幕をおろした。最高!春からは全国のもっと各地でやるツアーも決定したらしいぞ!▶あい変らずマーシー画伯の画風は計り知れない…。わざわざ"やきゅう"…(笑)。

▼エコーズ

★12/1に初のベストアルバム『GOLD WATER』をリリース! NHK"燃えよ・ドラ"のテーマ曲・ニューシングル「ONE NITE DREAM」のビデオクリップも完成してるぞ! ▶辻さんのイラスト、へんっ。林家三平かっ?!

世界で1枚のこのカード読者プレゼントだっ!!

ツトム

Merry X'mas

ツトム今川より

Merry X'mas

ECHOES TOSHI

トシ

HAPPY X'mas

ECHOES Kenichi Ito

ヒロキ

R&R

ECHOES

Merry X'mas

From Jinsei Tsuji

1990 ©

ジンセイ

どのカードを希望か書いて送ってね

このページに関するあて先・お問い合わせは
〒107 東京都港区南青山2の6の9 ボアII・2F
フィラメントミュージックパブリシャーズ
ピカ丸君道場「○○○」係 ☎03(423)2910

ピカ丸君応募券

どうぞよろしく!

'91年もごひいきに!

Dreams Come True

unprecedented emotion

28 NOVEMBER in KANAZAWA

**unprecedented emotion――前例のない感動とでもいえばいいのでしょうか?
ドリカムのライブは楽しいだけでも、うれしくなるだけでもなくて、プラス・アルファの感動をプレゼントしてくれます。
その感動のモトを探るインタビュー。まずはツアーの近況などを**

撮影●渡辺マコト　文●鉄石美保子　スタイリスト●熊谷章子(JUBILEE)

Dreams Come True unprecedented emotion

どこに行ってもお客さんから受け取るパワーってすごいって感じてる

Dreams Come True Special Crews──後列左から、豊田伸介（大道具）、今井徹也（ツアー・アシスタントマネージャー）、合野明（照明）、正木貴志（ツアー・マネージャー）、溝越貴弘（舞台監督）、上野新（マネージャー）、大前望（電飾）、川上尚子（照明）、淵田英昭（ＰＡ）、浅野謙司（運搬）、河野英樹（舞監助手）、大川原忠（運搬）、松谷直樹（楽器）、高平浩徳（運搬）、藤木隆（ＰＡ）、荒木浩（楽器）、薗田南海児（運搬）、小沢時春（ＰＡ）、前列左から、戸田勝利（照明）、御幡夏木（照明）、有沢健夫（ＴＰ）、竹上良成（ＳＡＸ）、熊谷章子（衣装）、角田裕康（Ｄｒ）、飯尾通利（ＴＰ）、馬渡まこ（Key & Cho）、佐々木康彦（Ｇ）、& Dreams Come True。そして写真に入れなかった人、鈴木学（物販）

ひょっとしたらあなたもどこかのハイウェイで遭遇してるかもしれない、〝WONDER3〟ツアーで大活躍のトランポ車。それも赤・黄・緑と一台ずつロゴ・カラーが色分けされているうえに、〝Miwa Yoshida〟〝Masato Nakamura〟〝Takahiro Nishikawa〟のネーム入り！「このあいだ移動中にね、助手席に乗っけてもらったの。すごく気持ちよかったんだよぉ、視界がぜんぜん違うんだから」はしゃぎまくる美和ちゃんの顔、しっかりと想像がつきます。(笑)一方ニーヒャ号の前に立って「オレ、大好き。この車」とかなんとか、まるでちっちゃな男の子みたいにうれしそうなニーヒャ。それぞれの車の運転を担当してるドライバーのみなさんもすでにかなりの愛着があるらしく、メンバーの知らない間に手作りステッカー（〝MIWA〟とか、ね）をはり付けてたりするもんだから「うれしい!!」がこだましちゃうわけです。

こんなふうに、オフ・ステージでも愛あふれる光景をくり広げてるドリカムのツアー。もしかしたら『WONDER3』以降、改めてDreams Come Trueワールドに驚いている人もいるかもしれないけど……それは、アマイ。結論からいっちゃうと、驚くのはこのツアーを見てからにしていただきたい。が、とはいえ今やプラチナ・チケットとなっているドリカムのコンサート、目撃できない人のためにもいち早くその感動を――ツアー開始から8番目に訪れた町・石川県金沢市で、静かに深く変化しつつある3人の笑顔に秘められた何かを、言葉や表情から感じてもらえることを祈りつつ……。

◇◇◇

――まず、初日からここまでの感想をお願いします。
中村「んー、思ったより、いい(笑)」
――(笑)。その手ごたえはどのあたりから？
中村「初日から。浦安から思ってた。今まであまりにも長い間同じような曲でやってたでしょう。アルバム2枚しか出てなかったからしようがないんだけど、でも今回『WONDER3』が出て、それを中心にっていうんで、まぁ不安もあったのね。やっぱり「悲しいKiss」やんなきゃダメかな、「APPROACH」やんなきゃ始まらないんじゃないかなとか。僕ら、曲に対して固定観念が強かったのね、やっぱり。でも「うれしい！たのしい！大好き！」をやらないと本編が終わらないって思ってたのは僕らだけで、考えてみたら昔は「あなたに会いたくて」で終わってたわけだしね。だからこの中で、たとえば今回の最初の曲で最後の曲をやって、お客さんに完全に納得して帰ってもらおうっていう決心がついたっていうか」
吉田「やってる側の気持ちだよね」
中村「そう。だからたとえばマイナーな曲で終わっても、みんな幸せになってるから」
――(笑)なるほど。
中村「吉田美和がこの歌を聴けーってちゃんと歌ってれば……要するにスカッとくるっていうヤツ？」
――〝スカッとくる〟、幸せに続いてはスカッですね。(笑)美和ちゃんはここまで回ってきてどう？
吉田「(マイクに顔を近づけて) やっぱりドリカムはいけるっ」
(一同、爆笑)
吉田「なんかね、前回のツアーはほんとにもうビャーッていうステージで、それに比べるとちょっとこうシックでもないけど、そういうようなライブかなぁとは思う。でもね、やってることにかかわらず、どこに行ってもお客さんから受け取るパワーってすごい。あたし今のとこ（涙に関して)、全戦全敗なんだけど(笑)」
――やはり。(笑)
吉田「まいったなあ(笑)、あたしイヤなのね。そういうとこウリにしてるみたいだし、どうしても取り上げられちゃうし。でもね、どーも最後になると感激しちゃうんだなっ、アハハハー」
中村「昨日（富山市公会堂）は耐えたよ、最後の曲が終わるまでね(笑)」
吉田「がまんしてがまんして最後に、メンバー紹介で〝Dreams Come True、ニーヒャ・隆宏〟って言ったときに……」
中村・西川「ダ――ッ(笑)」
吉田「またスタッフも意地悪で、会場を照らしたりするから、男の子がウウッとかなってるのを見ようもんなら！(笑)あたし昨日思ったんだけど、コンサートに来てる人ってすごい意地悪で、あたしのこと泣かせようと思って来てるんじゃないのって(笑)」
――(笑) じゃ、ニーヒャはどうですか。
西川「最初はいろいろな面で不安があったんですが」
吉田「そーぉ？(笑)」
西川「や、だから具体的にいうとシーケンサー、ちゃんとはしるかなとか。(笑)そういうことを気にしつつやってたわけですが、でも最近は、たとえばシーケンサーが止まったら、前はけっこうぎくしゃくしてたと思うんだけど、最近はね、何かやらなきゃって。それは止まったってことを感じさせないような演奏であったりとか……、馬渡（DCTバンド・キーボード担当）にイケって合図を出すことであったり、……もっともっとなんですけど、トラブルを楽しむっていうとヘンだけど、トラブルが起きたときのその対処の仕方がスムーズになった。なんていうかズルイのかもしれないけど(笑)」
中村「やっ、でもそのトラブルを楽しむっていうのは、ライブをやるうえでまさに正解で、だからライブを楽しめるようになってきたんじゃないかな」
西川「でも汗かかないんだもん」
中村「そう、汗かかないから本気になってないのかなって僕に聞くんだけど、そういうことじゃなくてー、(笑)みたいなねぇ。でもDCTバンドやダイナマイツも本当にいいですよ」
吉田「すごくイイ！」
中村「僕らに向かってじゃなくて、お客さんに向かって援護射撃するようになった。いつもステージが始まる前に

Dreams Come True
unprecedented emotion

**みんなと会えるこういう機会がもてて
あたしたちもとても楽しみなんです**

ひとりひとりがスターだって言ってるんだけど、最近やっとそうする方法がわかってきたんだと思う」

◇◇◇

たとえば、あまりの星空に出くわしたとき。どんなに目を凝らしてみてもすべての星たちが瞳に入りきらなくて困ってしまうときってあるじゃない。その感じと今回のドリカムのステージ、とてもよく似ています。美和ちゃんや正人さん、ニーヒャのまわりでやけに輝きを発している6つ星がもたらすパワー、さらに強力になった〝動くドリカム〟。また、あなたがコンサート会場に行ったとき、おや？　と思うシステムもあり。そう、それは開演中、警備員の姿の見えないコンサート──正人さんをはじめとするメンバーの意思で、ツアー・スタッフももちろん実はドキドキのシステムが、このツアーから実現とあいなったわけです。

固定観念もなんのその、いつも新しく、標的さえも定めずにまさにジェット噴射の勢いのごとく、日ごと夜ごとすさまじい驀進を遂げているDreams Come Trueとそのクルー。

「今度のツアーで大きな何かが音をたてて動くと思うの」

ツアーが始まる1か月前のそんな美和ちゃんの言葉を裏づけるべく、さっそくいろんな現象が3人の中で起きているようでもあります。

◇◇◇

──ところで、なにか美和ちゃんの音や空気に対する反応がすごく敏感になった気がするんだけど……。

吉田「うん、前は誰が間違えようがよっぽどのものじゃないと耳に入らなかったのが、今はみんながやってることが聞こえるから……そう言われてみれば聞こえてるのかもしれない。自分のモニターから返ってくる音以外のものも聞いてるから」

中村「まあ、特にオレが間違えたときなんてパッとオレのほう見るし。(笑)まだまだかもしれないけど、歌はよくなってるよね。で、すごい冷静なのね、歌ってるとき。今までは勢いに負けちゃうところがあったんだけど、今は吉田美和の身体は高揚してても、歌ってる吉田美和はしっかりしてる、みたいな。青学のときからオレは驚いてた」

吉田「とにかく今回はね、歌をもっとちゃんと歌おうと思ってたんで……たとえば同じ量動いて息が上がっても、それでもちゃんと歌えるように、歌に神経を集中させてっていう意識を持って始めて……でもまだ、はぁーっていう感じなんだけど(笑)」

中村「一瞬崩れてもすぐに持ち直すようになったよね。それに今回のツアーでは1回も〝マサちゃん、ダメだぁ〟っていう顔してない。疲れた、息が上がったっていうのはあるけど」

──でもそれさえもカッコイイ。

中村「そう。それさえも、へっちゃらみたいなね」

吉田「……前まではもうちょっとはじけても、もうしょーがないやぁって(笑)思ってたんだけど、今ははじけてる状態だったらその中で神経を歌に集中させてやろうみたいな意識がきちんと根ざしたので、そいで……かなっ。そうそう、昨日あたしね、「さよならを待ってる」のときすっごく気持ちよくてねぇ、これだーって思ったの」

中村「そう、昨日オレもデビュー以来初めて気持ちよかったのね」

──じぁあ残るニーヒャは？

中村「ニーヒャはきてないんだって」

吉田「ニーヒャはまだ(笑)」

──じゃあ今日あたりかなぁ、みたいな。

西川「…………(笑)」

中村「なんか表現するのが難しいんだけど、オレが今まで違う違うって思ってたことが昨日初めてなくなったの」

吉田「きっと自分自身に対してのね」

中村「そうそう。すーごい気持ちよかった。僕はデビューする前まで、はぁーって息を深く吐くようなそういうプレイをしてきてたんだけど、それをドリカムでデビューして初めてできた。だからシメシメって思って、(笑)あの感覚がつかめればもう大丈夫。うん。なんかね波動砲が発射されるようなね、脳が宇宙とつながるような……」

吉田「肉体はあるんだけども、意識だけは膨大な大きさになっていて、冷静に見えたり聞こえたりしながらもいい気持ちになってるっていうか……」

──ツアー始まる前に〝このツアーで何かが動くと思う〟って言ってたけど。

中村「そうそう。現在のところ、ニーヒャを除いては(笑)」

西川「…………(笑)」

──じゃあ、まだまだツアーは先が長いぞということで、残り4分の3に向けて心気込み（←ドリカム語：心意気＋意気込み▷発案者：バンビーナ）を。

中村「はい、ひと言、〝勝ちます〟」

吉田「あたしはねぇ……みんなと会えるこういう機会が持ててとても幸せで、あたしたちも楽しみなんで、楽しみにして心して来てくださいっ(笑)」

──はい。それでは西川サン。

中村・吉田「しめてよ、しめてよ(笑)」

西川「自分自身になんですけど、今回のツアーを含めていろいろなことで〝勝つ！〟っていうのはそんなに甘いもんじゃないと自分でよくわかってるから、まあコメントで載せるとすれば……〝負けません〟っ」

中村「うまい！　おいしすぎる(笑)」

◇◇◇

この日のステージで、美和ちゃんは初めて涙を完封。「オレとしてはキース・リチャーズのようなスタイルでいきたいわけ。計算も何もない、自分の好きなようにやるっていうの？」キースのポーズ付きで、プレイヤーとしての抱負(？)を語っていた正人さんはやけにエキサイティングだった。そして、今のところおいてけぼりをくってるニーヒャ。でも「すごい汗だったよ」とカメラマン氏の言葉。確かに寡黙っていう言葉をとっぱらったついでに、クールとかミステリアスとか今までニーヒャを取り巻いていた言葉すべてをこの際撤回したほうが賢明と思われるステージング。代わりにといってはなんですが、タフ&ナイス・ファイトの形容詞を慎んで進呈したいところです。

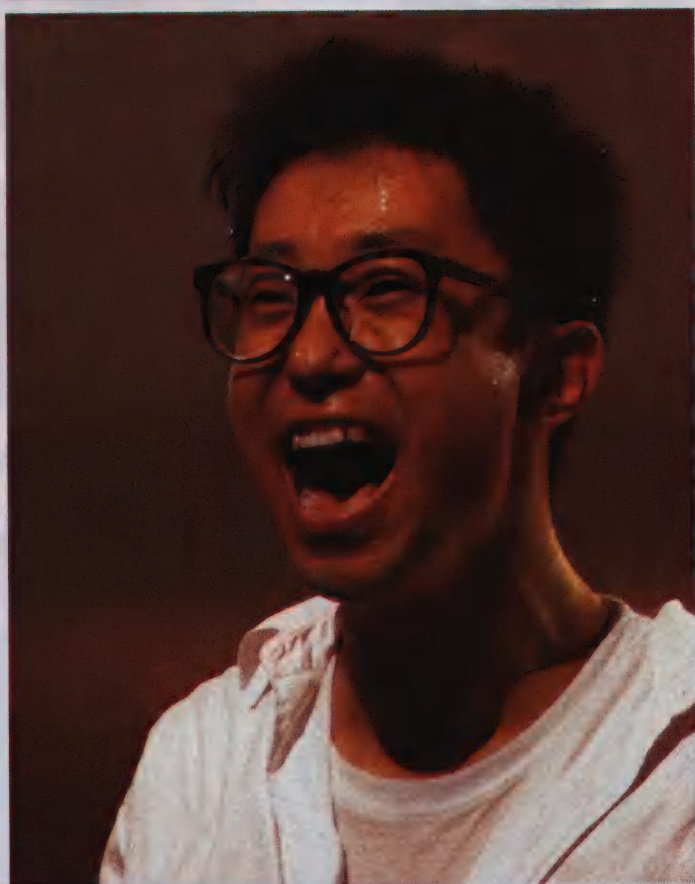
それにしても。ドリカムの〝しあわせ〟はつおい、です。手をのばしてもつかめなかった、今までのふわふわ・きらきらとはちょっと違います。今度は、大丈夫。もしもあなたがその気なら、両手でぎゅっと抱きしめることだってできます。

はっきりいってずばり、前例のない感動。今までに見たことのない、感じたことのない、嗅いだことのない、触れたことのない、耳にしたことのない感動。それは、コンサートのエンディング、もれなくすべての人の心を揺さぶります。本当に心していてください。そして、その感動をあなたの五感で六感で、まっすぐに受けとめてください。

大江千里
OE SENRI APOLLO TOUR

●10月22日の神戸から始まった大江千里の"APOLLO TOUR"。
その模様を追っかけて、11月30日、札幌まで行ってきた。ツアー前半のため、詳しい内容は秘密にするが、
写真から、このレポートから、"APOLLO TOUR"のスケールの大きさを感じとってほしい。

撮影●ハービー山口　文●浜田次郎

大江千里
OE SENRI APOLLO TOUR

もう12月になろうとしているのに札幌には雪がない。そして'90年、いつもならクリスマス間近にやってくる札幌厚生年金会館も、今年はちょっと早めの11月30日。けれどいつ来てもこの会場のお客さんはまあるい感じがする。帰郷した息子(！)＝大江千里を迎えるような温かさが開演前の席と席の間から漂ってくるようだ。といっても決しておとなしいお客さんというわけではない。(笑)そのひとりひとりが、大江千里が何をやろうとしているのか、ということまでしっかり受けとめて帰っていくに違いないという予感。そんな僕なりの予感が始まる前から居心地のよさへと変わる。大江千里のコンサート会場ではよく体験する感覚ではあるけれども……。

さて、今回の〝APOLLO〟ツアー。〝人を楽しませたい！〟という彼のサービス精神が、「ついにここまで」の荒技をやってのけるスペシャル・バージョン。オープニングからテンションは止まることがなく、らせん状にどこまでも昇りつめていく。だからといって、たとえば〝曲〟そのものに対する観客の個人的な〝想い〟が置き去りにされることなどは決してない。観客と大江千里との間にあるシンパシー。今回も彼はそれを少しもはぐらかしたりはしない。彼はそれを受けとめ、それを抱きしめるようでさえある。〝APOLLO〟ツアーは、まぎれもなく大江千里が観客への信頼の上に構築した一大ファンタジーだといえる。躊躇など一切なし。限界ギリギリまでそのベクトルは観客へとまっすぐに向けられたまま進行していく。

オープニング。彼が観客へと、そのひとつひとつの言葉を確実に伝えようとしているよう。〝今〟がなぜあるのか。だから〝未来〟へどう進むのか。まるで大江千里の歴史を語るようなその歌が示すものは、しかし時の流れの中で変わっていくものではない。未来へと目は向いていながらも、幼いころを想い、やっぱり変わらないものを抱きしめようとする。他人がなんと言おうとも自分の中で生き続けるもの、変わらないもの。それを見つめることで未来が見えてくるんだよ。高い場所から歌われるオープニングは、そんなふうに話しかけてくる。未来、宇宙というデジタル的な演出のイメージの中を、彼は逆行していく。その中からロマンを、心の中に広がるロマンだけ抽出してみせる。そう、この〝心の中に広がるロマン〟が、今回の〝APOLLO〟ツアーのキーワードだ。

数多くの見どころの中からほんの少しピックアップしてみると……まず衣装の奇抜さ。その発見＝イマジネーションの自由な広がりが驚きとなって届けられることだろう。デザインは、不思議な形の帽子でも有名な内藤こづえさん。(kyon^{2}のバイクのCMの衣装デザインは話題になった) とにかく色が美しくて、形そのものがポップ。衣装自体がとても楽しいのだけれど、これをコーラスの濱田さん、バンドの面々、そして大江千里が身につけたり動きまわることで、別のニュアンスが生まれてきたり、さらにユーモラスになったり。人がそこに関わってこそ衣装の不思議な形が生きてくるというのは、まことに大江千里らしいところだ。そして、ファンタスティック！ ディズニーランドのあの感じ。映画『ディック・トレーシー』の、現実離れした人工美の中で生身の人間がリアルに存在している感じに似ている。汚れない、しわが寄らない、いつもどこかが揺れていて美しい。だからまるで夢を見ているように心地いい……。と言いたいところだけど、そこが映画とは違うところ！ かなり危険。バランスを失いかけて、ファンならなおさらのことハラハラさせられるシーンにも出くわすことだろう。そんなふうにたとえピーターパンのように地面から飛び上がろうとも、そこは人間。という、これもまた大江千里らしいのだ。生身の人間が汗をかきながら、一大エンターテインメントを繰り広げていく。この感じ、いいなあ。

「1年に1度、札幌に来ているんですけれども、そうすると、この1年に何をやってきたかってわかるんですよね」

そう話しながら、今回も弾き語りで何曲かを聴かせてくれる。今の自分とちょうど重なる過去のある時点って確かにある。あれからひとまわりして、年も重ねて、あのころより確かに大人になって。だからよけいに懐かしいのかもしれない。そして彼も、このパートではとてもしみじみと、今を過去へと少しさかのぼってみせる……。ここにも、現在の自分を起点にした〝時間の流れ〟があって。

今回のツアーについてインタビューしたときに彼は、「集大成的なコンサートになるだろう」と話していた。彼のニュー・アルバム『APOLLO』からの曲を中心に構成されていながらも、確かに見終わったあとに残るのは、〝APOLLO〟というよりは〝大江千里〟ということになる。『乳房』も『未成年』も『OLYMPIC』も、そしてもちろん『APOLLO』も……すべてを通して最も〝ライブ＝大江千里〟として集約されてくるある種の強いインパクト。それは曲のイントロダクションかもしれないし、その歌を歌い出すときに一歩前へ踏み出す、あの足の動きかもしれない。最後のワンフレーズや、一瞬息をのむ、あの緊張感かもしれないし、歌い終わって観客を見つめるときの汗だらけの顔に広がる、ため息の出そうな至福の表情かもしれない。

ただとても確かに、その集大成のひとつの意味を言いきることもできる。それは、バンドやコーラスとの関係だ。今回は完全に大江千里はフロントの位置にいる。コーラスやバンドは、彼を支えるような形でいたり、ときにはゲストとしての立場で登場したりする。けれど、すべてに〝あ、うん〟の呼吸といえばいいのか、仲間たちとの絆といえばいいのか、言葉以上の心の通じ合いが見え隠れする。大江千里と観客、そしてバンドと、会場というひとつの空間にいるすべての人々が、あるひとつの方向に向かって集約されていく感じ。

この日の最後のシーン。言葉も出ずに彼は肩でハーハー息をしながら、その感動に目だけをパチクリさせていた。その子供のような表情。そして再びステージに現われたとき、彼は言った。

「こんなに僕の音楽を愛してくれてありがとう！」

大きく微笑んで、片手を大きくあげて。

毎回毎回その激しさで、なによりも心が通じ合ったような感動を伝えてくれてきた大江千里。しかし、今回ステージの上にいる彼は、その重なりの上で、再び頂点にいる。『APOLLO』というアルバムの中の曲のよさが、今回のライブに再び新しい命や喜びを吹き込んでいるのも確かだ。しかし、今回のツアーの感動はやはり、今までの流れをすべて集めたその上に存在しているような気がする。

ツアーを続けていれば、うまくいく日もうまくいかない日もあるはずだが、彼の今回のライブを見ていると、「今日はいまいちだった……」なんてことはありえない気がしてくる。

〝時間の流れ〟と〝ファンタジー〟。独白的な心を打つ歌と、ポップソングの楽しさと。大江千里がこれまでにやってきたことと、やろうとしてきたことが今、ここで見事に混ざりあって鮮やかに輝き出している。〝APOLLO〟ツアーがこんなにもすばらしいのは、そのときをいよいよ迎えているからに違いない。

SUZUKI SOUND SPECIAL

SENRI OE
CONCERT TOUR '90-'91
APOLLO

[illegible]月[illegible]日月 横浜アリーナ(4)/12月[illegible]日木[illegible]日金 大阪厚生年金会館大ホール(11)
1991年1月[illegible]日日 郡山市民文化センター大ホール(5)/1月9日水10日(木)NHKホール(4)
1月12日土13日日 大阪厚生年金会館大ホール(11)/1月22日火 千葉県文化会館(4)
1月24日木25日金 新潟県民会館大ホール(9)/1月28日月 鹿児島市市民文化ホール([illegible])(17)/1月30日(水)大分文化会館(17)
1月31日[illegible]2月2日土 熊本市民会館大ホール(17)/2月5日火 沖縄市民会館大ホール(4)/2月12日火 静岡市民文化会館大ホール(8)
2月14日木 青森市文化会館(3)/2月15日金 岩手県民会館大ホール(3)/2月17日日 大宮ソニックシティ大ホール(4)
2月19日火 高知県民文化ホールオレンジホール(13)/2月20日水 徳島市立文化センター(14)/2月22日金 香川県県民ホール(14)
2月23日土 愛媛県民文化会館メインホール(15)/2月25日月 宇都宮市文化会館大ホール(5)/2月26日火 茨城県立県民文化センター(5)
2月28日木 下関市民会館(12)/3月1日金 倉敷市民会館(12)/3月3日日4日月 広島厚生年金会館(12)
3月6日水7日木 NHKホール(4)/3月11日月12日[illegible]14日[illegible] [illegible]イズミティー21(2)

GIGS Special

現在進行形の表現者～VISION & AHEAD

●ステージに立つ松岡英明は、それまでの彼と遮断された色鮮やかな世界を作り出す。'90年10月22日 クラブ・チッタ川崎、そして11月16日 MZA有明。このふたつのギグの間から生まれ出たもの。そう、今彼は大きく変わろうとしているのだ。

PHOTO●MASATO KATO　COPY●YUKO NOHJI

HIDEAKI MATSUOKA

ステージに立つ松岡英明を見ていると、なんだか自分が不思議な感覚にとらわれていくのを感じた。

遠くて、近い。

本物の松岡英明には何度も会っているけれど、ステージの上の彼はどう考えても別の人だ。いや、同じ人なんだけど。いつのまにか、なんだか1年ぶりに会った憧れの人を見るような思いでドキドキしながらステージに見入っている自分に気がつく。と同時に、インタビュアーとして松岡英明と何かを話しているときよりも、ずっと彼を身近に感じていることに驚く。遠くて、近い。言葉にするとたいしたことじゃないけれど、そういう感じなのだ。ステージにいる松岡英明は、グラビアでにっこりと親しげな笑顔を見せている“松BOW”でもないし、ラジオでたわいもない冗談にはしゃぐ“若サマ”でもない。そんなすべての日常的なイメージを、彼は断ち切る。そして、オーディエンスとの不思議な距離感を楽しみながら、会場にたちこめたパワーを操作する現在進行形の表現者としての松岡英明になる。

全国ツアーを前に、10月から11月にかけて東京と大阪で行なわれた“GIGS NINETEEN NINETY VISION”と銘打たれたスペシャル・ギグ。'90年代の松岡英明からの宣戦布告だったのかもしれない。クラブ・チッタ川崎、MZA有明と2本のライブを見た今は、そんな気がしてしょうがない。

①クラブ・チッタ川崎

オール・スタンディングのフロアは、身動きできないほどの観客でうめつくされている。はやる心をおさえて、この日を待ち続けたファンの熱気が、開演前からひしひしと伝わってくる。フロアにはこの夜のために特別にD.J.がスタンバイ。次々とイキのいいビートを繰り出していく。知らない人がこの光景を見たら、金曜日の夜に巨大なディスコをティーンエイジャーのために開放したのかと思うかもしれない。

メンバーがステージに登場するのが暗闇の中にぼんやり見える。客席から大きな悲鳴があがったかと思うと、ステージ中央に松岡英明の姿が浮かびあがった。やっと会えた。そんな思いが誰もの胸をいっぱいにしているに違いない。鮮やかなイエローのジャケットに身を包んだ松岡。ステージに立つ姿は、どんなときよりも存在感がある。自然に、彼の姿にすべての神経が集中していくのがわかる。

「Visions of Boys」。久しぶりのステージは、彼のデビュー曲からスタートした。そして「VIRGINS」、「TOP SECRET」、「Living in a false scene」、「RAINY TUESDAY」、「Kiss Kiss」、「以心伝心」……。実におなじみのナンバーが続いていく。松岡サウンドというのが、どんなイメージとして人々の心にやきついているのか。それを自らたどってみせるような、そんな鮮やかな選曲に驚かされる。

全編、ブルーの照明。印象的だ。ライブハウスという器が作りものの空間であることを強調しているようにも見える。もっとイマジネイティブにとらえるならば、深海の底のような。とにかく、この大胆なライティングが、現実とは隔離された場所で時間がすぎていくような感覚に導く。彼が'91年、色彩”にこだわっていくであろうことは、無意識のうちにオーディエンスの頭の中にインプットされたはず。

ダンサブルなナンバーや、メロディアスな美しい曲。どの曲も、松岡らしい……と納得しかけてハッとした。松岡らしい、なんて基準はどこにあるんだろう。「Visions of Boys」を初めて聞いたときに抱いた松岡英明のイメージ。または、「Kiss Kiss」を聞いたときに知った、ちょっとした衝撃さえ覚えた新しい松岡の魅力。彼はいつもいつも違うことばかりしてきた。で、そういったものが、どんどんつながっていって、やがて立体的に形を作っていって、今の“松岡らしい”という漠然とした価値観ができあがったのだ。だから、あんまり気安く“松岡らしい”なんて表現を使うのは正しくない。今後、気をつけようと思う。

中盤では、松岡とバンドとの刺激的なインプロビゼーションによるかけ合い。バンドの面々と、彼らを挑発する松岡の関係がだんだんと高揚していく。その緊張感から生じた熱気が客席にこぼれ出すような形で伝わっていく。

「VISION」までの本編、そしてアンコールの「CATCH」、「I Wanna Know Because I Don't Know」まで。この夜の松岡は、見ているほうがビビって

GIGS NINETEEN-NINETY “VISION”

①10/22 CLUB CITTA'川崎

[S O N G L I S T]

1. Visions of Boys
2. VIRGINS
3. TOP SECRET
4. Living in a false scene
5. RAINY TUESDAY
6. Kiss Kiss

(MC)

7. 以心伝心
8. Virtue & Vice
9. Again Again Again
10. Divine Design
11. YOUR LOVE IS MY SIN
12. TAKE ME TO THE VIOLENT STORM

～session～

13. OBJECTS OF DESIRE
14. Don't Look Back
15. SHAKE YOUR FIST
16. Vision

──アンコール──

1. CATCH GIRL
2. I Wanna Know Because I Don't Know

GIGS NINETEEN-NINETY "AHEAD"

②11/16 MZA有明

[SONG LIST]

第1部

1. LIGHT AND COLOUR
2. BOYS IN A BAD TOWN
3. A SWEET LITTLE BITTER LOVE
4. SHAKE YOUR FIST
5. NINE MILES HIGH
6. LIGHT AND COLOUR (RIPRISE)
7. AGAIN AGAIN AGAIN
8. VISION (Ver.3.3)
9. SEX
10. SHADE AND DARKNESS

第2部

1. I Wanna Know Because I Don't Know
2. PARADISE BELIEVER
3. CUTE GIRL
4. VIRGINS
5. STRAWBERRY KISS KISS
6. 以心伝心
7. Virtue & Vice
8. TAKE ME TO THE VIOLENT STORM
9. Please Burn Up, Love Passion

アンコール

1. OBJECTS OF DESIRE
2. STUDY AFTER SCHOOL

HIDEAKI MATSUOKA

しまうほど気合いが入っていた。久しぶりのライブは、見る側も演じる側も最初はウォーミング・アップといった雰囲気があるものだけれど。うれしかった。彼にとって、ステージでのパフォーマンスがどんなに重要なものか、存分に思い知った。

後日、本人に"気合い、入ってたね"と言うと、「時間がなくてリハーサルも十分にできなかったから。すごく緊張感はあったけどね」と、オトナな顔をして笑った。

②MZA有明

通常は椅子が並べられている会場だが、この夜はクラブ・チッタと同じくオール・スタンディング。チッタに続くスペシャル・ギグの2発目、タイトルは"GIGS NINETEEN-NINETY AHEAD"。

会場に着いて、スタッフからプレス用の曲順をもらう。その内容を見たとたん、私は絶句した。なんて大胆な！ 2部構成になっているこの日のプログラム、第1部はなんと完成したばかりのニュー・アルバム『LIGHT AND COLOUR』からの曲ばかり。オーディエンスはとまどうに決まっている。松岡英明というアーティストはなんてヒネクレテルんだ!! ライブの雰囲気を少し心配しながら開演を待つ。

"AHEAD"という文字が、暗いステージのバックに大きく映し出される。続いてそれが"第1部"という日本語の文字に変わる。ピアノによるインストゥルメンタル・ナンバー「LIGHT AND COLOUR」が流れる中、ブルーだったミラーボールからの光が真紅に変わる。

ルーズでヘビーなギター・サウンドとともに、ステージが明るくなる。全員が真紅の衣装。ステージは、真っ赤だ。オープニング・ナンバーは、アルバムの1曲目でもある「BOYS IN A BAD TOWN」。乱暴なまでに、バンドのグルーブに身をゆだねる松岡英明。やっぱり彼がいちばん輝いて見えるのはステージの上だということを実感する。

なんと「BOYS……」以降ずっと、アルバムと同じ曲順でステージが進行していく。心配していたとおり、客席はちょっと困っている。知っている曲が全然ないから、いつもはみんなで元気に飛び跳ねるダンスもばらつき気味。それだけに、3曲目に先にシングル発売された「SHAKE YOUR FIST」が始まると、異様な盛り上がりを見せた。この緊張感あふれるなりゆきを見守りながら、この間のインタビューで松岡英明が話していたことを思い出した。

「僕は、本当はみんなが画一的にコブシを振り上げているのが好きじゃないんだ。でも、みんながそれを楽しんでいるのを見ると"やめよう"とは言えなかった。僕自身も、みんなが楽しんでくれることによって楽しんでいたしね。でも、'90年代はいろんなことを変えていかなくちゃいけないんだ。ライブを見ていて、自然に体が動いて、コブシを振り上げてしまうならいいんだ。そういう人はいるはずだし。でも、まるで振り付けのように、みんなでコブシを振り上げてほしくはない。それは、今の僕がすごく言っておきたいことなんだ」

あまりにもシビアな発言に、驚いた。そして、この言葉をそのまま松岡キッズに伝えていいものだろうか。そう思ったけれど、このライブを見て、彼のメッセージの意味するものがわかったような気がする。

「ダンスっていうのは、自分自身の表現方法のひとつだと僕は思っている」

彼はそうも言った。音楽に刺激されて自然に身体が動いて、ダンスという形になる。そんなオーディエンスの衝動に、ステージ上のアーティストも刺激を受けて、よりパワフルな音を客席に投げつけていく……。コンサートというのは、そういう崖っぷちのスリルも楽しみのひとつであるはずだ。でも、聞き手とアーティストとが親しくなればなるほど、そのスリルは薄れていく。馴れ合い、の一種かもしれない。でも、馴れ合ってしまえば楽なことも確かだ。相手の手の内を読むという、よけいな労力を消費しないですむもの。けれど、松岡英明はあえて自分に大きな課題を与えた。自分のフィールドをより広げるために。馴れ合いを切り捨てて、自分の音楽ですべての観客を引っ張っていくこと……。そのための第一歩がこの"第1部"だったのだろう。

松岡と客席。お互いに、いらだちや困惑のやりとりもあった。けれど、誰もがしだいに自分自身だけの楽しみ方を見つけ始め、画一的にコブシを振り上げるよりもエキサイティングな思いを堪能していったに違いない。おなじみ「AGAIN AGAIN AGAIN」から「VISION(Ver.3.3)」、「SEX」へとなだれこむあたりで、客席の熱狂ぶりを目の当たりにして、私はやっと松岡の真意をのみこんだような気がした。ま、彼の真意なんて本当は誰にも読めやしないのだけれど。彼の頭の中にあるビジョンがいかに壮大なものであるか、ちょっとだけ想像がついた。その程度に言っておこうか。

短い休憩のあと、ステージのバックに"第2部"という文字が浮かびあがる。後半は、前半でのハードな印象とはうってかわって、非常にフレンドリーな雰囲気で始まった。

まず、バンドと松岡がゆっくりと歩いて登場。それぞれ、真紅の衣装のときとは対照的なラフな恰好だ。松岡が指でカウントをとりながら、何かを歌っている。マイクがオフで、おまけに客席の歓声がものすごいので、最初は何を歌っているのかわからなかったけれど、「I Wanna Know Because I Don't Know」だ。気がついた客席も一緒になって歌いだす。

「CUTE GIRL」や「VIRGINS」といったおなじみのナンバー。そして、後半では『LIGHT AND COLOUR』についての話を中心としたMCもたくさん盛り込まれていた。

「STRAWBERRY KISS KISS」を、この夜の松岡はジョン・レノンに捧げた。ビートルズの呪縛にとらわれていない世代であることは、松岡英明のひとつの個性になっていたわけだが、あえてビートルズを拒否するでもなく、彼がごく自然にジョンやポールの存在を受けいれるようになったことにも感動した。いつのまにか、松岡英明は自らのキャパシティを果てしなく広げ始めていたのだった。

このあと始まる全国ツアー"色彩"では、さらに大いなる飛躍をやってのけてくれるに違いない。

SELFIE

PIONEER COMPACT MINI COMPONENT

——じゃ、生年月日と本名などから。(笑)
山川「えー、1965年5月11日生まれの牡牛座です。本名は山川浩正。芸名もそうですね。(笑)浩正っていうのは、父のお兄さんがつけたらしい」
——伯父さんが名づけ親なんだ。
山川「そうらしいです。正は親父が正幸っていうんで、そこからとったんだろうけど、浩はどこからできたのかよくわからない。画数の問題とかがあったらしくて、僕の名前の字は浩という字以外は画数が奇数でしょ。で、全部の字が奇数だとよくないらしいんですよ。で、偶数の画数の浩という字を持ってきたことしか聞いてないんですけど」
——生まれたのはどこですか?
山川「甲府の高山病院」
——具体的ですね。(笑)
山川「甲府で生まれる人って高山病院が多いんですよ、なんだか知らないんだけど。他にも病院はあるんだけど、友達関係はみんな高山病院で生まれてる」
——甲府の市内で生まれて育ったんだ。
山川「いや、小学校4年まで甲府に住んでて、隣町の竜王町というところに引っ越したんです」
——一番古い記憶ってどんなものですか?
山川「家は山川商店といって、お菓子屋とクリーニング屋を兼業でやってたんです。多角経営。(笑)で、店の裏に住むことになって、そっちに引っ越しをするよっていう話を母親としたのを覚えています。それは、幼稚園にいく前ぐらいの小さいとき」
——普通の住宅地にあったの?
山川「うん、貸し店舗みたいなのが、6軒くらい連なっていて、その裏は砂利道でしたね。竜王に引っ越すと周りは田んぼばっかりだったけど」
——幼稚園のころはどんな生活をしてた?
山川「スクール・バスで通ってたんですよ。幼稚園の裏側にお墓があって、そこにバスが着くので、よくお墓を散歩してましたね。(笑)それと、幼稚園に行くと、毎朝牛乳とパンを出入りしている業者の人に頼むんです。で、その牛乳の蓋を集めて、メンコをやるっていう日々が続いてましたね。たまにヨーグルトを頼んでましたけど、ヨーグルトの蓋は大きいからメンコに有利なんで(笑)」
——外ではあんまり遊ばなかった?
山川「いや、遊んでましたよ」
——わりと印象として山川君は無口な感じがするんだけど、小さいときはそうでもなかったんだ。
山川「うん、どちらかというと活発なほうじゃなかったかな。まあ、ごく普通の幼稚園児でしたね」
——小学校は地元の学校へ?
山川「歩いて5分くらいのすぐ近く。忘れ物をしたときは便利でしたね(笑)」
——小学校のころの思い出は?
山川「甲府にいたころの小学校は厳しかったという印象があって、毎日、山のように宿題がでて、生活態度に関してもうるさく先生に言われてた。あと、少年野球をやってたんですよ、4年生のときに引っ越しするまで」
——学校のクラブで?
山川「そう。野球とサッカーくらいしか小学校のクラブってないから」
——プロ野球の選手になりたかった?
山川「そこまでは考えなかった。高校野球は好きで、テレビを見て山梨の学校を応援してたけど、いつも1回戦で負けてた(笑)」
——音楽への興味は?
山川「まったくなし(笑)」
——あ、そう。(笑)
山川「歌番組とかは嫌いで、見てなかったくらい」
——甲府の小学校は大きかったの?
山川「いや、1学年3クラスだったから、普通ですね。今は増えたみたいですけど」
——転校して、竜王町の小学校は?
山川「そこも同じくらいの大きさ」
——子供のころの転校ってビッグ・イベントみたいな感じがあるじゃない。環境もまったく変わるわけだし、同級生も知らないわけだし。
山川「ほんと、すごいことです、子供には。(笑)雰囲気がまったく違いましたね、甲府の小学校とは。甲府と距離はそんなに離れていないんだけど、なんかノリが違うんですよ」
——甲府のほうが都会っぽい?
山川「うん。竜王のほうが悪いヤツはすげえ悪いんだけど、全体的な雰囲気は統一感があって、なんとなくのんびりしてるんですよ」
——転校して野球もやめちゃって、何か代わりにやったことは?
山川「うーん、なんにもしてない。(笑)記憶喪失ですね(笑)」
——宮沢君は田んぼで遊んだり、釣りをしてたって言ってたけど。
山川「あっ、やっぱり田舎だから近くの川、はまなし川というんだけど、そこによく近所の人と行ってました。同級生じゃないんだけど、近所付き合いしている子たちがいて。いやー、あのころはいい時代でしたねー、どの家庭もゆとりが出てきたころで。

WHAT IS THE BOOM?

●パーソナル・インタビュー第2回目は山ちゃんこと山川浩正。いっけん無口な彼だが、子供のころからのことをたくさんしゃべってくれた。山ちゃんの秘密のベールをはいでみましょうか……。

[山川浩正はいかにして山川浩正になったか?]

PHOTO●MOTOI OHNISHI　COPY●GB EDITOR

(笑)家でバーベキュー大会とかもやってましたしね」
──えっ、大きな家なんだ？
山川「いや、ちょっと庭がある程度の。周りに家もあまりなかったから、騒いでも大丈夫だったんですよ」
──転校していじめられたりはしなかった？
山川「なかったですね。転校先にも派閥、そんなおおげさなもんじゃないけど、それがあったんですけど、そういうことを知らないから、ごく普通にみんなと接していたんで。たまになんか言われたりしたけど、まったく気にならなかった」
──山川君は外人っぽい顔をしてると思うんだけど、(笑)それをからかわれたりとか？
山川「それは、ありました。子供のころって、いまよりそれっぽかったから。でも、コンプレックスみたいなものを持ってたわけじゃないから、気にならなかったな。1、2年のころは太ってたから、デブとか2世とか言われてた。でも、そういうからかうヤツって、みんな友達だったから、お互いに楽しみつつやってたんですよね。だから、極悪非道のいじめみたいなものはなかったですね」
──お互いに楽しみつつやっていたという。
山川「そうそう。いやー、ほんとにいい時代でしたね(笑)」
──物事をあんまり気にしないほうなのかな？
山川「よく人からそう言われるんですよ。そういうところもあるんだろうけど、どうでもいいようなことを妙に気にしたりもします」
──で、中学校に進む。
山川「うん、地元の公立の学校に。小学校のときに野球をやめて、ダラダラすごしてたでしょ。(笑)だから、何かやろうと思って、最初はバスケットにしようかと思ったんだけど、そのころ背が低くて、前から3、4番目で、不利だからやめて。で、柔道部に入ったんです」
──いきなり硬派路線。(笑)
山川「別に意味もなく、やったことがないという単純な理由で入った(笑)」
──3年間ずっとやってたの？
山川「いや、これが3年になるとやめちゃって。先輩がいなくなっておもしろくなくなったというのもあったんだけど、中学3年になると色気づいて、柔道どころではないと(笑)」
──中学のころで、印象に残っている重大なことってある？
山川「特にないんですけど、うーん、完全に親ばなれする時期でしょ。だから、親とよく喧嘩してたような気がする」
──勉強しなさいとか言われて？
山川「いや、そういうことはまったくなし。反抗する理由もないんだけど、それにまたイライラしたりして。やり場のない気持ちというんですか(笑)」
──音楽のほうは？
山川「1、2年のころはあいかわらずまったく興味がなくて。(笑)3年になると仲のよかった友達がギターを買ったんですよ、それがきっかけとなってギターを弾きはじめたくらいですね」
──何か凝ってたことってなかったの？
山川「特にないですね。あっ、小学校のときに古銭を集めてた」
──渋い。(笑)
山川「凝ってたというわけじゃないけど、みんなが切手とかを集めてて、僕もなんかやらなきゃいけないような気になって。(笑)どうせやるなら人と違うものにしようと思って」
──反抗期をとおりながら高校に入学。
山川「高校ではハンドボール部に入ったんです。柔道部のときと同じように、これも今までにやったことがないという理由から(笑)」
──ただの好奇心。
山川「そう。野球とかには自信がなかったし、まして柔道は本格的な感じがしたんで。ところが、ハンドボール部は予想外に練習が厳しいんですよ。けっこう強かったんで、毎日、7時ごろまで練習してて。家に帰ると、疲れてすぐに寝てた」
──ずっとやってたんだ？
山川「いや、それが……。(笑)2年のころからバンドをやりはじめて、バイクの免許をとったというのもあって」
──またやめてしまったと。(笑)
山川「そうなんですよ。2年のときはバイクでツーリングばっかり行ってましたね。1年の終わりに免許をとって、そのあと近くのスーパーマーケットで

WHAT IS THE BOOM?

[山川浩正はいかにして山川浩正になったか?]

アルバイトをするという日が続いてました」
──バイクは学校でうるさくなかった？
山川「そこそこ。わからなければ大丈夫という。(笑)他の学校の、バイク乗ってるヤツを集めて、いろいろツーリングしてましたね」
──暴走族みたいなことは？
山川「ないですね、なろうとも思わなかった。友達にはいっぱいいたけど(笑)」
──音楽のほうにもやっとめざめる。(笑)
山川「そうですね。2年生からバンドをやってたけど、本格的には3年からで。3年になると、友達が休みの日に東京に遊びに行って、おもしろいレコードを買ってくるんですよ。それを聞いたり、雑誌の譜面を見て練習したりして。あっ、そういえば『GB』って、当時はギター奏法とか楽譜中心の雑誌だったでしょ。今の感じになってるのを知らなかったから、BOOMとして一番最初に『GB』の取材するとき、〝ベースの俺が行ってもしようがないのにな〟とか思ってて。ああ、『GB』ってこんなになっちゃったんだと思ったんですよ」
──こんなになっちゃった。(笑)小・中・高校だと高校がいちばん楽しかった？
山川「そうですね、行ってるときはあんまり感じなかったけど、大学にいくことははなから考えてなかったから、勉強もしなくてすんだし(笑)」
──その後、専門学校に入学するために東京にやってきたという。
山川「地元と違うところで一人で暮らしてみたいという気持ちと、やっぱり東京という街に一度は住んでみたいと思ったんですよ。最初は2年間だけという約束だったんですけどね。結局、東京でも学校と家の往復だけで、そんなにいろんなところへ遊びにも行かなかったし、たいして刺激的なこともなかったし、休みになると甲府に戻って、地元の友達と遊んでいたんですけどね」
──東京に対して、何かあるんだろうという期待はあったけど、暮らしてみたら、あんまり刺激的な街じゃなかったんだ。
山川「遊びということに関してですけどね。で、2年たって、別に何かを期待してたわけじゃないけど、まだ何かあるだろうと思って、親に、大学に行ったと思ってもう2年ぐらいはいいでしょとか言って、ズルズルと(笑)」
──性格とかは子供のころから、変わってない？ 何かの出来事で、ものの見方が変わったとかいうことはありました？
山川「あー、特にないですね」
──そういう意味じゃ、ほんとに普通に育った？
山川「冷静に考えると、ひねて、普通じゃないところもありますね。(笑)考え方が、やっぱり普通じゃないような気がしますけど」
──まあ、ミュージシャンになる人って、どこかそういうところがあるよね。将来に対しての不安とか普通はあるじゃない。
山川「普通はあるんですよね。大学に行くときにも悩んだりするでしょ、そういうのが僕はなかった。(笑)たぶん、それなりに考えてはいるんだけど、そこまで真剣に考えられないっていうか、まあ、そんなに難しく考えなくていいか、みたいな」
──〝なるようになるさ〟って感じ。
山川「決して、あきらめとかじゃないんだけど」
──そういう気持ちは、自分の才能に対しての自信からでる？
山川「自信といえばそうなんだけど、まったく裏付けのない自信。(笑)さっきの普通じゃないところというと、子供のころから人と同じことをするのがいやで、ひねくれていたというのがありますね。それは今も変わらない」
──話を聞いてると、わりと淡々とした日々をすごしてきたような。(笑)
山川「話すとそうなっちゃう。(笑)けっこう、いろいろあったんじゃないかなー。でも、専門学校を卒業したときに甲府に帰らなかったということは、とても大きなことですね。あそこで帰ってたら、今のBOOMはなかったわけだし(笑)」
──帰って、山川商店のお兄さんになってたかもしれない。(笑)
山川「そうですね。(笑)だから、あのとき自分でまだ納得してなかったんじゃないですかね。楽器に関しても、単純にもっともっとうまくなりたいと思ってたし、周りにもうまい人がたくさんいたから。なんかまだ、やめられないなと思ってたんですよ、きっと」

LÄ

G

-PPISCH
GIANT SINGLE
ハーメルン/FAMILY/
ENERATION GAP

●年明け、1月4日から"ホームランツアー"が始まるレピッシュ。
その前、1月1日には3曲入りのシングルが発売される。
シングルの話、ツアーの話、そしてクリスマスの話など、あれこれ5人にインタビュー。
狂市いわく"GBだけに教える秘密"の話も聞けた!

撮影●植田信 文●松本きより スタイリスト●原久美子

LÄ-PPISCH

GIANT SINGLE
ハーメルン/FAMILY/
GENERATION GAP

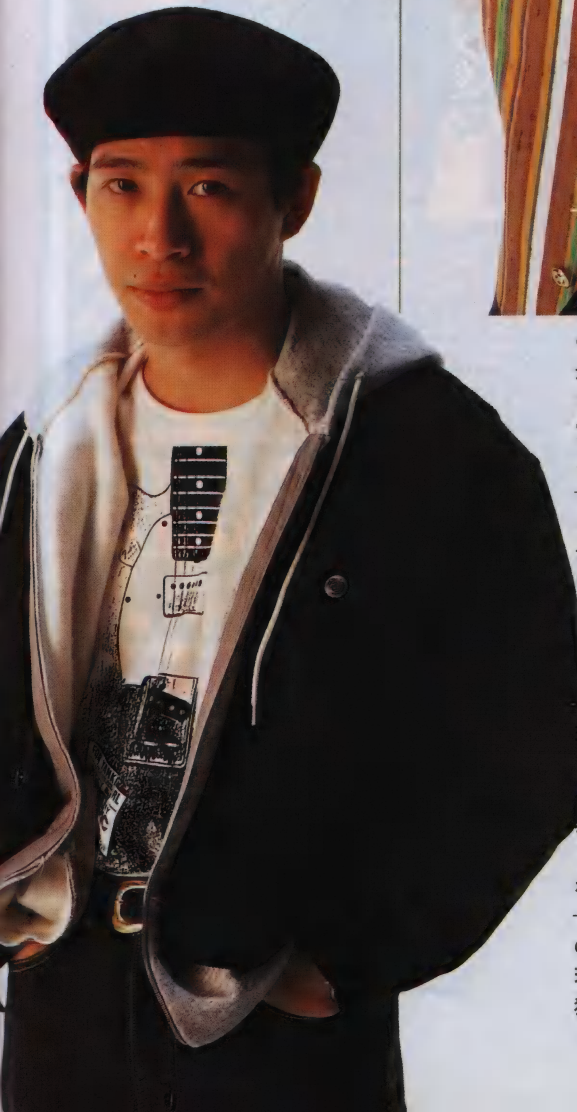
年明け、1月1日にジャイアント・シングルなるものを発表し、4日の中野サンプラザからツアーをスタートさせるレピッシュ。彼らが今月、〝GBだけに〟教えてくれた極秘キーワードは〝秘密警察〟。この言葉のナゾはいったいなんなのだろう!?

――ジャイアント・シングルというのは、どういうものなんでしょうか？
MAGUMI「俺もわからない(笑)」
現「俺もわからない(笑)」
MAGUMI「CDシングルなのに、12センチCDと同じ大きさなの」
狂市「きれいに型を折れば、普通のシングルの大きさになるんだよ」
――また、でたらめ言って。でも、最初はドーナツ盤かと思いましたよ。(笑)
達「洋盤でいうところの12インチと同じ形態だよね」
MAGUMI「スッゲーよな。でもさ、そう考えると「RINJIN」もジャイアント・シングルってことだよな」
狂市「じゃあ『make』はグレイト・ジャンボ・シングル(笑)」
――新曲として入っている「GENERATION GAP」について聞かせてください。
MAGUMI「ひそかに5年前に作っていて、ジャイアント・シングルのためにあたためていた曲」
達「5年前にジャイアント・シングルが出ることを予言してたんですよ」
――詞の「GENERATION GAP」というのは、どういう対象に向けてのGAPですか？ 上の世代に向けて歌っているようですが……。
MAGUMI「うん。あのころは若かったから、年をとりたくねえなと思ったんじゃないですか……」
狂市「あれ!? 違うよ! 最初は「耳クソ」ってタイトルだったんだけど、当時のマネージャーがすげぇ怒り出してさ。それでこのタイトルになったんだよ。(笑) 3番が最初1番だったんだけど、イキナリ〝耳クソ〟でさ」
――なんでマネージャーは怒ったの？
狂市「わからない。(笑) 5年前ってアマチュアのペーペーでさ、そこまで怒られてやるのもねえ。今じゃ考えられないくらい素直な少年だったよ。今だったら、もっとすごいタイトルにして〝臭い耳クソ〟くらいにしてやるのに(笑)」
現「それで♪ガガガガって言ってたところが♪ギャギャギャGAPになったんだ」
――作った当時と今回のレコーディング

で、変わった部分はあるんですか？
狂市「逆に変えようとは思わなくて、ライブでやってるままって感じ。昔、デモテープを録ったとき、まったくうまくいかなくてね。それでレコードにもれてきた曲なんだけどね。でも録るんなら、そのときのままやろうと思って」

ジャイアント・シングルの告知用の撮影は、LINE-UP、MINKSなどが集まってパーティーふうに行なわれたが、テーブルの上に並んだ料理はすでに腐っていて食べられなかったそうだ。と、ここで同じスタジオで撮影をしていたスカパラの朝倉君登場！　一瞬なごんだかと見せかけて……。
狂市「実は彼は〝少年警察〟なんです」
達「少年警察はこわいんだよ。少年警察っていうのは音楽界の裏のネットワークで、誰がなってるかわからない」
——誰が作ったの？
狂市「たぶんMAGUMIじゃないかナ。長崎屋のゲームセンターに出入りしてるころ。異常な性を調査するんですよ」
MAGUMI「こまわり君が１号で２号がのざらし(笑)」
達「誰がなってるかわからないんだよね。実は友達同士がそうかもしれない」
——レピッシュのみなさんは少年警察？
全員「それは言えない(笑)」
——ジャイアント・シングルを聴くと洗脳されるなんてことはないですよね。
現「洗脳されるんだよ。フッと気づくとパラレル・ワールド」
狂市「少年警察は『GB』だけの秘密だからね」
——ところで年明けのツアーについて、現時点での構想は？
狂市「『GB』だけに言える秘密は……ポイントは少年警察だよね、次のツアー」
——……。さて、Xmasが近づいていますが、Xmasの思い出といえば……。
MAGUMI「仕事ばっかりだよね」
達「秋田に飛行機で向かってるとき、全員にポール・モーリアのXmas曲のカセットを全日空がくれたのが思い出に残っていますね」
全員「あー、あったあった(笑)」
雪好「僕もそれくらいしか思い出に残ってませんね」
現「雪好は、Xmasにはヒゲを白くして世界中を回らなくちゃならないんだよな、子供たちのために(笑)」
雪好「なかなか大変なんですよ」
狂市「そういえば達はトナカイに似ているなあ」(全員爆笑！)
達「ナイショですよ。子供の夢をこわすから。トナカイがレピッシュの人間だったらショックでしょ。(笑)こっちもそれがバレたら、仕事がやりにくくなりますからね。〝達でしょ〟って言われても〝トナカイです〟って言いはらなくちゃいけないですからね」
——他のメンバーは何やってるの？
MAGUMI「俺と現ちゃんは並んでソリになってる」
狂市「俺はもっとつらい。俺、エントツだもん。エントツのない家のために」
——じゃあ、Xmasは全員一緒に活動するんじゃないですか！
MAGUMI「そうだね。ずーっと一緒だね。もう3000年くらい一緒にいるんじゃないかな」
——サンタクロースから、今年のプレゼントはどんな物を用意してるの？
狂市「ジャイアント・シングル！」
(全員爆笑！) メリー・クリスマス！

invitation

ハーメルン

1991,1/1 On Sale
New Year's Special Single

VICL-12005 ¥1,200(税込)/1.ハーメルン/2.FAMILY/3.GENERATION GAP

LÄ-PPISCH

ホームラ

/4,5,6>中野サンプラザ3days>Sold Out!!
ormation>SOGO東京:03-405-9999
14(mon)>神戸国際会館
rmation>SOGO大阪:06-344-3326
16(wed)>大阪厚生年金会館
mation>SOGO大阪:06-344-3326
1(mon)>京都会館第一
ation>J音楽事務所:075-231-7776
6(sat)>磐田市民文化会館
tion>ジェイルハウス:052-936-6041

1/27(sun)>静岡市民会館
Information>ジェイルハウス:052-936-6041
2/1(fri)>名古屋市民会館
Information>ジェイルハウス:052-936-6041
3/13(wed)>千葉県文化会館
Information>バックステージプロジェクト:048-866-3888
3/14(thu)>浦和市文化会館
Information>バックステージプロジェクト:048-866-3888
3/15(thu)>相模大野グリーンホール
Information>クラブチッタ:044-244-7888

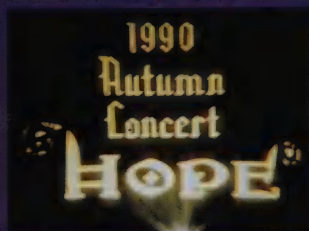
HOPE

Mimori Yusa

26 NOVEMBER OSAKA KOSEINENKIN-KAIKAN

●アルバムのタイトルでもある"HOPE"と名づけられたコンサートは、その名のとおり希望にあふれていた。11月26日、大阪厚生年金会館で行なわれた、静かに静かに勇気がわいてくるような不思議なライブの模様をどうぞ──。

撮影●浜田次郎　文●渡辺マコト

1990 Autumn Concert HOPE

HOPE

Mimori Yusa

パフォーマンスはね、前からやりたいと思ってた
私の想いが伝わるといいと思うんですけど……

HOPE。希望。それは目には見えないから、忙しさにかまけていたり足元ばかり見て歩いていたら、いつのまにかそれがあったことさえも忘れてしまっていたりするもの。本当はいつも頭のどこか高いところにあって、ながめてみたり、さわってみたりしていたい。それは光。それは空。そしてそれは、とても温かいものであってほしい。

遊佐未森。この秋のツアー"HOPE"が見せてくれたものは、確かにこの希望の手ざわりであり、光だったような気がする。そこにいた彼女は、ミルクティーを飲みながらホッと一息するときのような、そんななにげない幸福そうな表情を見せる彼女とは少し違っていたように思えるのだ。ステージの上から、たくさんの観客へと向けて何かを伝えようとしているような。外側へと向かうベクトルが、客席にいるわれわれへとダイレクトに届けられるような、とても手ごたえのあるもの。そんなある種の、けれどほかの誰でもない、遊佐未森らしいパワー。この日、彼女は確かにそんな強い光を感じさせていたように思う。

11月26日、大阪厚生年金大ホール。熱狂的なファンの間では、かつては"遊佐未森のコンサートの見方"まで論議されることもあったステージは、しかし前回の"Forest Notes"ツアーあたりから、もっともっと外へと開かれた雰囲気を持つようになってきた。"心にやさしいロック"。彼女がデビュー当時キーワードにしていたその言葉は、ここへきて急速にその意味を明確に伝えてきている。豊かな気持ちにさせてくれる、そして体感的にも楽しくなってしまうような、そんな音楽。そして何よりも遊佐未森から発せられるものが、観客をもう席にジッと座らせてはおかない。熱気を帯びる遊佐未森のコンサート。なんだか不思議な言葉のとりあわせは、けれど、強い"感動"や"シンパシー"が生まれ、育っている証でもある……。

●

客電が落ちて、白いどん帳のむこうにポツンと小さな明かり。けれどそれに映し出されている薄い文字をよく見ると、ツアー・タイトル、そして"HOPE"と、アルバム・ジャケットの見なれたロゴが大きく書かれている。小さな明かりがやがて少しずつ大きく明るくなっていくと、"HOPE"の文字が鮮やかに飛び込んできた！　1曲目「FOREST NOTES」。朝が来たようなその透明感が会場全体へと一気に広がる。ステージ上に彼女が登場するとあちこちからため息と歓声がこぼれる。なんだか久々に見る彼女はりりしいというか、大きな存在感を感じさせる。その輝きの鮮やかさにゾクッとしてしまった。

ステージのセットはむしろシンプル。というよりは、中央にある階段とその上にある翼の生えたアーチを際だたせている直線的なセットなのだ。ふたつでひとつの翼。アーチの向こう側の世界。見る者があらゆるイメージを膨らませることができて、しかも象徴的なあるものを示唆するようなセット。

続いて「雪溶けの前に」「午前10時午後3時」。登場した瞬間のインパクトをさらりと流すように、むしろ淡々と演奏されていく感じ。しかしそこにあるのは軽さではない。むしろ手ごたえのある大きな積木をひとつひとつ積み上げていくような感じ。それはその先にある何かを予感させるよう。

ときおり遊佐未森は、天に向かって手をグイッと伸ばす。それは何かをつかむような力強さで、見る者は自然とその手の先にある空を見つめてしまう。彼女は何をつかもうとしているのだろう。

そして続くMCで――。

「実は最近、迷子になってしまったんですよ……。どうしよう、トホホホ。となっていると、そこに買物カゴをさげたおばさん。駅はどちらかと聞いてみると、突然"おいで！"といわれて……。別れぎわに"いってらっしゃい"とそのおばさんが言ってくれて、自然と私も"いってきます"と答えてしまった。ほとんどお母さんのようなの。まだまだ私の住んでるこの街も捨てたもんじゃないぞと思いました」

なんだかうれしくなるエピソード。(その様子が目に見える！)

そして「街角」と「いつの日も」を。この2曲は遊佐未森のコンサートにはなくてはならない、音楽の持つ楽しさを教えてくれる作品たち。アコーディオンのユーモラスな音にギターが重なって。コーラスはまるで巻き風のようにくるくるとめまぐるしい……。まるで楽しい絵本の世界をそのアイデアいっぱいのアレンジで見せてしまうような音のイマジネーション！　その前に歌われた「地図をください」も加えると、このブロックは、少しずつ日が差してくる昼前の空気を感じさせる。明るい光を感じさせてくれるのだ。

☆WORD①――「いつの日も」で遊佐未森の使ったスプーンのような楽器？「あれはふたつのスプーンを背中あわせにして、柄のところをつけちゃったものなんです。オーストラリアでレコーディングのときノエル・クロンビーが持ってたもので、そのときのは本当にカレー・スプーンみたいなものをふたつ指にはさんでやっていて、教えてもらったね。スタッフの中では私がいちばん勘がよかったみたい（笑）そうしたら翌日彼が、"もっと使いやすいよ"って柄がくっついたものを買ってきてくれたんですよ。イギリスのある地方ではお祭りのとき使うものらしんです。うれしくて、取っ手のところに彼にサインしてもらって。ライブで使ったのも、そのときのものなんです」

背景の色は青緑。そこに紫色に染まった翼が浮かび上がり、そこに流れ出したのは、あの不思議な組み合わせのメロディー。「Echo of Hope」は、それらのすべてが混ざり合って独特な雰囲気を作り出す。ニアダーク。でもぼんやりと薄暮のようなノスタルジー。まるでネバー・エンディング・ストーリー。ミステリアスな童話の世界といえば、この感じ、少しは伝わるだろうか。間奏で遊佐未森の声とコーラスがこだまのように呼び合う。その妙な心地よさ。うっとりさせる。

ここで約8分ほどのアニメーションが。ひとつの窓から見上げるように顔を出すひとりの男は、空に憧れ、やがてそこには翼が生まれる。たぶん、そんなストーリー。しかし前半で生まれた空気はとぎれることはない。

そして次に「君のてのひらから」で登場したとき、彼女は腕と足の線がきれいに見えてしまう衣装を身につけていた。「君のてのひらから」。ピアノとアコースティック・ギター。そして遊佐未森の声。子守唄のように、やわらかなところをそっとなでていくような懐の深い感じ。ささやかだけれど美しい。やさしいけれど少し悲しい。その心のどこかにすべり込んできた、どこかやるせない切なさは、そのまま遊佐未森のパフォーマンスへと受け継がれていく。バレエのようになめらかな動き。腕をピンと伸ばし小走りに足を進めては天を見上げ……。それはとても繊細で、けれど力強い。そしてそこで表現されるものは、まぎれもなく希望だ。カーッと照らし出す種類のそれではなく、もっともっとじんわり浸みてくるような温かな希望……。

☆WORD②――「ステージに立つようになって、いつかパフォーマンスをとり入れたいと思っていたのだけれど、なかなか思いきれなくて、怖かったし……。でも、オーストラリアに行ってふっきれた部分があって、できるんじゃないかと思ったんですよ。でも、練習を始めて、"想い"が伝わってくれたらいいんだけど、気どった感じ？　アートっぽくなったらちょっと違うんで、どうしようって不安になったりしたんですよ。で、とにかくやってみようって、文章を紙に書いたりもして。そういうことを心に留めておかないといけないような気がして。動きたいし、とにかくやってみることで何かが見えてくるように思えていたからね」

その動きはフッと明かりをともした。そして次の曲「夢のひと」で、さらに星の光のように確かに輝き出した。

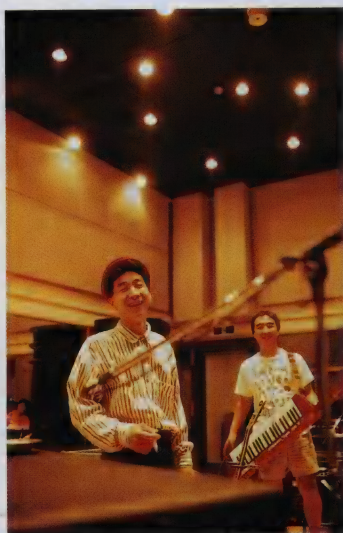
そのいよいよ最後のブロック。最新シングル「夢を見た」から5曲。シングル曲を歌い、会場は、ひとりまたひとりと立ち上がり、いつのまにかたくさんの人がその音楽に、遊佐未森に心を動かされている様子を形として見せ始めた。なかでも「瞳水晶」〜「暮れてゆく空は」での何かに包まれるような盛りあがりは、僕自身"明るい種類の憧れ"に心をつき動かされる感じがした。それは僕ばかりではないだろう。立ち上がり拍手する人の、その輝くような表情が何よりもそのことを教えている。

そして最後は、誇り高く響くピアノのイントロダクション「野の花」。

WORD③――「歌っているときにビデオの撮影をしたときの北海道の景色が見えてきて、いろんな人の顔が浮かんだの。目は開いているのに目の前に大きな顔がね。（笑）ステージから見るとあんなに広い空間が、真っ暗になってお客さんが見えなくなると、そこに絵を描くように景色が見えてくるのね。そして再び明るくなると、そこにお客さんが重なってくる。1曲の間になんだか旅をしているみたいなんですよね」

"こんなに強い気持ちになれたのは久しぶりです！"

手拍子、声援、"未森！"ゴーゴー。ほとんど総立ちの状態になった会場は、遊佐未森の"心にやさしいロック"が伝えた確かな何かを受けとめて、いつまでも彼女を再びステージに呼び戻そうとする。

そんなふうにして歌われた、アンコールいちばん最後の曲「僕の森」に思った。美しくてやさしくてあったかくて。こんな気持ちをごくごく自然にわき起こしてくれる力は本当に尊いと。少しオーバーな表現に聞こえるかもしれない。けれど、この日この会場で確かにこの"HOPE＝希望"を受け取った人にならわかる、よね。

ズバリ、'91年のキーワードはニク年です

KANクンの'90年

●いつ聞いても胸のキュンとなる傑作アルバム『野球選手が夢だった』のリリース、そして全国の片想いクンや片想いサンを勇気づけたシングル「愛は勝つ」のヒット——。KANクンの'90年はかなり充実して速いスピードで過ぎていった。そして'91年は？

文●能地祐子

KANっていいよね……『野球選手が夢だった』がリリースされたあたりから、そんなふうに言う人が私の周りで増え始めた。で、気がつくと日本全国でそういう現象が起きていて。シングル・カットされた「愛は勝つ」が、9月からヒット・チャートの真ん中あたりを行ったり来たり。まるで演歌のようなロング・セラーを記録していて。で、暮れが押し迫るころから『邦ちゃんの やまだかつてないテレビ』の挿入歌になったこの曲が大ブレイクの兆しを見せている……。とまあ、KANくんと過ごしたこの1年を振り返ってみるとこんな感じだよね。ファンにとっては、'90年ほど毎日が楽しかったことはないんじゃないかと思う。そこでKANくんにもこの1年を振り返ってもらって。'91年の話も聞いた。

「'90年は僕、いろんなことがありすぎて、すごい年だったけど。仕事的にはすごくよかったよね」

——めちゃ忙しかったですけどねえ。

「それでも、寝るヒマはあったしね。本当に忙しい人に比べたら、まだまだいいほうじゃないのかな。でもそれにしても、やっぱり忙しいのはよくないね。だめ。いつも目の前にやるべきことがあるっていうのは、幸せなようで幸せじゃないよ。置かれた状況の中で最高の仕事をするっていうのも、確かにプロとして正しいことなんだろうけど。あまりに遊びがなさすぎるのはダメ」

——恋愛するひまもない？

「ま、それはね。やる人はやるもんですよ(笑)」

——とにかく'90年は、KANくんの時代の到来を予感させる年だったと思う。

「僕はまだ全然、実感はないんだけどね。早く武道館まで行きたいと思ってる僕としては、まだまだ。デビューしてから3年半かかって、やっと一歩進んだって感じだよね」

——ずいぶんおおまたの一歩。(笑)'91年はどうなるでしょうね。

「とにかくまずコンサートの本数を増やしたいですね。'90年だって、多くなったとはいえ7か所だからさ。もっともっとやっていかないと。他の人たちもそうだと思うけど、CD聞いてコンサート見て、それで〝一個〟じゃん？　聞くほうの楽しみ方としてはCDだけが好きって人もいるだろうけど」

——KANくんの場合は特に……。

「ね。ふたつで一個でしょ。(笑)だから、とにかくコンサートをいっぱいやりたいな。あと、次のアルバム作りが始まったんだけど、それもね。オレ、次のアルバムで真価を問われるよね。確かに、わりと業界でも〝KANくん、じわじわ来てるね〟とか言われ始めてて。だから、本当に次は大変だよ。ま、だからといって作りを変えるとか、そういうのはないけど」

——個人的には？

「オレねえ、'91年はニク年なの」

——へ？

「29歳だから、ニク年。これ、最近考えたの。ヤク年とかってあるけど、あれも別に、意味なんてみんなわかってないけどただ言ってるだけでしょ。だったら、ニク年ってほうがなんか盛り上がりそうじゃない。ニク年。'91年はこれを無意味に押したいね」

——意味はないんですか？

「意味は今から考えるの。(笑)でさ〝あ、僕もニク年なんですよ〟なんて、ひとりでも言い出したら大成功。うん、'91年のキーワードは〝ニク年〟ですね。みなさん、覚えておくように」

THE BLUE HEARTS at TOKYO BAY NK HALL

11月20日、東京ベイNKホール。ここで、ブルーハーツの〝イースト・ウェスト・ツアー〟の8番目のコンサートが行なわれた。彼らのステージには、よけいな飾りなどいっさいない。ただがむしゃらに演奏するだけだ。そんな彼らの姿には、本当のロックのかっこよさがみなぎっている。

PHOTO●MASAHIRO FUJITA　COPY●SATOSHI YAMAMOTO

ブルーハーツは自分たちの今回のツアーに〝イースト・ウェスト・ツアー〟というタイトルをつけた。おそらくマーシーが好きに違いない古いブルースのアルバムに『イースト・ウェスト』というのがあるが、彼らはこれのことが頭にあったのかもしれない。（もちろん、〝WEST〟は〝WASTE〟とモジられている）〝イースト・ウェスト〟ということばにはいい響きがある。とても自覚的な〝日本語（東洋）のロック（西洋）〟をやる彼らが、東西四方全国を回るのだということを考えると、もっとよく聞こえる。

11月20日。その〝イースト・ウェスト・ツアー〟の8番目のコンサートを見た。場所は東京ベイNKホール。どう考えてもブルーハーツには似合わない気どったホールだが、まあ、いい。

6時半を少し回ったころ、4人はステージに姿を現わし、ぎっしりと埋め尽くされた客席を一瞥するとすぐに「未来は僕らの手の中」を演奏しはじめた。

『僕ら何かを始めよう』あのすばらしいデビュー・アルバムの冒頭を飾ったこの曲は、いまもコンサートのオープニング・ナンバーにふさわしい。彼らは、自分たちの出発点を決して忘れない。それを裏付けるかのように、ステージの背景にはファースト・アルバムのカバー・デザインと同じ、グループのロゴマークの大きな幕が誇らしげにかけられている。

4人はほとんどメドレーのように次々と曲を続けていく。いいわけをしないその演奏ぶりは、本当に好感が持てる。観客席のエネルギーは一気にピークに達する。ヒロトほどではないが、高く力強くジャンプするファンも大勢いて、NKホールはほとんどクラブチッタ川崎と化した。

初期の曲を続けたあとは、新作『バスト・ウェスト・ヒップ』からのナンバー。豪快に笑いとばすような「スピード」にはじまるコンサートの中盤は、いまのブルーハーツが向かっている方向性を考える上で、とても示唆的だ。

16小節のブルース形式にのっとった「悲しいうわさ」でのマーシーの豊かな情感に満ちたギターを聴いていると、〝オマエがもうすでに死んでるなんて　ウソだと言ってくれ〟という一節の〝オマエ〟とは〝ロック〟のことではないかと思えてくる。ヒロトがブルース・ハープを吹く「Hのブルース」もそうだが、彼らは自分たちにまつわりつく〝和製ビート・パンク・バンド〟という風評に、こうした古めかしいブルースをやることで無言の拒否を示しているのかもしれない。あらためていうまでもなく、いまの〝日本のロック・シーン〟には、どう好意的に見ても〝ロック〟とは呼べないバンドが山積みされている。ロックのブームが〝非ロック・バンド〟を多く登場させたなんて、なんという皮肉だろう。ブルーハーツは、パンクやロックンロールの本当の意味を、いま、無意識のうちに、問い返そうとしているようだ。

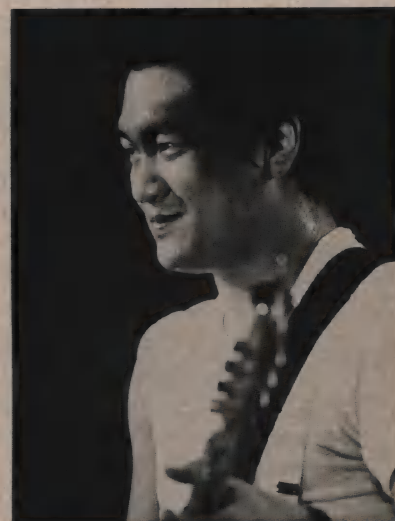
この関連で考えると、マーシーががなるように〝キース・リチャード的な捨てゼリフ〟を吐く「ブルースをけとばせ」も、フッとため息をもらすようなフォーク・ロック「青空」も、彼らのロック観の表明なのだということがわかる。ブルーハーツは決して論理的なグループではないが、非常に鋭い直感力を持っている。その直感が導き出した象徴的な詞の一行は、何千字を費した文章よりも雄弁だ。

いまでは当たり前になったコンサートの〝イベント的〟な仕掛けも、華やかな装飾も彼らのコンサートにはほとんど見られない。まるでライブハウスのようなステージだ。彼らは、ただ歌い、演奏するだけのために、そこに立っていた。そして、徹底した白色だけの照明が、そんな彼らのありのままの姿を浮かび上がらせる。アンコールの3曲を含めても90分。しかし、食い足りないという感じは少しもなかった。「情熱の薔薇」や「青空」などでの、スコア上のメロディーに遅れ気味に歌うヒロトのボーカルは、ひとつの音符にひとつの音がのせられた唱歌みたいな〝ロックもどき〟とブルーハーツの歌との間に明確な一線を引き、同時に、せつなくなるほど不器用に人生を生きる一人の人間の姿を描き出す。ステージを降りる前にヒロトは、大歓声をあげる観客に「みなさん、ブルーハーツをわかっていただけましたでしょうか」とボソッと語りかけた。ぼくらはその問いに対するはっきりとした答えを用意しなくてはならない。そんなことを長い帰り道で思った。

Darlin'

Darlin's Talk X

レコードは打ち込みだけど血はライブ・バンドそのもの

●6月からスタートしたダーリンのセカンド・アルバムのレコーディングは、いよいよ大詰めを迎えているという。スタジオにこもりっきりでないとはいえ、6か月はけっして短いとはいえない。作詞、作曲から打ち込み、アレンジまですべてをこなす二人は、少しの妥協も許さずに音楽と正面から向き合っている。そうして生まれた音楽の断片は……。

ダーリンのセカンド・アルバムのレコーディングも、いよいよ大詰めを迎えているという。しかし、レコーディングがスタートしたということでスタジオにおじゃましたのは、たしか半年くらい前だったはず。

「取材とかライブとか、いろいろなことをやりながらのレコーディングだったから、頭の切り替えが大変でしたよ」(石田)

長期戦覚悟とはいえ、クリエイター、ミュージシャンというふたつの顔をもつ自分自身を、さらにプロデュースしていく作業というのは、なかなか容易なことではない。けれど、ライブと並行しながらのレコーディングは、ファースト・アルバムとはまた違ったダーリンの音を生み始めたようだ。

この12月19日にリリースされたシングル「バラードを聴かせて」(先々月号で11月7日発売とお知らせしていたのですが、なんとファースト・シングルの「ハートブレイクのままじゃいられない」がテレビドラマ〝赤川次郎サスペンス〟のテーマ曲になった都合で12月19日になってしまった)を聴いてもらうとわかるが、サウンドに立体感が感じられる。

「ライブって好きなんですよ。レコーディングは打ち込みを多用してるんだけど、僕らって基本的にはライブ・バンドだと思うんです。ただ、サウンド・クオリティというか、自分がイメージしたサウンドを追求していくためには機械も必要なわけで、打ち込みも使っているけど、血はライブなんですよね。で、今回はまだ少ないんだけど、ライブをやったことで、自分たちが描いていたダーリンと実像のダーリンというものの差が、お客さんのリアクションやステージからはっきりと感じることができて……。そのへんが立体感を生んだと」(石田)

「僕の場合、レコーディングでもライブでもギタリストということでは同じなんですけど、実際、ダーリンというバンドのギタリストとしての位置、ユニットとしてのポジションみたいなものを、理屈でなく感じたところは大きいですね」(高田)

ライブからのそんな体験が、ダーリンというバンドの実体を確実に描きだした。そして、そんな実体をまた新たに音にしつつ、裏切りも隠し味に加えて制作されているのが、今回のセカンド・アルバムというわけだ。

「詞はね、〝永遠〟ということにこだわって書こうかなと思っていたら、ユーミンがやっちゃいましてね。(笑)考えなおさなくちゃ。前作は〝別れ〟をテーマにして詞を書いたものの、その奥ではこの〝永遠〟ということを示唆していたんですよね。で、今回はそれをストレートにやろうと思っていたのに……。まあ、永遠と似てるんですけど、普遍性ってあるでしょ。そのへんをくすぐれるような内容を描こうと思っているんですよ」(石田)

もちろんラブソングだけれど、その言葉、ドラマの奥には、自分自身が基本的に持ち続けている普遍的な部分を大切にして、そして素直になってみることが必要なのではないか、ということを問いかけているという。

アルバムは来春にリリースされる。そしてこの冬は、なんと120ものスキー場とその周辺のペンションのBGMとして、ダーリンの「ハートブレイクのままじゃいられない」と「バラードを聴かせて」が流れるという。

PHOTO●MASAHIRO FUJITA　COPY●MIKA KAWAI　PRESENTED by TOSHIBA EMI　ダーリン・インフォメーション：DARLIN' COMPANY／PHONE 03-490-2656

taurus RECORDS
トーラスレコード株式会社
販売/東芝EMI株式会社

SHOKO INOUE '91 CONCERT

3/16(土) 東京 メルパルクホール
OPEN 18:00 START 18:30
問い合せ先:フリップサイド Tel 03-770-8899

3/18(月) 大阪 厚生年金会館中ホール
OPEN 18:00 START 18:30
問い合せ先:サウンドクリエーター Tel 06-361-9900

3/19(火) 名古屋 フレックスホール
OPEN 18:00 START 18:30
問い合せ先:ジェットプランニング Tel 052-937-6651

料金:¥3,500(税込)

井上昌己

1/11 ON SALE 4th ALBUM
SHOKO INOUE
Just Open The Door

腕の中のNAVIGATION/キッチンで泣いた/ヒミツの気持ち/
扉をひらいて/たった一行のノンフィクション/愛が終わるまで/
カセットの最後のナンバー/Just Open The Door/
Lonely Nightは大嫌いなときもある…/Don't fall in 恋/
はじめてのJealousy

●CD:TACX-2338¥3,000(税込)●CT:TATX-2338¥2,620(税込)

初回予約特典:B2ポスター

シングル同時発売「キッチンで泣いた」
●CDS:TADX-7321●SCT:TASX-7321各¥930(税込)

2/20発売予定
井上昌己
アーティストブック
(CBSソニー出版より)

音楽は、地球の財産です。
SAVE OUR MUSIC
ちゃんと考えてもいいと思う、録音、録画のこと。

井上昌己ファンクラブ会員募集 お問い合せ先:株式会社トーラス・アーティスト 〒150 東京都渋谷区神宮前5-7-20 神宮前太田ビル Phone.03-406-0563

KAORI KAWAMURA

［映画の中の川村かおり］

●来年公開予定の映画『東京の休日』の撮影を行なってきた川村かおり。その映画の話を中心に、かおりの映画観などを聞いてみた。

文●藤沢映子

かおり初主演の映画『東京の休日』の撮影が終わった。撮影中は毎日 2〜3 時間の睡眠というハード・スケジュール。でも、細胞分裂まっただ中の彼女は「またひとつ新しい川村かおりのピースを見つけた」と嬉々としていた。眠ることすら惜しいともいっていた。そんな撮影終盤の日に、映画について話してもらった。

──かおりから見て、どういう映画になっていると思う？

かおり「ファンキーでポップで、パンキーでサイケデリックで、冒険活劇withラブな映画なんだと思う。お金のかかっていないインディー・ジョーンズともいえるけど(笑)」

──ずいぶんたくさんの要素がはいっているんだね。アクション・シーンも多いの？

かおり「私は、シルベスタ・スタローンは、なにが楽しくてあんなにアクション物をやっているんだろうと思ってましたが、その大変さと快感がやっとわかりましたよ。なんていうと、すごいアクション物のように聞こえるけど。(笑)経費節約のため、ほとんどスタントマンなしで、すごく高いところからシーツを伝って下りたり、自転車でぶつけられて転んで、とっつかまって引きずられたり、髪の毛を引っ張られたり、アクションというよりケンカのシーンでけっこう大変でしたよ」

──じゃ、アザだらけとか。

かおり「このトシになってね、家に帰ってからきしんだ体と打ち身でトホホッとなるなんて思いもかけませんでしたよ。ピップ・エレキバンにお世話になってしまったもん(笑)」

──なんだか男の子の映画みたいだけど、ラブもあるってことは、当然かおりの？

かおり「ハイ。(キッパリ)それは、誰に対してのラブとはいいませんが、ありがちで、ありそうで、あるだろうなぁ、というものです(笑)」

──主人公は、どんな女の子なの？

かおり「パンクのギタリストで、ジミ・ヘンドリックスが大好きで、ひとりぼっちで、音楽しかない人間なの。そいつが、いきなり冒頭のシーンでバンドをクビになって、糸の切れたタコのようになったところから冒険活劇が始まり、愛を見つけていくという。大泣きするシーンもあるんだよ。へへヘッ」

──地のままだね。

かおり「でも、やっぱり主人公の彼女は私とは違う。顔が違うんだよね」

──ということは、演技していると。

かおり「演技ってことに関して、始める前にすごくプレッシャーがあったの。というのも、『ジギー・スターダスト』のデビッド・ボウイや、ボブ・ディランの映画とかを見て、ひとつのシーンに何カット撮ったかはわからないけれど、完璧に見えたの。そして、つくづく才能に恵まれた人たちっているんだなって思ってたの。だから、演技のエの字も知らない自分がやるなんて、どうすっぺかなぁーと思ったんだ」

──そのプレッシャーをどう克服したの？

かおり「できてるかどうかはわからないけど、ま、私は小さいころ、人をだましたことや、ウソをついたこともあるし、ましてや、自分の気持ちを隠して生きてることなんか日常茶飯事だから、そういう普段の演技をうまく出せればいいかなぁと。そういう当たり前のことからやればいいかなと。これでもいちおう、自分の中の演技ってものを『ガラスの仮面』(美内すずえの、ベストセラーになっている演劇を題材にしたマンガ) を読み返してみたりして、そこにでてくる月影先生のいってることに、なるほどと思ってみたりしたんだよ(笑)」

──(笑)あれは名作です。とはいえねぇー。(笑)

かおり「でも、基本的には、私がジミヘンを知らなかったら、役をつかみにくかったところもある。音楽をやっててよかったなと思う。で、人に裏切られたことのあるヤツで、私もあるし、笑うことができるし、泣くことができるという、自分が持っている感情で共通性を見つけていったんです」

──なるほど。あと、セリフの半分以上が英語という難関は、どのように克服したの？

かおり「外人さんの出演者たちと、朝から晩まで会ってて、合宿生活に近いものがあったの。その中で、撮影以外の待ち時間のときも、彼らと話さざるを得ない状況になって、文法なんかぐしゃぐしゃだけど、話してたら、なんか話せるようになってたんだよね。高校時代に 2 年間ロンドンにいて、ヒアリングだけはバッチリだったけど、ぜんぜん話せなかったのにね。きっとあのときに覚えた何かが、映画というキッカケで出てきたんだね」

──実体験に勝るものナシだ。

かおり「また、その外人さんたちがすごい人たちばかりなんだ。ジャンという人は、フランスの映画界の人で、アラン・ドロンとかゴダールという、私が架空の人物とすら思っている人のことを知ってて話してくれるし、ディック・ルードという人は、シド&ナンシーの脚本とか声をやった人で、ストラマーとも一緒に映画に出てたりして、自分が今までイイナと思っていた映画の人が目の前にいるっていう感じなの。だからそれだけで、自分の世界がすごく広がっちゃうの。逆に、彼らが国に帰ったときに、映画や音楽仲間の間で私の話題が出るかもしれない、なんて思うと、私はまた外国に行ってもいいんだなぁって思うんだ」

──そいつはスゴイ。じゃあ、かおりにとっても得るものがいっぱいの映画だったんだ。

かおり「うん。映画って、作ってる最中はみんな自分の好きなことをやってるから、トシなんか関係ないんだよね。だから普段接することのない、うんと年上の、私とは格がちがうスタッフや出演者の人たちの話が聞けたりして、すごくいろんなことを吸収していると思う。一日一日、自分が変わってきていると思う。もうすぐハタチになるという自分に対してのプレッシャーが、そうさせているのかもしれない。ハタチの日には、もうハタチの気持ちになっていたいんだ」

──でも、音楽という共通のキーワードがあってよかったね。

かおり「うん。でも、正直いってステージが恋しい。映画をやってるからよけいに、やっぱり私は俳優業じゃないなって思った。もう 1 月のツアーが待ち遠しいんです。こんなに自分が歌が好きだったなんて、初めて気づいたことかもしれない。だからといって、映画をハンパにやってるわけじゃないよ。この映画をやろうと思ったのは、私が歌で伝えたいことと、監督が映画で伝えたいこととが共通してたから、私が手を貸さずにいられようか(笑)、というものだったの。だから、この映画をひとことでいうと、教科書のない人たちへのメッセージなの。今の学校で教わることっていうのは、実社会の中で、知識を別にするとほとんど必要のないことばかりでしょ？ 全部がそうだとはいわないけど、先生や親のいうことも筋がとおってなかったり。いちばん覚えなきゃいけない、人間の関わりとか、愛とか、礼儀とかを覚えていないでしょ？ じゃあ、私たちはどこで知ればいいかというと、街に出るしかない。そこで、実際に体験していったり、本や映画やマンガとかで自分のノートに書き込んでいかなきゃならないわけ。だから、この映画や歌が、そうやって手探りで歩いている人たちへのメッセージになればいいなって思う。もちろん自分も、歌いながら、まだ見つけている最中なんだけどね」

KAORI KAWAMURA [映画の中の川村かおり]

今日、あたらしい自分を聴いた。

これだけは、だれにも負けない。
自分らしさは自分でつかむ。
好きなこと、やりたいこと、
どんどんチャレンジ。
毎日、あたらしい自分です。

●POPデザイン
売上増に大きく貢献する手書きPOPがあなたにもやさしく書ける。

●簿　記
経理に欠かせない大切な技能。身につけておけば就職にも有利。

●英検(2級 3·4級)
国際化時代にジャンプ・アップ。就職の切札になる実用英語検定。

●パソコン
基本操作からプログラミングまで、パソコンのすべてがわかる!

●医療事務
医療事務の基礎知識からわかりやすく指導。5ケ月で実務能力が。

●英会話
英語が話せたら海外旅行もずっと楽しくなる。早く始めるのが勝ち。

森田浩司が繰り出す、シャープでしなやかなビート。なんてキマってるんだろう、と思う。東京の夜を彩る、きらびやかなサウンドだわぁ。でも、ひところ流行った近未来小説に出てくるような冷たさはなくて、どこか、なんだかホワーンとするようなあったかさがある。

なんでだろう。ちょっと不思議な感じ。

まず、彼のメロディーがあったかいこと。それが確かに原因になっているだろう。ビシビシのビートの中からやさしいフレーズがひょっと出てくる。そんな感じが、すごくあったかく感じるに違いない。

それから、素直な言葉の数々。森田くんのような、スタイリッシュでおしゃれな男の子。きっとカッコつけまくり男なんだろうなって感じもするけれど、実は全然。彼の書く歌詞に出てくるのは、非常にシャイでひたむきな男の子たち。好きな女の子に振り向いてもらいたくて一生懸命にがんばっちゃうこと、そんな一般的青少年の恥ずかしい恋愛心理もストレートに書いてしまう。歌の中に出てくる人たちは、どれぐらい本当の自分に近いの？ と聞いたら、

「僕は自分のことしか書けないから……」

と、ちょっと照れた顔で答えた。ふふ、その言葉を聞いてから、アルバムを聞くたびによけいあったかい気持ちになってしまう。

「あの、これ、インタビューからずれちゃうんですけど」と言って森田くんが話し始める話はおもしろい。確かに、アルバムの記事なんかに載るような話ではないんだけど、彼がどんなにアーティストとして厳しい視点で音楽を作っていこうとも、彼の音楽は永遠にやさしい温もりを持ちつづけるだろうなと思わせるような話ばかりだった。たとえば取材の終わりごろになって、彼はなにげなくこう言った。サラリと、自分の家の間取りを言うような調子で。

「僕、生まれたときからずーっと、悪い人っていうのに会ったことがない環境で育ってきたから」

彼は愛知県の海ぞいの町で育った。本当に穏やかなところなんです、と言う。でも、悪い人に会ったことがないなんて、なかなか言えるもんじゃない。そんなふうに言える人ってカッコいい。すてきだと思った。

こんな話をすると、まるで森田浩司が恵まれた環境でスクスク育って、若くしてデビューを果たしたシンデレラ・ボーイみたいに思われてしまうかもしれないけれど、彼は若くして〝人生山あり谷あり〟をたっぷりと経験しているみたいだ。みたい、と書いたのは、森田くんがあまりにも無邪気にアマチュア時代の話をするから。

音楽で食っていきたくて、彼は大学にも進まず、高校卒業後はいろんな仕事をしながらアマチュア・ミュージシャンとしての活動を続けていた。かの〝富山の置き薬〟の配達の仕事をしていたこともあり、そのときに非常に印象深い経験をしたという。お客さんである、易者のおばさんのところに行ったとき、おばさんは、すっかり顔なじみになっていた森田くんを占ってあげると言った。

「僕はプロのミュージシャンになれますか？」

彼は即座にそう聞いた。そしてそのあとすぐに、(これがどうにも森田くんらしくていいのだけど)

「おばさん、これ当たっちゃう？」

と、付け加えたそうだ。おばさんは「当たっちゃうよ」と答えた。(そりゃそう答えるけどねえ)ちょっと迷ったけど、それでも彼は結果を聞いた。

「あんたはプロのミュージシャンにはなれないよ」

おばさんは非情にもそう答えた。夢を抱いている若者にはけっこうショックだった。その後、いろんな人に彼は自分の進む道について意見を求めた。そのなかには、易者のおばさん以上にシビアな意見を言う人もいた。

「でも僕はプロのミュージシャンになったんです」

〝悪い人に会ったことがない〟と言ったときと同じようにサラリと、当たり前のことを言うように森田浩司は言った。運命なんて自分で作っていくもの。そして、大事なのは自分の才能を信じること。彼は知っている。

KŌJI MORITA

森田浩司

デビューして、まだ間のない森田浩司。
前号に引き続き、彼の魅力にせまってみよう。

PHOTO●MASAHIRO FUJITA　COPY●YUKO NOUJI

槇原敬之

恋人同士の邪魔はしません。

ひとりぼっちの人には

ほんの少しですが

淋しさを分かちあえるかもしれません。

*

もうすぐXmas

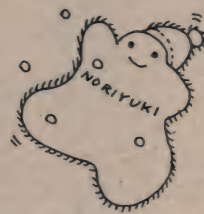
ぼくのうたをみんなの側に置いてやってください。

NORIYUKI

デビューアルバム
「君が笑うとき君の胸が痛まないように」
WMC3-1 税込定価¥2,900

デビューシングル
「NG」
WMD3-3003 税込定価¥900

WEA MUSIC K.K.

[槇原敬之テレフォン・インフォメーション] 03-221-8586, 8587

HEART OF THE HEART

井口一彦
不定期連載エッセー
NO. 2

好評の井口一彦のエッセー、第2回をお届けしよう。今回は「男について」。
彼の、男とはどうあるべきかについての、骨太な考えかたがよくわかる。

男について

長いツアーがやっと終わり、僕はいま、数か月ぶりの〝東京〟を楽しんでいる。

楽しんでいるといっても遊んでいるわけではなく、次のアルバムに向けての曲づくりに励んでいるところだ。今まで思い浮かんだことや、人から聞いた話、旅先で見てきたことなどをメモしておいたノートを広げて、毎日にらめっこしている。

そうやって組み立て、考え直して作っていく詞もあるが、何か強烈に感じたことなどを言葉に直すときは、本当にあっという間に1曲ぶんの詞のようなものができてしまう。別に僕は自分の作品をとおして、何かを変えてやろうと思ったりはしないのだが、何かを言わずにはいられないときなどは、本当に「吐き出す」といった表現がぴったりなぐらいにペンが進む。次回のアルバムにもそんな詞が2～3曲は入りそうな気がするのだけれど、そんな中でも「男」というテーマの詞を書きたいと、いま僕は思っている。今回は、だから、「男」について語ってみようと思う。

僕は東京の練馬というところで生まれて、育った。親父は昔気質の鳶職、お袋は近所で小料理屋をやっていた。僕は一人っ子だったせいか、お袋や親戚などは、僕をとてもかわいがってくれたように記憶しているが、親父に関しては、やさしいとか、怖いとかいった感じよりも、まるでスーパーマンのようだったというイメージがいまだに強く残っている。

仕事で家を空けることが多く、僕と接する時間はあまり多くはなかったが、親父は、ことあるごとにいろいろな話を僕に聞かせてくれた。職場でのこと、お袋と結婚する前のこと、そんないろいろな話の中で、一貫して、男というのは強くなければいけない、といったことを、親父は一生懸命話していた。……「自分がやりたいと思ったことなら、最後まできっちりやり遂げなければならない。そして、たとえそれが失敗だったとしても、自分のやったことなんだから、自分自身で責任をとりなさい」。

そんな話を聞かされるうちに、僕はだんだんと親父に憧れ、男というのはそんなものなんだと感じるようになっていた。何があっても動じずに、どっしりとしていて、頼りになる人間、それが僕のイメージする男だった。

そういった僕の考えが古いのかどうだかはわからないが、最近見かける男はどうも、柔らかくて好きになれない男のほうが多いような気がしてならない。常に逃げ場を探していたり、妙に計算高かったりと、なんとなく腑に落ちない気がする。別にそれはそれでいいのかもしれないが、そんなことで将来的に自分の子供などに何かしてあげられるのだろうか、という気になってしまうのは僕だけだろうか。

なにも男全員が僕のイメージする「スーパーマン」である必要はないのだが、自分というものに対して自信のあるやつが少ないのは事実だと思う。そういった意味では、先日のプロ野球ドラフト会議で巨人に1位指名された元木大介の生きかたには共鳴できる点がある。もちろんドラフトというルールに逆行したという点での判断には難しい点がいくつかあるが、彼が彼なりの答えをまっとうしたという点では頭が下がる。

なんでも人生、ここで勝負というときがやってくるだろう。そのときに決断できないようでは、なんとなく寂しいと僕は思う。

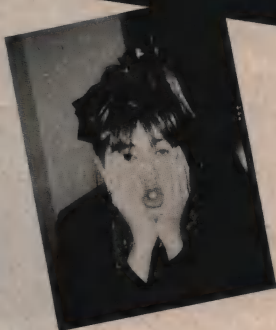
ちょっと古いかもしれないけど、そんな「男」や「最近の男」についての曲を書いてみようかなと、僕は今、思っている。

撮影●南部康男

鈴木彩子

SAIKO SUZUKI

HEALING TOUR THE GOLDEN AGE DREAM

Saiko Suzuki

高校進学を目前に、東京進出計画を立て荷作りをした彩子であったが、まんまと家族に見つかり、フクロダタキにあい、ここはひとまず、あきらめるしかないと思い、無事(かどうかはわかりませんが)に高校へ進学した。

バンドに燃え始めた彩子は、クラスの子を誘ってバンドを組もうと必死。声をかけたり、机の上に登ってバンドの真似をしてアピールするものの、すでにバンド活動を始めていた二、三の友達は〝彩子は歌が下手だからね〟と鼻もひっかけてくれなかった。

ともあれ、親友のマオチューをはじめ、エダピン、セコブを誘って、なんとかバンドの形を整えた彩子!!けれど、どうやって練習してよいものかわからなかったという。なんたって、練習スタジオを借りる方法すら知らなかったというのだから、ねっ。

なんとしてもバンドを組みたいという彩子の、歌に対する夢、熱意がどんなにスゴかったかは、これでおわかり頂けるだろう。

マオチュー宅に集ってはミーティングの日々という彩子たち。〝どんなバンド名にしようか、衣装はどうしようか!?〟そんなことばかり話し合っていた。そして最後には、〝ビール買ってこ～い!!〟の大宴会という始末、オイ。[2]

肝心の音楽活動の方はというと、好きだったバンドの尊敬する人からもらったというサイン入りの血まみれのスネア(彩子の宝物だった)を、〝本当にバンドやるなら練習しろ!!〟とエダピンに譲ったのに、エダピンは座折。(聞くところによると、そのスネアは分解され、彩子の手元には戻ってこなかったという)。

ベースのセコブは、彩子たちのバンドの他にもバンドを組んでいて、そっちにばかり夢中だったし、ギターのマオチューは、かなり真剣にギターと取り組んでみたものの、才能がなかったのか、やっぱり座折(マオチューが2万円で買ったギターは、今、彩子の手元にあるという。がしかし、ひと弾きするとテューニングが狂うといったシロモノ)。無念の空中分解状態となってしまった。

もともとグラフィック・デザインに興味を抱いていたマオチューは、高校一年で学校をやめ、デザイン学校へ進んだという。そんなマオチューと彩子は、高校在学時代から、大の仲良しだった。もちろん、ケンカもよくしたというが、二人は〝学校始まって以来〟といわれるぐらいのハミ出し者で、職員室や校長室に何度も呼び出されていたという。そりゃ確かに悪いこともしたかもしれない。けれどツッパリとか、不良といわれるたぐいの悪さではなく、二人には各々の夢があっただけのことなのだ。その夢に対して素直に生きようとした二人の行動が、学校にはハミ出し者に見えただけのこと。

二人で自転車を飛ばして海へ行き、夢を語り合った。〝こういうボーカリストになりなよ〟とマオチューが借してくれたCDで、彩子はジャニス・ジョプリンを知った。

「夢を追い続けたあの頃に帰りたい。素顔のまま、気の向くままに、レッテルを貼られようとも……〟。

とあるアマチュア・バンドのこの歌を、二人はいつも大声で歌いながら、〝ガンバロウネ〟と、各々の夢を見、その夢に近づいていくことを考えていた。

今、各々の夢へ歩き始めた二人。彩子はマオチューのことを、〝一〇〇人の友だちよりもたったひとりの大親友マオチューの方が、大切であり、かけがえのないもののような気がする〟という。

高校一年も終わろうとするある日、彩子がひとりで仙台の街を歩いていると、〝モデルをやってみないか!?〟と声をかけてきた人がいた。〝これで東京に行ける!!〟という思いが彩子の脳裏によぎったのであった。

――また次号へつづく……

文/河合美佳
撮影/宇津木美枝子

〝たったひとりのルネッサンス VOL.2〟

SAIKO SUZUKI 1st TOUR
GOLDEN AGE DREAM

12/23(日) 福岡・Be-1
OPEN/17:30 START/18:00

12/27(木) 広島・ウッディーストリート
OPEN/18:30 START/19:00

12/28(金) 大阪・ミューズホール
OPEN/17:00 START/18:00

'91 1/12(土) 原宿・ルイード
OPEN/17:00 START/18:00

1/20(日) 名古屋・クラブクアトロ
OPEN/17:00 START/18:00

ヒコーキについて知りたい人へ。

小林さん こんばんわ。そして初めまして
私は いつも"POPLANE"を楽しく聴いている
19歳の女の子です。
私はこの夏まで 医学専門予備校に通って
いたのですが 別にずーっと温めていた
夢があって、諦め切れずに学校を辞めました。
今は自宅で文学部目指して勉強していますが
やはり色々な面で どうしようもなく不安になる事が
あります。
そんな時 私はヒコーキ"STUDENT～卒業"を
聴くのです。
『I believe in me』～自分自身を信じる～
とても良い言葉ですね。私も自分自身を信じて
頑張っていきたいと思いますので、小林さんも
ラジオでそしてコンサートで頑張ってる沢山の
みんなを励ます"声"を御願いします。
これからもヒコーキ 応援していきます。
頑張って下さいね。

(Kiss-FMに寄せられた手紙より。)

たくさんの不安や不可能に抵抗している人の姿を僕は美しいと思います。たとえそのことに負けたとしても誇りが持てるくらい自分自身を信じ自分自身に勝ち続けてください。
ヒコーキVo./小林孝至

WE ARE HIKOHKI IN THE LIGHTNING SKY•

ヒコーキ ボーカル小林孝至レギュラーパーソナリティ
Kiss-FM(兵庫)●毎週月曜日 深夜2:00～3:00"POPLANE" ON AIR中。

DEBUT SINGLE "大嫌い" c/w 麦藁帽子飛んだ
CD: KTDR-2002 ¥937(税込)
1st ALBUM "STUDENT"
CD: KTCR-1006 ¥3,000(税込)
Now On Sale!

Kitty
KITTY RECORDS INC. distributed by POLYDOR K.K.

HIKOHKI ARE
TAKASHI KOBAYASHI: VOCAL
MASAHIRO ABE: KEYBOARDS & CHORUS
KENJI SUZUKI: GUITAR & CHORUS
KEN'ICHI YOMOGIDA: BASS & CHORUS
MASAYOSHI KASAMATSU: DRUMS & CHORUS

CONCERT SCHEDULE

RCサクセション
"WINTER NIGHTS"
12/25日(火)日本武道館 問-93

UP-BEAT
"WEED & FLOWERS TOUR"
12/26日(水)新潟県民会館 問-77

THE ALFEE
"1990 LONGWAY TO FREEDOM REVOLUTION II"
12/23日(日)日本武道館 問-26、93
24日(月)日本武道館 問-26、93
27日(木)大阪城ホール 問-98

安全地帯
"安全地帯VII～夢の都～"
12/25日(火)静岡市民文化会館 問-61
26日(水)磐田市民文化会館 問-61
1/13日(日)大宮ソニックシティ(大)
問ロッケン ☎048-648-1691
15日(火)新潟県民会館 問-11
16日(水)新潟県民会館 問-11
19日(土)名古屋国際会議場(センチュリー) 問-61
20日(日)名古屋国際会議場(センチュリー) 問-61
23日(水)福岡サンパレス 問-84
24日(木)福岡サンパレス 問-84
26日(土)東京ベイNKホール 問-44
27日(日)東京ベイNKホール 問-44
29日(火)横浜アリーナ 問-126
31日(木)大阪城ホール 問-72

伊豆田洋之
2/3日(日)渋谷クラブ・クアトロ 問-125
8日(金)大阪amホール 問-129

稲垣潤一
"SOUND of Life in Naeba"
3/5日(火)6日(水)7日(木)8日(金)
苗場プリンスホテルワールドカップロッジレストラン

江口洋介
2/25日(月)渋谷Egg-man 問-175
3/25日(月)渋谷クロコダイル
問チップス☎03-5232-3154

L³C
"SWEET LOVER～もっともっとSUGAR NIGHT～"
12/23日(日)広島WIZワンダーランド 問-99
24日(月)大阪amホール 問-185
27日(木)新宿スペースゼロ 問-28
28日(金)名古屋ボトムライン 問-66
"SWEET LOVER～もっともっと君のために～"
1/26日(土)大阪amホール 問-185
27日(日)名古屋ボトムライン 問-66

大江千里
"APOLLO"
12/24日(月)横浜アリーナ 問-26
27日(木)大阪厚生年金会館 問-129
28日(金)大阪厚生年金会館 問-129
1/6日(日)郡山市民文化センター 問-25
9日(水)NHKホール 問-26
10日(木)NHKホール 問-26
12日(土)大阪厚生年金会館 問-129
13日(日)大阪厚生年金会館 問-129
22日(火)千葉県民文化会館 問-26
24日(木)新潟県民会館 問-124
25日(金)新潟県民会館 問-124
28日(月)鹿児島市市民文化ホール(第1) 問-88
30日(水)大分文化会館 問-88
31日(木)熊本市民会館 問-88
2/2日(土)熊本市民会館 問-88
5日(火)沖縄市民会館 問-91
12日(火)静岡市民文化会館 問-67
14日(木)青森市民文化会館 問-21
15日(金)岩手県民会館 問-21
17日(日)大宮ソニックシティ 問-26
19日(火)高知県民文化ホール 問-81
20日(水)徳島市立文化ホール 問-82
22日(金)香川県民ホール 問-82
23日(土)愛媛県民文化会館 問-83
25日(月)宇都宮市文化会館 問-25
26日(火)茨城県民文化センター 問-25
28日(木)下関市民会館 問-80
3/1日(金)倉敷市民会館 問-80
3日(日)広島厚生年金会館 問-80
4日(月)広島厚生年金会館 問-80
6日(水)NHKホール 問-26
7日(木)NHKホール 問-26
11日(月)仙台イズミティ21 問-23
12日(火)仙台イズミティ21 問-23
14日(木)仙台イズミティ21 問-23
15日(金)仙台イズミティ21 問-23

大沢誉志幸
"楽園"Serious Barbarian Tour
12/26日(水)大阪厚生年金会館 問-73

岡村孝子
"Christmas Picnic"
12/23日(日)東京ベイNKホール 問-27
24日(月)東京ベイNKホール 問-27

岡村靖幸
"年末年始・岡村くんと過ごそう!!"
12/31日(月)PARCO劇場 問-26
1/2日(水)PARCO劇場 問-26
3日(木)PARCO劇場 問-26
4日(金)PARCO劇場 問-26
5日(土)PARCO劇場 問-26
6日(日)PARCO劇場 問-26

Kabach
12/28日(金)大阪IMPホール 問-70
1/14日(月)渋谷クラブ・クアトロ 問-28
25日(金)大阪バナナホール 問-70
29日(火)名古屋ハートランド 問-61

カステラ
12/23日(日)渋谷公会堂 問-59

かまいたち
12/23日(日)埼玉会館(大) 問-59

川村かおり
"CAMPFIRE"
1/18日(金)名古屋クラブ・クアトロ 問-66
21日(月)大阪厚生年金会館(中) 問-98
22日(火)名古屋クラブ・クアトロ(追加公演) 問-66
23日(水)渋谷公会堂 問-26

KAN
"年末ジャンボ宝さぐII"
12/23日(日)大阪MIDシアター 問-73
1/31日(木)広島中区創造文化センター 問-80

筋肉少女帯
"月光蟲TOUR'90～'90"
12/23日(日)藤沢市民会館 問-27、56
25日(火)大宮市民会館 問-27

"TANE TOMOKO, 1/22「NAGOYA」YORI TOUR START! TSUIDENI KISHIMEN TABE YO!" O・S・O・S

1/7日(月)長野県民文化会館 問-11
8日(火)山梨県民文化ホール 問-27
10日(木)金沢市民文化ホール 問-132
13日(日)水戸市民会館 問-27
17日(木)郡山市民文化センター 問-16
18日(金)山形市民会館 問-16
20日(日)青森市民文化ホール 問-16
23日(水)名古屋市民会館 問-61
26日(土)京都会館(第2) 問-75
28日(月)大阪厚生年金会館 問-98
31日(木)岡山市民文化ホール 問-100
2/1日(金)広島県民文化センター 問-99
3日(日)福岡都久志会館 問-84
6日(水)札幌市民会館 問-122
8日(金)新潟県民会館 問-11
12日(火)仙台市民会館 問-16
13日(水)秋田県児童会館 問-16
15日(金)栃木会館 問-27
19日(火)高松ウイングホール 問-154
21日(木)徳島県郷土文化会館 問-153
22日(金)高知県民文化ホール 問-154

久保田利伸&MOTHER EARTH
FUNKY LIVE PERFORMANCE V
"日本一のBONGA WANGA 男'S TOUR"
1/7日(月)倉敷市民会館 問-100
8日(火)倉敷市民会館 問-100
10日(木)メルパルクホール広島 問-99
12日(土)メルパルクホール広島 問-99
13日(日)メルパルクホール広島 問-99
16日(水)秋田県民会館 問-23
17日(木)青森市文化会館 問-23
19日(土)岩手県民会館 問-123
20日(日)岩手県民会館 問-123
22日(火)郡山市民文化会館 問-123
25日(金)釧路市民会館
問釧路音楽文化協会☎0154-91-5258
26日(土)帯広市民文化ホール
問ロッキングカンパニー☎0155-21-3512
28日(月)室蘭・新日鉄体育館 問-101
29日(火)函館市民会館 問-6
2/5日(火)鹿児島市民文化会館 問-130
6日(水)福岡サンパレス 問-85
8日(金)福岡サンパレス 問-85
9日(土)福岡サンパレス 問-85
12日(火)熊本市民会館 問-85
13日(水)熊本市民会館 問-85
16日(土)沖縄市民会館 問-91
17日(日)沖縄市民会館 問-91
3/13日(水)仙台市体育館 問-123
14日(木)仙台市体育館 問-123
18日(月)大阪城ホール 問-129
19日(火)大阪城ホール 問-129
21日(木)大阪城ホール 問-129
22日(金)大阪城ホール 問-129
26日(火)横浜アリーナ 問-44
27日(水)横浜アリーナ 問-44
28日(木)横浜アリーナ 問-44
4/2日(火)名古屋市総合体育館(レインボー) 問-61
3日(水)名古屋市総合体育館(レインボー) 問-61
7日(日)代々木競技場第1体育館 問-44
8日(月)代々木競技場第1体育館 問-44
10日(水)代々木競技場第1体育館 問-44
11日(木)代々木競技場第1体育館 問-44
13日(土)代々木競技場第1体育館 問-44
14日(日)代々木競技場第1体育館 問-44
17日(水)札幌月寒グリーンドーム 問-1
18日(木)札幌月寒グリーンドーム 問-1
21日(日)神戸ワールド記念ホール 問-98
22日(月)神戸ワールド記念ホール 問-98

GRAND SLAM
"1991.KICK YOUR ASS HOLE"
1/8日(火)札幌メッセホール
問エジソン☎011-210-7251
10日(木)仙台CADホール 問-123
14日(月)広島WOODY STREET 問-190
15日(火)博多徒楽夢Be-1 問-193
17日(木)大阪amホール 問-73
18日(金)名古屋クラブ・クアトロ 問-61
20日(日)京都BIG BANG 問-76
21日(月)金沢バンバンV4 問-132
23日(水)新潟JUNK BOX 問-13
26日(土)渋谷公会堂 問-35

クレヨン社
"いつも心に太陽を～アンコール公演"
1/15日(火)大阪リサイタルホール 問-70
18日(金)シアターコクーン 問-43

GO-BANG'S
12/24日(月)NISSIN POWER STATION 問-32

小比類巻かほる
"DISTANCE"
12/25日(火)新潟県民会館 問-95
28日(金)NHKホール 問-45

COBRA
"CAPTAIN NIPPON TOUR"
1/7日(月)日本武道館 問-28
17日(木)福井県民会館 問-77
18日(金)金沢市文化ホール 問-77
20日(日)富山県教育文化会館 問-77
22日(火)大阪厚生年金会館(大) 問-70
24日(木)徳島県郷土文化会館 問-82
2/12日(火)山形市民会館(小) 問-17
14日(木)秋田児童会館 問-22
15日(金)青森市民文化ホール 問-8
20日(水)岐阜市文化センター(小) 問-62
21日(木)四日市市民文化会館(第2) 問-62
23日(土)静岡市民文化会館(中) 問-62

小室みつ子
2/2日(土)大阪IMPホール 問-70
3日(日)名古屋FLEX 問-66
5日(火)メルパルクホール東京 問-27

米米CLUB
ANTI SHARISHARISM
右脳と左脳の恋物語
2/27日(水)浦和市文化センター 問-28(SANO)
28日(木)浦和市文化センター 問-28(UNO)
3/3日(日)市川市文化会館 問-28(SANO)
4日(月)市川市文化会館 問-28(UNO)
6日(水)福岡サンパレス 問-130(SANO)
7日(木)福岡サンパレス 問-130(UNO)
9日(土)長崎市公会堂 問-130(SANO)
10日(日)長崎市公会堂 問-130(UNO)
14日(木)メルパルクホール広島 問-80(SANO)
15日(金)メルパルクホール広島 問-80(UNO)
17日(日)愛媛県民文化会館 問-83(SANO)
18日(月)愛媛県民文化会館 問-83(UNO)
20日(水)香川県民ホール 問-82(SANO)
21日(木)香川県民ホール 問-83(UNO)
26日(火)札幌厚生年金会館 問-1(SANO)
27日(水)札幌厚生年金会館 問-1(UNO)
29日(金)札幌厚生年金会館 問-1(SANO)
30日(土)札幌厚生年金会館 問-1(UNO)
4/1日(月)岩手県民会館 問-123(SANO)
2日(火)岩手県民会館 問-123(UNO)
4日(木)青森市文化会館 問-123(SANO)
5日(金)青森市文化会館 問-123(UNO)
9日(火)新潟県民会館 問-124(SANO)
10日(水)新潟県民会館 問-124(UNO)
12日(金)長野県民文化会館 問-124(SANO)
13日(土)長野県民文化会館 問-124(UNO)
16日(火)神奈川県民ホール 問-126(SANO)
17日(水)神奈川県民ホール 問-126(UNO)
22日(月)茨城県民文化センター 問-123(SANO)
23日(火)茨城県民文化センター 問-123(UNO)
25日(木)宇都宮市文化会館 問-123(SANO)
26日(金)宇都宮市文化会館 問-123(UNO)
29日(月)大阪フェスティバルホール 問-129(SANO)
30日(火)大阪フェスティバルホール 問-123(SANO)
5/2日(木)有明コロシアム 問-28(SANO)
3日(金)有明コロシアム 問-28(UNO)
5日(日)有明コロシアム 問-28(SANO)
6日(月)有明コロシアム 問-28(UNO)
9日(木)名古屋センチュリーホール 問-66(SANO)
10日(金)名古屋センチュリーホール 問-66(UNO)
12日(日)名古屋センチュリーホール 問-66(SANO)
13日(月)名古屋センチュリーホール 問-66(UNO)
15日(水)郡山市民文化センター 問-123(SANO)
16日(木)郡山市民文化センター 問-123(UNO)
18日(土)NHKホール 問-125(NANO)
19日(日)NHKホール 問-125(UNO)
21日(火)大阪フェスティバルホール 問-129(SANO)
22日(水)大阪フェスティバルホール 問-129(UNO)
25日(土)京都会館(第1) 問-129(SANO)
26日(日)京都会館(第1) 問-129(UNO)
28日(火)神戸国際会館 問-129(SANO)
29日(水)神戸国際会館 問-129(UNO)
6/4日(火)鳥栖市民文化会館 問-130(SANO)
5日(水)鳥栖市民文化会館 問-130(UNO)
7日(金)九州厚生年金会館 問-130(SANO)
8日(土)九州厚生年金会館 問-130(UNO)

栗林誠一郎
2/7日(木)渋谷クラブ・クアトロ 問-178

GONTITI
1/12日(土)中野サンプラザホール
問ル・ルティモ☎03-857-5000

財津和夫
"I must be Crazy"
12/24日(月)札幌市民会館 問-2
26日(水)仙台電力ホール 問-20
1/9日(水)福岡市民会館 問-88
11日(金)鹿児島県文化センター 問-92
12日(土)熊本市民会館 問-88
2/8日(金)広島市文化創造センター 問-80
9日(土)高松市民会館 問-82

佐野元春
"TIME OUT! TOUR"
12/24日(月)神戸国際会館 問-70
25日(火)神戸国際会館 問-70
27日(木)大阪フェスティバルホール 問-129
28日(金)大阪フェスティバルホール 問-129

三四朗
"H_2O"
1/12日(土)大阪サンケイホール 問サンケイ企画☎06-345-5062

ZIGGY
"ALL or NOTHING"
12/23日(日)釧路市民文化会館 問-1
25日(火)札幌市民会館 問-1

Zi÷Kill
12/28日(金)CLUB CITTA'川崎 問-26

詩人の血
"歌夜～KAYA"
1/1日(火)NISSIN POWER STATION 問-28

G.D.FLICKERS
12/30日(日)新宿ロフト 問-176
1/26日(土)渋谷Egg-man 問-93
31日(木)京都BIG BANG 問-76
2/1日(金)神戸チキンジョージ 問-94

C-BA
"JUNGLE TROUBLE MAKER"
12/26日(水)福岡Be-1 問-85
29日(土)大阪ミューズホール 問-129
1/15日(火)原宿ルイード 問-26

JITTERIN' JINN
"スターライトスペシャル"
12/24日(月)宝ケ池国立京都国際会館 問-76
"CD200万枚突破LIVE"
12/26日(水)横浜アリーナ 問-28

上々颱風
12/26日(水)シアターアプル 問ル・ルティモ☎03-857-5000
27日(木)シアターアプル 問ル・ルティモ☎03-857-5000

the Shamröck
"sometimes it's Better than Sex"
1/17日(木)日本青年館 問-26

JUN SKY WALKER(S)
"LADIES AND GENTLEMAN"
12/23日(日)倉敷市民会館 問-100
24日(月)島根県民会館 問-100
26日(水)福山市民会館 問-99
27日(木)メルパルクホール広島 問-99
1/7日(月)徳島市文化センター 問-100
8日(火)香川県民ホール 問-100
10日(木)高知県民文化ホール(オレンジ) 問-100
11日(金)松山市民会館 問-99
13日(日)山梨県民文化ホール 問-28
15日(火)千葉県文化会館 問-28
16日(水)大宮ソニックシティ 問-59
19日(土)浦和市文化センター 問-59
21日(月)市川市文化会館 問-28
22日(火)宇都宮市文化会館 問-10
24日(木)郡山市民文化センター 問-123
25日(金)仙台市民会館 問-12
27日(日)秋田県民会館 問-123
29日(火)青森市文化会館 問-123
30日(水)岩手県民会館 問-123
2/1日(金)石巻市民会館 問-12

CONCERT SCHEDULE

4日(月)茨城県民文化センター 問-10
8日(土)福井フェニックスプラザ 問-77
9日(土)金沢市観光会館 問-77
11日(月)富山市公会堂 問-77
12日(火)新潟県民会館 問-77
14日(木)長野県民文化会館 問-77
16日(土)四日市市文化センター 問-66
18日(月)岐阜市民会館 問-66
20日(水)守山市民会館 問-75
23日(土)大阪城ホール 問-129
24日(日)大阪城ホール 問-129
27日(水)名古屋レインボーホール 問-66
28日(木)名古屋レインボーホール 問-66
3/ 4日(月)九州厚生年金会館 問-84
5日(火)福岡市民会館 問-84
7日(木)大分文化会館 問-84
8日(金)宮崎市民会館 問-84
9日(土)鹿児島市民文化ホール(第1) 問-84
11日(月)熊本市民会館 問-84
12日(火)久留米市民会館 問-84
14日(木)佐賀市文化会館 問-138
15日(金)長崎市公会堂 問-84
22日(金)群馬音楽センター 問-10
23日(土)八王子市民会館 問-28
4/ 1日(月)福島市公会堂 問-123
2日(火)山形県民会館 問-123
4日(木)出雲市民会館 問-100
5日(金)米子市公会堂 問-100
7日(日)奈良県文化会館 問-98
9日(火)沼津市民文化センター 問-67
11日(木)川崎市立教育文化会館 問-56
23日(火)沖縄市民会館 問-91

SHADY DOLLS

"SHADY DOLLS THE CONCERT"
1/26日(土)千葉市民会館(大) 問-93
28日(月)茨城県民文化センター(小) 問-10
29日(火)宇都宮市文化会館(小) 問-10
30日(水)CLUB CITTA'川崎 問-93

障子久美

"MOTION & MOMENT"
1/19日(土)名古屋ボトムライン 問-61
20日(日)大阪ギャラクシーホール 問-129
28日(月)シアターコクーン 問-43

すかんち

"LADIES & GENTLEMEN"
12/23日(日)豊橋かこやホール 問-61
24日(月)大阪ミューズホール 問-70
30日(日)NISSIN POWER STATION 問-27

鈴木彩子

12/23日(日)福岡Be-1 問-85
28日(金)大阪ミューズホール 問-129
1/12日(土)原宿ルイード 問-26
20日(日)名古屋クラブ・クアトロ 問-66

STARDUST REVUE

"ONE AND MILLONS"
12/24日(月)横浜文化体育館 問-26
1/ 8日(火)徳島市立文化センター 問-82
9日(水)高松市民会館 問-82
11日(金)高知県民文化ホール(オレンジ) 問-81
12日(土)松山市民会館(大) 問-83
14日(月)京都会館(第1) 問-76
15日(火)京都会館(第1) 問-76
19日(土)沖縄コンベンションセンター 問-91
20日(日)沖縄コンベンションセンター 問-91
23日(水)徳山市文化会館 問-80
24日(木)広島厚生年金会館 問-80
26日(土)岡山市民会館 問-80
27日(日)米子市公会堂 問-80
30日(水)金沢市文化ホール 問-132
31日(木)富山県民会館 問-124
2/ 2日(土)長野市民会館 問-124
3日(日)群馬音楽センター 問-103
5日(火)新潟県民会館(大) 問-124
14日(木)静岡市民文化会館(大) 問-67
20日(水)宇都宮市文化会館(大) 問-25
21日(木)茨城県民文化センター 問-25
23日(土)福岡サンパレス 問-84
24日(日)福岡サンパレス 問-84
26日(火)大阪フェスティバルホール 問-129
27日(水)大阪フェスティバルホール 問-129
3/ 1日(金)大阪フェスティバルホール 問-129
2日(土)大阪フェスティバルホール 問-129
4日(月)大阪フェスティバルホール 問-129
5日(火)大阪フェスティバルホール 問-129
6日(水)大阪フェスティバルホール 問-129
11日(月)旭川市民文化会館(大) 問-2
12日(火)札幌厚生年金会館 問-2
22日(金)東京ベイNKホール 問-26
23日(土)東京ベイNKホール 問-26

The Street Sliders

"BIG BEAT DANCE'90-91"
12/24日(月)新潟県民会館(大) 問-95
25日(火)長野市民会館 問-96
27日(木)藤沢市民会館 問-58
1/ 6日(日)日本武道館 問-28
9日(水)仙台イズミティ21 問-23
16日(水)名古屋市公会堂 問-66
17日(木)名古屋市公会堂 問-66
18日(金)名古屋市公会堂 問-66
20日(日)福岡市民会館 問-84
21日(月)福岡市民会館 問-84
26日(土)札幌市民会館 問-1
29日(火)大阪厚生年金会館(大) 問-98
30日(水)大阪厚生年金会館(大) 問-98

頭脳警察

"万物流転1991"
1/11日(金)青森スペース½ 問-12
12日(土)盛岡AUNホール 問-12
14日(月)仙台市青年文化センター 問-12
2/19日(火)博多Be-1 問-193
20日(水)博多Be-1 問-193
22日(金)広島WOODY STREET 問-190
23日(土)大阪厚生年金会館(中) 問-73
25日(月)名古屋クラブ・クアトロ 問-61
27日(水)渋谷公会堂 問-93

SPARKS GO GO

1/ 8日(火)大阪ミューズホール 問-70
9日(水)大阪ミューズホール 問-70
11日(金)名古屋E.L.L. 問-62
12日(土)名古屋E.L.L. 問-62
17日(木)後楽園ホール 問-27

聖飢魔II

"超有害大黒ミサ行脚"
12/24日(月)大阪厚生年金会館 問-70
25日(火)大阪厚生年金会館 問-70
1/12日(土)大分文化会館 問-88
14日(月)福岡市民会館 問-87
15日(火)メルパルクホール熊本 問-99
19日(土)静岡市民文化会館 問-67
22日(火)札幌厚生年金会館 問-1
25日(金)仙台イズミティ21 問-16
26日(土)新潟県民会館 問-124

Typhoon NATALi

1/18日(金)大阪amホール 問-52
25日(金)渋谷Egg-man 問-28

種ともこ

"O・S・O・S"
1/22日(火)名古屋市公会堂 問-66
23日(水)大阪厚生年金会館(大) 問-70
2/ 1日(金)仙台市青年文化センター 問-15
4日(月)福岡都久志会館 問-85
5日(火)メルパルクホール熊本 問-88
6日(水)広島県民文化センター 問-80
13日(水)NHKホール 問-125

たま

"たまのお歳暮"
12/26日(水)パナソニック・グローブ座 問-46

TMN

"RHYTHM RED TMN TOUR"
12/23日(日)名古屋国際会議場(センチュリー) 問-66
25日(火)札幌厚生年金会館 問-1
26日(水)札幌厚生年金会館 問-1
1/ 6日(日)鹿児島市民文化ホール(第1) 問-84
7日(月)鹿児島市民文化ホール(第1) 問-84
9日(水)福岡サンパレスホール 問-84
10日(木)福岡サンパレスホール 問-84
12日(土)福岡サンパレスホール 問-84
13日(日)福岡サンパレスホール 問-84
17日(木)メルパルクホール広島 問-99
18日(金)メルパルクホール広島 問-99
24日(木)メルパルクホール広島 問-99
26日(土)愛媛県民文化会館(メイン) 問-99
28日(月)倉敷市民会館 問-100
29日(火)倉敷市民会館 問-100
2/ 2日(土)郡山市民文化センター 問-16
3日(日)郡山市民文化センター 問-16
8日(金)神戸文化大ホール 問-98
9日(土)神戸文化大ホール 問-98
16日(土)青森市文化会館 問-16
17日(日)青森市文化会館 問-16
19日(火)仙台イズミティ21 問-16
20日(水)仙台イズミティ21 問-16
22日(金)仙台イズミティ21 問-16
23日(土)仙台イズミティ21 問-16
27日(水)大阪城ホール 問-98
28日(木)大阪城ホール 問-98
3/ 6日(水)代々木競技場第1体育館 問-27
7日(木)代々木競技場第1体育館 問-27
9日(土)代々木競技場第1体育館 問-27
10日(日)代々木競技場第1体育館 問-27
12日(火)名古屋市総合体育館(レインボー) 問-66
13日(水)名古屋市総合体育館(レインボー) 問-66

THE CHECKERS

THE CHECKERS 1990 WINTER TOUR "OOPS!"
12/23日(日)名古屋レインボーホール 問-66
24日(月)名古屋レインボーホール 問-66
26日(水)日本武道館 問-93
27日(木)日本武道館 問-93
28日(金)日本武道館 問-93
29日(土)日本武道館 問-93

CHAGE & ASKA

"SEE YA!"
12/25日(火)名古屋レインボーホール 問-66
26日(水)名古屋レインボーホール 問-66
28日(金)横浜アリーナ 問-28
29日(土)横浜アリーナ 問-28
1/ 5日(土)京都会館(第1) 問-116
6日(日)京都会館(第1) 問-116
11日(金)浜松アリーナ 問-67
28日(月)福岡国際センター 問-85

TOY B♂YS

"FULL HOUSE"
12/27日(木)原宿ルイード ☎03-403-0123

徳永英明

"JUSTICE"
1/ 8日(火)千葉県文化会館 問-26
9日(水)大宮ソニックシティ 問-26
11日(金)岐阜県市民会館 問-66
12日(土)四日市市文化会館 問-66
16日(水)福井市文化会館 問-77
18日(金)新潟県民会館 問-95
24日(木)釧路市民文化会館 問-5
25日(金)帯広市民会館 問-5
27日(日)札幌厚生年金会館 問-5
28日(月)函館市民会館 問-5
30日(水)札幌厚生年金会館 問-5
2/ 6日(水)NHKホール 問-26
7日(木)NHKホール 問-26
9日(土)長野県県民文化会館(大) 問-96
11日(月)徳山市文化会館 問-99
12日(火)岡山市民会館 問-100
14日(木)高知県民文化ホール 問-81
15日(金)松山市民会館 問-83
17日(日)豊橋勤労福祉会館 問-66
19日(火)名古屋国際会議場(センチュリー) 問-66
20日(水)名古屋国際会議場(センチュリー) 問-66
23日(土)大阪フェスティバルホール 問-98
24日(日)大阪フェスティバルホール 問-98
3/ 2日(土)姫路市文化センター 問-98
4日(月)徳島文化センター 問-82
5日(火)香川県県民ホール 問-82
8日(金)秋田市文化会館 問-21
9日(土)青森市文化会館 問-8
11日(月)山形県民会館 問-21
12日(火)岩手県民会館 問-21
16日(土)磐田市民文化会館 問-67
17日(日)静岡市文化会館 問-67

Dreams Come True

"WONDER3"
12/23日(日)神奈川県民ホール 問-27
1/ 7日(月)大宮ソニックシティ 問-27
9日(水)名古屋市民会館 問-66
10日(木)静岡市民会館 問-67
12日(土)渋谷公会堂 問-27
14日(月)岩手県民会館 問-17
16日(水)仙台イズミティホール 問-17
17日(木)郡山市文化センター 問-17
19日(土)名古屋市民会館 問-66
21日(月)松山市民会館 問-83
22日(火)香川県民ホール 問-82
25日(金)鹿児島市民文化ホール(第1) 問-131
27日(日)熊本市民会館 問-131
28日(月)福岡サンパレス 問-130
30日(水)高知県民文化ホール 問-81
2/15日(金)渋谷公会堂 問-27

TRACY

1/19日(土)NISSIN POWER STATION 問-28

永井真理子

HEART BEAT TOUR 1990〜1991
"SPINNING THE WHEEL"
12/23日(日)大阪厚生年金会館 問-70
25日(火)宇都宮市文化会館 問-27
26日(水)グリーンホール相模大野 問-27
1/ 7日(月)大分文化会館 問-88
9日(水)長崎市公会堂 問-87
10日(木)熊本市民会館 問-88
12日(土)鹿児島市民文化ホール 問-88
19日(土)新潟県民会館 問-124

20日(日)長野市民会館 問-124
22日(火)富山県民会館 問-132
24日(木)金沢市文化ホール 問-132
26日(土)青森市文化会館 問-8
28日(月)仙台イズミティ21 問-17
30日(水)名古屋国際会議場(センチュリー) 問-66
31日(木)名古屋国際会議場(センチュリー) 問-66
2/ 4日(月)福岡サンパレスホール 問-87
6日(水)松岡市民会館 問-83
8日(金)高松市民会館 問-82
9日(土)徳島市文化センター 問-82
13日(水)磐田市民文化会館 問-69
14日(木)渋谷公会堂 問-27
17日(日)京都会館(第1) 問-116
18日(月)神戸国際会館 問-70
20日(水)中野サンプラザ 問-27
21日(木)中野サンプラザ 問-27
3/ 1日(金)静岡市民文化会館 問-67
2日(土)渋谷公会堂 問-27

長渕剛

"JEEP"
12/25日(火)熊本市民会館 問-85
1/ 8日(火)郡山市文化センター 問-22
10日(木)青森文化センター 問-22
11日(金)盛岡県民会館 問-22
17日(木)横浜アリーナ 問-47
18日(金)横浜アリーナ 問-47

中村あゆみ

"LIVE, LIVE, LIVE～OH! BROTHER～"
12/24日(月)メルパルクホール広島 問-99
25日(火)岡山市民会館 問-100
27日(木)CLUB CITTA川崎 問-28

NORMA JEAN

"HELLO! EVERYBODY"
12/30日(日)大阪ミューズホール 問-129
1/18日(金)NISSIN POWER STATION 問-26

HARRY JANE

"ぬりつぶせ"
12/28日(金)大阪MIDシアター 問-72

BY-SEXUAL

"SEXUALITY TOUR"
12/23日(日)大宮ソニックシティ 問-28
24日(月)千葉県文化会館 問-28
25日(火)大阪厚生年金会館(中) 問-129
1/ 8日(火)愛媛県民文化会館(サブ) 問-83
10日(木)高松オリーブホール 問-82
11日(金)高知県民文化ホール(グリーン) 問-81
22日(火)金沢市文化ホール 問-132
24日(木)長野県民文化会館(中) 問-124
2/ 7日(木)青森市民文化ホール 問-16
9日(土)山形市民会館 問-16

HOUND DOG

"BACK TO ROCK"
12/23日(日)藤井寺総合文化会館 問-129
24日(月)藤井寺総合文化会館 問-129
26日(水)堺市民会館 問-129
27日(木)堺市民会館 問-129
1/ 5日(土)吹田市文化会館 問-129
6日(日)吹田市文化会館 問-129
8日(火)八尾市文化会館 問-129
9日(水)八尾市文化会館 問-129
11日(金)名古屋白鳥センチュリー 問-66
12日(土)名古屋白鳥センチュリー 問-66
13日(日)名古屋白鳥センチュリー 問-66
17日(木)名古屋白鳥センチュリー 問-66
18日(金)名古屋白鳥センチュリー 問-66
23日(水)横浜アリーナ 問-28
24日(木)横浜アリーナ 問-28
28日(月)市川市文化会館 問-28
31日(木)山梨県民文化ホール 問-28
2/ 1日(金)大宮ソニックシティ 問-28
2日(土)大宮ソニックシティ 問-28
7日(木)八王子市民会館 問-28
8日(金)八王子市民会館 問-28
14日(木)千葉県文化会館 問-28
15日(金)千葉県文化会館 問-28
18日(月)グリーンホール相模大野 問-58
20日(水)浦和市文化センター 問-28
21日(木)浦和市文化センター 問-28

BAKUFU-SLUMP

"ORAGAYO To The 7th Heaven TOUR 1990-1991"
12/23日(日)千葉県文化会館 問-26
24日(月)秋田県民会館 問-16
26日(水)青森市文化会館 問-16
27日(木)岩手県民会館 問-16
1/ 4日(金)山形県県民会館 問-17
5日(土)仙台イズミティ21 問-17
8日(火)徳山市文化会館 問-80
9日(水)メルパルクホール広島 問-80
11日(金)岡山市民会館 問-80
14日(月)松山市民会館 問-83
16日(水)香川県民文化ホール 問-83
17日(木)高知県民文化ホール 問-83
21日(月)福岡サンパレスホール 問-85
23日(水)佐世保市民会館 問-85
24日(木)熊本市民会館 問-85
26日(土)名古屋国際会議場(センチュリー) 問-66
27日(日)名古屋国際会議場(センチュリー) 問-66
29日(火)静岡市民文化会館 問-67
30日(水)静岡市民文化会館 問-67
2/ 1日(金)福井フェニックスプラザ 問-97
2日(土)金沢市観光会館 問-97
4日(月)富山市公会堂 問-97
6日(水)長野県民文化会館 問-96
7日(木)新潟県民会館 問-95
11日(月)延岡総合文化センター 問-92
13日(水)宮崎市民会館 問-92
14日(木)鹿児島市民文化ホール 問-92
16日(土)磐田市民文化会館 問-67
19日(火)釧路市民文化会館 問-1
20日(水)帯広市民文化ホール 問-1
22日(金)旭川市民文化会館 問-1
23日(土)札幌市厚生年金会館 問-1

PERSONZ

"PRECIOUS？"
12/26日(水)東京ベイNKホール 問-27
27日(木)東京ベイNKホール 問-27
1/18日(金)グリーンホール相模大野 問-27
23日(水)山梨県民文化ホール 問-27
28日(月)宇都宮市文化会館 問-27
30日(水)名古屋市民会館 問-66
31日(木)名古屋市民会館 問-66
2/ 2日(土)神戸国際会館 問-70
4日(月)松山市民会館(大) 問-154
5日(火)高知県民文化ホール 問-154
7日(木)香川県民ホール 問-154
8日(金)徳島市文化センター 問-153
13日(水)新潟県民会館 問-13
14日(木)新潟県民会館 問-13
19日(火)横須賀市文化会館 問-27
24日(日)仙台イズミティ21 問-16
25日(月)喜多方プラザ 問-16
27日(水)茨城県民文化センター 問-27
3/ 5日(火)八戸市公会堂 問-16
6日(水)秋田県民会館 問-16
8日(金)鶴岡市文化会館 問-16
11日(月)宮崎市民会館 問-85

ZENKOKU TOUR
MASSAICHU NO
「HOUND DOG」 MINNA
DEIKô!
BACK TO ROCK
WAN

12日(火)鹿児島市民文化会館 問-85
14日(木)長崎市公会堂 問-85
15日(金)福岡サンパレス 問-85
18日(月)大阪厚生年金会館 問-70
19日(火)大阪厚生年金会館 問-70
26日(火)千葉県文化会館 問-27
28日(木)大宮ソニックシティ(大) 問-27
30日(土)福井フェニックスプラザ 問-97
4/ 1日(月)石川県厚生年金会館 問-97
2日(火)富山市公会堂 問-97
6日(土)郡山市民文化会館 問-16
7日(日)山形県民会館 問-16
9日(火)青森市文化会館 問-16
10日(水)岩手県民会館 問-16
12日(金)札幌厚生年金会館 問-1
14日(日)帯広市民文化ホール 問-1
15日(月)北見市民会館 問-1
21日(日)徳山市文化会館 問-80
22日(月)岡山市民会館 問-80
24日(水)メルパルクホール広島 問-80
28日(日)長野県民文化会館 問-13
30日(火)群馬県民会館 問-27
5/ 1日(水)長岡市立劇場 問-13
5日(日)京都会館(第1) 問-70
7日(火)静岡市民文化会館(大) 問-66

BAKU

"BAKU TO THE FUTUERII"
1/26日(土)栃木会館 問-25

BUCK-TICK

"5 FOR JAPANESE BABIES"
12/23日(日)札幌月寒グリーンドーム 問-1
29日(土)新潟産業振興センター 問-95

浜田省吾

"ON THE ROAD '90"
12/23日(日)呉市文化ホール 問-99
25日(火)メルパルクホール広島 問-99
26日(水)メルパルクホール広島 問-99
1/10日(木)長崎市公会堂 問-84
11日(金)長崎市公会堂 問-84
13日(日)佐賀市文化会館 問-84
14日(月)佐賀市文化会館 問-84
16日(水)熊本市民会館 問-84
17日(木)熊本市民会館 問-84
24日(木)静岡市民文化会館 問-67
25日(金)静岡市民文化会館 問-67
31日(木)高知県民文化ホール 問-100
2/ 2日(土)愛媛県民文化会館 問-100
3日(日)愛媛県民文化会館 問-100
5日(火)徳山市文化会館 問-99
6日(水)山口市民会館 問-99
12日(火)千葉県文化会館 問-26
13日(水)千葉県文化会館 問-26
21日(木)鹿児島市民文化ホール 問-84
22日(金)鹿児島市民文化ホール 問-84
24日(日)宮崎市民会館 問-84
25日(月)宮崎市民会館 問-84
27日(水)大分文化会館 問-84
28日(木)大分文化会館 問-84
3/ 5日(火)大宮ソニックシティ 問-26
6日(水)大宮ソニックシティ 問-26
10日(日)札幌厚生年金会館 問-1
11日(月)札幌厚生年金会館 問-1
14日(木)岩手県民会館 問-21
16日(土)秋田県民会館 問-21
17日(日)秋田県民会館 問-21

浜田麻里

Mari Hamada '90-'91"COLORS"
1/14日(月)富山県民会館 問-97
16日(水)金沢市観光会館 問-97
17日(木)福井市文化会館 問-97
19日(土)下関市民会館 問-97
20日(日)徳山市文化会館 問-80
22日(火)福岡サンパレス 問-85
24日(木)大阪厚生年金会館(大) 問-129
25日(金)大阪厚生年金会館(大) 問-129

HAN-NA

1/10日(木)名古屋ハートランド 問-61
11日(金)大阪amホール 問-129
13日(日)京都ミューズホール 問-76
19日(土)新潟JUNK BOX 問-11
23日(水)NISSIN POWER STATION 問-27

B'z

"Risky"
12/23日(日)石川厚生年金会館 問-97
24日(月)福井市文化会館 問-97
26日(水)富山県民会館 問-97
27日(木)新潟県民会館(大) 問-95
1/10日(木)宇都宮市文化会館(大) 問-105
14日(月)岡山市民会館 問-80
15日(火)名古屋国際会議場(センチュリー) 問-66
17日(木)静岡市民文化会館 問-67
21日(月)渋谷公会堂 問-41
22日(火)渋谷公会堂 問-41
30日(水)中野サンプラザホール 問-41
31日(木)中野サンプラザホール 問-41
2/ 9日(土)渋谷公会堂 問-41
10日(日)渋谷公会堂 問-41

平松愛理

"MY DEARコンサート"
1/28日(日)草月ホール 問-125
30日(水)大阪ミューズホール 問-129

PINK SAPPHIRE

"Pink-White Xmas Special"
12/26日(水)渋谷公会堂 問-26

Baby's Breath

12/24日(月)CLUB CITTA川崎 問-40
26日(水)大阪バナナホール 問-70
27日(木)名古屋クラブ・クアトロ 問-66
1/25日(金)NISSIN POWER STATION 問☎03-205-5270

FENCE OF DEFENSE

"GIG ACT-3"
12/26日(水)仙台CADホール 問-16
27日(木)仙台CADホール 問-16

FARCHILD

"せかいのうた"
1/ 9日(水)仙台CADホール 問-17
12日(土)新宿スペースゼロ 問-93

Pli:Z

"ひと足早いChristmas Present"
12/24日(月)大阪MODAホール 問-70
25日(火)名古屋ハートランド 問-127
27日(木)仙台青年文化センター
問遊プロ☎022-268-0905

CONCERT SCHEDULE

"Pli:Z主催／'90年忘れ大感謝祭"
12/28日(金)MZA有明 問-28

PRINCESS PRINCESS

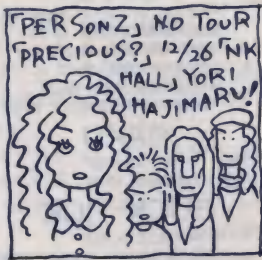
"Only We Can Rock You"
1／2日(水)日本武道館 問-28
3日(木)日本武道館 問-28
18日(金)札幌月寒グリーンドーム 問-1
19日(土)札幌月寒グリーンドーム 問-1
25日(金)仙台スポーツセンター 問-16
26日(土)仙台スポーツセンター 問-16
31日(木)名古屋レインボーホール 問-66
2／1日(金)名古屋レインボーホール 問-66
6日(水)大阪城ホール 問-70
7日(木)大阪城ホール 問-70
16日(土)愛媛県民文化会館 問-83
17日(日)愛媛県民文化会館 問-83
19日(火)メルパルクホール広島 問-80
20日(水)メルパルクホール広島 問-80
25日(月)福岡国際センター 問-85
26日(火)福岡国際センター 問-85
3／8日(金)横浜アリーナ 問-28
9日(土)横浜アリーナ 問-28
12日(火)日本武道館 問-28
13日(水)日本武道館 問-28

THE BLUE HEARTS

"EAST WASTE TOUR'90"
12/24日(月)福岡市民会館 問-84
25日(火)福岡市民会館 問-84
26日(水)福岡市民会館 問-84

THE BOOM

"TOUR JAPANESKA"
12/23日(日)群馬音楽センター 問-10
25日(火)富山県民会館 問-97
26日(水)福井市文化会館 問-97
27日(木)金沢市文化ホール 問-97
29日(土)大阪城ホール 問-129
1／16日(水)札幌教育会館 問-1
17日(木)函館金森ホール 問-1
19日(土)青森市文化会館 問-17
21日(月)秋田市文化会館 問-17
22日(火)岩手教育会館 問-17
24日(木)仙台市民会館 問-17
25日(金)郡山市民文化センター 問-17
27日(日)宇都宮文化会館 問-10
29日(火)松山市民会館 問-83
30日(水)高知県民文化ホール 問-83
2／1日(金)福山市民会館 問-100
2日(土)鳥取市民会館 問-100
5日(火)静岡市民文化会館(大) 問-67
7日(木)大阪厚生年金会館(大) 問-129
8日(金)大阪厚生年金会館(大) 問-129
9日(土)大阪厚生年金会館(大) 問-129
12日(火)渋谷公会堂 問-28
13日(水)渋谷公会堂 問-28
16日(土)名古屋センチュリーホール 問-60
18日(月)渋谷公会堂 問-28

"PERSONZ" NO TOUR
"PRECIOUS?" 12/26 "NK HALL" YORI
HAJIMARU!

19日(火)渋谷公会堂 問-28
3／1日(金)NHKホール 問-28

BEGIN

12/29日(土)日本青年館 問-26
1／8日(火)名古屋厚生年金会館 問-66
10日(木)新潟音楽文化会館 問-95

BO GUMBOS

"MORE JUMGLE GUMBO"
1／9日(水)岡山市民会館 問-100
11日(金)名古屋市公会堂 問-66
21日(月)大阪厚生年金会館 問-70
26日(土)NHKホール 問-93

前田亘輝(TUBE)

"CHANGE OF PACE"
12/27日(木)渋谷公会堂 問-26
1／17日(木)仙台イズミティ21 問-17
22日(火)メルパルクホール福岡 問-85
25日(金)名古屋市公会堂 問-66

THE 真心ブラザーズ

"控訴"
12/26日(水)浅草常盤座 問-27
1／5日(土)名古屋クラブ・クアトロ 問-61

松岡英明

"色彩"
1／5日(土)鹿児島市民文化ホール(第2) 問-139
6日(日)福岡市民会館 問-87
9日(水)仙台市民会館 問-123
12日(土)金沢市文化ホール 問-77
14日(月)新潟県民会館 問-124
17日(木)秋田市文化会館 問-15
22日(火)名古屋市民会館 問-61
25日(金)メルパルクホール広島 問-80
30日(水)札幌市民会館 問-1
2／1日(金)NHKホール 問-27
6日(水)大阪厚生年金会館 問-73

松任谷由実

"天国のドア"
12/23日(日)福岡国際センター 問-130
27日(木)神戸ポートアイランドホール 問-70
28日(金)神戸ポートアイランドホール 問-70
1／9日(水)仙台市体育館 問-123
10日(木)仙台市体育館 問-123
17日(木)新潟市産業振興センター 問-124
18日(金)新潟市産業振興センター 問-124
30日(水)幕張メッセ 問-27
31日(木)幕張メッセ 問-27
2／1日(金)幕張メッセ 問-27
"SURF & SNOW in Naeba vol.11"
2／18日(月)19日(火)20日(水)21日(木)22日(金)
25日(月)26日(火)27日(水)
苗場プリンスホテルワールドカップロッジレストラン 問-36

THE MINKS

"東名阪 決戦'90〜'91"
1／8日(火)大阪厚生年金会館 問-94

THE MODS

"PROUD ONES TOUR"
1／9日(水)日本武道館 問-93

森高千里

"古今東西 鬼が出るか蛇が出るかツアー"
1／14日(月)阪南町文化センター
問関芸プロモーション☎075-221-7095
16日(水)静岡市民文化会館(大) 問-67
17日(木)磐田市民文化会館 問-69
19日(土)伊勢崎市文化会館(大) 問-104
24日(木)札幌厚生年金会館 問-2
28日(月)高松市民会館 問-82
29日(火)メルパルクホール広島 問-80
31日(木)メルパルクホール福岡
問ビッグ・イヤーアンツ☎0822-249-8334
2／3日(日)鹿児島文化センター 問-88
6日(水)郡山市民文化センター(大) 問-25
13日(水)大阪厚生年金会館(大) 問-70
15日(金)米子市公会堂 問-80
23日(土)茨城県民文化センター 問-25
24日(日)新潟県民会館(大) 問-124
27日(水)中野サンプラザホール 問-26
28日(木)中野サンプラザホール 問-26
3／2日(土)中野サンプラザホール 問-26

森田浩司

12/25日(火)川崎産業文化会館
(w/オメガ、TWIN FIZZ)

山口岩男

"THE LOST PARADISE"
2／14日(木)大阪MIDシアター 問-70
16日(土)札幌ペニーレイン24 問-1
18日(月)名古屋FLEXホール 問-66
19日(火)日本青年館 問-26

山本英美

"Songs for GRADUATED"
1／14日(月)広島WIZワンダーランド 問-99
16日(水)福岡ビブレホール 問-87
18日(金)岡山ペパーランド 問-100
19日(土)高松オリーブホール 問-82
21日(月)大阪ミューズホール 問-98
22日(火)京都ミューズホール 問-98
24日(木)名古屋ボトムライン 問-66

UNICORN

"嵐のケダモノ"TOUR'90〜'91
12/24日(月)郡山文化センター 問-123
25日(火)仙台イズミティ21 問-123
26日(水)仙台イズミティ21 問-123
28日(金)神戸国際会館 問-70
29日(土)八尾市文化会館 問-70
1／8日(火)宇都宮市文化会館 問-10
9日(水)八王子市民会館 問-28
11日(金)札幌厚生年金会館 問-1
12日(土)札幌厚生年金会館 問-1
15日(火)松山市民会館 問-99
16日(水)メルパルクホール広島 問-99
18日(金)山口市民会館 問-99
19日(土)徳山市文化会館 問-99
21日(月)倉敷市民会館 問-100
22日(火)福山市民会館 問-100
24日(木)神戸国際会館 問-70
26日(土)鹿児島市民文化ホール(第1) 問-84
28日(月)福岡市民会館 問-84
29日(火)福岡市民会館 問-84
2／1日(金)徳島文化センター 問-82
2日(土)高知県民文化ホール 問-81
3日(日)香川県民ホール 問-81
13日(水)大阪城ホール 問-70
19日(火)名古屋レインボーホール 問-66
26日(火)長野県民文化会館 問-124
28日(木)山形県民会館 問-123

LINDBERG

"BOUND TO THE DREAM TOUR"
12/26日(水)調布グリーンホール 問-26

Reg-Wink

1／11日(金)仙台CADホール 問-123
14日(月)札幌メッセホール 問-1

LÄ-PPISCH

"ホームラン ツアー"
1／4日(金)中野サンプラザ 問-93
5日(土)中野サンプラザ 問-93
6日(日)中野サンプラザ 問-93
14日(月)神戸国際会館 問-94
16日(水)大阪厚生年金会館 問-94
21日(月)京都会館(第1) 問-76
26日(土)磐田市民文化会館 問-61
27日(日)静岡市民文化会館 問-61
2／1日(金)名古屋市民会館 問-61
3／13日(水)千葉県文化会館 問-59
14日(木)浦和市文化会館 問-59
15日(金)グリーンホール相模大野 問-40
18日(月)群馬県民会館 問-10
19日(火)宇都宮市文化会館 問-10
20日(水)茨城県民文化センター 問-10
22日(金)新潟県民会館 問-11
25日(月)岡山市民文化ホール 問-79
26日(火)メルパルクホール広島 問-79
4／16日(火)青森市文化会館 問-8
18日(木)旭川市民文化会館 問-4
19日(金)札幌市民会館 問-1
29日(月)郡山市民文化センター 問-17
30日(火)仙台市民会館 問-17

ROSY ROXY ROLLER

"BEGINNERS LUCK"
12/26日(水)渋谷Egg-man 問-175

渡辺美里

"misato Xmas tokyo"
12/22日(土)横浜アリーナ 問-26
23日(日)横浜アリーナ 問-26

イベント

▶サンタランド・ツリーin TAMA(仮称)◀
12/24日(月)パルテノン多摩
問オーエンタープライズ友の会
☎03-454-2428(16時〜18時)
出伊豆田洋之／鈴木雄大／和田加奈子
▶TVK+パチパチマト◀
12/28日(金)NISSIN POWER STATION 問-28
出CRACK The MARIAN/De-LAX/TRACY/
秘ゲスト
12/31日(月)新宿コマ劇場 問-28
[ACT1]出BY-SEXUAL/SOFT BALLET/
LADIES ROOM
[ACT2]出KATZE/SHADY DOLLS/ZIGGY/
THE STREET SLIDERS
[ACT3]出THE BOOM/GO-BANG'S/JUN
SKY WALKER(S)/UNICORN
▶ROCK'N ROLL BAND STAND 1990-1991◀
12/31日(月)〜1／1日(火)
●幕張メッセイベントホール 問-93
出ANGIE/筋肉少女帯/COBRA/THE JOINT
/TENSAW/THE FUSE/THE BOOM/SHADY
DOLLS/ZIGGY/白井貴子/TRACY/THE BELL'S
/BO GUMBOS/MOJO CLUB/RIO/LÄ-PPISCH
●CLUB CITTA'川崎 問-40
[ACT1]出久宝留理子/G.D.FLICKERS/
STALIN/THE STREET BEATS/SOLID
BOND/DER ZIBET/HEAT WAVE/The Vincents/THE POGO/有機生命体/LINE-UP/
LAZY LOU'S Boogie
[ACT2]出YELLOW DUCK/COLOR/佐久間
学/GENDA×BENDA/DEVILS/PAN PAN
HOUSE/RABBIT/ROSY ROXY ROLLER/

福島高博/KENZI/有頂天/シルエット
●名古屋市総合体育館(レインボー) (問)-66
(出)INGRY'S/大沢誉志幸/the Shamröck/THE HEART/清水由貴×THE PULSAR/Tyhoon NATALi/DIAMOND☆YUKAI/HAN-NA/BARBEE BOYS/BICYCLE/バビロン大王/Baby's Breath/LINDBERG/浜田麻里/Han-na/BUBBLE GUM BROTHERS
●大阪駅西口コンテナヤード跡地特設会場 (問)-129
[ACT1](出)UP-BEAT/THE WELLS/AURA/かまいたち/THE KISDS/餃子大王/GIL-MESSIAH/JACO:NECO/Deep & Bites/BY-SEXUAL/他
[ACT2](出) KUSU KUSU/GRAND PRIX/SHOW-YA/DOVE/DED CHAPLIN/De-LAX/TOY BOYS/THE B.B.B. MAD GANG/THE MINKS/他

●沖縄宜野湾海浜公園(多目的広場特設ステージ) (問)-91
(出)HOUND DOG/永井真理子/喜納昌吉&チャンプルーズ/喜屋武マリーWITHメデゥーサ/ジョージ紫プロジェクト/ワルツ/スターリー&ナイト/カブキロックス
●香港利舞台(リー・シアター)
(問)事務局☎03-794-2719
(出)浅香唯/FENCE OF DEFENSE/香港アーティスト

▶TOKYO MUSIC STORM◀
Moon Light Rock'n Roll Show
〜Public Imageの1週間〜
NISSIN POWER STATION (問)☎03-205-5270
1/ 8日(火)LINDBERG/LU-NA/GENDA×BENDA
9日(水)JACO:NECO/PASSENGERS
10日(木)横関敦/佐藤宣彦(ケ)森重樹一/松尾宗に
11日(金)FLESH/ESSEX/SOY SAUCE SONIX
12日(土)TENSAW
13日(日)COBRA/DOOM
14日(月)SHADY DOLLS/THE JOINT

FILM GIGS

X
「もう我慢できない、とりあえずフィルムコンサートだ!!」
"血と薔薇にまみれて"
2/ 2日(土)青森市民文化会館 (問)-123
3日(日)岩手教育会館 (問)-123
4日(月)秋田産業会館 (問)-123
7日(木)浦和市文化センター (問)-59
10日(日)長野市民会館 (問)-124
11日(月)松本社会文化会館 (問)-124
12日(火)山梨県民会館 (問)-124
15日(金)福島市公会堂 (問)-123
16日(土)仙台イズミティ21 (問)-123
17日(日)栃木会館 (問)-10
18日(月)水戸市民会館 (問)-10
20日(水)宮崎MRTホール (問)-130
21日(木)鹿児島市民文化会館 (問)-130
22日(金)長崎市民会館 (問)-130
23日(土)大分農業会館 (問)-130
25日(月)メルパルクホール熊本 (問)-130
26日(火)メルパルクホール福岡 (問)-130
3/ 1日(金)新潟県民会館 (問)-124
2日(土)富山県民会館 (問)-132
3日(日)石川厚生年金会館 (問)-132
5日(火)福井市文化会館 (問)-132
7日(木)高松市民会館 (問)-82
8日(金)愛媛県民文化会館(サブ) (問)-83
10日(日)高知RKCホール (問)-81
11日(月)徳島郷土文化会館 (問)-82
13日(水)京都会館(第2) (問)-76
14日(木)神戸国際会館 (問)-129
15日(金)静岡市民文化会館 (問)-67
18日(月)札幌市民会館 (問)-1
19日(火)旭川市公会堂 (問)-1
20日(水)北見経済センター (問)-1
22日(金)大阪厚生年金会館 (問)-129
23日(土)名古屋市公会堂 (問)-66

▶BEAT NOUVEAU◀
1/27日(日)大阪IMPホール (問)FM802☎06-354-8023
(出)PICASSO/BL・Waltz/KRYZLER&KOMPANY
(ケ)遊佐未森/BEGIN

●東京都内(市外局番03)の局番は来年1月1日より局番が4ケタに。今までの局番の頭に3をつけてダイアルを。

☆List☆

1 WESS☎011-613-9000
2 ユアソング☎011-271-7301
3 アワーズ☎011-521-2588
4 コスモプロモーション☎0166-25-4046
5 フェスティバル☎011-251-8870
6 メロディーパーク☎0138-53-9787
7 RAB開発☎0177-39-1661
8 コルクボード☎0177-23-2844
9 青森芸協☎0177-35-3939
10 アクト☎0286-21-2241
11 アーリー・タイムス☎025-241-1444
12 フライングハウス☎022-297-6304
13 アップライトカンパニー☎025-287-1358
14 うたのやど☎0258-22-3313
15 M'Sコーポレーション(秋田)☎0188-34-8558
16 M'Sコーポレーション☎022-222-4000
17 GIP☎022-222-2093
18 フォルテ(いわき)☎0246-22-6800
19 フォルテ(郡山)☎0249-38-4064
20 ノースロードMUSIC☎022-222-0700
21 ノースロード(秋田)☎0188-33-7100
22 リバーシティオフィス☎0188-35-1205
23 MUSICギルド(仙台)☎022-222-2033
24 ワンダーランド☎0263-36-4850
25 フリップサイド(宇都宮)☎0286-33-1009
26 フリップサイド(東京)☎03-770-8899
27 ホットスタッフ☎03-857-9999
28 ディスクガレージ☎03-5704-3200
29 アド・ステージ☎03-479-3426
30 ミッシュマッシュ☎03-498-5151
31 MUSICALステイション☎03-341-3111
32 ハンズ☎03-470-3601
33 ダストコーポレーション☎03-780-0504
34 スワット☎03-463-6100
35 バックステージ(東京)☎03-226-7577
36 キャピタルヴィレッジ☎03-404-7500
37 チケットぴあ(東京)☎03-5237-9999
38 チケットぴあ(名古屋)☎052-320-9999
39 チケットぴあ(大阪)☎06-363-9999
40 CLUB CITTA川崎☎044-244-7888
41 アーク☎03-321-8844
42 アイスリープロモーション☎03-5478-0453
43 ステージフライト☎03-499-0004
44 スタッフ・ギャング☎03-496-1199
45 NHKサービスセンター☎03-464-0114
46 PCMファンクラブ☎03-5273-0173
47 マーマレード☎03-496-7449
48 チアリングハウス☎03-5485-2254
49 ユイインフォメーション☎03-423-9999
50 コッキーF.C☎03-716-4000
51 CS.アーティスツ☎03-5474-9522
52 キティ・アーティスト☎03-770-7811
53 カレイドスコープ☎03-490-4626
54 シンコーミュージック☎03-292-7911
55 HIP LAND・M(東京)☎03-499-1945
56 たむとむスコープ☎045-251-3491
57 KMミュージック☎045-201-9999
58 シャム猫企画☎0465-24-1208
59 バックステージ☎0488-66-3888
60 オーバーレコード☎0584-78-1671
61 ジェイル・ハウス☎052-936-6041
62 ジェットプランニング☎052-937-6651
63 ブレーン・トラスト☎052-263-9115
64 ジョイナス☎052-962-1207
65 アスターミュージック☎052-931-3621
66 サンデーフォーク☎052-320-9100
67 サンデーフォーク静岡☎0542-84-9999
68 ビートクラブ☎0542-73-4444
69 遠文連☎0534-54-9999
70 サウンドクリエーター☎06-361-9900
71 サモンMUSIC☎06-252-5635
72 スターライト☎06-533-6699
73 GREENS(大阪)☎06-454-8834
74 あんだんて☎07727-2-5590
75 スタックオリエンテーション☎075-721-4402
76 J音楽企画☎075-231-7776
77 サウンドアーチスト☎0762-91-7800
78 ビッグワンプロ☎0764-92-4400
79 ユニオン音楽事務所☎082-247-6111
80 CANDY・P☎082-249-8334
81 デューク☎0888-31-2020
82 デューク・高松☎0878-22-2520
83 デューク・松山☎0899-47-3535
84 くすMUSIC☎092-791-0999
85 BEA☎092-712-4221
86 フラッグスタッフ☎092-713-7681
87 ブレインズ☎092-771-8121
88 ピッツバーグユニオン☎096-356-1808
89 マップ☎0985-27-1888
90 学音☎0985-29-2751
91 PMエージェンシー☎0988-64-1616
92 K&M☎0992-23-7710
93 SOGO(東京)☎03-405-9999
94 SOGO(大阪)☎06-344-3326
95 FOB(新潟)☎025-229-5000
96 FOB(長野)☎0262-27-5599
97 FOB(金沢)☎0762-32-2424
98 夢番地(大阪)☎06-341-3525
99 夢番地(広島)☎082-249-3571
100 夢番地(岡山)☎0862-31-3531
101 音協(室蘭)☎0143-44-9922
102 音協(前橋)☎0272-32-1012
103 音協(高崎)☎0273-22-7145
104 音協(桐生)☎0277-53-3133
105 音協(栃木)☎0286-22-4101
106 音協(茨城)☎0294-22-5330
107 音協(東京)☎03-213-8591
108 音協(川崎)☎044-222-3090
109 音協(神奈川)☎045-641-1649
110 音協(厚木)☎0462-23-6421
111 文化放送☎03-357-1111
112 音協(埼玉)☎0486-47-4100
113 音協(甲府)☎0552-35-3975
114 音協(静東)☎0559-31-7078
115 音協(大阪)☎06-341-8638
116 音協(京都)☎075-211-0261
117 音協(長崎)☎0958-24-3111(内線230)
118 音協(鹿児島)☎0992-26-3465
119 秋田新音☎0188-33-9314
120 盛岡新音☎0196-51-4036
121 大阪新音☎06-341-0547
122 キョードー札幌☎011-221-0144
123 キョードー東北☎022-223-2188
124 キョードー北陸☎025-240-2633
125 キョードー東京☎03-5237-9000
126 キョードー横浜☎045-252-9999
127 キョードー名古屋☎052-962-0511
128 キョードー静岡☎0542-53-5532
129 キョードー大阪☎06-345-2500
130 キョードー西日本☎092-714-0159
131 キョードー西日本(熊本)☎096-354-2772
132 キョードー北陸金沢☎0762-60-0999
133 労音(東京)☎03-265-6361
134 労音(相模原)☎0427-52-1943
135 ハマオン☎045-242-1155
136 労音(名古屋)☎052-932-0828
137 労音(姫路)☎0792-88-6600
138 労音(佐賀)☎0952-26-2361
139 労音(九州)☎0952-26-2351
140 労音(鹿児島)☎0992-23-8426
141 民音(北海道)☎011-642-5601
142 民音(東北)☎0222-22-1371
143 民音(東京)☎03-363-9151
144 民音(東海道)☎045-252-0501
145 民音(中部)☎052-261-5391
146 民音(関西)☎06-768-3632
147 民音(金沢)☎0762-22-0952
148 民音(中国)☎0822-27-0085
149 民音(四国)☎0899-46-0103
150 民音(九州)☎092-271-1831
151 東海ラジオ☎052-951-2525
152 ラグ☎0839-25-6843
153 SOLD OUT MUSIC☎0886-22-3488
154 CAT KIDS CLUB☎0888-82-7867
155 FMサービス☎0958-26-1333
156 札幌ペニーレイン24☎011-644-1911
157 青森スペース⅓☎0177-77-4770
158 秋田フォーラスモーニングムーン☎0188-36-2884
159 仙台CADホール☎022-261-8638
160 仙台フォーラスモーニングムーン☎022-264-8170
161 新潟ウッディ☎025-224-4525
162 新潟CLUB JUNK BOX☎025-229-1494
163 長野J☎0262-35-0080
164 金沢バンバンV4☎0762-23-7565
165 前橋ラタン☎0272-34-2365
166 水戸サントピア☎0292-26-3131
167 大宮フリークス☎0486-42-3315
168 本八幡ルート14☎0473-25-3086
169 横浜ビブレホール☎045-314-1003
170 横浜7thアベニュー☎045-641-2484
171 横浜CLUB24☎045-252-2424
172 藤沢BOW☎0466-27-5520
173 渋谷TAKE OFF7☎03-477-5876
174 渋谷ラ・ママ☎03-646-0801
175 渋谷エッグマン☎03-496-1561
176 新宿ロフト☎03-365-0698
177 サウンドハウス☎03-352-3511
178 渋谷クラブ・クアトロ☎03-477-8750
179 名古屋クラブ・クアトロ☎052-264-8211
180 名古屋ハートランドスタジオ☎052-202-1351
181 名古屋E.L.L☎052-201-5004
182 豊橋かごやホール☎0532-52-2655
183 大阪バナナホール☎06-361-6821
184 大阪ミューズホール☎06-245-5389
185 大阪amホール☎06-316-1777
186 大阪バーボンハウス☎06-372-1018
187 京都磔磔☎075-351-1321
188 京都BIG BANG☎075-255-1596
189 神戸チキンジョージ☎078-392-0146
190 広島WOODY STREET☎082-242-8187
191 福岡ビブレホール☎092-714-2121
192 福岡徒楽夢☎092-711-0151
193 福岡Be-1☎092-481-7881
194 小倉IN&OUT☎093-531-5816
195 熊本イエロースタジオ☎096-352-5671

GB ICHIBA

売りたし・買いたし・etc.

売りたし

●楽器

■マンドリンを5万円で売ります。チューナー、ピック、ケース付きです。ほとんど使ってません。Wハガキで連絡を。
〒379-23 群馬県新田郡笠懸町久宮69-24 今泉明美

■カシオのキーボードSK-1を別売アダプター、ソフトケース付きで1万円、ベースアンプ トムソンBX-II（新品）を8000円で売ります。送料は負担します。Wハガキで連絡を。
〒891-92 鹿児島県大島郡知名町田皆352-9 田畑英二

■ヤマハのキーボードPSR-47をスタンド、説明書付きで4万5000円で買ってください。送料負担してくれる方、連絡をください。
〒727 広島県庄原市上原町1805-9 竹下恵子

■ハリーのギター（黒）をストラップ、ケースをつけて2万3000円で。送料負担してくれる方、まずはWハガキで連絡をください。
〒673 兵庫県明石市中崎1-1-1-125 今地暁子

■森純太モデルのギターを売ります。色は白。その他にケース・アンプ・シールド・ストラップ・ピック・教本をつけます。これを8万〜6万ぐらいで。無キズで、そんなに使っていません。送料負担してくれる方、待ってます。Wハガキで、まずは連絡を。
〒069 北海道江別市野幌松並町11-7 吉田実苗（17）

■ヤマハのギターMG-M、青でB'zの松本孝弘さんモデルです。6万5000円で購入のものを、できればあなたの希望価格でお売りするつもりです。まだ買ってから2か月ほどです。ほぼ新品です。ハガキで連絡ください。
〒343 埼玉県越谷市花田1-10-6 武山美幸

■ドラムセットを4万円＋送料で。もしくは、2万円＋トレーニングドラムと交換してください。Wハガキで連絡を。
〒779-47 徳島県三好郡三加茂2806-2 青山めぐみ

●その他

■UP-BEATのデビュー当時からのポスター、コンサートパンフを売ります。リストを送るのでWハガキで連絡を。
〒981-12 宮城県名取市植松4-18-41 コーポやまⒶ202号室 赤井洋美

■BARBEEに関する物（本、ポスターなど）を格安で売ります。まずはWハガキで連絡を。
〒326 栃木県足利市今福町709-7 瀧川昌美

■大江千里のツアーパンフ、"AVEC""OLYMPIC""1234"の3冊をまとめて売ります。希望価格を書いて、Wハガキで連絡を。
〒049-35 北海道山越郡長万部町中の沢 浅野三枝子

■雑誌を処分するので、欲しいアーティストの切り抜きを売ります。希望のアーティスト名を書いて62円切手同封でお願いします。B'zに関するものと交換ならもっといいですヨ!!
〒271 千葉県松戸市栄町8-700-32 岩上恵子

■B-T、レピッシュ、プリプリ、B'z、ザ・ブーム、米米クラブの切り抜きリストを送るよ〜ん。ユニコーンのものと交換でもいいです。（62円切手同封orWハガキで）
〒289-24 千葉県西瑳郡野栄町栢田浜7951 江波戸みさ子

■久保田利伸さんに関するものを売ります。リストを送るので連絡ください。送料負担してくださいね。
〒194 東京都町田市成瀬が丘2-34-13 佐藤有希

■J(S)W、B-T、米米、プリ²、高野、FUSE、AURA、ブルハ、レピ、ZIGGY、チェ、Xなどの切りぬき、ポスターなど30のアーティストに関するものを売ります。他にもいろ²なアーティストのものがあるよ。62円切手同封でご連絡を。欲しいリスト名と住所と名前も忘れずに。
〒086-05 北海道野付郡別海町床丹5-55 須藤和美

■LÄ-PPISCHに関するものを売ります。希望の方は62円切手同封で連絡ください。
〒554 大阪府大阪市此花区高見1-8-17 山岡里栄子

■米米CLUBに関するもの（切り抜き）を売ります。欲しい方はWハガキでご連絡ください。（なるべく安く売りたいと思ってます）
〒243-04 神奈川県海老名市国分2022 小野沢マンション110号 林田由美子

買いたし

●楽器

■ヤマハB200を6万〜7万で。付属品、キズの有無など希望価格を書いてWハガキでお願いします。あなたの代わりにかわいがります。
〒035 青森県むつ市栗山町9-46 相内幸子

■金のソプラノサックスをケース付きで2万5000円くらいで売ってください。詳しいことはハガキか封書で連絡ください。送料はこちらで負担します。
〒682 鳥取県倉吉市宮川町2-63 岡本恭子

■ヤマハのEOS-B200とスタンド、ボイスカードなどをセットで譲ってください。まずは希望価格などの詳細を書いてハガキで連絡お願いします。
〒950-33 新潟県豊栄市川西3-5-37 宮川弘美

■エレキギター（ソフトケース付き）を1万5000円以内で売ってください。多少のキズは、かまいません。教本・ピックetc……付けてくれたらうれしいです。色・メーカー・希望価格など詳しくハガキに書いて連絡をください。
〒988 宮城県気仙沼市本浜町2-6-12 伊藤竜介

■トレーニングドラムを1万円前後で。もちろん送料は負担します。多少のキズがあってもバッチリOKです。Wハガキに詳しく書いて、なるべく早くお願いします。
〒284 千葉県四街道市大日60-7 谷合瑞穂

■メーカーは問いませんが、できるならフェルナンデスTE-80BTがいいです。なければ、別のメーカーでもいいです。白or黒のギターにアンプをつけて、1万〜2万円ぐらいで譲ってください。送料は負担します。まずはWハガキか62円切手同封で。
〒861-46 熊本県上益城郡甲佐町中横田564 本田志保

■ヤマハのEOS-B200を説明書、アダプターつきで、5万円で売ってください。ケースやスタンドつきだと、それなりにお値段UP！ 送料当方負担。まずはWハガキで連絡を。
〒801 福岡県北九州市門司区大久保3-5-2-502 日山和美

■ヤマハのベースを売ってください。希望は白いPJタイプのもの（ヤマハRBS-MS200など）でソフトケース、アンプつきでお願いします。多少の傷は気にしないし、アンプも小さいものでいいんです。送料はこちらで負担しますので、3万円前後でのご連絡をお待ちしています。
〒270-11 千葉県我孫子市湖北台7-41-402 那須野淳

■エレキギターorエレキベースを売ってください。できれば、アンプや教本etc……などをつけてくれればうれしいです。なくてもいいです。多少の傷はOKです。連絡ください、待ってます。
〒341 埼玉県三郷市戸ヶ崎1-534-4 尾花将幸

■ヤマハのシンセSY55かV50、またはローランドのシンセD50を付属品、説明書付きで6万円前後で。多少の傷もOK。
〒969-16 福島県伊達郡桑折町陣屋40-11 須藤佐智子

●その他

■PERSONZに関するグッズ、切り抜きなどをぜひ譲ってください。（特に藤田さんの）できればリストを送ってください。昔の物も大歓迎です。
〒816 福岡県春日市春日公園1-45 寺崎愛子

■大江千里さんに関するものなら（できるだけ昔のもの）なんでもいいです。譲ってください!! おねがいします!! リストを送ってください。送料負担します。
〒558 大阪府大阪市住吉区帝塚山西2-2-22 渥美仁和子

■徳永英明さんの切りぬきでもポスターでもコンサートのパンフでもなんでもいいから譲ってください。本当に本当にお願いします。
〒012 秋田県湯沢市佐竹町9-7 門脇洋子

■川村かおりさんに関するものなら、なんでも譲ってください。ハガキでもなんでもいいです。リストを送ってください。お願いします。
〒537 大阪府大阪市東成区深江南2-9-16 松岡泰子

■永井真理子SANに関するモノを譲ってください！ 小さな切りぬきからポスター、アーティストBook etc……なんでもOKです。リストを書いて送ってください！
〒340 埼玉県草加市遊馬町1038-2 小山裕子

■B'zのものをどうかどうか譲ってください。ちょっとした切れはしでも、稲葉さんだけとかでもOKです。どうかよろしくお願いいたします。
〒870 大分県大分市岩田町4-3 2A-4、121 泉佐和

■UNICORNに関する物、譲ってください。高い物でしたら売ってください。連絡まってます。よろしくお願いします。
〒879-03 鹿児島県川辺郡知覧町17219-2 力竹貴子

■THE FLIPPER'S GUITARに関する物だったらなんでもいいです。1 cm²の切りぬきから、ポスターなど、本当に本当にフリッパーズの物ならなんでもいいです。譲ってくれる方、または売ってくれる方、連絡をWハガキでください。よろしくお願いします。
〒603 京都府京都市北区紫竹西北町45 ハウス45、3B 北川明葉

■久保田利伸さんに関する物ならなんでもいいです。譲ってください。まずはWハガキか62円切手同封で連絡を。
〒770 徳島県徳島市蔵本元町1-25 手川満代

メンバー募集

■チェッカーズのコピーバンドを作ります。東京近郊に住む18歳以上の方。自分のできる楽器を記入の上、62円切手と写真同封で。
〒277 千葉県柏市柏7-4-23 ホームドリアン103 沼田恵美（19）

■アルフィーの曲をアコースティック・ギターでやっていらっしゃる方。超初心者の私でも仲間に入れてやるっていうグループ、ありましたら連絡ください。
〒558 大阪府大阪市住吉区長居東3-14-22-502 足立勢津子（22）

■TMN、B'z、さらにオリジナルをやります。現在、ギターとドラムを募集しています。やる気のある方、目標はプロという方、ご連絡を。
〒360 埼玉県熊谷市曙町3-15 菊地信二（18）

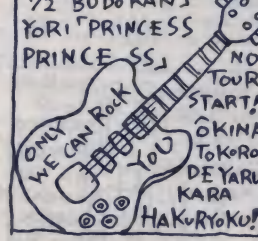
■ベース募集。ずっと一緒に音楽をやっていける人。性別は問いません。まずはハガキで連絡ください。
〒121 東京都足立区竹の塚6-25-7 相川眞理子（23）

■ドラム（基礎のできる方）、キーボード、ベースを募集してます。当方ボーカルとギターの二人です。まったくの初心者。東京近郊に住んでいる、パンクじゃない君！ 男女問いません。パーソンズ、プリ²、ドリカムのコピーをしたいと思っています。楽しくやっていきましょう。
〒272 千葉県市川市東大和田2-16-12 椋田恭代（16）

■ボーカル、ドラム求ム！ ボーカルは女の子がいいです。初心者でもOK。当方17歳の初心者です。62円切手と、できたら写真

もほしいです。
〒514　三重県津市丸ノ内28-16　吉川コージ（17）
■ギター、キーボード募集。最初は、レベッカ・美里・TMなどのコピーをやって、だんだんオリジナルもやっていきたいと思います。できれば、デモテープを送ってください。マネージャーをやってくださる方も募集します。
〒182　東京都調布市深大寺元町1-15-19藤原様方　小畑亜紀子（19）
■ドラム、キーボードを募集します。年齢性別は問いません。当方、ボーカル、ギター、ベース、ともに女・18歳です。初心者ですけど、プリ²のコピーを思いっきりやりたいです。立川市、八王子市にこれる方、私たちと楽しくバンドをやりましょう。自己PRを書いて連絡ください。
〒190-12　東京都西多摩郡瑞穂町長岡下師岡64　稲田真理（18）
■キーボード、ドラム募集中です。当方、ベース、ギター、ボーカル（女）で、すべて18歳。初心者です。私たちと一緒にプリ²のコピーを楽しもう。年齢、性別は問いません。立川あたりで練習＆LIVEをやりたいので、近所の方はぜひご連絡ください。まってます。
〒409-01　山梨県北都留郡上野原町上野原1097　石塚久美子（18）
■ベース、ドラム、キーボード急募！　当方ボーカル、ギターの男二人です。BOØWY、氷室、COMPLEXを中心にコピーをやってから、自分たちでオリジナルを作りたいと思っています。（氷室のファースト・アルバムのような感じのものを中心に）楽器を持ってからまだ半年しかたちませんが、やる気は十分です。これで一生やっていければ本望だと思っています。とにかく、自己主張とわがままの区別がつき、やる気十分でしたら、どなたでも大歓迎です。
〒214　神奈川県川崎市宮前区宮前平1-9-27-404　畠山猛
■ドリカムのコピーをやりたいと思ってます。キーボードとボーカル以外、全パート募集します。15歳以上の音楽やりたい人、男女問わず連絡ください。写真と自己PR同封でね。
〒285　千葉県佐倉市王子台6-45-5　輿水さやか
■私は、14歳の女の子です。いちおう、ピアノを習ってます。クスクスのコピーバンドをやっている、そこの方！　私を拾ってやってください。ギターをやってみたいので、教えてくれる方……初心者なのでよろしくお願いします。
〒359　埼玉県所沢市美原町1-2924-28渡邊安美（13）
■ボーカルとギターの女の子です。初心者なので、ギターを教えてくれる人を探しています。その他、現在バンドを組んでいる人の体験談などもお待ちしています。
〒981-36　宮城県黒川郡大和町吉岡字古館5-2　鈴木美保（14）
■近県に住む14～16歳の男子で、キーボード以外の各パート募集。（初心者OK！）当方キーボード×2（女）でバンド初心者。キーボードをツインにしたB'zorオリジナルをやります。まってるよ～ん。
〒411　静岡県三島市谷田136-55　内藤久美子（14）
■私たち（二人）といっしょにバンドをやりませんか。初心者だけどがんばる。TELと自己PRを書いて連絡ください。
〒330　埼玉県大宮市東新井710-50（21-102）　佐藤祐子（15）

ペンフレンド

■ザ・ブーム、筋少、レピッシュ、遊佐未森さんなどのファンの人！　末長く私と文通して♡
〒670　兵庫県姫路市東辻井2-1-35　溝内奈保子（14）
■私は高野寛さんが大好きです。２度もコンサートに行きました。こんな私と誰か文通してくださーい!!　返事は必ず書きます!!
〒559　大阪府大阪市住之江区南港中3-3-34-308　前川美里（14）
■B'zandパーソンズのファンの方、文通しましょ！　返事確実。年齢、男女は問いません。
〒034-03　青森県上北郡十和田湖町奥瀬字中平51-2　小笠原幸子（14）
■永井真理子ひとすじの方、年齢、性別、関係なし。めんどくさいだろうけど最初は62円切手同封でお願いします。
〒226　神奈川県横浜市緑区竹山4312-1226　持田千晶（15）
■とにかくユニコーンひとすじの方、お手紙ください。最初のお手紙だけ62円切手同封でおねがいします。お返事100%書きます。年齢、性別かまいません。
〒226　神奈川県横浜市緑区竹山4307-712　伊藤摩由子（15）
■全国のアル中のみなさん、友達になろうよ。年齢とか問わないよ。あとアル中じゃない人もA・ギターとかに興味があれば大歓迎。初回only切手同封であれば返事は必ず出します。よろしくぅ！
〒565　大阪府吹田市新芦屋上17J-603藤枝奈己絵（15）
■遊佐未森さんの何から何まで好きで²たまらない方、この際、男も女もカンケーないだわよ♡　私にお手紙くださいナ！
〒321　栃木県宇都宮市海道町801-25植竹由美子（16）
■B-Tがとっても好きな人、私と文通しませんか？　BY-SEXUALとレピッシュのファンもOKです！　末長く文通してくれるなら性別、年齢問いません。
〒034-03　青森県上北郡十和田湖町大字沢田字長市39　高橋真優美（14）
■徳永英明のファンの方、お手紙ください。近くの人は一緒にコンサート行きましょう。返事100%です。
〒230　神奈川県横浜市鶴見区獅子ヶ谷町1177-7　月田結香里（22）
■心機一転、TMNを応援するよーという人、お手紙ください。遠くの人、大歓迎。最初は62円切手同封してくださいね。
〒182　東京都調布市多摩川3-47-31　花井菜穂子（17）
■「米米CLUBが一番！」というあなた！　私と文通してください。年齢なんて関係なし。特にてっぺいちゃん、きんちゃんFANの人、大かんげー！　返事確実！
〒841　佐賀県鳥栖市藤木町1307　江頭美保（14）
■大江千里さんのことでいろいろ話しましょう。なるべく同じ年がいいなっ！　他に美里さんも好きです。
〒904-12　沖縄県国頭郡金武町金武198仲間咲子（15）
■松岡英明ひとすじだっていうあなた。松BOWのこと、いろいろ話し合いましょ。and一緒にコンサート行きましょう。できるだけ同年代の人、お手紙待ってます。
〒590-02　大阪府和泉市青葉台65-11角町絵美（16）
■永井真理子、東京少年のFANのあなた、コンサート・文通も含めてフレンドになりましょう。男女問わず。
〒327-03　栃木県安蘇郡田沼町梅園601岩上幸子（17）
■詩人の血、レベッカ、B'z、B-Tの好きな人、男女問わずお手紙ください。年齢は16歳以上がいーな。できれば大阪府内の方。
〒577　大阪府東大阪市菱屋東119-5　山根洋子（16）
■だれでもいいから文通しましょ！　性別・年齢問いません。返事100%ですヨ！
〒034-03　青森県上北郡十和田湖町大字沢田字三日市140　小川愛久美（14）
■岡村孝子さんが大好きな人、文通してください。返事は絶対です！
〒560　大阪府豊中市緑丘5-2-3　高橋洋子（14）
■バービーボーイズが昔っから好きな人、男女年齢問いません。お手紙ください。
〒463　愛知県名古屋市守山区森孝1-108香流荘2-206　芦沢知子（14）
■氷室京介が超ウルトラ大好きという方、お手紙まってます。
〒321-12　栃木県今市市吉沢328-6　福田和子（16）
■千里さんが一番かっこよくて、すてきだと思っている全国の千里さんファンの皆さん。お手紙まってます！　年齢性別問いません。
〒710　岡山県倉敷市中島2199-1　板谷陽子（17）
■浜田省吾や渡辺美里のファンの方、一緒にコンサートに行ってくれる方、お手紙お待ちしています。年齢性別問いません。気軽に情報交換しましょう。
〒981　宮城県仙台市青葉台原1-17-32ロイヤルヒルズ台原2-101　山口輝子（22）
■日本中のブルーハーツのファンのみなさん。私と文通してね。年齢性別問いません。
〒591　大阪府堺市新金岡町5-9-515　伊藤美千代（13）
■ジュンスカの曲がかかると、街の真ん中でも踊り出すほどのファンの人、文通しましょー。最初だけ切手同封でお願いね。
〒703　岡山県岡山市高島新屋敷26-5　花田奈美子（14）
■全国の皆様、B'z・ドリカム・リンドバーグ・ジッタリンジンが大好きなこの私と一緒に文通しましょう。年齢性別問いません。私にお手紙ください。待ってます。
〒671-22　兵庫県姫路市青山14467-508江見乃理子（16）
■杏里・米米クラブ・バービーボーイズの大ファンの人、お手紙ちょうだい。年齢性別問いません。
〒931　富山県富山市粟島町1-4-41　谷井晶子（14）
■TMNのFANKSの方！　誰でもいいから一緒にTMNのことで盛りあがりましょう。
〒635　奈良県北葛郡広陵町南245-3　小池八千代（15）
■ユニコーンが世界一好きな人、年齢性別問いません。手紙まってます。
〒135　東京都江東区森下2-17-2　井上沙由梨（13）
■全国のアル中、FANKS、THE TOYSのファンの方、返事確実！　お手紙待ってます。
〒437-14　静岡県小笠郡大東町大坂1093名倉利里子（25）
■クスクスが大好きな私です。ファンになったばかりで何も知らない私に、いろんな情報を教えてください。そして、大阪に住んでいるクスクス・ファンの人、私をどうかコンサートにつれていってください。みなさんのお手紙まってるよっ。
〒544　大阪府大阪市生野区新今里1-6-6塩崎歩美（15）
■BOØWYとTMNのファンです。音楽が大好き！　という方、お手紙ください。
〒260　千葉県千葉市都賀の台3-1-8　櫛田朋子（22）
■BAKUFU-SLUMP、松岡英明が大好きでヒマな人、私に手紙くださいね。
〒527-02　滋賀県神崎郡永源寺町山上2285　川戸洋子（15）
■いろんなの聴いてるけど、やっぱりレピッシュでしょう……と思ってる人。手紙待ってます。
〒065　北海道札幌市東区北20条東3-365朝井千津（22）
■広島のアマバンド「トロピカーナ」が好きな人！　まだ初心者の私に手紙ください。そいぢゃ待ってるね。
〒733　広島県広島市西区大宮1-2-20-101　大前恵（13）
■UP-BEAT・X・オーラ・プリ²etc……のファンの方、文通したいです。
〒965　福島県会津若松市東山町太田丙17-9　片野陽子（17）

■近郊にお住まいの、F.O.Dが大好きな方。ぜひ一緒にライブとか行ってください。年齢性別問いません。あと、遠方の人でもお手紙ください。返事は確実です。
〒630　奈良県奈良市東九条52-1-401山本美由紀
■B-Tの敦司様andHimuroさんのFunのそこのあんたっ！　まったく情報のないDenmarkに愛の手を！
Tokai University Boarding School Evensφ Lundevj5, 4720Preæstφ Denmark　根津綾子（16）
■LINDBERGが超大好きで、できればコンサートなどに行ってくれる全国のLINDBERGERたち!!　ぜひ私へ山のようなレターをくださいねっ。ドキドキすることしようぜぃ。待ってるよっ。
〒982　宮城県仙台市太白区八本松1-13-11-314　佐々木恭子（20）
■THE BOOMの曲を聞いて、心がDanceしちゃう御方！　お手紙ください！　若年寄の御方、お待ちしております……。
〒254　神奈川県平塚市横内3907横内団地23-106　谷津由美（16）
■UNICORNだけしか好きじゃないっ！　という人。私と一緒に文通しましょう。返事は100%出すよん。62円切手同封でね。（初めだけ）
〒158　東京都世田谷区五堤1-9-24-107高橋英美（13）
■B'zの曲を聞いてると、なんだかRISKYな

GB 売りたし 買いたし etc. ICHIBA

気分になっちゃう、っていう、B'zが超大好きな人！　今すぐそこにあるペンを取り、熊本B'z狂の私に手紙を書こう！　男女、年齢関係なし！　切手を同封してくれたら返事120%気合いを入れて書きますので、どうかこんな私でよければよろしくね。もっともっとB'zのこと、盛り上げよう！
〒861-73　熊本県天草郡有明町大島子1413　沖津多恵子（16）

■THE ALFEE＆BEAT BOYSのファンの方。私と末永く文通してください。返事は120%。はっきりいって私はマメです。
〒099-14　北海道常呂郡訓子府町若富96　長岡美和（22）

■永井真理子ちゃんをめちゃくちゃ〝DA・I・SU・KI〟な人、お手紙ください。

「YUMING」NO TOUR 12/23 「HUKUOKA」KARA START!!
ZEN KOKU TOUR DAKEDO HONSÛ GA SUKUNAI KARA KIO TSUKETENE!

〒711　岡山県倉敷市児島田の口3-10-25　松本和子（20）

■たまか真心ブラザーズかフリッパーズギターがスキな人、お手紙ください。
〒003　北海道札幌市白石区本郷通10丁目南3-2-409　七戸リエ（14）

■TMNが好きで好きでしょーがない人！　男女問いません。62円切手同封で返事確実。とにかくTMが好きな人、letterまってます。
〒565　大阪府豊中市新千里西町3-1 C13-310　浅井かほる（16）

■KUSU KUSUのFANの方。できればコンサートに一緒に行ってくれる人お手紙ください。
〒170　東京都豊島区池袋本町2-17-1　大畑奈美（17）

■大江千里さんの昔からファンの人から最近ファンになった人。(でも、できれば同年代の人)どなたでもけっこうです。私にletterをください。最初だけ62円切手を同封してください。
〒950　新潟県新潟市本馬越1-6-30　山崎千恵子（17）

■渡辺美里さんが大好きで、赤毛のアンにあこがれている私と文通してください。年齢、性別は問いません。返事は確実です。
〒989-61　宮城県古川市古川字上古川118-1　佐藤みどり（14）

■誰のファンでもかまいません。15〜16歳の人でごく普通の人。いなかものの私にお手紙ください。
〒329-29　栃木県那須郡塩原町塩原568　君島由貴子（15）

■LÄ-PPISCHが大好きという方、私と文通しませんか？　返事は必ず書きます。まってるよ。
〒090　北海道北見市二条東1　大槻直美（16）

■PRINCESS²の香FANの方。男女問いませんので、とにかくLetterまってます。
〒399-85　長野県北安曇郡松川村5725-279　小島五十鈴（15）

■ポップス界の若きプリンス〝高野寛〟が大好きな方、お手紙ください。初回のみ60円切手同封でお願いします。
〒290-01　千葉県市原市奈良125　横尾公子（16）

■米米CLUBが大好きな人。男女、年齢はまったく気にしません。米米をほんっとに好きな方お手紙待ってます。62円切手同封でね。
〒842-01　佐賀県神埼郡東脊振村横田2408　大塚美麻（17）

■岡村孝子さんの歌で1日が始まり、1日が終わります。孝子さんの大ファンで1日1回は歌をきく人。私と文通してください。
〒073　北海道滝川市朝日町西4-8-14　北條有里子（18）

■GO-BANG'SやUNI、ドリカム、LA、KUSU²、カステラなど²・好きなアーティストがたくさんいる人と文通したいです。返事は絶対書きますから、私と文通してください。
〒972　福島県いわき市常磐湯本町宝海40　斉藤静（15）

■県内・兵庫・大阪の徳永英明さんファンの皆さん、私とお友達になってください。初回のみ62円切手同封で。返事確実！
〒719-11　岡山県総社市横谷501-1　平田あゆみ（19）

■UP-BEATのこと、いろいろ教えてくれる方！　一緒にコンサートとかにいってくれる方！　とにかく私にお手紙ください。初回のみ切手同封でお願いします。
〒366　埼玉県深谷市上野台507-98　池田典子（16）

■BY-SEXUAL or カステラを愛してる人やライブに一緒に行ってくれる人など、私にLetterくださーい！　中3の受験生なのに、全国のみなさんと楽しい文通がしたいのです。あなたの写真＆最初だけ切手同封してくれたら、返事は絶対に書くよ。末長く文通していきましょう！　性別・年齢問いません。
〒989-53　宮城県栗原郡栗駒町岩ヶ崎三島63　矢野沢香（14）

■ドリカムのファンの人、文通しよう！　お手紙待ってます。私は社会人です。
〒916　福井県鯖江市平井町56-53　山越敏江（17）

■久保田利伸さんONLYという方。久保田さんが載ってる本を、どーしても買ってしまうというかわいいお方。どーぞこの私にお手紙を！　お返事は必ずします。男女かまわずOKだす。よろしくぅー。
〒273　千葉県船橋市海神町2-8-4-2-103　宮田綾（14）

■BUCK-TICKがいなきゃ絶対だめ〜って人、年上でも年下でもOKさ！　もち男の子もLetterちょうだい！　切手同封だとうれしいけど、なくてもOK。まってるよ〜ん。
〒242　神奈川県大和市林間1-19-32　佐藤ひろみ（16）

■誰のファンでもかまいません。お手紙ください。私はMOJO-CLUB、RCサクセション、浜田麻里のファンです。一緒にコンサートへ行こう。
〒593　大阪府堺市平岡町183-1　吉田由己可（20）

■松岡英明くんのファンの人、私と楽しく文通しましょう。性別はべつに関係ありません。返事確実だよ。
〒079-01　北海道美唄市峰延町東　三浦久美子（13）

■私は18歳の岡村靖幸さんの大ファンのフリーターです。周りに誰一人岡村Fanがいません。どうかこんな私と一緒にイベント＆コンサートに行ってくれる方、お手紙ください。
〒581　大阪府八尾市清水町2-2-18　山本理恵（18）

■BARBEE BOYSひとすじ！　っていう人はLetterください。最初だけ切手同封してくれるとうれしいです。
〒953　新潟県西蒲原郡巻町東六区4612-5　難波真由美（15）

■辛島美登里さん、TMN、渡辺美里さんが好きな人、文通しましょう！　性別・年齢問いません。お手紙まってます！
〒932　富山県小矢部市西中328　片山美鈴（16）

■KATSUMIのFANの方、私と一緒にコンサートなどいってくれませんか。男女・年齢問いません。文通でもいいです。まってます！
〒244　神奈川県横浜市戸塚区平戸3-56-4　坂口名穂（14）

■CHAGE＆ASKAが心の底から大好きな人、私と文通しましょう!!　愛知近郊の人がいいのですが、その他の地域の人も大大大歓迎！　どーんとお手紙くださいね。待ってます。
〒441　愛知県豊橋市三ツ相町187　渡辺敦子（16）

■全国のダイヤモンド・ユカイFanのみな様方、私にletterください。返事は必ず書きます。年齢、性別問いません。とにかくユカイくんのことなら「まかせなさい」って人、私とお友達しましょ！
〒745　山口県徳山市久米999-3 旭ヶ丘県住C-15　松尾美紗（15）

■アーティストにこだわらずに楽しく文通しましょう。男女、年齢は問いません。切手同封でお願いします。
〒028-51　岩手県二戸郡一戸町字別字本村83-2　釜石真理（17）

■とにかく、COME ON BABY、HEART、HOUNDDOGの大好きな人。だれでもいいから、大好きな音楽etcおしゃべりしましょう。Letterまってます。
〒277　千葉県柏市逆井1046-2　日暮久美子

■TMNが大好きという人。私とたのしい文通しましょう！　特にウツ病の人ならなおさらGOOD！　手紙まってます。
〒474　愛知県大府市共和町大深田53　山口千恵子（17）

■DOVE, COME ON BABY。このバンドの中で、ファンorキョーミのある方お手紙ください。年齢不問。どこでもいいけど、できれば北海道、関東、関西、中部、中国地方の方よろしくっ！
〒039-51　青森県むつ市大平町30-32　坂本一美（16）

■小田和正がとてもとても好きな人、お便りください！　小田さんを通じていろんなこと語り合いたいナ。
〒916-01　福井県丹生郡朝日町宝泉寺27-1　竹内俊代

■WONDER 3買った人この指止まれ！POKET買った人この指止まれ！
〒170　東京都豊島区池袋本町4-11-3　有賀祥平（17）

■水戸か土浦の人で21'sを知ってる人。アマチュアのLIVEを見るのがスキな人。フリッパーズギターがスキな人。同質のものを感じた人たち、手紙書いてください。
〒300-12　茨城県牛久市岡見町1554　宮本キヨミ（18）

■急いでいます。とにかく宮尾すすむと日本の社長が大好きで、東京都在住の方なら、男性、女性、中性、年齢問いません。地方なので、なにかと情報入手困難な私に愛の一通を!!
〒889-31　宮崎県日南市大字下方2443　井上有子（18）

■デパートでB'zの曲がかかったとたん思わずDANCEしそうになっちゃった！　けっこうミーハーだけど、今一番好きなのはB'z!!「あたしもそうだよー」という方。ぜひぜひお手紙ちょーだいねっ。初回につき切手同封してもらえるとでもうれしい。
〒098-22　北海道中川郡美深町西町39　沢田亜希（17）

■久保田にバブル、そしてもちろんBLACK大好きという東京近郊の方、友達の輪を広げませんか？　とりあえずお手紙ください。
〒111　東京都台東区東浅草2-24-14木場方　浅田恭子（19）

■都道府県に1人ずつくらいのアル友さんが欲しい私にどっからでもお手紙ください！5人だったら誰のファンでもいいよ♡
〒802　福岡県北九州市小倉北区下富野2-4-18-201　佐々木江美

■UNICORN＆スパGOのファンのきみ。とっても楽しい文通しようよっ。いろんな情報交換しようね。返事は必ずだします。よろしく♡
〒200　東京都多摩市見取2-2-6-103　菅野祥子（15）

■Dreams Come Trueが大好きっ！　という人。涙がでるほどドリカム好きっ！　という私と文通しましょう。長く文通してくれる方ならうれしいです。
〒241　神奈川県横浜市旭区中沢町13-2　福本菜穂子（16）

■全国のBuck-Trick＆BY-SEXUALのファンの人！　今すぐ私に手紙を書こう。性別、年齢は関係なし！　B-TとBY-SEXUALが好きな人なら誰でもいいです。返事は999%だよ！
〒019-02　秋田県雄勝郡十日町80　梁瀬美幸（15）

■音楽好きな人、私と文通しようよ！　返事ぜったいだから、よろしくね！
〒306-06　茨城県岩井市岩井2781-2　張替愛子（21）

■徳永英明さんが大好きっ！　という人なら、どなたでも。一緒に応援していきましょうね！　お手紙待ってます。お返事は必ず書きます。
〒370　群馬県高崎市中尾町116-2　金井真美（20）

■高野くんのファンで、ラジオを毎週聞いている人、お手紙ください。
〒457　愛知県名古屋市南区本城町1-31　松本恵子（20）

■米米CLUBが好きで、〝愛してる〟と言い切れる方、その他とにかく「米」という字にピンときてしまう方、私と文通してください。男女年齢は問いません。初回は62円切手同封で。必ず返事は出します。
〒338　埼玉県浦和市大原1-2-7　大久保幸子（15）

■松岡英明がすんごーく好きな男の子、女の子、お手紙ください。文通しよーねっ！
〒018-16　秋田県南秋田郡八郎潟町川崎字嘉美1-2　工藤真澄（14）

応募方法

●GB市場に掲載希望のかたは官製ハガキを使ってください。●ハガキの表にどの項目あてかをハッキリと書いてくださいね。ハガキ一枚につき一項目のみ応募できます。●たくさん同一内容のハガキを送っても、こちらでチェックしておりますので、掲載の確率が高くなるということはありません。●連絡は当事者どうしで良心的にお願いします。●申し込みの取り消し、問い合わせなどは一切受け付けません。●売買、その他トラブルに関しては、編集部は一切の責任を負いません。

Congratulations!

GB12月号 読者プレゼント当選者

①UNICORN・ポスター／香川県　谷本正剛／埼玉県　小杉幸[illegible]／東京都　原知佐[illegible]／埼玉県　木村[illegible]／神奈川県　郡織[illegible]　②ポテトチップス・ステッカー／宮城県　大[illegible]由香／長崎県　川村哲郎／愛知県　平岩まゆみ／新潟県　笹岡千賀子　③[illegible]・ポスター／熊本県　本山幹[illegible]／大阪府　山田卓郎／岩手県　島内志津子　④RCサクセション・うちわ／東京都　[illegible]山達哉／東京都　山口[illegible]　浜田恵[illegible]　⑤リンドバーグ・パンフ／大阪府　吉田高[illegible]　⑥THE BELL'S・Tシャツ／神奈川県　原田理絵／山形県　土田[illegible]　⑦聖飢魔II・ステッカー／東京都　江口美香／群馬県　中嶋尚[illegible]／大阪府　重田由紀／東京都　中島知美／北海道　山崎[illegible]／愛知県　瀬部伸巳／群馬県　斎藤亜希子　⑧BAKUFU-SLUMP・ポスター／千葉県　山口大樹／山形県　鈴木賢次／兵庫県　立野正晃／神奈川県　桜井[illegible]　内田昌子　⑨児島未散・プレスキット／岡山県　稲松麻[illegible]／静岡県　三浦賢次／[illegible]城県　佐藤勝／滋賀県　木村宏／富山県　太田一也　⑩Dreams Come True・ポスター／神奈川県　荻野[illegible]美／新潟県　阿部恵[illegible]　⑪KAN・カン[illegible]／兵庫県　本山由紀／神奈川県　物部愛　⑫遊佐未森・シングルCD[illegible]キット／愛知県　加藤恵／[illegible]県　松村大介／山口県　藤川智[illegible]子／[illegible]県　大久保[illegible]恵／埼玉県　高橋和子　⑬遊佐未森・ポスター／[illegible]　遠竹[illegible]紀／北海道　伊藤大[illegible]／大分県　松波順子　⑭COBRA・ステッカー／静岡県　伊能一哲／東京都　中川知子／山梨県　西山喜伯／東京都　武藤卓／茨城県　小沼智[illegible]　⑮THE BOOM・ポスター／京都府　松[illegible]美香／千葉県　丸山久美子／北海道　能戸美由紀／愛知県　大石友紀／埼玉県　山中美香　⑯THE ALFEE・豪華パンフ／奈良県　伊谷[illegible]子／埼玉県　鈴木美智子／千葉県　小松原周平　⑰エレファントカシマシ・パンフ／大阪府　田上裕子／東京都　諏訪直人／愛知県　久島和雄／和歌山県　戸板正／群馬県　笠井静　⑱白井貴子・鏡／大阪府　山下清美／東京都　須長信子／岡山県　大岩由佳／岐阜県　久保田直美／大阪府　土井真稚子　⑲UP-BEAT・ステッカーセット／東京都　鶴田[illegible]／埼玉県　吉田[illegible]県　川越あおい／大阪府　藤尾[illegible]／神奈川県　丹後まゆみ／福岡県　田中智代／[illegible]県　三浦博之／[illegible]県　楡崎和佳子／長野県　吉越正勝／愛知県　村田真知子　⑳PSY・S・Tシャツ／東京都　星野正[illegible]／新潟県　星野和美／大阪府　阿部裕司／[illegible]県　遠田優子／[illegible]県　藤重洋子　㉑DARLIN'・テレ[illegible]／滋賀県　早田[illegible]美／群馬県　清水直子／北海道　黒沢[illegible]　㉒PRINCESS PRINCESS・ポスター／長崎県　内[illegible]蔵愛子／大阪府　角田浩[illegible]／北海道　亀田賢一／埼玉県　大[illegible]卓馬　群馬県　畑中ゆ[illegible]り　㉓LesVIEW・ポスター／愛知県　浦貴[illegible]美／岐阜県　殿伊一史／広島県　水島[illegible]／三重県　川島喜代子／大阪府　橋元静雄　㉔LesVIEW・Tシャツ／愛知県　菊地香織／東京都　[illegible]沢卓[illegible]／栃木県　鈴木友美

ロンドンみやげプレゼント㉕文具セット／富山県　平田容[illegible]／静岡県　山口裕紀子／大分県　上村貴子／東京都　武藤綾子／埼玉県　小山矢[illegible]　[illegible]チャード／愛知県　南谷敦[illegible]／埼玉県　大西[illegible]／岐阜県　安西朱美　㉗ビニールコーティング・バッグ／北海道　上野美樹／東京都　上原弘子／山梨県　柳原淑[illegible]　㉘人形／山口県　鎌倉雅[illegible]／群馬県　坂庭淳子　岸田実枝　㉙Tシャツ／滋賀県　蒲生晶子／[illegible]県　遠藤正浩／群馬県　尾嶋子津艶／熊本県　渡辺勝成／石川県　東方由紀／岐阜県　寺田昌代／山口県　伊世康宏／東京都　小暮珠代／東京都　井内琴美／千葉県　多田百江　㉚財布／鹿児島県　瀬戸口友子／北海道　古村悦子／北海道　大山栄子／[illegible]　大中恵　㉛コースター／東京都　竹内直美／富[illegible]　北村真理　[illegible]トレー／香川県　[illegible]可郁代／東京都　中[illegible]亜樹／大阪府　田中元子　㉝ボールペン／宮崎県　植木雅子／神奈川県　横瀬里美／北海道　諸橋恵理子／神奈川県　[illegible]尾紀子／岡山県　熊瀬高[illegible]　㉞帽子／兵庫県　田[illegible]美香子　井上由美子／[illegible]　高階大[illegible]／[illegible]府　大平ひとみ　㉟遊園地ガイド／高知県　柳幸栄

日本ビクター・CDラジカセモニター／千葉県　鈴木英明

マクセルUD[illegible]ットワークプレス／北海道　藤井知織／栃木県　田口晶子／[illegible]県　市川美香／福島県　熊田千香　黒須裕子／東京都　横山麻実／神奈川県　大橋真理子／神奈川県　石田喜代美／千葉県　黒川幸子／千葉県　勝部真理子／埼玉県　志田真[illegible]／神奈川県　津高万里[illegible]／兵庫県　中浦愛一　大内理恵子／[illegible]県　中谷ま[illegible]香／大阪府　江口恭代／大阪府　鈴木万友美／山口県　井上史子／[illegible]　大野華奈子／[illegible]県　杉山絵里

ケンウッドモニター／大阪府　山之内由紀／長野県　藤原紀子／大阪府　岩井さやか

GB READERS PRODUCED

CATTENI JOHOCAN 2

勝手に情報CAN

◎目前にせまったクリスマス、21世紀への新しいカウント・ダウンとなる1991年……と、難しいことは抜きにしていろいろ遊んでいきましょー／　てな感じです。老若男女問わずもっと²参加したり、遊んだり、意見を述べたりしてくださいね／

CONTENTS

GALLERY OF FEBRUARY

▲愛知県・不破真弓さん。まるで音楽や話し声が聞こえてきそう。袋からこぼれ落ちるのが音楽（音符）というのが、さすがアルフィー。こんなカードもらってみたいな。大関6枚。

■今月のギャラリー大賞

◀東京都・福田くみさん。今月は大賞を決めるのにすごく悩みました。鉛筆や薄い色鉛筆は、印刷のとき、原画をそのままに出すのが難しいんです。だからこれもちょっと心配だけど。えーい！ 松BOWの強い意志を秘めた瞳に横綱ピックだあ。それにしてもホント、リアルです。ずーっと見てると、松BOWと見つめ合ってるような気がして、ドキドキしちゃうのは私だけ？ こんなにうまいんだから、文字も凝って描いてほしかったな。残念。

▼岡山県・平松見てる？ さん。3人のキャラクターからすれば、サンタクロースはやっぱり木根さん!? 小結3枚。

▲石川県・えりりん深津さん。ハッキリ言って、恐い。（笑）なんか鬼気迫るものがあるよね。小結4枚。

▲鹿児島県・吉田絵里さん。あまり似ていませんが、と謙遜してるけど、これは似てる！ 大賞候補でした。次はカラーでの作品を期待してるからね。大関5枚。

▼富山県・たこさん。あんまり似てないけど水彩画のイイ味が出てる。夕映えの中の未森ちゃん、かな？ 関脇3枚。

▲宮城県・城太郎さん。クリスマス・ネタ第3弾。天使になってしまった木根さんが、なんともカワイイ。小結3枚。

応募方法

このコーナーに投稿を希望されるかたは、官製ハガキを使用してください。で、画材なんだけど、鉛筆や色鉛筆よりも、ポスターカラーなどのほうがきれいに印刷できるので、採用の確率も高いかも。あなたの住所、氏名、年齢を明記のうえ、次の住所までお送りください。

〒156-91 東京都世田谷区千歳郵便局私書箱15号 CBS・ソニー出版GB編集部「GALLERY OF THE MONTH」まで。

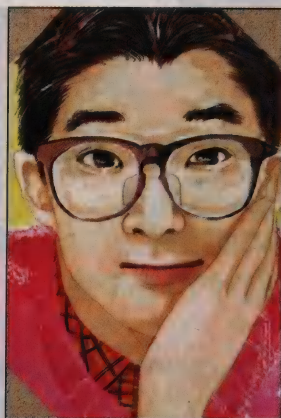
えー、ではここでお詫びと訂正を。12月号、右上に載っていた和田千賀子さんの作品、「高見沢さん」と書いてしまったけれど「カールスモーキー石井さん」でした。和田さん、ファンのみなさん、ゴメンナサイ！

［読者ブレーン後記］フリッパーズ・ギターはカッコよすぎる。困るわ。もう、大変。このままではみんなも大変。きっとGBも大変だわ。すごく気になって。おかしいくらいにうれしくなってしまうわ。1991年は、きっとみんなフリッパーズ・ギターに走るわ。そして、かわいい声で歌ってしまうんだわ。大好き、フリッパーズ・ギター。明日も楽しい一日でありますように。（オノザワ・ノリコ）

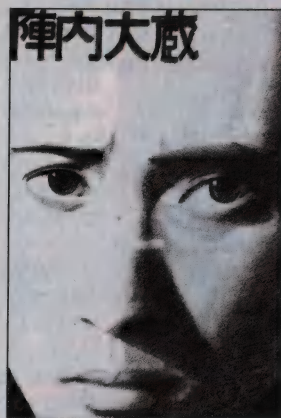
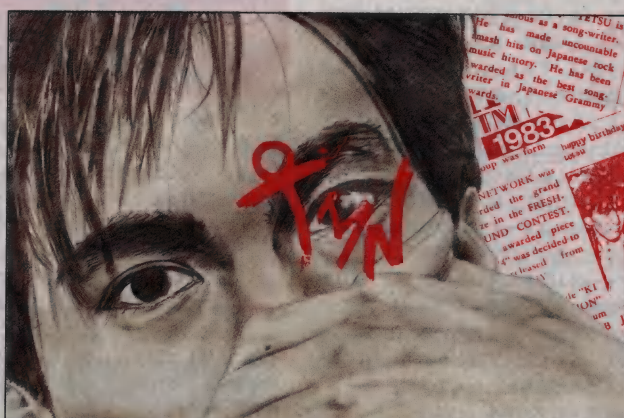
CATTENI JOHOCAN

▶茨城県・須田弘美さん。モノクロに赤が映えてます。右端にも小室さんの記事を使ってるとこがニクイッ。大関6枚。

▶北海道・紅玉随彩利亜さん。未森ちゃんの目しか出てないけど、ちゃんと未森ちゃんとわかるとこがすごい。大関2枚。

▶千葉県・小川真由美さん。色使いがすっごくキレイでサワヤカ。ちょっと若かりしころの千里くん？ 関脇5枚。

▶静岡県・うっぷ²さん。凝ってます、コレ。いろんな種類の紙を使っての貼り絵なの！ 次回にも期待。大関6枚。

▶広島県・林伸子さん。どっひゃーん！ ＡＳＫＡさんもぶっ飛ぶサ。でも憎めないヤツって感じだね。小結6枚。

▶茨城県・葉月ことさん。美容院の窓によく貼ってあるモデルのポスター、なぜか思い出してしまいました。関脇3枚。

▶三重県・徳村美幸さん。超ドアップで迫力モンです。眉間のシワが女心をくすぐるワ。カラーにも挑戦して。大関3枚。

▶北海道・美術部員さん。渋い色使いが大人っぽい。今月はシリアスタッチのB'zをとりあげました。小結4枚。

▶福岡県・よっちゃん。素朴でいい味出してます。簡単なだけど、似てる。セサミのバートにも似てない？ 小結3枚。

▶愛媛県・藤井まさえさん。初投稿とのことだけど、いいセンいってます。次はカラー作品を期待したいな。関脇2枚。

▶青森県・渡辺晶さん。やんちゃな千ちゃん。前髪の立ち方やひざのやぶれ具合、細かいところがイイですね。関脇4枚。

▶栃木県・てっちゃんのぼうしさん。これはけっこうハマリ役かも。(笑)なんと木の陰にはユンカースが！ 小結4枚。

▶茨城県・黒川真紀さん。岡村くんのこんな流し目にはやっぱり弱い。受験生なの？ もうすぐだ、ガンバレ。小結6枚。

▶埼玉県・じゃりんこチエさん。あんまり似てないんだけど、独特のタッチですごく温かみのあるイラスト。大関5枚。

▶長崎県・働く女さん。ジャーン。髪を切ってサッパリしたタミオくん。今度は他のメンバーも描いて送って。関脇3枚。

[読者ブレーン後記]1984 12・23・5：00am――日本武道館。どうしてもAlfeeのライブが見たくて、寒さに震えながら友達と2人、朝焼けする中を並んだっけ。あれから6年、今年もいっしょに武道館コンサートへ行く。でも、いっしょに行けるのは、これが最後かもしれないね。あんまり会えなくなっちゃうけど、みんなのこと絶対忘れない。Alfeeがライブ続ける限り、私も行き続けるから。夢よ急げ！ (佐藤留美子)

井戸端会議

私は、TM NETWORK(現TMN)がデビュー直後、京都の修学旅行先でバッタリ会い、てっちゃんをてっきり本田恭章（当時のアイドル歌手？）と間違えて、友人と3人で「一緒に写真撮ってくれませんか」といったことがある！ 後でTMのファンの子が、あれは小室哲哉という人だと教えてくれたけど、私たちが話しかけたとき、てっちゃんはずっと本田恭章になりすましていた。そしてウツと木根さんは、マネージャーのふりをしていたのか、しっかり本田恭章いや、小室哲哉をガードしていたのを今でもちゃんと覚えている。あのころからてっちゃんは、冗談とかおもしろいコト考えるのが好きだったんですね。
兵庫県・モグの背中（23）
——確かに似ているといえば……似ているような……。本田恭章さんは今The TOYSで活躍中。今月はこの失礼で、大ボケで、ラッキーなあなたに横綱ピックだ！

8月31から9月5日の米米CLUB『K2Cハワイツアー』へいってきました。ハワイのマクドナルドのアイスクリームはとてもデリシャスと聞き、早速出掛けていって、「アイスクリーム！」と頼んだのに……。なんで!? ハンバーガーが2コも……。店員の女の子は、ニッコリと「アリガトー」。何も言えずに、受け取って店を出たのは私です。
埼玉県・田中あけみ（25）
——ハンバーガーはデリシャスだった？ それにしても、どう発音したら、アイスクリームがハンバーガーになるんだろう。小結4枚。

THE BOOMのチケット発売の日、私は次の日の合唱祭の練習があったので、父に買いに行ってもらいました。父が開店10分後に行ってみると、すでに50人ぐらいいたそうです。しかも女子中高生ばかりということで、一張羅に革靴の父は恥ずかしかったらしく「今度はおまえが行けよ」と言われました。それだけでもご苦労様だったのに、20人前ぐらいでSOLD OUTになったんだそうです。しかし、父は強かった。今や常連（だと思う）の店へかけこみました。そこでは取り扱ってないけど、本店なら売っているというので問い合わせてもらいました。そしたら運良く、まだ残っているというんで、私と妹の2枚をおさえてもらうことができたんだそうです。私がのんきに「親知らず子知らず」を歌っているとき、父は私のためにいろいろと苦労してくれてたなんて……。お父さん、ありがとう!!
富山県・スーパーナベ（15）
——まぁ。なんてやさしいおとうさん。なんだかんだ言ってもやっぱりかわいい娘のため。がんばっちゃうわけよね。微笑ましいおとうさんに関脇4枚。

私はUNICORNのファンだけど「ケダモノの嵐」を予約するときに、恥ずかしくなってしまった。赤面したのは私だけ？ それにも増して恥ずかしかったのが「おどる亀ヤプシ」を予約したとき。今日してきたのよ！
京都府・いったい何を基準にして「おどる亀ヤプシ」？ （14）
——確かにある。口に出して言うと、妙に変で恥ずかしい言葉。(笑)『ケダモノの嵐』は〝ゲテモノの嵐〟だとか〝ゲイモノの嵐〟なんていうアブナイ間違えも多いから、口にするときは十分気をつけるように。←よけいなお世話。(笑) 関脇6枚。

この間、私が母に「UNICORN のコンサート、今度友達と行くんだぁ」と言った途端、母は青筋立てて言いました。「まったくこの子はお金ばかり使って。お母さんを連れていけば、チケット代お母さんが払うのに」と言った母は、私と同じ民生さんファンです。次の日、男の子の話を母と2人でしているとき、「私がもう少し後に生まれていれば、民生くんと結婚できたのにィ」といった母は44歳です。民生といくつ歳が離れてると思っているんだ。
埼玉県・うにぽー（16）
——でも、そしたらあなたは民生くんの子供だったかも。小結3枚。

昔うちで下宿していた大学生の兄ちゃんに、小6のころ「ウクレレ」を教えてもらったことがあるが、今ではちょっち自慢していたりする。
三重県・命つきるまで（20）
——なぜかおかしい。(笑) この「ウクレレ」ってやつは。ギターが弾けたり、キーボードが弾けたりすると、かっこいいと思うのに、どうしてウクレレだと、それだけでおかしいんだろう。前頭6枚。

今月の不思議さん いらっしゃい

長野県・宮原年賀さんからきた衝撃（？）のハガキがこれだ。「私はいつもこの写真を見て思う。頭がない……。誰か私と同じこと思った人いません？」というものだ。確かに松下里美ちゃんのあたまがない……。わけはないっ！ 猫耳頭の真相は、帽子の白い部分がバックと重なっちゃったからなのね。住所がないゾ！

誌上大盛り上がり(？)忘年会

「ま、一杯どうぞ、手島さん」日本酒を勧めているのは、かまいたち代表カエルくん。「みんなわしの歌を聴いておるか」ジェームス小野田さん悦に入ってます。BY-SEXUAL代表NAOとBUCK-TICK代表ユータくん「しゃーない、手拍子でもするか」秋田県の最上沙和子さん、関脇3枚。

B'zのテープを、毎晩聴きながら眠っている私です。その夜も、テープを聴きながら、ウトウトと夢ごこちでいたところ、突然頭の上に「ドッカ〜ン」とすっごい衝撃。自分でもなにがあったのかよくわからず、耳元でガンガン鳴ってるヘッドホンをはずしてみた。ベッドの枕元の出窓に置いてあったラジカセが、頭の上に落ちてきた音だったのです。あまりの突然で痛さもわからなかった!! （きっとヘッドホンのコードを、B'zの曲にノッて聴いていた私の腕がひっかけてしまったのかも……）それでも毎晩こりずに、ヘッドホンのボリュームをアップしてB'zを聴いている私です。
栃木県・さや
——ラジカセですよ、あーた。本が落ちてきたとか、目覚し時計が落ちてきたとか、そんなもんじゃないのよ。なんともなかったの？ いくらダンサブルなB'zの曲でも、寝るときぐらい静かに聞いてなさい。ホントに。石頭に大関3枚。

GB仲間 第168号

ムムッ、このたれ幕は……。B'z の前回のツアーで本当に使われていたものだそうです。ライブを見た人ならこれは！ と思うはず。送ってくれたのは、北海道の稲葉Angelさちえさん(右)。ファンクラブの抽選で左側のユカリさんが当選したんだって。なんてラッキーな！ で、その上部を切り取って、手に持っているきんちゃく袋を作ったんだそうです。うらやましい！

友達のA子ちゃんが、小室さんのCD「Digitalian is eating breakfast」を貸してくれと言ったので、学校に持っていった。授業が終わった直後、先生はもう教室から出ていっただろうと思い、カバンからCDを取り出し、席の離れていたA子ちゃんに「A子ちゃーん、CD持ってきたよーん！」と元気よく叫び、手を上げてCDをヒラヒラさせてみせていた。と、そのときうるさくて説教をよくする26歳のB先生が「学校にこういうものを持ってきていいと思ってるの？」と言いながらCDを取り上げました。私は「すいませーん」と言いました。でもB先生は「今度から注意しなさいね」と一言。周りの人はア然としていました。放課後、B先生に「今日はあまり説教しませんでしたねぇ」と言ってみました。その次に出てきたB先生の言葉は「先生FANKSなの」の一言。そのあと一人で「やっぱかっこいいワァー」とかなんとかブツブツほざいてました。よかった、B先生がFANKSで。だってあの先生にとりあげられたら2〜3か月以上は必ず返してくれないんだもん。
山梨県・私はmad（14）
——なかなか返してくれないのは、自分で聞いてるからだったりして。(笑) その先生怖そうだけど、実はかわいい先生なんじゃない。TMNの威力はすごい。関脇5枚。

10月29日、修学旅行の帰りのこと。東京駅で新幹線から下りた途端、後ろから男性がぶつかってきて、そのショックで割れ物が入っていたバッグを落としてしまった。男性は気付かなかったのか何なのか、そのまま通り過ぎていった。「っのヤロー」とその男性を見ると、黒い服装の集団の一人。「何だろ、この人たち」彼の手元を何気なく見ればB'zのバッグ。「おや？」とよく見てみればRISKYのスタジャン。そういえばその前日は名古屋公演。「ツアースタッフだっ」それを認めた次の瞬間、私はボソッと呟いた。「いい。許す」
群馬県・割れ物は無事だった（17）
——稲葉さんでも、松本さんでもないのにこの心の広さ。そうですか。なにはともあれ、割れ物が無事でよかったね。小結6枚。

通信販売でTMを買ったら、送ってきたのはB'zだった。

〈読者ブレーン後記〉早朝、自転車で駅まで20分の道のりのうち、8分間くらいおひさまのまったくあたらない地獄ゾーンがあるんです。もう寒いなんてものじゃありません。でも手袋、マフラー、それにコートを着こんでの冬の登校ってなんかいいですよね。電車の窓から小さくてかわいい富士山が見えたりして、やっぱ冬の朝は素敵やなあ！ （ゆず湯をこよなく愛し、おてんとうさまで幸せにひたれてしまう布施）

迷える子羊

今月の相談

今私は、2年前に同じクラスだった人と、また一緒になっています。とても仲がよかったのですが、今ではめったに言葉も交わしません。「よくあることだよ」と皆はいうけれど、とても寂しいです。私も大好きなアーティストの話を、他の友達にしています。でも私はその中に入れなくて、いつも端で聞くだけです。　東京都・納豆茶漬

●

ブレーンA(以下A)「こういうことってよくあるよね」
ブレーンB (以下B)「うん、あるある」
担当「でもさ、なんで急に話さなくなっちゃったんだろう。理由が書いてないよね」
ブレーンC(以下C)「なんじゃない?」
B「うん。そういう時期ってあるよ。わけもなく仲が悪くなっちゃうみたいな」
担当「そう?」
A「向こうがそうなら、こっちも楽しい場所を見つければいいんじゃない?」
C「そう、他の場所をね」
担当「でも、この人は前みたいに仲よくなりたいと思ってるんじゃない?」
A「勇気を持って話しかけてみたら?」
B「どこか悪いところある? とか」
A「そしたらそれなりに、なんとかしようがあるもんね」
C「あんまり振り回されないほうがいいと思うな」
B「きっと時が解決してくれるよ」

結論

たまにケンカしたり、うまくいかないことがあっても、大切な友達はきっとお互いわかりあえるもの。自分に悪いところがなかったか、聞いてみるのもわかりあえるいいキッカケかも。悪いとこがなければ堂々としてればいいじゃないの。自分らしく。そうすれば、自分にあった、自分のことをわかってくれる友達が現われるはず。類は友を呼ぶっていうからね。

応募方法

「迷える子羊」への相談は、封書・ハガキ、どちらでもけっこうです。ペンネームもOK。ただし、本名や住所もきちんと書いてね。悩みの内容は、できるだけ詳しく、そして要領よくまとめてね。宛先→〒156-91東京都世田谷区千歳郵便局私書箱15号 CBS・ソニー出版 GB編集部「迷える子羊」係まで。送られた手紙は、採用・不採用にかかわらず、編集部で責任をもって焼却処分しますので、安心してね。相談ごとは、今すぐ「迷える子羊」まで。

岐阜県・ブッシュたきれん (15)
——ホント? そんなのあり? もうしっかりせいよっ! 大関2枚。

原付自転車を買ってうれしかったので、さっそく乗って海のほうに行こうと、少しとばしながら、交差点を渡ろうとしたとき、〝キャー、信号が赤やん〟と気付いたときには遅かった。雨が降って道路が濡れてたのもツイてない。急ブレーキしたけど止まらないわ。原付がスベって転んで……。〝そりゃもう大変だわよ〟って感じ。後ろから来てたバスの中のお客のたくさんの視線を感じながら、青になるのを待った。平静を装ったけど、顔はタコだったに違いない。
香川県・なおちんだべ (17)
——免許とりたてのときってうれしいんだよね。でも安全運転で。小結3枚。

☆いきなりやっちゃう、GB12月号のアンケートはがき「最近あなたが一番怒ったのはどんなこと」特集!
●バイトで、こわい顔した人に「こわい顔」と言われたこと。
岡山県・田辺知美 (17)
●中3のとき、友達2～3人にふざけていて体中をくすぐられてしまって、思わず倒れ、頭を床にぶつけたうえ、机に歯があたってしまい、歯から血が出た。(りんごをかじったんじゃあるまいし!) そのうえ、友達は先生におこられず、わたしが机をずらしたとして、おこられた。私は一体なんだったの?
福島県・佐藤麻由美 (16)
●最後の肉を食われたこと。
東京都・ウニ (14)
●みかんが食べたくなったので、姉に「みかんの袋とって」と言った。すると姉は、袋からみかんを全部取り出し、本当にみかんの袋だけをくれた。
京都府・西野永子 (16)
●ドーナツ屋でバイトしてたとき、おばはんが「油使ってないドーナツないの?」と聞いてきたので、「ありません」と言うと、「種類がないのね」とか「たいした店じゃないのね」と言われた。なめんなよ! おばはん!
静岡県・深沢和彦 (20)
——みんな世の中の不条理 (そんなたいしたモンじゃない!?) に怒ってるのね。いつでも笑顔でいたいけど、人間、怒るときは怒ることも必要さっ。

応募方法

井戸端会議に参加したい人は、官製ハガキ、GBについているアンケート・ハガキのどちらでも参加できます。GB仲間の写真などは必ず封書でお送りください。ハガキには住所・氏名・年齢・職業 (学年)・電話番号を記入のうえ、下記の宛先へ。
〒156-91東京都世田谷区千歳郵便局私書箱15号 CBS・ソニー出版 GB編集部「井戸端会議」「GB仲間」「Colored Words」「FOR GB ADULTS READERS」「耳元気ですかぁ」の各コーナー。井戸端会議はペンネームOKだけど、〝Colored Words〟は不可です。採用者にはGB特製オリジナル・ピックを差し上げます。ハガキ、待ってるよ!

耳元気ですかぁ?

2か月ぶりのこのコーナー。まったくみんな詩人なんだから。(笑) さて、今月もいってみよう!
■CHAGE&ASKA/「DO YA DO」の〝君が花を抱えていた〟って、絶対に〝君が腹を抱えていた〟に聞こえるよ。
秋田県・CAROL (13)
■B'z/「EASY COME, EASY GO!」の〝出逢いも別れもEASY COME, EASY GO!〟を〝出逢いも別れもみじかみじかー(短)!〟と歌っていて、いい詩だ、奥が深い、とまで思っていたのは私だけ?
愛媛県・ダイヤモンドヘッド (18)
■B'z/「EASY COME, EASY GO!」を〝二次会に行こう!〟と聞き間違えた。だってあの曲、一歩間違うとナンパコールですよ、といった私の友人。
長野県・川手美幸 (20)
■小室哲哉/「GRAVITY OF LOVE」で〝君を苦しめたこと〟を妹は〝君の首しめたこと〟と歌っていた。
滋賀県・徳永英子 (13)
■TM NETWORK/「DON'T LET ME CRY」の〝愛したい、愛したい、愛したい、誰よりも誰よりも君を愛したい〟が〝アインシュタイン、アインシュタイン、アインシュタイン、誰よりも誰よりも君を愛したい〟に聞こえ「DIVE INTO YOUR BODY」では〝You don't know how feel〟が〝ドーンと花火〟に聞こえる。
長野県・あきぞの〝てっちゃん〟S (16)
☆笑ってるあなたも歌ってりたして。

Colored Words

○元担当編集者ハッシーからの、バラードに手拍子をいれるのはどうか、という意見に対して、たくさんの反響が寄せられました。先月も紹介しましたが、圧倒的にハッシーに賛成の意見。2通ご紹介します。
■Colored Wordsの〝手拍子のことについて〟ですが、私もそう思いました。私も「納涼千里天国」に行ったんですが……。本当絶対やめてもらいたいと思います。手拍子はもちろん嫌ですが、私がもっと嫌だったのは、途中でやる千里さんのN.Y.のMCのときのことです。千里さんがせっかく楽しいMCを話しているのに客席から「千里さーん」とか「千ちゃーん」とか叫ぶ声。あれは、本当に嫌! 私の席はうしろのほうだったので、あまり千里さんのMCが聞こえなかったのですが、またよけいな声が聞こえてくるので、もっと聞こえませんでした。あのときは本当〝くやしいー〟と思いましたね。自分が話しているときに、そんな声が聞こえてくると、千里さんだってきっといい気はしないと思うんです。一生懸命なときぐらい静かに聞いてほしいと思いました。こういうことを他のファンの人にもわかってもらいたいと思います。
東京都・畠野麻美 (14)
○ライブに来てる誰もが、そのアーティストに対して、またその音楽に対して強い思い入れがあるよね。で、そんな思いが溢れすぎちゃうのかもしれない。人それぞれライブの楽しみかたは違うから、こういう聞きかたが正しいなんていうのはないけれど、じっくり聞きたいと思ったら、自然に態度は決まってくるんじゃないのかな。バラードもMCも。
■今年の春、ドリカムのコンサートに行きました。最初から、あのドリカムのノリでみんな盛り上がってました。そのノリのまま突入した「悲しいkiss」、私はみんなが静かになるかと心配で、曲の初めで声援が飛んだとき〝あっ! この曲が死んじゃう!〟って思いました。だけど、美和ちゃんが歌いだすと、みんな立ったまま、じっと美和ちゃんを見つめ、声に耳を寄せ、誰も、誰一人として手拍子することなく過ぎました。その光景は本当に素敵でした。アンコールの「未来予想図II」も同様でした。やっぱり、本当に心からそのアーティストを愛し、歌を愛するなら、このぐらいの気持ちはお互い持てるものです。一人でもその気持ちが持てない人がいたら、その人はファンでいる必要がないと思います。たぶん私の見た光景は、他のドリカムのコンサート会場でも見られたと思います。アーティストと心を一つにすることが、ファンにとって最も必要なことなのではないではないのでしょうか。
青森県・名前を書いて! (15歳)
○ほら、こういうライブもあるんだもの。このことに関してでもいいし、何か別のことでもいいです。みんなで考えていきたいことがあったらハガキちょうだいね。

〈読者ブレーン後記〉円城寺さんごめんなさい! 自分では書いたと思ってたんです。本当にすいませんでした! ところで、もう来年が迫ってきていますね。(←あえてクリスマスはさける) 年越しは新宿コマ劇場のイベントで過ごして早3年。私たち (紫ちゃん&かなちゃん) にとっての一年の計は、正に〝ユニコーン〟にあるようです。きっと来年もいい年だよね。(年越しソバを一緒に食べてくれる方募集中の松吉)

ふくろだたき

試聴会

サザンオールスターズ&オールスターズ＝稲村ジェーン

ビクター音楽産業、VICL57、3000円

同名映画に使った全十一曲を集めたアルバム。サザンのほかにボーカルに大貫妙子や、スチールギターにマヒナスターズの和田弘を迎えているため、演奏者名はこうなった。「忘れられたBIG WAVE」「愛は花のように（OLE!）」の二曲が先のアルバム「SOUTERN ALL STARS」にも収められているが、映画のコンセプトに沿って曲の良さが再確認できる。「真実の果実」「希望の轍」などとともに、青春の熱く、切ない思いをよみがえらせてくれる。

▲群馬県・TMNのMr.Gこと長島茂雄さん。なんですかい？　真実の果実といえば、アダムとイブがヘビにそそのかされて食べちゃったという、アレ……なワケないでしょ。前頭5枚。

JCSIW

▲長崎県・渡辺佳奈さん。えっとお、うんとお、……。うーん、困った。なんて読んだらいいのかわかんないじゃない。写真はジュンスカに見えるんだけど……。新しいバンドなんだろうか。一体、なんて読むんだ！　もうもうプリ…で ごまかすしかない。えっとお……。関脇4枚。

▼神奈川県・ネタが古くてごめんさん。ちょっとやだぁ。マーブルったらいつから女になっちゃったのよ。いくら紀子さんブームだからって。でも、あの美しさはただものじゃない。大関2枚。

AURA

▲『元気が出るテレビ』でもおなじみのカラフル・ヘビメタバンド。さすがにすんごい人だかり！　写真は人気No.1のプリンセスマーブル(B)。

▶岐阜県・B.B.D.D.F.F.Yさん。どこがっ！　ちょっと一体どこがっ！　大沢誉志幸さんなのよー。NHK数Ⅰ講座みたいなこのオッサンが、大沢誉志幸といわれた日にゃあ、それこそ私は途方に暮れる。今月のナンバーワンだ！　横綱1枚。

サウンドマーケット（FM■■＝後10・0）

きょうと明日は東京・渋谷のクラブで行われたボイセス・オブ・ザ・ナイトの模様を伝える。一日目は大沢誉志幸が佐山雅弘をはじめとする七人のジャズミュージシャンと弦楽四重奏団をゲストに行ったステージを紹介。曲は「そして僕は途方に暮れる」ほか。

大沢誉志幸

◀高知県・第2のユンカースさん。たぶん読者の年齢層が低い雑誌なのかも。しかし、ナゾの男〝X〟？〝木根さんと小室さんが合体したような、そりゃ誰!?　前頭5枚。

CD

DATE・ARTIST	TITLE
10/21・鈴木雅之	MOOD
10/21・大沢誉志幸	シリアスバーバリアン3　楽園
11/1・ユニコーン	おどる亀ヤブシ
11/1・Co Co	
11/8・佐野元春	TIME OUT！
11/10・爆風スランプ	ORAGAYO－in the Heaven
11/21・BY－SEXUAL	SEXUALITY

▲東京都・熊沢どれみさん。亀ヤブシといわれてもねぇ、浪花ブシじゃないんだからねぇ。ヤブシという亀の名前なんだから、覚えてよね。3か月連続でアルバムリリースしたユニコーン。「ケダモノの嵐」に続くふくろだたきも続々!?　関脇4枚。

TMN

豪華なロックでグループ復活！〝X〟の正体は？

グループ名の書き方を「TMN」に変え、この秋から再びグループ活動を行うTMネットワーク。今までソロ活動（アーティストが個人でプレーすること）をしていた3人が、ナゾの男〝X〟（木室さん自身というウワサもあり！）を従えてみんなの前に登場だっ！

00㊐チューンナップ少年団　ラッキョ池田
30 Ⓝイブニング　土居壮

◀千葉県・ボク元気？さん。変わった振り付けと、独特の雰囲気と、愛嬌あるモミアゲで人気のラッキィ池田さん。一文字違っただけでこんなに笑えるとは。大関3枚。

●フリッパーズギター	カメラ！カメラ！カメラ！	¥1,300
●横浜銀蝿	オリジナル4	¥3,000
●横浜銀蝿	オリジナル3	¥3,000
●大江千里	APOLLO	¥2,800
●THE BOOM	JAPANESKA	¥2,800
●かまいたち	はちゃめちゃ狂	¥3,000
●杉山清貴	Ballad Selection	¥2,500
●浜田麻里	COLORS	¥3,000
●高岡早紀	Romancero	¥3,000
●佐野元春	Time Out！	¥2,800
●ドリーム・カムトゥルー	WONDER3	¥2,800
●宮沢りえ	CHEPOP	¥2,800
●七つ星	聖夜七つ星	¥2,800
●尾崎豊	11月15日発売予定新曲	¥4,600
●爆風スランプ	ORAGAYO-in the 7th Heaven	¥2,800
●ユニコーン	おどる亀ヤブシ	¥2,800
●THE RCサクセション	BEST OF THE RCサクセション1981-1990	¥2,500
●THE RCサクセション	BEST OF THE RCサクセション1970-1980	¥3,000
●松任谷由実	天国のドア	¥3,000
●MOJO CLUB	ホームシック	¥3,000

▲愛知県・魔個呂さん。こんなふうにいわれちゃうと、かわいいヤブちゃん（笑）も怖くなっちゃう。妖怪の亀みたいな。小結4枚。

15：00　Lうたのプロムナード　●孤独のマラソン・ランナー　演高石ともや&ザ・ナターシャヤブン　●あの素晴しい愛をもう一度　演レモン・トゥリー　●悲恋慕　演吉田拓郎　●夕暮れ時はさびしそう　演N.S.P.　出演：松野こうき
16：00　Lポップ・ナウ！　●中央線　演ブーム　●ベステン・ダンス　演高野寛　出演：三浦和人　ゲスト：ブーム
26：00　LFMナイト・ストリート～ピュア・ミュージック　出演：陣内大蔵　●好奇心　演陣内大蔵　●キッシズ　演サイズ　〔タイゾーズ・コレクション〕
27：00　〔ザ・ボーカリーズ〕～ピーター・ハミル特集～　●ジャスト・グッド・フレンズ　●マイ・フェイバリット　（FMとやまをのぞく）
11：00　LFMホット・スペシャル　出演：藤中治、柳麻美恵　〔歌謡ヒット・フォーカス〕～10月の話題の新曲～　●フラッパー　演バイ・セクシャル　●岩を砕く花のように　演南こうせつ&ジョン・デンバー　●ベステン・ランク　演高野寛
12：00　〔歌謡曲　今週のホット20〕　●私について　演工藤静香　●雨　演森高千里　●パワー～明日の子供　演渡辺美里
15：00　KBIG HIT RADIO　DJ：ダリン・カールソン

9/27　ポテトチップス
HIPな気分
10/3　高野 寛
ベステン ダンク
10/5　清水由貴
TRY

▼静岡県・神野恵美さん。高野寛くん、3連発。ベステン・ダンス、ベステン・ランク、ベステン・ダンクときたもんだ。えーい、どいつもこいつも！　トホホ。どうしたらこれだけ間違えられるの？　ベストテン・ダンクというのもいっぱい来てたし。もっとドイツ語の勉強してよね。でもこれだけ間違われると、ホントは何だっけ？　って考えちゃったりして。関脇3枚。

七不思議

七不思議ファンのみなさん、ごぶさたしてます。先月1回お休みしたけど、七不思議は健在です。元担当者の思い入れが強く、このコーナーは継続したかったらしいのですが、今月は新担当がお相手します。

■私が19歳のころの話です。会社から自宅へまっすぐ帰ると、こんな体験をしました。早く帰ると早く寝ることができます。が、私は寝ることができませんでした。夜10時ごろ寝ると夢を見ます。気が付くと現実となっているのです。大きな〝斧〟のような物を振りまわしながら、白い着物をきた白髪だらけのおばあさんが、私の背後から追いかけてくるのです。私がころんで、上を見ると、おばあさんの持っている〝斧〟みたいな物は、首の真上にあり、恐くなって目が覚めると、急に息苦しくなり、金縛りの状態になり、足が重く感じられ、パッと目をやると、夢に出てきたおばあさんが足の上にまたがって、私の首をめがけ、ニターッと笑いながら、2本の手が伸びてくるのです。10cmぐらい手前までくるとスーッと消えてしまいます。私が霊体験をした中のひとつです。

北海道・みさと淳さん

――ヒーッ！　どうしよう。コワイよー。だって、これを書いてる今、夜中なんだもの。会社には人もあんまりいないんだもの。あー、何回鳥肌が立ったことか。でも読者様が喜んでくれるなら、ガンバらねばなるまい。うっ。（涙）

■うちの学校マジにこわいんです。昨年の卒業式に、女子更衣室の窓から真っ青な顔をした人が何十人も並んでいたそうです。

――学校ネタというのは、結構あるんだよね、どこの学校にも。夜の学校とか、それだけでこわいもんね。

応募方法

ふくろだたき・みーっけに応募されるかたは官製ハガキを使用してください。小さいネタはそのままはがきに貼りつけてポストへポン。大きくてハガキではおさまらないものや、写真は封書でお願いします。宛先にはふくろだたき宛かみーっけ宛かをしっかり明記してくださいね。それからみなさんのコメントも大事な要素。楽しいコメント付きで送ってください。七不思議も官製ハガキでOKです。忘れちゃならない住所、氏名、年齢を明記のうえ下記の宛先まで。

〒156－91　東京都世田谷区千歳郵便局私書箱15号　CBS・ソニー出版　GB編集部「ふくろだたき」「みーっけ」「七不思議」係。

お客様と共に68年
TWO WAY COMMUNICATION
宇都宮タクシー 32-8181（ハイハイ）
上山田営業所☎(0262)75-2239 戸隠営業所☎(0262)54-2021

◀長野県・おいらはサボテンくん。もしもタクシーの〝ク〟が〝カ〟だったら。電話をすると宇都宮さんが迎えにきてくれちゃうのかしら？ 宇都宮さん、アッシー君に？ そんなバカな。関脇3枚。

素朴な手ざわり――
北海道名産 アッシ織り

◀北海道・寿でPONさん。素朴な手ざわりってチョット、アナタ、やぁだ、もう。イヤラシイわね。触ってみちゃったわけ？ あのアッチャンに。でも素朴というのはちょっとイメージに合わないわね。小結5枚。

◀大阪府・ちーぼーさん。この方は女の方なんです。それはわかっています。でも、似ている。この髪型といい、目のあたりといい。その人の名は、そうユニコーンのテッシーさん。似てるよねー。似てない⁉ 大関4枚。

季節の味でもてなし

◇富山・奥田校下民生委員 独居老人を昼食に◇

富山市奥田校下の民生委員や給食ボランティアの主婦らが十九日、同公民館で独り暮らしのお年寄りたちを昼食会に招いて喜ばせた。

同自治振興会の企画で、四十人の主婦らが調理に腕を振るった。献立はクリご飯にマツタケのおすまし、ブリの塩焼きなどで季節の味をいっぱいに盛りこんだ。

集まった三十人のお年寄りたちは、心のこもった手作り料理を味わいながら会食。主婦らの民謡踊りもあり、招かれた堀田タニさん(七七)=下新町=も飛び入りの「ドジョウすくい」を披露して和気あいあいだった。

心づくしの手作り料理を味わいながら民謡踊りを楽しむお年寄りたち

▲富山県・スーパーナベさん。久しぶりの、そしてしつこいぐらいの民生ネタ。民生ネタは結構たくさんくるんだけど、これはハマッています。奥田校下、民生委員だものねえ。記事もなんだかホッとするような。多いネタなので、技アリ一本！ っていうヒネリの効いたもの期待してます。小結5枚。

みーっけ

JR 呼人駅

▶北海道・feeさん。なんとも小さくてかわいらしい駅。ヨヒトでなくヨビトって読むらしいけど。ここ無人駅なんだって。呼人駅でありながら、いくら呼んでも人はいない、と。うーん不思議。関脇3枚。

何の用だ今さら
ちょっと礼が言いたくてな
BE THERE

◀茨城県・いなばさんのほくろさん。マンガからのみーっけが増えてます。中でもこの小林昭夫さんの「Heyブラザー！」にはB'zネタがいっぱいでビックリ。マンガも人気のバロメーターなんだね。前頭2枚。

クスクスが主食

◀東京都・私は高くつく女⁉さん。知ってる人も多いと思うけど、クスクスとは北アフリカ独特のパスタの一種。誰？ ジローくんがおいしそうとか言ってるのは。でも食卓に並んだら、食欲をそそる色彩かもね。関脇2枚。

定年後のうつを防ぐ

▲新潟県・加藤美季子さん。定年後うつになる人が多いらしい。ウツになる？ しかも定年後に。想像するとそれはちょっと怖いモンがある。(笑) オイオイ、うつ違いだって。大関2枚。

▼千葉県・STMさん。どこからでも見つけてくるんですねえ、みなさん。担当者としては、嬉しいかぎりです、ホント。それにしても、育児用のこのお菓子、食べたんでしょうか。栄養成分強化ってあるけど。小結5枚。

◇福島競馬5日目成績

1 着馬	単勝		複		勝			連勝複式	
1ヤマトスフィンクス	450	⑤	200	⑥	1840			⑤―⑥	8130
2ターフダンサー	360	①	150	⑪	160	⑩	170	①―⑧	440
3クックバード	260	②	140	⑨	170	⑩	220	①―⑤	530
4アグリーメント	260	⑫	150	⑧	250	③	270	⑥―⑧	900
5エトワールウイン	3950	⑭	720	⑦	320	⑬	640	⑤―⑧	4570
6レオプラザ	780	⑩	380	①	270	⑫	210	①―⑥	1600
7ロングシーマー	290	⑪	150	⑧	330	②	250	⑥―⑧	1430
8ユニコーン	1030	①	310	⑨	980	⑧	190	①―⑥	2060
9スズノムテキ	430	④	210	②	140	⑥	160	②―④	1280
10レッドダンディー	1030	⑫	230	③	140	⑥	470	③―⑧	830
11ナカハマエース	1450	⑭	400	⑬	1450	⑩	320	⑦―⑦	15060
12ジャックダイオー	630	③	230	⑥	600	⑮	620	②―③	620

▲宮城県・なまけものの嵐さん。これはひょっとして競馬新聞⁉ これを見つけたところをみると、あなたはきっと世間でいう「オヤジギャル」なんでしょうか。競馬場行くときに、赤鉛筆耳にはさんでないでしょうね。前頭5枚。

MORINAGA
育児用調製粉乳使用
栄養成分強化

Let's Search Your Best Songs!
ベストソングスを探せ！

SIDE-A

TIME TO COUNTDOWN
TMN
『RHYTHM RED』

まさにオープニングにふさわしい曲。イントロのピアノは師走の雑踏のよう。

神様が降りてくる夜
川村かおり
(シングル)

こういうひそかにクリスマスを意識した曲というのはいいなぁ。

星降る夜に騒ごう
B'z
(シングル)

やっぱり日本人にとっては、年越しはお祭りだよね。

スターな男
UNICORN
『ケダモノの嵐』

「ふりかえるな、ふりかえると終わり」というのが年末っぽい。

New Dream
UP-BEAT
『inner ocean』

タイトルはテーマに合ってるけど、歌詞はすこしヘビーな気が……。

今月発表の課題
ゆく年くる年

いやー、今年もどんづまりまできましたが、読者のみなさんはいかがお過ごしでしょーか？　さて。今月ボクはとても悲しい思いをしています。そして今月のこのコーナーはとても楽でした。読者のみなさんにはなんのことやらさっぱりわからないと思うけど。つまり、ハガキが少ない→集計が楽→仕事が楽、という図式がなりたってしまったのです。やっぱりテーマが悪かったのだろうか。今月のテーマではクリスマス・ソングも入っていたのだけど、あえてすべてはずしました。(ハッキリいって暴挙)「今月のセレクション」に一つだけ入ってしまいましたが、これは採用されたので、という理由で掲載します。

当選の２曲はブッチぎりです。

当確では、真心ブラザーズとフライングキッズが初当確。こうして見てみると、なんだかバラバラ。(笑)それぞれの「ゆく年くる年」となると、やはりファンのアーティストに偏ってしまうみたいで票がかなり割れました。

当選
大多数の支持があったもの

TIME TO COUNTDOWN
／TMN『RHYTHM RED』
APOLLO
／大江千里『APOLLO』

当確
複数の支持があったもの

星降る夜に騒ごう
／B'z(シングル)
January　／大江千里『乳房』
シャ・ラ・ラ
／Southern All Stars
(シングル)
Children of the New Century
／TM NETWORK
『humansystem』
10YEARS
／渡辺美里『ribbon』
歩いていこう
／JUN SKY WALKER(S)
『歩いていこう』
どかーん
／THE 真心ブラザース
『ねじれの位置』
幸せであるように
／フライングキッズ
『続いていくのかな』
Easy come, Easy go／
／B'z『RISKY』
tokyo　／渡辺美里『tokyo』
これから
／大江千里『APOLLO』

推薦
なるほどと思ったもの

謹賀新年　／種ともこ『オ・ハ・ヨ』
Good time & Bad Time
／小田和正
『Far East Cafe』
Count Down
／CHAGE & ASKA
(シングル)
A HAPPY NEW YEAR
／松任谷由実
『昨晩お会いしましょう』
NEW YEAR'S EVE
／浜田省吾
『FATHER'S SON』

推薦のラインナップでは、その名もズバリの『謹賀新年』が出色です。ユーミンの曲は映画「わたしをスキーに連れてって」で使われてた。あのシーンを見るたび、「いいなぁ」と思うのはボクだけではないはず。

えー、個人的意見に走ってしまったので、ここで職務にもどります。今月のセレクションは埼玉県の匿名希望さん(18歳、女性)。ユーミンとフリッパーズがナイス。

次回の課題
ゲレンデで聞きたい曲

SIDE-B

Sugar townはさよならの町
松任谷由実
『DA・DI・DA』

今どきこんなにいじらしい女の子がいるのだろうか？

一人じゃいられない
チェッカーズ
(シングル)

冬は人恋しくなる季節。心も体もあたためあえるからね。

CHRISTMAS CHORUS
小室哲哉
『Digitalian is eating breakfast』

この曲のミソは、クリスマス・ソングなのに〝Happy New Year〟と歌ってるところ。

Red Flag on the Gondora
Flipper's Guitar
『Three cheers for our side』

元の曲は外国民謡。さすがの発音、と感心してしまいました。

A HAPPY NEW YEAR
松任谷由実
『昨晩お会いしましょう』

二人だけのクリスマスもいいけど、一緒に年越しっていうのもいいよね。

応募方法

官製ハガキを使用してください。裏面に、その都度出されるテーマにしたがって、あなたがピッタリだと思う曲名と歌っているアーティスト名(シングルのみの発売の場合は「シングル」、ベスト・アルバム収録の場合はその旨を明記してください。アルバム名を表示するのはオリジナル・アルバムにかぎって行ないます)を10曲書いてください。注意してほしいのは、同じアーティストからの曲は３曲までということ。10曲入っていなかったり、インストゥルメンタル(演奏のみの曲)、洋楽が入っていてもボツです。また、あきらかにテーマにそぐわない曲は、編集部で判断して発表からはずす場合があります。10曲の曲順もちゃんとみているからね。ビシッと決めて、コメントなどをチラッとだけでもいいから書いてくれたらうれしいです。

そして、あなたの住所・氏名・年齢・職業(学年)を明記のうえ、次の住所まで送ってちょうだい。

〒156-91 東京都世田谷区千歳郵便局私書箱15号　CBS・ソニー出版 GB編集部「ベストソングスを探せ！」係まで。

来月号（３月号）発表のテーマは「バレンタインデーに贈りたい曲II」(すでにしめきりました)、再来月号（４月号）発表のテーマが、今月出題した「ゲレンデで聞きたい曲」です。締め切りは１月16日必着なので、年賀状のあまりにでも書いてくれたまえ。また、こんなテーマで……という要望も募集するよ。ふるってご応募を！

ARTIST HISTORY

松任谷由実

この季節になるとやっぱりユーミン。浮き沈みの激しい音楽シーンの中で常にトップを走る彼女の歴史をたどる。

HISTORY

ユーミンがデビューしたのは1972年。まぼろしのシングルと言われる「返事はいらない」で、アルファ・レコードからのリリースだった。ちなみにユーミンが今の東芝EMIに移籍するのは1978年だ。彼女が18歳のときで、まだ多摩美術大学に在学中のことだった。いまでこそ15〜16歳のアイドルがデビューするのはあたりまえだが、この時期、しかもアイドルではなくアーティストとしてのデビューは異色だった。このころのユーミンの曲調は今とは若干ちがい、そのころ勉強していた絵の影響がかなりみられる。歌詞に注目がきたのはシングル「ルージュの伝言」。1975年(昭和50年)リリースのこの曲の歌詞は朝帰りする女の子の微妙な心理を描写したものだが、まだまだ保守的だった社会にこの歌詞はショックを与えた。また「卒業写真」は現在ナツメロのようになっているが、このころに発表されたもの。

ユーミンの転機は1976年に来る。アレンジャーの松任谷正隆氏との結婚だ。ユーミンは旧姓と現在の姓と両方で有名という珍しいアーティストにもなるのである。

ユーミンの曲には「どこかで聞いたことがあるようなメロディーだなぁ」と思わせるポピュラリティと「あ、そういうこと、あるある」と感じさせる鋭い観察眼がかねそなわっている。たとえば「あの日にかえりたい」「最後の春休み」「DESTINY」「恋人がサンタクロース」「サーフ天国スキー天国」など、タイトルは知らなくても曲を聞くと「あ、知ってる」となる曲がたくさんあると思う。それだけ彼女の曲が、大衆に訴えかける力が強いということだ。そして、その最たる結果が、一昨年に爆発的人気を獲得した「リフレインが叫んでる」であった。失恋した人なら誰でも絶対思ったであろう感情を過不足なく表わしたこの歌詞は多くの人に共感を与えた。今までこのテーマを取り上げようとしたアーティストもいたであろうが、彼女の切り口が斬新であり、直接的であったがためのヒットなんだろう。

〝トレンディなもの〟というレッテルを貼られた感があるが、そうではない。ユーミンは常に現在の若者の心を歌にしているのだ。人の心の底で誰もが思っていることを最もドラスティックな形で目の前に提示してみせる。リスナーはそこではじめて自分が感じていたもどかしさを整理された言葉で反芻するのだ。そして、そこまで計算するのが彼女の真にすごいところなのだ。

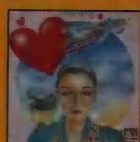
応募方法

この欄を書くのが苦痛になってきてしまった。今月のユーミンもハガキがほとんどきていない。来月の「浜田省吾・シングル以外の曲ベストテン」にも今のところほとんど投稿がない。アルバムすべてにわたってじっくりと聞き込む人は、「そんな雑誌に投稿するなんて……」と恥じ入る奥ゆかしい人なのだろうか。シングル・カット以外の曲のベストテンです。送ってね。住所↓〒156-91 東京都世田谷区千歳郵便局私書箱15号 CBS・ソニー出版 GB編集部「アーティスト・ヒストリー○○係」へ。○の中にアーティスト名を入れてね。

DATA

松任谷由実（旧姓・荒井）
1954年1月19日生まれ
GB初登場'81.11月号

ひこうき雲
ひこうき雲／曇り空／恋のスーパー・パラシューター／空と海の輝きに向けて／きっと言える／ベルベット・イースター／紙ヒコーキ／雨の街を／返事はいらない／そのまま／ひこうき雲

MISSLIM
生まれた街で／瞳を閉じて／やさしさに包まれたなら／海を見ていた午後／12月の雨／あなただけのもの／魔法の鏡／たぶんあなたはむかえにこない／私のフランソワーズ／旅立つ秋

COBALT HOUR
コバルト・アワー／卒業写真／花紀行／何も聞かないで／ルージュの伝言／航海日誌／チャイニーズ・スープ／少しだけ片思い／雨のステーション／アフリカへ行きたい

THE 14th MOON
さざ波／14番目の月／さみしさのゆくえ／朝陽の中で微笑んで／中央フリーウェイ／何もなかったように／天気雨／避暑地の出来事／グッドラッリ・アンド・グッドバイ／晩夏（ひとりの季節）

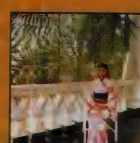
紅雀
9月には帰らない／ハルジョオン・ヒメジョオン／私なしでも／地中海の感傷／紅雀／罪と罰／出さない手紙／白い朝まで／LAUNDRY-GATEの想い出／残されたもの

流線形'80
ロッヂで待つクリスマス／埠頭を渡る風／真冬のサーファー／静かなまぼろし／魔法のくすり／キャサリン／Corvett 1954／入江の午後3時／かんらん車／12階のこいびと

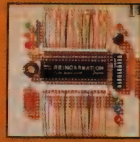
OLIVE
未来は霧の中に／青いエアメイル／ツバメのように／最後の春休み／甘い予感／帰愁／冷たい雨／風の中の栗毛／稲妻の少女／りんごのにおいと風の国

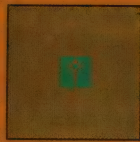
悲しいほどお天気
ジャコビニ彗星の日／影になって／緑の町に舞い降りて／DESTINY／丘の上の光／悲しいほどお天気／気ままな朝帰り／水平線にグレナディン／'78／さまよいの果て波は寄せる

時のないホテル
セシルの週末／時のないホテル／Miss Lonely／雨に消えたジョガー／ためらい／よそゆき顔で／5の向こう岸／コンパートメント／水の影

SURF & SNOW
彼から手をひいて／灼けたアイドル／人魚になりたい／まぶしい草野球／ワゴンに乗ってでかけよう／恋人がサンタクロース／シーズン・オフの心には／サーフ天国スキー天国／恋人とこないで／雪だより

水の中のASIAへ
スラバヤ通りの妹へ／HONG KONG NIGHT SIGHT／大連慕情／わき役でいいから（4曲入り）

昨晩お会いしましょう
タワー・サイド・メモリー／街角のペシミスト／ビュッフェにて／夕闇をひとり／守ってあげたい／カンナ8号線／手のひらの東京タワー／グレイス・スリックの肖像／グループ／A HAPPY NEW YEAR

PEARL PIERCE
ようこそ輝く時間へ／真珠のピアス／ランチタイムが終わる頃／フォーカス／夕涼み／私のロンサム・タウン／DANG DANG／昔の彼に会うのなら／消息／忘れないでね

REINCARNATION
REINCARNATION／オールマイティ／NIGHT WALKER／星空の誘惑／川景色／ESPER／心のままに／ずっとそばに／ハートはもうつぶやかない／経る時

VOYGER
ガールフレンズ／結婚ルーレット／ダンディライオン〜遅咲きのタンポポ／青い船で／不思議な体験／ハートブレイク／TYPHOON／TROPIC OF CAPRICORN／私を忘れる頃／時をかける少女

NO SIDE
SALAAM MOUSSON SALAAM AFRIQUE/ノーサイド/DOWNTOWN BOY/BLIZZARD/一緒に暮らそう/破れた恋の繕し方教えます/午前4時の電話/木枯らしのダイアリー/SHANGLILAをめざせ/〜ノーサイド・夏〜空耳のホイッスル

DA・DI・DA
もう愛ははじまらない／2人のストリート／BABYLON／SUGAR TOWNはさよならの町／メトロポリスの片隅で／月夜のロケット花火／シンデレラ・エクスプレス／青春のリグレット／たとえあなたが去って行っても

ALARM à la mode
さよならハリケーン／土曜日は大キライ／ジェラシーと云う名の悪夢／20 minutes／Autumn Park／Holiday in Acapulco／3-Dのクリスマスカード／ホライズンを追いかけて/白い服、白い靴/パジャマにレインコート

ダイアモンドダストが消えぬまに
月曜日のロボット/ダイアモンドダストが消えぬまに/思い出にあいたくて/SWEET DREAMS/TUXEDO RAIN/SATURDAY NIGHT ZOMBIES/続 ガールフレンズ/ダイアモンドの街角/LATE SUMMER LAKE/霧雨で見えない

Delight Slight Light KISS
リフレインが叫んでる／Nobody-else／ふってあげる／誕生日おめでとう／Home Townへようこそ／とこしえにGood Night／恋はNo-Return／幸せはあなたへの復讐／吹雪の中を／September Blue Moon

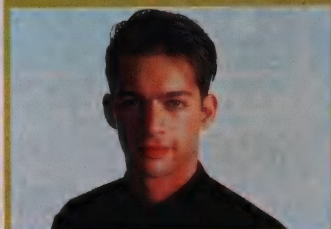
Love Wars
Valentine's RADIO／WANDERERS／Love Wars／心ほどいて／Uptownは灯ともし頃／トランキライザー／ホームワーク／届かないセレナーデ／Good-Bye Goes by／ANNIVERSARY

天国のドア
Miss BROADCAST／時はかげろう／Aはここにある／満月のフォーチュン／Glory Birdland／ホタルと流れ星／Man In the Moon／残暑／天国のドア／SAVE OUR SHIP

［シングル］23枚　［ライブ・アルバム］YUMING VISUALIVE DA・DI・DA（'85.6.）［コラボレーション］シングル「今だから」（小田和正・財津和夫・坂本龍一・高中正義・高橋幸宏・後藤次利とともに。'85.6.）［ビデオ］コンパートメント（TRAIN OF THOUGHT）（'84.）

ノージは蟹でも先どりる 1991

ついに、ついにやって来る。ニュー・キッズ・オン・ザ・ブロックのみなさんがやって来るのよッ！ FAB5ファンのみなさん、東京ドームでお会いしましょう。

今月のお客さま！

⇧どへへ、ステキでしょ。ダンディでしょ。ひん死のジャズ界が生んだ奇跡、ピアニストにしてボーカリストのハリー・コーニックJr.さんよ。ちょっぴりノスタルジックでスウィンギーなピアノ、そして若き日のフランク・シナトラばりの甘い歌声にノージはめろめろのデレデレなのよ♡ しかも、若い。'67年生まれの23歳！ ひゅーひゅー。全編歌もののアルバム『ウイ・アー・イン・ラブ』はノージの愛聴盤。ルックスにひかれた人は迷わず聞いてみなさい。損はさせないぜッ。来年、来日するかも。ドキドキ♡

●まずは、25回に1度しか当たらないジョークを日々連発しているというマネージャーを持つ悲運のアーティスト、松岡英明さまからだ。「松岡英明さんのラジオやテレビなどの出演予定があったら教えてください」（神奈川県・畜生！ 畑野万作）年末年始の松BOW登場番組を教えてあげよう。テレビは12月27日放映のテレビ朝日〝TVロック・ショー〟。そしてラジオ。まずは12月29日放送のNHK-FM〝FMリクエスト・アワー・スペシャル〟。それから'91年1月8日のJFN系〝ポップナウ〟。

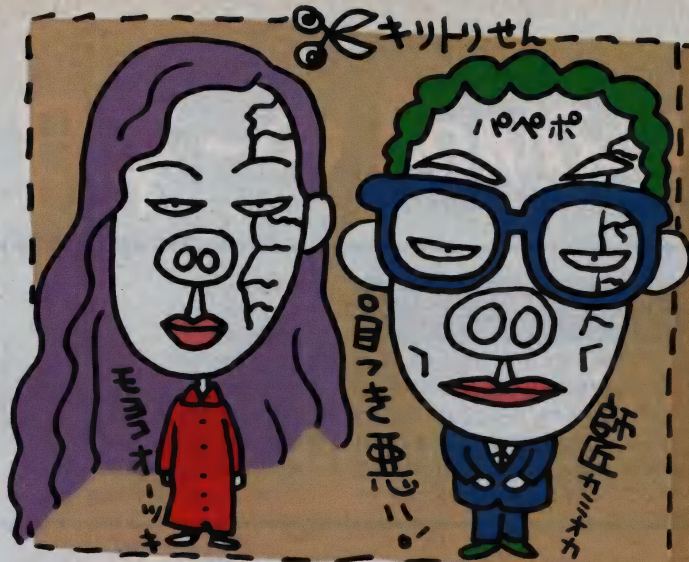
●続いて。大好評の裏方さまシリーズだ。「私、恥ずかしながらスタイリストになる夢を持っています。で、めちゃめちゃ尊敬している人がいるんです。いつもTMNのスタイリストをしてる岩瀬朱実さん。どういうきっかけで今の仕事を始めたのかとか、教えてもらえませんか？」（ごめんねッ、お名前をなくしてしまった！）さて、岩瀬さんは1959年11月1日生まれ。さそり座のO型。嫌いな色：ない。好きな食べ物：おでん。という方です……どーいう方なんだッ!? スタイリストになったきっかけは、「ある日、私はスタイリストになろうと思い〝スタイリスト・岩瀬朱実〟という名刺を作った。その日から私はスタイリストになり、今日に至っているというわけです」ということ。うーむ、スタイリストは行動力も大事な要素みたいね。岩瀬さんへのファンレターは、CBS・ソニー出版のGB編集部気付で送ってくれれば、担当者が責任持ってお渡しします。

●「大沢誉志幸大先生のアルバム『LIFE』の一曲のバック・コーラスに〝岡村〟とクレジットがありますが、これはもしや靖幸殿下なのでしょうか!?」（東京都・吉川のアルバムでも発見）違います。はい、次。

●さてさて。お待たせしました。B'zのお二人の登場です。今月は原点・オブ・質問。不思議に思ってもなかなか聞けないこの質問からスタートだ。「B'zの名前の由来って何なんですか？ 私と友達の間では、アルファベットの最初と最後をとろうと思ったら〝エイズ〟になっちゃうんでB'zにしたんじゃないかってことになってるんですが……」（福岡県・K.KOMURO）みなさまのアイドル、BMGビクターの深瀬さんが答えてくださいます。「〝そうです！〟と言いたいところですが。（笑）最近は企業などでも、イメージ向上のためにアルファベットのロゴを意識した名前をつけたものをよく見かけますよね。で、それを意識したわけでもないんですが。B'zも、簡素化されていて、ロゴとしてもカッコいいものがいいということがありました。そこで、アルファベットのzを使うのはまず決まっていて。そこへいろんな文字をはめていった結果、B'zに決まったんですね」お友達にも教えてあげよう。同じ人からもうひとつ質問。「『LOVING ALL NIGHT』の最初のところで聞こえるのは〝こっちかなあ〟〝違うよ、こっちだよ〟じゃないかなと友達と話してるんですが……」たぶんそのとおりだ、ということです。まだまだ続くぞ。「B'zの2人は、中学・高校のときの部活は何をやってましたか？」（愛媛県・白川真美）松本さんは中学時代に野球をやってたそうです。でも、高校のとき

FANCLUB CHECK

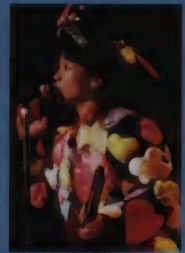
★「THE BOOMのファン・クラブはないのですか？ あるなら教えてください」（山口県・YAMA）
⇨もちろんのこと、ありますよ。その名も〝MOOBMENT CLUB〟。事務所の名前とおんなしやんけ。で、〒150 渋谷区恵比寿3－26－6 MOOBMENT CLUBまで、62円切手を同封して入会案内書を請求してちょうだいね。電話は、03-473-3739です。ノージさんは、BOOMさんにお会いすると超あがっちゃうの。でもみんなすげーいい人。

今月の温故知新

「高野寛さんやMIYAさんが"日本でいちばん好きなアーティスト"と言ってる矢野顕子さんのこと、教えてほしいです」(東京都・バナナマン)
●矢野さんは日本のポップ・ミュージック・シーンを作りあげてきた、偉大なシンガー・ソングライターです。生まれは1955年。'76年にアルバム『ジャパニーズ・ガール』でデビュー。以来、ソロ活動はもちろんのこと、かのYMOのワールド・ツアーにサポート・メンバーとして参加したり、現代音楽のアーティストと共演したりと大活躍。その独特のメロディ、ピアノ・サウンド、ボーカル……どれもが誰にも真似できない個性です。THE BOOMと共演したシングル「釣りに行こう」は、ウルトラ大名曲だったよね。現在はダンナ様の坂本龍一さんと共に、ニューヨークに住んで音楽活動を続けています。海外での評価も高いです。つい先日、デビュー・アルバムから最新作「ウェルカム・バック」までの全アルバムが、ふたつのCDボックスになってリリースされました。『COLLECTION』I&IIというタイトルで、Iは'76年から'79年まで、フォノグラムと徳間ジャパンから出た5枚。1万円です。IIは'80年から'89年まで、ミディ・レコードから出た8枚。こちらは1万8000円。これに、'87年のツアーを収録したライブ盤「グッド・イーヴニング・トウキョウ」(ミディ)を加えれば完璧よ。ちょっと高いけど、揃えてしまえば家宝ものだわよ~ん。

はすでにギターひとすじだったそう。一方、稲葉さんはテニスをやっていたそうです。さーて、まだまだ行っちゃうよん。「B'zの稲葉さんは、いつもどういうテレビ番組を見ているのですか?」(熊本県・甲斐正子)今はツアーの真っ最中なので、ほとんどTVを見る機会がありません。ときどきプロモーション・ビデオが流れる番組は見ているらしいです。
●「KANくんのライブ・ビデオは出ているのですか?」(福島県・秋山一枝)ビデオは出ていませんが、'91年には出すかもしれないとのこと。さて、各地で頑張るKANくんファン。東京都の黒星恵美子さんは、"野球選手が夢だったツアー"の、各地ファンによるレポートをまとめた"KANSペーパー"というのを作ったそうです。とか言ってしらじらしいんですけど。ノージも思わずいちファンとして原稿書いちゃったりしてて。読みたい人は、175円切手を同封して"〒152 東京都目黒区鷹番3-18-14 黒星様方 KANSペーパー"まで出せば、送ってくれるそうです。
●最後はユニコーン様。はるばる広島まで行って聞いてきたぞ。「ユニコーンの『ケダモノの嵐』を聞いてて思ったんですけど。「フーガ」という曲は、ペケペケ・シリーズの完結編じゃないんですか? 何回も聞いていると「おかしな2人」の続きみたいに感じるんですけど……」(福岡県・EBIくんの娘)「勝手に推測してください」(EBI)、「一生は長いんですから」(タミオ)、「ま、人生、山あり谷ありです」(TESSY)と意味深な発言。次。「突然ですが、ユニコーンのみなさんはお料理できますか? 得意な料理があったら教えて」(千葉県・山本登茂子)一同、うーんと唸ってから答えてくれました。「コンビーフ・カレー。僕、カレーにはちょっとうるさいです」(ABE-B)、「得意ではないのですが。今度、かぼちゃグラタンに挑戦してみようと思ってます」(TESSY)、「ワタシはお好み焼きとカレーが得意です。家で作るかって? もちろん作りますよ!」(EBI)、「西部劇に出てくるような豆の料理あるでしょ。チリビーンズとか。ああいうの。あと、オニオングラタンスープ」(西川)、「焼肉」(タミオ)……それは料理とは言わないやんけー、と他のメンバーたちから罵倒されながら、「それでも焼肉!」とあくまでも言い張るタミオがかわいかった。

LIVE MENU

●永井真理子さんの"Catch Ballツアー"の曲順と「御飯食べてる?」の衣装を教えてください。(長野県・たかピー)①White Communication②Time③20才のスピード④Way Out⑤好奇心⑥ありがとうを言わせて…⑦Mind Your Step⑧Pepper And Salt⑨御飯食べてる? ⑩レインボウ⑪23才⑫今、君が涙を見せた⑬Brand-New Way⑭Slow Down Kiss⑮プリティ・ロックンロール⑯Step Step Step⑰キャッチ・ボール☆アンコール①ミラクル・ガール②Ready Steady Go!③One Step Closer スタッフが撮ったので、ちょっとボケてるけど、これです。

今月のもっと知りたい!

みなさんの熱いご要望にとことん応えるこのコーナー。今月は、最近話題の気になる作詞家さんたちが登場だ。
♤「TMNの『RHYTHM RED』の中の歌詞を書いている坂元裕二さんは、他にどんな作詞をしてるんでしょう? あまりにカッコいい表現なのでファンになってしまいました」(東京都・倉島まゆみ)
→坂元さん、そもそもは放送作家の方。で、『RHYTHM RED』以外の作詞は全然していないのだそう。小室哲哉さんの要請で、初めて作詞とゆーものをやったんだというから、まあ、天は二物だわねえ。神さまって不公平だわッ。現在、24歳。若いです。フジテレビ系のシナリオ・コンテストの第1回優勝者で、それがきっかけとなって大盛り上がったドラマ『同・級・生』の脚本なども手がけている。これからも、作詞家としての活動をしてくれるといいのにね。
♤「遊佐未森ちゃんの作詞を手がけている工藤順子さんのことを教えてください。いつもとっても素敵な詞なので、憧れてます。もし、本など出していたら題名を教えてください」(東京都・WINK)
→未森ちゃんの歌詞でおなじみの工藤さん。ほかにも、小川美潮さんや、ポニーキャニオンからデビューしたアイドルの田中陽子さんらに歌詞を提供しています。そして、なんとNHK『みんなの歌』の「風のオルガン」という曲の作詞・作曲を手がけられたとか。うーん、雰囲気ありそう。工藤さんは作曲もされる方だったのね。この曲は、昭和ノートから出ている子供の絵本シリーズに収録されているそうなので、気になった人はチェックしてみてくださいまし。

ノージはハガキを待っている

■こないだ、とある音楽誌でユニコーンや岡村靖幸様のことをわりとマジメに書いたの。が、知らない人にユニコーンの偉大さを伝えるのって難しいわ。GBだったら"バカバカ、ABE-Bのバカッ"と、書いただけで、読者のみなさんは私がどんなに力いっぱいABE-Bを讃えているのか、理解してくれるじゃん? ところが、見ず知らずの人は本当にABE-Bとゆー人はバカだと思ってしまうわけだな。西川さんショウ!とか言っても。ロック・コンサートのなかにいろんなショウがあることを、どーやって説明したらいいのだよッ!? そんなわけで、読者のみなさんも、友達に自分の好きな音楽を広めるのには苦労してんだろうなあと思う今日このごろ。

■この号ができるころには、ノージはおフランスにいるざんす(小山田圭悟©)。マハリック・ハリーリという、変でかわええバンドのトラック・ダウンの取材なんだよん。ほほほほほーッ。ぼんじゅうっ。

■'91年もおハガキよろしくね。①質問②住所③名前④年齢……を書いて。〒156-91 東京都世田谷区千歳郵便局私書箱15号 CBS・ソニー出版GB"ノージはなんでも知っている"係まで送ってね。街中を歩いてると有線でガンガン「愛は勝つ」が流れてきて。うれしい年の瀬だわ。それではみなさん、よいお年をねッ!

PRESENT

○彼氏、彼女がいなくてクリスマスプレゼントがもらえそうにない人、人生きっとどこかでイイことがある／　GBからのプレゼントはどう？

シュワルツェネッガー・テレカがあれば百人力／

CMですっかりおなじみだよね。日清カップヌードルの、シュワルツェネッガー、豪快麵打ちパフォーマンス。あれはなんと、100人分の麵を打ってるんだって！　知ってた？　さて、日清食品から10名様にシュワルツェネッガーのテレホンカードをプレゼント。ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、〒156-91東京都千歳郵便局私書箱15号　CBS・ソニー出版　GB編集部「日清テレカ」係まで、1月21日までに送ってね。当選者の発表は4月号で。

本物志向の音楽番組リードするのはこの3人

山下達郎、坂本龍一、氷室京介という日本の音楽界を代表する3人によるラジオ番組「TOSHIBA PREMIER 3」みんな知ってるかな？　東京FM系26局ネットで、毎週日曜日12：00から12：55に放送中。番組を提供している東芝からオリジナルポスターを10名様にプレゼント。ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、〒156-91東京都千歳郵便局私書箱15号　CBS・ソニー出版　GB編集部「東芝ポスター」係まで。1月21日必着。発表は4月号で。

EVENT

○クリスマスに忘年会、そしてもうすぐ新年会とイベント盛りだくさんのこの季節。みんなはどんなふうに過ごしているかな？　さてさて、オーディションは自分を試すいいチャンス。冬休みの合間にどんどんチャレンジ／

フロム・エー関西版CMソングオーディション

あふれるパワーとセンスで挑戦／TVやラジオで君の曲が流れるかも

フロム・エー関西版ではCMソングを募集します。プロ、アマ問わず未発表のオリジナル曲ならOK。カセットテープに録音のうえ、必ず歌詞を添付して、演奏が作曲者でない場合はその旨を明記。①住所・郵便番号②氏名③年齢④職業または学校名⑤このオーディションを何で知ったか、を書いて郵送してください。グランプリ曲は、近畿圏のTV・ラジオでオンエアされます。送付及び問い合わせ先は、〒530大阪市北区梅田1-11-4大阪駅前第4ビル19F(株)リクルートフロム・エー内FROM A CMソング事務局☎06-344-9652。締め切りは'91年1月31日消印有効。発表は3月中旬ごろに、郵送にて連絡します。

NEW MODEL

○♪もぉいーくつ寝るとぉ、ジャーン／　みんな待望のお年玉。こたつでヌクヌクしながら、あれやこれやと品定めしたら、お店へGO／

子れっずデザインのパジャマ。パジャマニア発表

明るいぐうたら、前向きなわがまま、健康的な快楽がコンセプト

パジャマにしておくだけじゃもったいない。みんなに見せびらかして、自慢したくなっちゃうのがコレ／　オーラの子れっずがデザインしたパジャマ(1万7800円・税別)が、伊藤忠モードパル（株）パジャマニアから新作発表されたのだ／　今までにも高橋幸宏、細野晴臣、遊佐未森、笹野みちる(東京少年)らが登場。子れっずのイメージカラー、紫の(他に黒もあり）チャイナ服風のデザイン。それにオーラのマークの刺繡も入って、オーラのファンの人はもちろん、オシャレな女の子は要チェックだ／

日立マクセルのオーディオ・テープUDシリーズ

UDネットワークは史上最強／TMNツアーチケットが3000名に／

リニューアルしたTMN待望のコンサートツアー、〝RHYTHM RED〟。このツアーのチケットをペアで1500組、計3000名の方にプレゼント。マクセル、UDシリーズのTMNの写真入りプロモーションパックについている応募券を2枚貼って、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記のうえ、〒104東京都中央区京橋郵便局私書箱231号マクセル「UDネットワークメンバーズプレゼント」係までお送りください。締め切りは'91年1月20日消印有効。発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。詳しくは店頭で。

サントリーのホット果汁飲料、あったまるこ

冬の厳しい寒さには、甘さおさえめ「あったまるこ」でホッカホカ

温かいくだもの飲料って、今までありそうでなかったと思わない？　サントリーから新発売の「あったまるこ」(190g、97円・税別)はホット飲料の中でも人気をさらうこと間違いなし。カゼや百日咳など、のどの病気に効果があるキンカンと、南国フィリピンのレモンといわれるカラマンシーがミックスされた爽やかさが魅力。すっきりとした風味とちょっぴりビターな味わいを一度お試しあれ。「あったまるこ」が一本あれば、身も心もホカホカだよ。

日本ビクターの電話アクセサリー「パッチ・ワーク」

ただの電話じゃつまらない。便利さと楽しさを広げる電話アクセサリー

私たちの生活の中で電話の占める割合ってすごく大きいよね。だからもっと楽しく、上手に活用したい。日本ビクターから新発売のテレホンアクセサリー「パッチ・ワーク」をちょっとご紹介。音と光によって着信を確認することができる、テレホンベルリンガー。通話内容をラジカセ等で録音できる、テレホンピックアダプター。その他にも便利で楽しい商品が揃ってるよ。

アイワのミニサイズDATデッキ「XD-S260」

ミニサイズコンポとのシステムアップが可能になった、DATデッキ

新しいオーディオ製品がどんどん出てきて、アレもコレもって迷っちゃうよね。今まで持っていたものが無駄になるどころか120%に生かせちゃうオーディオ商品がコレ。アイワから新発売のミニサイズDATデッキ、XD-S260(9万8000円・税別)。横幅26cmのミニサイズで、アイワのミニミニコンポNS-X9、NS-X7とのシステムアップが可能。最近はやりのAI(人工知能)コンピュータももちろんついてる。これはお得。

カシオの入門用デジタルピアノCPS-740

自動演奏を楽しみながら、自分のペースで気軽にレッスン

カシオから新発売のデジタルピアノ、CPS-740（76鍵、14万8000円・税別）はレッスン機能が盛りだくさん。たとえば、左右のパートを別々に再生する右手／左手別練習機能。片手ずつしっかり覚えられるってわけだ。曲の再生テンポも自由自在に調節できるし、苦手なところはリピート機能で繰り返し再生できる。あなたのウデとペースに合わせて、楽しみながらレッスンできるよね。また、170曲のピアノ曲を内蔵したミュージックライブラリーは、自動演奏を楽しむだけでもOK。

サンヨーのミニミニコンポDC-T55

光信号で音を飛ばすから、ヘッドホンはコードレス

どこでも自由自在にレイアウトできるのが魅力のミニミニコンポ。そのコンパクトさがウケて、人気も急上昇だ。サンヨーから新発売のミニミニコンポ、DC-T55〔WINKY〕（11万3000円・税別）は、遊びゴコロがいっぱい。好きな場所で音楽が楽しめるように、コードレスの光ヘッドホン付き。これはオプトトランスミッターから光信号で音を飛ばすので、電波雑音をうけつけないノイズの少ないヘッドホンと言えるよね。リモコンでレーダーの向きを変えられるので、どこにいたってクリアな音が楽しめちゃうのもウレシイ。

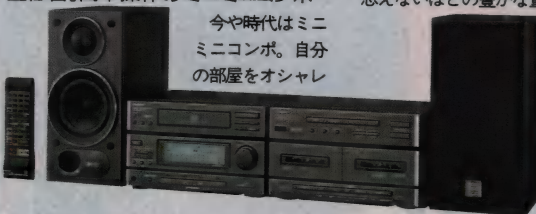
松下電工のグルーミング商品「Da/Teシリーズ」

頭のテッペンから指先まで、男のおしゃれに休暇はない

男のコが脱毛してるぐらいで驚いてちゃ時代遅れだソーですよ。なんてったって、素早くきれいに鼻毛をカットしちゃう、鼻毛専用カッターや、爪の形を整えて、キレイに磨くための、男の子用のネイルケア商品まで出てるんだから。松下電工から新発売の「Da/Te（ダテ）シリーズ」は、そんな気合いの入った男のコのためのグルーミング商品。さきほどのノーズケア（3300円・税別）、ネイルケア（3400円・税別）、なでるだけで毛先をカットできるブラッシュカット（7700円・税別）など。男の子も身だしなみは大切だよね。

シャープのCDステレオCD-JX5

コンパクトながら伸びとキレのある重低音。簡単操作のミニミニコンポ

今や時代はミニミニコンポ。自分の部屋をオシャレに演出する、インテリアとして考える人もこれなら合格なのが、シャープのCDステレオ、CD-JX5（7万8000円・税別）。だけど見た目だけじゃない。小型スピーカーとは思えないほどの豊かな重低音をシッカリ再生。好みの音質や音場を組み合わせて楽しむこともできる。AI（人工知能）コントロールで、操作も簡単なんだから。

ケンウッドのヘッドホンステレオ CP-E7

ポップス、ロック、フュージョン、それぞれに合わせた迫力ある再生で

ミニコンポなどは高音質が当たり前になっている今だから、やっぱりヘッドホンステレオだって、1ランク上を目指したいよね。ケンウッドから新発売の、高音質を徹底追求したヘッドホンステレオ、CP-E7（2万6000円・税別）。それぞれの音楽ジャンルに最適な、迫力ある再生を簡単操作で楽しめるのが特徴。メタルテープ対応だから、カセットデッキ並みの高音質も夢じゃない。で、やっぱり重要なのが、電車の中で聴く機会の多いヘッドホンステレオは、騒音に強くなきゃいけないこと。中低域をズーム・アップすることによって音楽もくっきり。超軽量なのもいいね。

ケンウッドのミニコンポROXY J9LD

AV時代をリードする、フルコンパチブルLDプレーヤー搭載のコンポ

これはもう、ハッキリ言って豪華版。12cmCD、8cmCD、CDV、30cmLD、20cmLDのすべての再生ができる、フルコンパチブル・プレーヤーが搭載されているのダ。ケンウッドから新発売のミニコンポ、ROXY J9LD（26万3000円・税別）は高画質、高音質を徹底的に追求。リアルなサウンド再生が楽しめる。ミニミニコンポのコンパクトな魅力も捨てがたいけど、やっぱり本格的なAVシステムにはひかれてしまうよね。音にも絵にも、こだわりを持っているキミもこれなら満足。

パナソニックのVHS Hi-Fiビデオ NV-F600

「新れんたろう」は色ムラ・ノイズを抑えて大画面でも満足の高画質

大画面テレビが増えてくると、ビデオも高画質を求めるのはトーゼンだよね。パナソニックのVHS Hi-Fiビデオ、NV-F600〔新れんたろう〕（8万円・税別）は、VHS、Hi-Fiビデオで初めての積層型プロ・アモヘッドを搭載。簡単に言えば、色ムラ・ノイズを抑え高画質で楽しめるビデオになったってこと。これなら大画面での再生でもOK。予約録画の際にも、テープの残りが足りなければ、自動的に3倍モードに切り替えて録画してくれるのも、うれしいトコロ。

ソニーのCDラジカセCFD-500

音質重視の人も満足。ハギレのよい重低音再生といえばドデカホーンCD

機能、音質、操作性、どれも重要。そしてどれも充実したCDラジカセが登場。ソニーの〝ドデカホーンCD〟CFD-500（5万4800円・税別）。低音を前面のダクトから効果的に出すことで、ハギレのよい重低音を再生する。そして、このデザインを見てのとおり、ボタンやスイッチは前面に集中。操作状況は中央の液晶ディスプレイに表示されるから、とても使いやすくなったわけだ。多機能だけど、操作は簡単、音質もバッチリといえば、もう言うことなし。

ソニーのウォークマン「WM-EX90」

区間反復再生ができる、薄型多機能ウォークマンが登場

まずはこの薄さを見て！ 厚さ16.7mmの薄型サイズ。それでいて、多機能なソニーのウォークマン「WM-EX90」（3万2000円・税別）が新発売。ヘッドホンステレオ初の区間リピート機能は、ある区間を自動的に何度も巻き戻し、再生できる。だから、自分の好きな曲だけを何度も聴いたり、あと英会話の繰り返し学習にも便利だよね。液晶ディスプレイがついてるので、テープの走行状態、カウンターも一目でバッチリ。

ARTIST GOODS PRESENT

FEBRUARY

○試験も終わって、冬休みに突入だあ。クリスマスあり、お正月ありの、1年でも一番盛り上がるこの時期、どう過ごすのかな。ま、コタツに入ってみかんでも食べながら、じっくり品定めしてみてね。

応募方法

□本誌106ページと107ページの間にあるハガキを使用してください。アンケートがついているので、それにも答えてください。締め切りは1月21日。当選者の発表はGB4月号（2月22日発売）で行ないます。楽しみにしててね。ワクワク。ハガキを出すときは必ず住所・氏名・年齢・電話番号が書いてあるかどうかを確認してください。何を今さら、そんな当然のことって思うでしょ。ところが、けっこう忘れてる人いるんだな。あと切手も。忘れてる人、ボツになっちゃうから気をつけてね。

雑誌公正競争の定めにより、この懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合があります。

▲①BAKUFU-SLUMP・ポスター（提供／CBS・ソニー・3名）

▲②MIEKO・フォトスタンド③同・カラオケテープ（提供／パイオニアLDC・②5名③10名）

▲④Darling Darlin・ポスター（提供／ポリスター・5名）

▲⑤種ともこ・ポスター（提供／シンコーミュージック・5名）

◀⑥渡辺美里・下敷き（提供／明治生命・6名）

◀⑦UNICORN・ポスター（提供／CBS・ソニー・3名）

▶⑧THE ALFEE・スポーツバッグ（提供／ポニーキャニオン・1名）

◀⑨クレヨン社・CDシングル（NECアベニュー・10名）

◀⑩カステラ・ポスター（提供／CBS・ソニー・3名）

▶⑪松任谷由実・万年筆セット（提供／東芝EMI・2名）

◀⑫岡村靖幸・ポスター⑬10月10日、体育の日に行なわれた、"あの娘ぼくがロングシュートを決めたらどんな顔するだろう杯"で岡村靖幸くんが履いたバスケシューズ（提供／⑫エピックソニー・2名⑬GB編集部・1名）

◀⑭東京スカパラダイスORCH・ポスター（エピック・5名）

▶⑮THE STREET SLIDERS・下敷き（エピックソニー・3名）

▶⑯東京少年・ステッカー（提供／ビクター・5名）

▼⑰FAIRCHILD・リュックサック（提供／ポニーキャニオン・3名）

◀⑱遊佐未森・ポスター（提供／エピックソニー・2名）

⑲鮎川真美・ボールペン（提供／東芝EMI・4名）

◀⑳ECHOES・入浴剤（提供／CBS・ソニー・5名）

▶㉑森田浩司・ポスター（提供／CBS・ソニー・3名）

CATTENI JOHOGAN

▲㉒永田真代・CDボックス（提供／フォーライフ・1名）

▶㉓Jasty-Nasty・ポスター（提供／ポリスター・5名）

◀㉔SOFT BALLET・シャーペン（提供／アルファ・10名）

▶㉕PRINCESS PRINCESS・ポスター（提供／シンコーミュージック・5名）

▶㉖さねよしいさ子・ファイル（提供／東芝EMI・3名）

▶㉙FLYING KIDS・ノート㉚バッジ（ビクター㉙1名㉚7名）

㉗Les VIEWマネージャー上木氏・ポロシャツ（提供／上木氏・3名）

▲㉘E-ZEE Band・テレホンカード（提供／ROCK IT・5名）

◀㉛山口岩男・アドレス帳（提供／日本コロムビア・3名）

BACK NUMBER INFORMATION

○GB YEAR BOOK、もう買ってくれたかな？　あれを見れば人気アーティストの、この1年の動きは大体わかります。ホント、保存版なんだから。でも、もっと詳しく知りたい人のために、のBACK NUMBER INFORMATION。では購入方法です。①欲しい号をここでチェックし、書店カウンターで注文してください。（「CBS・ソニー出版から出ているGB○月号を取り寄せてください」と出版社名と誌名をハッキリと）②そのさい、住所・氏名・電話番号を聞かれると思いますので、答えてください。そうすると、だいたい2週間ぐらいでお店に届くと思います（地域によって異なります）から、電話で確認して取りに行ってください。定価は消費税込みで570円（GB DELUXEのみ1000円）です。好きなアーティスト、見逃してない!?

〔90年GB DELUXE〕
TM NETWORK、UNICORN、PRINCESS PRINCESS、米米CLUB、JUN SKY WALKER(S)、大江千里、Dreams Come True etc.　16アーティスト・スペシャル・ピンナップ　別冊付録　SONG BOOK

〔90年GB7月号〕
表紙&巻頭特集・B'z　MB・PRINCESS PRINCESS　SB・スペシャルセレクション／高野寛、B'z、Dreams Come True　特集・TM NETWORK、米米CLUB、BUCK-TICK、Dreams Come True　etc.

〔90年GB4月号〕
表紙&巻頭特集・大江千里　MB・BAKUFU-SLUMP　SB・ニューアルバム全曲集　B'z、UP-BEAT、長渕剛　特集・UNICORN、TM NETWORK、B'z　etc.

〔90年GB8月号〕
表紙&巻頭特集・渡辺美里　MB・JUN SKY WALKER(S)　SB・ニューアルバム全曲集　渡辺美里、JUN SKY WALKER(S)、B'z、FENCE OF DEFENSE　特集・UNICORN、TM NETWORK　etc.

〔90年GB5月号〕
表紙&巻頭特集・BARBEE BOYS　MB・TM NETWORK　SB・ニューアルバム全曲集　BARBEE BOYS、岡村靖幸、GO-BANG'S、THE PRIVATES　特集・PRINCESS PRINCESS、UNICORN　etc.

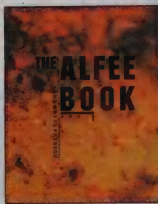
〔90年GB9月号〕
表紙&巻頭特集・JUN SKY WALKER(S)　ジャンボポスター・B'z、PRINCESS PRINCESS　SB・ニューアルバム全曲集　久保田利伸、UP-BEAT、たま　特集・久保田利伸、米米CLUB、B'z　etc.

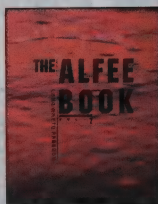
〔90年GB6月号〕
表紙&巻頭特集・小室哲哉　MB・大江千里　SB・永井真理子、ZIGGY、小田和正、小暮伝衛門　特集・JUN SKY WALKER(S)、UNICORN、B'z、米米CLUB、PERSONZ、BARBEE BOYS　etc.

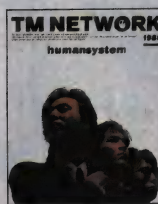
〔90年GB10月号〕
表紙&巻頭特集・大江千里　MB・高野寛　SB・ニューアルバム全曲集　サザンオールスターズ、THE BLUE HEARTS、長渕剛　特集・米米CLUB&久保田利伸、TM NETWORK、PRINCESS PRINCESS　etc.

GB インフォメーション

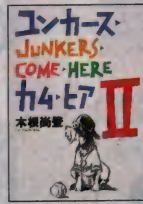
●新刊・既刊のご案内

NOW ON SALE!! 〜好評発売中〜

アーティスト・ブック
THE ALFEE BOOK1
A4変型
定価2300円(税抜)
「メリーアン」ヒットまでのアルフィー上積み（下積みともいう）を写真と文によって綴ったファン必読の一冊。

短編小説集
いたずら天使
四六判
定価1400円(税込)
日向敏文のアルバム『いたずら天使』をモチーフにした、5人の若手ライターによる短編小説集。

アーティスト・ブック
THE ALFEE BOOK2
A4変型
定価2500円(税抜)
レコードジャケット候補写真など、他では見られない写真がいっぱい。メリーアン以降のファンでも楽しみ読める。

TMN写真集
RHYTHM RED
B4判・豪華特殊仕様
定価3200円(税込)
新しいプロジェクトに合わせて発売されたTMN写真集。最新撮り下ろしフォトのみで構成する、豪華仕様の完全限定版。

アーティストブック第2弾
TM NETWORK humansystem
A4変型
定価1300円(税抜)
アルバム「humansystem」と同時発売。レコーディングレポート&特写満載!!

須藤晃・小説集
地上の虹
四六判
定価1200円（税込)
本誌で連載中の、プロデューサー・須藤晃氏による連載小説「ROCK'NROLL ROMANCE」の単行本化。真のロック小説の誕生。

木根尚登・書き下ろし小説
ユンカース・カム・ヒア
A5判
定価1240円(税込)
〝3つの奇跡〟を持った、言葉をしゃべる犬・ユンカースが大活躍!! ユーモア・コメディー第1弾!!

木根尚登・書き下ろし小説
ユンカース・カム・ヒアII
A5判
定価1240円(税込)
木根尚登・書き下ろし小説第3弾は、話題をまいた「ユンカース・カム・ヒア」の続編。3つの奇跡の秘密は明らかに!?

徳永英明アーティストブック
MYSELF
A5判
定価1500円(税込)
徳永英明の素顔を収めた、ビジュアル、読み物ともに充実した一冊。撮り下ろしフォトや未公開フォトも満載です!

アーティスト・スペシャル年鑑
GB YEAR BOOK '90-'91
GBサイズ
定価1000円(税込)
人気アーティストのこの一年は、これ一冊ですべてわかる。約300アーティストのデータを掲載した、超保存版!

●お知らせ

○ジャーン。上の欄が増えました。最近出たものだけじゃなく、ちょっと昔に出たものも紹介していきます。えっ!? こんな本出してたの? 早く教えてよーと思っている方、スミマセン。今からでも遅くはありません。書店へ急ごう!

○さて、年末恒例のGB YEAR BOOK、もう読んだ? これはもう一家に一冊モノなのよ。約300アーティストのデータ（レコード会社から事務所、もちろんファンクラブまで）が載っているんだから、恐いモンなしよ。

STAFF
●ART DIRECTION——— MASA-AKI ITOH
BE. TO BEARS
●ILLUSTRAITION——— MASA-AKI ITOH
JIMMY INAGAKI
●EDITORIAL——— YUKO NOUJI
●DESK——— EIKO YAMAGUCHI
KYOKO SUZUKI
●READERS BRAIN——— NORIKO ONOZAWA
RUMIKO SATOH
IZUMI FUSE
YUKIE MATSUYOSHI

○読者ブレーンの応募締切迫る! 読者ブレーンとして一緒に「情報CAN」を手伝ってくれる人、締切は1月5日!

「GB YEAR BOOK '90-'91」お詫びと訂正

12月4日発売のGB別冊「GB YEAR BOOK '90-'91」の中で、下記の間違いがございました。深くお詫び申し上げるとともに、ここに訂正させていただきます。

●「JUN SKY WALKER(S)」のページについて

P14の最終行からP16の最初の行の間に下記の文章が欠落しておりました。

《〜武道館ライブは、初日が「ヘビードリンカー・ツアー総集編」、2日目が「次へのステップ編」、最終日は「わりとノリノリ編」と毎日テーマが変わり、メニューも違うという意欲的なライブだった。ツアーの成果か、ずいぶん力強いステージだった。安定感も増し、大きくなったJ(S)Wがそこにいた。デビュー以来、飛ぶ鳥を落とす勢いで急速に加速したJ(S)Wだったが、彼らがそんな周りのスピードにとまどう時期を過ぎ、自分たちのスピード、スタンスというものを身につけたのが、〝HEAVY DRINKER〟ツアーだったように思う。そして、そのツアーを終えた彼らのさらなるスタート地点が、この武道館公演だったと思う。2日目にはすでに「やだな」「すべて」「Let's Go ヒバリヒルズ」を演奏している。

「〝HEAVY DRINKER〟ツアーというのはある種、次のアルバムの予告編かもしれない」と、年末に和弥は言っていた。

レコーディングを終えて、恒例の（雨まで恒例だ）日比谷野外音楽堂からスタートした〝Let's Go 4匹〟ツアー。「全部このままで」から始まるステージは、途中に呼人のピアノの弾き語りや、小林と呼人が歌う「みんなの願いはただひとつ」のカバーなどをはさみ、ある種J(S)Wのヒット・ナンバーが詰まったコンサートだった。しかしそこには、以前感じたような〝か細さ〟はなかった。「前のツアーだと避けなきゃいけない選曲かもしれない。だけど、今だからこそ自信を持ってできるんですよ。俺らの作品は俺らにしかできないという」（純太）。これは武道館でも感じたのだけれど、J(S)Wに対する観客のさまざまな思いを受け入れてしまっても、それに押しつぶされないだけのタフさと包容力を感じた。そして当然、その姿の裏には、ツアーを行なうことで身につけた自信がある。「今回のツアーでは今までやってきたことを壊していきたい。僕らはツアーを回っていくなかでしか、ハードルを越えていけないのかもしれない」（呼人)。「ツアーをやらない人もいるだろうけど、僕はツアーをやっていきたい。成長もまだまだするだろうしね」（小林)。

6月になってミニ・アルバム『Let's Go Hibari-hills』が発表になる。〝HEAVY DRINKER〟ツアーでは多くの新曲を披露していたので、この、ミニ・アルバムというスタイルには驚いてしまった。賛否両論あったが、十分にテンションの高い作品になっていると、私は思う。アレンジャー・松任谷正隆氏との共同作業という試みも、ひとつのチャレンジとしては成功していると思う。その挑戦が彼らに何をもたらしたのかは、次作の発表を待たなければ何もいえな〜》

●米米CLUBのページについて

下記傍線部のとおり訂正いたします。

（P77）シングル「SHAKE HIP」の発売は12月12日。プロモーションVTR録りが行なわれた「ピーピング・トム」のシングル発売の予定はありません。

（P173）カールスモーキー石井の血液型はO型です。

（P174）フラッシュ金子の出身地は千葉県佐倉市。ファンクラブ〝カムカムクラブ〟の入会方法は、62円切手を同封のうえ、〒150 東京都渋谷区恵比寿西2-14-5 WEST214〝カムカムクラブ入会希望係〟まで郵送して、入会案内書を請求してください。詳細は☎03-780-1013（入会案内インフォメーション）まで。また、デビュー曲「I CAN BE」、シングル「PARADISE」、アルバム「KOMEGUNY」の表記も訂正いたします。

PERSONZ

JILL PRECIOUS-HEARTED

●JILL――PERSONZのボーカリストとしてはもちろん、ひとりの人間としても実に魅力あふれる人だ。
ニュー・アルバム『PRECIOUS？』も、そんな彼女の"意志ある歌"が数多く収められている。
JILLの内側に広がるさまざまな想いを、アルバムの中の作品を通してじっくりと語ってもらった。

PHOTO●MAKOTO WATANABE　COPY●MINEKO KASAI

突き放すだけの言葉とか、反対にヌクヌクしてるだけの詞は、このバンドにはいらない。

今月はアルバム『PRECIOUS？』をめぐるJILLの気持ちを聞いてみた。

先月号のインタビューにもあったように、『PRECIOUS？』に収められている彼女の歌詞においては、ある俳優の死がとても大きな意味を持っているようだ。その影響が、ある曲では直接的に表面に現われ、またある曲ではJILL自身も気づかないうちに断片となって作品に忍び込んだりして、結果的に13編の詞ができあがった。

「だから、『PRECIOUS？』の真ん中には愛があるんですよ」とJILLは言う。何に対する愛なのか、どんな形の愛なのか。彼女自身の言葉から、そのイメージをより鮮明に広げてもらえれば、と思う。

●ひとつの死と直面して

「優作さんの死に関してはね、たとえばウチの事務所でも（石橋）凌とかがすごくショックを受けてるのを見てたし、私もまた違った意味で、これは糧にしなければってすごく思ったの。ていうのは、お葬式ってやっぱり暗いイメージがあるじゃない。だけど、その場ではみんなすごくいい話をしてたのね。ポジティブっていうか、自分たちも何かやらなくちゃいけないっていう人たちがたくさんいて。それで、ああ自分もそうだなって思ってね。そんなことから〝大切なもの、尊いものってなんだろう？〞って考え始めた。かなり長い間、1年ぐらいそういうことを考えてたんだよね。で、結果的に詞を書く段階になって頭の中に浮かんだことは、やっぱり、当たり前のことだけど、いちばん大切なものは人間の命、生きてることだってこと。それから、本当に誰でも明日のことはわからないんだってこと。今日がとてもいい日だったとしても、明日はどうなるか誰にもわからない。だから、なんでも一生懸命にやって、やれることはなんでも早めにやろうって。本当に身にしみてそう思った。おかげで私、胃潰瘍になっちゃったんだけどね。（笑）今までは全然そういう体質じゃなかったのに、レコーディング中、まったく気を休める暇がないくらい根つめちゃって。こんなに一生懸命やるなんて、もしかしたら私、死期が近いのかも、なんて思ったときもあったぐらい。（笑）まあ、おかげで満足のいく作品ができたからよかったんだけど。

ただ、そういうある偉大な人の死を思う気持ちや、そこから生まれた想いが、追悼のために1曲っていう形じゃなくて、いろんなかけらになって13個の詞の中に出てきたっていう、それが結果的にはとてもよかったと思う。だから、どの曲にも底のほうにはそういう気持ちが流れてるんだけど、一曲一曲は、いろんなテーマで自由に書くことができたしね」

●せつない歌

「〝せつなさ〞っていうのは、やっぱりPERSONZの歌詞には欠かせないものだと思うのね。これは貢にも言われたんだけど、突き放すだけの言葉とか、反対にヌクヌクしてるだけの詞は、このバンドにはいらない。ときどき、もっと強く言ってしまいたい衝動にかられることもあるけど、でも、もしそういう作品を作ったら後悔するんじゃないかな。やっぱりどこかに救いがないと、って私は思ってる。

特に貢の曲には、せつない歌詞がのってしまうんだよね。本当にこれでもかっていうぐらい、せつなくするほうがいいみたい。彼の書くメロディー自体に、なんかそういう独特の湿った感じがあるでしょう。セピア色っていう言葉もすごく好き。日本語の〝せつない〞って言葉によく合うんだよね。今回は「MARQUEE MOONを聞きながら」の中で〝セピア色〞と〝せつない〞を使ってる。商店街かどこかで、ふと思いがけず自分にとって思い出深い音楽が流れてきて、一瞬場面が遠い昔に戻ってしまうような感覚ってあるでしょ。それを〝セピア色した街並みがせつない〞って言葉で表現してみた。だから、曲はべつに「MARQUEE MOON～」じゃなくてもなんでもよかったんだけど、語感自体がいいし、それに、個人的に私にとっては〝テレビジョン〞の「MARQUEE MOON」って、実際に街の場面を変えてしまうような、そういう思い出のある曲なんですよ」

●世代間の出会い

「貢の曲とは反対に、毅が作るビートものはね、なるべく語感がカッコイイ言葉をのせたくなる。だから英語が多くなっちゃうんだけどね。今回の「MATERIAL MONSTERS PANIC/」なんか、モロにそう。怪獣っていうイメージがあると毅もギターの音で表現しやすいだろうし、喜ぶだろうと思って。

明日はどうなるかわからないって思うと、本当にいろんなことが大切に思えてくる。

今回のアルバムでは、ずっと使いたいと思って温めてた言葉がほとんど全部使えたのね。MATERIALもMONSTERSもPANICも別々に使いたいなあって思ってたら全部まとめて使えちゃったし、あとNEO BARBARIANS、ENFANT TERRIBLEなんかもそう。このふたつの言葉はどっちも現代の子供たちを指してる言葉ですね。

やっぱり自分たちの世代とは違うなあって思うのね、今の若い人たちを見てると。だから「NEO BARBARIANS」で、たとえばホコ天のことを指して、〝みんな髪立てておんなじ格好!〟みたいに言えたのはけっこうスッキリした。(笑)だけど、〝自分たちとは考え方が違うから知らないよ〟ってまるで接点を持たないままじゃ、何も進まない。今の学校は、先生と生徒がきっとそういう関係になっちゃってると思うんだけどさ。サビのところの〝夢のすきまから　きっと出会える〟っていうのは、だからそういう意味です。違う世代でもきっと出会える場所はあるっていう。私たちにとってはライブの会場がまさにそうだよね。違う世代でも出会って接しなければ、お互いに理解しあえないままだと思うし。

理解しあえないっていうのは、やっぱりどっちにも悪い部分があるんだと思う。だから、現在の学校問題にしても、先生のほうにも悪いところはあるけど、生徒のほうにも悪いところはあると思うのね。今の子供たちって、見て見ぬふりをしちゃうし、心の中で何か思っていても、表面的には何も行動を起こさないように見える。私も高校のとき、言葉の暴力みたいなのをすごく感じて、登校拒否になっちゃって、結局高校を中退することにしたから、学校でのそういう嫌なこととか校則に縛られるつらさっていうのはすごくわかってるつもりなのね。それで自分からやめることにしたわけだけど、それでも今思うと、どうしてもっと自由に行動しなかったのかなって思うのよ。若いときってほんとに何やったっていいと思うのね。歌詞の中にある〝自分だけのシナリオ　いつでも書き変えられる〟っていうのはそういう意味。なんでもできるんだからさ、自分さえ決心すれば。そうする勇気を持っていさえすれば。たとえば、〝どーせ、あと3年がまんすれば卒業しちゃうんだから〟って思ってるとするでしょ。でも、さっきも言ったように、明日何が起きるかわからないんだから、自分を抑えつけるよりは、行動したほうがいいと思う。若いときは特に。べつに学校をやめる、やめないじゃなくてね。自分が思ってることは表現してほしいと思うの。〝PRIVATE REVOLUTION〟を起こしてほしいと思うんですよね」

●大切なもの

「「PRECIOUS LOVE」の中でも〝誰もが皆　目に見えない　明日に飛び出すように〟って書いたんだけど、この一行がね、とても気に入ってる。何度も言ってるけど、明日はどうなるかわからないって思うと、本当にいろんなことが大切に思えてくるのね。たとえ明日死なないまでも、どこかケガしてしまうことだって考えられる。私も前に体を悪くしたとき、歩けるってなんてすばらしいことだろうって実感したもんね。ベッドから立ち上がって、少しずつ歩いて、で、街に出られるようになって。なんか人間の進化の歴史を短期間でたどってるみたいな気がした。そういうことって、ふだんは忘れてても、ときどきは意識していたいと思う。当たり前だと思ってるものがいかに大切か。自分の体のことから、他人との触れあいのことまで。するといろんな形の愛も見えてくると思うのね。アルバム・タイトルの『PRECIOUS?』には、そういう想いが込められてるんだ」

PERSONZ JILL PRECIOUS-HEARTED

明けまして、ビデオです。

THE BOOM

THE BOOM

NEW VIDEO

「きのう聞かせた僕の歌」

THE BOOM 初のビデオクリップ集。'91.1.1 ON SALE

〈収録曲〉気球に乗って／僕がきらいな歌／君はTVっ子／
逆立ちすれば答えがわかる／中央線／星のラブレター　（全6曲）

⊙VHS：CSVM231　⊙Beta：CSUM3231　⊙LD：CSLM231　COLOR／STEREO／24min　各税込定価¥3,200（各税抜価格¥3,107）

TOUR JAPANESKA SCHEDULE

12/23(日) 群馬音楽センター①
12/25(火) 富山県民会館②
12/26(水) 福井市文化会館②
12/27(木) 金沢市文化ホール②
12/29(土) 大阪城ホール③
1/16(水) 札幌教育会館④
1/17(木) 函館金森ホール④
1/19(土) 青森市文化会館⑤
1/21(月) 秋田市文化会館⑤
1/22(火) 岩手教育会館⑤
1/24(木) 仙台市民会館⑤
1/25(金) 郡山市民文化ホール⑤
1/27(日) 宇都宮文化会館①
1/29(火) 松山市民会館⑥
1/30(水) 高知県民文化ホール⑥
2/1(金) 福山市民会館⑦
2/2(土) 鳥取市民会館⑦
2/5(火) 静岡市民文化会館(大)⑧
2/8(金) 大阪厚生年金会館(大)③
2/9(土) 大阪厚生年金会館(大)③
2/12(火) 渋谷公会堂⑨
2/13(水) 渋谷公会堂⑨
2/16(土) 名古屋センチュリーホール⑩
2/18(月) 渋谷公会堂⑨
2/19(火) 渋谷公会堂⑨
3/1(金) NHKホール⑨

〈問合わせ先〉
①アクト 0286-21-2241
②FOB金沢 0762-32-2424
③キョードー大阪 06-345-2500
④ウエス 011-521-8181
⑤GIP 022-222-9000
⑥デューク松山 0899-47-3535
⑦夢番地 0862-31-3531
⑧サンデーフォーク静岡 0542-86-8901
⑨ディスクガレージ 03-5485-3200
⑩サンデーフォーク名古屋 052-320-9100

THE BOOM初の単行本、出る！

1月20日、THE BOOM初の単行本「君がいっぱいI」が、CBSソニー出版より発売されます。（小杉之子著，四六判ハードカバー，30ページピンナップつき ¥1,300）THE BOOMファン必読、お楽しみに。

CBS SONY
CBS/SONY RECORDS

UP-BEAT

Weeds & Flowers Tour MEMORANDUM 1990・11・21

●台風に見舞われた9月の日比谷野音から始まった"Weeds & Flowers Tour"も、
この号が出るころには新潟での1本を残すのみとなっている。
ロック・ミュージックの激しさ、せつなさ、快活さ、強さ……さまざまな
要素をUP-BEAT流の表現方法で見せてきた今回のツアーの中から、
11月21日の愛知でのコンサートを取材すべく、メンバーとともに東京を発った。

撮影●植田信　文●編集部

UP-BEAT
Weeds & Flowers Tour
MEMORANDUM
1990・11・21

UP-BEATの〝Weeds & Flowers Tour〞の後半戦、11月21日の愛知勤労会館でのコンサートを取材することになり、取材班は当日の東京からの移動を含めてメンバーと行動をともにすることにした。

予定していた新幹線に広石が乗り遅れたものの、先発組の約20分後には彼も無事に名古屋駅に到着。サングラスをかけた彼は「やあ」と笑いながらも、「ちょっとカゼ気味なんだ」と言葉少なめ。そのまま用意されていた車に乗り込み、会館へ向かった。

楽屋に入ると、とりあえず昼食タイム。広石はカゼ気味の体をいたわってか、うどんを食する。リハーサルが始まるまでの時間は、比較的なごやかでゆったりしたムードで流れていく。

3時半を回って、リハーサルがスタート。突然レッド・ツェッペリンのナンバーが始まり、思わずニヤッとしてしまった。彼らはレコーディングのときも、始める前にまずツェッペリンのナンバーをガーンとブチかまして気分を盛り上げるらしいが、どうやらライブのリハーサルでもいっしょのようだ。スタッフから手渡された今日の曲目リストに目を通すと、新曲「Sister Tomorrow」が入っていることに気づく。そういえば今日、11月21日はこの曲がリリースされた日だということを思い出した。しかも、スタッフいわく「ツアーでこの曲をやるのは、今日が初めてなんですよ」。これはまたナイスな日にめぐりあわせた。楽しみがひとつ増えて、またもやニヤッとしてしまった次第。

5時40分、リハーサル終了。バックステージは少しずつ緊張とあわただしさを増す。メイクをきめ、ステージ衣装に着替えるメンバー。準備万端整えて本番のステージに向かう直前のミュージシャンとは、こうも大きく見えるものかと思った。「それじゃ、よろしく」――頼もしげな視線をこちらに投げかけて、メンバーはステージのほうへ歩いていった。

6時40分、客席の明かりがスゥーッと落ち、オルゴールの音色とミラーボールの光が場内に広がる。ステージ・フロントの幕に〝Weeds & Flowers〞の文字が映し出された。やがてその幕はスルスルと上がっていき、「Dear Venus」のイントロが流れてくる。ステージ上のメンバーの動きは実にダイナミック。「Time Bomb」「No Side Action」と続け、広石がうれしそうな顔であいさつをする。

「夏のイベントでジャブをかまして、そしてこの〝Weeds & Flowers Tour〞が始まりました。今日はKOをねらってます!」

さらに2曲とばしたあと、アコースティック・ギターを抱えた広石が「Kiss in the moonlight」を歌う。ゆるやかな空気が流れる。そして、その空気は岩永凡のセンシティブなアルペジオから始まる「Sister Tomorrow」へ引き継がれ、いつしか壮大な空気感へと色を変えていった。このあたりの表現力には、最近のUP-BEATの懐の深さを感じる。

そして、アルバム『Weeds & Flowers』からの曲を続けるコーナーでは、ある種ドラマチックでコンセプチュアルな演出がなされ、今回のステージの中でひとつの核ともいえる見せ場を作り上げている。

メンバー紹介をはさみ、「Blind Age」が歌われた。極度に煮詰まっていたころに生まれたこの歌を、広石は今とても明るい表情で歌う。〝その姿は誇れるはずさ〞の部分でマイクを客席に向けて歌わせ、「そのとおり!」と笑顔で叫ぶ。「何度でも起き上がるっちゅう歌です」とコメントして歌われた「Angel's Voice」、そして本編のラストを飾ったタイトル曲「Weeds & Flowers」にしても、あくまで前を向いている歌だ。しかも、一歩まちがえば挫折してしまいそうな気持ちを飲み込んだうえでの前向きな歌。だからこそ、強い。

二度のアンコールでも、広石はとてもカゼ気味とは思えない勢いでステージを動きまわる。岩永も嶋田も最後まで躍動していた。すべての演奏を終えてステージを去るとき、メンバーが本当に楽しそうな表情をしていたのが印象的だった。特に、ステージのそでに見えなくなる最後の最後まで、客席におどけてみせていた広石の姿が妙におかしかった。8時52分、客電がつき、終演を告げるアナウンスが流れた。

会館を出たあと、広石は大事をとってか、ホテルの部屋に戻ったけれど、他のメンバーは打ち上げも兼ねて食事に出かけた。そこでも皆、屈託なくいろんな話に花を咲かせていた。バンドが今とてもうまくいっている――そんな感触を肌で感じた夜だった。

翌22日は、福岡でのコンサートに向けての移動日である。コンサート自体は24日なのだが、福岡は彼らの出身地でもあり、たぶん一足早く入って実家でくつろぐメンバーもいるのだろう。博多行きの新幹線に乗り込んだメンバーをホームで見送って、われわれは東京へと戻った。

GOOD MISTAKE

久宝留理子

●久宝留理子のニュー・シングルが発売された。「GOOD MISTAKE」というタイトルのこの曲は、1月に発売されるアルバムの先行シングル。まずはシングルの話から聞いた。

文●能地祐子

久宝留理子のニュー・シングルは、「GOOD MISTAKE」。'91年、さらに大きくジャンプ・アップするであろう久宝さんにぴったりの、実に前向きで元気ですてきなナンバーだ。

「シングルを意識して、とにかく派手なヤツです（笑）どこかで流れてても、オッと思うような、派手でスケール感のある曲でしょ。スケール感という点ではたぶん、これまで出した4枚の中でいちばん出た曲だと思いますね」

スケール感。これは、1月にリリースされる彼女のセカンド・アルバムにおいても大事なキーワードになっているから、覚えておくよーに。

「次のアルバムの印象に近い感じのある曲じゃないかな。そのアルバムはライブ感もすごく大事に考えて作ったから。ライブっぽい雰囲気もある曲だし。なんか、私が飛び出てきそうなサウンドでしょ（笑）」

音の面でもそうだけど、この曲の中に描かれている、とっても前向きな女のコの姿。それもまた、実際の久宝さんとダブッてくるような……。

「いわゆる都会といわれている街をテーマに書いたものなんですけど、東京ですね。私のイメージとしては、もっと細かくいってしまうと、東京の明け方の5時くらい。ホコ天やってる場所がありますよね、あそこの歩道橋での場面。そこに自分がいたら、こう感じるだろうなとか。作詞の尾上文さんとずいぶん話し合って、5回くらい詞が変わったかな。最初は、今思うと笑いころげてしまうくらいにスケールの大きいものだったの。どうして原爆を落とすの、石油はどんどん上がっていくし……みたいなところまでいって。でも、そこまで歌うのはまだ早いかなと」

そして、最終的に久宝さんがテーマにしたいと思ったのは"なぜ？ なぜ？ なぜ？ ……"。あらゆることを、なぜだろうと思ってみることの大切さ。

「なぜ、朝は目が覚めるんだろう。なぜ、女のコは朝、でかける前に髪をとくんだろう、とかね。当たり前だと思ってやってることをテーマにしていきたいなと思って。そういうことを朝方、始発が走り始めるころにいっぱい考えてみて……。始発が走り始めると、家に帰らなくちゃと思うでしょ。それってなんでなんだろう？ 家に帰ると、それまで一緒にいた友達や恋人と会えなくなって、会えるまでの時を数え始めて……。でも、会いたいのならずっと一緒にいればいいのにとか思ったり。そんな疑問が詞に結びついて」

そんな疑問の数々が、やがて"GOOD MISTAKE"という、すてきな言葉に結びついていく。この関係は、実際に曲を聞いて感じとってほしいな。毎日を過ごしていて、"な～んか違うな"ってもやもやしてる人にとっては、トキッとするようなメッセージになる言葉かも。

「反対言葉を組み合わせるのが好きで、"GOOD MISTAKE"って言葉も大好き。これは文ちゃんのほうから出てきた言葉なんですけどね。前向きだし、私、常に前向きでいたいと思うし。そういう気持ちを感じとってほしい」

デビューしてまだ、1年経っていないけれど、めまぐるしいけど充実した日々を送りながら、久宝さんは未来をじっくり見据え始めたよう。'91年の彼女の活躍が本当に楽しみだ。

「今年を振り返って？ 音楽を聞く人から作る人になって、立場が180度変わったわけだし、初めてやること、初めて会う人、初めて出会うもの……がたくさんあって、楽しかった。それが仕事に結びつくかどうかは、まだわからないけど、1年で5年ぶんの出会いをしちゃったような感じがしてます」

C. F. MARTINドリーム

HD-28
定価￥360,000
(専用ハードケース付)

D-35
定価￥320,000
(専用ハードケース付)

000-28
定価￥350,000
(専用ハードケース付)

GIBSONドリーム

HUMMINGBIRD
定価￥299,000
(専用ハードケース付)

DOVE
定価￥322,000
(専用ハードケース付)

J-200
定価￥313,000
(専用ハードケース付)

OVATIONドリーム

1758
定価￥258,000
(専用ハードケース付)

1719
定価￥262,000
(専用ハードケース付)

1768-X
定価￥330,000
(専用ハードケース付)

ADAMAS
定価￥560,000
(専用ハードケース付)

MORRISドリーム

TF-50
定価￥50,000

MG-60
定価￥60,000

GUILDドリーム

JF-55
定価￥365,000
(専用ハードケース付)

GF-60
定価￥306,000
(専用ハードケース付)

D-25-12
定価￥200,000
(専用ハードケース付)

LARRIVEEドリーム

C-72
定価￥680,000
(専用ハードケース付)

C-10
定価￥365,000
(専用ハードケース付)

DOBROドリーム

33H
定価￥250,000
(専用ハードケース付)

YAMAHAドリーム

LD-10
定価￥60,000

LL-35J
定価￥200,000

LA-57
定価￥400,000
専用ハードケース付)

TAKAMINEドリーム

NPT-115
定価￥150,000

NPT-110-6
定価￥100,000

店頭価格が全国どこでも! 通信販売も大歓迎!!

掲載以外にも各メーカーのモデルが多数あります。詳しくはお問い合わせください。

タニグチ
スーパーバーゲン

TANIGUCHI SUPER BARGAIN '91

1990.12.1.~1991.1.31.

(12/31、1/1、1/2は勝手ながらお休みさせていただきます)

みんなの夢をお手伝い

ミュージカルドリーム in TANIGUCHI

今度のライヴを成功させたい! 絶対いつかはプロになるんだ!
みんないろんな夢を持っている。スケールの大小なんて関係ナシ。
今、一番大切なことを一生懸命やれば、それでいい。
91年、タニグチのテーマは『みんなの夢をお手伝い』。
音楽に寄せるみんなの想いが少しでも早く叶えられるよう
力いっぱい応援します! ヨロシク!!

KASUGAドリーム

F-10(フラット・マンドリン)
定価￥100,000

K.YAIRIドリーム

YW-500
定価￥55,000

TD-00028
定価￥60,000

12弦&レフトハンド大集合!!
特殊モデルも豊富に揃えたタニグチ在庫リスト

〈12弦ギター〉

●アコースティック

YAMAHA	
FG-460S-12	定価￥ 50,000
MORRIS	
MB300-12	定価￥ 35,000
MB50-12	定価￥ 50,000
GUILD(ハードケース付)	
D-25-12	定価￥200,000
JF-30-12	定価￥232,000
JF-65-12	定価￥306,000

●エレアコ

YAMAHA	
APX-9-12	定価￥ 90,000
MORRIS	
ZⅠ-12	定価￥ 80,000
ZⅢ-12	定価￥ 80,000
TAKAMINE	
NPT-110-12	定価￥100,000
OVATION(ハードケース付)	
CC65(セレブリティ)	定価￥ 88,000
1515(ウルトラ)	定価￥130,000
1756(レジェンド)	定価￥250,000
1866(レジェンド・スーパーシャロー)	定価￥250,000
1758(エリート)	定価￥258,000
1759(カスタム・レジェンド)	定価￥286,000
アダマスⅡ1685	定価￥444,000

〈レフトハンド〉

●アコースティック

YAMAHA	
FG-450SL	定価￥ 45,000
LL-10DL	定価￥105,000
LA-17L	定価￥ 65,000
MORRIS	
MD-511L	定価￥ 32,000
MD-506L	定価￥ 27,000

●エレアコ

YAMAHA	
APX-8L	定価￥ 90,000
APX-10L	定価￥110,000
MORRIS	
AZJ-L	定価￥ 55,000
ZⅡ-L	定価￥ 65,000
TAKAMINE	
PT-106LH	定価￥ 75,000

※12弦ギター、レフトハンドとも特注ができます。
詳しくは係までお問い合わせください。

BEST SELECTION

CBS/SONY Publishing Inc.

定価はすべて税込です

「クリスマスが何だっていうのよ。。どうせ私にはイブをいっしょに過ごす相手もいない。」なんて言っていじけてばかりじゃ、徹底的にみっともないよ。誰かを紹介するのは無理だけど、キミを元気づけてくれる本をたくさん紹介してあげるよ。

★新刊★ THE BOOM 初の単行本 「君がいっぱいI」

●小杉之子書●予価1、300円●A5判ハード・カバー●'91年1月下旬発売予定

●デビュー直後〝パチ▼パチ・プレゼンツ署名ライブ〟で全国から一万八千名の署名を集めて初ツアー23ヶ所を回ったTHE BOOM。あれから一年半、初めての本は、もちろんパチ▼パチから。とりあえず、文字ばかりの本です。

NOW PRINTING

★新刊★ 人気グループ自らが語る、世界唯一の公認書。 ニュー・キッズ・オン・ザ・ブロックの全て

●ニュー・キッズ・オン・ザ・ブロック書●A4判●予価1、600円●'91年1月下旬発売予定

全世界のNo.1人気グループ、ニュー・キッズ本人達が書いた彼らの全て。メンバー一人一人が秘蔵の写真を使いながら、子供時代のこと、家族のこと、そして、音楽のことを語る。ストリート育ちの彼らの秘密と、ご機嫌な私生活がいっぱい。

NOW PRINTING

★新刊★ 松岡英明2ndアーティスト・ブック STORY OF STORIES/ものがたり物語

●パチパチ編集部編●A4変型判●定価1、500円●12月下旬発売予定

昨年12月22日・彼の誕生日の前日に発売された松岡英明の単行本『NOT FOR SALE』に続いて、パチパチが贈る第2弾。今回は、連載中の豪華ライター陣によるショート・ストーリーに加え、新アルバム解剖、撮り落ろしフォトも満載!。

好評既刊 飾らないロッカーがつれづれなる日常を説く 徒然なる毎日 狂市のMADE IN TODAY

●杉本恭一著●四六判・ソフトカバー●定価1、000円●好評発売中

Pee Wee誌の人気連載、レピッシュのギタリスト杉本恭一の「MADE IN TODAY」が単行本になった。好評の連載原稿に新たなイラスト、文章の書きおろしを加え、ロッカーの日常における真実をブチまける!読んで笑い、泣け!

好評既刊 新生・TMN初の写真集 RHYTHM RED(リズム・レッド)

●B4判・豪華特殊パッケージ入り●定価3、200円●好評発売中

〝TM NETWORKからTMNへ〟─10月25日、TMNとしてニュー・アルバム『リズム・レッド』をリリースしてリニューアルする彼らの新しいヴィジュアルを収めた、全編撮り下ろしによる豪華仕様写真集。

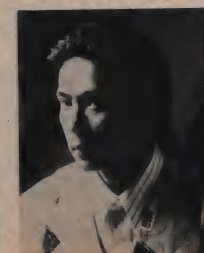
好評既刊 新しいロックンロール小説の誕生!! 地上の虹

●須藤晃著●四六判●定価1、200円●好評発売中

GB本誌で好評連載中のプロデューサー・須藤晃氏によるロック小説「ロックンロール・ロマンス」の単行本化。書き下ろしの1編を加え、堂々登場! 表題作他全8編収録。

好評既刊 徳永英明アーティスト・ブック MY SELF(マイセルフ)

●A5判●定価1、500円●好評発売中

3人のインタビュアーが彼の声を拾った〝VOICE〟。ツアー中を追った〝FOLLOWIN〟。以前GB誌上で連載した〝徳永英明の気ままなドライブ・スケッチ〟。デビューから〝序曲─夏の日〟までのライブを写真で振り返る〝LIVE MEMORIAL〟etc……。ビジュアル/読み物ともに充実した一冊です。

好評既刊 いよいよ単行本化! 背中のラブソング

●小嶋さちほ著●A5変型判●定価1、100円●好評発売中

Pee Weeにて連載、大好評だった恋愛小説「背中のラブソング」。ZELDAのベーシスト、小嶋さちほさんの書き下ろしによる、フツウの女の子と〝憧れ〟のロックスターとの恋の物語。熱烈な声援に応え、ついに単行本化!

好評既刊 日向敏文へのオマージュ~短編小説集 いたずら天使

●四六判●定価1、400円●好評発売中

〝ひとつの写真から、1枚のアルバムが生まれ、そこからまた5つの短編小説が生まれた〟─日向敏文のニュー・アルバム『いたずら天使』をモチーフにして、5人の若手ライターが短編小説を競作。映画音楽を思わせるインストゥルメンタルの世界を、活字が再現!

好評既刊 UP-BEAT 1st ARTIST BOOK Weeds & Flowers

●パチパチ編集部編●B5判・ハードカバー●定価1、800円●好評発売中

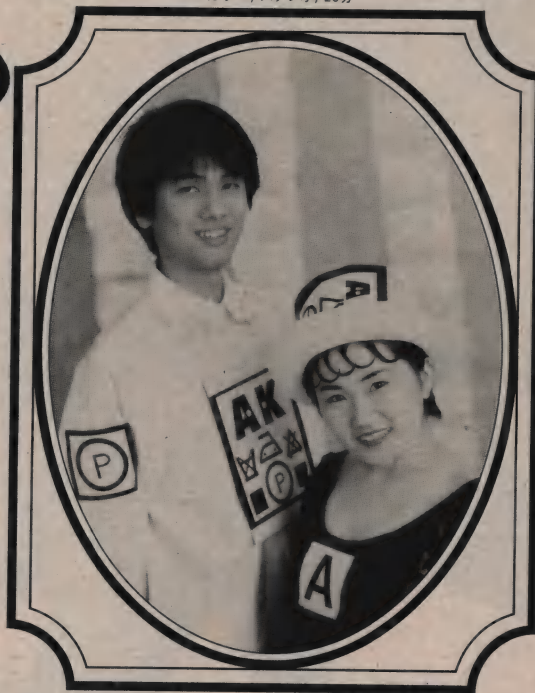
デビュー以来応援し続けてきたパチパチがつくったUP-BEAT初の単行本。今年に入ってメンバーが2名脱退したこともあり、あらためて30時間以上のインタビューを行ないました。特写も堂々の76ページ。全UP-BEATファンのために!

松浦×チャカの
音楽を立体化すると
こうなる。

PSY·S

お待ちかねPSY·S〔サイズ〕Newビデオクリップ第2集

“Tri-PSY·S”

収録曲:Kisses/遊びにきてね/ファジィな痛み ～Fuzzy Pain
VHS:CSVM232 Beta:CSUM3232 LD:CSMM4232 各¥2600(税込)〔各¥2524(税抜)〕
カラー/ステレオ/20分

now on sale

『チャカのうたの引力実験室'91』
2/27 大阪バナナホール/2/28 名古屋クアトロ/
3/6 東京 草月ホール/3/7 東京 草月ホール
19:00 START 前売¥3200 当日¥3500 ㊐CSアーティスツ 03-5474-9522

ライヴ・ビデオ
「LIVE PSY·S SIGNAL VICTORY TOUR」
2.21 ON SALE

'SPINNING THE WHEEL TOUR' REPORT

1990・11・17 野田市文化会館

永井真理子・LIVEの原点

いよいよスタートした"SPINNING THE WHEEL"ツアーをとおして、永井真理子のライブならではの魅力を確かめてみたくなった。それは、今回のステージの中にいる彼女自身の存在そのものが鮮やかすぎるからだ──。

撮影●石渡憲一

文●浜田次郎

永井真理子から生まれる音楽の渦の中へ

SPINNING THE WHEEL TOUR START!

永井真理子ならではのライブの形。11月17日、野田市文化会館を皮切りにスタートした〝SPINNING THE WHEEL〟ツアーは、あらためてハッとさせられるような、「ああ、これだったんだ！」と確かめさせられるような、なじんできたはずの魅力にあふれている。それはひと言でいってしまえば、集大成ともいえるかもしれない。けれど、永井真理子自身から発せられるものは、その言葉からは大きくはみ出していて、それは初期のころに感じられたある種の〝驚き〟に似ている。その驚きが伝えるもの。これが永井真理子ならではの、ライブが輝きわたる秘密だとすれば、それは何なのか確かめてみたくなった。確かな言葉を持って並べてみたくなった。いくつかのシーンをとりあげて（これから見る人たちのために、暗示的な、わかりにくい書き方になってしまうけれども→見た人にはよくわかる！　ように）思いつくままに綴ってみようと思う。

①

オープニング。この日、彼女がかなり緊張しているのが、ある瞬間にわかった。初日だから、もちろん。といえば確かにそう。しかし、もうこれ以上はないくらい全身に力を込めた象徴的なポーズと、笑顔で登場した彼女は、あいかわらずのパワフルなイメージそのまま。けれど1曲目、2曲目と歌い終わって3曲目に入るあたりで急に真顔になって、胸をポーンと1回叩くと、大きく深呼吸、というより〝ため息〟をついた。かなり緊張している。そのシーンは、永井真理子が何かをやろうとしていることを感じさせる、力強い意欲とプレッシャーを伝えていた。そう、オープニングからずっと、彼女は余力を感じさせないでいたのだ。

「今回は自分のペースでやるから」

と、何度もくり返していたはずの彼女。もしかしたら、永井真理子の〝ペース〟はこれなのかも、とハッとなった。「自分」を探し続けていた最近の彼女。でも実は、永井真理子はずっと彼女ならではの魅力を見せ続け、そのままであり続けていたような気がする。少なくとも、ステージの上で見つける彼女の最大の魅力は、ずっと変わっていない。そのことを彼女は知っているのだろうか。それともそのことに気づいた彼女は、だから、原点にもどって最初からの全力疾走ライブを始めようとしているのか。

永井真理子がインタビューで語った〝今回が、ひとつの最後〟というキーワードが思い出されてきた。ギリギリの緊張感から伝えられる〝誠意〟。それは彼女の全力疾走がストレートに届けてくれる贈り物だ。

②

「野田といえばショーユ(笑)」

とか。

「1990年、今年みっつめのツアーをやってますが……。よく働いてるでしょ(笑)」

だとか。彼女のMCではないけれど、「同じ生きるんなら笑って生きよう！」または、「つらいことも笑い飛ばしちゃえ」みたいな、もうパワフルを超えたところにある〝明るさ〟〝強さ〟を伝えてくれる曲（たとえば『Catch Ball』に収録されている、あの曲です）を、そのままの永井真理子が歌ってくれれば、もう怖いものなし。モリモリ元気が出てくるような、そんなシーン。今回のライブで最も彼女らしさを感じさせるポップなブロックだ。

しかし、思いきり笑って、でも見終わってなんだかホロリとする。そんな映画を見終わったあとのような気持ちになるのも確か。こんな近くに永井真理子はいたんだ、と思わずやさしい気持ちになってしまう。それは彼女の存在自体が伝えるものだ。

③

技。今回は、アレンジも含めて、なじんできたものを工夫とアイデアと努力(！)で、かなり楽しませてくれる。前回のツアーでもたくさんの新しい試みがなされていたけれども、未完成な部分が目立っていたように思うし、それでよかったのだとも思う。思いつくかぎりのことを、その鮮度で形にしてみること自体が重要だったのだから……。しかし今回は違っている。あらゆるアイデアを高い位置で、完成された形で見せようというのがコンセプト。たとえば「ミラクル・ガール」。そのアレンジのセンスのよさ。「Mind Your Step」の奇抜さ！　アコースティックな心地よさと、ビートのインパクト。その対比。ロックンロール＝永井真理子の、その先に広がっていくものを予感させるクライマックスがやってくる。

④

そっと寄り添ってくれるような、ひとりの女性としての永井真理子を思わせるバラード。といえばわかりますよね。じっくり味わってください。

⑤

定番。ポップな楽しさでおおいに会場を沸かせたとしても、ジンワリとそのバラードで胸を熱くさせてくれたとしても、このノリがなければ永井真理子のライブに終わりはこない。(笑)

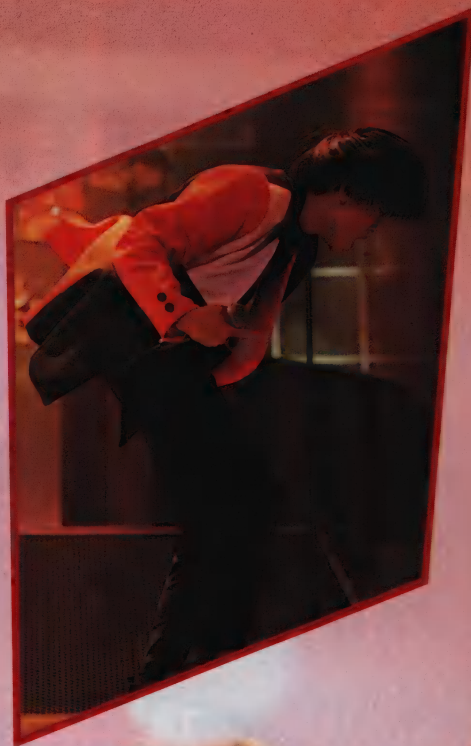
今回は、彼女がインタビューで答えていたとおり、その曲目も集大成的なものになっている。今までにライブに足を運んだことがある人ならば、後半のクライマックスに、ある種の懐かしさみたいなものを感じるかもしれない。ここまでのすべてのもの。そしてここから始まる新しいもの。そのラインギリギリで、これまでの最もなじんできた曲たちを、これ以上にないくらいの激しさで歌ってみせる。ここで気づいた。彼女とギターの相性。ド派手なロックンロールでは、エレクトリック・ギターが派手なほど永井真理子のボーカルも、彼女自身のノリも冴えわたるということ。そしてすでに会場は、観客の激しい想いともて余した体力でものすごい熱気。ステージの上の彼女は、そのパワーのすべてを体で受けとめようとするような姿勢で臨む。その迫ってくるような臨場感は、小さな永井真理子を核として、大きな渦となって会場全体へと広がっている。観客のひとりがそのまたひとりへと伝えていくような。ステージの上と客席の1対1は、客席と客席の1対1対1対1……とつながっていく。不思議なコミュニケーション。そこには瞬間的に強い絆が生まれているのだ。

⑥

かつては、彼女のテーマソング。しばらく歌われることのなかったあの曲を、今回彼女は歌ってくれる。以前のように観客が彼女へと歌うのではない。永井真理子が観客のために、そして自分のために歌う。聴き慣れたはずのあの曲が、こんなに新鮮に届けられるなんて！　永井真理子がこれからどこへ行こうとしているのか。そしてどれだけの成長を重ねてきたのか。そのことが、この一曲に集約されるのだ。

●

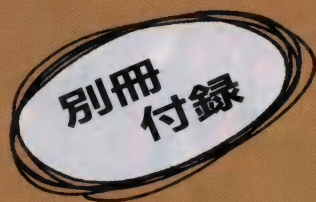
今回のステージは、セットにもかなり凝った工夫がなされていて、大きく動きだしたりもする。そして今回のライブを見る前は、その話に大きな期待を抱いていたことも確かだった。しかし、〝SPINNING THE WHEEL〟ツアーはそんな仕掛けを大きく超えて彼女自身をとりまき、また永井真理子の中から生まれてくる音楽そのものの渦の中に、いくつもの魅力があふれ出していた。永井真理子の、今の場所から始まっていくものが確かにある。隅から隅まで手応えのある確かな形として届けられるステージは、現在の彼女自身そのものなのかもしれないのだから、ね。

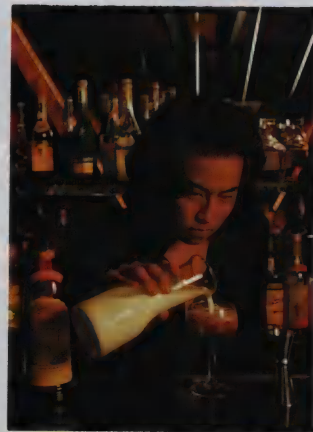
●近く永井真理子誌上〝Q＆A〟大会を行ないます。「どんな質問にも答える覚悟はできている」とは本人の弁。ハガキに、あなたが尋ねてみたい質問をひとつと、住所・氏名・年齢を明記の上、〒156-91 東京都世田谷区千歳郵便局私書箱15号 CBS・ソニー出版 GB〝永井真理子史上最大のQ＆A大会！〟まで。たくさんのおハガキ待ってます！

Mariko Nagai

ヤスユキ挑戦シリーズ①バーテンダーの巻

カルアミルクはあまかった!?

12月1日にリリースしたシングル「カルアミルク」を記念して、挑戦シリーズ第1回はバーテンダーにトライ。日ごろウルトラ態度の岡村ちゃんも、先生の前ではまじめな生徒!? 今後の人格形成に一役買うか!? 問題の新シリーズだ！

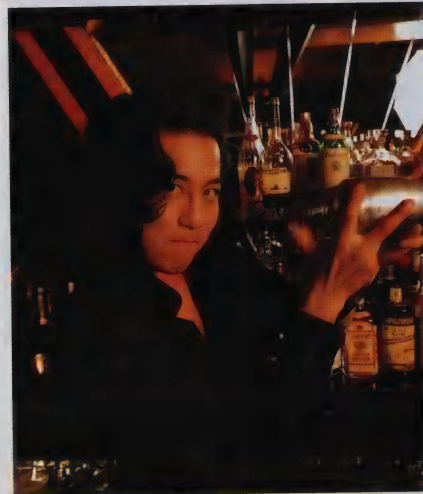
撮影●大川直人　文●宇都宮美穂　ヘア&メイク●[illegible]　撮影協力●[illegible] Bar ☎03-499-5423

挑戦①カルアミルク

まずはシングル曲に合わせて、カルアミルクに挑戦。グラスにたっぷりクラッシュ・アイスを入れて、ジガー（メジャーカップ）で30mlのカルア（コーヒー・リキュール）を注ぐ。左手首のブレスレットがバーテンダーの雰囲気をかもし出して、なかなかグーッ！

のはずだったのだが、この神妙な顔つきと、おじけづいた手つきはなんだ!? 本人はいたって真剣なのに、周囲では「理科の実験みたい」という声がささやかれる。(笑)華麗な手さばき、とはいかないのが初心者。ミルクをそうっと静かに入れて……。

意外に(?)上手に作れて、ゴキゲンさんの岡村ちゃん。カルアミルクはいたってシンプルなカクテル。ゆえにその道は奥深く、カルアとミルクがまざることは許されない。どうだ、この見事な分離！ ミルクの白さと、カルアのブラウンとの境界線を見よ！

岡村クンがオーダーするお酒は？「ウーロン茶かな、やっぱり」

挑戦②　チェリーブロッサム

今回の先生であられる相馬さんと。こうして本物と並ぶと、ちっともバーテンダーに見えない岡村ちゃんだ。相馬さんは、いうまでもなくこの道のプロ。よって、作るカクテルは何百種類という幅広さ。その中から初歩的な、つまりイージーなものを選んで教えてくれたんですねぇ。

大胆にもオリジナル・カクテルに挑戦。女の子が喜びそうな、「かわいいヤツがいいな」と、欲望だけはデカい。名づけて〝ハニー・ドリッパー〟。ワイルド・ターキーのリキュール30ml、ワイルド・ターキー10ml、レモンジュース10mlを、シェーカーに入れて振る！　なぜかここぞとばかりに元気を取り戻し、シェーカーを振りながらダンシングして、日本のトム・クルーズになってしまうヤツ。(笑)

●というわけで、挑戦シリーズの第1回を無事に終えた感想をお聞かせください。

「もうアレでしょう。非常に勉強になりました」

●大事ですよね、人に教わるという姿勢は。

「大事です。僕にとっては」

●ですよねぇ。(笑)でも、先生がちょっとやさしすぎたんじゃないかと。

「やさしかったですねぇ。あと、ユニークな方で(笑)」

●教わったなかでいちばん印象に残ったことは？

「やっぱりいちばん〝コレだな〟と思ったのは、あの、味見する瞬間。テクニックとかももちろん大事なんだけど、味見したときに〝コレだな〟って、〝コレなんだな〟って思っちゃいましたね」

●やってる最中、何度も「難しい」って言ってたけど、実際難しいんだ!?

「難しい。すっごく難しい。だから今日の僕は完璧とはいえないんですけれども、まぁ、がんばったかな、という」

●岡村クンて、自分自身はお酒が飲めないんでしたっけ？

「いや、飲めるけど飲まないの」

●どうして？

「体を鍛えてるから」(エバる)

●あ、そういう理由で。(笑)

「そう。あと、おいしいと思わないから」

●でも、なんとなく雰囲気で飲んでしまうってことはないですか？

「それは弱いからじゃないかな。でも友達と一緒にいるときに、その盛り上がりをもっと盛り上げるために飲むっていうのはあるかもしれないけど」

●ふだん、お酒を飲みに行く機会は多いんですか？

「飲みに行くってカタチじゃないけど、友達に会いに行くってカタチでならあります。どうしても人の少ない場所になってしまうけど、あんまり目立たない、こういうお店によく行ってるかな」

●このお店の雰囲気は好き？

「好き」

●いつか一人で来てみたいという気になりますか。

「いや、一人で来るなんてことはありえないから」

●ありえないんですか？

「うん、ありえない」(キッパリ)

●でもお酒を一人で飲みに行くって、大人だよね。

「ああ、そうかもしれない。僕の友達にも、一人で飲みに行くっていうヤツがいるけどね」

●酔っ払ったことってありますか？

「あんまりない。たぶん、そんなに弱くないんじゃないかなぁ」

●じゃ、お酒を飲んでも変わらない？

「そうそう」

●女の子とお酒を飲みに行くっていうのはどうですか？

「ありえないですねぇ」

●それもありえませんか。(笑)

「はい」

●でも、行った場所で仲良くなるとか。

「そんな目的で出歩いてるわけじゃないから、それもない。僕は友達と会うために出掛けてってるわけだから」

●岡村クンがそんな目的じゃなくても、向こうから声をかけてくることはない？

「たまにあるけど、それは僕のことを知ってるわけだから」

●NGなんですね。

「そうです」

●いつも岡村クンがオーダーする定番のお酒は？

「ウーロン茶(お酒じゃないじゃないよー)かな、やっぱり」

●そんなの頼んで、お店の人に嫌な顔されませんか？

「されない。芸能人だから」

●(笑)それが芸能人ということですか。

「そうそう」

●ところで、今日作った岡村クンのオリジナル・カクテルは女の子にお薦めできそうですか？

「もちろん。ぜひ試してほしいです」

●でも岡村クンのファンて、ほとんど10代だからなぁ……。

「えっ!?　19歳って飲んじゃダメなんだっけ!?　まぁでも、大丈夫、大丈夫。岡村靖幸が許すってことで。(笑)特に失恋したときとかは飲んでもいいよ、僕が許すから」

●岡村クンてお酒を飲む女の子、好きだっけ!?

「あんまり好きじゃな——い(笑)」

今月の判定

何を突然思いついたんだか、企画・岡村靖幸初の〝挑戦シリーズ〟。栄えある第1弾は、名曲「カルアミルク」にちなんでのカクテル作り。バーテンダーとしての修業を積もうというもくろみだ。ワタシは、日ごろの岡村ちゃんの態度、および言動から、どうせ途中で挫折するだろうとタカをくくっていたのだが、西麻布はDick's Barに着いたときの彼の上機嫌はどうだ。いつもならあいさつすらフテブテしいというのに、「よろしくお願いしまーす」と、今日の先生、相馬さんにさわやかな笑顔。けっこう本気なのね、と納得するとともに、あと1年ぐらいは見られないであろう、その笑顔を記憶にとどめた。

フリフリの黒のブラウスがとってもお似合いの岡村ちゃん。

「こんなバーテン、いないよねぇ」

本人が口に出して言うまでもなく、その場にいた全員が胸の内で思っていたことだ。シェーカーを振りながらダンシングするヤツがどこにいる。

「今日はがんばるよ。挑戦シリーズの第1回でしくじっちゃまずいもんねっ」

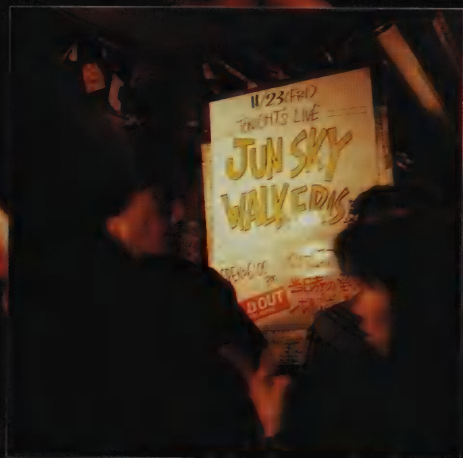
発言はことごとく前向きだが、グラスを持つ手が震えるという、この矛盾。いまいちうまくいかないところが、青春というべきか、岡村ちゃんというべきか。

しかして、苦労の果てに生まれた岡村ちゃんのオリジナル・カクテル〝ハニー・ドリッパー〟。甘さのなかのちょっぴりの酸っぱさが、岡村ちゃんとダブってしようがない。「けなげな味だなぁ」──ワタシは本当にそう思った。

挑戦③オリジナル・カクテル

♪ジャジャーン。というわけで、これが岡村ちゃんの涙と汗の結晶、オリジナル・カクテル〝ハニー・ドリッパー〟であります。その名のとおり、ハチミツのとろりとした甘さがロマンチックなカクテル。でき上がって味見したとたん「コレだーっ!!」と声をあげた岡村ちゃん。苦労(?)が報われた瞬間です。「女の子にはピッタリだよね。そんなに強くないし、飲みやすいし」20歳以上のアナタにお薦め!

COMIC●神沢礼江が覗いた今月のオカムラヤスユキ

☆挑戦シリーズの発端ともなった先月号のバスケ試合。そこで岡村ちゃんがはいていたバスケシューズ(27cm)をプレゼント。詳細はP176を見てネ。ニオイはじめないうちに応募してよー!

JUN SKY WALKER(S) CLOSE TO YOU !

11月23日・神戸チキンジョージ

●"LADIES AND GENTLEMEN"ツアーで全国各地のホールを回っているJ(S)Wが、11月23日、突如ライブハウスのステージに立った。神戸チキンジョージの10周年イベントとしてライブを行なったのである。手を伸ばせば届きそうな至近距離でのJ(S)Wのライブ　ごく限られた数の人だけが体験したこの日の模様を、みなさんにお伝えしよう。

撮影●植田信　文●寺野真子

JUN SKY WALKER(S) CLOSE TO YOU!

［11月23日・神戸チキンジョージ］

坂道の途中にあるその小屋は、木の質感を活かした造りで、壁や天井にいろんな音が染みついているような気がしてなんだかホッとする。10年間さまざまなバンドが、ベテランも新人もなく、リスナーを魅了してきた。楽屋の壁の落書きの中に、多くの知った名前を発見できる。現在活躍しているミュージシャンのほとんどが、この神戸チキンジョージに出演した経験を持つ。

J(S)Wもそのひとつで、'88年以来2年ぶりにここでのライブを行なう。入場してくるファンは〝ウッソー、めちゃくちゃ近いでー〟と口々に言いながら、ステージの前へ走っていく。時計の針はゆったりと流れている。

幸運にもチケットを手に入れることのできた350人余りのファンがぎっしりと埋めた客席に、ギターの音がジャーンと鳴る。〝キャー！〟という歓声とともに観客が一斉にステージに押し寄せた。しかし、まだ客電はついたままだ。続いてベースの音。スタッフが最終チェックをしているのだ。盛り上がる観客。〝まだや、まだや。押すな〟とスタッフ。客席に張られたロープがきつくなる。ステージにスタッフが上がり、注意事項を説明する。

〝わかったでー〟そんな声と温かい拍手が場内に響く。

客電が落ち、〝オー！〟という第一声は男の声だ。ツアーと同じダニー・レイのMCが流れ、スクリーンはないが、盛り上がる。カントリーふうの会場、店の匂い、英語のMC。なんだかアメリカのパブみたいな感じがする。

純太、呼人、小林がステージにゆっくりと姿を見せる。そして和弥が登場し「いつもここにいるよ」を歌う。ステージはよく見えない。けれど、確かにそこにJ(S)Wがいるということは実感できる。1番のサビの部分で、ステージの前の台に和弥が立つ。いきなり目の前に和弥が見えて、正直びっくりした。それは私ばかりでなく、観客がグンと前に詰め寄り、後ろが一気にガラガラになる。ギター・ソロに入るところで、演奏が中断。

客電がつけられる。〝後ろに下がって！〟とくり返すスタッフの顔は、怖いくらいに緊張している。〝こんなんイヤや〟と泣き声で言う女の子。〝下がれや！〟と叫ぶ男の子。

再びメンバーが姿を見せ、〝2年ぶりのチキンジョージです。前に来たい気持ちはわかるけど、そのぶん僕らが前に行くなり、ジャンプするなりしますから、その場所で受けとめてください〟と和弥。〝絶対そうする！〟と声が飛ぶ。そして純太のギター・ソロから演奏は再開。今度は純太が台の上に立ち、後ろのほうにいてもしっかりと彼のギターやうれしそうな顔が見える。

〝ぐらついたチキンジョージ〟と歌った「ひとつ抱きしめて」。本当に揺れるチキンジョージ。じっと立っていると気分が悪くなるくらいだ。天井から吊るされた布も揺れている。そして〝ひとつ抱きしめて〟と歌う部分で、いつもなら和弥の上げた手が見えるはずなのに、見えたのは高く上げられた、ファンのたくさんの手だけだった。〝Hey！ Ho！ Let's Go！〟とくり返してスタートした「カギは誰が」。ファンが伸ばした腕の間に、和弥の握った拳が見える。

「声がなくなるまで」「風見鶏」とバラードを聞かせる。シーンとした静けさが漂う。誰もが歌に酔う。

〝外国かぶれの奴に純太が歌います〟と、本人いわく〝ライブハウスっぽいMC〟をする和弥。〝待っとったぜー〟という野太い声のなか、〝またヒマがあればチキンジョージなら来たい。だけ

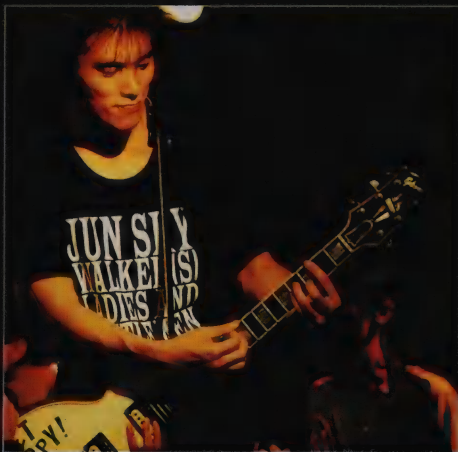
どよー、ロンドン行ってる場合じゃねぇ／”と、純太が「ロンドン行ってる場合じゃねぇ」を歌う。代わっては呼人が〝神戸牛みたいにギューギュー踊ろうぜ”と「Hello レッテル」を歌う。〝神戸牛みたいな森純太／”という呼人の紹介に、純太は照れくさそうにチラッと呼人を見て、ギター・ソロを弾く。しかし、その間に髪をなでつける仕種をして〝いくぜ、神戸牛／”と叫んだり、とてもうれしそうだ。

なんだかドアを開けるみたいに聞こえたギターの音から「アパート」が始まる。このとき外へ出ると、入れなかに揺れてたぜ。まあ、俺たちも歳とったら、キャバレーでハコバンでもしたいですね。そのときは遊びにきてください。そしてチチ揉ませてください」と、和弥のMCもまさしくライブハウスならではといった感じだ。

あとで会ったとき和弥が言っていたが、やはり始まった直後というのは、あまりに客席が近くて、面食らったらしい。照れくさかったし、伝え方などがホールとはまた違うから、なかなかやりづらかったらしい。しかし、そんな堅さも10曲目くらいからなくなり、観客のほうもライブハウスでの楽しみをくり返す。なんだか男の子の姿や声が目立つ。

〝「大阪で生まれた女」みたいなロング・ヒットにしたい”と言って、新曲「START」が歌われる。さっきまでピョンピョン跳ねていた女の子が、手を組み、目を閉じて、歌を噛みしめるように聞き入る。

何人かの観客がスタッフに抱きかかえられて救出されているが、大事にはいたらず、「MY GENERATION」が演奏される。私が珍しくメモをとりながらライブを見たのは、絶対にジッとしていられなくなるのがわかっていたいうギターで応える。飛び入りしたGROUND NUTSの前田カシが和弥の物真似で〝全部このままで／”と叫び、演奏された「全部このままで」。純太がギターごと客席に引きずりこまれるというアクシデントもあったが、GROUND NUTSのメンバーを交えて、ハチャメチャに楽しい。

２度目のアンコールに〝これで最後だからね。もっと見たいなというところで終われば、また次に来たくなるでしょ？”と和弥。そして缶ビールを片手に「HEAVY DRINKER」を歌い、２時間弱のステージは終了した。

ったファンが固まって、漏れてくる音に合わせて歌ったり、体を揺らしていた。なんでもこの日は、チキンジョージ10年間の歴史の中で、初めてダフ屋が出たそうで、６万円という値段がついたらしい。

「もっとみんなライブハウス慣れして、つぶしちゃえ／　本当につぶれたら困るけど。さっきソデにひっこんだら、下のキャバレー（なんとこの店の下はキャバレーで、楽屋からステージに行くとき、キャバレーの店内が見えるらしい）のバンドのキーボードのオッチャンが、鍵盤に指が当たんないくらい方を身につけたようで、ノビノビとした空気が会場を包み込んだ。

「悲しすぎる夜」の中で〝君がそこにいる”と指を差し出す和弥は、一番後ろまで飛び込んでいってしまいそうな感じだ。椅子の上に立った後ろの女の子は、顔が真っ赤になっていく。そして愛しそうなその瞳はステージに釘づけだ。ロング・ヘアーにボディ・コンシャスのワンピースの女性も、体を揺らしながら、歌を口ずさむ。

モッズ・コートにタオルではちまきをした体格のいい男の子が、「すてきな夜空」で急に上へ前へとジャンピングから。しかしこの曲のとき、何度も手を上げそうになって、（本当は少し上げてしまったが）それを抑えるのに苦労した。けれど声を張りあげて歌ってしまったのが、ラストの曲「Let's Go ヒバリヒルズ」（他の曲も歌ってたけど）。

アンコールに応えて登場したメンバー。男の子の執拗なマサユキ・コールに小林が手を振る。〝少し早いけど”と言って、クリスマス・プレゼントとして歌われた「白いクリスマス」。歌い終わると〝ありがとう”と客席から声が飛ぶ。和弥のMCに、純太があの懐かしい〝タラリランリラン、チャン／”とホールとライブハウス。どちらがよくてどちらが悪いという簡単な図式は当てはまらないが、やはりライブハウスが生み出す一体感は、なにものにも変えがたい。ステージが近いというだけでなく、客席の声や、そこにいる人々の表情が手にとれるというのは、なんだかそれだけで熱くなる。正直いってステージなんて見えないに等しいというのに、歌や音がとてもリアルに伝わる。ゆったりと歌に浸る余裕など、まったくといっていいほどないのに、ザラっとした熱い感触が、いつまでも体に貼りつくように残っている。

★12月４日発売の「GB YEAR BOOK '90-'91」のJ(S)Wのページにおきまして、文章の一部欠落がございました。深くお詫びいたします。なお、欠落部分につきましてはP178をごらんください。

SPEED
BUCK-TICK

撮影●藤田正弘　文●かこいゆみこ

●2月発売予定のアルバムのレコーディングもついに終了したBUCK-TICK。
先行シングルとして1月21日に「SPEED」が発売される。「SPEED」を中心に話を聞き、
そのニュー・アルバムの全体像をさぐってみよう。

アルバム・レコーディングもいよいよ最終段階に入った11月半ば、先行シングル「SPEED」の音が手元に届いた。とても凝ったアレンジ、アシッド感漂う16ビートは間違いなくBUCK-TICKの新境地を示すものだ。これを聴くと、あの『悪の華』が遠い過去に思えてくるといったら言いすぎか。彼らの、加速する音楽的成長ぶりを物語るシングルは1月21日リリースだ。

トール「今回エンジニアが蛭間さんって人なんですけど、けっこうライブな音作りをする人で、メンバーもライブな音にしたいと思っていたから、そのへんでハマったという感じでしたね。今までのアルバムでいちばんライブな音作りになったんじゃないかな。だからとりあえず最初に思ってたことは達成できたなと。

シングルの「SPEED」は王道じゃないけどR&R調というか、自分もそういうのが好きだからけっこう入り込んで叩いたという。いつもけっこうへんだから(笑)叩きながらどうしようかなとか思うんだけど、そういうのはあまりなかった。ドラムに関しては、今回チューニングもミュートを全然してないんですよ、俗にいうノー・ミュートというのを初めてやって。ライブな感じというか、ほとんど何も張らないで、バスドラの中にも何も入れない、そういう感じで。だから叩いてても生音がすごいんですよ。レコーディングでも、めいっぱいモニターを上げて鬼のようにやってたんですけど。ドラムの音質はよく録れてるというか、うまくなったように聴こえますよ。(笑)

今回、今井がすごく時間をかけてレコーディングしてます。ギターだけで25日間。今までの中でいちばん長いですね。このままいくと800時間ぐらいになるんじゃないかな。ちなみに『Hurry Up Mode』は100時間でしたから(笑)、8枚作れるくらいの力が入ってますね」

ユータ「今度のアルバムはいろんなパターンの曲があっておもしろいんじゃないかなあ。ものすごいドマイナーなのもあれば明るいのもあって、前のアルバムに比べると聴きやすいと思いますよ。シングルの「SPEED」はリズム隊のパターンがすごく淡々としてるような、変わり目がない感じでしょ。ベースとかまるっきり同じフレーズをずっとやってるから。これ、仮タイトルは「ACID」だったんだけど、今井さんのデモテープの段階では打ち込みだから、本当にアシッド・ハウスみたいな感じででき上がってたんですよ。自分らがやってみたらアメリカンぽくなっちゃって。(笑)

アルバム全体については、今回ベースでフレットレスを使った曲があって。メインで使ったのは初めてですね。

そのうえ、フレットレス・ギターやエレクトリック・チェロも入ってるっていう。今回、レコーディングに入ってから今井さんが作ってきた曲も4曲ぐらいあったんですよ。だからリズムを録り終わったぞっていうときに、またその中から厳選して録って。「SPEED」はその中の一曲なんですけどね。詞に英語がないんですよ。極端なまでに日本語にしてるから、すごくインパクトが強いんです。最初はン？と思うかもしれないけど、何度も聴いているうちに、やっぱり日本人だからすごく耳に入ってくる。それが今回のいちばん大きな変化じゃないですかね」

ヒデ「まだアルバムにどれだけ入るかわからないけど、今回書いた4曲も、すごく攻撃的なものからアコースティックなものまで、いろいろやってます。ギターに関しては、今回がいちばん音色的にいろんなものが入り混じってる。12弦とか、エレキもレスポール、ストラト、テレキャスターとかを使って一曲一曲違う音色になってるんで、音自体もバラエティに富んでます。今井君は今まで以上に違う音っていうか、エレクトリックな感じを追求してて、オレは曲によってはそういう部分を出してみたり、あと今までみたいなノーマルなギターもやったりして、けっこう音に違いが出てきてるかなと思います。

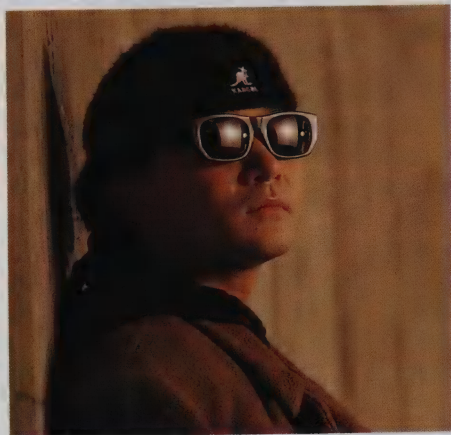
シングルはポップですね。アルバムに関してもいえるけど、メロディーを重視して作ってきたから、すごく聴きやすいといえば聴きやすいですね。これは今井君の曲だから、オレはわりとバッキングに徹してるんだけど、ダンスっぽい曲だから普通のギターとは違って、ずっと鳴りっぱなしのギターなんですよ。アルバム全体に関しては、やっぱり一曲一曲のイメージされた音に重点を置いて作ったということでしょうね。アコースティックなものはオレしか弾いてないから、トータルで聴くと浮いてるかもしれないけど、(笑)バラエティに富んでるし、思ったよりポップな仕上がりになった気がします」

桜井「今回は本当に日本語英語になってるようなヤツとか、誰でも知ってるような言葉だけで、難しいのはないですね。

分かりやすい日本語で、聴いてる人に直接伝わる詞にしたかったんです。辞書を引きながら書いたようなものだと、あとあとになって自分で聴いてもピンとこないし、考えるのがめんどうっていうのもあって。今回は、特にアルバムのトータルなテーマは考えなかったんです。それを決めると、どうしてもあとでそこに近づけるために制約が出てくるし、自分の首を締めるようなことになるから。前の『悪の華』は、印象に残ったのはすごくよかったんですけど、なにかそれだけで終わっちゃった点もあったんで、もう何も決めないで、言いたいことを書いていったという。あんまり知識もないから、そんなにいろいろ書けないんですけどね。曲のイメージを、もうちょっとはっきり言葉で表わすみたいな、そういうつもりでやっていったんです。

「SPEED」は、今までになかったような連続的なリズム・パターンで、異様なスピード感を感じて、永遠的な連続性みたいな。歌詞にも〝スピード〟って出てくるけど、車で高速道路を夜中に飛ばしてるようなイメージで。で、自由になろうとか、珍しく前向きな感じで書いたんですけど。リハーサルとかのあと、車で首都高速を走って、このままずっと飛ばしたら……なんて考えて書いた詞です」

今井「今回、ギターのダビングに時間がかかりすぎちゃって、ギターだけで25日ぐらい。でも1日に8小節とか16小節しか弾かなかったこともあったし。特に時間がかかったのがフレットレスのギターを今回使って、それが4～5日かかったのかな。あれは難しすぎます。(笑)それはエスニックというか、ちょっと気持ち悪い曲なんですけど。曲作りでは、Aメロ、Bメロ、サビっていうふうに、そのときそのときで情景が変わるようなものじゃなくて、もっと単調なものでいいものができればな、と。だからそこで、アルバムの中で似たような曲にならないようにしようとして、いろんなタイプの曲が出てきちゃったんです。「SPEED」は、アシッド・ハウスのファンキーなビートを取り入れようと思って。だからあの曲が今回のアルバムの元になってるというか、あのイメージなんです。あと電気モノというか、エレクトリックな感じもすごく意識して、キーボートもできるだけ入れたかったし。今回はもう、ギター・バンドらしさとかを意識しないで、エフェクトをいっぱい使ってシンセっぽく聴こえるようにしたり、できるだけグチャグチャに。最初レコーディングに入ったときに、まだあまり気持ちがついていってないというか、ちょっと焦ってるようなところがあったから、そこで逆にがんばらなくちゃなって、後半からパワーが出てきたって感じでしたね」

SPEED
BUCK-TICK

「今はステージが楽しくてしようがない」

CHAGE&ASKAのコンサート・ツアー〝SEE YA!〟が、今、全国で続いている。活動休止状態のあとの、それこそ約1年ぶりのツアーにもかかわらず、全国各地の会場は、どこも超満パイだと聞く。

増殖し続けるファンの人たち、そしてブランクの期間をプラスの方向に導いて、自らも大きくなり続けているCHAGE&ASKAの二人。12月号では、9月15日の横浜アリーナでのステージの模様をお届けしたが、今月はツアー途中の彼らに、現在の心境について話してもらった。

*

──1年ぶりのツアーの感触はどうですか？

ASKA　いろんな迷いごととか、自分たちの予想が、思いっきりくつがえされているような立ち上がりだったですね。覚悟はしていたんですよ。どんなに盛り上がった人でも、ブランクのあとの立ち上がりのときには、やっぱりパワー・ダウンしているということをね。今まで違っていたのはサザンぐらいなもんでしょ。だから、ぼくらもある程度覚悟していたんです。パワー・ダウンはしていないだろうけど、平行維持のままかなってね。で、いざフタを開けてみたら、自分たちが思っていたよりも、ものすごい盛り上がり方で。ファンも膨れ上がっていて、今まででもチケットは完売していたんですけど、今回はそのスピードが違ってたんですよね。

──9月15日の横浜アリーナは、10数分でソールド・アウトだったと聞きますものね。

ASKA　この状況が、全国でもそうなんですよ。これは東京だけの現象じゃなかったなという感じで。

CHAGE　もう、ツアーに入る前のリハーサルをやってるときにチケットの状況がわかったからね。すぐに完売してるということも聞いてたし。みんなも盛り上がってるんだなって。コンサートの幕が上がって感じたことだけど、とにかくすっごく新しいファンが増えたよね。それはもう、すぐにわかるの。〝これは、いったいどうしてなんだろう？〟と思ってね。〝今まで何してたんだろう、こいつら〟って。(笑)

ASKA　なんなんだろうな、このノリは？　っていうのが如実に表われていたのが大阪。幕が開いても、どうしたらいいのかわからない人たちばっかりなのね。いつもなら、大阪って幕が開いたとたん、大揺れなんだけど、ワーッと拍手がきて、すぐシーンとしちゃって。ぼくらはガンガン歌ってるんだけど、身体を揺すってるぐらいでね。どうしたんだろうなって。別に、こういうノリがいけないというのではないけど、とにかく今までがものすごかったから、

CHAGE & ASKA NOW ON TOUR

CHAGE&ASKAは今、ツアーの真っ最中だ。約1年ぶりのツアーということもあって、ファンの盛り上がり方はものすごい。また、新しいファンが急増しているというのも、見逃せない点だ。1年間のブランクを経て、CHAGE&ASKAのパワーは、より一層グレードアップされた、そんな印象を受ける。二人に、そのへんのことを語ってもらおう。

PHOTO●MASAHIRO FUJITA　COPY●HIRONOBU ITOH

いったいこれはどうしたことなんだろうって、最初は思ったけど。
CHAGE　きちっとネクタイをしめた人とか、いい感じのOLとかがいっぱいいるんだよね。OLに引っ張られて、しようがないからきた男もいるだろうしさ。そういう中には〝こういうのも、たまにはいいな〟と思ってる人もいるだろうしね。いろんな反応があるんだよ。
ASKA　なんか違うな、と思いながら歌っていて、でも彼らが、ぼくらに食いついてくる瞬間があるのね。ぼくらも長いことやってるから、〝あっ、くるな〟っていう瞬間がわかるわけ。1回くっついてきたものは、もう離さない。(笑)それからの盛り上がりは、とにかくすごいですよ。
――確実にファンの層が広がったということもいえるよね。
CHAGE　ネクタイの人が多い。あとカップルね。今度、ラブシートのボックスを作ろうかと思って。(笑)
　わずかあれだけ休んだ間に、いろんなことがぼくらのまわりに起こったでしょ。バンドブームとか、テレビの歌番組がなくなったりとか。そういう状況で、コンサートというものを非常にみんなが注目するようになったというのが、たぶん真実だろうね。来てもらえば、こっちの勝ちだからさ。(笑)幕が上がった瞬間にわかるのね。前から来てる人は、今までどおりのノリをしてくれるんだけど、初めて来たお客さんというのは、〝ホンモノだ。ホンモノが歌ってる〟みたいに、かたずをのんで見てるってカンジで。瞳孔が、みんな開いちゃってるの。(笑)
――むかし、今ほど来日コンサートが多くないころに見た外タレのステージみたいな？
CHAGE　そうそう、あのカンジ。あーいう人たちは、次のコンサートはもっと楽しんでくれるでしょうね、きっと。だから、次のコンサートが……コワイ。(笑)
――横浜アリーナでやったのは、初めてでしたよね。実際にステージに立ってみてどうでした？
ASKA　あのときは、ほんとに満員でしょ。客席にライトがあたったときは、とにかく壮観でしたよね。
CHAGE　やってるほうは気持ちエエで、ってカンジで。一人ずつお客さんをステージに上げて、客席を見せてあげたかったもんね。(笑)
――これほどの盛り上がりを、自分たちではどうしてだと思いますか？
ASKA　今までは、ぼくらのことを点でしか見ていない人たちが、すごく多かったと思うんです。ある固定したイメージで見ているというかね。チャゲあすは、こういう曲を歌っている人たちなんだろう、こういうステージをやる人たちなんだろう、みたいな。この〝なんだろう〟の部分がすごく多くてさ。だから、爆発的な盛り上がりがなかったんだと思うのね。それが、ぼくらにとってはよかったのかもしれないですけど。ここにきて、お客さんのほうが、そういうものを見せてくれるようになったんですよ。ぼくらが爆発したんじゃなくて、お客さんというか、世間一般の人たちが、本当のぼくらをようやく見つけてくれたな、みたいにすごく感じているんですよね。
――今まで着実にやってきて、蓄積してきたものが、時がきて、ようやくみんなに認知されたということ？
ASKA　そうですね。そんな気が、今すごくしています。
――ここにきて横浜アリーナ2日間の追加公演も決まりましたよね。
CHAGE　全国のイベンターがびっくりしている状態。イベンターの人たちは、'90年のアタマに、チャゲあすは'90年何本のコンサートをやろうって決めるわけでしょ。それが、フタを開けたらこうでしょ。で、どこでもみんなあわててるという状況ですよね。だから、どんどん追加が決まってる。
ASKA　それも、追加のほうがデカい会場になってる。
CHAGE　その驚きたるや、イベンターさんがいちばんなんじゃないかな。いちばん、お客さんとのつながりが直だしね。前年と同じサイズでやってたものが、倍以上になっちゃってるんだから。
――ツアーも残り少なくなってきましたが、最後に、現在の心境を話してもらえますか？
CHAGE　今は、とにかくステージをやってて、楽しくてしようがないんだよね。この勢いで、もう'91年の京都（1月5、6日京都会館第1ホール）まで、一気に行っちゃおう！ってカンジ。これが、今の心境かな。
ASKA　ぼくらもデビューしてからずいぶんと時間が経っちゃったから、今さらスタートラインなんて言えないだろうというのがあったのね。でも、今回ツアーをやりだして、こういうすごく盛り上がっている状況を迎えてみて、なんか今、もう一度スタートラインに立っているような気がしているんですよ。本当に、心の底から、今、もう一回スタートのときがきてるなって。それが、今のぼくの正直な気持ちなんですよね。

「もう一回、スタートのときがきている」

マイクにもGO-BANG'Sの文字が……

──今日ってレコーディング、3時からじゃないの!?
森若「大丈夫、たぶん早くても3時30分ぐらいからだから」
光子「今日はキーボード・ダビングだから、3時30分ごろから始められれば、優秀!!」
美砂「キーボードの人、3時30分に起きるの!!」
森若「そうか。それで、来てから、ゴハンねっ(笑)」
──GO-BANG'Sのレコーディングって、いつもそんな感じなの!?
美砂「リズム録りのときは、そんなことないよっ!!」
光子「そう、1時間がけっこう大事だからね」
美砂「ベースはアンプに差し込むだけだからまだいいけど、光子は大変だもんね」
光子「始まらなくなっちゃう、遅れたら」
──今回のレコーディングって、すごく大変だったんだよね。ライブとリハーサルと並行してやっていたという。
森若「そう、前半と後半に分けたから……」
美砂「前のツアーが終わったかな、と思いきや、すぐに次の新しい〝グレイテスト・ヴィーナス・レヴュー〟が始まって、それでちょっとしてからレコーディングも始まって、夏のイベントに出て、それでまた後半のツアーの続きをやって、今、再びレコーディングというね」
森若「なんか人気者!! というよりは、要領が悪い(笑)」
光子「学祭もあったから、今年はずっとライブをやってるしね」
森若「今年は多かったよね、ライブ!! 多かったというよりも、多すぎた」
美砂「やっとライブが終わったかなって、今、思ったんだけど……。そしたら来週とか、テレビがあるんだよね」
森若「うん、でもそれは〝テレビに出たい!!〟ってさわいだからさあ(笑)」
──でもライブとレコーディングが並行すると大変でしょう、体力的にも精神的にも……。
美砂「頭の切り替えがね、やっぱり……」
森若「体力的には大丈夫なんだけど、頭、使うじゃん。だからもう、いっぱいいろんなことを考えなくちゃいけなかったからね。基本的にライブもレコーディングも好きなんだけど、あれもやらなくちゃ、これもやらなくちゃ状態になっちゃってたよね」

前日は(といっても今朝の4時ごろまで)ニュー・シングルの「ロックンロール・サンタクロース」のプロモーション・ビデオの撮影のため、大船にある撮影所にいたという3人。睡眠時間もそこそこだろうに元気、元気!! 差し入れのアイスクリーム・トリュフとジンジャーマン・クッキーをほおばりながら、レコーディング大詰めの現状を話してくれた。

それにしても「あいにきてI need You」がヒットして、アルバム『グレイテスト・ヴィーナス』も好評。念願の武道館でライブをやって、今度のアルバムはいろいろな意味でプレッシャーがかかって、けっこう考えちゃったりしたのではないか、などと勝手によけいな心配をしてしまったのだが……。

森若「よりいっそう好き勝手にやってる!! 昔から好き勝手だったけどね。前のアルバムが好評でよかった、と安心して、また同じことをやろうとは思わないのね。これやったから、今度は何をやろうか? って……。基本的に、どんどん、どんどん壊していくほうが好きだから、そういう意味で、今回はまた違ったアプローチとか、たくさんあるよ」
──えっ、たとえばどんなの?
森若「たとえば……、打ち込みバリバリとかね」
──え〜、そうなの!?
森若「前のアルバムを作っているときは、ワールド・ミュージックとか、生の楽器を使っているものが好きだったのね。それで、打ち込みをいっさい使わないで、生で、いろんな楽器を使ってやったんだけど……。今はね、最近のハウスものとかが好きだから、つい打ち込みを使っちゃうの……。ダメなのよ、へへへ」
美砂「打ち込みといってもドラムは全部生だからね。ただ、リズムの上にのっかってるのを全部打ち込みにしたりしてるだけなの」
そういうニュアンスを出すっていうほうが好きだから……」
美砂「ベースはね、今回、シンセ・ベースも使ってるの。私、今回はシンセ・ベースを鍵盤で入れたから、手で弾いているわけで、こういうのはいいな、と思ったのね。普通のベースと鍵盤とをうまく使い分けられたらいいなって思って……」
森若「基本的にはドラムとベースは生だから、どんなことをやってもロックになっちゃうんだよね(笑)」
光子「アツクなってしまう!!」
森若「うっかりアツイ演奏になっても、それは好きだからさあ。けっこうフィッシュボーンとかって、下世話にいろんな要素を全部混ぜてやってるじゃない。だけど全部混ぜるってことは、すべてわかっているか、もしくはまったくわかっていないか、どちらかでないとできないこと。で、パロディーにしちゃってるか、そうでないかは、聞けばわかっちゃうじゃん。だから、ハウスやってるっていっても〝よし、次はこれがはやってるから〟っていうんじゃなくて、ハウスものが気に入ってるし、これをパロッてというか楽しんで取り入れちゃってるわけ。そういう意味ではマジメじゃないのかもしれないけどね。でも、こうでなければいけないとかっていうのを、そのとおりにやるという考え方って、あんまり好きじゃないんだよね。むしろ遊んじゃってるよね。全然マジメじゃない」

などといってるけど、この感覚、スタンスが、GO-BANG'Sならではのオリジナリティを生む要因なんだよね。ハウスものをGO-BANG'Sなりに取り込んだという今度のアルバムは、いったいどんなものに仕上がっているのか、今からリリースが待ち遠しい。

仕上がりといえば、なんと今回はトラック・ダウンをマンチェスターでやってくるという。11月末よりイギリスへ出かけるそうだ。出発までにダビングのほうは無事に終了するのかなあ? よく、出発ギリギリまでダビングして、スタジオから空港へ直行というアーティストも多い中……。

音程を確かめるための小型キーボード

これは、森若が使ったヘッドホンです

甘いものがないとやっていけないよ〜!!

GO-BANG'S NOW RECORDING !!

ニュー・アルバムをレコーディング中の
GO-BANG'Sのスタジオに潜入してみたよ!!

撮影●[illegible]弘　文●河合美[illegible]

森若「もう全然余裕。予定よりも早いぐらいだから。本当は、B-52'sのアルバムが好きだから、それを手がけたエンジニアの人にTDをしてもらいたいって思ったのね。それならニューヨークだってことになって、いろいろとコンタクトをとってたんだけど、スケジュール的に合わないとかいろいろあって、これは神様が〝ニューヨークへ行くな!!〟ってことなんじゃない、と話をしているころに、スタッフがロンドンへ行って、ベティー・ブーのスタッフと会ったらしくてね。ベティー・ブーも好きだし、そっちへ行こうということになったわけ。で、スタジオがマンチェスターにあるんでね、ロンドンじゃなく、マンチェスターというわけ」

そういえば以前から、海外へ行って、という発言はよくあった。今回、その思いがかなったというわけだが、単純に外国へ行きたいという思いだけではなく、行くべき目的意識がハッキリしていることを力説するメンバー。

森若「もう海外でレコーディングするってこと自体、全然珍しいことでもなんでもないじゃない。どうせ行くなら、行くことではなく、誰とやるか!!　たとえばTDをするなら、やっぱり自分が好きなミュージシャンのレコードを作った人とやりたいじゃん」

マンチェスターで英語バージョンのボーカル・ダビングも行なってくるというGO-BANG'S。おみやげ話も楽しみだね。

それにしても、GO-BANG'Sのみなさんのパワーは、すごい。最初はさすがに疲れてグッタリしていたけれど、音楽の話になるとたちまち目が輝き出し、あーでもない、こうでもないと、にぎやかにしゃべり出した。この調子だと、マンチェスターでも楽しく、かつシビアにトラック・ダウンをやってくるだろうな。ニュー・アルバム、本当に楽しみ!!

真ん中にいるのはディレクターさんです

レコーディング中、おじゃましました〜!!

TV eZ

詩人の血は騒ぐ。人前に出ると、とくに騒ぐ。カメラの前でも、これまた妙なアンバイに騒ぐ。
今回のeZは、詩人の血のスタジオライブなので、そのへんをじっくり掘りおこしてみた。
みよ。世界でたったひとつのロックンロールTV"eZ"。
明日死ぬかもしれないつもりで生きれば、なんか楽ちん。

詩人の血

LIVE VERSION
「バレンタイン」
「ドイツク」

The Street Sliders「THE LONGEST NIGHT」

渡辺美里「ポジティブダンス」from NKライブ予定

EPIC/SONY RECORDS

松岡英明
「SHAKE YOUR FIST」
12·21 RELEASE

ニューアルバム「LIGHT AND COLOUR」からのアーティスティックできれいなコンセプチュアルビデオ。
収録曲目:SHAKE YOUR FIST/VISUAL STRIKES BACK～逆襲編～/他
12分 | COLOR | STEREO
VHS ESVU-310 β ESUU-3310 LD ESMU-4310
※LDのみ'91.1.21発売 各¥2,600 税込(各¥2,524 税抜)

SPARKS GO GO
「R&R SUPERMARKET」
12·21 RELEASE

デビューアルバムからのナンバーに加え、ツアー中のメンバーや街角でのスナップを収めたファーストビデオ。
収録曲目:ダイヤモンドリル/Walking Talking/極楽天国/全3曲収録
17分 | COLOR | STEREO
VHS ESVU-309 β ESUU-3309 LD ESMU-4309
※LDのみ'91.1.21発売 各¥2,600 税込(各¥2,524 税抜)

eZ JACK! こんなちっちゃな文字まで読んでいるキミはえらい。キミだけにいい情報をあげよう。実はこの2ページの中にはeZ爆弾が仕掛けてあるのだ。はっはっは。このマークがぜんぶで何個隠されているか、調べてハガキで送ってくれたまえ。応募者の中から抽選で、"これはヤラレタ!"という豪華な景品をさしあげます。[送り先]〒107 東京都港区赤坂2-14-5 プラザミカドビル3F エピック・ソニー レコード ビデオ制作部 爆弾処理班eZ-W-12係

MONTHLY FLIPPER'S GUITAR JOURNAL

月刊 小沢と小山田

発行●CBS・ソニー出版 GB編集部　編集人●能地祐子　助手●松下香世　撮影●小池克也（ライブ）

NAGOYA CLUB QUATTRO 22 NOVEMBER

●全5本の全国ツアーの初日を飾る名古屋ライブ。ステージに登場したときからぎごちなかった二人のステージはいったい——!?

ひさしぶり。ステージに立つ彼らは、ますますカッコえがった。♪ドキドキ・ハートはキドキド、だわあ♡　フリッパーズ・ギターの全国ツアー。その初日、名古屋クアトロで彼らをキャッチした。全国ツアー。それは彼らにとって何を意味するのか？　ツアーが始まる直前、リーダーの小山田圭悟に聞くと、彼は吐き捨てるようにこう答えた。

「ふっ、地獄のロードさ」

確かに、な。だって、5本もあるのである。名古屋、大阪、そして東京が3日。いちおう日本列島を縦断してるが、5本だ。とほほほ。

しかし。さすが5本だけのことはある。この5本に、フリッパーズ・ギターは自らの情熱のすべてを注ぎこんだ。今回のライブを目の当たりにすることができた数少ないファンは、本当に幸せな人だと思う。5本だもん。年末ジャンボ宝くじの2等だって8本なのに。

「うるさい」

あ、リーダー。聞こえてましたか？

「5本、5本って。イヤミだなあ」

あ、小沢健二勤労学生メンバーまで怒る。でも、フリッパーズはどんなにがんばってもチケットが取れないって悲しみのお便りがいっぱいきてるんです。

「それは問題だよなあ。でも……」

「そう。別にいじわるして、そうやってるわけじゃないもん」

「なぁ」

「ライブやりたいけどさ。ほかにもいろいろやってると、ツアーする時間なんかないじゃん」

「なぁ」

「そんな少ないほうじゃないよ。この間のライブから半年も経ってないし」

「なぁ」

彼らが二人の世界に突入してしまっているすきに、かんじんのライブ・レポートに戻ることにしましょう。

オープニング・チューンは、炸裂するエレキ・インスト「クールなスパイでぶっとばせ」。姿を現わしたフリッパーズ・ギターってば、超クール。いかす。でも、ちょっと緊張してたりして、かわいい。彼らをサポートするバンドの面々は、4人。全部女の子たちだ。ただ、曲によっては男性のホーン・セクションも参加した。豪華でしょ。

唇をとんがらせて歌う小山田くんのボーカル。ヒジから力を込めて弾きまくる、小沢くんのギター・カッティング。ワイルドで元気。かわいくって無邪気。で、繊細でいじわる。なんだか、どれもこれも本当にフリッパーズ・ギターだ。本人たちなんだから当たり前なんだけど。

2枚のアルバム、そして『FAB GEAR』に新曲「ラヴ・トレイン」。曲が増えたこともあり、構成も以前より変化に富んで楽しさいっぱい。中盤では、ドラムレスのアコースティック・セットもあって。「クラウディー」の英語バージョンや、アズテック・カメラの「HOT CLUB OF CHRIST」なども聞かせてくれたりして。

アンコール。最近のイギリス音楽シーンのホット・ポイント、マンチェスターから謎のバンドThe top one flaresが登場した。フロントはマッシュルームふう髪型のタンバリン男と、泉アキふう髪型のギタリスト。二人とも、みごとなラッパズボンをはいてる。何を思ったのか、彼らは名曲「すてきなジョイライド」をマンチェスター的解釈でカバー。これが大ウケ。気をよくした二人は、もう一曲、フリッパーズの新曲で、マンチェスター・フレイバーいっぱいの「ラヴ・トレイン」を演奏したのだった。

アンコールを求める拍手はいつまでも続いた。それは果たして、フリッパーズに向けられたものなのか。The top one flaresに向けられたものなのか……。そのころ、バック・ステージでは、ラッパズボンの男がふたり。妙なカツラを脱ぎ捨て、お互いの健闘を讃えあっていた。

「アンコール、ウケたな」

「なぁ」

今月の被害届

フリッパーズねー。やー、ぼくがDJをつとめてる生放送のFM番組に出てもらったんですけどね。勇ましいんです、CMの間とかは。「もう誰にもまかせちゃいられない。自力でプロモーションするんだ。健太さん、俺たち、帰りませんからね、今日は。持ち時間、めいっぱい粘りますよ」かなんか言ってて。おー、こりゃ頼もしいなと期待してたんですが。本番になったら、なんのことはない。急に静かになっちゃって。二人で見つめあって「そうだよなぁ」「なぁ」とか言い合うばかり。そのあと、実は内緒で渡辺満里奈ちゃんに電話をつないでいたんですけど。いきなり満里奈ちゃんが電話で「もしもし」とか話し出したら、二人ともすっかり面食らった顔して。「えっ？　えっ？　何これ？」「誰？　誰？」とかうろたえてるんです。「ノージさんかと思った」なんてひとことまで飛び出しまつ。んなわきゃねーだろっての。あげくの果てに「ぼくたち、案外モロいんです」と言い残してスタジオを去りました。まあ、あんなやつらをゲストに呼んだ私も悪かったんですけどね……。（荻原健太氏談）

PNN　〝俺たちレコ大歌手なんです〟
PERFLI NEWS NETWORK

●〝『カメラ・トーク』初登場オリコン6位〟をふりかざし、増長を続けたパーフリちゃんだが。『予備校ブギ』は再放送すら終わり、そろそろその威力も消えかかっていたというのに、またもや彼らを増長させそうな大事件が起きた！　そう。テレビで見た人も多いと思うけど、レコード大賞のポップス・アルバム部門で、ニュー・アーティスト賞を受賞したのだ。売り上げ2倍のたまを抑えての快挙。

●この人たち、また増長するわ……そんなイヤな予感は見事に的中した。受賞の翌日、渋谷クアトロでのオリジナル・ラブのライブ。タンバリン&コーラスでアンコールに参加したパーフリちゃんは、〝新人王〟というタスキをかけてVサインとともに登場。静かな笑いを誘ったのだった。さらに自らのライブで、くす玉を割ってお祝いしたとか。ああ、かつてのキミたちはもっとアンニュイだったはずさ。

●最近、熱烈なお手紙も急増中。〝私をクレイジーにするのは、フリッパーズ・ギターの音楽と圭悟さまです〟というのは、富山県・柳菊代さん。それを読んだ圭悟さま、鼻の穴がプンプクふくらんでます。

小山田「これからは圭悟さまの時代じゃないですかね。はっはっは」

小沢「健二さまも募集しておりますので」

すねております。でも、柳さんのお友達で、同じく富山県・林由紀子さんは健二さまのファンだそうですよ。

●大阪のアイドル・ミニコミ誌『OHHO』を作っている池田裕彦さんが、表紙にフリッパーズ・ギターが登場する最新号を送ってきた。パーフリちゃんはびっくり。「オレたちが表紙！」「こんなことがあっていいのか」「業界初だぜ」フリッパーズ・ギターの音楽は、アイドリアンの心もくすぐるか？　最近はフリッパーズ本も出始めてるとか。よかったら送ってください。

OHHO 21

FLIPPER'S GUITAR

Winkを感じる場所

勝ちぬきコレクター合戦Vol.2 ［消しゴムVSえんぴつ］

宮史郎のCDコレクション自慢という、フリッパーズとはほど遠いコレクションからスタートしたこのコーナー。今月は宮史郎をぶち抜いて、文房具コレクターのお二人が勝負だ！

●

★鹿児島市・なまいきなガキ：えんぴつ

〝よくある、使いみちがない、あってもしかたない……の3つに代表されるエンピツを集めてます。1年ほど前までは80本ありましたが、友達に配ったりして今は55本に減りました〞

★福岡県・藤木亜紀子さん：消しごむ

〝ホントにしょーもないもので恥ずかしいのですが……それでも私は集めてよかったと思ってしまいました。最初はへんな形のミョーな消しごむだけ集めはじめたんですが。いろんな人が協力して、買ってきてくれたり。で、500個を超えて置き場に困ったので今はやめてます〞

●

小山田「すげ一対決だな」

小沢「〝なまいきなガキ〞さんは縞模様に鉛筆を削ったものも送ってくれましたが」

小山田「消しごむのインパクトには負ける」

小沢「集めてたものをあげちゃったっつーのが惜しいよな」

小山田「コレクターは、集めたものをむやみにあげたりしちゃいけないッ！」

小沢「藤木さんはねえ。すごいよ」

小山田「なあ」

小沢「封筒まで徹底してる」

小山田「東京の〝FLIPPERS〞っていうダイバーズ・ショップの封筒なの」

小沢「たまげたな」

小山田「そこのタンクトップとか、ステッカーとかも買って。その写真も送ってきた」

小沢「フリッパーズと名のつくものを集めちゃう。これはコレクターの魂、あるな」

小山田「ほめていいのか悪いのかわかんないけど。魂、あるよ」

まったく。偉いのか偉くないのか。でもすごい。今月は藤木さんの勝ち。来月の挑戦者は!?

THE FLIPPER'S GUITAR

FLIPPER'S CONFIDENCE

みなさんの周りのフリッパーズ人気を報告する〝フリ・コン〞。あらら、今月のパーフリちゃんはご機嫌。1枚のハガキを手に浮かれてます……けど、コサック・ダンスで喜びを表現するのはやめなさいね。イメージ壊れるから。さて、そのハガキ。静岡県・杉山真穂さん。

「私の周りではフリッパーズは人気あります。ナントこの前、学級新聞にのってしまった！「恋とマシンガン」が、〝好きな歌BEST3〞の第2位に輝いたのです」

小沢「2位だよ、2位」

小山田「オリコン6位を超えた」

小沢「学級新聞には強いんだよ、オレら」

なんだかなー。こんなに簡単な人たちだとは思わなかったわ、昔は。

小山田「これからは学級新聞の時代だな」

小沢「よし、これからは学級新聞でプロモーションを展開するぞ」

あなたの街のパーフリちゃん

●教科書ネタがふたつ。和歌山県・辻本典代さん。英語の教科書に出てくる〝ケンジくん〞が小沢くんに似てると。小沢「そうかなあ」小山田「名前もケンジ？これはいいセンいってるよ」……続いては大阪府・杉山友美さん。歴史の教科書に載ってた〝金融業者とその妻〞がパーフリちゃんだ、と。小沢「ふむ、16世紀東方貿易ですかね」小山田「似てなくもないけど」

●千葉県・八本真理子さん。味覚糖飴の包装紙に、帽子の写真を貼って〝小山田さん〞。小沢「これ、すごく似てるな」小山田「この帽子、たぶん僕のだよ」

●小沢「ま、きわめつけは東京都・安田赤衛門さんから」小山田「あー『サルまん』！」表紙の絵、笑える。ごていねいにベレーまでかぶってて」小沢「この本はオレらの基本」小山田「中身もなんかフリッパーズっぽいの」小沢「パーフリ・ファンのバイブルですよ」

↑金融業者とその妻　16世紀の富裕な商人の風俗を示している。

UHA
味覚糖

知名度向上キャンペーンその1 学級新聞広告大作戦

てなわけで。1枚のハガキをもらったことから、またしてもパーフリちゃんはグレート・アイデアを思いついたのである。

小沢「よし。学級新聞に広告を打ちましょう」

なーんと。あなたのクラスの学級新聞にフリッパーズ・ギターが広告を出してしまう。

小山田「広告って、ただ？」

そう。

小山田「そーゆーもんなの？」

もちろんフツウの広告はお金払って載せてもらうもんだけど。我々はファンのみなさんの善意につけこんで、ただでのっけてもらうの。

小沢「いいねえ。よし。みんなが見るようにバシッとカッコいい広告を作りましょう」

では、応募要領をお願いします。

小山田「自分のとこの学級新聞にフリッパーズの広告を載せたいって人は、まず見本の学級新聞を『学級新聞広告大作戦』係まで送ってください。どこのスペースにどれくらいの大きさで広告を入れられるのかも、できれば書いてね」

そしたら、こちらからお返事を送ります。

小沢「広告が載った新聞は、絶対に僕らに送ってくださいね。僕ら、それだけが楽しみ」

そうそう。まノリ一発の企画ではあるんだけど、やっぱし、広告を送るのは絶対に載せてもらえる新聞に限ります。でも、学級新聞ならどんな小規模なものでもOKよ。クラスや先生の了承が必要なときは、ちゃんとお願いしてね。

PRESENT！

⇨毎月、たくさんの投稿ありがとう。手紙の山を前にしたフリッパーズ・ギターの二人は、本当に幸せそう。さすが山羊。取材のときなんか手紙ばっか読んでて、インタビューもできやしません。そこで。感謝をこめて、今月もものすごいプレゼントだ。'91年のスケジュール帳に、またもや彼らが絵と字を書いてくれた。豪華すぎてサインなんて軽々しく呼べないわ。1月20日までに投稿してくれたみなさんの中から抽選で3名にさしあげます。

今度、『月刊・小沢と小山田』特製ピックを作ろうかと思っています。もちろん、みなさんへのプレゼントのためさ。ロゴマークは、現在パーフリちゃんが鋭意制作中。のはず。「え、僕たちもピックもらえるんすか？」と、小山田くんが謙虚に質問。もちろんです。「やったー！」レコ大歌手がピックくらいで騒ぐんじゃないの。お楽しみに。

編集後記

▷「手紙って、その人なりの個性が出てておもしろいね」と、感心することしきりのフリッパーズ・ギター。▷本当に、凝ったイラストあり、おかしなプレゼントあり。文章で笑かす手紙あり。おしゃれなのから、へんなのまで。さすがフリッパーズ・ファンはユニークです。センスいいわ。▷彼らをさらに唸らせる投稿をお待ちしております。▷身の周りの〝フリッパーズしてるものを探す「あなたの街のパーフリちゃん」、お友達や家族のフリパ認識度を報告する「フリ・コン」、単なる自慢「勝ち抜きコレクター合戦」、業界のみなさんにご利用いただきたい「今月の被害届」……などなど。なお、まだまだ新企画も募集中。〒156-91 東京都世田谷区千歳郵便局私書箱15号 CBS・ソニー出版 GB『月刊・小沢と小山田』各係まで。▶レコード大賞で、坂東英二が〝フリッパーズのギター〞と間違えたのには笑った。そして、アッコと小山田のツーショット♡に感激した。▷安田赤衛門は小沢くん……か!?

THE STREET SLIDERS
NASTY CHILDREN

●ストリート・スライダーズのニュー・アルバム発売。
蘭丸とハリーにインタビューをしてみた。

撮影●植田敦　文●関陽子　ヘアメイク●エル マーゴ吉川清美　撮影協力(骨)●ギャラリー・コア☎03-5485-0707

THE STREET SLIDERS NASTY CHILDREN

THE STREET SLIDERSの新作『NASTY CHILDREN』が完成した。
蘭丸「できました」
ハリー「長かったね、すごく。2回に分けて録ったりしたからね。最初に10曲ぐらい作って、ロンドンに行く時点で6曲を選んだんですよね」
蘭丸「東京で4曲録って、それを落とすっていうことも考えて、エンジニアにスティーブを選んだっていうところはあるよね。どうしてもバラつきって出てきちゃうからさ」
──ロンドンという街と音との関係は？
蘭丸「ロンドンにかぎらず、他の土地に行ってやるっていうのは何かあるんじゃないか、っていう気持ちは少なからずあるわけで。エンジニアにしても、ミュージシャンにしてもさ」
──今回、歌詞はどっちで書いたの？
ハリー「こっちで作ったんだよな、ほとんど」
──場所が変わると、同じことに対するイメージが変わって、言葉も変えたくなることはありませんか。
ハリー「まあ……、そういうのもあるだろうね」
──私の印象としては、今までは何もないところから「こんな感じでやってみようか」と、粘土をこねたり積み木を積み上げるようにして作っていたスライダーズの音楽が、そういう作業と同じかそれ以上に、最初にこういうものを作りたいというイメージがあって、そのイメージに近づけていくっていうやりかたになってきたのかなあっていうのがあったんですけど。
ハリー「まあ、そうじゃないかな。ひとつの形にまとめたいってことじゃないかな」
──1曲ずつについて話を聞かせてください。「COME OUT ON THE RUN」。
ハリー「これは詞があったんだよね、昔から。で、これは今回あってるんじゃないかってことで、じゃあ作ってしまおうってことに」
──歌の内容としては「BOYS JUMP THE MIDNIGHT」に近い。
ハリー「ええ、そうですね」
──音のほうは。
蘭丸「ノリのいいR＆Rナンバーに仕上げて、早くライブでやりたいっていう曲だったな。ステージに持ち込みたいっていう」
──2曲目「CANCEL」。こういう気持ちはよくわかる。
ハリー「これはもう、詞の内容どおりなんだけどね」
──JOY POPSとしての曲の作り方は？
蘭丸「いろんなやり方があるんだけどね。今回はわりと、ハリーがためてた詞に俺がリフをつけたっていう感じかな。それをバンド・セッションに持ち込んだっていうのが多いかもしれない」
──「IT'S ALRIGHT BABY」。これも、早くライブでやりたかったでしょ。
蘭丸「これはジェフっていう、おもしろいパーカッショニストがいてね、5人で録ったんだよね。メンバー以外のミュージシャンとベーシックを一緒に録るっていうことは、今までほとんどやったことがないんだけど」
──そういうのって、緊張感の流れみたいなのが変わるでしょうね。
蘭丸「ズズとかジェームスは、やっぱりビンビン変わってた。やっぱりすごくいい経験をしたって言ってたよ」
──ハリーはどうでしたか、一緒にセッションをやるっていうのは。
ハリー「俺はおとなしくしてましたよ」
──資料によると、〝溶けてしまいそうでした〟とありますが。
ハリー「ああ、そっちのほうがいい表現だなあ(笑)」
──「FRIENDS」。これは、とてもいい曲ですね。
ハリー「気にいってるんですよ。個人的には」
──今回は言葉に気になるものが多くて。たとえばFRIENDSっていうのもいってみればありきたりな言葉で、今までいろんな歌に使われている。でもその同じ言葉をスライダーズが使うと新鮮に聞こえる、というのがあった。
ハリー「ええ、スライダーズの味が出てて、それをまあ、噛んでもらって」
──「LOVE YOU DARLIN'」も〝Darlin'〟が新鮮です。
ハリー「ちょっと前からあった曲で、れを今回ちゃんとやってみた」
──前からあった曲を今回やろうというときに、曲を選ぶ基準みたいなものは、どこにあるんでしょうか。
蘭丸「アルバムにひとつコンセプトをつけてさ、それに向かって曲を作っていくっていうのとは、ちょっと違うもんね。そろそろ録音するぞっていうことになって、いろんな曲を見渡してみてさ、今回はどのあたりをやりたいのかっていうのを絞っていくのかな」
──では「THE LONGEST NIGHT」。
蘭丸「これも、ジェフと一緒に録ったんだよね」
──「ROCK'N ROLL SISTER」は、目立つよね。気分が変わる。
蘭丸「この曲の原形がね、俺はすごく気にいってて、これをぜひ歌いたいっていうことで」
──「安物ワイン」。他のタイトルが全部英語で、これだけがバーンと日本語で、かえってカッコいいなあと思ったんですけど。
ハリー「あ、そうでしたか」
──おかしい？
ハリー「いや、そうですよね。そういうとらえかたもあるよね。逆のこと言ったヤツもいたけど。ダッセーとか言いやがって。人に、面と向かって(笑)」
──「PANORAMA」は、私のいちばん好きな曲です。
蘭丸「これをハリーが持ってきたときは、やったと思いましたけどね」
──ハリー自身はどうですか。
ハリー「ただの歌だと思うんだよね」
──街という言葉や、それにまつわるモチーフが今回はたくさん出てくる。自分のまわりの環境に改めて目を向けたということはあるんですか。
ハリー「ええ、まあ」
──たとえば。
ハリー「長かったからねえ、できるまでが。だから、調子いいことばっかりじゃないしねえ。そんなに沈んでばかりもいられないし、みたいな感じで。それで、まわりを見たんですよ」
──「DON'T WAIT TOO LONG」。
蘭丸「ブルースな歌をちょっと粋にきめたいな、っていうのがあって」
ハリー「こういう内容の詞もスライダーズでやりたかったことのひとつだから、今回やれてよかったなあと思って」
──それでは、タイトルの「NASTY CHILDREN」について。
ハリー「まあ、漠然としてるんですよね。とりあえず他にもいくつか考えたんだけど、やっぱりこれしか残らなくて。だから、これだっていう意味とか理由とか聞かれても困っちゃうんだよな」
蘭丸「10人いれば、10人の違うところに触れるっていうかさ、そんな言葉だよね」
──蘭丸にとっては。
蘭丸「くそガキの愛しさ、とかね(笑)、みんな違うんじゃないかな」
──ジャケット写真はハリーの手です。
ハリー「顔のアップばっかりですからねえ。まあ、なにも手にいくことはなかったんじゃないかっていう気もしますけどね、(笑)いいんじゃないですか」
──聞いてくれる人たちに何か。
ハリー「まあ、気持ち半分で聞いてもらうって感じがいいですね。そういうノリが。ラクに聞き流してもらって、ヒマになったら手でも見てもらって」
蘭丸「ライブでずいぶんやってるからね。また違った聞きかたができていいんじゃないかな」

SPECIAL ISSUE おもしろ元気ヤング・ミュージック・マガジン・パチ・パチ

PATi PATi PRESENTS STYLE

PRICE=980YEN

ぜーんぶ大特集。おなじみ。パチ・パチ
スタイルも今年で5冊目。
より立派、大充実。定価そのまま。

［超豪華、充実の15大特集］

TMN/米米クラブ/J(S)W
UNICORN/BUCK-TICK
B'z/THE BOOM/プリンセス²
大江千里/松岡英明/渡辺美里
チェッカーズ/BY-SEXUAL
BAKU/レピッシュ

氷室京介/バービーボーイズ/KUSU KUSU/ドリームズ・カム・トゥルー
KATZE/UP-BEAT/ソフトバレエ/フリッパーズギター/真心ブラザーズ
高野 寛/すかんち/COBRA/SPARKS GO GO/TRACY/ガラパゴス etc.
BUHI-BUHI SPECIAL

POST CARD 付

▶パチ・パチ・サイズ▶376ページ▶定価980円（税込）

パチ・パチ・スタイルYEARBOOK1990-1991

12月26日発売

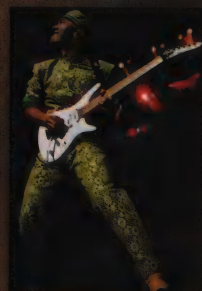
●正式な発売日はパチ・パチ1月号（12月8日発売）でお知らせします。

CBS・ソニー出版 〒102 東京都千代田区五番町6-2 TEL03(234)5801

BAKUFU SLUMP

TOUR 1990-1991 ORAGAYO TO The 7th Heaven

●アルバム『ORAGAYO』をひっさげてのツアーが、11月19日のNHKホールを皮切りにスタートした。今まで以上に硬質な面を持ったBAKUFU-SLUMPが見せたライブ。そこには自信があふれていた！

文●GB　撮影●KEIKO

非常に勝手な推測だが、BAKUFU-SLUMPにとっての最大の危機は昨年の8月〜11月ころ、I.B.Wを制作し終え、ツアーに入る直前のころだったんじゃないだろうか。一般的には、1月に江川ほーじんが脱退し、バーベQ和佐田の加入が決定するまでが、その最大の危機だったと考えられているが、それはメンバーが一人抜けたという物理的な面でしかない(当然精神的な危機感もあっただろうけど)。極端なことをいえば、ほーじんにも劣らない有能なミュージシャンを一人加入させれば、なんとかなると考えていたと思う。そこには、音楽を続けていくという意味を考えさせるような問題は含まれていなかったはずだ。逆に、バーベQ和佐田というすぐれたミュージシャンが加入したことにより、音楽に対しての意欲はいっそう強まったに違いない。

が、「Runner」、「リゾ・ラバ」などのヒット曲により、相次ぐテレビ出演、映画の撮影などでスケジュールは次々と埋まっていった。そういった、表面上の活動だけでBAKUFU-SLUMPはとらえられ、本来彼らが持っているはずの硬質な部分がどこかにおきざりにされたまま、人気が出ていったように思う。スケジュールが思うようにとれず、短期間に制作された「I.B.W」(といっても、制作時間の短さからくるテンションが緊張感を生んでいて、好アルバムだと思うが)を制作し終えても、ぎゅうぎゅうに詰まったスケジュールをこなしながら、サンプラザ中野も、パッパラー河合も、ファンキー末吉も、そしてバーベQ和佐田も、"俺たちはなんのために音楽をやっているんだ"と考えたはずだ。それは、音楽をやっている意味を、BAKUFU-SLUMPを続けていく意味を問う切実な問題として、精神的な問題として残っていった。自分たちの存在価値を問いただす局面を迎え、BAKUFU-SLUMPは最大の危機に直面した。

その答えを、そしてそれに応えるだけの十分な内実を得るために、"I.B.Wツアー"終了後の今年の春に、それぞれが約2か月間のオフをとり、各自が世界を旅してきた。

その結果生まれたアルバムが、先ごろ発売された「ORAGAYO」だ。このアルバムには、BAKUFU-SLUMPが本来持っていたはずの硬質な部分が、いままで以上に現われた力作となって我々の前に提示された。一人のホモセクシュアルの人間が幸福にいたるまでをメイン・コンセプトにしながら、収録された曲にはさまざまなテーマが込められている。そこには、BAKUFU-SLUMPが言いたかったこと、訴えたかったことがはっきりと読みとれる。そして、BAKUFU-SLUMPの本当の魅力を再確認させてくれるアルバムだ。

そのアルバム「ORAGAYO」をひっさげてのツアー"ORAGAYO TO THE 7th Heaven TOUR 1990〜1991"が11月19日のNHKホールを皮切りにスタートした。

白いスモークがステージを覆ったのと同時に、力強い演奏が流れ出した。しばらくするとサンプラザ中野が登場。まぶしすぎるほどの銀ギラのスーツを身にまとい、「週間東京「少女A」」でライブは始まった。バーベQ和佐田のベースのボディも、装飾がなされ銀色に光っている。パッパラー河合は、あいかわらずの腰の動きでギターを弾く。ファンキー末吉も激しいドラミングを繰り広げている。以前よりも力強さを感じさせるBAKUFU-SLUMPがいる。「うわさになりたい」などの青春シリーズの曲をたてつづけに演奏するシーンもある。河合のアコースティック・ギター一本をバックに、中野がせつなく歌う曲もある。

中盤は「ORAGAYO」からのナンバーが続く。「明日は晴れるだろう」では山場のひとつが見られる。中野がわざとおおげさなフリをつけ、そのうえまたいっそうおおげさに歌いあげていく。レコード以上にスケールが大きく感じられる曲となっていた。

後半はアップテンポのナンバーを中心に、ライブは頂点に向かって進んでいく。

来年の春まで続くツアーだけに、これから見る人も多いと思うので、演奏曲、演出について具体的には書かないが、僕なりに解釈した点……。

まず、衣装が今まで以上に派手だ。それは、中野、末吉らが金、銀の衣装を身にまとっている姿を見ればわかるが、そこにも意味はあるはずだ。BAKUFU-SLUMPが"お金"をテーマに歌っている曲は何曲かある。それを象徴する派手な恰好をすることで、逆に皮肉を込めているんじゃないだろうか。

照明はところどころにいろいろな色が混ざるが、印象として、一曲一曲にそれぞれ特定の色を使っているように感じた。それは、「ORAGAYO」の各曲がひとつひとつテーマを持ち、メッセージを持っているのと同様に、ひとつの色がその曲の意味を、テーマを示すことになる。

次に盛りだくさんの演出。前回のツアー以上に、曲中、曲の合間、エンディングにさまざまな演出がこらされる。過剰といえるくらいの演出もある。実際、後半のある曲で、パッパラー河合が前回のツアーでかえるに変身したように、ある物に変身する。そのシーンを見たとき、"「ORAGAYO」という名作を作った今のBAKUFUに、ここまでの演出がはたして必要なのかな?"と疑問が湧いた。が、その変身する物は、「ORAGAYO」のテーマでもあるホモセクシュアルを象徴するものであり、このツアーでも重要な意味を持つものだ。アルバム「ORAGAYO」でひとつの完成形を示したBAKUFU-SLUMPは、このツアーで、そのワンランク上の完成を示そうとしているに違いない。そのためには、この演出がどうしても必要なものだったんじゃないだろうか。また、そういったさまざまな過激な演出は、今の一歩突き抜けたBAKUFU-SLUMPだからこそできるものだし、やっても不自然なものとはならない。

ステージ上で披露した数々の姿、歌、演出には、彼らの自信とエネルギーが強く感じられた。

BAKUFU SLUMP
TOUR 1990-1991
ORAGAYO
TO The
7th Heaven

旅行主催：近畿日本ツーリスト（株）

海外ツアー企画　第1弾

B'z PARTY PRODUCE

"HAWAII"

"B'z PARTY IN HAWAII"

B'z PARTYが主催する、海外ツアー企画がいよいよ実現します。初春、まだ肌寒い日本を抜け出し、B'zのメンバーふたりと常夏の島"HAWAII"で大いに遊ぼうではありませんか！　マハラジャでのパーティーやスポーツ大会を始め、各種オプショナル・ツアーを用意して、太陽と海とB'zがあなたの参加をお待ちしています。

日程：平成3年3月20日(水)～3月25日(月)
（出発日、帰着日を含む6日間）

実施内容

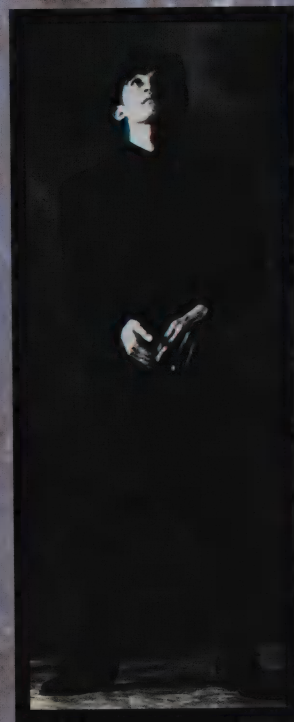
- マハラジャ・パーティー
  B'zとコンサート・スタッフを迎えて、マハラジャにてディスコパーティーを開催。パーティーではゲームを楽しみ、豪華な賞品も用意しています。
- スポーツ大会
  これもまた、B'zやスタッフといっしょに遊ぶ企画です。ステージでは見れない、B'zの素顔や意外な一面がのぞけるかも。
- 各種オプショナルツアー（自由参加）
  マリン・スポーツやサンセット・ディナークルーズなど、あなただけのハワイを満喫してください。（オプショナルツアーへの参加費用は個人別負担となります）

参加費用　会員価格　￥188,000－
　　　　　一般価格　￥198,000－

最少催行人員150名　添乗員同行
（個人的費用、渡航手続料金、空港税等は含まれません。前記以外の事項は、別途の募集規定、旅行業約款によります。）

参加申し込み方法

- あなたの住所、氏名を明記して、62円切手を入れて、「ハワイツアー申し込み用紙請求」と書いた封書をB'zパーティーまでお送りください。おり返し、申し込み用紙をお送りします。
- B'zパーティー会員の方は、申し込み用紙を請求する際、必ず会員番号をお書き添えください。記入がない場合は、一般参加価格になる場合があります。
- 会員価格での参加者は、平成3年1月末日（当日消印有効）までに入会手続きを完了した方に限ります。
- ハワイツアー申し込み用紙の請求は、平成3年2月20日（当日消印有効）までとさせていただきます。
- また、参加人数は200名までとし、募集定員になり次第締め切らせていただきます。

B'zファンクラブ "B'z PARTY " 会員募集　■62円切手を貼った返信用封筒を入れた封書に入会希望と明記してお送りください。折り返し入会案内書をお送りします。
■B'z PARTY　ハワイツアーへの会員価格での参加希望者は、平成3年1月末日（当日消印有効）までに入会手続きを完了してください。
B'z PARTY　ハワイツアーと、入会に関する総合問合せ先　"B'z PARTY" 〒106 東京都港区六本木3-4-5 コープ野村第2 601号 TEL 03-586-8179
平日11：00－19：00　日、祭は休日■会費　半年分　入会費￥1,000　半年会費1,500　合計￥2,500　1年分　入会費￥1,000　年会費3,000　合計￥4,000
※入会希望、ハワイツアーの両方にお申し込みの方は、それぞれ別の封書でお送りください。

MAIL ORDER INFORMATION

B'z RISKY LiveGym 1990●1991

A. '91カレンダー

B. MG-Mバッヂ&ピックSet

C. ナイロンバッグ

D. KEYホルダー

E. パンフレット

F. ネックレス

G. BIGタオル

H. レター&ステッカーSet

I. STAFFジャンパー

J. 長袖Tシャツ

K. ポーチ

商品リスト（会場販売価格）

A.	'91カレンダー B'z過去の全スケジュール入り	￥2,500
B.	MG-Mバッヂ&ピックSet 松本モデルギターバッヂ&Newピック	￥1,500
C.	ナイロンバッグ 巾着タイプ	￥1,000
D.	KEYホルダー 両面にB'z、RISKYの刻印入り	￥1,200
E.	パンフレット B4、40P　ハードケース入り	￥2,500
F.	ネックレス 稲葉モデル　ステージにて使用	￥1,500
G.	BIGタオル 139cm×73cm	￥4,000
H.	レター&ステッカーSet 特製ケース入り	￥2,000
I.	STAFFジャンパー	￥15,000
J.	長袖Tシャツ	￥3,800
K.	ポーチ	￥3,200

（通信販売価格には、梱包及び発送手数料がプラスされます）

通信販売を御希望の方は、住所氏名を書いて62円切手を貼った返信用封筒を入れた封書を、下記宛お送りください。折り返し郵便振込用紙をお送りします。

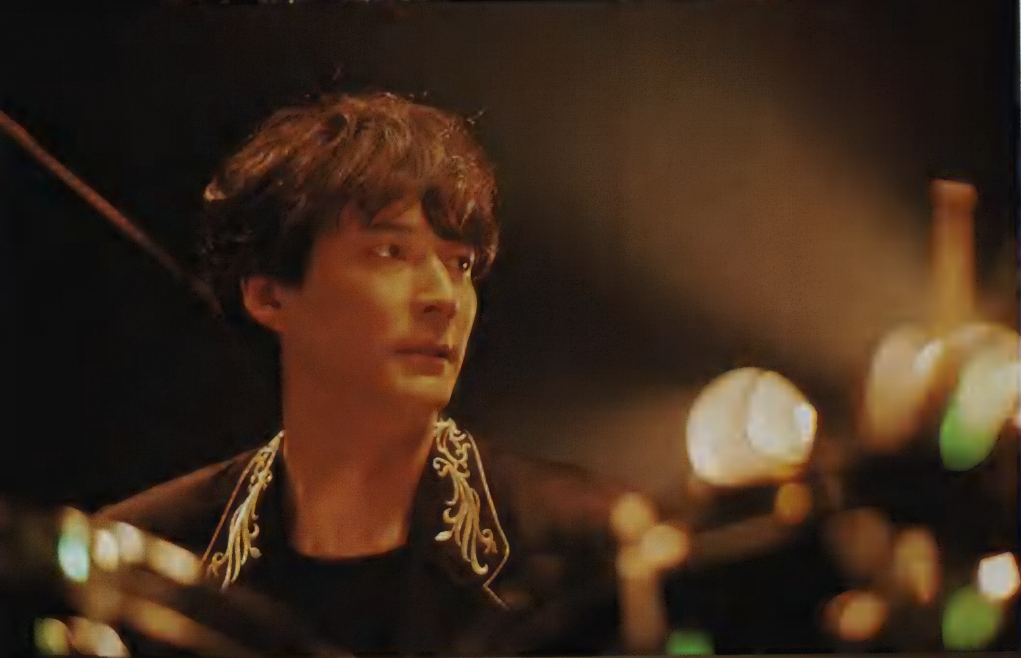
〒112　東京都文京区小石川2-5-7
佐佐木ビル5F　（株）八曜社内　ビーズ
通信販売部　TEL 03-814-2107（月～金 11：00～18：00）
※B'z PARTY OFFICEへのお問合せはしない様にお願いします。

FENCE OF DEFENSE

GIG ACT-3

11·27 クラブチッタ川崎

いよいよ始まった、GIG ACT-3。今回は、11月27日、クラブチッタ川崎での模様を、お届けしよう。やっぱりFODのライブはサイコー!!

撮影●ハービー山口 文●[illegible]

ボクにとって〝GIG ACT-3〞のプログラムは、(笑)で始まった。今回のツアーのオープニングBGMはその名も「双頭の鷲のもとに」。体育会系のイベントでよく耳にするマーチだ。それが当夜は国立競技場で鳴り響くカンジというより、学校の運動会のノリで聞こえた。〝パンパカパーン　パンパカパーン〞――あのメロディーってこうやって文字にするとひどくヒョーキンだけど、当夜もまずそういう雰囲気で届いてきた。ひょっとしてそのとき、開演前の楽屋で目撃した健ちゃんとマットシの頭――カーラーをたくさん巻きつけたモーツァルト状の髪形――のことが脳裏をよぎっていたのかもしれない。

とにかく、いつもとは方向性の違う楽しさ、おかしさが流れていた。つられるように客席が手拍子を始める。そうやってBGMの1コーラスぶんが過ぎ、「アレ？」っと思った。その2コーラス目は今まで耳にしたことのない展開。アナログ盤が針飛びしてるみたいな感じ。同じところを何度もくり返しては先に進み、最後はいろんなパートが重なって出てきたり。思わず「してやったり」って表情をしてるマットシの顔が浮かんだ。誰もが知ってる、でも予想外の選曲をぶつけて、実はその実態はリミックス・バージョンだったという。「ハウス・ミュージックの手口。やられた！」と思っていると、今度は本当にハウスのドラム・サウンドが流れてきて、3人のプレイが始まった。「？」。いきなり聴いたことのないナンバーだ。手渡されていた曲目表を見ても「Openning Inst.」としか書かれていない。ハイ・スピードのハードロック。ハウスからHRへ。てのひらを返したような展開を平気な顔してやって、早くもハイ・ボルテージのサウンドを叩きつけてくる。あとで聞いたところによると、コレはマットシの曲だとか。フーン、こういうナンバーも作るんだ……。

「Welcome to our treasure land!!」。1曲目が終わって彼が叫ぶ。「ジャーン」――間髪を入れず次の曲が始まる。「ジャーン」。ギターを鳴らしながら健ちゃんが客席に向かって指をさす。再び「ジャン」。こんな曲あったっけ？　バシバシのキメで始まるナンバー。歌が始まるとやっぱり「Welcome……」だった。そのニュー・バージョンというわけか。再び曲目表を見ると「WELCOME '90」と記されていた。まったく最近のFODって、ちょっと目を離してるとこの調子なんだからッ。

FENCE OF DEFENSE
GIG ACT-3

でも、演奏のテンションは異常に高い。曲調のせいもあるにせよ、ワタルは近ごろおなじみの体を左右にゆらしながらの微笑ドラミング、じゃない。顔をキュッとひきしめて一打入魂の叩きかたをしてる。健ちゃんはといえば完ペキにプレイの中にハマってる。ギタリストがどれくらいその状態になっているかはソロ・パートを聴くとよくわかるものだけど、ここで彼はみごとなくらいにリズミカルなリードを弾きまくっていた。コードを刻む3倍ぐらいの速さで、でもコードを刻むぐらいの正確さで。そうやって「HONEY MONEY」「FREAKS」と進んでいく。「いやー、今回はど頭からこういう曲順だから……」と終演後に言ってた健ちゃん。だけど、そのど頭からここまで盛り上がれるってすごいことだと思うよ。

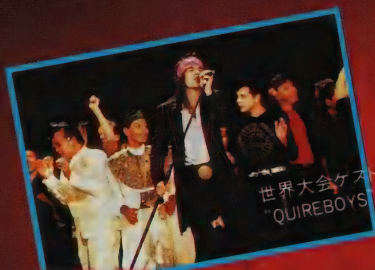
5曲目。「PLASTIC AGE」。例の曲目表によれば「PLASTIC AGE '90」なのだそうだ。この「'90」バージョンは、すでにこれまでのライブハウス・ツアーでも披露されてきたもの。でも、今回はさらにいろいろと手が加えられていた。マットシが紹介した曲名を引きつぐように「PLASTIC、PLASTIC……」とサンプリングされた声が左右に飛び交い、ジェームズ・ブラウンですか？　って感じの曲が始まる。それから唯一原曲に近いサビがあって、ソロがあって、新たにサイケっぽいメロディーが登場。その後、曲も終わってないというのにワタルがスタスタと前に出てきて、他の二人とともに客席に向けてハンド・クラップ！　そういうコーナーののち、歓声を残して再び3人の演奏に戻っていく。開演前、「今日は1曲10分ぐらいの曲が2曲ぐらいあるから曲数が少ないんだ」と言っていた彼ら。だけど、それがこんな内容だとは知らなかった。

なんか余裕の「PLASTIC AGE」。そしてもう1曲、その「1曲10分ぐらいの」っていう曲が披露された。曲名はそっけなくも「Minor Blues」。これは健ちゃん作のインスト物だった。ここでマットシはキーボードを担当。すごくキレイなギター・サウンドで始まって、だんだんハードになって、再びクリーンに、静かに終わっていくという構成。照明もストーンと落とされていて、ふつうのライブでいうところのバラード・コーナーのような場面でした。曲が終わって、歓声というよりジワジワッと拍手が広がったところで照明全開。いわゆる後半の盛り上がり、っていうのが始まった。

7曲目「いつだって君のしてる事は…」、8曲目「MIDNIGHT FLOWER」、9曲目「EMOTIONAL WAY '90」、10曲目「DAMN CITY」、本編ラストに「COME ON！」。7曲目はワタルの曲、9・10曲目はヘッドホンなしの曲ということもあってか、ワタルはすごく楽しそう、楽そうに叩いてた。健ちゃんは右に走っていっては弾き、左であおっては弾き……とにかく弾きまくり。そしてマットシは得意の曲線的なアクションで変化をつけていく。途中、お互いが終わりの合図をゆずり合って(？)なかなかエンディングに到達できないナンバー、とかも織りまぜつつ、でも、キメるところはキメて全11曲が終了した。

アンコール。ワタルはスタスタと、健ちゃんはコブシをふり上げて、マットシは両手を飛行機のように広げながらト・ト・トッと出てきて、まず「FAITHIA」。そして健ちゃんのMC。

「ひさしぶりにココでできました。ボクらとしてはここは初めて(〝エーッ!?〟と他の二人)イベント関係を除いて！　バンド内で不和をおこさないように。(笑)エート、とってもですネー……(〝暑いゾ〟と客席)暑いですネ。(〝気持ちいい〟と客席)気持ちいい。だまってると勝手にMC考えてくれる。(笑)エー、川崎に来て、やって、終わって……何をしゃべってるのか(笑)……けっこう本人たちは感動してるもんで。(拍手)ん？(うしろのほうでマットシがいろいろとポーズして客席は大盛り上がり)そこ、態度悪いよ！(言われてマットシ退場)だんだんステージ上でおちゃめになってきてますけど、本能というか性(サガ)っていうか、佐賀県出身。(笑)今日は他では見られない緊張感あるステージで、やってるボクらも〝一体このあとどうなるのか？〟って場面もありましたが……みんなはボクらみたいに気持ちよかった？ちゃんとポスター買った？(笑)エー、では最後に、心あたたまる一曲でお別れのあいさつに代えさせていただこうかな？」

心あたたまる曲。「PARALLEL」。たくさんの〝'90年バージョン〟や新曲が披露された中、こればかりはいつもの、変わらない「PARALLEL」。それが逆に、ステージの一番最後をグッとまとめ上げていたような気がした。ハードロックで、ダンスビートで——FODのそういう部分はこの曲の存在みたいに変わらない。そこをキープしながら、モア・ハードでモア・ダンサブルな方向へ展開していこうとしている3人。次のアルバムはすごくおもしろいものになるに違いない。今回のステージを見てそう思った。

世界大会ゲスト"QUIREBOYS"で観客は大ノリ！

検証

世界が注目した日。

ネッスル㈱、ヤマハ㈱、㈶ヤマハ音楽振興会が主催する世界唯一、地球最大規模のバンドの祭典バンドエクスプロージョン'90日本大会、世界大会が10月26・28日、日本武道館にて開催された。予想に違わぬ、ハイレベル&ハイヴォルテージだった今大会を制覇し、全世界23,000バンドの頂点に立ったのは彼らだ！

GRAND PRIZE

STIKKITTY（スティッキティ）USA

曲名：THE PATHETIC SONG やはりアメリカ強し！パワフルなヴォーカルと美しいコーラスハーモニーが魅力的！

NESCAFÉ & YAMAHA SOUND BREAK

BAND EXPLOSION '90

日本大会結果報告

ROOSE

■グランプリ ROOSE（大阪地区） 曲名―『空を抱きしめたい』 歌詞を重視する姿勢が新鮮なイメージをかもしたす。 ■グランプリ NEW ROZE（関東甲信越地区） ■金賞 KING BROTHERS（中部地区） REAL TIME（関東甲信越地区） FUZZY DICE（北海道地区） ■最優秀プレイヤー賞 GYPSY BLOOD 国分秀昭「ギター」（東北地区） ■最優秀歌唱賞 KING BROTHERS 大知進一郎（中部地区） ■最優秀作品賞 Sap Hippo（関東甲信越地区） 曲名― 酷人の唄 作詩・作曲―高橋ケンチ ■敢闘賞 ナショナルキット（大阪地区）

GOLD PRIZE

KHATULISTIWA(カトゥリスティワ)INDONESIA
曲名：「RONGGENG」
民族色豊かなステージングで観客を魅了！

GOLD PRIZE

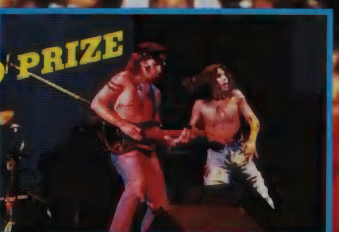
THE NEXT(サ ネクスト)GERMANY
曲名：HEY YOU
旧東ドイツから初登場で見事初栄冠の快挙！

GOLD PRIZE

NEW ROZE(ニューローズ)JAPAN
曲名：Eleanor Rigby
近未来的ファッションと透明感あふれるサウンドが印象的！

GOLD PRIZE

TOWER PRINCIPLE(タワー・プリンシプル)AUSTRALIA
曲名：PYRAMID OF LOVE
女性ヴォーカルが魅惑的！ド迫力で観客に迫る。

GOLD PRIZE

THE WORLD(サ ワールド)DENMARK
曲名：「MATTER OF TIME」
ボディーペインティングとショーアップされたステージがウリ。

ステージの中央におかれたドラムから、力強いサウンドが会場全体に響きわたった。スポットライトを全身に受け、軽快なリズムを打ち続けている。

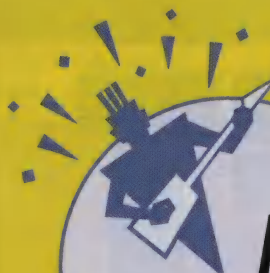
いよいよBAND EXPLOSION '90 WORLD FINALのスタートである。ステージ後方からは世界15ヶ国代表のドラムが一斉に鳴り響く。少しの狂いもなく、ひとつの音が私達の耳の奥まで、しみこんでくる。「うわぁ」と思った瞬間、私の体に鳥肌がたった。昔からドラムという楽器に憧れていたせいだろう。忘れかけていた思いがよみがえってきたような気がする。本当に素晴らしいドラムセッションだ。

今回で4回を数えるBEXは、世界26ヶ国から16バンドが集まり、それぞれ独自の音楽を演奏した。アマチュアバンドとはいえ、日頃私達が耳にしているプロバンドの演奏と何らかわりはなかった。

やはり世界大会だけあり、いろいろなスタイルのバンド合戦となった。その国独自の文化や生活環境に影響しているのだろう。タイやインドネシアなどのアジア代表バンドには衣装やリズム、楽器に関してまでも、民族的な雰囲気・サウンドが作り出されていた。また、ドイツ代表として2バンドが参加した。旧東ドイツと旧西ドイツからの出場バンドである。ベルリンの壁が崩壊し、社会的国境がなくなった今、音楽の面でも統一され、同じステージの上で音楽を楽しむことができるようになった。その他、いろいろな国からの様々なバンドを真近で見ることができた。

私には、ギターやベースの音が良いとか悪いとかという批評はできない。ただ一つ分かったのは、どのバンドも一生懸命に音楽に取り組んでいるという事だった。たとえ言葉が通じなくても、何か私達の心に訴えるものが感じられたら、それが音楽をやっている人々の最高の喜びだと思う。ステージパフォーマンスも彼らの交流の一手段なのだ。音楽という分野を使って、今の気持ちを表現豊かに私達へなげかけてくる。私達は、そのメッセージを受け取り、反応していくべきなのだろう。

今回のBEXに参加でき、とても良かった。世界中のバンドを知り、音楽を聴くことができたことをうれしく思い、このような大会がこれから先ずっと続いていくことを願いたい。

早稲田情報ビジネス専門学校　**堀内　宏美**

AUDIENCE REPORT

感性豊かな若き観客達！
彼らの新鮮な瞳は、
何をとらえて、
何を感じたのだろうか？

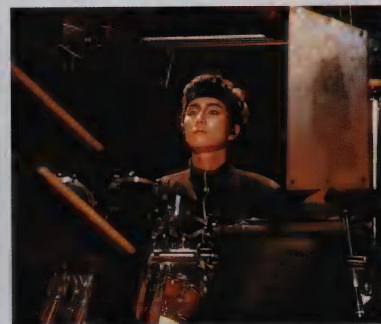
東京スクールオブビジネス　**宮澤　真理子**

誰もが皆心の中に、怒りや悔しさを抱え込んで生きてるはず。もちろん喜びも嬉しさも同様だよね。でも一体何人の人達が、その想いを自由に吐き出したり叫んだりしているのだろうか。100%の人達がそれをやってのけているわけじゃ、決してないよね。怒りや悔しさって、感じれば感じる程それを口に出来なくなったりすることもあるし、嬉しければ嬉しい程、より多くの人に想いを伝えたくなったり。いつもどこかで必ずって程"もどかしい"思いをしている人、たくさんいるんじゃないかな。

10月26日、28日の日本武道館で開かれた「BAND EXPLOSION」は、正に熱いハートを掲げた強者達の集いだった。彼らは皆一様に"音楽"という無形のメディアを手段にして、心の内の熱い想いを叫びに世界各地からやってきた。

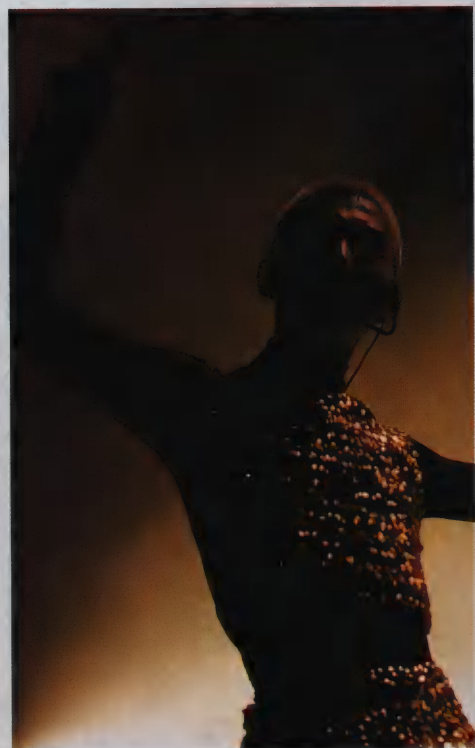
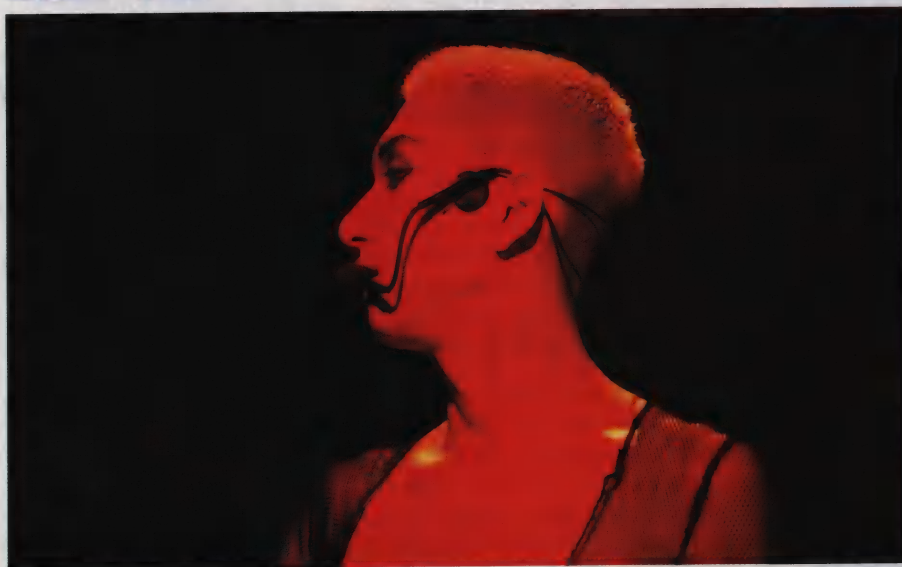
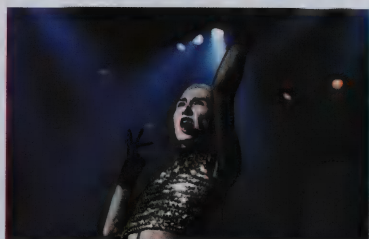
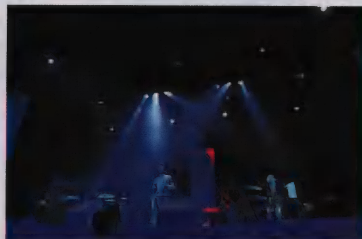
初日の26日は日本大会。一口にバンドと言っても、参加した18バンド全部が個性に溢れていて、一つたりとも似通ったジャンルがないのには正直言って驚かされたな。でも、表現方法って人それぞれだし、好き嫌いもあるでしょ。要はバンドの抱えている想いが、どれくらいクリアーに、リアルに、そして深く観客の胸に届くかってことであって、肝心なのはスタイルじゃないはずだよね。各地の激戦を切り抜けてきただけあって、どのバンドも良かったし、つまらない想いで聴いた曲って一つもなかったような気がする。エキサイティングにステージ中を駆け回って楽しませてくれたバンドも、ジックリ聴かせてくれたバンドもみんな何らかの形で感動させてくれた。やっぱり、人間やりたいことをやって、熱い想いを叫んでいる時って輝くよね。

28日は世界大会。ヨーロッパ地区、アジア・オセアニア地区、北・中米地区に日本を含めて26ヶ国から16バンドの参加で、プログラムは一挙に進んだ。武道館の中はいつの間にかリトル・ワールドと化したようだった。年令も人数も使われる楽器もまちまちで、普段あまり聴く機会のない曲を耳に出来たのは嬉しかったな。それにしても音楽の力ってすごいよね。この世の中には文字も、絵画も、映像もあるけれど、贈り手の感情や情熱を、受け手がリアルタイムで皮膚感覚的に受け止めるなんて事、音楽を通じてならではの技だよね。グランプリや各賞を受賞することも意義あることだけど、どれだけ多くの人の心を震わせたか、それこそが音楽をやっていく上で大切な事なんじゃないかな。

怒りや悔しさ、喜び悲しさは、いつしか"もどかしさ"という名の力に変わり、音楽という形で人の心を動かす、これは永遠に続くことのように思える。

SOFT BALLET

複雑な機器を遊び道具のように使いこなしながら、打ち込みの音楽にありがちな無機質さがない。逆に汗が見えてきそうな音楽。それがSOFT BALLETの音楽だ。そして、彼らの世界を体現してきたツアー、"ALL OVER"がついにファイナル。今月はその模様をお届けする。

ALL OVER

撮影●藤田正弘　文●三浦雅子

3日後にミニ・アルバム『3［drai］』の発表を控えた11月25日、SOFT BALLETは10月からの全国ツアー〝ALL OVER〞のファイナルを渋谷公会堂で迎えていた。
純白の3本の柱が印象的なステージ・セットに浮かび上がる3人のシルエットは、前回と同じ。遠藤遼一は柔らかな淡い色のジャケットに裸の胸をはだけ、森岡賢はミニスカートも悩ましいゴールドの衣装、藤井麻輝は精悍でスポーティーな黒に身を包み、三者三様の雰囲気をかもしだす。そして遠藤はいつものように、いや、いつも以上にシャープでしなやかな、まるで糸にでも操られたマリオネットのような動きを見せ、森岡もまた、いつものようにしなしなクネクネ楽しそうに飛び跳ね、藤井は一人だけ大地に踏ん張るかのようにキーボードの要塞の中で黙々と機械との格闘を続けていた。3人は限りなく個性の違う生き物のようでいて、ひとつの複合体を作り上げるのもまた巧みなのだろう。彼らのつむぎだすサウンドは一瞬たりとも乱れのないビートを刻み続け、それでいてデジタルの無機質に終わらない。ときに攻撃的でときに包容力のある、人間の息づかいのようなものを感じさせる。
ステージは「BLACK ICE」「BODY TO BODY」に始まり「EGO DANCE」から、もちろん今までの2枚のアルバムを網羅した選曲で進んでいた。前回とは多少内容が異なる点もあるのだが、たたみかけるような勢いとドラマチックな展開は変わっていない。『3』からの2曲「BACK LASH」「EXIST」も、その静かな曲のムードを活かせるような好配置が考えられ、特にラストを飾った「EXIST」では、雲海のようにたれこめるスモークが荘厳で美しかった。そして曲の最後に全開した客電のまばゆい光は、どこか嵐のあとの平和を象徴しているようで、感動的。アンコールがないことを逆に効果的に使ったこの演出は、本当にニクイばかり。
一声、「かかってきなさい」で始まった「PRIVATE PRIDE」では、会場とのコミュニケーションを取るための掛け合いがあって、珍しいな、と驚いたのが、その他にもMCで「まだ体に水分の残ってる方は汗をドロドロに出して、ビシャビシャになって風邪をひいて帰ってください」なんて言ってたくらい、この日のノリは本人たちも客席も絶好調。続く「WITH YOU」「MAN PLUS US」「NEEDLE」のラスト・スパートにいたっては、森岡がキーボードの上に立つわ、藤井がキーボードを倒してしまうわ、遠藤までがフットライトをガシッと持ち上げるわ。完全にプツンと切れてしまったんじゃないの？　と思うくらい、嵐のようなすさまじさだった。
「もっと気持ちよくなってね。跳ねて、跳ねて！　それっ！」と客席にコップの水をまいてしまう賢ちゃん。
ほんとうに気持ちいい。熱い。うれしい。
でも、そんな中で私はひとつ冷静に、彼らのカラクリというか、癖が少し気になりだしてしまった。というのはアレンジのことなのだが、少々凝り過ぎでは、というくらいにライブにしては難しいことをやっているのだ。転調やブレイクはもちろん、まるで考えぬいたリミックス・バージョンのような遊びを平気でやってしまう。それだからSOFT BALLET独自の深みが出るのだろうが、単純に踊らせてくれないのも確か。まあ、ディスコじゃないんだから、そのほうがテンションも上がっていいのかもしれない。しかし、なかなか一筋縄ではいかない人たちのこと、その点を今後どんなふうに武器にしていくのか、楽しみ——そして気の早い私は、もう次のツアーを心待ちにしている。

KATZE
SPECIAL LIVE at POWER STATION

●11月21日にリリースされたニュー・アルバム『LOVE IS HERE』が好評を得ているKATZE。12月13日の埼玉会館を皮切りとするツアー"LOVE IS HERE"を前に、11月30日〜12月2日の3日間、新宿パワーステーションでスペシャル・ライブが行なわれた。それぞれ違った内容で届けられたこの3daysライブ、その最終日の模様を速報！

撮影●[illegible] 文●森[illegible]

ニュー・アルバム『LOVE IS HERE』の発売を誰よりも待っていたのは、メンバー自身だった。そして新作を引っさげて臨むライブを待ちこがれていたのも、メンバー自身だったのではないかと思う。本格的なツアー・スタートを前にして、堰を切ったようなテンションで行なわれたパワーステーションでの3 daysライブ。1日目はメンバーそれぞれが自分のバンドを新たに結成するという試みで、J(S)W、De-LAX、ソフトバレエなどのメンバーが参加。ふだんと違う顔を見せた。2日目はオールディーズのカバーで構成されたメニュー。選曲の段階から盛り上がる彼らの顔が目に浮かぶ。

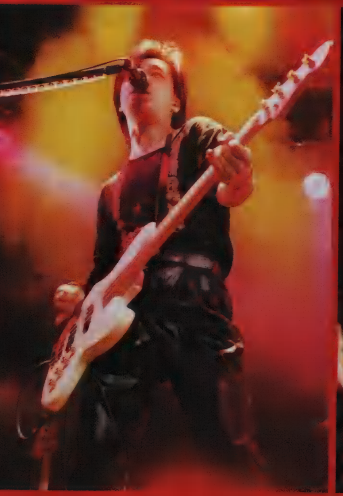
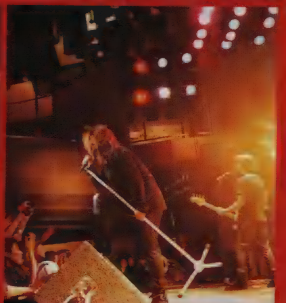
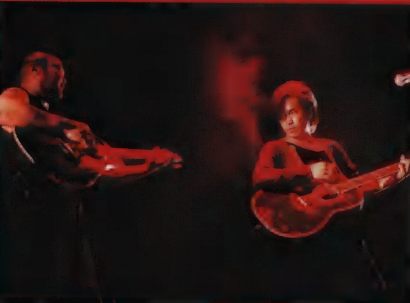
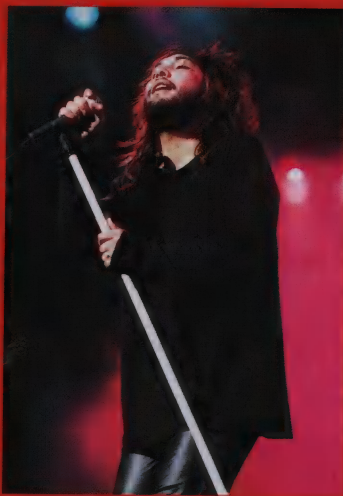
3daysだからこその自由な発想が生かされた内容で続けられたパワステ・ライブの、いよいよ3日目。この日は入口の"本日は一般のお客様は入場できません"の貼り紙がまぶしい"FAN-CLUB ONLY"の日。だからといって、"ファンクラブの集い"的なノホホンとしたステージではないことは、KATZEのこのツラ構えなど見ていただければ一目瞭然にわかることだ。最近のライブ・メニューでは落とされがちな初期のナンバーを思いっきりやる、というコンセプトで用意された日である。デビュー当時からのファンにとっても、最近のファンにとっても、大きな意味のあるライブといえる。

ステージに現われた4人も、これから始まる贅沢な時間を予想してか、うれしそうな目をしている。オープニングは「LOVE GENERATION」。実にKATZEらしいR&Rだが、アレンジはオリジナルより重い感じ。けれどスピード感はいっそう増している。中村敦は早くもスパンコールできれいに刺繍された上着を脱ぎ、一気に自分流のスタイルになった。2曲目の「HOLD ME」を"こんな夜に素直になれたら……きっと言えるぜ、おまえにだけ"と歌ったあと、客席の誰か一人に向かって"I LOVE YOU"と投げかける中村敦。が、今日の相手はKATZEを熟知したファンクラブ会員である。そうやすやすとは作戦にひっかからないのだ。この日いちばんの見モノは、実はファンとKATZEとのガップリ四つに組んだバトルではないだろうか。スタンディング・フロアはギュウギュウ詰めで、ものすごいエネルギーが放出されている。

曲は「BLIND EMOTION」「HEART VISION」と、懐かしいナンバーが続くが、懐かしがってる人はいない。イントロ・クイズのように、最初のフレーズで早くも歓声が飛び、声と体で観客もしっかりライブに参加している。しかし、演奏する側は"なんか、ほかのバンドの曲をやってるみたい"と告白。デビュー当時から様変わりした中村敦の風貌が、時間の流れの速さを象徴しているかのようだ。けれど、確実にレベルを上げてきた彼らの演奏力が、みごとに名曲を蘇らせている。"ヒゲ面で歌うのイヤだったんだけど……"と言いながらも、「SHOCKING PARTⅡ」をやるKATZEは楽しそう。

ライブ中盤では、高山兄弟が「DON'T CRY ANYMORE」を、中村敦と尾上賢が「MICHELLE」をアコースティック・ギターで歌う場面が展開された。重いビートで高鳴る曲と、スローでやさしい世界を持った曲との二面性は、常にKATZEの表裏にある。客席も静まり返って、敦が椅子を引きずる音や空調の音までが、その心和らぐシーンの効果となっていた。

また4人にもどり、"レコードに入ってないやつ"と紹介された曲「SO GOOD TO SEE YOU」を披露。かわいいR&Rだ。そして、中村敦の"高校中退記念ソング"という「LOST BOY」は、穏やかなイントロダクションもつかの間、やはりハードな展開に突入し、ライブ本編後半の盛り上がりに一役買う。"いつかいつか……といつも思って、そのいつかを全部手に入れよう"と言って演奏された「SOMEDAY」。KATZEのありかたを証明するかのようなその曲には、ちゃんと観客が歌うパートがあって、そこに中村敦も肉声のコーラスで参加する。彼は最後に言う。"R&R IS HERE! LOVE IS HERE!"

観客はKATZEが投げかけたものをしっかりと受け取りながら、それ以上のものを返しながら、そしてあるときはとまどいながら、正直にバンドに反応していた。アンコールで高山克彬が大量に投げたピックに客席が混乱、やりかけた曲を中断する一幕もあった。興奮をしずめるために即興でやった「神田川」で再び盛り上がり、もとの曲に戻ろうとするがバンドはうまくかみ合わない。そこでファンがコーラスで音をメンバーにつかませるという場面は、感動的だった。『LOVE IS HERE』というアルバムは、ツアー中に出会ったファンからインスパイアされた部分が大きい、と中村敦が言っていたのを思い出した。そしてKATZEの長い夜は、「この雨の向こうに」で幕を閉じる。"LOVE IS HERE……"と歌わなくても、大事なものがここにあることを、バンドと観客とで確認できたライブだった。

CLUB FI
11・13 of POW

11月13日、新宿の日清パワーステーションで行ントには、とてもイキのいい、3組のアーティCOKES。紅一点、五島良子。そして、宮原学＋

撮影●南部康男

宮原学＋
REBECCA UNIT

CLUB FITZBEAT '90——その夜のライブは、もうめちゃくちゃゴキゲンなPartyだった。

〝FITZBEAT〟は、CBS・ソニーのレーベルのひとつ。REBECCAをはじめとして、聖飢魔II、GRASS VALLEY、D-PROJECTなどが在籍する、その名も知れた(！)強力なレーベルだ。今夜は、そのFITZBEATのニュー・フェイスたちを集めてのにぎやかなライブということで、THE COKES、五島良子、そしてかねてから噂のバンド、宮原学＋REBECCA UNITが登場。その噂の彼らはもちろんのこと、いずれも〝聴いて納得、見て納得の実力派〟というだけに、向かう足どりも軽い。

会場となったパワーステーションに一歩踏み込むと、そこはどこかのオシャレなクラブの雰囲気。クラプトンやエルトン・ジョンなどの渋めのナンバーに、DJの軽いインフォメーションが流れている。

ライブ前に、こんなくだけた感じもいいじゃない。などと思いながらあたりを見回すと、アレ!? 土橋さんだ。REBECCA活動休止期間ということでソロ・アルバムを出したばかりの彼が、すぐそばでくつろいでいる。アッ、中島オバラさんもいる。GRASS VALLEYの出口くんの姿も。ナント、これから出演の小田原くんにノリさんも……。さながら、FITZBEATの同窓会という感じで雑談が交わされている。ライブ前にこんなイントロダクションが偶然展開されて、ますます期待は高まるばかり。

すると、それまでのなごやかなムードをぶち壊すような不敵な笑い声が響く。デーモン小暮の声じゃないか！ しかし、声はすれど姿は見えず。聖飢魔IIの宣伝もしっかりと、デーモンのMCでオープニングとなった。

そして、レスポールの厚みのあるギターの音とともに、THE COKESがステージに姿を現わした。

「うっ、やられたぁ」。なんて気持ちいいサウンドなんだろう。適度に重みのある音。ロックンロールが持つべき独特のうねりがビンビンに感じられる。弱いんだよね、こんな音には……。荒削りだけど、そこには確かにR&Bのテイストが生きている。

1曲目、2曲目と進むうちに、気持ちがどんどん前のめりになっていく。さすが、ストリートGIGでも噂のバンド。注意をしに来たPolice manもノセてしまっただけのことはある。

地元愛媛では1000人以上もの動員を誇り、東京に進出してきてまだ日も浅い5人だが、'91年春にはFITZBEATからデビューも決定。一本一本確実にライブをこなし、その足場固めを進めている。その味のあるサウンド、キャラクターは頼もしいかぎりだ。

たった5曲だったが、「そろそろワルサしようぜ！」なんて詞がピッタリくる、ちょっと骨のある小気味いいステージを見せてくれた。

THE COKESの熱さがまだ残るステージ。控えめな青の照明が落とされ、脚の長い椅子にアコースティック・ギターが添えられた。五島良子の登場だ。

11月21日に、FITZBEATからデビューしたばかりの彼女。長身でスレンダーなスタイルには、ジーパンもオシャレに映える。そのうえ、ヘプバーンを思わせる顔立ち。そんな外見に圧倒されたのも、つかの間。奏でられたアコースティック・ギターの音にすっと引き込まれ、彼女の透明で伸びやかな声が広がる。そのとたん、人でにぎわったパワーステーション内が、静けさをもった限りなく広がる空間へと変化した。

まだ幼さが残るボーカル、しっとり

TZBEAT
ER STATION

なわれた"CLUB FITZBEAT '90"。このイベストが出演した。'91年春デビュー予定のTHE REBECCA UNITだ。

文●伊藤しげ子

となじむ美しいメロディー・ライン、純粋な輝きを放つ詞の世界は、とても懐かしくて温かい。

アルバムにも参加したセンチメンタル・シティ・ロマンスの中島督夫や塩谷聡をバックに、アップ・テンポでかわいらしい曲「パパはワンダーマン」や悲しすぎる風景が浮かぶ「Out of Harmony」など、デビュー・アルバム『Love & Law』から数曲を披露。

そして彼女のステージは7曲目「ホワイト・ストーリー」がラスト。この曲は、ウエディング・ソングなんだけれど、鈴の音が入った明るいナンバーで、ちょっと早めのクリスマスという雰囲気がその場を盛り上げた。

さわやかな余韻を残して五島良子のステージが終わった。あ〜、次だ。いよいよ来る！　今夜のメイン・アクトともいえる宮原学＋REBECCA UNITだ。噂のバンドのその実体が確かめられる最初のチャンス。サウンド・チェックがいつになくもどかしい。

と、突然。N.Y.からのNOKKOの声が響く。「NOKKOです。今N.Y.にいます。えー、今はダンス学校にいってます……」N.Y.での生活の様子、ソロ・アルバムの進行状況、結婚したこと（なんとも幸せいっぱいの声で♡）などを、あいかわらずのあのしゃべりかたで伝えてくれた。そして、これから現われる彼らに「がんばってね」のメッセージ。

そう、待ってました！　長い充電期間を終えた宮原学を中心に、柴田俊文(Key)、REBECCAの小田原豊(Dr)、高橋教之(B)、是永巧一(G)という5人の強力メンバーが勢揃いした。会場に集まったファンも、異常なまでの歓迎ぶりだ。

「一体どんな音が……」と予想する間もなく、もうしょっぱなから大音量の嵐で、容赦なくたたみかけてくる。かき鳴らす是永のソリッドなギター、厚みのあるオルガンの音、小田原くんとノリさんの息の合ったリズム隊。その一分のスキもない一丸となった音の塊に思わず圧倒されてしまった。

そのサウンドにからむ学のボーカル、長いブランクを感じさせないヤツのパワーはさすがとしかいいようがない。ヤツらの作り出す音は、まぎれもない男くさいロックンロール。

ステージは、学のオリジナルに新曲を加えた構成。3曲目「WALKIN' IN THE RAIN」では、暑くて汗まみれになった小田原さんがシャツを脱ぐ。

ふと気づくと、ステージで暴れる5人は実に思い思いに演奏している。衣装も動きも超派手な是永さん。ひたむきにドラムを叩く小田原さん。余裕のノリさん。熱心に鍵盤に向かう柴田氏。うなるように声を絞り出す学。

そこにはバンド本来の姿が見える。ほら、バンドをやるってことは楽しいことじゃない！　ヤツらを見てると、自分たちが作り上げたサウンドへの熱い思いとか、パートそれぞれの間でくり広げられるかけひきとか、バンドをやる上での醍醐味を十分に味わっているような気がする。

そしてアンコール。「男どあほう五人組です」と学のあいさつ。ノリさんと学のツイン・ボーカルで「TOUGH ROAD」を演奏。そしてスペシャル・ゲストの登場となった。ざわつく会場は期待でいっぱいだ。

そこに現われたのは、やはり！　デーモン閣下とルーク篁Ⅲ世のお二人。毒々しくも華やかに、ラストを大いに盛り上げてくれたのはいうまでもない。

今後は、宮原学＋REBECCA UNIT改め、"Baby's Breath"として活動する彼ら。そのただならぬ息込みを感じられたのは、大きな収穫だった。

五島良子

THE COKES

初心者はまずVIDEOセットで始めよか

●SSH-FXセット
特価39,500円
分割申込金 3,230円
カラー、黒・青黒・赤・白

〈セット内容〉①ギター又はベース②ギターアンプ又はベースアンプ③ソフトケース④コード⑤入門ビデオ⑥チューニングメーター⑦ストラップ⑧ピック×2

(左用セット)
●SSH[L]-FX-Vセット
特価42,500円
分割申込金 3,320円

▼ブローズSSH-DXⓀ 特価25,000円
4色そろったシンシンハムギター
黒・青黒・赤・白

レフトハンドは黒と白の2色
●SSH[L]-DXⓀ
特価28,000円

▼バースSJ-35Ⓚ 特価23,000円
ジャクソンヘッドの人気もの
黒・赤・白の3色

●SJ-GA-Vセット
特価35,000円
分割申込金 3,545円

▼バースEG-40Ⓚ 特価25,000円
シングルピックアップのレスポール

●EG-GA-Vセット
特価37,500円
分割申込金 3,170円
黒・チェリー

▼バースPB-35Ⓚ 特価23,000円
カラーヘッドになって増ます人気のPBベース
黒・白

●PB-BX-Vセット
特価37,500円
分割申込金 3,170円

▼ブローズ SS-PPKⓀ
ダブルハンバッキングSGモデル
特価28,000円

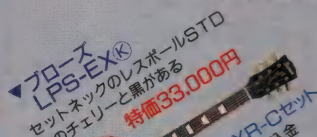
●PPK-FK-Vセット
特価42,500円
分割申込金 3,320円
黒・チェリー

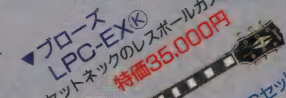
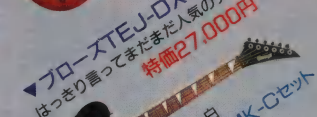
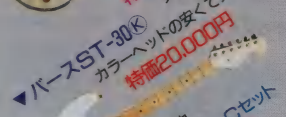
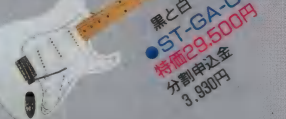
※ギターの送料1,000円、セットは1,500円です。
分割申込金には消費税・送料を含んでいます。

全国全店

★大特価で通販!
★クレジットもOKだ!

▼ブローズJ'sG-90Ⓚ 特価28,000円
カラー黒・白

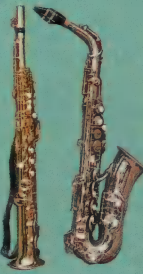
絶対の自信作、スクウェアーなスタイリッシュボディ、ノンパネルにSSHタイプのピックアップでオールマイティーなサウンドをリリース。オールブラックパーツのジェイズギター

(ベースJ'sB-90は29,000円)
●J'sG-MK-Cセット
特価39,500円
分割申込金 3,230円

▼ブローズ LPS-EXⓀ
セットネックのレスポールSTD
このチェリーと黒がある
特価33,000円
●LPS-15XR-Cセット
特価51,000円 分割申込金 4,075円

▼ブローズ LPC-EXⓀ
セットネックのレスポールカスタム
特価35,000円
黒と白
●LPC-15RX-Cセット
特価53,000円
分割申込金 4,135円

▼ブローズTEJ-DXⓀ
はっきり言ってまだまだ人気のテレキャスJ
特価27,000円
黒と白
●TEJ-MK-Cセット
特価38,500円
分割申込金 3,200円

▼バースST-30Ⓚ
カラーヘッドの安くてステキなヤツ
特価20,000円
黒と白
●ST-GA-Cセット
特価29,500円
分割申込金 3,330円

バンドキッズセレクション
ビデオ付ギターセット
●ヤマハFS-1+V
特価49,000円
(単品合計 61,500円)
分割申込金 3,530円

FENDER JAPAN

◀SK-15RX
¥21,500円
→V特価

◀SL-15DX
¥13,800円
→V特価

ヤッパSAXはカッコイイ!
プレモナードSAX
ハードケース、ストラップ付

●PS-87S ソプラノS
特価70,000円
分割申込金 3,130円

●PS-97G ソプラノG
特価77,000円
分割申込金 3,300円

●PA-103S アルトS
特価82,000円
分割申込金 5,490円

メイドインJAPAN
の音を聞け、TECNAS

▶最大80W、30cmスピーカースプリングリバーブ、センドリターン端子

スプリングリバーブ、センド・リターン
▲α-25XR 特価19,800円

コンプレッサー、ラウドネスのベースアンプ
▲β-15SP 特価13,000円

▲α-500XR:2段
特価39,500円 送料1,500円
分割申込金 3,230円

カセット付ドラムかんけい

▶SS-502PC
イス・スティック付のラックタイプトレーニングドラム
特価30,800円
分割申込金 3,269円
送料各々1,500円

◀DD321-SSC
22インチバスドラム
迫力のツインタム
イス、スティック付のフルセット
特価50,000円
分割申込金 3,045円

商品の申込方法—★—商品とカタログの申込先

■遠くの方は電話か書留で注文して下さい。
通販の消費税は(特価+送料合計)×3%で計算して下さい。

●電話注文は代金引換です。(一括払のみ)。
商品お届けの時に特価合計+送料合計+消費税+代引手数料1,000円をお支払い下さい。 沖縄、島しょは代引出来ません。

●一括払は、特価合計+送料合計+消費税。分割払は、分割申込金。どちらも商品名、カラー、数量、氏名(フリガナ)、電話番号を書いて近くのビバへお送り下さい。

※沖縄・島しょの方は送料2,000円を加算して下さい。

★いちばん近い店にお送り下さい。

〒060 札幌市中央区狸小路7丁目……ビバ札幌店…267係
〒980 仙台市青葉区中央4-9-13……ビバ仙台店…267係
〒101 東京都千代田区外神田3-1-3……ビバ秋葉原店…267係
〒220 横浜市西区楠町11-2……ビバ横浜店…267係
〒420 静岡市七間町7-8……ビバ静岡店…267係
〒450 名古屋市中村区名駅南1-3-15……ビバ名古屋店…267係
〒543 大阪市天王寺区寺田町2-1-23……ビバ大阪店…267係
〒650 神戸市中央区栄町通3-3-5……ビバ神戸店…267係
〒732 広島市南区的場1-8-17……ビバ広島店…267係
〒812 福岡市博多区住吉2-16-1……ビバ福岡店…267係

近くの方は直接お店へ来て下さい。

■各種カード も使えます。
SAISON
VISA
UC
JCB
日本信販
ライフ
その他

●ビバ札幌店
☎011(231)3710

●ビバ仙台店
☎022(262)0025

MIWA 2036
TORIGOYA
EXIT

「たま」

うれしいおんがく

たま待望のセカンドアルバム、いよいよ発売!!
この半年で著しい成長をみせ、より力強くなった"たま"が
もう一度原始に戻って出てきた「ひるね」は、
音楽が本来持つ楽しさ、うれしさ、しなやかさにあふれています。
うれしいおんがく　たま。

「ひるね」

たま

New Album
'91.1.21 Release

1.牛小屋/2.夕暮れ時のさびしさに/3.海にうつる月/4.家族/5.お経/6.金魚鉢/7.オリオンビールの唄/
8.かなしいずぼん/9.月夜の病院/10.ウララ/11.むし/12.マリンバ/13.鐘の歌/全13曲収録
CD:AXCR-2 税込定価¥3,000(税抜価格¥2,913) | MT:AXTR-2 税込定価¥2,500(税抜価格¥2,427)

SINGLE NOW ON SALE　夕暮れ時のさびしさに
TBS系TV全国ネット「浮浪雲」主題歌
Coupling With:家族、まちあわせ(全3曲)
S-CD:AXDR-3 税込定価¥800(税抜価格¥777)　S-MT:AXSR-3(カラオケ付)税込定価¥900(税抜価格¥874)　発売元:株式会社アクシック　販売元:日本クラウン株式会社

■1/21たま"感謝セール"全国レコード店にて開催! 詳しくは、全国レコード店まで!!

■虚言倶楽部　たまFC"虚言倶楽部"入会受付中! 入会希望の方は62円切手2枚同封の上、下記まで。
〒169 東京都新宿区大久保1-2-17 新宿サンエービル2F PCM COMPLETE内 "虚言倶楽部"TEL.03-5273-0173(12:00〜18:00)

1991全国ツアー『たまのひるねで』

1/29 グリーンホール相模大野　1/31 八王子市民会館　2/4 山梨県立県民文化ホール　2/6 千葉県文化会館　2/8 関内ホール　2/11 郡山市民文化センター　2/12 山形県県民会館　2/14・15 仙台イズミティ21　2/16 大宮ソニックシティー　2/18 メルパルクホール広島
2/19 岡山市民会館　2/21 松山市民会館　2/23 名古屋市民会館　2/25 新潟県民会館　2/27 長野県民文化会館　2/28 金沢市文化ホール　3/2 茨城県民会館　3/4 群馬音楽センター　3/7 旭川市民文化会館　3/8 札幌厚生年金会館　3/10 室蘭市文化センター
3/11 函館市民会館　3/12 青森市文化会館　3/14 秋田市文化会館　3/15 岩手県民会館　3/20 大阪厚生年金会館　3/22 鹿児島市民第二ホール　3/24 長崎市公会堂　3/25 福岡市民会館　3/27 香川県県民ホール　3/28 徳島市民文化センター
■コンサート総合お問い合せ:HOT STUFF TEL.03-857-9999 ■全席指定¥3,605(税込) 平日:OPEN▶18:00 START▶18:30 土日祝日:OPEN▶17:30 START▶18:00

axec

印刷:大日本印刷株式会社 Printed in Japan.

雑誌02935-2

GB GUITAR BOOK・1991・FEBRUARY 2

第14巻第2号 1991年2月1日発行(毎月1回1日発行) 1990年12月22日発売(毎月1回22日発売) 1981年(昭和56年)5月2日第3種郵便物認可

発行所 株式会社CBS・ソニー出版 〒102 東京都千代田区五番町6番地2 電話03(234)5811(販売)・03(234)5101(広告)・03(234)6711(編集)

定価590円(本体573円)(別冊付録2冊とも)